別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　セイシンジョシガクイン 学校法人　聖心女子学院							
フリガナ 大学の名称	セイシンジョシダイガク 聖心女子大学（The University of the Sacred Heart,Tokyo）							
大学本部の位置	東京都渋谷区広尾４丁目３番１号							
大学の目的	19世紀初頭のフランスで、聖心女子学院が創立された際の教育理念である「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」をもとに、本学では「知性を磨く」、「使命感を自覚する」、「発信力、実践力を高める」という3つの教育目標を定め、これらの資質を持つ人材の養成を目指している。							
新設学部等の目的	（史学科） さまざまな事象とそれら相互の関係を、時間軸に沿って考える力を身につけ、これによって広く現代社会において生じるさまざまな問題を、過去の経験に照らして正確に分析し、その適切な解決策を提示できる能力を持つ人材の養成を目的とする。 （人間関係学科） 現代社会に生きる人間を対象として、個人の心理的問題から、文化・社会に関わるマクロな問題にいたるまでを、学際的かつ実証的に理解する学問的方法を身につけ、それらに基づいて自らの考えを積極的に表現できる人材の養成を目的とする。 （国際交流学科） 流動的、かつ急激に変化する国際社会に適切に対応できる見識と幅広い国際的視野を備え、高い言語コミュニケーション能力を基礎とした、多様な文化に対する深い理解を持って、国際的な交流・協力に貢献できる人材の養成を目的とする。 （心理学科） 人間の心理とその発達、それにともなう行動を、客観的な測定方法を身につけることによって、科学的・実証的に理解するとともに、人間の心理・発達・行動に関する多種多様な情報を的確に分析し、表現できる人材の養成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部 [Faculty of Liberal Arts]	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	史学科 [Department of History]	4	55	2年次 2	226	学士（史学）	平成26年4月 1年次 平成27年4月 2年次	東京都渋谷区広尾４丁目３番１号
	人間関係学科 [Department of Human Relations]	4	55	2年次 2	226	学士（人間関係）	平成26年4月 1年次 平成27年4月 2年次	同上
	国際交流学科 [Department of International Studies]	4	60	2年次 2	246	学士（国際交流）	平成26年4月 1年次 平成27年4月 2年次	同上
	心理学科 [Department of Psychology]	4	55	2年次 4	232	学士（心理学）	平成26年4月 1年次 平成27年4月 2年次	同上
	計		225	2年次 10	930			
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	聖心女子大学 ・文学部歴史社会学科（廃止）（△698）　（２年次編入学定員）（△6） ※平成26年4月学生募集停止（2年次編入学定員は平成27年4月学生募集停止） ・文学部教育学科内の専攻名称の学則変更予定（平成26年4月変更予定） 教育・心理学専攻から　教育学専攻に変更 ・文学部教育学科【定員増】（272名）（平成26年6月認可申請予定） 内訳　教育学専攻入学定員85名→25名（2年次編入学定員8名→4名）、 初等教育学専攻20名→40名							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	文学部　史学科	456科目	43科目	7科目	506科目	132単位	
	文学部　人間関係学科	458科目	43科目	10科目	511科目	132単位	
	文学部　国際交流学科	460科目	66科目	7科目	533科目	132単位	
	文学部　心理学科	464科目	36科目	13科目	513科目	132単位	

			専任教員等							
教員組織の概要	学部等の名称		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	文学部　史学科	6人（6）	2人（2）	1人（1）	0人（0）	9人（9）	0人（0）	36人（36）	兼任教員の計には、各学科の重複者は算入していない。
		人間関係学科	5人（5）	2人（2）	0人（0）	0人（0）	7人（7）	0（0）	40人（40）	
		国際交流学科	6人（6）	3人（3）	2人（2）	0人（0）	11人（11）	0（0）	55人（55）	
		心理学科	4人（4）	1人（1）	2人（2）	0人（0）	7人（7）	0（0）	29人（29）	
		計	21人（21）	8人（8）	5人（5）	0人（0）	34人（34）	0（0）	160（160）	
	既設分	文学部　英語英文学科	7人（7）	0人（0）	3人（3）	0人（0）	10人（10）	0（0）	45人（45）	
		日本語日本文学科	6人（6）	1人（1）	0人（0）	0人（0）	7人（7）	0（0）	29人（29）	
		哲学科	4人（4）	2人（2）	1人（1）	0人（0）	7人（7）	0（0）	31人（31）	
		教育学科　教育学専攻 初等教育学専攻	8人（8）	1人（1）	3人（3）	0人（0）	12人（12）	0（0）	67人（67）	平成26年4月学則変更（専攻名称）予定
		総合現代教養科目	0人（0）	0人（0）	0人（0）	0人（0）	0人（0）	0（0）	32人（32）	
		計	25（25）	4（4）	7（7）	0（0）	36（36）	0（0）	204（204）	
	合計		46（46）	12（12）	12（12）	0（0）	70（70）	0（0）	364（364）	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	59人（59）	146人（146）	205人（205）	
	技術職員	1人（1）	0人（）	1人（1）	
	図書館専門職員	0人（0）	0人（0）	0人（0）	
	その他の職員	1人（1）	0人（0）	1人（0）	
	計	61人（61）	146人（146）	207人（207）	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積：4，201㎡ 借用期間：期間なし
	校舎敷地	44,753㎡	—㎡	—㎡	44,753㎡	
	運動場用地	4,424㎡	—㎡	—㎡	4,424㎡	
	小計	49,177㎡	—㎡	—㎡	49,177㎡	
	その他	34,640㎡	—㎡	—㎡	34,640㎡	
	合計	83,817㎡	—㎡	—㎡	83,817㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	25,446㎡	—㎡	—㎡	25,446㎡	
	(25,446㎡)	(㎡)	(㎡)	(25,446㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	37室	20室	21室	11室（補助職員　9人）	1室（補助職員　1人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	文学部　史学科	19室
	人間関係学科	7室
	国際交流学科	16室
	心理学科	7室

図書・設備

新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点
文学部 史学科	90,140〔17,030〕 (85,244〔16,811〕)	569〔127〕 (558〔122〕)	1,100〔1,100〕 (827〔827〕)	3,292 (3,170)	0 (0)	0 (0)
人間関係学科	30,790〔5,875〕 (28,899〔5,620〕)	234〔86〕 (231〔86〕)	1,070〔1,070〕 (883〔883〕)	229 (228)	80 (80)	0 (0)
国際交流学科	23,980〔10,411〕 (22,144〔9,935〕)	528〔127〕 (437〔112〕)	3,400〔3,400〕 (2,821〔2,821〕)	515 (485)	73 (60)	0 (0)
心理学科	9,870〔4,045〕 (7,392〔3,987〕)	5,091〔1,871〕 (4,370〔1,800〕)	1,600〔1,600〕 (1,265〔1,265〕)	139 (118)	5 (5)	0 (0)
計	154,780〔37,361〕 (143,679〔36,353〕)	6,422〔2,211〕 (5,596〔2,120〕)	7,710〔7,170〕 (5,796〔5,796〕)	4,175 (4,001)	158 (145)	0 (0)

大学全体での共用分
図書
248,443〔87,884〕
(234,039〔85,783〕)
学術雑誌
1,701〔743〕
(1,700〔743〕)
電子ジャーナル
15,300〔15,300〕
(13,026〔13,026〕)
視聴覚資料
6,265(6,261)
機械・器具
50(42)

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数
	3,963㎡	347	517,389

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要
	1,442㎡	テニスコート5面

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り 区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
教員1人当り研究費等		440千円	440千円	440千円	440千円	— 千円	— 千円
共同研究費等		5,300千円	5,300千円	5,300千円	5,300千円	— 千円	— 千円
図書購入費	60,000千円	60,000千円	60,000千円	60,000千円	60,000千円	— 千円	— 千円
設備購入費	17,000千円	17,000千円	17,000千円	17,000千円	17,000千円	— 千円	— 千円

学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	1,385千円	970千円	970千円	990千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要：私立大学等経常費補助金、資産運用収入等

共同研究費、図書購入費、設備購入費は大学全体（文学部）の経費。
なお、図書購入費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ費（運用ｺｽﾄ含む）を含む。

既設大学等の状況

大学の名称：聖心女子大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
文学部	年	人	年次 人	人		倍		
英語英文学科	4	90	2年次 6	378	学士（英語英文学）	1.17	平成19年度	東京都渋谷区広尾４丁目３番１号
日本語日本文学科	4	45	2年次 6	198	学士（日本語日本文学）	1.15	平成3年度	同上
歴史社会学科	4	170	2年次 6	698	学士（史学） 学士（人間関係） 学士（国際交流）	1.16	昭和23年度	同上
哲学科	4	40	2年次 4	172	学士（哲学）	1.17	昭和23年度	同上
教育学科 教育・心理学専攻	4	85	2年次 8	364	学士（教育学） 学士（心理学）	1.16	昭和32年度	同上
教育学科 初等教育学専攻	4	20	—	80	学士（初等教育学）	1.12	昭和32年度	同上

入学時は文学部としての一括募集。2年次進級時に学則定員に従い按分して学科別に収容する。
平成26年度より学生募集停止予定
平成26年4月から教育・心理学専攻から教育学専攻に変更予定、
入学定員を85→25（△60）に変更、
編入学定員を2年次8→4（△4）に変更予定
平成26年4月から入学定員を20→40（20）に変更予定

	大学院 文学研究科 英語英文学専攻	2	10	—	20	修士（英語英文学）	0.20	平成16年度	東京都渋谷区広尾４丁目３番１号	
（修士課程）	日本語日本文学専攻	2	5	—	10	修士（日本語日本文学）	0.40	平成16年度	同上	
	史学専攻	2	5	—	10	修士（史学）	0.40	昭和27年度	同上	
	哲学専攻	2	6	—	12	修士（哲学）	0.58	平成11年度	同上	
（博士前期課程）	文学研究科 社会文化学専攻	2	6	—	12	修士（社会文化学）	0.33	平成16年度	東京都渋谷区広尾４丁目３番１号	
	人間科学専攻	2	12	—	24	修士（人間科学） 修士（心理学）	0.62	平成7年度	同上	
（博士後期課程）	文学研究科 社会文化学専攻	3	2	—	6	博士（社会文化学）	0.16	平成18年度	東京都渋谷区広尾４丁目３番１号	
	人文学専攻	3	4	—	12	博士（文学）	0.41	平成13年度	同上	
	人間科学専攻	3	2	—	6	博士（人間科学） 博士（心理学）	0.33	平成9年度	同上	
附属施設の概要	該当なし									

（注）

1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	専攻分野	日本史史料論	日本史史料論	2通		4		○								兼1	
			小計(1科目)	ー	0	4	0	ー			0	0	0	0	0	兼1	ー
		日本史演習Ⅰ	日本史演習Ⅰ	2通		4			○		3		1				
			小計(1科目)	ー	0	4	0	ー			3	0	1	0	0	0	ー
		日本史演習Ⅱ	日本史演習Ⅱ－1	3通		4			○		1						
			日本史演習Ⅱ－2	3通		4			○				1				
			日本史演習Ⅱ－3	3通		4			○		1						
			日本史演習Ⅱ－4	3通		4			○		1						
			小計(4科目)	ー	0	16	0	ー			3	0	1	0	0	0	ー
		日本史演習Ⅲ	日本史演習Ⅲ－1	4通		4			○		1						
			日本史演習Ⅲ－2	4通		4			○				1				
			日本史演習Ⅲ－3	4通		4			○		1						
			日本史演習Ⅲ－4	4通		4			○		1						
			小計(4科目)	ー	0	16	0	ー			3	0	1	0	0	0	ー
		世界史文献講読Ⅰ	世界史文献講読Ⅰ－1	2前		2		○			2						
			世界史文献講読Ⅰ－2	2後		2		○			2						
			小計(2科目)	ー	0	4	0	ー			2	0	0	0	0	0	ー
		世界史演習Ⅰ	世界史演習Ⅰ－1	2前		2		○			1	2					
			世界史演習Ⅰ－2	2後		2		○			1	2					
			小計(2科目)	ー	0	4	0	ー			1	2	0	0	0	0	ー
		世界史演習Ⅱ	世界史演習Ⅱ－1	3通		4			○		1						
			世界史演習Ⅱ－2	3通		4			○		1						
			世界史演習Ⅱ－3	3通		4			○			1					
			世界史演習Ⅱ－4	3通		4			○		1						
			世界史演習Ⅱ－5	3通		4			○			1					
			世界史演習Ⅱ－6	3通		4			○							兼1	
			小計(6科目)	ー	0	24	0	ー			3	2	0	0	0	兼1	ー
		世界史演習Ⅲ	世界史演習Ⅲ－1	4通		4			○		1						
			世界史演習Ⅲ－2	4通		4			○		1						
			世界史演習Ⅲ－3	4通		4			○			1					
			世界史演習Ⅲ－4	4通		4			○		1						
			世界史演習Ⅲ－5	4通		4			○			1					
			世界史演習Ⅲ－6	4通		4			○							兼1	
			小計(6科目)	ー	0	24	0	ー			3	2	0	0	0	兼1	ー
		史学共通	古文献入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際関係史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際関係史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			世界音楽地誌	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○			1						
			日本史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○			1						

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
			外国史概説Ⅰ－1	2･3･4前		2		○				1					
			外国史概説Ⅰ－2	2･3･4前		2		○			1						
			外国史概説Ⅱ－1	2･3･4後		2		○			1						
			外国史概説Ⅱ－2	2･3･4後		2		○			1						
			外国史概説Ⅱ－3	2･3･4後		2		○				1					
			小計(11科目)	―	0	28	0	―			4	2	0	0	0	兼3	―
		日本史系列	資料整理実習	3･4前		2		○								兼1	
			史料講読Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			史料講読Ⅱ	3･4通		4		○			1						
			日本考古学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本民俗学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本古代史Ⅰ	2･3･4通		4		○			1						
			日本中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○					1				
			日本近世史Ⅰ	2･3･4通		4		○			1						
			日本近世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○			1						
			日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(14科目)	―	0	46	0	―			3	0	1	0	0	兼8	―
		世界史系列	中国古代文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			中国近代史	2･3･4通		4		○			1						
			朝鮮現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			東南アジア史	2･3･4通		4		○								兼1	
			南アジア現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア近代史	2･3･4通		4		○				1					
			西アジア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			イスラム社会史入門	2･3･4後		2		○								兼1	
			古代オリエント史	2･3･4通		4		○								兼1	
			古代ローマ史	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○			1						
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	2･3･4通		4		○			1						
			ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○				1					
			ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ロシア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			アメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
			ラテンアメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
			世界史文献講読Ⅱ－1	2前		2		○			1						

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	世界史文献講読Ⅱ－2	2後		2		○			1						
	世界史文献講読Ⅲ－1	2前		2		○			1						
	世界史文献講読Ⅲ－2	2後		2		○			1						
	世界史文献講読Ⅳ－1	2前		2		○			1						
	世界史文献講読Ⅳ－2	2後		2		○			1						
	世界史文献講読Ⅴ－1	2前		2		○				1					
	世界史文献講読Ⅴ－2	2後		2		○				1					
	世界史文献講読Ⅵ－1	2前		2		○				1					
	世界史文献講読Ⅵ－2	2後		2		○				1					
	小計(29科目)	ー	0	94	0	ー			3	2	0	0	0	兼14	ー
論文 卒業	卒業論文	4通	8				○		6	2	1				
	小計(1科目)	ー	8	0	0	ー			6	2	1	0	0	0	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	対人社会心理学1	2前		2		○								兼1	
			マスコミ社会心理学1	2後		2		○								兼1	
			人格心理学1	2前		2		○								兼1	
			家族社会学1	2後		2		○								兼1	
			職業社会学1	2後		2		○								兼1	
			文化人類学1	2後		2		○								兼1	
			社会調査入門	2前		2		○								兼7	
			比較文化学1	2前		2		○								兼1	
			社会心理学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講2	3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			社会心理学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講9	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会心理学特講11	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会心理学特講14	3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講15	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講10	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講11	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講12	2･3･4後		2		○								兼1	
			人文地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			人文地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			自然地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			自然地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			地誌学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			地誌学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			マス･コミュニケーション論	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会学	2･3･4通		4		○								兼1	
			家族社会学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			職業社会学2	2･3･4前		2		○								兼1	
			キャリア形成の社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			社会学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			交流分析概論	2･3･4前		2		○								兼1	
			人格発達心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
			人格心理学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			人格心理学特講4	3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	人格臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○								兼1	
		人格臨床心理学特講4	3･4後		2		○								兼1	
		比較文化宗教学1	2･3･4後		2		○								兼1	
		比較文化宗教学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		比較文化学特講	2･3･4通		4										兼1	
		比較文化学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学2	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会調査の技法1	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会調査の技法2	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会統計学	2･3･4後		2		○								兼1	
		質的調査法1	2･3･4前		2		○								兼1	
		質的調査法2	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(57科目)	ー	0	118	0	ー			0	0	0	0	0	兼34	ー
	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		フランス語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		フランス語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	法律学[含国際法]	1･2･3･4通		4		○								兼1	
		現代家族法	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際法1	2･3･4前		2		○								兼1	
		国際法2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		取引関係法	2･3･4通		4		○								兼1	
		政治学概論[含国際政治]1	2･3･4通		4		○								兼1	
		政治学概論[含国際政治]2	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際交流特殊講義	2･3･4前		2		○								兼1	
		現代国際政治Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
		現代国際政治Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
		行政学	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際連合論	2･3･4後		2		○								兼1	
		アメリカ外交論	2･3･4通		4		○								兼1	
		経済学概論[含国際経済]	2･3･4通		4		○								兼1	
		経済理論入門	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際経済学1	2･3･4前		2		○								兼1	
		国際経済学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		開発経済学	2･3･4通		4		○								兼1	
		情報処理入門	2･3･4通		4		○								兼1	
		プログラム入門	2･3･4通		4		○								兼1	
		コンピュータサイエンス	2･3･4通		4		○								兼1	
		応用情報処理	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際コミュニケーション論	2･3･4通		4		○								兼1	
		異文化間コミュニケーション(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		異文化間コミュニケーション(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		国際交流実習1	2･3･4前		2				○						兼8	
		フランスの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		フランスの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		ドイツの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		ドイツの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		ドイツ事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		ドイツ事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		フランス事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		フランス事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		中国事情(1)	2･3･4後		2		○								兼1	
		Contemporary American Culture(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		Contemporary American Culture(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		アジア文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(60科目)	―	0	152	0	―			0	0	0	0	0	兼39	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	心理学史	2･3･4後		2		○								兼1	
			認知心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			認知心理学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			認知心理学特講6	3･4前		2		○								兼1	
			認知心理学特講7	3･4後		2		○								兼1	
			認知心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講6	3･4前		2		○								兼1	
			発達心理学特講7	3･4前		2		○								兼1	隔年
			発達心理学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			臨床心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講6	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講7	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			発達心理学2	2･3･4前		2		○								兼2	
			小計(21科目)	ー	0	42	0	ー			0	0	0	0	0	兼18	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	基礎課程科目	基礎課程演習	1前		2			○		1	2	0			兼24	
			アジア史入門	1前		2		○			1	1					
			人間関係入門	1前		2		○								兼7	
			国際交流入門	1前		2		○								兼9	
			心理学入門	1前		2		○								兼7	
			英語の世界	1前		2		○								兼10	
			小計(6科目)	ー	0	12	0	ー			2	2	0	0	0	兼43	ー
		総合現代教養科目	3･4年英語	3･4通		2		○								兼1	
			運動学1	2･3･4前		1		○								兼1	
			運動学2	2･3･4後		1		○								兼1	
			運動学3	2･3･4後		1		○								兼1	
			憲法1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			憲法3	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			女性とキャリア形成	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際平和と開発援助	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			地球化時代のNGO	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			人間の安全保障	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			中国古典への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			中国思想への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			現代社会と環境	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			現代の脳科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			科学史1	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			科学史2	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			社会福祉論	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			児童福祉論	1･2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			ビートルズの詩と音楽	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報活用演習	1･2･3･4前後		2			○							兼6	
			情報ネットワーク演習	2･3･4前		2			○							兼1	集中
			日本の伝統文化	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			アラビア語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
			金融のしくみ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			聖心スピリットと共生	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康な生活と健康科学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			情報産業論	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			ポップカルチャー	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			キャリアデザイン入門	2･3前		2		○								兼2	
			チェコ語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
			災害と人間	1･2･3･4前		2		○								兼9	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		現代を考える	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学2－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学3－1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－3	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ボランティア研究概論1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究概論2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習1	3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習2	3･4後		2		○								兼1	
			小計(44科目)	―	0	89	0	―			0	0	0	0	0	兼52	
		他学科開講科目（日本語日本文学）	日本文学史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅴ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅵ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅵ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅶ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅷ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学講読Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅰ	3･4前		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅱ	3･4後		2		○								兼1	
			文芸創作入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			書道Ⅰ	2･3･4前		2				○						兼1	
			書道Ⅱ	2･3･4後		2				○						兼1	
			中国文学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			中国文学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(36科目)	―	0	74	0	―			0	0	0	0	0	兼19	
		他学科開講科目（哲学）	哲学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅳ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－1	2･3･4前		2			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－2	2･3･4後		2			○							兼1	
			哲学史演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			日本思想史学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			美学･芸術学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			社会思想史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会思想史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	哲学・倫理学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅴ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅵ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅷ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅸ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋近代哲学史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		新約聖書学	2・3・4通		4		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教音楽	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教美術	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅳ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ラテン語Ⅰ	2･3･通		4		○								兼1	
		小計(64科目)	ー	0	168	0	ー			0	0	0	0	0	兼25	ー
	他学科開講科目（教育学）	教育学概論	2通		4		○								兼1	
		教育哲学2	2･3前		2		○								兼1	
		西洋教育史2	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史1	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史2	2･3後		2		○								兼1	
		西洋教育運動史	2･3後		2		○								兼1	
		教育原理	2･3前		2		○								兼1	
		教育行政学2	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論1	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論2	2･3後		2		○								兼1	隔年
		比較教育学	3･4通		4		○								兼1	
		比較教育学特講	3･4後		2		○								兼1	
		生涯学習概論	3･4前		2		○								兼1	
		教育経営	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育心理学	2･3前		2		○								兼1	
		教育課程方法論	2･3後		2		○								兼1	
		教育方法	2･3後		2		○								兼1	
		教育課程論	2･3前		2		○								兼1	
		人間学習原論	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習3	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習4	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習5	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習6	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習7	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習8	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習10	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習11	3･4前		2		○								兼1	集中
		教育メディア論	2･3前		2		○								兼1	
		教育情報学	2･3前		2		○								兼1	
		教育工学	3･4前		2		○								兼1	
		メディア教材開発	2･3後		2		○								兼1	
		教育学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		教育学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		教育相談	2･3前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	道徳教育の研究	2･3後		2		○								兼1	
		特別活動	2･3後		2		○								兼1	
		生徒指導[含進路指導]	2･3後		2		○								兼1	
		教育学入門	1･2前		2		○								兼10	
		障害者教育･福祉概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		幼児教育原論	2･3前		2		○								兼1	
		視聴覚教育1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		視聴覚教育2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育調査	3･4前		2		○								兼1	集中
		小計(69科目)	―	0	138	0	―			0	0	0	0	0	兼38	―
	他学科開講科目（英語英文学）	英文学史概説1	1･2前		2		○								兼1	
		英文学史概説2	1･2後		2		○								兼1	
		英作文1	3前		2		○								兼6	
		英作文2	3後		2		○								兼6	
		英語学概論	1･2通		4		○								兼1	
		英語学特講3－1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語学特講3－2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講1	3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講2	3･4通		4		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講8－2	3･4後		2		○								兼1	
		英語史	2･3･4通		4		○								兼1	
		米文学史概説1	2･3･4前		2		○								兼1	
		米文学史概説2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション入門1	1･2前		2		○								兼1	
		英文法	2･3前		2		○								兼1	
		英会話	3･4通		4		○								兼1	
		オラルコミュニケーション	2･3･4通		4		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[児童文学]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]1	2前		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]2	2後		2		○								兼1	
		異文化理解	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(25科目)	―	0	60	0	―			0	0	0	0	0	兼18	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	博物館関連科目	博物館概論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館学各論1	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館学各論2	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館情報･メディア論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館教育論	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(5科目)	―	0	14	0	―			0	0	0	0	0	兼5	―
	日本語関連科目	2年日本語2	2･3･4後		2		○								兼2	
		上級日本語1－1	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		上級日本語1－2	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		日本事情1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本事情2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(5科目)	―	0	8	0	―			0	0	0	0	0	兼2	―
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ	キリスト教学Ⅰ－1	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－2	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－4	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－5	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－6	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－8	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－9	1･2通		4		○								兼1	
		小計(9科目)	―	0	36	0	―			0	0	0	0	0	兼9	―
	キリスト教学Ⅱ	キリスト教学Ⅱ－1	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－3	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－6	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－8	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－9	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－10	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－11	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－14	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－16	3･4通		4		○								兼1	
		小計(11科目)	―	0	44	0	―			0	0	0	0	0	兼11	―
	第一外国語	1年英語	1通	4			○								兼20	
		2年英語2(リーディング)	2通	2			○								兼12	
		2年英語2(オラル)	2通	2			○								兼17	
		小計(3科目)	―	8	0	0	―			0	0	0	0	0	兼33	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学必修分野	第二外国語	1年フランス語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年フランス語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年フランス語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年フランス語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年ドイツ語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年ドイツ語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(講読)	2通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年スペイン語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年スペイン語(オラル)	1通		2		○								兼1	
		2年スペイン語	2通		2		○								兼2	
		1年中国語(文法)	1通		4		○								兼6	
		1年中国語(オラル)	1通		2		○								兼5	
		2年中国語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年中国語(会話)	2通		2		○								兼3	
		1年コリア語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年コリア語(オラル)	1通		2		○								兼3	
		2年コリア語	2通		2		○								兼4	
		1年日本語1	1前		3		○								兼4	
		1年日本語2	1後		3		○								兼4	
		2年日本語1	2前		2		○								兼2	
		小計(21科目)	―	0	54	0	―			0	0	0	0	0	兼43	―
	体育運動学	体育運動学	1通	2					○						兼11	
		小計(1科目)	―	2	0	0	―			0	0	0	0	0	兼11	―
資格関係分野	教職専門科目	教職入門	2･3前			2	○								兼1	
		社会科教育法1	2･3後			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法2	3後			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法2	3後			2	○								兼1	
		教育実習指導1(中学・高校)	3後			1		○							兼1	
		教育実習指導4(中学・高校)	4後			1		○							兼1	
		教育実習1	4通			2			○						兼1	
		教育実習2	4通			2			○						兼1	
		教職実践演習(中学・高校)	4後			2		○							兼1	
		小計(11科目)	―	0	0	24	―			0	0	0	0	0	兼6	―
	博物館実習	博物館実習	4前後			3			○						兼2	
		小計(1科目)	―	0	0	3	―			0	0	0	0	0	兼2	―

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 相 談 ）

（文学部　史学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計（　506科目）		－	18	1273	27	－			6	2	1	0	0	兼330	－

学位又は称号	学士（史学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下①～③の要件を満たし、132単位以上修得すること。 ①全学必修分野について 　必修科目10単位、選択科目から16単位修得し、合計26単位以上修得すること。 ②専攻課程分野について 　日本史コースは専攻分野の日本史史料論から4単位、日本史演習Ⅰから4単位、日本史演習Ⅱの選択科目から4単位以上、日本史演習Ⅲの選択科目から4単位以上、世界史系列の選択科目から8単位以上修得し、史学共通と日本史系列を含めて60単位以上修得すること。 　世界史コースは専攻分野の世界史文献講読Ⅰから4単位、世界史演習Ⅰから4単位、世界史演習Ⅱの選択科目から4単位以上、世界史演習Ⅲの選択科目から4単位以上、日本史系列の選択科目から8単位以上修得し、史学共通と日本史史料論、世界史系列を含めて60単位以上修得すること。 　また、日本史・世界史コースともに関連分野の選択科目から26単位以上修得し、専攻分野とあわせて合計98単位以上修得すること。 ③卒業論文8単位を修得すること。 履修科目の登録の上限：（年間）1年次42単位、2～3年次48単位、4年次42単位（卒業論文を除く）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	専攻分野	基礎科目	対人社会心理学1	2前	2			○			1						
			マスコミ社会心理学1	2後	2			○				1					
			人格心理学1	2前	2			○			1						
			家族社会学1	2後	2			○			1						
			職業社会学1	2後	2			○			1						
			文化人類学1	2後	2			○				1					
			社会調査入門	2前	2			○			5	2					
			比較文化学1	2前	2			○			1						
			人間関係共通演習	2後	2				○		5	2					
			小計(9科目)	―	18	0	0	―			5	2	0	0	0	0	―
		演習1	対人社会心理学演習1	3通		4			○		1						
			マスコミ社会心理学演習1	3通		4			○			1					
			人格心理学演習1	3通		4			○		1						
			家族社会学演習1	3通		4			○		1						
			職業社会学演習1	3通		4			○		1						
			文化人類学演習1	3通		4			○			1					
			比較文化学演習1	3通		4					1						
			小計(7科目)	―	0	28	0	―			5	2	0	0	0	0	―
		演習2	対人社会心理学演習2	4通		4			○		1						
			マスコミ社会心理学演習2	4通		4			○			1					
			人格心理学演習2	4通		4			○		1						
			家族社会学演習2	4通		4			○		1						
			職業社会学演習2	4通		4			○		1						
			文化人類学演習2	4通		4			○			1					
			比較文化学演習2	4通		4					1						
			小計(7科目)	―	0	28	0	―			5	2	0	0	0	0	―
		自由選択科目	社会心理学特講1	2･3･4前		2		○			1						
			社会心理学特講2	3･4前		2		○				1					
			社会心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			社会心理学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講9	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会心理学特講11	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会心理学特講14	3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講15	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講10	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講11	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講12	2･3･4後		2		○								兼1	
			人文地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			人文地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			自然地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　人間関係学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	自然地理学2	2・3・4後		2		○								兼1	
	地誌学1	2・3・4前		2		○								兼1	
	地誌学2	2・3・4後		2		○								兼1	
	マス・コミュニケーション論	2・3・4前		2		○				1					
	社会学	2・3・4通		4		○								兼1	
	家族社会学2	2・3・4後		2		○			1						
	職業社会学2	2・3・4前		2		○			1						
	キャリア形成の社会学	2・3・4前		2		○			1						
	社会学特講1	2・3・4前		2		○								兼1	
	社会学特講2	2・3・4前		2		○								兼1	集中
	社会学特講3	2・3・4後		2		○								兼1	
	社会学特講4	2・3・4前		2		○								兼1	
	交流分析概論	2・3・4前		2		○								兼1	
	人格発達心理学	2・3・4前		2		○								兼1	
	人格心理学特講1	2・3・4前		2		○								兼1	集中
	人格心理学特講4	3・4後		2		○								兼1	
	人格臨床心理学特講2	2・3・4後		2		○								兼1	
	人格臨床心理学特講4	3・4後		2		○								兼1	
	比較文化宗教学2	2・3・4後		2		○								兼1	
	比較文化学特講	2・3・4通		4		○			1						
	比較文化学特講1	2・3・4前		2		○			1						
	比較文化学特講2	2・3・4前		2		○								兼1	
	比較文化学特講3	2・3・4前		2		○								兼1	
	比較文化学特講4	2・3・4前		2		○								兼1	
	比較文化学特講5	2・3・4前		2		○								兼1	
	比較文化宗教学1	2・3・4前		2		○								兼1	
	比較文化学2	2・3・4前		2		○								兼1	
	人間関係副専攻演習1	2・3・4後		2		○			1						
	社会調査の技法1	2・3・4前		2		○								兼1	
	社会調査の技法2	2・3・4前		2		○								兼1	
	データ分析の基礎	3・4前		2		○								兼2	
	社会統計学	2・3・4後		2		○			1						
	多変量解析法	3・4前		2		○								兼1	
	質的調査法1	2・3・4前		2		○			1						
	質的調査法2	2・3・4前		2		○				1					
	社会調査実習1	3・4通		4				○	1	1					
	社会調査実習2	3・4通		4				○	1						
	社会調査実習3	3・4通		4				○		1					
	小計（55科目）	―	0	120	0	―			5	2	0	0	0	兼28	―
卒業論文	卒業論文	4通	8				○		5	2	0				
	小計（1科目）	―	8	0	0	―			5	2	0	0	0	0	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本史史料論	2通		4		○								兼1	
			古文献入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際関係史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際関係史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			世界音楽地誌	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅰ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅰ－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－1	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－3	2･3･4後		2		○								兼1	
			資料整理実習	3･4前		2		○								兼1	
			史料講読Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			史料講読Ⅱ	3･4通		4		○								兼1	
			日本考古学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本民俗学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本古代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			中国古代文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			中国近代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			朝鮮現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			東南アジア史	2･3･4通		4		○								兼1	
			南アジア現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア近代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			イスラム社会史入門	2･3･4後		2		○								兼1	
			古代オリエント史	2･3･4通		4		○								兼1	
			古代ローマ史	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　人間関係学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ヨーロッパ現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ロシア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
		アメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
		ラテンアメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅱ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅱ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅲ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅲ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅳ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅳ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅴ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅴ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅵ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅵ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史演習Ⅱ－1	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－2	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－3	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－4	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－5	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－1	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－2	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－3	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－4	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－5	4通		4			○							兼1	
		小計（65科目）	ー	0	212	0	ー			0	0	0	0	0	兼35	
	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		フランス語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		フランス語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		ドイツ語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		スペイン語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　人間関係学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	中国語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		中国語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
		コリア語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
		法律学[含国際法]	1･2･3･4通		4		○								兼1	
		現代家族法	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際法1	2･3･4前		2		○								兼1	
		国際法2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		取引関係法	2･3･4通		4		○								兼1	
		政治学概論[含国際政治]1	2･3･4通		4		○								兼1	
		政治学概論[含国際政治]2	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際交流特殊講義	2･3･4前		2		○								兼1	
		現代国際政治Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
		現代国際政治Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
		行政学	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際連合論	2･3･4後		2		○								兼1	
		アメリカ外交論	2･3･4通		4		○								兼1	
		経済学概論[含国際経済]	2･3･4通		4		○								兼1	
		経済理論入門	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際経済学1	2･3･4前		2		○								兼1	
		国際経済学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		開発経済学	2･3･4通		4		○								兼1	
		情報処理入門	2･3･4通		4		○								兼1	
		プログラム入門	2･3･4通		4		○								兼1	
		コンピュータサイエンス	2･3･4通		4		○								兼1	
		応用情報処理	2･3･4通		4		○								兼1	
		国際コミュニケーション論	2･3･4通		4		○								兼1	
		異文化間コミュニケーション(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		異文化間コミュニケーション(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		国際交流実習1	2･3･4前		2				○		1				兼7	
		フランスの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		フランスの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		ドイツの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
		ドイツの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
		東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		ドイツ事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			ドイツ事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			フランス事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			フランス事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			中国事情(1)	2･3･4後		2		○								兼1	
			Contemporary American Culture(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			Contemporary American Culture(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			アジア文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(60科目)	―	0	152	0	―			0	1	0	0	0	兼38	―
		他学科開講科目（心理学）	心理学史	2･3･4後		2		○								兼1	
			認知心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			認知心理学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			認知心理学特講6	3･4前		2		○								兼1	
			認知心理学特講7	3･4後		2		○								兼1	
			認知心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講6	3･4前		2		○								兼1	
			発達心理学特講7	3･4前		2		○								兼1	隔年
			発達心理学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			臨床心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講6	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講7	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			発達心理学2	2･3･4前		2		○								兼2	
			小計(21科目)	―	0	42	0	―			0	0	0	0	0	兼18	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	基礎課程科目	基礎課程演習	1前		2			○		1	2	0			兼24	
			アジア史入門	1前		2		○			1	1					
			人間関係入門	1前		2		○								兼7	
			国際交流入門	1前		2		○								兼9	
			心理学入門	1前		2		○								兼7	
			英語の世界	1前		2		○								兼10	
			小計(6科目)	ー	0	12	0	ー			2	2	0	0	0	兼43	ー
		総合現代教養科目	3･4年英語	3･4通		2		○								兼1	
			運動学1	2･3･4前		1		○								兼1	
			運動学2	2･3･4後		1		○								兼1	
			運動学3	2･3･4後		1		○								兼1	
			憲法1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			憲法3	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			女性とキャリア形成	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際平和と開発援助	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			地球化時代のNGO	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			人間の安全保障	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			中国古典への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			中国思想への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			現代社会と環境	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			現代の脳科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			科学史1	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			科学史2	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			社会福祉論	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			児童福祉論	1･2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			ビートルズの詩と音楽	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
			情報活用演習	1･2･3･4前後		2			○							兼6	
			情報ネットワーク演習	2･3･4前		2			○							兼1	集中
			日本の伝統文化	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			アラビア語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
			金融のしくみ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			聖心スピリットと共生	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			健康な生活と健康科学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			情報産業論	1･2･3･4前		2		○								兼3	
			ポップカルチャー	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			キャリアデザイン入門	2･3前		2		○								兼2	
			チェコ語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
			災害と人間	1･2･3･4前		2		○								兼9	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		現代を考える	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学2－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学3－1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－3	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ボランティア研究概論1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究概論2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習1	3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習2	3･4後		2		○								兼1	
			小計(44科目)	―	0	89	0	―			0	0	0	0	0	兼52	
		他学科開講科目（日本語日本文学）	日本文学史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅴ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅵ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅵ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅶ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅷ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学講読Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅰ	3･4前		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅱ	3･4後		2		○								兼1	
			文芸創作入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			書道Ⅰ	2･3･4前		2				○						兼1	
			書道Ⅱ	2･3･4後		2				○						兼1	
			中国文学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			中国文学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(36科目)	―	0	74	0	―			0	0	0	0	0	兼19	
		他学科開講科目（哲学）	哲学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅳ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－1	2･3･4前		2			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－2	2･3･4後		2			○							兼1	
			哲学史演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			日本思想史学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			美学･芸術学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			社会思想史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会思想史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	哲学・倫理学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅴ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅵ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅷ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅸ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋近代哲学史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		新約聖書学	2・3・4通		4		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教音楽	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教美術	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅳ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ラテン語Ⅰ	2･3･通		4		○								兼1	
		小計(64科目)	ー	0	168	0	ー			0	0	0	0	0	兼25	ー
	他学科開講科目（教育学）	教育学概論	2通		4		○								兼1	
		教育哲学2	2･3前		2		○								兼1	
		西洋教育史2	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史1	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史2	2･3後		2		○								兼1	
		西洋教育運動史	2･3後		2		○								兼1	
		教育原理	2･3前		2		○								兼1	
		教育行政学2	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論1	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論2	2･3後		2		○								兼1	隔年
		比較教育学	3･4通		4		○								兼1	
		比較教育学特講	3･4後		2		○								兼1	
		生涯学習概論	3･4前		2		○								兼1	
		教育経営	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育心理学	2･3前		2		○								兼1	
		教育課程方法論	2･3後		2		○								兼1	
		教育方法	2･3後		2		○								兼1	
		教育課程論	2･3前		2		○								兼1	
		人間学習原論	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習3	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習4	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習5	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習6	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習7	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習8	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習10	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習11	3･4前		2		○								兼1	集中
		教育メディア論	2･3前		2		○								兼1	
		教育情報学	2･3前		2		○								兼1	
		教育工学	3･4前		2		○								兼1	
		メディア教材開発	2･3後		2		○								兼1	
		教育学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		教育学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		教育相談	2･3前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	道徳教育の研究	2･3後		2		○								兼1	
		特別活動	2･3後		2		○								兼1	
		生徒指導[含進路指導]	2･3後		2		○								兼1	
		教育学入門	1･2前		2		○								兼10	
		障害者教育･福祉概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		幼児教育原論	2･3前		2		○								兼1	
		視聴覚教育1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		視聴覚教育2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育調査	3･4前		2		○								兼1	集中
		小計(69科目)	―	0	138	0	―			0	0	0	0	0	兼38	―
	他学科開講科目（英語英文学）	英文学史概説1	1･2前		2		○								兼1	
		英文学史概説2	1･2後		2		○								兼1	
		英作文1	3前		2		○								兼6	
		英作文2	3後		2		○								兼6	
		英語学概論	1･2通		4		○								兼1	
		英語学特講3－1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語学特講3－2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講1	3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講2	3･4通		4		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講8－2	3･4後		2		○								兼1	
		英語史	2･3･4通		4		○								兼1	
		米文学史概説1	2･3･4前		2		○								兼1	
		米文学史概説2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション入門1	1･2前		2		○								兼1	
		英文法	2･3前		2		○								兼1	
		英会話	3･4通		4		○								兼1	
		オラルコミュニケーション	2･3･4通		4		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[児童文学]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]1	2前		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]2	2後		2		○								兼1	
		異文化理解	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(25科目)	―	0	60	0	―			0	0	0	0	0	兼18	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	博物館関連科目	博物館概論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館学各論1	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館学各論2	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館情報･メディア論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館教育論	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(5科目)	ー	0	14	0	ー			0	0	0	0	0	兼5	ー
	日本語関連科目	2年日本語2	2･3･4後		2		○								兼2	
		上級日本語1－1	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		上級日本語1－2	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		日本事情1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本事情2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(5科目)	ー	0	8	0	ー			0	0	0	0	0	兼2	ー
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ	キリスト教学Ⅰ－1	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－2	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－4	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－5	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－6	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－8	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－9	1･2通		4		○								兼1	
		小計(9科目)	ー	0	36	0	ー			0	0	0	0	0	兼9	ー
	キリスト教学Ⅱ	キリスト教学Ⅱ－1	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－3	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－6	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－8	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－9	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－10	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－11	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－14	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－16	3･4通		4		○								兼1	
		小計(11科目)	ー	0	44	0	ー			0	0	0	0	0	兼11	ー
	第一外国語	1年英語	1通	4			○								兼20	
		2年英語2(リーディング)	2通	2			○								兼12	
		2年英語2(オラル)	2通	2			○								兼17	
		小計(3科目)	ー	8	0	0	ー			0	0	0	0	0	兼33	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学必修分野	第二外国語	1年フランス語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年フランス語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年フランス語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年フランス語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年ドイツ語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年ドイツ語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(講読)	2通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年スペイン語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年スペイン語(オラル)	1通		2		○								兼1	
		2年スペイン語	2通		2		○								兼2	
		1年中国語(文法)	1通		4		○								兼6	
		1年中国語(オラル)	1通		2		○								兼5	
		2年中国語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年中国語(会話)	2通		2		○								兼3	
		1年コリア語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年コリア語(オラル)	1通		2		○								兼3	
		2年コリア語	2通		2		○								兼4	
		1年日本語1	1前		3		○								兼4	
		1年日本語2	1後		3		○								兼4	
		2年日本語1	2前		2		○								兼2	
		小計(21科目)	ー	0	54	0	ー			0	0	0	0	0	兼43	ー
	体育運動学	体育運動学	1通	2					○						兼11	
		小計(1科目)	ー	2	0	0	ー			0	0	0	0	0	兼11	ー
資格関係分野	教職専門科目	教職入門	2･3前			2	○								兼1	
		社会科教育法1	2･3後			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法2	3後			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法2	3後			2	○								兼1	
		教育実習指導1(中学・高校)	3後			1		○							兼1	
		教育実習指導4(中学・高校)	4後			1		○							兼1	
		教育実習1	4通			2			○						兼1	
		教育実習2	4通			2			○						兼1	
		教職実践演習(中学・高校)	4後			2		○							兼1	
		小計(11科目)	ー	0	0	24	ー			0	0	0	0	0	兼6	ー
	博物館実習	博物館実習	4前後			3			○						兼2	
		小計(1科目)	ー	0	0	3	ー			0	0	0	0	0	兼2	ー

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 相 談 ）

（文学部　人間関係学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計（ 511 科目）		－	36	1279	27	－			5	2	0	0	0	兼334	－

学位又は称号	学士（人間関係）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下①～③の要件を満たし、132単位以上修得すること。 ①全学必修分野について 必修科目10単位、選択科目から16単位修得し、合計26単位以上修得すること。 ②専攻課程分野について 専攻分野の基礎科目から必修科目18単位、演習１の選択科目から4単位以上、演習２の選択科目から4単位以上修得し、自由選択科目と合わせて60単位以上修得すること。 また、関連分野の選択科目から26単位以上修得し、専攻分野とあわせて合計98単位以上修得すること。 ③卒業論文8単位を修得すること。 履修科目の登録の上限：（年間）1年次42単位、2～3年次48単位、4年次42単位（卒業論文を除く）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	専攻分野	必修科目	国際交流概論	2通	4			○			4	2	2				
			英語コミュニケーションⅠ(1)	2前	2			○			1					兼1	
			英語コミュニケーションⅠ(2)	2後	2			○			1					兼1	
			英語コミュニケーションⅡ(1)	3前	2			○			1					兼1	
			英語コミュニケーションⅡ(2)	3後	2			○			1					兼1	
			小計(5科目)	ー	12	0	0	ー			5	2	2	0	0	兼2	ー
		基礎言語コミュニケーション	フランス語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			フランス語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○			1						
			フランス語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○			1						
			ドイツ語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			小計(20科目)	ー	0	40	0	ー			1	0	0	0	0	兼8	ー
		演習Ⅰ	法学演習Ⅰ(1)	3前		2			○							兼1	
			法学演習Ⅰ(2)	3後		2			○							兼1	
			国際政治演習Ⅰ(1)	3前		2			○		1						
			国際政治演習Ⅰ(2)	3後		2			○		1						
			国際経済演習Ⅰ(1)	3前		2			○			1					
			国際経済演習Ⅰ(2)	3後		2			○			1					
			情報科学演習Ⅰ(1)	3前		2			○		1						
			情報科学演習Ⅰ(2)	3後		2			○		1						
			異文化間コミュニケーション演習Ⅰ(1)	3前		2			○		1						
			異文化間コミュニケーション演習Ⅰ(2)	3後		2			○		1						
			フランス社会文化演習Ⅰ(1)	3前		2			○				1				
			フランス社会文化演習Ⅰ(2)	3後		2			○				1				
			ドイツ社会文化演習Ⅰ(1)	3前		2			○				1				

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ドイツ社会文化演習Ⅰ(2)	3後		2			○				1				
	中国社会文化演習Ⅰ(1)	3前		2			○			1					
	中国社会文化演習Ⅰ(2)	3後		2			○			1					
	日欧比較思想演習Ⅰ(1)	3前		2			○		1						
	日欧比較思想演習Ⅰ(2)	3後		2			○		1						
	小計(18科目)	ー	0	36	0	ー			4	2	2	0	0	兼1	ー
演習Ⅱ	法学演習Ⅱ(1)	4前		2			○			1					
	法学演習Ⅱ(2)	4後		2			○			1					
	国際政治演習Ⅱ(1)	4前		2			○		1						
	国際政治演習Ⅱ(2)	4後		2			○		1						
	国際経済演習Ⅱ(1)	4前		2			○			1					
	国際経済演習Ⅱ(2)	4後		2			○			1					
	情報科学演習Ⅱ(1)	4前		2			○		1						
	情報科学演習Ⅱ(2)	4後		2			○		1						
	異文化間コミュニケーション演習Ⅱ(1)	4前		2			○		1						
	異文化間コミュニケーション演習Ⅱ(2)	4後		2			○		1						
	フランス社会文化演習Ⅱ(1)	4前		2			○				1				
	フランス社会文化演習Ⅱ(2)	4後		2			○				1				
	ドイツ社会文化演習Ⅱ(1)	4前		2			○				1				
	ドイツ社会文化演習Ⅱ(2)	4後		2			○				1				
	中国社会文化演習Ⅱ(1)	4前		2			○			1					
	中国社会文化演習Ⅱ(2)	4後		2			○			1					
	日欧比較思想演習Ⅱ(1)	4前		2			○		1						
	日欧比較思想演習Ⅱ(2)	4後		2			○		1						
	小計(18科目)	ー	0	36	0	ー			4	3	2	0	0	0	ー
領域科目	法律学[含国際法]	1･2･3･4通		4		○				1					
	現代家族法	2･3･4通		4		○				1					
	国際法1	2･3･4前		2		○								兼1	
	国際法2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
	取引関係法	2･3･4通		4		○								兼1	
	政治学概論[含国際政治]1	2･3･4通		4		○			1						
	政治学概論[含国際政治]2	2･3･4通		4		○			1						
	国際交流特殊講義	2･3･4前		2		○			1						
	現代国際政治Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
	現代国際政治Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
	行政学	2･3･4通		4		○								兼1	
	国際連合論	2･3･4後		2		○								兼1	
	アメリカ外交論	2･3･4通		4		○			1						
	経済学概論[含国際経済]	2･3･4通		4		○				1					
	経済理論入門	2･3･4通		4		○				1					
	国際経済学1	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際経済学2	2･3･4後		2		○				1					
	開発経済学	2･3･4通		4		○								兼1	
	情報処理入門	2･3･4通		4		○			1						
	プログラム入門	2･3･4通		4		○			1						
	コンピュータサイエンス	2･3･4通		4		○								兼1	
	応用情報処理	2･3･4通		4		○								兼1	
	国際コミュニケーション論	2･3･4通		4		○			1						
	異文化間コミュニケーション(1)	2･3･4前		2		○			1						
	異文化間コミュニケーション(2)	2･3･4後		2		○			1						
	国際交流実習1	2･3･4前		2				○	3	2	1			兼2	
	フランスの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○					1				
	フランスの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○					1				
	ドイツの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○					1				
	ドイツの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○					1				
	東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
	ドイツ事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
	ドイツ事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
	フランス事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
	フランス事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
	中国事情(1)	2･3･4後		2		○								兼1	
	Contemporary American Culture(1)	2･3･4前		2		○			1						
	Contemporary American Culture(2)	2･3･4後		2		○			1						
	日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
	アジア文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
	小計(40科目)	ー	0	112	0	ー			5	3	2	0	0	兼21	ー
卒論文	卒業論文	4通	8				○		4	3	2				
	小計(1科目)	ー	8	0	0	ー			4	3	2	0	0	0	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本史史料論	2通		4		○								兼1	
			古文献入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際関係史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際関係史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			世界音楽地誌	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅰ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅰ－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－1	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－3	2･3･4後		2		○								兼1	
			資料整理実習	3･4前		2		○								兼1	
			史料講読Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			史料講読Ⅱ	3･4通		4		○								兼1	
			日本考古学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本民俗学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本古代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			中国古代文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			中国近代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			朝鮮現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			東南アジア史	2･3･4通		4		○								兼1	
			南アジア現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア近代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			イスラム社会史入門	2･3･4後		2		○								兼1	
			古代オリエント史	2･3･4通		4		○								兼1	
			古代ローマ史	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ヨーロッパ現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ロシア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
		アメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
		ラテンアメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅱ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅱ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅲ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅲ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅳ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅳ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅴ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅴ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅵ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅵ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史演習Ⅱ－1	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－2	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－3	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－4	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－5	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－1	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－2	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－3	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－4	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－5	4通		4			○							兼1	
		小計(65科目)	ー	0	212	0	ー			0	0	0	0	0	兼35	
	他学科開講科目（人間関係）	対人社会心理学1	2前		2		○								兼1	
		マスコミ社会心理学1	2後		2		○								兼1	
		人格心理学1	2前		2		○								兼1	
		家族社会学1	2後		2		○								兼1	
		職業社会学1	2後		2		○								兼1	
		文化人類学1	2後		2		○								兼1	
		社会調査入門	2前		2		○								兼7	
		比較文化学1	2前		2		○								兼1	
		社会心理学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会心理学特講2	3･4前		2		○								兼1	
		社会心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		社会心理学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	社会心理学特講9	2･3･4後		2		○								兼1	
		社会心理学特講11	2･3･4後		2		○								兼1	
		社会心理学特講14	3･4前		2		○								兼1	
		社会心理学特講15	2･3･4後		2		○								兼1	
		文化人類学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
		文化人類学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	
		文化人類学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	
		文化人類学特講10	2･3･4後		2		○								兼1	
		文化人類学特講11	2･3･4前		2		○								兼1	
		文化人類学特講12	2･3･4後		2		○								兼1	
		人文地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
		人文地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		自然地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
		自然地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		地誌学1	2･3･4前		2		○								兼1	
		地誌学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		マス･コミュニケーション論	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会学	2･3･4通		4		○								兼1	
		家族社会学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		職業社会学2	2･3･4前		2		○								兼1	
		キャリア形成の社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		社会学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
		社会学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
		交流分析概論	2･3･4前		2		○								兼1	
		人格発達心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
		人格心理学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		人格心理学特講4	3･4後		2		○								兼1	
		人格臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○								兼1	
		人格臨床心理学特講4	3･4後		2		○								兼1	
		比較文化宗教学1	2･3･4後		2		○								兼1	
		比較文化宗教学2	2･3･4後		2		○								兼1	
		比較文化学特講	2･3･4通		4		○								兼1	
		比較文化学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
		比較文化学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　国際交流学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	比較文化学2	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会調査の技法1	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会調査の技法2	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会統計学	2･3･4後		2		○								兼1	
		質的調査法1	2･3･4前		2		○								兼1	
		質的調査法2	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(57科目)	ー	0	118	0	ー			0	0	0	0	0	兼34	ー
	他学科開講科目（心理学）	心理学史	2･3･4後		2		○								兼1	
		認知心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
		認知心理学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		認知心理学特講6	3･4前		2		○								兼1	
		認知心理学特講7	3･4後		2		○								兼1	
		認知心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
		発達心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	
		発達心理学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
		発達心理学特講6	3･4前		2		○								兼1	
		発達心理学特講7	3･4前		2		○								兼1	隔年
		発達心理学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	
		臨床心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○								兼1	
		臨床心理学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
		臨床心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
		臨床心理学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
		臨床心理学特講6	2･3･4後		2		○								兼1	
		臨床心理学特講7	2･3･4前		2		○								兼1	
		臨床心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
		発達心理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
		発達心理学2	2･3･4前		2		○								兼2	
		小計(21科目)	ー	0	42	0	ー			0	0	0	0	0	兼18	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野 基礎課程科目	基礎課程演習	1前		2			○		1	2	0			兼24	
		アジア史入門	1前		2		○			1	1					
		人間関係入門	1前		2		○								兼7	
		国際交流入門	1前		2		○								兼9	
		心理学入門	1前		2		○								兼7	
		英語の世界	1前		2		○								兼10	
		小計(6科目)	ー	0	12	0	ー			2	2	0	0	0	兼43	ー
	総合現代教養科目	3･4年英語	3･4通		2		○								兼1	
		運動学1	2･3･4前		1		○								兼1	
		運動学2	2･3･4後		1		○								兼1	
		運動学3	2･3･4後		1		○								兼1	
		憲法1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		憲法3	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		女性とキャリア形成	2･3･4前		2		○								兼1	
		国際平和と開発援助	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		地球化時代のNGO	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		人間の安全保障	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		中国古典への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		中国思想への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		現代社会と環境	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代の脳科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学史1	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		科学史2	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		社会福祉論	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
		児童福祉論	1･2･3･4前		2		○								兼1	隔年
		ビートルズの詩と音楽	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		情報活用演習	1･2･3･4前後		2			○							兼6	
		情報ネットワーク演習	2･3･4前		2			○							兼1	集中
		日本の伝統文化	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アラビア語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
		金融のしくみ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		聖心スピリットと共生	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康な生活と健康科学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報産業論	1･2･3･4前		2		○								兼3	
		ポップカルチャー	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		キャリアデザイン入門	2･3前		2		○								兼2	
		チェコ語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
		災害と人間	1･2･3･4前		2		○								兼9	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		現代を考える	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学2－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学3－1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－3	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ボランティア研究概論1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究概論2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習1	3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習2	3･4後		2		○								兼1	
			小計(44科目)	―	0	89	0	―			0	0	0	0	0	兼52	
		他学科開講科目（日本語日本文学）	日本文学史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅴ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅵ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅵ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅶ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅷ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学講読Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅰ	3･4前		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅱ	3･4後		2		○								兼1	
			文芸創作入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			書道Ⅰ	2･3･4前		2				○						兼1	
			書道Ⅱ	2･3･4後		2				○						兼1	
			中国文学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			中国文学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(36科目)	―	0	74	0	―			0	0	0	0	0	兼19	
		他学科開講科目（哲学）	哲学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅳ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－1	2･3･4前		2			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－2	2･3･4後		2			○							兼1	
			哲学史演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			日本思想史学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			美学･芸術学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			社会思想史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会思想史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	哲学・倫理学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅴ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅵ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅷ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅸ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋近代哲学史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		新約聖書学	2・3・4通		4		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教音楽	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教美術	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅳ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ラテン語Ⅰ	2･3･通		4		○								兼1	
		小計(64科目)	ー	0	168	0	ー			0	0	0	0	0	兼25	ー
	他学科開講科目（教育学）	教育学概論	2通		4		○								兼1	
		教育哲学2	2･3前		2		○								兼1	
		西洋教育史2	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史1	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史2	2･3後		2		○								兼1	
		西洋教育運動史	2･3後		2		○								兼1	
		教育原理	2･3前		2		○								兼1	
		教育行政学2	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論1	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論2	2･3後		2		○								兼1	隔年
		比較教育学	3･4通		4		○								兼1	
		比較教育学特講	3･4後		2		○								兼1	
		生涯学習概論	3･4前		2		○								兼1	
		教育経営	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育心理学	2･3前		2		○								兼1	
		教育課程方法論	2･3後		2		○								兼1	
		教育方法	2･3後		2		○								兼1	
		教育課程論	2･3前		2		○								兼1	
		人間学習原論	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習3	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習4	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習5	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習6	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習7	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習8	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習10	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習11	3･4前		2		○								兼1	集中
		教育メディア論	2･3前		2		○								兼1	
		教育情報学	2･3前		2		○								兼1	
		教育工学	3･4前		2		○								兼1	
		メディア教材開発	2･3後		2		○								兼1	
		教育学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		教育学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		教育相談	2･3前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	道徳教育の研究	2･3後		2		○								兼1	
		特別活動	2･3後		2		○								兼1	
		生徒指導[含進路指導]	2･3後		2		○								兼1	
		教育学入門	1･2前		2		○								兼10	
		障害者教育･福祉概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		幼児教育原論	2･3前		2		○								兼1	
		視聴覚教育1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		視聴覚教育2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育調査	3･4前		2		○								兼1	集中
		小計(69科目)	―	0	138	0	―			0	0	0	0	0	兼38	―
	他学科開講科目（英語英文学）	英文学史概説1	1･2前		2		○								兼1	
		英文学史概説2	1･2後		2		○								兼1	
		英作文1	3前		2		○								兼6	
		英作文2	3後		2		○								兼6	
		英語学概論	1･2通		4		○								兼1	
		英語学特講3－1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語学特講3－2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講1	3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講2	3･4通		4		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講8－2	3･4後		2		○								兼1	
		英語史	2･3･4通		4		○								兼1	
		米文学史概説1	2･3･4前		2		○								兼1	
		米文学史概説2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション入門1	1･2前		2		○								兼1	
		英文法	2･3前		2		○								兼1	
		英会話	3･4通		4		○								兼1	
		オラルコミュニケーション	2･3･4通		4		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[児童文学]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]1	2前		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]2	2後		2		○								兼1	
		異文化理解	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(25科目)	―	0	60	0	―			0	0	0	0	0	兼18	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	博物館関連科目	博物館概論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館学各論1	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館学各論2	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館情報･メディア論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館教育論	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(5科目)	ー	0	14	0	ー			0	0	0	0	0	兼5	ー
	日本語関連科目	2年日本語2	2･3･4後		2		○								兼2	
		上級日本語1－1	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		上級日本語1－2	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		日本事情1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本事情2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(5科目)	ー	0	8	0	ー			0	0	0	0	0	兼2	ー
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ	キリスト教学Ⅰ－1	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－2	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－4	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－5	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－6	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－8	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－9	1･2通		4		○								兼1	
		小計(9科目)	ー	0	36	0	ー			0	0	0	0	0	兼9	ー
	キリスト教学Ⅱ	キリスト教学Ⅱ－1	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－3	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－6	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－8	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－9	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－10	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－11	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－14	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－16	3･4通		4		○								兼1	
		小計(11科目)	ー	0	44	0	ー			0	0	0	0	0	兼11	ー
	第一外国語	1年英語	1通	4			○								兼20	
		2年英語2(リーディング)	2通	2			○								兼12	
		2年英語2(オラル)	2通	2			○								兼17	
		小計(3科目)	ー	8	0	0	ー			0	0	0	0	0	兼33	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学必修分野	第二外国語	1年フランス語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年フランス語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年フランス語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年フランス語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年ドイツ語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年ドイツ語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(講読)	2通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年スペイン語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年スペイン語(オラル)	1通		2		○								兼1	
		2年スペイン語	2通		2		○								兼2	
		1年中国語(文法)	1通		4		○								兼6	
		1年中国語(オラル)	1通		2		○								兼5	
		2年中国語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年中国語(会話)	2通		2		○								兼3	
		1年コリア語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年コリア語(オラル)	1通		2		○								兼3	
		2年コリア語	2通		2		○								兼4	
		1年日本語1	1前		3		○								兼4	
		1年日本語2	1後		3		○								兼4	
		2年日本語1	2前		2		○								兼2	
		小計(21科目)	ー	0	54	0	ー			0	0	0	0	0	兼43	ー
	体育運動学	体育運動学	1通	2					○						兼11	
		小計(1科目)	ー	2	0	0	ー			0	0	0	0	0	兼11	ー
資格関係分野	教職専門科目	教職入門	2･3前			2	○								兼1	
		社会科教育法1	2･3後			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法2	3後			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法2	3後			2	○								兼1	
		教育実習指導1(中学・高校)	3後			1		○							兼1	
		教育実習指導4(中学・高校)	4後			1		○							兼1	
		教育実習1	4通			2			○						兼1	
		教育実習2	4通			2			○						兼1	
		教職実践演習(中学・高校)	4後			2		○							兼1	
		小計(11科目)	ー	0	0	24	ー			0	0	0	0	0	兼6	ー
	博物館実習	博物館実習	4前後			3			○						兼2	
		小計(1科目)	ー	0	0	3	ー			0	0	0	0	0	兼2	ー

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 相 談 ）

（文学部　国際交流学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計（ 533 科目）		－	30	1293	27	－			6	3	2	0	0	兼327	－

学位又は称号	学士（国際交流）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下①～③の要件を満たし、132単位以上修得すること。 ①全学必修分野について 必修科目10単位、選択科目から16単位修得し、合計26単位以上修得すること。 ②専攻課程分野について 専攻分野の必修科目から必修科目12単位、基礎言語コミュニケーションの選択科目から8単位以上、演習Ⅰの選択科目から4単位以上、演習Ⅱの選択科目から4単位以上修得し、領域科目と合わせて60単位以上修得すること。 また、関連分野の選択科目から26単位以上修得し、専攻分野とあわせて合計98単位以上修得すること。 ③卒業論文8単位を修得すること。 履修科目の登録の上限：（年間）1年次42単位、2～3年次48単位、4年次42単位（卒業論文を除く）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	心理学	必修科目	心理学実験演習1	2前	4					○		1	1			兼1	
			心理統計法Ⅰ	2前	2			○								兼1	
			心理学概論	2通	4			○			4	1	2				
			基礎情報処理技法	2前	2					○						兼1	
			3年心理学演習	3通	4				○		4	1	2				
			小計(5科目)	ー	16	0	0	ー			4	1	2	0	0	兼3	ー
		4年演習	実験心理学演習	4通		4			○		1	1					
			発達心理学演習	4通		4			○		1		1				
			発達臨床心理学演習	4通		4			○		2		1				
			小計(3科目)	ー	0	12	0	ー			4	1	2	0	0	0	ー
		自由選択科目	計量心理学特講1	3･4前		2		○								兼1	
			計量心理学特講2	3･4前		2		○								兼1	
			計量心理学特講3	3･4前		2		○								兼1	
			心理学研究法1	3･4前		2				○		1					
			心理学研究法2	3･4前		2				○						兼1	
			心理統計法Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
			心理学史	2･3･4後		2		○			1						
			心理学実験演習2	3･4前		2				○	1						
			心理学実験演習3	2後		2				○			2				
			心理学演習1	3･4後		2			○		1						
			心理学演習2	2後		2			○		1						
			認知心理学特講1	2･3･4後		2		○				1					
			認知心理学特講2	3･4前		2		○								兼1	隔年
			認知心理学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
			認知心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			認知心理学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			認知心理学特講6	3･4前		2		○			1						
			認知心理学特講7	3･4後		2		○			1						
			認知心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
			発達心理学特講6	3･4前		2		○					1				
			発達心理学特講7	3･4前		2		○			1						隔年
			発達心理学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	
			臨床心理学特講1	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
			臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○			1						
			臨床心理学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
			臨床心理学特講4	2･3･4前		2		○					1				
			臨床心理学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
			臨床心理学特講6	2･3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	臨床心理学特講7	2･3･4前		2		○			1						
	臨床心理学特講8	2･3･4後		2		○								兼1	
	発達心理学1	2･3･4前		2		○			1						
	発達心理学2	2･3･4前		2		○					1			兼1	
	小計(34科目)	ー	0	68	0	ー			4	1	2	0	0	兼18	ー
卒論文	卒業論文	4通	8				○		4	1	2				
	小計(1科目)	ー	8	0	0	ー			4	1	2	0	0	0	ー

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本史史料論	2通		4		○								兼1	
			古文献入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際関係史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際関係史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			世界音楽地誌	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅰ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅰ－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－1	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			外国史概説Ⅱ－3	2･3･4後		2		○								兼1	
			資料整理実習	3･4前		2		○								兼1	
			史料講読Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			史料講読Ⅱ	3･4通		4		○								兼1	
			日本考古学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本民俗学	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本古代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文化史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			中国古代文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			中国近代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			朝鮮現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			東南アジア史	2･3･4通		4		○								兼1	
			南アジア現代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア近代史	2･3･4通		4		○								兼1	
			西アジア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
			イスラム社会史入門	2･3･4後		2		○								兼1	
			古代オリエント史	2･3･4通		4		○								兼1	
			古代ローマ史	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ヨーロッパ現代史Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通		4		○								兼1	
		ロシア文化史	2･3･4通		4		○								兼1	
		アメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
		ラテンアメリカ史	2･3･4通		4		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅱ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅱ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅲ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅲ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅳ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅳ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅴ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅴ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅵ－1	2前		2		○								兼1	
		世界史文献講読Ⅵ－2	2後		2		○								兼1	
		世界史演習Ⅱ－1	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－2	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－3	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－4	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅱ－5	3通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－1	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－2	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－3	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－4	4通		4			○							兼1	
		世界史演習Ⅲ－5	4通		4			○							兼1	
		小計(65科目)	ー	0	212	0	ー			0	0	0	0	0	兼35	
	他学科開講科目（人間関係）	対人社会心理学1	2前		2		○								兼1	
		マスコミ社会心理学1	2後		2		○								兼1	
		人格心理学1	2前		2		○								兼1	
		家族社会学1	2後		2		○								兼1	
		職業社会学1	2後		2		○								兼1	
		文化人類学1	2後		2		○								兼1	
		社会調査入門	2前		2		○								兼7	
		比較文化学1	2前		2		○								兼1	
		社会心理学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
		社会心理学特講2	3･4前		2		○								兼1	
		社会心理学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		社会心理学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		社会心理学特講9	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会心理学特講11	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会心理学特講14	3･4前		2		○								兼1	
			社会心理学特講15	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講6	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講10	2･3･4後		2		○								兼1	
			文化人類学特講11	2･3･4前		2		○								兼1	
			文化人類学特講12	2･3･4後		2		○								兼1	
			人文地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			人文地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			自然地理学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			自然地理学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			地誌学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			地誌学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			マス･コミュニケーション論	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会学	2･3･4通		4		○								兼1	
			家族社会学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			職業社会学2	2･3･4前		2		○								兼1	
			キャリア形成の社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			社会学特講3	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			交流分析概論	2･3･4前		2		○								兼1	
			人格発達心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
			人格心理学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			人格心理学特講4	3･4後		2		○								兼1	
			人格臨床心理学特講2	2･3･4後		2		○								兼1	
			人格臨床心理学特講4	3･4後		2		○								兼1	
			比較文化宗教学1	2･3･4後		2		○								兼1	
			比較文化宗教学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			比較文化学特講	2･3･4通		4		○								兼1	
			比較文化学特講1	2･3･4前		2		○								兼1	
			比較文化学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
			比較文化学特講3	2･3･4前		2		○								兼1	
			比較文化学特講4	2･3･4前		2		○								兼1	
			比較文化学特講5	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		比較文化学2	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会調査の技法1	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会調査の技法2	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会統計学	2･3･4後		2		○								兼1	
			質的調査法1	2･3･4前		2		○								兼1	
			質的調査法2	2･3･4前		2		○								兼1	
			小計(57科目)	ー	0	118	0	ー			0	0	0	0	0	兼34	ー
		他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			フランス語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			フランス語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			スペイン語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			中国語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅠ(1)	2前		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅠ(2)	2後		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅡ(1)	3前		2		○								兼1	
			コリア語コミュニケーションⅡ(2)	3後		2		○								兼1	
			法律学[含国際法]	1･2･3･4通		4		○								兼1	
			現代家族法	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際法1	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際法2	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			取引関係法	2･3･4通		4		○								兼1	
			政治学概論[含国際政治]1	2･3･4通		4		○								兼1	
			政治学概論[含国際政治]2	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際交流特殊講義	2･3･4前		2		○								兼1	
			現代国際政治Ⅰ	2･3･4通		4		○								兼1	
			現代国際政治Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
			行政学	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際連合論	2･3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		アメリカ外交論	2･3･4通		4		○								兼1	
			経済学概論[含国際経済]	2･3･4通		4		○								兼1	
			経済理論入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際経済学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			国際経済学2	2･3･4後		2		○								兼1	
			開発経済学	2･3･4通		4		○								兼1	
			情報処理入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			プログラム入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			コンピュータサイエンス	2･3･4通		4		○								兼1	
			応用情報処理	2･3･4通		4		○								兼1	
			国際コミュニケーション論	2･3･4通		4		○								兼1	
			異文化間コミュニケーション(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			異文化間コミュニケーション(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			国際交流実習1	2･3･4前		2				○						兼8	
			フランスの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			フランスの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			ドイツの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			ドイツの社会と文化(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			ドイツ事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			ドイツ事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			フランス事情(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			フランス事情(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			中国事情(1)	2･3･4後		2		○								兼1	
			Contemporary American Culture(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			Contemporary American Culture(2)	2･3･4後		2		○								兼1	
			日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前		2		○								兼1	
			アジア文化論	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(60科目)	―	0	152	0	―			0	0	0	0	0	兼39	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野 基礎課程科目	基礎課程演習	1前		2			○		1	2	0			兼24	
		アジア史入門	1前		2		○			1	1					
		人間関係入門	1前		2		○								兼7	
		国際交流入門	1前		2		○								兼9	
		心理学入門	1前		2		○								兼7	
		英語の世界	1前		2		○								兼10	
		小計(6科目)	ー	0	12	0	ー			2	2	0	0	0	兼43	ー
	総合現代教養科目	3･4年英語	3･4通		2		○								兼1	
		運動学1	2･3･4前		1		○								兼1	
		運動学2	2･3･4後		1		○								兼1	
		運動学3	2･3･4後		1		○								兼1	
		憲法1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		憲法3	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		女性とキャリア形成	2･3･4前		2		○								兼1	
		国際平和と開発援助	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		地球化時代のNGO	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		人間の安全保障	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		中国古典への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		中国思想への招待	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		現代社会と環境	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		現代の脳科学	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		科学史1	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		科学史2	1･2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		社会福祉論	2･3･4前		2		○								兼1	隔年
		児童福祉論	1･2･3･4前		2		○								兼1	隔年
		ビートルズの詩と音楽	1･2･3･4前後		2		○								兼1	
		情報活用演習	1･2･3･4前後		2			○							兼6	
		情報ネットワーク演習	2･3･4前		2			○							兼1	集中
		日本の伝統文化	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		アラビア語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
		金融のしくみ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		聖心スピリットと共生	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康な生活と健康科学	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		情報産業論	1･2･3･4前		2		○								兼3	
		ポップカルチャー	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		キャリアデザイン入門	2･3前		2		○								兼2	
		チェコ語の世界	1･2･3･4通		4		○								兼1	
		災害と人間	1･2･3･4前		2		○								兼9	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		現代を考える	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学2－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学3－1	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－1	1･2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ジェンダー学5－2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－2	2･3･4前		2		○								兼1	
			ジェンダー学6－3	2･3･4前		2		○								兼1	集中
			ボランティア研究概論1	2･3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究概論2	2･3･4後		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習1	3･4前		2		○								兼1	
			ボランティア研究演習2	3･4後		2		○								兼1	
			小計(44科目)	―	0	89	0	―			0	0	0	0	0	兼52	
		他学科開講科目（日本語日本文学）	日本文学史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅴ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本文学史Ⅵ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語史概説Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅴ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅵ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅶ	2･3･4前		2		○								兼1	
			古典文学研究Ⅷ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			近代文学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅰ	2･3･4後		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			日本語学研究Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			古典文学講読Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			言語学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅰ	3･4前		2		○								兼1	
			対照言語学Ⅱ	3･4後		2		○								兼1	
			文芸創作入門	2･3･4通		4		○								兼1	
			書道Ⅰ	2･3･4前		2				○						兼1	
			書道Ⅱ	2･3･4後		2				○						兼1	
			中国文学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			中国文学概論Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			小計(36科目)	―	0	74	0	―			0	0	0	0	0	兼19	
		他学科開講科目（哲学）	哲学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅳ	2･3･4通		4			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－1	2･3･4前		2			○							兼1	
			哲学演習Ⅶ－2	2･3･4後		2			○							兼1	
			哲学史演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			倫理学演習Ⅲ	2･3･4通		4			○							兼1	
			日本思想史学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			美学･芸術学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅰ	2･3･4通		4			○							兼1	
			キリスト教学演習Ⅱ	2･3･4通		4			○							兼1	
			社会思想史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			社会思想史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅲ	2･3･4前		2		○								兼1	
			倫理学概論Ⅳ	2･3･4後		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
			哲学･倫理学特講Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	哲学・倫理学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅴ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅵ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅶ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅷ	2・3・4後		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅸ	2・3・4前		2		○								兼1	
		哲学・倫理学特講Ⅹ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋近代哲学史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		日本倫理思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		宗教思想史Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学概論Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅲ	2・3・4前		2		○								兼1	
		美学・芸術学特講Ⅳ	2・3・4後		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		東洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		西洋美術史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学概論Ⅱ	2・3・4前		2		○								兼1	
		新約聖書学	2・3・4通		4		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		旧約聖書学Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教音楽	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教美術	2・3・4通		4		○								兼1	隔年
		キリスト教思想史Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	
		キリスト教学特講Ⅳ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅰ	2・3・4通		4		○								兼1	
		ギリシア語Ⅱ	2・3・4通		4		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	ラテン語Ⅰ	2･3･通		4		○								兼1	
		小計(64科目)	ー	0	168	0	ー			0	0	0	0	0	兼25	ー
	他学科開講科目（教育学）	教育学概論	2通		4		○								兼1	
		教育哲学2	2･3前		2		○								兼1	
		西洋教育史2	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史1	2･3前		2		○								兼1	
		日本教育史2	2･3後		2		○								兼1	
		西洋教育運動史	2･3後		2		○								兼1	
		教育原理	2･3前		2		○								兼1	
		教育行政学2	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論1	2･3後		2		○								兼1	
		教育社会学概論2	2･3後		2		○								兼1	隔年
		比較教育学	3･4通		4		○								兼1	
		比較教育学特講	3･4後		2		○								兼1	
		生涯学習概論	3･4前		2		○								兼1	
		教育経営	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育心理学	2･3前		2		○								兼1	
		教育課程方法論	2･3後		2		○								兼1	
		教育方法	2･3後		2		○								兼1	
		教育課程論	2･3前		2		○								兼1	
		人間学習原論	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習3	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習4	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習5	3･4後		2		○								兼1	
		人間学習6	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習7	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習8	3･4前		2		○								兼1	
		人間学習10	3･4前		2		○								兼1	集中
		人間学習11	3･4前		2		○								兼1	集中
		教育メディア論	2･3前		2		○								兼1	
		教育情報学	2･3前		2		○								兼1	
		教育工学	3･4前		2		○								兼1	
		メディア教材開発	2･3後		2		○								兼1	
		教育学特講2	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育学特講5	2･3･4後		2		○								兼1	
		教育学特講7	2･3･4後		2		○								兼1	隔年
		教育学特講8	2･3･4前		2		○								兼1	集中
		教育相談	2･3前		2		○								兼1	

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻課程分野	関連分野	道徳教育の研究	2･3後		2		○								兼1	
		特別活動	2･3後		2		○								兼1	
		生徒指導[含進路指導]	2･3後		2		○								兼1	
		教育学入門	1･2前		2		○								兼10	
		障害者教育･福祉概論	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		幼児教育原論	2･3前		2		○								兼1	
		視聴覚教育1	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		視聴覚教育2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		健康社会学	2･3･4前		2		○								兼1	
		教育調査	3･4前		2		○								兼1	集中
		小計(69科目)	―	0	138	0	―			0	0	0	0	0	兼38	―
	他学科開講科目（英語英文学）	英文学史概説1	1･2前		2		○								兼1	
		英文学史概説2	1･2後		2		○								兼1	
		英作文1	3前		2		○								兼6	
		英作文2	3後		2		○								兼6	
		英語学概論	1･2通		4		○								兼1	
		英語学特講3－1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語学特講3－2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講1	3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講2	3･4通		4		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション特講8－2	3･4後		2		○								兼1	
		英語史	2･3･4通		4		○								兼1	
		米文学史概説1	2･3･4前		2		○								兼1	
		米文学史概説2	2･3･4後		2		○								兼1	
		メディア･コミュニケーション入門1	1･2前		2		○								兼1	
		英文法	2･3前		2		○								兼1	
		英会話	3･4通		4		○								兼1	
		オラルコミュニケーション	2･3･4通		4		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[英語と聖書]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]1	2･3･4前		2		○								兼1	
		英語文化論[翻訳実践]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[児童文学]2	2･3･4後		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]1	2前		2		○								兼1	
		英語文化論[文学と電子メディア]2	2後		2		○								兼1	
		異文化理解	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(25科目)	―	0	60	0	―			0	0	0	0	0	兼18	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	博物館関連科目	博物館概論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館学各論1	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館学各論2	2･3･4通		4		○								兼1	
		博物館情報･メディア論	2･3･4前		2		○								兼1	
		博物館教育論	2･3･4前		2		○								兼1	
		小計(5科目)	―	0	14	0	―			0	0	0	0	0	兼5	―
	日本語関連科目	2年日本語2	2･3･4後		2		○								兼2	
		上級日本語1－1	1･2･3･4前		1		○								兼1	
		上級日本語1－2	1･2･3･4後		1		○								兼1	
		日本事情1	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		日本事情2	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計(5科目)	―	0	8	0	―			0	0	0	0	0	兼2	―
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ	キリスト教学Ⅰ－1	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－2	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－4	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－5	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－6	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－8	1･2通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅰ－9	1･2通		4		○								兼1	
		小計(9科目)	―	0	36	0	―			0	0	0	0	0	兼9	―
	キリスト教学Ⅱ	キリスト教学Ⅱ－1	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－3	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－6	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－8	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－9	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－10	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－11	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－14	3･4通		4		○								兼1	
		キリスト教学Ⅱ－16	3･4通		4		○								兼1	
		小計(11科目)	―	0	44	0	―			0	0	0	0	0	兼11	―
	第一外国語	1年英語	1通	4			○								兼20	
		2年英語2(リーディング)	2通	2			○								兼12	
		2年英語2(オラル)	2通	2			○								兼17	
		小計(3科目)	―	8	0	0	―			0	0	0	0	0	兼33	―

教育課程等の概要（事前相談）

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学必修分野	第二外国語	1年フランス語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年フランス語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年フランス語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年フランス語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年ドイツ語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年ドイツ語(オラル)	1通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(講読)	2通		2		○								兼2	
		2年ドイツ語(会話)	2通		2		○								兼1	
		1年スペイン語(文法)	1通		4		○								兼3	
		1年スペイン語(オラル)	1通		2		○								兼1	
		2年スペイン語	2通		2		○								兼2	
		1年中国語(文法)	1通		4		○								兼6	
		1年中国語(オラル)	1通		2		○								兼5	
		2年中国語(講読)	2通		2		○								兼3	
		2年中国語(会話)	2通		2		○								兼3	
		1年コリア語(文法)	1通		4		○								兼4	
		1年コリア語(オラル)	1通		2		○								兼3	
		2年コリア語	2通		2		○								兼4	
		1年日本語1	1前		3		○								兼4	
		1年日本語2	1後		3		○								兼4	
		2年日本語1	2前		2		○								兼2	
		小計(21科目)	ー	0	54	0	ー			0	0	0	0	0	兼43	ー
	体育運動学	体育運動学	1通	2					○						兼11	
		小計(1科目)	ー	2	0	0	ー			0	0	0	0	0	兼11	ー
資格関係分野	教職専門科目	教職入門	2･3前			2	○								兼1	
		社会科教育法1	2･3後			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・地理歴史科教育法2	3後			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法1	3前			2	○								兼1	
		社会・公民科教育法2	3後			2	○								兼1	
		教育実習指導1(中学・高校)	3後			1		○							兼1	
		教育実習指導4(中学・高校)	4後			1		○							兼1	
		教育実習1	4通			2			○						兼1	
		教育実習2	4通			2			○						兼1	
		教職実践演習(中学・高校)	4後			2		○							兼1	
		小計(11科目)	ー	0	0	24	ー			0	0	0	0	0	兼6	ー
	博物館実習	博物館実習	4前後			3			○						兼2	
		小計(1科目)	ー	0	0	3	ー			0	0	0	0	0	兼2	ー

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 相 談 ）

（文学部　心理学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計（ 513 科目）		－	34	1191	27	－			4	1	2			兼339	－

学位又は称号	学士（心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下①～③の要件を満たし、132単位以上修得すること。 ①全学必修分野について 必修科目10単位、選択科目から16単位修得し、合計26単位以上修得すること。 ②専攻課程分野について 専攻分野の必修科目から必修科目16単位、４年演習の選択科目から4単位以上修得し、自由選択科目と合わせｔ60単位以上修得すること。 また、関連分野の選択科目から26単位以上修得し、専攻分野とあわせて合計98単位以上修得すること。 ③卒業論文8単位を修得すること。 履修科目の登録の上限：（年間）1年次42単位、2～3年次48単位、4年次42単位（卒業論文を除く）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	日本史史料論	日本史史料論	高校までの日本史と大学の日本史と、一番の違いは「なまの」歴史資料を扱うか否か、です。日本史という学問は、歴史資料を合理的に解釈し、それを積み重ねることによって実証的に構築していかねばなりません。この授業はとくに興味深い歴史資料を読み解きながら、歴史資料と歴史像とを包括的に理解しようとするものです。 なお、扱う時代は、平安時代中期から戦国時代くらいまでを考えています。	
		日本史演習Ⅰ	日本史演習Ⅰ	奈良・平安時代の伝記史料の読解（佐々木恵介）、中世（概ね11世紀～16世紀末）における史料の読解と調べ方（石原比伊呂）、江戸時代の政治・史料（深井雅海）、史学概論・明治期の史料・史料講読（佐々木隆）	共同
		日本史演習Ⅱ	日本史演習Ⅱ－１	前期は『続日本紀』をテキストとして、一定のテーマに沿って記事を読解し、日本古代の漢文史料に慣れ親しみ、さまざまな歴史的事項の調査方法を身につけることを目指す。後期は参加者の間で相談してテキストを決め、各自の研究テーマを探っていく。	
			日本史演習Ⅱ－２	中世の史料は、３種類①貴族の日記（記録）、②差出人が相手方に意思、用件を伝えるために書いたもの（文書）、③編纂物、に大別されるが、そのうち①③を主な素材に、参加者の中から順番で担当者を決め、その報告をもとに、史料読解の基礎技術、Ａ．読み方（返り点の打ち方）　Ｂ．現代語訳　Ｃ．関連史料の収集、を身につけていく。	
			日本史演習Ⅱ－３	近世の基本的な史料を読み、史料の読解力を養うとともに、近世の政治・社会についての理解を深め、研究方法を修得する。	
			日本史演習Ⅱ－４	明治時代の基本的な史料を読み、近代史料読解力を養成するとともに、日本近代史についての知識と理解を深めることを目的とする。政治家の書簡を教材に、史料批判など分析方法や歴史的なものの見方を身につける。	
		日本史演習Ⅲ	日本史演習Ⅲ－１	日本古代の史料・論文を講読し、あわせて卒業論文の指導を行う。	
			日本史演習Ⅲ－２	前期は、卒論制作に向けて、「史料を集めて、その分析をもとに歴史像を復元する」ためのトレーニングを行います。 後期は、卒論制作の指導と中間報告が中心となります。	
			日本史演習Ⅲ－３	近世史に関する史料や論文を読み、あわせて卒業論文の指導を行う。	
			日本史演習Ⅲ－４	大正・昭和戦前期の基本的な史料を読み、日本近代史に関する知識と理解を一層深めるとともに、卒業論文の指導を行う。	
		世界史文献講読Ⅰ	世界史文献講読Ⅰ－１	担当教員が半期ずつ、東洋史および西洋史それぞれの分野の易しい英語文献を選び、全員で訳読を進めてゆく。 （詳細な授業の進め方は、各教員が受講者と相談して決める）	共同
			世界史文献講読Ⅰ－２	担当教員が半期ずつ、東洋史および西洋史それぞれの分野の易しい英語文献を選び、全員で訳読を進めてゆく。 （詳細な授業の進め方は、各教員が受講者と相談して決める）	共同
		世界史演習Ⅰ	世界史演習Ⅰ－１	世界史コース2年生向けの演習。3クラスに分かれ、担当教員の指導の下に、日本語文献をもとに討論を行います。文献の内容を紹介する報告者をあらかじめ決めたうえで、各学生が該当箇所を読んでおき、報告者の発表をもとに議論します。こうした作業によって歴史学的なものの見方を身につけるとともに、読解や口頭発表の力を高めることをめざします。	共同
			世界史演習Ⅰ－２	世界史コース2年生向けの演習。3クラスに分かれ、担当教員の指導の下に、日本語文献をもとに討論を行います。文献の内容を紹介する報告者をあらかじめ決めたうえで、各学生が該当箇所を読んでおき、報告者の発表をもとに議論します。こうした作業によって歴史学的なものの見方を身につけるとともに、読解や口頭発表の力を高めることをめざします。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	世界史演習Ⅱ	世界史演習Ⅱ－１	中国近現代史に関する英語の研究文献と東アジア近代史に関する日本語の研究文献を読む。また自由テーマの研究発表を行い、研究方法を実践的に学ぶ。	
			世界史演習Ⅱ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅱ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。レポートの中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅱ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅱ－５	研究論文についての口頭発表と質疑を行う。このほか、後期には、卒業論文執筆の準備として、出席者がそれぞれの研究テーマに基づく口頭発表を行うこととする。	
			世界史演習Ⅱ－６	前期は、参考文献を読み進めると同時に、そこからトピックを（受講生の興味・関心に即して）いくつか選び、それについての論文を検索・入手・精読する。後期は、各自が選んだテーマについて、研究発表をする。	
		世界史演習Ⅲ	世界史演習Ⅲ－１	卒業論文テーマに関する発表とその相互批判を通じて卒業論文の内容充実を図る。また、東アジア史に関係する研究文献を読み、研究方法を学ぶ。	
			世界史演習Ⅲ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅲ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。卒業論文の中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅲ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野		世界史演習Ⅲ－５	卒業論文の構想発表と文献講読を組み合わせて授業を進める。	
			世界史演習Ⅲ－６	前期は、参考文献を読み進めると同時に、そこからトピックを（受講生の興味・関心に即して）いくつか選び、それについての論文を検索・入手・精読する。後期は、各自が選んだテーマ（卒業論文）について、研究発表をする。	
		史学共通	古文献入門	毎回テーマごとにパワーポイントの画像、配布資料を使用して講義する。その際に写真のみでなく和装本・複製本もできるだけ用いたい。ただし、一方的に講義するのではなく、学生にも一緒に考え意見を述べてもらう。また、前期には博物館で展示を見て原本を観察し、後期には修理工房に出かけて文献資料の修理を実際に見学する。	
			国際関係史Ⅰ	ヨーロッパの「西」と「東」の間にあって、ドイツ外交は常に慎重な舵取りを行わなければならなかった。ヨーロッパの秩序を作ることがドイツ（あるいはオーストリア・プロイセン）の利益になるという信念から、メッテルニヒ、ビスマルク、シュトレーゼマンといった外交の名手たちが登場した。そしてヨーロッパ秩序を破壊して戦争を導いたのもまたドイツであった。ヴィルヘルム2世とヒトラーの時代がそれである。 この授業では、ヨーロッパ国際秩序の形成と破壊という両面を担ったドイツ外交を、できる限り一国の外交史ではなく「ヨーロッパ」という地域の視点、そしてヨーロッパ統合の要素も含めて概観する。特に二つの世界大戦についてはドキュメント映像を鑑賞し、理解を深める材料としたい。	
			国際関係史Ⅱ	20世紀後半の国際関係を強く拘束した冷戦とは、実際にどのようなものであったのかについて、主に安全保障の観点から史的に概観する。冷戦期において世界はどのようにして戦争を防ごうとしてきたか、そしてどのようなときに戦争が起こされてきたのか、何をめぐって対立が起こるのか、協調関係がもたらされるのはいかなるときか、といった視点から冷戦史の諸問題に接近する。	
			世界音楽地誌	世界各地の音楽文化を視聴覚資料を多用しながら紹介し、音楽構造や特徴、さらにその背景となっている歴史、社会、文化について概説する。また、それぞれの音楽文化の歴史的変遷とその要因についても言及し、文化の流動性・可変性についての理解も促す。	
			日本史概説Ⅰ	映画・TVで流れている歴史の名場面には原作や史実と異なったり、考證に問題のあるものが少なくない。その実態を検証しつつ、名場面から人物の実像・時代の精神を読み取り、国史（日本の歴史）の常識を深める。併せて史料批判や時代考證の初歩を学ぶ。	
			日本史概説Ⅱ	私たちの国・日本の歴史を彩る数々の名文句。それは実証的な真偽を超えて、その時代の精神・雰囲気を伝え、人物の姿を活き活きと映し出す。それはある意味でその時代に生きた人々の自画像でもある。日本人として知っておきたい名文句・エピソードを軸に神話時代から戦後まで歴史と人間の機微を探る。併せてその信憑性も検証する。	
			外国史概説Ⅰ－１	13世紀末にアナトリア西部に生まれたオスマン朝は16世紀までに東地中海から東ヨーロッパにかけての広大な領域を支配するにいたります。授業では、なぜこれほど広大な領土を長期間統治することができたのかを様々な角度から考えます。	
			外国史概説Ⅰ－２	清朝末期から中華民国を経て現在の中華人民共和国にいたる中国近現代の歩みを、国内的には中国政治の歴史的特質、また国際的には日本、欧米諸国、ロシアなどとの関係に留意して検討したい。	
			外国史概説Ⅱ－１	ローマ教皇、修道院、騎士や商人など人々とキリスト教との関わり、などいくつかの大きなテーマを設定し、それぞれ２，３回ずつ議論してゆく予定です。 折にふれビジュアルな資料を提供して理解を助けられたらと思います。またリアクション・ペーパーを配布して自由な質問を受け付けます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野		外国史概説Ⅱ－２	現在、私たちにとって当然の前提となっている「歴史の進歩」、「法の支配」、「議会制民主主義」、「政治参加」、「市場社会」などの成立過程を概観することによって、「ヨーロッパ的原理」を再検討したいと思います。	
			外国史概説Ⅱ－３	５つのテーマ（絶対王政、フランス革命、帝国主義、ナチズム、冷戦と東西ドイツ統一）に焦点をあてて近現代の世界を概観する。まずそれぞれのテーマに関連した映画を鑑賞し、内容について解説したのち、映画で扱われている時代や事件、人物について講義でさらに詳しい説明を加え、多面的に理解を深めていく。	
		日本史系列	資料整理実習	大学が所蔵している江戸時代の古文書や近代資料を調査・整理する。出所原則や現状記録の重要性を踏まえて資料の仕分け・内容採録・目録作成を実践することで、古文書の原物に触れる大切さを経験してもらいたい。この実習で博物館・文書館などでも通用する基本的な調査・整理の方法を習得していく。	
			史料講読Ⅰ	日本史研究には、史料（古文書）の読解が必要である。当授業では、史料の中でも汎用性が高い近世のくずし字を講読する訓練を行う。併せて、近世史料読解の為に必要な基礎知識の習得と、工具書類の把握にもつとめる。なお、毎回の講義の冒頭で様々な古文書の原物を紹介・回覧するので、実物を手に取り目にすることで、古文書に対する真の理解を深める。	
			史料講読Ⅱ	古文書の読解を演習形式で行う。つまり、受講生に読んでもらったあと、教員が補正・訂正することをくり返す。	
			日本考古学	考古学は歴史学の一分野ですが、文字記録を扱う文献史学とは研究方法が異なり、多くの素材からなる遺物・遺構から歴史的情報を読み取るさまざまな方法があります。そこで、考古学が発達してきた歴史を振り返りながら、基本的な研究方法と各時代の資料構成・研究成果を整理します。なお、博物館において展示資料の見学も行います。	
			日本民俗学	前期　民俗学概論.後期　民俗芸能論 日本の生活文化を伝承形態を通して探る。前期は概論で方法論、および生業・社会・儀礼などの基礎的知識を講ずる。後期は祭礼・芸能の歴史を中心に具体的事例を通して分析する。	
			日本古代史Ⅰ	前期は、平城京前史からはじめて、平城京成立の意義、平城京・平城宮の構造、平城京住民の生活をみていく。後期は、長岡京について触れた後、平安京・平安宮の構造、平安京住民の生活をみていき、最後に平城京と平安京の比較を行う。	
			日本中世史Ⅰ	本講義では歴史学の中でも、特に日本中世史を取り扱う。日本の前近代社会（江戸時代までの時期）の特異な性格として、朝廷（公家政権）と幕府（武家政権）という、権力の二重構造がある。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての時代（＝中世）においては、朝廷・天皇権力が有名無実化しつつあるものの、厳然たる現実的影響力を保持しており、本来的に幕府と朝廷は互いに対立する存在であると思われてきた。しかし、近年の研究成果によれば、朝廷と幕府、天皇と将軍は互いが互いを補う相互依存の関係にあったことが明らかにされている。本講義では、将軍（幕府＝武家）が、なぜ天皇制を打倒しなかったのか、なぜ天皇という存在を必要としたのかについて、説明していきたいと考えている。	
			日本近世史Ⅰ	江戸城本丸御殿を、儀式・政治空間である「表」、将軍の執務・生活空間である「奥」、女性たちの生活空間である「大奥」に分け、それぞれの構造からみた江戸幕府の政治・制度のあり方について、主に中・後期の状況を中心に講義する。	
			日本近世史Ⅱ	歴史研究にとって最も必要な「史料」に焦点を当て、東北地方の大名文書から、幕府と藩の関係や藩の政治を研究する上で重要な意味をもつ文書・記録などをとりあげ、何が書かれてあるのかはもちろん、史料のもつ背景にまで踏みこんで解説し、近世の支配関係文書に関する基礎知識習得を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	日本史系列	日本近現代史Ⅰ	あなたは明治３３年(１９００)の世界に紛れ込んでしまった。そこはあなたにとって一つの異世界だ。服装・髪型・貨幣価値・交通事情・価値観の異なる明治の帝都・東京であなたは無事に生活できるか？はたまた生存できるか？あなたはS女子大学生・森沢春香(もりさわ・はるか)として生活アドベンチャーを展開する。講義は物語形式で進行、図版・写真・イラスト満載の紙上バーチャル・リアリティー。全国唯一の新感覚講義。	
			日本近現代史Ⅱ－１	明治維新後に新政府が選択した様々な政策は、現代にも影響を残し続けている。その内容を精査するが、理解を深めるために視聴覚資料（史料）を多数用いる。	
			日本近現代史Ⅱ－２	本講義は、戦前日本の統治構造を踏まえつつ、明治期から昭和戦前期にかけての議会政治を歴史的に辿る。政党勢力がいかにして実力を養い、国政の中枢に進出したのか、諸政治勢力が議会政治に何を期待し、議場の内外でいかなる相克が繰り広げられたかを複眼的に論じていく。	
			日本文化史Ⅰ	幕末の開国後、東洋の島国日本を訪れる欧米人が増加する。混乱や反感の時期を経て、積極的に迎え入れる動きが始まる。その取り組みの様子や、関わった人たちの思いやねらいなどを明らかにしていく。	
			日本文化史Ⅱ	江戸時代の文化の発展に大きな役割を果たした大名庭園の世界を探る。まず、徳川将軍家の庭園や大名庭園の形成過程とその特徴を検討する。続いて、古文書・絵巻・図面・古写真を使用しながら、将軍家と大名家・旗本・公家などとの交流の実態や園芸・植栽空間としての機能について明らかにしていく。	
		世界史系列	中国古代文化史	中国考古学の概説である。まず考古学の概要を説明し、中国考古学の歴史的な流れを把握する。そして各時代を通史的に概観することで、各時代の物質文化の様相を考古学の視点から見て行きたい。また、通史的トピックも扱う予定である。	
			中国近代史	王朝体制から共和制、そして社会主義国家へと近現代の中国は激動の歴史をたどった。本講義では、中国近代化の展開過程を概観し、伝統と外来がおりなす東西の対抗・融合の歴史を明らかにする。中華文化を代表する豆知識の紹介を行うほか、映像資料・新聞記事も適宜併用する。	
			朝鮮現代史	朝鮮現代史はおもに「三つの歴史」から成っています。大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、そして日本の中のコリアン（KOREAN）の戦後も。ひとつの民族が、どのような事情で分裂し、どのように絡み合いながら歴史を歩んできたのか、これが授業のテーマです。	
			東南アジア史	東南アジアの国々には、どんな巨大遺跡があるか。また古き美術があったか。それらの偉大性をスライドを用いて紹介していく。講義の主旨は、それらの遺跡に残された、美術が語る英知と、そこに見る物語を伝える。美術の歴史的な展開も語り、各国の美術に親しんでもらう。	
			南アジア現代史	講義形式をとります。前期においては、主として南アジアという地理的空間をどのように覚え、また、それを「わたしたちの位置」との関係的思考に発展させていくのかを探ります。後期に入ると、前期の準備をふまえ、講義はインド近現代史に焦点を絞ります。とくに独立を経て、今日に至る現代インドの成り立ちを学ぶことで、多元文化社会の歴史的仕組みを身近にすることになるでしょう。この授業は物知りになるための歴史を伝えるものではありません。受講者のみなさんが、この地球世界のメンバーとして、21世紀における共生という課題の重みをそれぞれに受けとめ直してみる、そのような機会につながることを願いながら組み立てるものです。	
			西アジア近代史	前期は、オスマン帝国の歴史を通じて重要な役割を果たした遊牧民に焦点を当て、帝国が彼らをどのように統合・利用しようとしたのか、また、近代への移行のなかで国家と遊牧民の関係がどのように変化したのかを考えます。後期は、オスマン帝国の都イスタンブルにおける犯罪と処罰を具体的事例に基きながら検討します。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	世界史系列	西アジア文化史	衣服は、人々の価値観や信念、思想を映し出す鏡の一つである。その時々のファッション（流行の装い）に目を向けるとき、我々は、それぞれの時代の人々が、どのような美意識を持ち、何を大切にしていたのか、その一端を知ることができる。本授業では、西アジアを事例に、これを実感することを目指す。具体的に行うのは、史料の種類やそれぞれの読み方を学ぶ「前近代の衣服と史料」、一つの時代を「洋装化」をキーワードに比較検討する「近代と洋装化」、衣服に関わる現代の様々な事象について考える「現代の服飾と伝統の創出」という、三つの作業である。	
			イスラム社会史入門	自然環境は人間の営みにどのような影響を与えてきたのだろうか。そしてそれを歴史的に解き明かすにはどのような方法がありうるのだろうか。本講義では、特異な性質をもつ大河ナイルが流れるエジプトの中世に焦点をあて、その歴史をナイルと人との関係を軸にしながら解説する。	
			古代オリエント史	ナイル川流域に成立した古代エジプト文明では、ローマ帝国のもとでキリスト教が広がりを見せるまで、約3000年に亘り、周辺文化と交流しつつ伝統的な多神教に根ざした文化が展開した。その過程を考察することで文明の本質を知り、これからの人間の生き方を探る。	
			古代ローマ史	紀元前753年に建国されたとされる、古代ローマ国家の1200年にわたる歴史について、まずはその大枠の理解を深めてもらう。その上で、現代の世界とは大きく異なる古代世界の社会について、さらには古代世界の文化について、図像資料や映像教材などを随時活用しながら、解説を加えていく。同時に、そうした社会・文化の中で生活した古代ローマ人の心性・メンタリティについて、様々なトピックを通じて受講生に考えてもらいながら、その思考をいまの自分を見つめ直す機会として活用してもらうつもりだ。受講生の興味・関心に応じ、扱う内容も随時見直していく予定である。	
			ヨーロッパ中世史Ⅰ	古代末期の文化を継承した初期中世文化の形成を経て、盛期中世におけるさまざまな局面における文化的開花、そして中世末期の成熟へと至る経過をたどります。 ここで言う「文化」とは学問や芸術というより、それらを含めた衣食住、技術、道徳、宗教など物心両面にわたる生活様式やその内容のことを指します。	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	講義形式で行われる。フィレンツェとローマはイタリア中世史を知る上で欠かせない都市である。この両都市が中世においてどのような変遷をたどるのか、またどのような接点があるのか、そして華々しいルネサンス文化がどのように生まれたのか、を明らかにする。	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	大航海時代は、現在のグローバルな世界が形成され始める世界史上でもっとも重要な時期のひとつと考えられています。この時代のイギリスには、後に世界の覇権を握る大帝国に成長することを予期させるものはありません。ヨーロッパ大陸の沖合にあって、さまざまな意味で生き残りをかけて闘っている一流半の国に過ぎませんでした。 この授業では、彼らの課題が何だったのか、そして彼らがどのようにその課題に立ち向かっていったのかを明らかにしたいと思います。 中心になるのは新大陸との交易で、それがどのようにして新しい「大西洋世界」を構築していったのか、本国および新大陸植民地にどのような影響を及ぼしたのか、を考えてみたいと思います。	
			ヨーロッパ近代史Ⅱ	ヨーロッパの多様性と共通性を学び、ヨーロッパ連合の現状を理解する。「地域」の歴史の重要性について「国家」の歴史からは把握できない側面を紹介しながら検討する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅰ	ハプスブルク帝国の歴史について、その領土の一部をなしていたハンガリーとの関係に重点をおきながら、講義形式で授業をおこなう。ハプスブルク帝国に関する映画やドキュメンタリーを補助教材として使用する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	世界史系列	ヨーロッパ現代史Ⅱ	2000年に改正された新国籍法によって、ドイツでは出生地主義に基づく国籍取得が可能となり、帰化要件が緩和され、二重国籍が認められるようになった。国籍法改正から10年、さまざまな肌の色や宗教、民族と結び付けられるドイツ人のイメージが模索されているが、ドイツ社会に溶け込まない「平行社会」の存在が浮き彫りとなっている。また欧州統合の拡大を背景とし、ヨーロッパ・アイデンティティの高まりもみられる。帝政期以来、血統主義による国籍取得を原則としてきたドイツの国籍法は、出生地主義をとるフランスの国籍法と対置されてきた。歴史的に、フランス人が政治的な「国家国民」であるのに対し、ドイツ人は民族的に同質な「文化国民」であり、日本との類似性もしばしば指摘される。 この授業では、ネーションと「人種」、ジェンダーを基軸に据え、ヨーロッパの近現代を読み解いていく。近代国家は、国籍という制度によって「他者」を規定し、排除と内包の論理によってネーションを形成してきた。政治的統一に遅れたドイツにおいて、どのように「ドイツ人」や「ヨーロッパ市民」としてのアイデンティティが形成されたのか、ジェノサイドとの関連、欧州連合の拡大に重点を置いて考察していく。	
			ロシア文化史	18世紀初頭－20世紀初頭のロシア帝国の国家、社会、宗教、民族の状況を紹介し、この国が自身を「ヨーロッパか、アジアか」と問いながら近代化していった過程を学びます。	
			アメリカ史	植民地期から現代にいたるまでのアメリカ合衆国の歴史を概観する。「アメリカ人」の誕生と発展、奴隷制、産業化・都市化、移民の大量流入、社会改革運動、戦争と社会変動、権利獲得運動、女性性・男性性の構築といったテーマについて、歴史の大きな流れと関連づけつつ検討する。	
			ラテンアメリカ史	高度な古代文明が花開き、植民地時代から地域で重要な位置を占めて来たメキシコを主たる事例として取り上げ、各時代の社会構造や統治機構、思想的潮流などの特徴を概説し、ラテンアメリカ全体の共通性と地域ごとの差異についても考えてみたいと思います。	
			世界史文献講読Ⅱ－１	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅱ－２	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－１	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語文献を用い、研究するための準備となればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－２	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語を用い、研究するための準備になればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅳ－１	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野 専攻分野 世界史系列	世界史文献講読Ⅳ－２	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。 前期に引き続き、テキストの続きを講読します。	
	世界史文献講読Ⅴ－１	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	
	世界史文献講読Ⅴ－２	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	
	世界史文献講読Ⅵ－１	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
	世界史文献講読Ⅵ－２	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
卒業論文	卒業論文	各学科専攻で個別に指導する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	対人社会心理学１	社会的動物としての人間の行動や意識を考える上で、他者との関係性を無視することはできない。本講義では、個人が他者からどのような影響を受けているのか、また、社会的適応のために個人の行動や認知がどのような働きを持っているかなどについて、実証的な研究例を基に解説する。	
			マスコミ社会心理学１	個々人には、それぞれ感情や意思があるが、それが大勢集まって、集団や社会となったとき、個人の総和以上の現象を引き起こすことがある。この授業では、集団、社会、マス・コミュニケーションなどのマクロな分野を中心に、社会心理学の理論や研究事例を学ぶ。	
			人格心理学１	人格心理学の領域は広い。この入門講義は、特に臨床的な観点から、個としての人間を理解するための内容が主であり、この社会文化の中での人格の形成と変化、適応と不適応、そして心理的援助の方法の基礎等が論じられる。	
			家族社会学１	家族に関する基礎概念や学説を理解することと、家族に関する現状を知ること、さらには自身を取り巻く環境や社会について解釈し考える力を養う。	
			職業社会学１	職業・労働に関する社会学的研究について講義するとともに、レポートやディスカッションを通じて学生が自ら考え、理解を深める。	
			文化人類学１	文化人類学の基礎論を学ぶとともに、現代社会と関わるテーマにも深く切り込んでいく。また授業では、担当者がアフリカでのフィールドワークで入手した第一次資料や映像なども多く紹介する予定でいる。授業の後半期には、外国人ゲスト・スピーカーを招聘して、母国の社会や文化について話してもらうと同時に、受講生とのディスカッションを予定している。	
			社会調査入門	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶ。社会調査の必要性とその意義について、(1)社会調査の歴史、(2)現在実施されている官庁統計、世論調査等、(3)社会学、社会心理学、文化人類学、人格心理学において行われている社会調査の実例とその学問的意義から学ぶ。また、調査倫理と調査データを読みこなす力を身につける。	共同
			比較文化学１	比較文化の基礎的な理解のために、インド・ヒンドゥー社会、開発、文化などをキーワードとして文化的議論を整理し、提示する。	
			社会心理学特講１	「他者の目に映る自己」をテーマに、自己意識、自己呈示、対人不安、羞恥心、プライバシー等について講義を行う。社会に依存して生きるヒトにとって、他者から排斥されないこと、あるいは賞賛されることは重要な課題である。これに関連する心理学的諸現象を扱った研究例を紹介し、社会適応と自己意識との関連について考える。	
			社会心理学特講２	社会調査実習と連動して、社会心理学のロジックの理解、データの解釈、考察のトレーニングのための授業である。ファン心理の研究を題材に、SPSSの出力結果を正確に読み取り、考察を導き、発表する作業をグループで行う。	
			社会心理学特講４	新製品開発や広告宣伝活動といった企業戦略の成否のカギは、ターゲットとなる消費者の心理・行動を客観的に理解することにあるといえます。同時にこのことはわれわれ消費者自身にとっても自己の利益を守るうえで重要なことです。この授業では心理学の理論を援用しながら「消費者理解」のあり方やその妥当性について考察します。	
			社会心理学特講６	講義形式で行われるが、犯人像推定などの課題に関しては、グループ討議を経て、発表を行ってもらう。犯罪学の基礎知識、精神医学的、社会心理学的、統計学的な手法による犯罪へのアプローチを学んでもらう。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	社会心理学特講９	「大阪の人はせっかちだ」「女性は感情的だ」など、あるカテゴリーに含まれる人たちに対する固定化されたイメージ(ステレオタイプ)が社会の中に多数存在している。本授業では、ステレオタイプに関連する具体的な社会問題(特に偏見や差別にかかわる問題)を取り上げながら、ステレオタイプの形成・維持過程、変容過程に関する社会心理学的知見を解説する。	
			社会心理学特講１１	対人関係に関する社会心理学の研究成果を、トピックスを絞って紹介する。恋愛や友情という身近な対人関係に始まり、惨事ストレスや悲しみやカルトなどの社会全体に関わる心理現象も取り上げる。	
			社会心理学特講１４	現実の環境における人間の要素を広い範囲で研究する心理学である、環境心理学の基本的な理論と現実場面への応用を紹介する。写真や図表を多用し、環境と人間の興味深い関係とその背後にあるメカニズムを実感してもらうことを目的とする。	
			社会心理学特講１５	新聞を主にした日本のマスメディアの「過去・現在・未来」を考える。新聞記事や社説のつくられ方、戦争と新聞の責任、社会におけるメディアの役割などを学ぶ。また、ワークショップや、時事的なニュースやメディアの課題をテーマに討論もしたい。	
			文化人類学特講４	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			文化人類学特講６	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			文化人類学特講７	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。	
			文化人類学特講１０	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			文化人類学特講１１	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	文化人類学特講１２	人はジェンダーという日常を生きる。本年度はジェンダーをめぐる諸問題について、文化人類学の立場からこれを講じる。ジェンダー概念の規定をめぐる諸理論、ジェンダー研究の変遷にふれ、ジェンダーをめぐる多様性／ローカリティ／グローバリティの現在について、政治・宗教・経済・開発・技術などの具体的事例にそくして議論していく計画である。	
			人文地理学１	都市地域を扱った分野を例として取り上げ、人文地理学の基本的な概念、方法等の入門的な紹介を行います。地域情報の具体的例として、地図、地域統計等の利用法の解説も合わせて行います。	
			人文地理学２	人文地理学における、やや専門的な研究分野の例として、時間地理学の枠組みに準拠した都市住民の生活活動の分析、特に女性の就業や社会参加に関わる実態分析を紹介します。	
			自然地理学１	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学1では地形的要素を中心に講義を進める。	
			自然地理学２	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学2では気候・植生・水文的要素を中心に講義を進める。	
			地誌学１	講義形式で行われる。ヨーロッパの人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、ヨーロッパの地域構造への理解を深める。	
			地誌学２	講義形式で行われる。アメリカ合衆国の人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、アメリカ合衆国の地域構造への理解を深める。	
			マス・コミュニケーション論	マス・メディアの発達によって、社会構造やコミュニケーションのあり方は大きく変容した。この授業では、マス・コミュニケーションの基礎的な理論を学び、さまざまな社会の営みとの関わりについて考える。 前半は古典的なマス・コミュニケーションの効果論や、日本のジャーナリズム制度について学び、基礎的な知識を習得する。後半は、ニューメディアの台頭を踏まえたマス・コミュニケーションの最前線や、受け手に与える影響の実証的研究、具体的な事例研究などを紹介する。	
			社会学	社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の基礎概念を概説しながら、社会学的な発想や基本的な考え方について講義し、「社会学的に考える」ことの意義について考察します。授業では、身近に経験するさまざまな社会現象や日常の出来事を考察の対象として選び、社会学の理論や方法論を使いながら社会についての理解を深めます。	
			家族社会学２	前半では「若者と親」のテーマを取り上げ、若者の自立を考える。指定のテキストの各章を読んで、毎回個人あるいは複数人でプレゼンを行い、テーマに関してディスカッションする。また後半ではそれらのテーマに関連して、各自が関心のある問題について資料（文献、新聞やニュース報道など）を持ち寄りディスカッションする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	職業社会学２	授業は、1.講義、2.対話（ワールドカフェスタイル）、3.リアクションペーパーの記入という３つの柱で進めていく。 ①働く場の実態について理解し、ジェンダーを取り巻く現実への認識を深め、職場構造についてジェンダーの視点から考える。 ②「働くこと」において、どのように男女で基準や役割が異なっているか、その結果、収入・機会・能力・評価においてどのような差が生じているのかについて理解する。 ③自分の「働き方」について考えていく力をつける。	
			キャリア形成の社会学	一般に、「キャリア」とは個人が職業上たどっていく経歴のこと、「キャリア形成」とは仕事の経験を重ねることで自分の職業能力を育てていくことだが、近年「職業」のみをキャリアの要素としてとらえるのではなく、社会的な活動を含めた生涯を通じたキャリア形成のあり方を考える必要があると、言われている。この授業は、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自分自身の生涯を通したキャリア形成のあり方を考えることを目的とする。	
			社会学特講１	「老年学」は20世紀初頭に、ドイツの疫学者により創始された新しい学問領域である。20世紀から21世紀にかけて、先進国を中心に人口高齢化が進み、老年学の研究領域は自然科学にとどまらず、人文科学、社会科学へと及ぶようになった。本講義では、社会老年学の主要なトピックのうち、個人、家族、社会の「加齢」を中心に、ライフコース論の考え方を基礎におきつつ、ともに考察していく。	
			社会学特講２	近年の日本では、経済格差の拡大と貧困層の増加が注目を集め、不平等への社会的関心が高まっている。この授業では、①不平等をとらえるための社会学的な理論と方法について平易に解説し、②現代日本の格差の構造についていくつかの側面から概観し、③現代日本において格差拡大がもたらしているさまざまな問題と解決策について考えていく。	
			社会学特講３	グローバル化が進行する現代において、ナショナリズムの意味が再確認されると同時に、その表出形態には新たな展開が見られる。社会学、人類学、文化研究などの分野で展開してきたナショナリズムの社会理論を学習しながら、現代におけるナショナリズムの諸様相の理解を試みる。	
			社会学特講４	1990年代半ばから労働過程の分析に軸足をおき、労働組織におけるジェンダー関係に関する実証研究を展開する。	
			交流分析概論	アメリカの精神科医エリック・バーンが創始した交流分析（TA）は、心の仕組みや有り様を簡潔に説明した自己分析法である。心理療法として導入されたが、今日では自己啓発や対人関係調整のツールとして一般に普及している。授業では基礎理論と活用を解説し、社会病理の観点から社会や家族の混乱をTAを使って読み解く。	
			人格発達心理学	この授業では子どもの人格形成に影響を与えていく様々な要因について人格心理学および発達心理学の立場から講義していく。母親のみならず父親やきょうだいが人格発達に与えている影響について論じていく。また成人してからどのようにすれば性格を変えられるのかといった問題についても考えていく。	
			人格心理学特講１	心理学的個人差について、認知的能力（知能）、パーソナリティ（人格・性格）認知スタイルなどの個人差の問題を中心に、その基本的問題と歴史的展開と現在の動向について、多面的に論じる。認知的能力については、その概念と測定法上の問題について、パーソナリティに関しては、代表的なアプローチである資質（特性・類型）論的アプローチ、精神病理学的アプローチ、認知的アプローチについて、比較検討を行う。また、認知スタイルについては、脳・神経系に基礎を持つ個人差や、その進化心理学的説明について最新の研究を紹介する。	
			人格心理学特講４	「交流分析（TA）概論」で基礎知識を学んだので、本講座はTAの実践と応用を目的とする。TAの真髄は自己分析である。そのための具体的方法論をさらに深める。また、ライフサイクル論やアイデンティティ論などを加味し、日常の時事問題を材料にしながら、「生きること」や「人生」について、TAを中心にした新たな視点で考えてみたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分	授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野　関連分野　他学科開講科目（人間関係）	人格臨床心理学特講２	臨床心理学や心理療法の実際、またパーソナリティの発達的な理解について講義する。	
	人格臨床心理学特講４	授業形式中心に行われる。基礎を学んだ後には、事例についてグループディスカッションも取り入れていく。	
	比較文化宗教学１	宗教というとほとんどの人は自分の生活とはそれほど関係のないものだと考えるかもしれません。 しかし、現代社会では宗教は形を変えながらさまざまな領域へと浸透しています。この講義では、現代では聖なるものが政治経済・教育・医療・音楽・映画・サブカルチャー・観光といったさまざまな領域との相互作用の中で変化しつつあることに注目します。 可能な限り映像資料を用い、現代の宗教について、自由、他者、性、共同体といったテーマと関係づけながら具体的に学んでゆきます。	
	比較文化宗教学２	講義形式で行う。近代西欧では、新しい家族関係に基づく子ども観が形成され子どものための文学が誕生した。想像力によって別世界が描き出されるファンタジーには、古くからの宗教の中で受け継がれた死生観や運命観が息づいている。それらの物語の宗教性について、実際の作品や映像資料などを用いて解説する。	
	比較文化学特講	文化を学ぶ手法としてのフィールドワーク論、および南アジアの社会と文化についての総合的理解を行う。	
	比較文化学特講１	NGOの組織的理解を深め、日本の社会運動と支援について総合的に学ぶ。	
	比較文化学特講２	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
	比較文化学特講３	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
	比較文化学特講４	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
	比較文化学特講５	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。なお下記の授業計画は実際の授業の進行の度合いによって変更する可能性がある。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	比較文化学２	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	
			社会調査の技法１	講義とワークで構成する。前半は具体的な調査方法について、理論や知識を講義で学び、簡単なワーク課題を実践しながら、理解を深める。後半は、収集したデータの処理や分析との対応を学習する。最後に、実際の研究事例を読むトレーニングを通じて、研究目的と方法論、データ分析の対応を理解する。	
			社会調査の技法２	社会調査の目的と調査のプロセスを理解し、その目的に沿った調査方法の選択・企画・設計・データ収集の手法と、妥当性・信頼性の高い概念や変数の測定のための必要な基礎事項を身につける。その過程で、調査の実施において必要な知識（調査票の作り方、調査票の配布・回収法、調査データの整理など）もあわせて習得することを目指す。主に質問紙調査法（アンケート調査）を中心とするが、質的データ収集についても留意する。	
			社会統計学	社会学や社会心理学領域において実証的研究を進めるための基礎となる統計的知識を学習する。講義では実際の調査や実験データなどを用い、社会現象、心理現象を数量化し検討することの有効性や面白さを体験的に学んでゆく。	
			質的調査法１	質的調査の立案から実施・分析まで一連の具体的手法を人格へのアプローチという視点から学ぶ。質的方法の評価、質的データの収集方法（特に半構造化面接法と参与観察法）、分析方法（会話分析とライフストーリー分析）を学ぶことによって、人格を理解する方法や分析のあり方を身につける。	
			質的調査法２	講義を基本とするが、同時に幾つかのグループに分かれてインタビューを実践する。対象は、本学で学ぶ留学生や東京で働く在日外国人を考えている。各グループは、インタビューする内容についてテーマを設定するが、その下調べや質問項目の整備なども念入りに行う。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅠ（１）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅠ（２）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅡ（１）	（仏文）Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. Les thèmes abordés dépendront de l'actualité sociale. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅡ（２）	（仏文）　Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 　授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 　授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 　授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 　授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（１）	スペイン語を聴くこと、読めること、意味がわかることを目指すために、スペイン語の要である動詞の活用練習をおこなう。さらに日本語からスペイン語への作文練習をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（２）	テキストを講読しながら、接続法がどのように使われているか理解し、接続法を使う練習問題をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（１）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（２）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			中国語コミュニケーションⅠ（１）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 　テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 　また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	中国語コミュニケーションⅠ（2）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	
			中国語コミュニケーションⅡ（1）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			中国語コミュニケーションⅡ（2）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（1）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（2）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅡ（1）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			コリア語コミュニケーションⅡ（2）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			法律学［含国際法］	グローバル化やIT技術の発展は、社会構造の複雑化と財の流通の加速化をもたらしますが、同時に我々をとりまく法的環境をも変化させています。この授業では、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会の法的問題に対する理解を深めていきましょう。	
			現代家族法	現代の日本社会では、個人の価値観が多様化し、夫婦・親子の家族生活に大きな変化が生じています。これは、非婚・シングルペアレント・離婚増加などの現象に表れている通りです。また、子のない夫婦の養子縁組・人工生殖は、生物学的な親子関係のない「親子」を法律的にどのように取り扱うかの課題をもたらします。高齢者の財産をどのように守るのかについても、後見制度や遺言制度のニーズを生みます。人が生まれてから死ぬまでの家族生活関係を、家族法という視点から学ぶことによって、21世紀の家族を考えて行きましょう。	
			国際法１	国際法は国際交流の大前提となる国際社会の法である。国家間を規律するが国境を超える企業活動や個人にも関わりをもつ。領土紛争など国際法上の紛争も生じている。国際法の視点から歴史と国際関係を読み解き、平和、人権、人道、経済、環境などの今日的課題について考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	国際法２	国際開発援助には主として2国間の条約に基づく2国間の開発援助と多国間条約に基づき設立された国際機関により行われる開発援助がある。本講義ではその仕組み、実際の活動を解説すると共に特にアフリカの具体的な例を取り上げ国際的な協力枠組みと現場レベルでの活動を解説する。	
			取引関係法	私企業をめぐる法律関係を、種々の法分野から考察することを目的とする。私企業の活動は、公法、私法、中間法といわれる各法分野に関係するものであり、さらに現代企業の国際化からすれば渉外的法律関係をも考慮しなくてはならないところから、複眼的にこれを考察する。	
			政治学概論［含国際政治］１	日本を取り巻く国際環境は歴史的な地殻変動の最中にある。かつて、”Japan As Number One”と言われた日本が政治的にも経済的にも低迷している中で、、BRICsと呼称される新興国の台頭は目覚ましく、またイスラム諸国の情勢も刻々と変化している。加えて2012年には、アメリカを始めとする主要国で指導者選出の選挙が行われる。この授業では、激動する内外情勢を視野に入れながら国際政治理論の変遷を追い、そうすることで国内政治と対外政策の相互作用や国家間の利害の衝突等、様々な要素が複雑に絡み合う現代世界を読み解く手がかりを模索する。	
			政治学概論［含国際政治］２	民主主義の基盤は権力の分立である。この授業では、まず徹底した三権分立を取り入れたアメリカの民主政について検証し、その上で、よりよき政体を模索し続けた人類の試行錯誤の歴史を振り返る。	
			国際交流特殊講義	授業では、①まず講義や講演を通じて、日本の援助政策をめぐる課題について意識を共有しあい、②次に、与えられたテーマごとにグループ別討論を行い、③最後に全体討論で各グループの代表がグループ別討論の内容を紹介する。これらを通して、単なる知識の吸収にとどまらない、問題点を掘り下げて考察する能力や自分の考えを体系的に表明する力を養うこととする。	
			現代国際政治Ｉ	欧米主要紙の社説、インターナショナル・ヘラルド・トリビューンの報道などから国際情勢をレビューし、そのなかから、あるいはそれとは別に、テーマを選び、議論を深める。学生諸君にはペーパーを書いてもらう。	
			現代国際政治Ｖ	1945年に戦争に敗北した日本はアメリカによる占領を受けた。アメリカの占領政策によって戦前の日本の政治体制は根本的に変化し、戦後の政治運営の基礎が築かれた。講義では、戦後日本政治の仕組みを解説し、そのもとで、日本の政治がどのように運営されてきたのか、そして、1990年前後から新たな政治体制が生れてきたが、それはどのようなものであるかを解説する。	
			行政学	行政サービスとは何か、その仕組み、行政組織と構成員の行動、政策形成、政策決定の過程について、具体的な経験を例示して講義を行う。	
			国際連合論	唯一の覇権国家になったアメリカは、ここ１５年ほど、民主主義国家の拡大を使命と感じて国際政治を動かそうとしている。このような状況下で、国連はどのような役割を果たしていけるのだろうか、考えていきたい。	
			アメリカ外交論	授業の進め方としては、まず冷戦の起源から終焉までのアメリカ外交の軌跡を振りかえるとともに、冷戦終焉後の国際社会におけるアメリカの役割、特に９．１１テロ後の世界におけるアメリカの役割をさぐることとする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	経済学概論［含国際経済］	日本経済とグローバル経済で起きている主要なトピックに即して、マクロ経済学、歴史、制度を解説し、経済のしくみを理解します。マクロ経済学は問題を解きながら進みます。同時に、情報経済社会に必要な人材の条件を検討し、自らのあり方を考察する作業を平行して行います。	
			経済理論入門	経済分析を行うために必要な、最も基本的な理論と概念を学びます。各種公務員試験や経済学を課す各種試験のミクロの準備もここから始めましょう。理論の説明を行ったあと、簡単な形算を使って例題を解き、理解を完全なものとします。	
			国際経済学１	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際貿易を扱います。理論・実証・政策のバランスをとりつつ、大学で次世代に伝える内容として標準的と思われる内容を講義します。	
			国際経済学２	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際金融と国際マクロ経済学を扱います。国際金融の理論、制度、歴史、政策や、マクロ経済およびマクロ経済政策の国境を越える影響について講義し、必要に応じてDVDなど映像資料で理解を深めます。	
			開発経済学	授業では、開発途上国の貧困問題について、個人や家計といったミクロ経済と、一国単位のマクロ経済の両方からアプローチします。それぞれについて理論の概要を理解した後に、貧困問題の具体的な事例（児童労働など）に応用して、その原因と解決策を学習します。	
			情報処理入門	この講義は5つの段階に分けられます。はじめに、情報ネットワークの基礎知識とその利用に伴う情報社会の様々な問題について学びます。次に、大学における論文、リポートの作成のためにLaTexを使った文章作成を行います。３番目に行うことはHTMLによる基本的なHPの作成です。そして、４番目にExcelの関数機能、データベース機能について学びます。最後に、CGI機能を備えたWebサイトの構築を行います。Perl（プログラム言語）を使ってCGIスクリプトを記述し、アクセスカウンターを備えたアンケートHPを作成します。そして、クライアントとメールサーバーとのデータの送受信を行い、メールサーバー上のアンケートデータをExcelに取り込んでそのデータ処理を行います。	
			プログラム入門	コンピュータ言語には語学と同じように単語があり、文法があります。この授業では、いわば初めての語学を初歩から始めるように、コンピュータとの簡単なコミュニケーションに必要なＣ言語の基本単語の習得から始め、様々な目的のための文法を学んでいきます。なお、授業ではマイクロソフト版のコンパイラーを使いますが、このコンパイラーのフリー版や仮想Linuxコンパイラー（Windowsで使える）の自宅でのダウンロードについても説明します。	
			コンピュータサイエンス	近年、コンピュータは、マウスでクリック、或いは、画面をタッチするだけで操作可能な、誰にでも扱える道具となりました。 しかし、資源の節約の観点からも電子化が進む中、コンピュータを十分活用していくためには、ある程度の知識が必要です。 この授業を通して、PCを実際に使いながら、幅広い知識を身につけていきます。	
			応用情報処理	この講義ではLinuxの基本的な操作・仕組みを学びながら、消費者としてだけではなく、生産者としてコンピュータを利用できるようにする視点を養いたいと思います。	
			国際コミュニケーション論	新聞、放送、出版などのマスメディアの現状、役割、その大きなパラダイムシフト、それらがどのようなルールで実施されているか、さらに社会にもたらす影響や諸問題などをケーススタディーしながら進める。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	異文化間コミュニケーション（１）	（英文）　Students will be required to read an introductory book entitled ″Africa and Africans″ as well as other materials in both English and Japanese. In addition, TV programs and other media covering African issues will be used to recognize the problems which currently exist in Africa and to find solutions to those problems. （和訳）アフリカについて書かれた入門書や、日本語または英語で書かれたアフリカをテーマにした教材を読む。そして、テレビ番組や他のメディアがアフリカで起こっている問題についてどう捉え、どのような解決策を見出しているかを考える。	
			異文化間コミュニケーション（２）	国際協力、貢献論の基本的な知識を学んだ前提で、これまで行われてきた“教育支援事業”の実例を取り上げる。具体的には「日本賞国際コンクール」の役割や「ボツワナ教育テレビ創設事業」などを紹介、検証していく。 途上国の教育番組視聴などメディアによる貢献策を考える。	
			国際交流実習１	身近で日常的なことから“くに”とは、“ナショナリズム”とはを議論する。通信、ロジスティック、様々な交流が活発になったにもかかわらず、何故対立が生まれるのか。 グループに分かれ、事実関係の調査、研究をベースに議論をし、前期終了時にそれぞれのグループが“ナショナリズムを超えて”というテーマで発表する。 前半は各教師陣がそれぞれの専門性の立場で講義し、それをベースにグループでディスカッションを重ねていく。	共同
			フランスの社会と文化（１）	「国民国家」という概念が成立するフランス革命期から始め、政教分離（ライシテ）、学校教育の改変、植民地拡大政策、フランス社会とユダヤ人、第五共和制、フランスにおけるムスリムなどを順に取り上げていく。	
			フランスの社会と文化（２）	19世紀のフランスは、前世紀末の大革命の混乱を乗り越え、近代国家へと生まれ変わろうとする。産業革命にともない新たにブルジョア市民階級が生まれ、社会全体が大きく変貌していく。そのような中で芸術家たちはどのように自らの立場を位置づけ、またどのようにそれぞれの理想の実現と向かい合ったのだろうか。本講義では主に文学と絵画の領域から代表的な芸術家を取り上げ、作品創造にあたっての彼らの試行錯誤の模様を検討していく。またそれと同時に、彼らの生きた19世紀フランス社会についての理解をも深めていく。ユゴーやモネの生きた時代の空気をつかんでいきたい。	
			ドイツの社会と文化（１）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。 数回グループディスカッションも行う予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	ドイツの社会と文化（２）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。 数回グループディスカッションも行う予定である。	
			東アジアの社会と文化（１）	地理的にも中国と不可分の関係にある日本。では我々はどれだけ中国を知っているか？　本講義では19世紀から現在に至る、中国の近現代史を概観し、基本情報を整理する。その上で、日本と中国との関係を考える手がかりを模索してみたい。また必要に応じて、時事的な問題についても言及し、そこから歴史的に遡ることもしたい。	
			ドイツ事情（１）	「良いマナーで女子力アップ」「おてんば娘」「女のくせに」等々、そのような言葉の背景には「女性」についての独特なイメージが隠されています。このイメージは個人や社会における女性に対する意識・無意識的なステレオタイプによって形成されていると考えられます。そのような言葉にみられる「女性」についてのアイデンティティーや役割分担は、生まれつき備わったものでしょうか？それとも社会により規定されたものでしょうか？ 本セミナーでは、ジェンダー学が扱う様々な問題を取り上げ、セクシュアリティーの視点から日本人女性とドイツ人女性について、日常生活から伺い知ることのできる特徴を考察します。例えば性役割、性暴力、メディアにおける性の表現などを題材に、「女性イメージ」の背後に隠された秘密を受講者とともに考え、明らかにします。尚、このセミナーは日本語で行います。	
			ドイツ事情（２）	戦争を直接知る者が誰一人いない、完全な「間接的証言」の時代の到来を目前に控え、20世紀の殺戮と破壊の記憶を、いかに後世につなぐか。21世紀に生きる私たちにとって、ますます重要な課題となっています。ナチズムとジェノサイドという負の遺産を抱えるドイツは、自国の歴史にどう向き合ってきたのでしょうか。この講義では、ナチズムとホロコーストをめぐる、戦後ドイツの共同想起の営み（想起の文化）の諸相を、諸々の論争、歴史政策、記念碑、ミュージアム、現代アートと連動した想起のプロジェクトなどの具体例に即して紹介します。	
			フランス事情（１）	まずデカルトからサルトルまでの近代的な主体観を総括し、その合理主義と人間中心主義がフランス現代思想の中心的批判対象であったことを確認する。つづいて近代的な知を批判したいくつかの思想潮流や主要な思想家の考えをたどり、そこで何が問題となっているのかを議論していく。またフランス的思想の伝統として文学を中心とした芸術も思考対象とする。	
			フランス事情（２）	写真論の古典であるベンヤミン、ソンタグ、バルトの著作を読んで写真の問題圏を整理する。そこから抽出されたテーマにそって重要な写真論者の指摘や写真芸術を見ていく。	
			中国事情（１）	歴史・ナショナリズム・人権・主権などをめぐる現代中国の諸情勢は、「尖閣」問題に象徴されるように、複雑な様相を呈している。こうした現代中国の政治・外交問題を歴史的文脈に即して解説する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
			Contemporary American Culture(１)	（英文）　This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure. Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	
			Contemporary American Culture(２)	（英文）This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure.　Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	
			日欧思想交渉史入門(１)	歴史を通して、日本は度々ヨーロッパと出合い、交渉に及んでいる。その行程を「旅」としてとらえ、考察する。 本講義は入門（１）であるので、まずは様々な「旅」を促した基礎的な思想について学ぶ。特にヨーロッパの二大思想ヘレニズム（古代ギリシア）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教）において、「旅」はどのような特徴をもったか。次いで、学生の研究発表を通して、日欧の交渉に関わった人々の「旅」を具体的に検証していく。これらの「旅」と私たち自身の「旅」とに何らかのつながりを見ることはできるだろうか。	
			アジア文化論	本講義では、最初にイスラーム教に対する基本的な知識を習得する。そのうえで、現代のイスラーム世界において実際にイスラームがどのように実行されているか、イスラーム法がどのような意味を持つのかについて理解を深める。そして、イスラーム世界の家族や生活、文化全般、キリスト教徒などの少数派についても学習する。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	心理学史	教員のガイダンスのもと、受講生によるレジュメやパワーポイントを使ったテキストの発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、テキスト以外に、事前に指定された大量の文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講４	PCプレゼンテーションと配付資料による講義形式となる。行動・心の科学的測定、動物やヒトの行動基盤としての進化などについて習得する。進化理論にもとづく仮説とその検証を通して動物とヒトを統合的に理解する視点を養う。	
			認知心理学特講５	認知心理学とは，「見たり，聞いたり，覚えたり，考えたり」といった認知機能の仕組みを明らかにする学問である．この授業では，認知心理学の基礎を学ぶ材料として，さまざまな認知的バイアスを取り上げるとともに，認知心理学の具体的な応用場面として，「目撃証言」および「デザイン」の2つを取り上げることで，認知心理学の基礎から応用まで幅広く解説する．	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	認知心理学特講６	教員のガイダンスのもと、テキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、事前に指定された文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講７	教員の５回の講義に引き続いて、教員のガイダンスのもと、教員の用意するテキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、毎時間終了時に、事前に指定された文献を読み、毎回、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講８	基本は講義形式です。授業中，教科書を使いますので毎回持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，グループで討論をし、発表します。また，何回かゲームをして楽しみながら，授業内容を実感してもらいます。さらに，毎授業，皆さんからの「コメント・質問」をとり，次の授業で回答します。	
			発達心理学特講１	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても論考することにしたい。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHDや自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。	
			発達心理学特講３	老年期の人々の心理やメンタルヘルス，老年期をめぐる諸問題（介護や認知症，貧困の増加など），サクセスフル・エイジングについて学ぶ。内外における高齢者研究やジェンダーの視点から考える老年期の問題についても論じる。	
			発達心理学特講６	母親は常に子どもに対して慈愛の感情を抱くわけではない。子どもの発達につれて、母親は子どもに対し、時として嫌悪や煩わしさといった感情を抱くことがある。慈愛と嫌悪という矛盾した感情を母親が子に対して抱くのはなぜか。進化と発達の観点から論じていく。	
			発達心理学特講７	毎週、前の週に配布される論文を読み、その概要をまとめたレポートを提出する。授業では、論文の内容の分析を進める	隔年
			発達心理学特講８	まず、「女性に対する暴力」を生み出し、逆に「女性に対する暴力」によって支えられてきた戦後日本社会のジェンダー構造を確認する。その上で、家族の中の暴力として、ドメスティック・バイオレンスと児童虐待を詳述する。	
			臨床心理学特講１	神経心理学は，脳損傷者の示す多彩な高次脳機能障害を手がかりとして，心と脳の関連性について検討する心理学の一領域である．本講義では，顔の視覚的認知が選択的に障害される相貌失認と，wayfinding行動の選択的障害である地誌的失見当の話題を中心に取りあげながら，私たちの心的機能の実現を支える神経過程について神経心理学的に検討を試みる．	隔年
			臨床心理学特講２	適応と関わる重大な出来事としては、別離体験（子どもの短期間の親との別離、おとなの配偶者との死別）、被虐待体験を含む外傷的出来事の体験（対人関係の問題、解離性同一性障害、外傷後ストレス障害）などを取り上げる予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科）

科目区分			授業科目の名称（史学）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	臨床心理学特講３	自己の発達における各時期の特徴を学ぶことで，標準的な発達とその過程における不利益，および病理について学ぶ。また，臨床心理学，発達心理学領域における代表的な自己理論について学ぶ。	隔年
			臨床心理学特講４	学校教育と心理臨床の違いと相補性を検討する。そして、学校で出会う子どもたちに対応するための知識を深め、子どもの適応のために必要な環境についても検討する。	
			臨床心理学特講５	（英文）　In many societies, numerous people suffer from a variety of psychopathology including childhood psychological disturbances, depression, schizophrenia, addiction, and suicide, to name a few.　In this course, we will learn some major forms of emotional and behavioral disorders and examine their causes, symptoms, clinical course, and treatment. （和訳）多くの社会で、たくさんの人々が、子どもの心理的問題、鬱、統合失調症、薬物依存症、自殺などの、精神病理に苦しんでいる。このコースでは、いくつかの情動や行動の問題を学び、その原因、症状、治療などについて検討する。	
			臨床心理学特講６	思春期は誰しもが心揺らぐ時期です。まず、思春期の心の特徴と問題について考えます。また、現代の社会は子どもも生きづらい世の中になっています。子どもを取り巻く社会の問題を取り上げて、子どもの心への影響について学びます。最後に、発達障害を理解し、その支援について考えます。	
			臨床心理学特講７	臨床心理学の中でもブリーフサイコセラピーについて学びます。入門書を読みながら、ロールプレイで体験をしながら、実感としての学びが得られるようにしていきます。カウンセリングマインド、クライエントに対する姿勢、受容と傾聴などカウンセリングの土台についても体験的に学びます。その中で、自分や他者の言動について振り返って考えることがあります。振り返ると、時に辛い気持ちになるかもしれません。そうした自分の気持ちに向かい合うエネルギーがないと思われる方は、授業を取る前にお考えください。心配な方は初回授業にご相談ください。	
			臨床心理学特講８	基本テーマは「眠りを疎かにしている日本社会」です。眠りに関する基礎知識を得たうえで、「ヒトは寝て食べて始めて活動できる動物である」との当然の事実を確認し、現代日本が抱えている問題のかなりの部分に、我々が動物であることの謙虚さを失い、眠りを疎かにしたことの代償が及んでいることを認識していただければと思います。そして願わくばこの講義が今後の皆さんの生き方を考える際の、さらには小児科医である私の立場からは、皆さんが今後子育てをなさる際の、参考に多少ともなれば幸いです。	
			発達心理学１	胎児期から幼児期くらいまでの発達を考える。可能な限りビデオなどを使用して、視覚・聴覚をフル活用するような授業をしたい。	
			発達心理学２	児童期から青年期の身体的発達と認知的発達、および心理社会的発達について概説する。発達心理学の基礎知識をふまえ、中学生・高校生に現れやすい心理臨床的諸問題とそれらへの対応を概説する。障害をもつ子どもの発達と学習の過程についても述べる。全体的には講義形式で行うが、グループ討論の機会も設ける。原則として毎回リアクション・ペーパーの提出を求める。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	基礎科目	対人社会心理学１	社会的動物としての人間の行動や意識を考える上で、他者との関係性を無視することはできない。本講義では、個人が他者からどのような影響を受けているのか、また、社会的適応のために個人の行動や認知がどのような働きを持っているかなどについて、実証的な研究例を基に解説する。	
			マスコミ社会心理学１	個々人には、それぞれ感情や意思があるが、それが大勢集まって、集団や社会となったとき、個人の総和以上の現象を引き起こすことがある。この授業では、集団、社会、マス・コミュニケーションなどのマクロな分野を中心に、社会心理学の理論や研究事例を学ぶ。	
			人格心理学１	人格心理学の領域は広い。この入門講義は、特に臨床的な観点から、個としての人間を理解するための内容が主であり、この社会文化の中での人格の形成と変化、適応と不適応、そして心理的援助の方法の基礎等が論じられる。	
			家族社会学１	家族に関する基礎概念や学説を理解することと、家族に関する現状を知ること、さらには自身を取り巻く環境や社会について解釈し考える力を養う。	
			職業社会学１	職業・労働に関する社会学的研究について講義するとともに、レポートやディスカッションを通じて学生が自ら考え、理解を深める。	
			文化人類学１	文化人類学の基礎論を学ぶとともに、現代社会と関わるテーマにも深く切り込んでいく。また授業では、担当者がアフリカでのフィールドワークで入手した第一次資料や映像なども多く紹介する予定でいる。授業の後半期には、外国人ゲスト・スピーカーを招聘して、母国の社会や文化について話してもらうと同時に、受講生とのディスカッションを予定している。	
			社会調査入門	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶ。社会調査の必要性とその意義について、(1)社会調査の歴史、(2)現在実施されている官庁統計、世論調査等、(3)社会学、社会心理学、文化人類学、人格心理学において行われている社会調査の実例とその学問的意義から学ぶ。また、調査倫理と調査データを読みこなす力を身につける。	共同
			比較文化学１	比較文化の基礎的な理解のために、インド・ヒンドゥー社会、開発、文化などをキーワードとして文化的議論を整理し、提示する。	
			人間関係共通演習	人間関係専攻の２年生のためのゼミである。受講者全員がＡ・Ｂ２つのクラスに分かれ、過去に提出された代表的な卒業論文を読み、それをレジュメにまとめ、プレゼンテーションすることを通して、研究や論文についての基礎的な知識・技法を身に付けることを目的としている。	共同
		演習１	対人社会心理学演習１	卒業論文の作成に向け準備を行う。それぞれが興味のあるテーマに関連のある文献を収集、整理、発表してゆきながら卒論の方向性を明確化してゆく。また、ゼミ内で個々のテーマを共有し、議論を深めると共に相互協力体制を確立する。発表においてはパワーポイントの使用が求められる。	
			マスコミ社会心理学演習１	社会心理学に関心を持つ学生のためのゼミである。前期は文献研究を中心に2回発表、夏休みの合宿で卒論の構想を発表する。後期は予備調査の結果や本調査の研究計画を中心に発表する。テーマは各自の自由。	
			人格心理学演習１	人格心理学、臨床心理学、家族心理学の領域に関心を持つ学生のためのゼミである。前期は教員が定めた特定の領域からの論文を中心に文献講読を行う。後期は、学生個々の問題意識から学生自身がテーマを決めて文献研究を行った内容をプレゼンテーションする。また、その成果をレポートにまとめる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野		家族社会学演習１	今年度は、少子高齢化が進む中での女性のライフコースの変化をとりあげる。仕事、結婚、出産をめぐる変化が、自分自身の人生とどのようにかかわっているかを、既存の研究や文献を通してまず知ることから始め、後期には、実際に各自がライフコース調査を行って、発表する。	
			職業社会学演習１	前期は文献講読、後期は夏休みの課題の発表とテーマ別発表を行う。	
			文化人類学演習１	文化人類学に関係するテーマを各自が選択し、前期と後期に２回の発表を行う。前期の発表では、先行研究を中心にA4紙で5枚程度のレジメを作成。後期の発表は、夏休みの小論文を基礎にして、全体像を浮かびあがらせる。教員との個人面談も頻繁におこない、議論の精緻化を目指す。	
			比較文化学演習１	比較文化に興味ある学生のための３年生のゼミである。卒論テーマ設定のための文献研究、ゼミ発表を行い、実地調査に取り組む。	
		演習２	対人社会心理学演習２	卒業論文を作成する。ゼミ内での公開個別指導を進めると共に、問題点等をゼミ内でも議論し、論文の方向性を明確化してゆく。構想発表会、中間発表会の２回のプレゼンを軸に内容を整えてゆく。	
			マスコミ社会心理学演習２	前期中に調査・実験を実施、夏休みの合宿で中間報告を行い、後期は卒論全体の執筆を行う。	
			人格心理学演習２	人格心理学、臨床心理学、家族心理学の領域で卒業論文を作成しようとする学生のためのゼミである。卒論研究のための問題意識の明確化、研究方法の選択、調査実施のための方法等を前期で指導し、後期は卒論作成のプロセスを個別に指導していく。	
			家族社会学演習２	各自が卒業論文を作成するための具体的な作業に取り組む。前期はゼミ形式での発表、後期は個別指導を行う。	
			職業社会学演習２	前期は文献講読、卒論についての中間発表、後期は卒論の執筆を行う。	
			文化人類学演習２	文化人類学に関心を持つ、４年次生を対象とした卒業論文研究の指導を行う。	
			比較文化学演習２	比較文化に興味ある学生のための４年生のゼミである。文献研究および追加調査を進め、卒論制作に具体的に取り組む。	
		自由選択科目	社会心理学特講１	「他者の目に映る自己」をテーマに、自己意識、自己呈示、対人不安、羞恥心、プライバシー等について講義を行う。社会に依存して生きるヒトにとって、他者から排斥されないこと、あるいは賞賛されることは重要な課題である。これに関連する心理学的諸現象を扱った研究例を紹介し、社会適応と自己意識との関連について考える。	
			社会心理学特講２	社会調査実習と連動して、社会心理学のロジックの理解、データの解釈、考察のトレーニングのための授業である。ファン心理の研究を題材に、SPSSの出力結果を正確に読み取り、考察を導き、発表する作業をグループで行う。	
			社会心理学特講４	新製品開発や広告宣伝活動といった企業戦略の成否のカギは、ターゲットとなる消費者の心理・行動を客観的に理解することにあるといえます。同時にこのことはわれわれ消費者自身にとっても自己の利益を守るうえで重要なことです。この授業では心理学の理論を援用しながら「消費者理解」のあり方やその妥当性について考察します。	
			社会心理学特講６	講義形式で行われるが、犯人像推定などの課題に関しては、グループ討議を経て、発表を行ってもらう。犯罪学の基礎知識、精神医学的、社会心理学的、統計学的な手法による犯罪へのアプローチを学んでもらう。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	社会心理学特講９	「大阪の人はせっかちだ」「女性は感情的だ」など、あるカテゴリーに含まれる人たちに対する固定化されたイメージ(ステレオタイプ)が社会の中に多数存在している。本授業では、ステレオタイプに関連する具体的な社会問題(特に偏見や差別にかかわる問題)を取り上げながら、ステレオタイプの形成・維持過程、変容過程に関する社会心理学的知見を解説する。	
			社会心理学特講１１	対人関係に関する社会心理学の研究成果を、トピックスを絞って紹介する。恋愛や友情という身近な対人関係に始まり、惨事ストレスや悲しみやカルトなどの社会全体に関わる心理現象も取り上げる。	
			社会心理学特講１４	現実の環境における人間の要素を広い範囲で研究する心理学である、環境心理学の基本的な理論と現実場面への応用を紹介する。写真や図表を多用し、環境と人間の興味深い関係とその背後にあるメカニズムを実感してもらうことを目的とする。	
			社会心理学特講１５	新聞を主にした日本のマスメディアの「過去・現在・未来」を考える。新聞記事や社説のつくられ方、戦争と新聞の責任、社会におけるメディアの役割などを学ぶ。また、ワークショップや、時事的なニュースやメディアの課題をテーマに討論もしたい。	
			文化人類学特講４	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			文化人類学特講６	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			文化人類学特講７	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。	
			文化人類学特講１０	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			文化人類学特講１１	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	文化人類学特講１２	人はジェンダーという日常を生きる。本年度はジェンダーをめぐる諸問題について、文化人類学の立場からこれを講じる。ジェンダー概念の規定をめぐる諸理論、ジェンダー研究の変遷にふれ、ジェンダーをめぐる多様性／ローカリティ／グローバリティの現在について、政治・宗教・経済・開発・技術などの具体的事例にそくして議論していく計画である。	
			人文地理学１	都市地域を扱った分野を例として取り上げ、人文地理学の基本的な概念、方法等の入門的な紹介を行います。地域情報の具体的例として、地図、地域統計等の利用法の解説も合わせて行います。	
			人文地理学２	人文地理学における、やや専門的な研究分野の例として、時間地理学の枠組みに準拠した都市住民の生活活動の分析、特に女性の就業や社会参加に関わる実態分析を紹介します。	
			自然地理学１	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学1では地形的要素を中心に講義を進める。	
			自然地理学２	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学2では気候・植生・水文的要素を中心に講義を進める。	
			地誌学１	講義形式で行われる。ヨーロッパの人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、ヨーロッパの地域構造への理解を深める。	
			地誌学２	講義形式で行われる。アメリカ合衆国の人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、アメリカ合衆国の地域構造への理解を深める。	
			マス・コミュニケーション論	マス・メディアの発達によって、社会構造やコミュニケーションのあり方は大きく変容した。この授業では、マス・コミュニケーションの基礎的な理論を学び、さまざまな社会の営みとの関わりについて考える。 前半は古典的なマス・コミュニケーションの効果論や、日本のジャーナリズム制度について学び、基礎的な知識を習得する。後半は、ニューメディアの台頭を踏まえたマス・コミュニケーションの最前線や、受け手に与える影響の実証的研究、具体的な事例研究などを紹介する。	
			社会学	社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の基礎概念を概説しながら、社会学的な発想や基本的な考え方について講義し、「社会学的に考える」ことの意義について考察します。授業では、身近に経験するさまざまな社会現象や日常の出来事を考察の対象として選び、社会学の理論や方法論を使いながら社会についての理解を深めます。	
			家族社会学２	前半では「若者と親」のテーマを取り上げ、若者の自立を考える。指定のテキストの各章を読んで、毎回個人あるいは複数人でプレゼンを行い、テーマに関してディスカッションする。また後半ではそれらのテーマに関連して、各自が関心のある問題について資料（文献、新聞やニュース報道など）を持ち寄りディスカッションする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野 専攻分野 自由選択科目	職業社会学２	授業は、1.講義、2.対話（ワールドカフェスタイル）、3.リアクションペーパーの記入という３つの柱で進めていく。 ①働く場の実態について理解し、ジェンダーを取り巻く現実への認識を深め、職場構造についてジェンダーの視点から考える。 ②「働くこと」において、どのように男女で基準や役割が異なっているか、その結果、収入・機会・能力・評価においてどのような差が生じているのかについて理解する。 ③自分の「働き方」について考えていく力をつける。	
	キャリア形成の社会学	一般に、「キャリア」とは個人が職業上たどっていく経歴のこと、「キャリア形成」とは仕事の経験を重ねることで自分の職業能力を育てていくことだが、近年「職業」のみをキャリアの要素としてとらえるのではなく、社会的な活動を含めた生涯を通じたキャリア形成のあり方を考える必要があると、言われている。この授業は、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自分自身の生涯を通したキャリア形成のあり方を考えることを目的とする。	
	社会学特講１	「老年学」は20世紀初頭に、ドイツの疫学者により創始された新しい学問領域である。20世紀から21世紀にかけて、先進国を中心に人口高齢化が進み、老年学の研究領域は自然科学にとどまらず、人文科学、社会科学へと及ぶようになった。本講義では、社会老年学の主要なトピックのうち、個人、家族、社会の「加齢」を中心に、ライフコース論の考え方を基礎におきつつ、ともに考察していく。	
	社会学特講２	近年の日本では、経済格差の拡大と貧困層の増加が注目を集め、不平等への社会的関心が高まっている。この授業では、①不平等をとらえるための社会学的な理論と方法について平易に解説し、②現代日本の格差の構造についていくつかの側面から概観し、③現代日本において格差拡大がもたらしているさまざまな問題と解決策について考えていく。	
	社会学特講３	グローバル化が進行する現代において、ナショナリズムの意味が再確認されると同時に、その表出形態には新たな展開が見られる。社会学、人類学、文化研究などの分野で展開してきたナショナリズムの社会理論を学習しながら、現代におけるナショナリズムの諸様相の理解を試みる。	
	社会学特講４	1990年代半ばから労働過程の分析に軸足をおき、労働組織におけるジェンダー関係に関する実証研究を展開する。	
	交流分析概論	アメリカの精神科医エリック・バーンが創始した交流分析（TA）は、心の仕組みや有り様を簡潔に説明した自己分析法である。心理療法として導入されたが、今日では自己啓発や対人関係調整のツールとして一般に普及している。授業では基礎理論と活用を解説し、社会病理の観点から社会や家族の混乱をTAを使って読み解く。	
	人格発達心理学	この授業では子どもの人格形成に影響を与えていく様々な要因について人格心理学および発達心理学の立場から講義していく。母親のみならず父親やきょうだいが人格発達に与えている影響について論じていく。また成人してからどのようにすれば性格を変えられるのかといった問題についても考えていく。	
	人格心理学特講１	心理学的個人差について、認知的能力（知能）、パーソナリティ（人格・性格）認知スタイルなどの個人差の問題を中心に、その基本的問題と歴史的展開と現在の動向について、多面的に論じる。認知的能力については、その概念と測定法上の問題について、パーソナリティに関しては、代表的なアプローチである資質（特性・類型）論的アプローチ、精神病理学的アプローチ、認知的アプローチについて、比較検討を行う。また、認知スタイルについては、脳・神経系に基礎を持つ個人差や、その進化心理学的説明について最新の研究を紹介する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	人格心理学特講４	「交流分析（TA）概論」で基礎知識を学んだので、本講座はTAの実践と応用を目的とする。TAの真髄は自己分析である。そのための具体的方法論をさらに深める。また、ライフサイクル論やアイデンティティ論などを加味し、日常の時事問題を材料にしながら、「生きること」や「人生」について、TAを中心にした新たな視点で考えてみたい。	
			人格臨床心理学特講２	臨床心理学や心理療法の実際、またパーソナリティの発達的な理解について講義する。	
			人格臨床心理学特講４	授業形式中心に行われる。基礎を学んだ後には、事例についてグループディスカッションも取り入れていく。	
			比較文化宗教学２	講義形式で行う。近代西欧では、新しい家族関係に基づく子ども観が形成され子どものための文学が誕生した。想像力によって別世界が描き出されるファンタジーには、古くからの宗教の中で受け継がれた死生観や運命観が息づいている。それらの物語の宗教性について、実際の作品や映像資料などを用いて解説する。	
			比較文化学特講	文化を学ぶ手法としてのフィールドワーク論、および南アジアの社会と文化についての総合的理解を行う。	
			比較文化学特講１	NGOの組織的理解を深め、日本の社会運動と支援について総合的に学ぶ。	
			比較文化学特講２	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			比較文化学特講３	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			比較文化学特講４	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			比較文化学特講５	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。なお下記の授業計画は実際の授業の進行の度合いによって変更する可能性がある。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	比較文化宗教学１	宗教というとほとんどの人は自分の生活とはそれほど関係のないものだと考えるかもしれません。 しかし、現代社会では宗教は形を変えながらさまざまな領域へと浸透しています。この講義では、現代では聖なるものが政治経済・教育・医療・音楽・映画・サブカルチャー・観光といったさまざまな領域との相互作用の中で変化しつつあることに注目します。 可能な限り映像資料を用い、現代の宗教について、自由、他者、性、共同体といったテーマと関係づけながら具体的に学んでゆきます。	
			比較文化学２	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	
			人間関係副専攻演習１	人格・臨床心理学は、個人と社会の関係性を適応・不適応という概念をキーワードにして読み解いていく。まず、ゼミ生の個人的問題意識を大切にし、論文講読をおこない、自由に討論を加える。また、その成果をレポートにまとめる。	
			社会調査の技法１	講義とワークで構成する。前半は具体的な調査方法について、理論や知識を講義で学び、簡単なワーク課題を実践しながら、理解を深める。後半は、収集したデータの処理や分析との対応を学習する。最後に、実際の研究事例を読むトレーニングを通じて、研究目的と方法論、データ分析の対応を理解する。	
			社会調査の技法２	社会調査の目的と調査のプロセスを理解し、その目的に沿った調査方法の選択・企画・設計・データ収集の手法と、妥当性・信頼性の高い概念や変数の測定のための必要な基礎事項を身につける。その過程で、調査の実施において必要な知識（調査票の作り方、調査票の配布・回収法、調査データの整理など）もあわせて習得することを目指す。主に質問紙調査法（アンケート調査）を中心とするが、質的データ収集についても留意する。	
			データ分析の基礎	PCを使った実習が中心となり、必要に応じて統計的な知識に関する講義を行う。教員の用意するデモデータを使い、受講生自身にデータの整理や分析を実体験してもらう。なお、初心者でも分かりやすいように授業を展開する予定であるため、統計やPC操作に関する知識・経験が豊富である必要はない。	
			社会統計学	社会学や社会心理学領域において実証的研究を進めるための基礎となる統計的知識を学習する。講義では実際の調査や実験データなどを用い、社会現象、心理現象を数量化し検討することの有効性や面白さを体験的に学んでゆく。	
			多変量解析法	教員の用意するデモデータを使い、受講生自身に多変量解析を実施してもらう。また、解析に関する講義も実習と並行して行う。統計やPC操作に関する知識・経験が豊富である必要はないが、授業の性質上「データ分析の基礎A」を併せて受講することが望ましい。	
			質的調査法１	質的調査の立案から実施・分析まで一連の具体的手法を人格へのアプローチという視点から学ぶ。質的方法の評価、質的データの収集方法（特に半構造化面接法と参与観察法）、分析方法（会話分析とライフストーリー分析）を学ぶことによって、人格を理解する方法や分析のあり方を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	質的調査法２	講義を基本とするが、同時に幾つかのグループに分かれてインタビューを実践する。対象は、本学で学ぶ留学生や東京で働く在日外国人を考えている。各グループは、インタビューする内容についてテーマを設定するが、その下調べや質問項目の整備なども念入りに行う。	
			社会調査実習１	テーマの選定、先行研究・文献の収集と整理、仮説の設定、方法論検討、質問紙作成、データ収集、統計的検定を用いたデータの解析と解釈、報告書作成、プレゼンテーションまで、研究の流れを一通り実践することによって、研究の組み立て方や調査・分析スキル、社会調査に求められる倫理観などを身につける。 授業担当者はスケジュール管理、学術指導を行い、テーマの選定、文献の収集、仮説の設定、調査実施、データ分析、報告書作成などのすべてにおいて、学生主体で行われる。	共同
			社会調査実習２	調査票を用いた社会調査の基本的な考え方、具体的な手順を学び、実際に自分たちで調査テーマを設定し、調査票を作成して調査を行う。 問題意識の明確化→調査の設計→調査票の作成→データの収集→検票→データの入力→分析→レポート作成を行い、社会学を基礎づける量的な社会調査のすべてを実践的に経験することを通して社会学の調査研究のスキルや視線、社会調査に求められる倫理観を身につけることを目的とする。	
			社会調査実習３	文化人類学の主要な方法である質的調査の実践として、自分の足で出向き、自分の目で見て考えるフィールドワークを体験する。まずは、受講生同士および教員とのディスカッションを通じて調査イメージを固めていく。日本の伝統的技術が継承されている場所を具体的に調べると同時に、調査内容と調査地を設定する。そして、調査の受け入れ交渉を行い、調査に必要な機材の検討や滞在先の確保を行う。そうした作業と同時並行して、そのものの歴史や行政にかかわる事項を下調べし、調査時に使用するアンケートの質問項目について熟考を重ねる。具体的な調査地は学生との相談で決定する。 後期は、前期の調査内容の整理と共に、追加調査を実施した後、調査データの整理と内容分析を行う。文献調査による基礎的データの読み込みをつづけ、取得したデータとの整合性を確認すると同時に、論点を整理する。最終的には、報告書の執筆および調査成果の口頭発表を行う。	
卒業論文			卒業論文	各学科専攻で個別に指導する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本史史料論	高校までの日本史と大学の日本史と、一番の違いは「なまの」歴史資料を扱うか否か、です。日本史という学問は、歴史資料を合理的に解釈し、それを積み重ねることによって実証的に構築していかねばなりません。この授業はとくに興味深い歴史資料を読み解きながら、歴史資料と歴史像とを包括的に理解しようとするものです。 なお、扱う時代は、平安時代中期から戦国時代くらいまでを考えています。	
			古文献入門	毎回テーマごとにパワーポイントの画像、配布資料を使用して講義する。その際に写真のみでなく和装本・複製本もできるだけ用いたい。ただし、一方的に講義するのではなく、学生にも一緒に考え意見を述べてもらう。また、前期には博物館で展示を見て原本を観察し、後期には修理工房に出かけて文献資料の修理を実際に見学する。	
			国際関係史Ⅰ	ヨーロッパの「西」と「東」の間にあって、ドイツ外交は常に慎重な舵取りを行わなければならなかった。ヨーロッパの秩序を作ることがドイツ（あるいはオーストリア・プロイセン）の利益になるという信念から、メッテルニヒ、ビスマルク、シュトレーゼマンといった外交の名手たちが登場した。そしてヨーロッパ秩序を破壊して戦争を導いたのもまたドイツであった。ヴィルヘルム2世とヒトラーの時代がそれである。 この授業では、ヨーロッパ国際秩序の形成と破壊という両面を担ったドイツ外交を、できる限り一国の外交史ではなく「ヨーロッパ」という地域の視点、そしてヨーロッパ統合の要素も含めて概観する。特に二つの世界大戦についてはドキュメント映像を鑑賞し、理解を深める材料としたい。	
			国際関係史Ⅱ	20世紀後半の国際関係を強く拘束した冷戦とは、実際にどのようなものであったのかについて、主に安全保障の観点から史的に概観する。冷戦期において世界はどのようにして戦争を防ごうとしてきたか、そしてどのようなときに戦争が起こされてきたのか、何をめぐって対立が起こるのか、協調関係がもたらされるのはいかなるときか、といった視点から冷戦史の諸問題に接近する。	
			世界音楽地誌	世界各地の音楽文化を視聴覚資料を多用しながら紹介し、音楽構造や特徴、さらにその背景となっている歴史、社会、文化について概説する。また、それぞれの音楽文化の歴史的変遷とその要因についても言及し、文化の流動性・可変性についての理解も促す。	
			日本史概説Ⅰ	映画・TVで流れている歴史の名場面には原作や史実と異なったり、考證に問題のあるものが少なくない。その実態を検証しつつ、名場面から人物の実像・時代の精神を読み取り、国史（日本の歴史）の常識を深める。併せて史料批判や時代考證の初歩を学ぶ。	
			日本史概説Ⅱ	私たちの国・日本の歴史を彩る数々の名文句。それは実証的な真偽を超えて、その時代の精神・雰囲気を伝え、人物の姿を活き活きと映し出す。それはある意味でその時代に生きた人々の自画像でもある。日本人として知っておきたい名文句・エピソードを軸に神話時代から戦後まで歴史と人間の機微を探る。併せてその信憑性も検証する。	
			外国史概説Ⅰ－1	13世紀末にアナトリア西部に生まれたオスマン朝は16世紀までに東地中海から東ヨーロッパにかけての広大な領域を支配するにいたります。授業では、なぜこれほど広大な領土を長期間統治することができたのかを様々な角度から考えます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	外国史概説Ⅰ－２	清朝末期から中華民国を経て現在の中華人民共和国にいたる中国近現代の歩みを、国内的には中国政治の歴史的特質、また国際的には日本、欧米諸国、ロシアなどとの関係に留意して検討したい。	
			外国史概説Ⅱ－１	ローマ教皇、修道院、騎士や商人など人々とキリスト教との関わり、などいくつかの大きなテーマを設定し、それぞれ２，３回ずつ議論してゆく予定です。 折にふれビジュアルな資料を提供して理解を助けられたらと思います。またリアクション・ペーパーを配布して自由な質問を受け付けます。	
			外国史概説Ⅱ－２	現在、私たちにとって当然の前提となっている「歴史の進歩」、「法の支配」、「議会制民主主義」、「政治参加」、「市場社会」などの成立過程を概観することによって、「ヨーロッパ的原理」を再検討したいと思います。	
			外国史概説Ⅱ－３	５つのテーマ（絶対王政、フランス革命、帝国主義、ナチズム、冷戦と東西ドイツ統一）に焦点をあてて近現代の世界を概観する。まずそれぞれのテーマに関連した映画を鑑賞し、内容について解説したのち、映画で扱われている時代や事件、人物について講義でさらに詳しい説明を加え、多面的に理解を深めていく。	
			資料整理実習	大学が所蔵している江戸時代の古文書や近代資料を調査・整理する。出所原則や現状記録の重要性を踏まえて資料の仕分け・内容採録・目録作成を実践することで、古文書の原物に触れる大切さを経験してもらいたい。この実習で博物館・文書館などでも通用する基本的な調査・整理の方法を習得していく。	
			史料講読Ⅰ	日本史研究には、史料（古文書）の読解が必要である。当授業では、史料の中でも汎用性が高い近世のくずし字を講読する訓練を行う。併せて、近世史料読解の為に必要な基礎知識の習得と、工具書類の把握にもつとめる。なお、毎回の講義の冒頭で様々な古文書の原物を紹介・回覧するので、実物を手に取り目にすることで、古文書に対する真の理解を深める。	
			史料講読Ⅱ	古文書の読解を演習形式で行う。つまり、受講生に読んでもらったあと、教員が補正・訂正することをくり返す。	
			日本考古学	考古学は歴史学の一分野ですが、文字記録を扱う文献史学とは研究方法が異なり、多くの素材からなる遺物・遺構から歴史的情報を読み取るさまざまな方法があります。そこで、考古学が発達してきた歴史を振り返りながら、基本的な研究方法と各時代の資料構成・研究成果を整理します。なお、博物館において展示資料の見学も行います。	
			日本民俗学	前期　民俗学概論.後期　民俗芸能論 日本の生活文化を伝承形態を通して探る。前期は概論で方法論、および生業・社会・儀礼などの基礎的知識を講ずる。後期は祭礼・芸能の歴史を中心に具体的事例を通して分析する。	
			日本古代史Ⅰ	前期は、平城京前史からはじめて、平城京成立の意義、平城京・平城宮の構造、平城京住民の生活をみていく。後期は、長岡京について触れた後、平安京・平安宮の構造、平安京住民の生活をみていき、最後に平城京と平安京の比較を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本中世史Ⅰ	本講義では歴史学の中でも、特に日本中世史を取り扱う。日本の前近代社会（江戸時代までの時期）の特異な性格として、朝廷（公家政権）と幕府（武家政権）という、権力の二重構造がある。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての時代（＝中世）においては、朝廷・天皇権力が有名無実化しつつあるものの、厳然たる現実的影響力を保持しており、本来的に幕府と朝廷は互いに対立する存在であると思われてきた。しかし、近年の研究成果によれば、朝廷と幕府、天皇と将軍は互いが互いを補う相互依存の関係にあったことが明らかにされている。本講義では、将軍（幕府＝武家）が、なぜ天皇制を打倒しなかったのか、なぜ天皇という存在を必要としたのかについて、説明していきたいと考えている。	
			日本近世史Ⅰ	江戸城本丸御殿を、儀式・政治空間である「表」、将軍の執務・生活空間である「奥」、女性たちの生活空間である「大奥」に分け、それぞれの構造からみた江戸幕府の政治・制度のあり方について、主に中・後期の状況を中心に講義する。	
			日本近世史Ⅱ	歴史研究にとって最も必要な「史料」に焦点を当て、東北地方の大名文書から、幕府と藩の関係や藩の政治を研究する上で重要な意味をもつ文書・記録などをとりあげ、何が書かれてあるのかはもちろん、史料のもつ背景にまで踏みこんで解説し、近世の支配関係文書に関する基礎知識習得を目指す。	
			日本近現代史Ⅰ	明治後期初頭の生活文化を、その時代に生きる人々の感覚・視点に立って、同時・等身大の追体験を行なう。毎回、オリジナル教材を配布する。 衣食住・交通・買い物・生活習慣・年中行事・行楽など、明治の生活文化を理解する	
			日本近現代史Ⅱ－１	明治維新後に新政府が選択した様々な政策は、現代にも影響を残し続けている。その内容を精査するが、理解を深めるために視聴覚資料（史料）を多数用いる。	
			日本近現代史Ⅱ－２	本講義は、戦前日本の統治構造を踏まえつつ、明治期から昭和戦前期にかけての議会政治を歴史的に辿る。政党勢力がいかにして実力を養い、国政の中枢に進出したのか、諸政治勢力が議会政治に何を期待し、議場の内外でいかなる相克が繰り広げられたかを複眼的に論じていく。	
			日本文化史Ⅰ	幕末の開国後、東洋の島国日本を訪れる欧米人が増加する。混乱や反感の時期を経て、積極的に迎え入れる動きが始まる。その取り組みの様子や、関わった人たちの思いやねらいなどを明らかにしていく。	
			日本文化史Ⅱ	江戸時代の文化の発展に大きな役割を果たした大名庭園の世界を探る。まず、徳川将軍家の庭園や大名庭園の形成過程とその特徴を検討する。続いて、古文書・絵巻・図面・古写真を使用しながら、将軍家と大名家・旗本・公家などとの交流の実態や園芸・植栽空間としての機能について明らかにしていく。	
			中国古代文化史	中国考古学の概説である。まず考古学の概要を説明し、中国考古学の歴史的な流れを把握する。そして各時代を通史的に概観することで、各時代の物質文化の様相を考古学の視点から見て行きたい。また、通史的トピックも扱う予定である。	
			中国近代史	王朝体制から共和制、そして社会主義国家へと近現代の中国は激動の歴史をたどった。本講義では、中国近代化の展開過程を概観し、伝統と外来がおりなす東西の対抗・融合の歴史を明らかにする。中華文化を代表する豆知識の紹介を行うほか、映像資料・新聞記事も適宜併用する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	朝鮮現代史	朝鮮現代史はおもに「三つの歴史」から成っています。大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、そして日本の中のコリアン（KOREAN）の戦後も。ひとつの民族が、どのような事情で分裂し、どのように絡み合いながら歴史を歩んできたのか、これが授業のテーマです。	
			東南アジア史	東南アジアの国々には、どんな巨大遺跡があるか。また古き美術があったか。それらの偉大性をスライドを用いて紹介していく。講義の主旨は、それらの遺跡に残された、美術が語る英知と、そこに見る物語を伝える。美術の歴史的な展開も語り、各国の美術に親しんでもらう。	
			南アジア現代史	講義形式をとります。前期においては、主として南アジアという地理的空間をどのように覚え、また、それを「わたしたちの位置」との関係的思考に発展させていくのかを探ります。後期に入ると、前期の準備をふまえ、講義はインド近現代史に焦点を絞ります。とくに独立を経て、今日に至る現代インドの成り立ちを学ぶことで、多元文化社会の歴史的仕組みを身近にすることになるでしょう。この授業は物知りになるための歴史を伝えるものではありません。受講者のみなさんが、この地球世界のメンバーとして、21世紀における共生という課題の重みをそれぞれに受けとめ直してみる、そのような機会につながることを願いながら組み立てるものです。	
			西アジア近代史	前期は、オスマン帝国の歴史を通じて重要な役割を果たした遊牧民に焦点を当て、帝国が彼らをどのように統合・利用しようとしたのか、また、近代への移行のなかで国家と遊牧民の関係がどのように変化したのかを考えます。後期は、オスマン帝国の都イスタンブルにおける犯罪と処罰を具体的事例に基きながら検討します。	
			西アジア文化史	衣服は、人々の価値観や信念、思想を映し出す鏡の一つである。その時々のファッション（流行の装い）に目を向けるとき、我々は、それぞれの時代の人々が、どのような美意識を持ち、何を大切にしていたのか、その一端を知ることができる。本授業では、西アジアを事例に、これを実感することを目指す。具体的に行うのは、史料の種類やそれぞれの読み方を学ぶ「前近代の衣服と史料」、一つの時代を「洋装化」をキーワードに比較検討する「近代と洋装化」、衣服に関わる現代の様々な事象について考える「現代の服飾と伝統の創出」という、三つの作業である。	
			イスラム社会史入門	自然環境は人間の営みにどのような影響を与えてきたのだろうか。そしてそれを歴史的に解き明かすにはどのような方法がありうるのだろうか。本講義では、特異な性質をもつ大河ナイルが流れるエジプトの中世に焦点をあて、その歴史をナイルと人との関係を軸にしながら解説する。	
			古代オリエント史	ナイル川流域に成立した古代エジプト文明では、ローマ帝国のもとでキリスト教が広がりを見せるまで、約3000年に亘り、周辺文化と交流しつつ伝統的な多神教に根ざした文化が展開した。その過程を考察することで文明の本質を知り、これからの人間の生き方を探る。	
			古代ローマ史	紀元前753年に建国されたとされる、古代ローマ国家の1200年にわたる歴史について、まずはその大枠の理解を深めてもらう。その上で、現代の世界とは大きく異なる古代世界の社会について、さらには古代世界の文化について、図像資料や映像教材などを随時活用しながら、解説を加えていく。同時に、そうした社会・文化の中で生活した古代ローマ人の心性・メンタリティについて、様々なトピックを通じて受講生に考えてもらいながら、その思考をいまの自分を見つめ直す機会として活用してもらうつもりだ。受講生の興味・関心に応じ、扱う内容も随時見直していく予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	ヨーロッパ中世史Ⅰ	古代末期の文化を継承した初期中世文化の形成を経て、盛期中世におけるさまざまな局面における文化的開花、そして中世末期の成熟へと至る経過をたどります。 ここで言う「文化」とは学問や芸術というより、それらを含めた衣食住、技術、道徳、宗教など物心両面にわたる生活様式やその内容のことを指します。	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	講義形式で行われる。フィレンツェとローマはイタリア中世史を知る上で欠かせない都市である。この両都市が中世においてどのような変遷をたどるのか、またどのような接点があるのか、そして華々しいルネサンス文化がどのように生まれたのか、を明らかにする。	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	大航海時代は、現在のグローバルな世界が形成され始める世界史上でもっとも重要な時期のひとつと考えられています。この時代のイギリスには、後に世界の覇権を握る大帝国に成長することを予期させるものはありません。ヨーロッパ大陸の沖合にあって、さまざまな意味で生き残りをかけて闘っている一流半の国に過ぎませんでした。 この授業では、彼らの課題が何だったのか、そして彼らがどのようにその課題に立ち向かっていったのかを明らかにしたいと思います。 中心になるのは新大陸との交易で、それがどのようにして新しい「大西洋世界」を構築していったのか、本国および新大陸植民地にどのような影響を及ぼしたのか、を考えてみたいと思います。	
			ヨーロッパ近代史Ⅱ	ヨーロッパの多様性と共通性を学び、ヨーロッパ連合の現状を理解する。「地域」の歴史の重要性について「国家」の歴史からは把握できない側面を紹介しながら検討する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅰ	ハプスブルク帝国の歴史について、その領土の一部をなしていたハンガリーとの関係に重点をおきながら、講義形式で授業をおこなう。ハプスブルク帝国に関する映画やドキュメンタリーを補助教材として使用する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅱ	2000年に改正された新国籍法によって、ドイツでは出生地主義に基づく国籍取得が可能となり、帰化要件が緩和され、二重国籍が認められるようになった。国籍法改正から10年、さまざまな肌の色や宗教、民族と結び付けられるドイツ人のイメージが模索されているが、ドイツ社会に溶け込まない「平行社会」の存在が浮き彫りとなっている。また欧州統合の拡大を背景とし、ヨーロッパ・アイデンティティの高まりもみられる。帝政期以来、血統主義による国籍取得を原則としてきたドイツの国籍法は、出生地主義をとるフランスの国籍法と対置されてきた。歴史的に、フランス人が政治的な「国家国民」であるのに対し、ドイツ人は民族的に同質な「文化国民」であり、日本との類似性もしばしば指摘される。 この授業では、ネーションと「人種」、ジェンダーを基軸に据え、ヨーロッパの近現代を読み解いていく。近代国家は、国籍という制度によって「他者」を規定し、排除と内包の論理によってネーションを形成してきた。政治的統一に遅れたドイツにおいて、どのように「ドイツ人」や「ヨーロッパ市民」としてのアイデンティティが形成されたのか、ジェノサイドとの関連、欧州連合の拡大に重点を置いて考察していく。	
			ロシア文化史	18世紀初頭－20世紀初頭のロシア帝国の国家、社会、宗教、民族の状況を紹介し、この国が自身を「ヨーロッパか、アジアか」と問いながら近代化していった過程を学びます。	
			アメリカ史	植民地期から現代にいたるまでのアメリカ合衆国の歴史を概観する。「アメリカ人」の誕生と発展、奴隷制、産業化・都市化、移民の大量流入、社会改革運動、戦争と社会変動、権利獲得運動、女性性・男性性の構築といったテーマについて、歴史の大きな流れと関連づけつつ検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	ラテンアメリカ史	高度な古代文明が花開き、植民地時代から地域で重要な位置を占めて来たメキシコを主たる事例として取り上げ、各時代の社会構造や統治機構、思想的潮流などの特徴を概説し、ラテンアメリカ全体の共通性と地域ごとの差異についても考えてみたいと思います。	
			世界史文献講読Ⅱ－１	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅱ－２	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－１	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語文献を用い、研究するための準備となればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－２	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語を用い、研究するための準備になればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅳ－１	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。	
			世界史文献講読Ⅳ－２	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。 前期に引き続き、テキストの続きを講読します。	
			世界史文献講読Ⅴ－１	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	
			世界史文献講読Ⅴ－２	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	世界史文献講読Ⅵ－１	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
			世界史文献講読Ⅵ－２	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
			世界史演習Ⅱ－１	中国近現代史に関する英語の研究文献と東アジア近代史に関する日本語の研究文献を読む。また自由テーマの研究発表を行い、研究方法を実践的に学ぶ。	
			世界史演習Ⅱ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅱ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。レポートの中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅱ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅱ－５	研究論文についての口頭発表と質疑を行う。このほか、後期には、卒業論文執筆の準備として、出席者がそれぞれの研究テーマに基づく口頭発表を行うこととする。	
			世界史演習Ⅲ－１	卒業論文テーマに関する発表とその相互批判を通じて卒業論文の内容充実を図る。また、東アジア史に関係する研究文献を読み、研究方法を学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
			世界史演習Ⅲ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 　各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅲ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。卒業論文の中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅲ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 　イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 　この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅲ－５	卒業論文の構想発表と文献講読を組み合わせて授業を進める。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅠ（１）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅠ（２）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅡ（１）	（仏文）Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. Les thèmes abordés dépendront de l'actualité sociale. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	
			フランス語コミュニケーションⅡ（２）	（仏文）　Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 　授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 　授業は基本的には教科書に沿って進めます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	ドイツ語コミュニケーションⅡ（1）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（2）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（1）	スペイン語を聴くこと、読めること、意味がわかることを目指すために、スペイン語の要である動詞の活用練習をおこなう。さらに日本語からスペイン語への作文練習をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（2）	テキストを講読しながら、接続法がどのように使われているか理解し、接続法を使う練習問題をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（1）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（2）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			中国語コミュニケーションⅠ（1）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	
			中国語コミュニケーションⅠ（2）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	
			中国語コミュニケーションⅡ（1）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			中国語コミュニケーションⅡ（2）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	コリア語コミュニケーションⅠ（1）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（2）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅡ（1）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			コリア語コミュニケーションⅡ（2）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			法律学［含国際法］	グローバル化やIT技術の発展は、社会構造の複雑化と財の流通の加速化をもたらしますが、同時に我々をとりまく法的環境をも変化させています。この授業では、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会の法的問題に対する理解を深めていきましょう。	
			現代家族法	現代の日本社会では、個人の価値観が多様化し、夫婦・親子の家族生活に大きな変化が生じています。これは、非婚・シングルペアレント・離婚増加などの現象に表れている通りです。また、子のない夫婦の養子縁組・人工生殖は、生物学的な親子関係のない「親子」を法律的にどのように取り扱うかの課題をもたらします。高齢者の財産をどのように守るのかについても、後見制度や遺言制度のニーズを生みます。人が生まれてから死ぬまでの家族生活関係を、家族法という視点から学ぶことによって、21世紀の家族を考えて行きましょう。	
			国際法１	国際法は国際交流の大前提となる国際社会の法である。国家間を規律するが国境を超える企業活動や個人にも関わりをもつ。領土紛争など国際法上の紛争も生じている。国際法の視点から歴史と国際関係を読み解き、平和、人権、人道、経済、環境などの今日的課題について考える。	
			国際法２	国際開発援助には主として2国間の条約に基づく2国間の開発援助と多国間条約に基づき設立された国際機関により行われる開発援助がある。本講義ではその仕組み、実際の活動を解説すると共に特にアフリカの具体的な例を取り上げ国際的な協力枠組みと現場レベルでの活動を解説する。	
			取引関係法	私企業をめぐる法律関係を、種々の法分野から考察することを目的とする。私企業の活動は、公法、私法、中間法といわれる各法分野に関係するものであり、さらに現代企業の国際化からすれば渉外的法律関係をも考慮しなくてはならないところから、複眼的にこれを考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	政治学概論［含国際政治］１	日本を取り巻く国際環境は歴史的な地殻変動の最中にある。かつて、”Japan As Number One”と言われた日本が政治的にも経済的にも低迷している中で、、BRICsと呼称される新興国の台頭は目覚ましく、またイスラム諸国の情勢も刻々と変化している。加えて2012年には、アメリカを始めとする主要国で指導者選出の選挙が行われる。この授業では、激動する内外情勢を視野に入れながら国際政治理論の変遷を追い、そうすることで国内政治と対外政策の相互作用や国家間の利害の衝突等、様々な要素が複雑に絡み合う現代世界を読み解く手がかりを模索する。	
			政治学概論［含国際政治］２	民主主義の基盤は権力の分立である。この授業では、まず徹底した三権分立を取り入れたアメリカの民主政について検証し、その上で、よりよき政体を模索し続けた人類の試行錯誤の歴史を振り返る。	
			国際交流特殊講義	授業では、①まず講義や講演を通じて、日本の援助政策をめぐる課題について意識を共有しあい、②次に、与えられたテーマごとにグループ別討論を行い、③最後に全体討論で各グループの代表がグループ別討論の内容を紹介する。これらを通して、単なる知識の吸収にとどまらない、問題点を掘り下げて考察する能力や自分の考えを体系的に表明する力を養うこととする。	
			現代国際政治Ｉ	欧米主要紙の社説、インターナショナル・ヘラルド・トリビューンの報道などから国際情勢をレビューし、そのなかから、あるいはそれとは別に、テーマを選び、議論を深める。学生諸君にはペーパーを書いてもらう。	
			現代国際政治Ⅴ	1945年に戦争に敗北した日本はアメリカによる占領を受けた。アメリカの占領政策によって戦前の日本の政治体制は根本的に変化し、戦後の政治運営の基礎が築かれた。講義では、戦後日本政治の仕組みを解説し、そのもとで、日本の政治がどのように運営されてきたのか、そして、1990年前後から新たな政治体制が生れてきたが、それはどのようなものであるかを解説する。	
			行政学	行政サービスとは何か、その仕組み、行政組織と構成員の行動、政策形成、政策決定の過程について、具体的な経験を例示して講義を行う。	
			国際連合論	唯一の覇権国家になったアメリカは、ここ１５年ほど、民主主義国家の拡大を使命と感じて国際政治を動かそうとしている。このような状況下で、国連はどのような役割を果たしていけるのだろうか、考えていきたい。	
			アメリカ外交論	授業の進め方としては、まず冷戦の起源から終焉までのアメリカ外交の軌跡を振りかえるとともに、冷戦終焉後の国際社会におけるアメリカの役割、特に９．１１テロ後の世界におけるアメリカの役割をさぐることとする。	
			経済学概論［含国際経済］	日本経済とグローバル経済で起きている主要なトピックに即して、マクロ経済学、歴史、制度を解説し、経済のしくみを理解します。マクロ経済学は問題を解きながら進みます。同時に、情報経済社会に必要な人材の条件を検討し、自らのあり方を考察する作業を平行して行います。	
			経済理論入門	経済分析を行うために必要な、最も基本的な理論と概念を学びます。各種公務員試験や経済学を課す各種試験のミクロの準備もここから始めましょう。理論の説明を行ったあと、簡単な形算を使って例題を解き、理解を完全なものとします。	
			国際経済学１	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際貿易を扱います。理論・実証・政策のバランスをとりつつ、大学で次世代に伝える内容として標準的と思われる内容を講義します。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	国際経済学２	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際金融と国際マクロ経済学を扱います。国際金融の理論、制度、歴史、政策や、マクロ経済およびマクロ経済政策の国境を越える影響について講義し、必要に応じてDVDなど映像資料で理解を深めます。	
			開発経済学	授業では、開発途上国の貧困問題について、個人や家計といったミクロ経済と、一国単位のマクロ経済の両方からアプローチします。それぞれについて理論の概要を理解した後に、貧困問題の具体的な事例（児童労働など）に応用して、その原因と解決策を学習します。	
			情報処理入門	この講義は5つの段階に分けられます。はじめに、情報ネットワークの基礎知識とその利用に伴う情報社会の様々な問題について学びます。次に、大学における論文、リポートの作成のためにLaTexを使った文章作成を行います。３番目に行うことはHTMLによる基本的なHPの作成です。そして、４番目にExcelの関数機能、データベース機能について学びます。最後に、CGI機能を備えたWebサイトの構築を行います。Perl（プログラム言語）を使ってCGIスクリプトを記述し、アクセスカウンターを備えたアンケートHPを作成します。そして、クライアントとメールサーバーとのデータの送受信を行い、メールサーバー上のアンケートデータをExcelに取り込んでそのデータ処理を行います。	
			プログラム入門	コンピュータ言語には語学と同じように単語があり、文法があります。この授業では、いわば初めての語学を初歩から始めるように、コンピュータとの簡単なコミュニケーションに必要なＣ言語の基本単語の習得から始め、様々な目的のための文法を学んでいきます。なお、授業ではマイクロソフト版のコンパイラーを使いますが、このコンパイラーのフリー版や仮想Linuxコンパイラー（Windowsで使える）の自宅でのダウンロードについても説明します。	
			コンピュータサイエンス	近年、コンピュータは、マウスでクリック、或いは、画面をタッチするだけで操作可能な、誰にでも扱える道具となりました。 しかし、資源の節約の観点からも電子化が進む中、コンピュータを十分活用していくためには、ある程度の知識が必要です。 この授業を通して、PCを実際に使いながら、幅広い知識を身につけていきます。	
			応用情報処理	この講義ではLinuxの基本的な操作・仕組みを学びながら、消費者としてだけではなく、生産者としてコンピュータを利用できるようにする視点を養いたいと思います。	
			国際コミュニケーション論	新聞、放送、出版などのマスメディアの現状、役割、その大きなパラダイムシフト、それらがどのようなルールで実施されているか、さらに社会にもたらす影響や諸問題などをケーススタディーしながら進める。	
			異文化間コミュニケーション（１）	（英文） Students will be required to read an introductory book entitled ″Africa and Africans″ as well as other materials in both English and Japanese. In addition, TV programs and other media covering African issues will be used to recognize the problems which currently exist in Africa and to find solutions to those problems. （和訳）アフリカについて書かれた入門書や、日本語または英語で書かれたアフリカをテーマにした教材を読む。そして、テレビ番組や他のメディアがアフリカで起こっている問題についてどう捉え、どのような解決策を見出しているかを考える。	
			異文化間コミュニケーション（２）	国際協力、貢献論の基本的な知識を学んだ前提で、これまで行われてきた“教育支援事業”の実例を取り上げる。具体的には「日本賞国際コンクール」の役割や「ボツワナ教育テレビ創設事業」などを紹介、検証していく。 途上国の教育番組視聴などメディアによる貢献策を考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	国際交流実習１	身近で日常的なことから“くに”とは、“ナショナリズム”とはを議論する。通信、ロジスティック、様々な交流が活発になったにもかかわらず、何故対立が生まれるのか。 グループに分かれ、事実関係の調査、研究をベースに議論をし、前期終了時にそれぞれのグループが“ナショナリズムを超えて”というテーマで発表する。 前半は各教師陣がそれぞれの専門性の立場で講義し、それをベースにグループでディスカッションを重ねていく。	共同
			フランスの社会と文化（１）	「国民国家」という概念が成立するフランス革命期から始め、政教分離（ライシテ）、学校教育の改変、植民地拡大政策、フランス社会とユダヤ人、第五共和制、フランスにおけるムスリムなどを順に取り上げていく。	
			フランスの社会と文化（２）	19世紀のフランスは、前世紀末の大革命の混乱を乗り越え、近代国家へと生まれ変わろうとする。産業革命にともない新たにブルジョア市民階級が生まれ、社会全体が大きく変貌していく。そのような中で芸術家たちはどのように自らの立場を位置づけ、またどのようにそれぞれの理想の実現と向かい合ったのだろうか。本講義では主に文学と絵画の領域から代表的な芸術家を取り上げ、作品創造にあたっての彼らの試行錯誤の模様を検討していく。またそれと同時に、彼らの生きた19世紀フランス社会についての理解をも深めていく。ユゴーやモネの生きた時代の空気をつかんでいきたい。	
			ドイツの社会と文化（１）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。 数回グループディスカッションも行う予定である。	
			ドイツの社会と文化（２）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。 数回グループディスカッションも行う予定である。	
			東アジアの社会と文化（１）	地理的にも中国と不可分の関係にある日本。では我々はどれだけ中国を知っているか？　本講義では19世紀から現在に至る、中国の近現代史を概観し、基本情報を整理する。その上で、日本と中国との関係を考える手がかりを模索してみたい。また必要に応じて、時事的な問題についても言及し、そこから歴史的に遡ることもしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	ドイツ事情（１）	「良いマナーで女子力アップ」「おてんば娘」「女のくせに」等々、そのような言葉の背景には「女性」についての独特なイメージが隠されています。このイメージは個人や社会における女性に対する意識・無意識的なステレオタイプによって形成されていると考えられます。そのような言葉にみられる「女性」についてのアイデンティティーや役割分担は、生まれつき備わったものでしょうか？それとも社会により規定されたものでしょうか？ 本セミナーでは、ジェンダー学が扱う様々な問題を取り上げ、セクシュアリティーの視点から日本人女性とドイツ人女性について、日常生活から伺い知ることのできる特徴を考察します。例えば性役割、性暴力、メディアにおける性の表現などを題材に、「女性イメージ」の背後に隠された秘密を受講者とともに考え、明らかにします。尚、このセミナーは日本語で行います。	
			ドイツ事情（２）	戦争を直接知る者が誰一人いない、完全な「間接的証言」の時代の到来を目前に控え、20世紀の殺戮と破壊の記憶を、いかに後世につなぐか。21世紀に生きる私たちにとって、ますます重要な課題となっています。ナチズムとジェノサイドという負の遺産を抱えるドイツは、自国の歴史にどう向き合ってきたのでしょうか。この講義では、ナチズムとホロコーストをめぐる、戦後ドイツの共同想起の営み（想起の文化）の諸相を、諸々の論争、歴史政策、記念碑、ミュージアム、現代アートと連動した想起のプロジェクトなどの具体例に即して紹介します。	
			フランス事情（１）	まずデカルトからサルトルまでの近代的な主体観を総括し、その合理主義と人間中心主義がフランス現代思想の中心的批判対象であったことを確認する。つづいて近代的な知を批判したいくつかの思想潮流や主要な思想家の考えをたどり、そこで何が問題となっているのかを議論していく。またフランス的思想の伝統として文学を中心とした芸術も思考対象とする。	
			フランス事情（２）	写真論の古典であるベンヤミン、ソンタグ、バルトの著作を読んで写真の問題圏を整理する。そこから抽出されたテーマにそって重要な写真論者の指摘や写真芸術を見ていく。	
			中国事情（１）	歴史・ナショナリズム・人権・主権などをめぐる現代中国の諸情勢は、「尖閣」問題に象徴されるように、複雑な様相を呈している。こうした現代中国の政治・外交問題を歴史的文脈に即して解説する。	
			Contemporary American Culture（１）	（英文）　This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure. Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	Contemporary American Culture(２)	（英文）This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure. Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳） 移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	
			日欧思想交渉史入門(１)	歴史を通して、日本は度々ヨーロッパと出合い、交渉に及んでいる。その行程を「旅」としてとらえ、考察する。 本講義は入門（１）であるので、まずは様々な「旅」を促した基礎的な思想について学ぶ。特にヨーロッパの二大思想ヘレニズム（古代ギリシア）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教）において、「旅」はどのような特徴をもったか。次いで、学生の研究発表を通して、日欧の交渉に関わった人々の「旅」を具体的に検証していく。これらの「旅」と私たち自身の「旅」とに何らかのつながりを見ることはできるだろうか。	
			アジア文化論	本講義では、最初にイスラーム教に対する基本的な知識を習得する。そのうえで、現代のイスラーム世界において実際にイスラームがどのように実行されているか、イスラーム法がどのような意味を持つのかについて理解を深める。そして、イスラーム世界の家族や生活、文化全般、キリスト教徒などの少数派についても学習する。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	心理学史	教員のガイダンスのもと、受講生によるレジュメやパワーポイントを使ったテキストの発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、テキスト以外に、事前に指定された大量の文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講４	PCプレゼンテーションと配付資料による講義形式となる。行動・心の科学的測定、動物やヒトの行動基盤としての進化などについて習得する。進化理論にもとづく仮説とその検証を通して動物とヒトを統合的に理解する視点を養う。	
			認知心理学特講５	認知心理学とは，「見たり，聞いたり，覚えたり，考えたり」といった認知機能の仕組みを明らかにする学問である．この授業では，認知心理学の基礎を学ぶ材料として，さまざまな認知的バイアスを取り上げるとともに，認知心理学の具体的な応用場面として，「目撃証言」および「デザイン」の2つを取り上げることで，認知心理学の基礎から応用まで幅広く解説する．	
			認知心理学特講６	教員のガイダンスのもと、テキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、事前に指定された文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講７	教員の５回の講義に引き続いて、教員のガイダンスのもと、教員の用意するテキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、毎時間終了時に、事前に指定された文献を読み、毎回、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	認知心理学特講８	基本は講義形式です。授業中，教科書を使いますので毎回持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，グループで討論をし、発表します。また，何回かゲームをして楽しみながら，授業内容を実感してもらいます。さらに，毎授業，皆さんからの「コメント・質問」をとり，次の授業で回答します。	
			発達心理学特講１	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても論考することにしたい。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHDや自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。	
			発達心理学特講３	老年期の人々の心理やメンタルヘルス，老年期をめぐる諸問題（介護や認知症，貧困の増加など），サクセスフル・エイジングについて学ぶ。内外における高齢者研究やジェンダーの視点から考える老年期の問題についても論じる。	
			発達心理学特講６	母親は常に子どもに対して慈愛の感情を抱くわけではない。子どもの発達につれて、母親は子どもに対し、時として嫌悪や煩わしさといった感情を抱くことがある。慈愛と嫌悪という矛盾した感情を母親が子に対して抱くのはなぜか。進化と発達の観点から論じていく。	
			発達心理学特講７	毎週、前の週に配布される論文を読み、その概要をまとめたレポートを提出する。授業では、論文の内容の分析を進める	隔年
			発達心理学特講８	まず、「女性に対する暴力」を生み出し、逆に「女性に対する暴力」によって支えられてきた戦後日本社会のジェンダー構造を確認する。その上で、家族の中の暴力として、ドメスティック・バイオレンスと児童虐待を詳述する。	
			臨床心理学特講１	神経心理学は，脳損傷者の示す多彩な高次脳機能障害を手がかりとして，心と脳の関連性について検討する心理学の一領域である．本講義では，顔の視覚的認知が選択的に障害される相貌失認と，wayfinding行動の選択的障害である地誌的失見当の話題を中心に取りあげながら，私たちの心的機能の実現を支える神経過程について神経心理学的に検討を試みる．	隔年
			臨床心理学特講２	適応と関わる重大な出来事としては、別離体験（子どもの短期間の親との別離、おとなの配偶者との死別）、被虐待体験を含む外傷的出来事の体験（対人関係の問題、解離性同一性障害、外傷後ストレス障害）などを取り上げる予定である。	
			臨床心理学特講３	自己の発達における各時期の特徴を学ぶことで，標準的な発達とその過程における不利益，および病理について学ぶ。また，臨床心理学，発達心理学領域における代表的な自己理論について学ぶ。	隔年
			臨床心理学特講４	学校教育と心理臨床の違いと相補性を検討する。そして、学校で出会う子どもたちに対応するための知識を深め、子どもの適応のために必要な環境についても検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　人間関係学科）

科目区分			授業科目の名称（人間関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	臨床心理学特講５	（英文）　In many societies, numerous people suffer from a variety of psychopathology including childhood psychological disturbances, depression, schizophrenia, addiction, and suicide, to name a few.　In this course, we will learn some major forms of emotional and behavioral disorders and examine their causes, symptoms, clinical course, and treatment. （和訳）多くの社会で、たくさんの人々が、子どもの心理的問題、鬱、統合失調症、薬物依存症、自殺などの、精神病理に苦しんでいる。このコースでは、いくつかの情動や行動の問題を学び、その原因、症状、治療などについて検討する。	
			臨床心理学特講６	思春期は誰しもが心揺らぐ時期です。まず、思春期の心の特徴と問題について考えます。また、現代の社会は子どもも生きづらい世の中になっています。子どもを取り巻く社会の問題を取り上げて、子どもの心への影響について学びます。最後に、発達障害を理解し、その支援について考えます。	
			臨床心理学特講７	臨床心理学の中でもブリーフサイコセラピーについて学びます。入門書を読みながら、ロールプレイで体験をしながら、実感としての学びが得られるようにしていきます。カウンセリングマインド、クライエントに対する姿勢、受容と傾聴などカウンセリングの土台についても体験的に学びます。その中で、自分や他者の言動について振り返って考えることがあります。振り返ると、時に辛い気持ちになるかもしれません。そうした自分の気持ちに向かい合うエネルギーがないと思われる方は、授業を取る前にお考えください。心配な方は初回授業にご相談ください。	
			臨床心理学特講８	基本テーマは「眠りを疎かにしている日本社会」です。眠りに関する基礎知識を得たうえで、「ヒトは寝て食べて始めて活動できる動物である」との当然の事実を確認し、現代日本が抱えている問題のかなりの部分に、我々が動物であることの謙虚さを失い、眠りを疎かにしたことの代償が及んでいることを認識していただければと思います。そして願わくばこの講義が今後の皆さんの生き方を考える際の、さらには小児科医である私の立場からは、皆さんが今後子育てをなさる際の、参考に多少ともなれば幸いです。	
			発達心理学１	胎児期から幼児期くらいまでの発達を考える。可能な限りビデオなどを使用して、視覚・聴覚をフル活用するような授業をしたい。	
			発達心理学２	児童期から青年期の身体的発達と認知的発達、および心理社会的発達について概説する。発達心理学の基礎知識をふまえ、中学生・高校生に現れやすい心理臨床的諸問題とそれらへの対応を概説する。障害をもつ子どもの発達と学習の過程についても述べる。全体的には講義形式で行うが、グループ討論の機会も設ける。原則として毎回リアクション・ペーパーの提出を求める。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	必修科目	国際交流概論	各領域の専任教員がぞれぞれの学問的立場から特性・問題点・研究方法・考案の仕方等を順次紹介していく。	共同
			英語コミュニケーションⅠ（1）	（英文）　A computer skills class in English to ensure that students are able to find reliable information in English and use it for oral and written communication. Students choose a topic, use the internet to research that topic in English, write a speech on the topic, and use PowerPoint to make a computer presentation in English in front of the class. （和訳）英語で行われるパソコンのスキルを学ぶ授業。英語で書かれている情報が正確なものかを判断し、それを会話や文章でのコミュニケーションに応用できるようになることを目指す。選んだテーマについてインターネットで調べ、スピーチ原稿を書き、パワーポイントで資料を作成し、英語による発表を授業内に行います。	
			英語コミュニケーションⅠ（2）	（英文）　To give students the opportunity and skills to discuss and debate the most current events and social issues in other countries and Japan in English; to see events and issues from a global perspective; to improve critical thinking skills; to express verbal and written opinions; to reinforce first semester computer skills. （和訳）日本や諸外国で起こった最新の出来事や社会問題について英語でディベートするスキルを身につける。グローバルな視点で物事を捉え、論理的に考えるスキルを高め、自分の意見を文章で表現できるようにし、英語コミュニケーション（1）で得たスキルをさらに向上させる。	
			英語コミュニケーションⅡ（1）	（英文）　Listening, speaking, reading, and writing related to current events, news topics, and social issues; global thinking; communication skills; development and expression of opinions; research in English. （和訳）最新のニュース、出来事、社会問題について英語で「聞く」「話す」「読む」「書く」力を養う。あわせて、グローバルな思考力、コミュニケーション能力や、意見を表現する力、英語でリサーチする力も養成する。	
			英語コミュニケーションⅡ（2）	（英文）　Listening, speaking, reading, and writing related to current events, news topics, and social issues; global thinking; communication skills; development and expression of opinions; research in English. （和訳）最新のニュース、出来事、社会問題について英語で「聞く」「話す」「読む」「書く」力を養う。あわせて、グローバルな思考力、コミュニケーション能力や、意見を表現する力、英語でリサーチする力も養成する。	
		基礎言語コミュニケーション	フランス語コミュニケーションⅠ（1）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅠ（2）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	基礎言語コミュニケーション	フランス語コミュニケーションⅡ（１）	（仏文）Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. Les thèmes abordés dépendront de l'actualité sociale. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	
			フランス語コミュニケーションⅡ（２）	（仏文）　Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（１）	スペイン語を聴くこと、読めること、意味がわかることを目指すために、スペイン語の要である動詞の活用練習をおこなう。さらに日本語からスペイン語への作文練習をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（２）	テキストを講読しながら、接続法がどのように使われているか理解し、接続法を使う練習問題をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（１）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（２）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	基礎言語コミュニケーション	中国語コミュニケーションⅠ（1）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	
			中国語コミュニケーションⅠ（2）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	
			中国語コミュニケーションⅡ（1）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			中国語コミュニケーションⅡ（2）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（1）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（2）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅡ（1）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			コリア語コミュニケーションⅡ（2）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
		演習Ⅰ	法学演習Ⅰ（1）	現代社会の法的問題や解決方法を学びます。前期は、教材にそって、各自が報告し、質疑を通して理解を深めます。	
			法学演習Ⅰ（2）	各自が卒論テーマに関する研究計画を作成するための報告を行います。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	演習Ⅰ	国際政治演習Ⅰ（1）	この演習では、第二次世界大戦以降現在に至る日本外交の歩みを振り返り、21世紀における日本外交のあり方を模索する。実際に外交交渉に携わった人達との懇談の機会も設け、「外交とは何か」「日本の役割はどのようなものであるべきか」を改めて考えてみたい。演習は、授業時間中の本ゼミ（詳細は授業計画参照）と授業外のサブ・ゼミの２本柱からなる。本ゼミでは、国際社会の現状と、その中での日本外交のあり方を文献講読の形で模索する。サブ・ゼミでは、前期には、①他大学との合同ゼミ(6月「世界とアメリカセミナー」)、②国際交流特殊講義（８月）、後期には、③聖心祭におけるゼミ発表（10月）、④他大学との合同ゼミ（「安全保障」）（12月）等の諸行事に参加するための準備を行う。	
			国際政治演習Ⅰ（2）	聖心祭や安全保障に関する他大学との合同セミナー（12月）を念頭において、本ゼミとサブ・ゼミの双方で、それらのテーマに則した文献の購読や論文の作成に当たる。	
			国際経済演習Ⅰ（1）	グローバル経済の現状を、光と影の両面からとらえた国際経済学のテキストを中心に輪読します。ゼミの進め方、レジュメの書き方、問題提起の仕方、プレゼンテーションの仕方、質疑応答や論理的な議論の進め方、論文の書き方など、基本的な研究の技能を学びます。同時に国際経済問題をテーマにグループ研究を行い，他大学との研究発表会とディベート大会に備えます．この研究を通じて広い国際的視野と協働能力，しっかりとした思考力を養います.	
			国際経済演習Ⅰ（2）	各自の問題意識に基づく研究の発表を行い，期末には10000字のサーベイ論文を執筆します。前期から始めた国際経済問題をテーマに行ったグループ研究を完成させ，他大学との研究発表会を通じて，学外でも通用する討議能力と協働能力を身につけます．期末からは4年次に向けてソーシャルビジネスの企画立案を始めます.	
			情報科学演習Ⅰ（1）	データベースの作成と利用について授業計画の項目を順番に予習・実習を行います。	
			情報科学演習Ⅰ（2）	各自の調査研究対象を決め、順次その研究結果を報告し、ゼミ内でディスカッションをします。	
			異文化間コミュニケーション演習Ⅰ（1）	アフリカに関する参考文献、図書などの中から学生が選択、それについて発表を行い、議論を進めていく。第一次資料（選択したメディア）の検証、そこで描かれていることを確認、そして事実に近づいていく調査などを毎回発表し討議し“アフリカで起こっていること”を認識していく。	
			異文化間コミュニケーション演習Ⅰ（2）	援助大国となった日本、その歴史的経緯、また世界的な国際協力の仕組みなど基本的な知識を学んでいく。多様な方法論を知ることにより学術的、分析的な議論を整理していく。 こうした考察を基に、どのような国際協力の方法がありうるのか、国際貢献とはどういうことなのかを事実検証をしながら議論を深めていくものとする。講義、ディスカッション、グループによるプレゼンなどの組み合わせで進める。	
			フランス社会文化演習Ⅰ（1）	豊かな歴史と文化を持つフランスという国について、様々な切り口から検討を重ねていく。受講者は資料を用いて各自担当のテーマについて発表を行い、その後全員で討論に移るというのが原則的な形式となる。	
			フランス社会文化演習Ⅰ（2）	フランスの社会・文化を扱った比較的分量のある文献資料を全員で輪読していく。受講者は担当部分について入念な下調べを行い、授業内で発表を行う。その後全員による討論に移る。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	演習Ⅰ	ドイツ社会文化演習Ⅰ（1）	このゼミには大きく二つの柱がある。 一つ目は精読。ドイツ語圏の文化・社会・歴史等に関する文献を全員で精読し、自分の言葉で担当箇所の内容を説明することが求められる。 二つ目は研究発表。ドイツ語圏に関わることならば基本的にどのような対象でもよいので、自分の興味・関心のあることに関して発表をする。	
			ドイツ社会文化演習Ⅰ（2）	このゼミには大きく二つの柱がある。 一つ目は精読。ドイツ語圏の文化・社会・歴史等に関する文献を全員で精読し、自分の言葉で担当箇所の内容を説明することが求められる。 二つ目は研究発表。ドイツ語圏に関わることならば基本的にどのような対象でもよいので、自分の興味・関心のあることに関して発表をする。	
			中国社会文化演習Ⅰ（1）	テキストを指定し、演習形式で担当者が報告する形で授業を進める。　演習形式で発表と質疑応答を基本とする。	
			中国社会文化演習Ⅰ（2）	テキストを指定し、演習形式で担当者が報告する形で授業を進める。　演習形式で発表と質疑応答を基本とする。	
			日欧比較思想演習Ⅰ（1）	思想の定義・比較の方法と対象・ヨーロッパの問題について・比較研究の例などを学び、日本を軸としてヨーロッパおよび近接地域の文化および思想交渉の問題の中からテーマを選び、各自が文献を調べて発表、討議を行う。	
			日欧比較思想演習Ⅰ（2）	思想の定義・比較の方法と対象・ヨーロッパの問題について・比較研究の例などを学び、日本を軸としてヨーロッパおよび近接地域の文化および思想交渉の問題の中からテーマを選び、各自が文献を調べて発表、討議を行う。前期からの研究成果は聖心祭で発表する。	
		演習Ⅱ	法学演習Ⅱ（1）	各自が卒論テーマを執筆するための研究報告を行い、個人指導を受けます。	
			法学演習Ⅱ（2）	各自が卒論テーマを執筆するための研究報告を行い、個人指導を受けます。	
			国際政治演習Ⅱ（1）	外交の第一線で活躍する人たちを招いての討論会や、政治家等へのインタヴューを行い、外交の現場を体感する機会に挑戦する。また同時に、自身の学びの成果としての卒業論文に向けての研究を進める。	
			国際政治演習Ⅱ（2）	後期は、前半では、各人の卒業論文の大筋を固める。後半では、主に個人指導を通じて卒業論文を完成させていく。また完成原稿が出来上がった時点で学生同士の読み合わせを行い、互いに切磋琢磨しながら各人の論文の完成度の向上に努める。	
			国際経済演習Ⅱ（1）	卒業論文の研究を進め、発表し、執筆を進めます。夏合宿までに研究の核を完成させます。同時に、3年秋から進めてきたソーシャル・ビジネス企画案のグループ研究をまとめ、発表します。	
			国際経済演習Ⅱ（2）	卒業論文の研究と執筆を進めます。ゼミでの発表と教員によるコメントを参考に修正を加え、卒業論文を完成させます。	
			情報科学演習Ⅱ（1）	各自の研究テーマについての議論をゼミ形式で行います。	
			情報科学演習Ⅱ（2）	各自の発表とそのディスカッションを行います。	
			異文化間コミュニケーション演習Ⅱ（1）	基本的には各自のプレゼンテーション、中間報告を元にゼミ全体で課題をシェアし、議論を進める。	
			異文化間コミュニケーション演習Ⅱ（2）	基本的には各自のプレゼンテーション、互いの読み合わせなどを元にゼミ全体で課題をシェアし、議論を進める。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野		フランス社会文化演習Ⅱ（1）	卒業論文のテーマに関する発表と学生相互による意見交換が中心となる。その過程で具体的なテーマの決め方、資料の収集法、その読み解き方、論文執筆の作法などについて指導を行う。	
			フランス社会文化演習Ⅱ（2）	前半は、卒業論文のテーマと構成を最終的に決めていくことに主眼を置く。また執筆に必要となる心構えと具体的な技法を再確認する。それを踏まえた上で後半は各自で執筆に入り、個別指導を受けることになる。	
			ドイツ社会文化演習Ⅱ（1）	卒業論文執筆指導が主となる。履修者は自分の論文の発表を行い、みんなで議論をする。	
			ドイツ社会文化演習Ⅱ（2）	卒業論文執筆指導が主となる。履修者は自分の論文の発表を行い、みんなで議論をする。	
			中国社会文化演習Ⅱ（1）	文献の講読、発表を通じて、個々人が研究の基礎を確立する。	
			中国社会文化演習Ⅱ（2）	文献の講読、発表を通じて、個々人が研究の基礎を確立する。	
			日欧比較思想演習Ⅱ（1）	日本とヨーロッパの思想交渉、比較文化、日本文化論を研究する４年次生を対象とした卒業論文指導、ならびにテキスト講読。講読するテキストは、候補の中から受講生が選択する。	
			日欧比較思想演習Ⅱ（2）	日本とヨーロッパの思想交渉、比較文化、日本文化論を研究する４年次生を対象とした卒業論文指導。前期に引き続き卒業論文の内容発表を行い、それについての討議を行う。討議を通して得た自らの気づきを論文に反映させる。	
		領域科目	法律学［含国際法］	グローバル化やIT技術の発展は、社会構造の複雑化と財の流通の加速化をもたらしますが、同時に我々をとりまく法的環境をも変化させています。この授業では、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会の法的問題に対する理解を深めていきましょう。	
			現代家族法	現代の日本社会では、個人の価値観が多様化し、夫婦・親子の家族生活に大きな変化が生じています。これは、非婚・シングルペアレント・離婚増加などの現象に表れている通りです。また、子のない夫婦の養子縁組・人工生殖は、生物学的な親子関係のない「親子」を法律的にどのように取り扱うかの課題をもたらします。高齢者の財産をどのように守るのかについても、後見制度や遺言制度のニーズを生みます。人が生まれてから死ぬまでの家族生活関係を、家族法という視点から学ぶことによって、21世紀の家族を考えて行きましょう。	
			国際法１	国際法は国際交流の大前提となる国際社会の法である。国家間を規律するが国境を超える企業活動や個人にも関わりをもつ。領土紛争など国際法上の紛争も生じている。国際法の視点から歴史と国際関係を読み解き、平和、人権、人道、経済、環境などの今日的課題について考える。	
			国際法２	国際開発援助には主として2国間の条約に基づく2国間の開発援助と多国間条約に基づき設立された国際機関により行われる開発援助がある。本講義ではその仕組み、実際の活動を解説すると共に特にアフリカの具体的な例を取り上げ国際的な協力枠組みと現場レベルでの活動を解説する。	
			取引関係法	私企業をめぐる法律関係を、種々の法分野から考察することを目的とする。私企業の活動は、公法、私法、中間法といわれる各法分野に関係するものであり、さらに現代企業の国際化からすれば渉外的法律関係をも考慮しなくてはならないところから、複眼的にこれを考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	領域科目	政治学概論［含国際政治］１	日本を取り巻く国際環境は歴史的な地殻変動の最中にある。かつて、”Japan As Number One”と言われた日本が政治的にも経済的にも低迷している中で、、BRICsと呼称される新興国の台頭は目覚ましく、またイスラム諸国の情勢も刻々と変化している。加えて2012年には、アメリカを始めとする主要国で指導者選出の選挙が行われる。この授業では、激動する内外情勢を視野に入れながら国際政治理論の変遷を追い、そうすることで国内政治と対外政策の相互作用や国家間の利害の衝突等、様々な要素が複雑に絡み合う現代世界を読み解く手がかりを模索する。	
			政治学概論［含国際政治］２	民主主義の基盤は権力の分立である。この授業では、まず徹底した三権分立を取り入れたアメリカの民主政について検証し、その上で、よりよき政体を模索し続けた人類の試行錯誤の歴史を振り返る。	
			国際交流特殊講義	授業では、①まず講義や講演を通じて、日本の援助政策をめぐる課題について意識を共有しあい、②次に、与えられたテーマごとにグループ別討論を行い、③最後に全体討論で各グループの代表がグループ別討論の内容を紹介する。これらを通して、単なる知識の吸収にとどまらない、問題点を掘り下げて考察する能力や自分の考えを体系的に表明する力を養うこととする。	
			現代国際政治Ｉ	欧米主要紙の社説、インターナショナル・ヘラルド・トリビューンの報道などから国際情勢をレビューし、そのなかから、あるいはそれとは別に、テーマを選び、議論を深める。学生諸君にはペーパーを書いてもらう。	
			現代国際政治Ｖ	1945年に戦争に敗北した日本はアメリカによる占領を受けた。アメリカの占領政策によって戦前の日本の政治体制は根本的に変化し、戦後の政治運営の基礎が築かれた。講義では、戦後日本政治の仕組みを解説し、そのもとで、日本の政治がどのように運営されてきたのか、そして、1990年前後から新たな政治体制が生れてきたが、それはどのようなものであるかを解説する。	
			行政学	行政サービスとは何か、その仕組み、行政組織と構成員の行動、政策形成、政策決定の過程について、具体的な経験を例示して講義を行う。	
			国際連合論	唯一の覇権国家になったアメリカは、ここ１５年ほど、民主主義国家の拡大を使命と感じて国際政治を動かそうとしている。このような状況下で、国連はどのような役割を果たしていけるのだろうか、考えていきたい。	
			アメリカ外交論	授業の進め方としては、まず冷戦の起源から終焉までのアメリカ外交の軌跡を振りかえるとともに、冷戦終焉後の国際社会におけるアメリカの役割、特に９．１１テロ後の世界におけるアメリカの役割をさぐることとする。	
			経済学概論［含国際経済］	日本経済とグローバル経済で起きている主要なトピックに即して、マクロ経済学、歴史、制度を解説し、経済のしくみを理解します。マクロ経済学は問題を解きながら進みます。同時に、情報経済社会に必要な人材の条件を検討し、自らのあり方を考察する作業を平行して行います。	
			経済理論入門	経済分析を行うために必要な、最も基本的な理論と概念を学びます。各種公務員試験や経済学を課す各種試験のミクロの準備もここから始めましょう。理論の説明を行ったあと、簡単な形算を使って例題を解き、理解を完全なものとします。	
			国際経済学１	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際貿易を扱います。理論・実証・政策のバランスをとりつつ、大学で次世代に伝える内容として標準的と思われる内容を講義します。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	領域科目	国際経済学２	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際金融と国際マクロ経済学を扱います。国際金融の理論、制度、歴史、政策や、マクロ経済およびマクロ経済政策の国境を越える影響について講義し、必要に応じてDVDなど映像資料で理解を深めます。	
			開発経済学	授業では、開発途上国の貧困問題について、個人や家計といったミクロ経済と、一国単位のマクロ経済の両方からアプローチします。それぞれについて理論の概要を理解した後に、貧困問題の具体的な事例（児童労働など）に応用して、その原因と解決策を学習します。	
			情報処理入門	この講義は5つの段階に分けられます。はじめに、情報ネットワークの基礎知識とその利用に伴う情報社会の様々な問題について学びます。次に、大学における論文、リポートの作成のためにLaTexを使った文章作成を行います。３番目に行うことはHTMLによる基本的なHPの作成です。そして、４番目にExcelの関数機能、データベース機能について学びます。最後に、CGI機能を備えたWebサイトの構築を行います。Perl（プログラム言語）を使ってCGIスクリプトを記述し、アクセスカウンターを備えたアンケートHPを作成します。そして、クライアントとメールサーバーとのデータの送受信を行い、メールサーバー上のアンケートデータをExcelに取り込んでそのデータ処理を行います。	
			プログラム入門	コンピュータ言語には語学と同じように単語があり、文法があります。この授業では、いわば初めての語学を初歩から始めるように、コンピュータとの簡単なコミュニケーションに必要なＣ言語の基本単語の習得から始め、様々な目的のための文法を学んでいきます。なお、授業ではマイクロソフト版のコンパイラーを使いますが、このコンパイラーのフリー版や仮想Linuxコンパイラー（Windowsで使える）の自宅でのダウンロードについても説明します。	
			コンピュータサイエンス	近年、コンピュータは、マウスでクリック、或いは、画面をタッチするだけで操作可能な、誰にでも扱える道具となりました。 しかし、資源の節約の観点からも電子化が進む中、コンピュータを十分活用していくためには、ある程度の知識が必要です。 この授業を通して、PCを実際に使いながら、幅広い知識を身につけていきます。	
			応用情報処理	この講義ではLinuxの基本的な操作・仕組みを学びながら、消費者としてだけではなく、生産者としてコンピュータを利用できるようにする視点を養いたいと思います。	
			国際コミュニケーション論	新聞、放送、出版などのマスメディアの現状、役割、その大きなパラダイムシフト、それらがどのようなルールで実施されているか、さらに社会にもたらす影響や諸問題などをケーススタディーしながら進める。	
			異文化間コミュニケーション(１)	（英文）　Students will be required to read an introductory book entitled ″Africa and Africans″ as well as other materials in both English and Japanese. In addition, TV programs and other media covering African issues will be used to recognize the problems which currently exist in Africa and to find solutions to those problems. （和訳）アフリカについて書かれた入門書や、日本語または英語で書かれたアフリカをテーマにした教材を読む。そして、テレビ番組や他のメディアがアフリカで起こっている問題についてどう捉え、どのような解決策を見出しているかを考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	領域科目	異文化間コミュニケーション（2）	国際協力、貢献論の基本的な知識を学んだ前提で、これまで行われてきた“教育支援事業”の実例を取り上げる。具体的には「日本賞国際コンクール」の役割や「ボツワナ教育テレビ創設事業」などを紹介、検証していく。 途上国の教育番組視聴などメディアによる貢献策を考える。	
			国際交流実習１	身近で日常的なことから“くに”とは、“ナショナリズム”とはを議論する。通信、ロジスティック、様々な交流が活発になったにもかかわらず、何故対立が生まれるのか。 グループに分かれ、事実関係の調査、研究をベースに議論をし、前期終了時にそれぞれのグループが“ナショナリズムを超えて”というテーマで発表する。 前半は各教師陣がそれぞれの専門性の立場で講義し、それをベースにグループでディスカッションを重ねていく。	共同
			フランスの社会と文化（1）	「国民国家」という概念が成立するフランス革命期から始め、政教分離（ライシテ）、学校教育の改変、植民地拡大政策、フランス社会とユダヤ人、第五共和制、フランスにおけるムスリムなどを順に取り上げていく。	
			フランスの社会と文化（2）	19世紀のフランスは、前世紀末の大革命の混乱を乗り越え、近代国家へと生まれ変わろうとする。産業革命にともない新たにブルジョア市民階級が生まれ、社会全体が大きく変貌していく。そのような中で芸術家たちはどのように自らの立場を位置づけ、またどのようにそれぞれの理想の実現と向かい合ったのだろうか。本講義では主に文学と絵画の領域から代表的な芸術家を取り上げ、作品創造にあたっての彼らの試行錯誤の模様を検討していく。またそれと同時に、彼らの生きた19世紀フランス社会についての理解をも深めていく。ユゴーやモネの生きた時代の空気をつかんでいきたい。	
			ドイツの社会と文化（1）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。数回グループディスカッションも行う予定である。	
			ドイツの社会と文化（2）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。数回グループディスカッションも行う予定である。	
			東アジアの社会と文化（1）	地理的にも中国と不可分の関係にある日本。では我々はどれだけ中国を知っているか？　本講義では19世紀から現在に至る、中国の近現代史を概観し、基本情報を整理する。その上で、日本と中国との関係を考える手がかりを模索してみたい。また必要に応じて、時事的な問題についても言及し、そこから歴史的に遡ることもしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	領域科目	ドイツ事情（1）	「良いマナーで女子力アップ」「おてんば娘」「女のくせに」等々、そのような言葉の背景には「女性」についての独特なイメージが隠されています。このイメージは個人や社会における女性に対する意識・無意識的なステレオタイプによって形成されていると考えられます。そのような言葉にみられる「女性」についてのアイデンティティーや役割分担は、生まれつき備わったものでしょうか？それとも社会により規定されたものでしょうか？ 本セミナーでは、ジェンダー学が扱う様々な問題を取り上げ、セクシュアリティーの視点から日本人女性とドイツ人女性について、日常生活から伺い知ることのできる特徴を考察します。例えば性役割、性暴力、メディアにおける性の表現などを題材に、「女性イメージ」の背後に隠された秘密を受講者とともに考え、明らかにします。尚、このセミナーは日本語で行います。	
			ドイツ事情（2）	戦争を直接知る者が誰一人いない、完全な「間接的証言」の時代の到来を目前に控え、20世紀の殺戮と破壊の記憶を、いかに後世につなぐか。21世紀に生きる私たちにとって、ますます重要な課題となっています。ナチズムとジェノサイドという負の遺産を抱えるドイツは、自国の歴史にどう向き合ってきたのでしょうか。この講義では、ナチズムとホロコーストをめぐる、戦後ドイツの共同想起の営み（想起の文化）の諸相を、諸々の論争、歴史政策、記念碑、ミュージアム、現代アートと連動した想起のプロジェクトなどの具体例に即して紹介します。	
			フランス事情（1）	まずデカルトからサルトルまでの近代的な主体観を総括し、その合理主義と人間中心主義がフランス現代思想の中心的批判対象であったことを確認する。つづいて近代的な知を批判したいくつかの思想潮流や主要な思想家の考えをたどり、そこで何が問題となっているのかを議論していく。またフランス的思想の伝統として文学を中心とした芸術も思考対象とする。	
			フランス事情（2）	写真論の古典であるベンヤミン、ソンタグ、バルトの著作を読んで写真の問題圏を整理する。そこから抽出されたテーマにそって重要な写真論者の指摘や写真芸術を見ていく。	
			中国事情（1）	歴史・ナショナリズム・人権・主権などをめぐる現代中国の諸情勢は、「尖閣」問題に象徴されるように、複雑な様相を呈している。こうした現代中国の政治・外交問題を歴史的文脈に即して解説する。	
			Contemporary American Culture（1）	（英文）　This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure. Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	領域科目	Contemporary American Culture(２)	（英文）This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure. Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	
			日欧思想交渉史入門(１)	歴史を通して、日本は度々ヨーロッパと出合い、交渉に及んでいる。その行程を「旅」としてとらえ、考察する。 本講義は入門（１）であるので、まずは様々な「旅」を促した基礎的な思想について学ぶ。特にヨーロッパの二大思想ヘレニズム（古代ギリシア）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教）において、「旅」はどのような特徴をもったか。次いで、学生の研究発表を通して、日欧の交渉に関わった人々の「旅」を具体的に検証していく。これらの「旅」と私たち自身の「旅」とに何らかのつながりを見ることはできるだろうか。	
			アジア文化論	本講義では、最初にイスラーム教に対する基本的な知識を習得する。そのうえで、現代のイスラーム世界において実際にイスラームがどのように実行されているか、イスラーム法がどのような意味を持つのかについて理解を深める。そして、イスラーム世界の家族や生活、文化全般、キリスト教徒などの少数派についても学習する。	
卒業論文			卒業論文	各学科専攻で個別に指導する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本史史料論	高校までの日本史と大学の日本史と、一番の違いは「なまの」歴史資料を扱うか否か、です。日本史という学問は、歴史資料を合理的に解釈し、それを積み重ねることによって実証的に構築していかねばなりません。この授業はとくに興味深い歴史資料を読み解きながら、歴史資料と歴史像とを包括的に理解しようとするものです。 なお、扱う時代は、平安時代中期から戦国時代くらいまでを考えています。	
			古文献入門	毎回テーマごとにパワーポイントの画像、配布資料を使用して講義する。その際に写真のみでなく和装本・複製本もできるだけ用いたい。ただし、一方的に講義するのではなく、学生にも一緒に考え意見を述べてもらう。また、前期には博物館で展示を見て原本を観察し、後期には修理工房に出かけて文献資料の修理を実際に見学する。	
			国際関係史Ⅰ	ヨーロッパの「西」と「東」の間にあって、ドイツ外交は常に慎重な舵取りを行わなければならなかった。ヨーロッパの秩序を作ることがドイツ（あるいはオーストリア・プロイセン）の利益になるという信念から、メッテルニヒ、ビスマルク、シュトレーゼマンといった外交の名手たちが登場した。そしてヨーロッパ秩序を破壊して戦争を導いたのもまたドイツであった。ヴィルヘルム2世とヒトラーの時代がそれである。 この授業では、ヨーロッパ国際秩序の形成と破壊という両面を担ったドイツ外交を、できる限り一国の外交史ではなく「ヨーロッパ」という地域の視点、そしてヨーロッパ統合の要素も含めて概観する。特に二つの世界大戦についてはドキュメント映像を鑑賞し、理解を深める材料としたい。	
			国際関係史Ⅱ	20世紀後半の国際関係を強く拘束した冷戦とは、実際にどのようなものであったのかについて、主に安全保障の観点から史的に概観する。冷戦期において世界はどのようにして戦争を防ごうとしてきたか、そしてどのようなときに戦争が起こされてきたのか、何をめぐって対立が起こるのか、協調関係がもたらされるのはいかなるときか、といった視点から冷戦史の諸問題に接近する。	
			世界音楽地誌	世界各地の音楽文化を視聴覚資料を多用しながら紹介し、音楽構造や特徴、さらにその背景となっている歴史、社会、文化について概説する。また、それぞれの音楽文化の歴史的変遷とその要因についても言及し、文化の流動性・可変性についての理解も促す。	
			日本史概説Ⅰ	映画・TVで流れている歴史の名場面には原作や史実と異なったり、考證に問題のあるものが少なくない。その実態を検証しつつ、名場面から人物の実像・時代の精神を読み取り、国史（日本の歴史）の常識を深める。併せて史料批判や時代考證の初歩を学ぶ。	
			日本史概説Ⅱ	私たちの国・日本の歴史を彩る数々の名文句。それは実証的な真偽を超えて、その時代の精神・雰囲気を伝え、人物の姿を活き活きと映し出す。それはある意味でその時代に生きた人々の自画像でもある。日本人として知っておきたい名文句・エピソードを軸に神話時代から戦後まで歴史と人間の機微を探る。併せてその信憑性も検証する。	
			外国史概説Ⅰ－1	13世紀末にアナトリア西部に生まれたオスマン朝は16世紀までに東地中海から東ヨーロッパにかけての広大な領域を支配するにいたります。授業では、なぜこれほど広大な領土を長期間統治することができたのかを様々な角度から考えます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	外国史概説Ⅰ－２	清朝末期から中華民国を経て現在の中華人民共和国にいたる中国近現代の歩みを、国内的には中国政治の歴史的特質、また国際的には日本、欧米諸国、ロシアなどとの関係に留意して検討したい。	
			外国史概説Ⅱ－１	ローマ教皇、修道院、騎士や商人など人々とキリスト教との関わり、などいくつかの大きなテーマを設定し、それぞれ２，３回ずつ議論してゆく予定です。 折にふれビジュアルな資料を提供して理解を助けられたらと思います。またリアクション・ペーパーを配布して自由な質問を受け付けます。	
			外国史概説Ⅱ－２	現在、私たちにとって当然の前提となっている「歴史の進歩」、「法の支配」、「議会制民主主義」、「政治参加」、「市場社会」などの成立過程を概観することによって、「ヨーロッパ的原理」を再検討したいと思います。	
			外国史概説Ⅱ－３	５つのテーマ（絶対王政、フランス革命、帝国主義、ナチズム、冷戦と東西ドイツ統一）に焦点をあてて近現代の世界を概観する。まずそれぞれのテーマに関連した映画を鑑賞し、内容について解説したのち、映画で扱われている時代や事件、人物について講義でさらに詳しい説明を加え、多面的に理解を深めていく。	
			資料整理実習	大学が所蔵している江戸時代の古文書や近代資料を調査・整理する。出所原則や現状記録の重要性を踏まえて資料の仕分け・内容採録・目録作成を実践することで、古文書の原物に触れる大切さを経験してもらいたい。この実習で博物館・文書館などでも通用する基本的な調査・整理の方法を習得していく。	
			史料講読Ⅰ	日本史研究には、史料（古文書）の読解が必要である。当授業では、史料の中でも汎用性が高い近世のくずし字を講読する訓練を行う。併せて、近世史料読解の為に必要な基礎知識の習得と、工具書類の把握にもつとめる。なお、毎回の講義の冒頭で様々な古文書の原物を紹介・回覧するので、実物を手に取り目にすることで、古文書に対する真の理解を深める。	
			史料講読Ⅱ	古文書の読解を演習形式で行う。つまり、受講生に読んでもらったあと、教員が補正・訂正することをくり返す。	
			日本考古学	考古学は歴史学の一分野ですが、文字記録を扱う文献史学とは研究方法が異なり、多くの素材からなる遺物・遺構から歴史的情報を読み取るさまざまな方法があります。そこで、考古学が発達してきた歴史を振り返りながら、基本的な研究方法と各時代の資料構成・研究成果を整理します。なお、博物館において展示資料の見学も行います。	
			日本民俗学	前期　民俗学概論.後期　民俗芸能論 日本の生活文化を伝承形態を通して探る。前期は概論で方法論、および生業・社会・儀礼などの基礎的知識を講ずる。後期は祭礼・芸能の歴史を中心に具体的事例を通して分析する。	
			日本古代史Ⅰ	前期は、平城京前史からはじめて、平城京成立の意義、平城京・平城宮の構造、平城京住民の生活をみていく。後期は、長岡京について触れた後、平安京・平安宮の構造、平安京住民の生活をみていき、最後に平城京と平安京の比較を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本中世史Ⅰ	本講義では歴史学の中でも、特に日本中世史を取り扱う。日本の前近代社会（江戸時代までの時期）の特異な性格として、朝廷（公家政権）と幕府（武家政権）という、権力の二重構造がある。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての時代（＝中世）においては、朝廷・天皇権力が有名無実化しつつあるものの、厳然たる現実的影響力を保持しており、本来的に幕府と朝廷は互いに対立する存在であると思われてきた。しかし、近年の研究成果によれば、朝廷と幕府、天皇と将軍は互いが互いを補う相互依存の関係にあったことが明らかにされている。本講義では、将軍（幕府＝武家）が、なぜ天皇制を打倒しなかったのか、なぜ天皇という存在を必要としたのかについて、説明していきたいと考えている。	
			日本近世史Ⅰ	江戸城本丸御殿を、儀式・政治空間である「表」、将軍の執務・生活空間である「奥」、女性たちの生活空間である「大奥」に分け、それぞれの構造からみた江戸幕府の政治・制度のあり方について、主に中・後期の状況を中心に講義する。	
			日本近世史Ⅱ	歴史研究にとって最も必要な「史料」に焦点を当て、東北地方の大名文書から、幕府と藩の関係や藩の政治を研究する上で重要な意味をもつ文書・記録などをとりあげ、何が書かれてあるのかはもちろん、史料のもつ背景にまで踏みこんで解説し、近世の支配関係文書に関する基礎知識習得を目指す。	
			日本近現代史Ⅰ	明治後期初頭の生活文化を、その時代に生きる人々の感覚・視点に立って、同時・等身大の追体験を行なう。毎回、オリジナル教材を配布する。 衣食住・交通・買い物・生活習慣・年中行事・行楽など、明治の生活文化を理解する	
			日本近現代史Ⅱ－１	明治維新後に新政府が選択した様々な政策は、現代にも影響を残し続けている。その内容を精査するが、理解を深めるために視聴覚資料（史料）を多数用いる。	
			日本近現代史Ⅱ－２	本講義は、戦前日本の統治構造を踏まえつつ、明治期から昭和戦前期にかけての議会政治を歴史的に辿る。政党勢力がいかにして実力を養い、国政の中枢に進出したのか、諸政治勢力が議会政治に何を期待し、議場の内外でいかなる相克が繰り広げられたかを複眼的に論じていく。	
			日本文化史Ⅰ	幕末の開国後、東洋の島国日本を訪れる欧米人が増加する。混乱や反感の時期を経て、積極的に迎え入れる動きが始まる。その取り組みの様子や、関わった人たちの思いやねらいなどを明らかにしていく。	
			日本文化史Ⅱ	江戸時代の文化の発展に大きな役割を果たした大名庭園の世界を探る。まず、徳川将軍家の庭園や大名庭園の形成過程とその特徴を検討する。続いて、古文書・絵巻・図面・古写真を使用しながら、将軍家と大名家・旗本・公家などとの交流の実態や園芸・植栽空間としての機能について明らかにしていく。	
			中国古代文化史	中国考古学の概説である。まず考古学の概要を説明し、中国考古学の歴史的な流れを把握する。そして各時代を通史的に概観することで、各時代の物質文化の様相を考古学の視点から見て行きたい。また、通史的トピックも扱う予定である。	
			中国近代史	王朝体制から共和制、そして社会主義国家へと近現代の中国は激動の歴史をたどった。本講義では、中国近代化の展開過程を概観し、伝統と外来がおりなす東西の対抗・融合の歴史を明らかにする。中華文化を代表する豆知識の紹介を行うほか、映像資料・新聞記事も適宜併用する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	朝鮮現代史	朝鮮現代史はおもに「三つの歴史」から成っています。大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、そして日本の中のコリアン（KOREAN）の戦後も。ひとつの民族が、どのような事情で分裂し、どのように絡み合いながら歴史を歩んできたのか、これが授業のテーマです。	
			東南アジア史	東南アジアの国々には、どんな巨大遺跡があるか。また古き美術があったか。それらの偉大性をスライドを用いて紹介していく。講義の主旨は、それらの遺跡に残された、美術が語る英知と、そこに見る物語を伝える。美術の歴史的な展開も語り、各国の美術に親しんでもらう。	
			南アジア現代史	講義形式をとります。前期においては、主として南アジアという地理的空間をどのように覚え、また、それを「わたしたちの位置」との関係的思考に発展させていくのかを探ります。後期に入ると、前期の準備をふまえ、講義はインド近現代史に焦点を絞ります。とくに独立を経て、今日に至る現代インドの成り立ちを学ぶことで、多元文化社会の歴史的仕組みを身近にすることになるでしょう。この授業は物知りになるための歴史を伝えるものではありません。受講者のみなさんが、この地球世界のメンバーとして、21世紀における共生という課題の重みをそれぞれに受けとめ直してみる、そのような機会につながることを願いながら組み立てるものです。	
			西アジア近代史	前期は、オスマン帝国の歴史を通じて重要な役割を果たした遊牧民に焦点を当て、帝国が彼らをどのように統合・利用しようとしたのか、また、近代への移行のなかで国家と遊牧民の関係がどのように変化したのかを考えます。後期は、オスマン帝国の都イスタンブルにおける犯罪と処罰を具体的事例に基きながら検討します。	
			西アジア文化史	衣服は、人々の価値観や信念、思想を映し出す鏡の一つである。その時々のファッション（流行の装い）に目を向けるとき、我々は、それぞれの時代の人々が、どのような美意識を持ち、何を大切にしていたのか、その一端を知ることができる。本授業では、西アジアを事例に、これを実感することを目指す。具体的に行うのは、史料の種類やそれぞれの読み方を学ぶ「前近代の衣服と史料」、一つの時代を「洋装化」をキーワードに比較検討する「近代と洋装化」、衣服に関わる現代の様々な事象について考える「現代の服飾と伝統の創出」という、三つの作業である。	
			イスラム社会史入門	自然環境は人間の営みにどのような影響を与えてきたのだろうか。そしてそれを歴史的に解き明かすにはどのような方法がありうるのだろうか。本講義では、特異な性質をもつ大河ナイルが流れるエジプトの中世に焦点をあて、その歴史をナイルと人との関係を軸にしながら解説する。	
			古代オリエント史	ナイル川流域に成立した古代エジプト文明では、ローマ帝国のもとでキリスト教が広がりを見せるまで、約3000年に亘り、周辺文化と交流しつつ伝統的な多神教に根ざした文化が展開した。その過程を考察することで文明の本質を知り、これからの人間の生き方を探る。	
			古代ローマ史	紀元前753年に建国されたとされる、古代ローマ国家の1200年にわたる歴史について、まずはその大枠の理解を深めてもらう。その上で、現代の世界とは大きく異なる古代世界の社会について、さらには古代世界の文化について、図像資料や映像教材などを随時活用しながら、解説を加えていく。同時に、そうした社会・文化の中で生活した古代ローマ人の心性・メンタリティについて、様々なトピックを通じて受講生に考えてもらいながら、その思考をいまの自分を見つめ直す機会として活用してもらうつもりだ。受講生の興味・関心に応じ、扱う内容も随時見直していく予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	ヨーロッパ中世史Ⅰ	古代末期の文化を継承した初期中世文化の形成を経て、盛期中世におけるさまざまな局面における文化的開花、そして中世末期の成熟へと至る経過をたどります。 ここで言う「文化」とは学問や芸術というより、それらを含めた衣食住、技術、道徳、宗教など物心両面にわたる生活様式やその内容のことを指します。	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	講義形式で行われる。フィレンツェとローマはイタリア中世史を知る上で欠かせない都市である。この両都市が中世においてどのような変遷をたどるのか、またどのような接点があるのか、そして華々しいルネサンス文化がどのように生まれたのか、を明らかにする。	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	大航海時代は、現在のグローバルな世界が形成され始める世界史上でもっとも重要な時期のひとつと考えられています。この時代のイギリスには、後に世界の覇権を握る大帝国に成長することを予期させるものはありません。ヨーロッパ大陸の沖合にあって、さまざまな意味で生き残りをかけて闘っている一流半の国に過ぎませんでした。 この授業では、彼らの課題が何だったのか、そして彼らがどのようにその課題に立ち向かっていったのかを明らかにしたいと思います。 中心になるのは新大陸との交易で、それがどのようにして新しい「大西洋世界」を構築していったのか、本国および新大陸植民地にどのような影響を及ぼしたのか、を考えてみたいと思います。	
			ヨーロッパ近代史Ⅱ	ヨーロッパの多様性と共通性を学び、ヨーロッパ連合の現状を理解する。「地域」の歴史の重要性について「国家」の歴史からは把握できない側面を紹介しながら検討する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅰ	ハプスブルク帝国の歴史について、その領土の一部をなしていたハンガリーとの関係に重点をおきながら、講義形式で授業をおこなう。ハプスブルク帝国に関する映画やドキュメンタリーを補助教材として使用する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅱ	2000年に改正された新国籍法によって、ドイツでは出生地主義に基づく国籍取得が可能となり、帰化要件が緩和され、二重国籍が認められるようになった。国籍法改正から10年、さまざまな肌の色や宗教、民族と結び付けられるドイツ人のイメージが模索されているが、ドイツ社会に溶け込まない「平行社会」の存在が浮き彫りとなっている。また欧州統合の拡大を背景とし、ヨーロッパ・アイデンティティの高まりもみられる。帝政期以来、血統主義による国籍取得を原則としてきたドイツの国籍法は、出生地主義をとるフランスの国籍法と対置されてきた。歴史的に、フランス人が政治的な「国家国民」であるのに対し、ドイツ人は民族的に同質な「文化国民」であり、日本との類似性もしばしば指摘される。 この授業では、ネーションと「人種」、ジェンダーを基軸に据え、ヨーロッパの近現代を読み解いていく。近代国家は、国籍という制度によって「他者」を規定し、排除と内包の論理によってネーションを形成してきた。政治的統一に遅れたドイツにおいて、どのように「ドイツ人」や「ヨーロッパ市民」としてのアイデンティティが形成されたのか、ジェノサイドとの関連、欧州連合の拡大に重点を置いて考察していく。	
			ロシア文化史	18世紀初頭－20世紀初頭のロシア帝国の国家、社会、宗教、民族の状況を紹介し、この国が自身を「ヨーロッパか、アジアか」と問いながら近代化していった過程を学びます。	
			アメリカ史	植民地期から現代にいたるまでのアメリカ合衆国の歴史を概観する。「アメリカ人」の誕生と発展、奴隷制、産業化・都市化、移民の大量流入、社会改革運動、戦争と社会変動、権利獲得運動、女性性・男性性の構築といったテーマについて、歴史の大きな流れと関連づけつつ検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	ラテンアメリカ史	高度な古代文明が花開き、植民地時代から地域で重要な位置を占めて来たメキシコを主たる事例として取り上げ、各時代の社会構造や統治機構、思想的潮流などの特徴を概説し、ラテンアメリカ全体の共通性と地域ごとの差異についても考えてみたいと思います。	
			世界史文献講読Ⅱ－１	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅱ－２	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－１	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語文献を用い、研究するための準備となればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－２	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語を用い、研究するための準備になればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅳ－１	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。	
			世界史文献講読Ⅳ－２	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。 前期に引き続き、テキストの続きを講読します。	
			世界史文献講読Ⅴ－１	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	
			世界史文献講読Ⅴ－２	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	世界史文献講読Ⅵ－１	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
			世界史文献講読Ⅵ－２	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
			世界史演習Ⅱ－１	中国近現代史に関する英語の研究文献と東アジア近代史に関する日本語の研究文献を読む。また自由テーマの研究発表を行い、研究方法を実践的に学ぶ。	
			世界史演習Ⅱ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅱ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。レポートの中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅱ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅱ－５	研究論文についての口頭発表と質疑を行う。このほか、後期には、卒業論文執筆の準備として、出席者がそれぞれの研究テーマに基づく口頭発表を行うこととする。	
			世界史演習Ⅲ－１	卒業論文テーマに関する発表とその相互批判を通じて卒業論文の内容充実を図る。また、東アジア史に関係する研究文献を読み、研究方法を学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
			世界史演習Ⅲ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅲ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。卒業論文の中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅲ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅲ－５	卒業論文の構想発表と文献講読を組み合わせて授業を進める。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	対人社会心理学１	社会的動物としての人間の行動や意識を考える上で、他者との関係性を無視することはできない。本講義では、個人が他者からどのような影響を受けているのか、また、社会的適応のために個人の行動や認知がどのような働きを持っているかなどについて、実証的な研究例を基に解説する。	
			マスコミ社会心理学１	個々人には、それぞれ感情や意思があるが、それが大勢集まって、集団や社会となったとき、個人の総和以上の現象を引き起こすことがある。この授業では、集団、社会、マス・コミュニケーションなどのマクロな分野を中心に、社会心理学の理論や研究事例を学ぶ。	
			人格心理学１	人格心理学の領域は広い。この入門講義は、特に臨床的な観点から、個としての人間を理解するための内容が主であり、この社会文化の中での人格の形成と変化、適応と不適応、そして心理的援助の方法の基礎等が論じられる。	
			家族社会学１	家族に関する基礎概念や学説を理解することと、家族に関する現状を知ること、さらには自身を取り巻く環境や社会について解釈し考える力を養う。	
			職業社会学１	職業・労働に関する社会学的研究について講義するとともに、レポートやディスカッションを通じて学生が自ら考え、理解を深める。	
			文化人類学１	文化人類学の基礎論を学ぶとともに、現代社会と関わるテーマにも深く切り込んでいく。また授業では、担当者がアフリカでのフィールドワークで入手した第一次資料や映像なども多く紹介する予定でいる。授業の後半期には、外国人ゲスト・スピーカーを招聘して、母国の社会や文化について話してもらうと同時に、受講生とのディスカッションを予定している。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	社会調査入門	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶ。社会調査の必要性とその意義について、(1)社会調査の歴史、(2)現在実施されている官庁統計、世論調査等、(3)社会学、社会心理学、文化人類学、人格心理学において行われている社会調査の実例とその学問的意義から学ぶ。また、調査倫理と調査データを読みこなす力を身につける。	共同
			比較文化学１	比較文化の基礎的な理解のために、インド・ヒンドゥー社会、開発、文化などをキーワードとして文化的議論を整理し、提示する。	
			社会心理学特講１	「他者の目に映る自己」をテーマに、自己意識、自己呈示、対人不安、羞恥心、プライバシー等について講義を行う。社会に依存して生きるヒトにとって、他者から排斥されないこと、あるいは賞賛されることは重要な課題である。これに関連する心理学的諸現象を扱った研究例を紹介し、社会適応と自己意識との関連について考える。	
			社会心理学特講２	社会調査実習と連動して、社会心理学のロジックの理解、データの解釈、考察のトレーニングのための授業である。ファン心理の研究を題材に、SPSSの出力結果を正確に読み取り、考察を導き、発表する作業をグループで行う。	
			社会心理学特講４	新製品開発や広告宣伝活動といった企業戦略の成否のカギは、ターゲットとなる消費者の心理・行動を客観的に理解することにあるといえます。同時にこのことはわれわれ消費者自身にとっても自己の利益を守るうえで重要なことです。この授業では心理学の理論を援用しながら「消費者理解」のあり方やその妥当性について考察します。	
			社会心理学特講６	講義形式で行われるが、犯人像推定などの課題に関しては、グループ討議を経て、発表を行ってもらう。犯罪学の基礎知識、精神医学的、社会心理学的、統計学的な手法による犯罪へのアプローチを学んでもらう。	
			社会心理学特講９	「大阪の人はせっかちだ」「女性は感情的だ」など、あるカテゴリーに含まれる人たちに対する固定化されたイメージ(ステレオタイプ)が社会の中に多数存在している。本授業では、ステレオタイプに関連する具体的な社会問題(特に偏見や差別にかかわる問題)を取り上げながら、ステレオタイプの形成・維持過程、変容過程に関する社会心理学的知見を解説する。	
			社会心理学特講１１	対人関係に関する社会心理学の研究成果を、トピックスを絞って紹介する。恋愛や友情という身近な対人関係に始まり、惨事ストレスや悲しみやカルトなどの社会全体に関わる心理現象も取り上げる。	
			社会心理学特講１４	現実の環境における人間の要素を広い範囲で研究する心理学である、環境心理学の基本的な理論と現実場面への応用を紹介する。写真や図表を多用し、環境と人間の興味深い関係とその背後にあるメカニズムを実感してもらうことを目的とする。	
			社会心理学特講１５	新聞を主にした日本のマスメディアの「過去・現在・未来」を考える。新聞記事や社説のつくられ方、戦争と新聞の責任、社会におけるメディアの役割などを学ぶ。また、ワークショップや、時事的なニュースやメディアの課題をテーマに討論もしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	文化人類学特講４	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			文化人類学特講６	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			文化人類学特講７	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。	
			文化人類学特講１０	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			文化人類学特講１１	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	
			文化人類学特講１２	人はジェンダーという日常を生きる。本年度はジェンダーをめぐる諸問題について、文化人類学の立場からこれを講じる。ジェンダー概念の規定をめぐる諸理論、ジェンダー研究の変遷にふれ、ジェンダーをめぐる多様性／ローカリティ／グローバリティの現在について、政治・宗教・経済・開発・技術などの具体的事例にそくして議論していく計画である。	
			人文地理学１	都市地域を扱った分野を例として取り上げ、人文地理学の基本的な概念、方法等の入門的な紹介を行います。地域情報の具体的例として、地図、地域統計等の利用法の解説も合わせて行います。	
			人文地理学２	人文地理学における、やや専門的な研究分野の例として、時間地理学の枠組みに準拠した都市住民の生活活動の分析、特に女性の就業や社会参加に関わる実態分析を紹介します。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	自然地理学１	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学1では地形的要素を中心に講義を進める。	
			自然地理学２	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学2では気候・植生・水文的要素を中心に講義を進める。	
			地誌学１	講義形式で行われる。ヨーロッパの人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、ヨーロッパの地域構造への理解を深める。	
			地誌学２	講義形式で行われる。アメリカ合衆国の人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、アメリカ合衆国の地域構造への理解を深める。	
			マス・コミュニケーション論	マス・メディアの発達によって、社会構造やコミュニケーションのあり方は大きく変容した。この授業では、マス・コミュニケーションの基礎的な理論を学び、さまざまな社会の営みとの関わりについて考える。 前半は古典的なマス・コミュニケーションの効果論や、日本のジャーナリズム制度について学び、基礎的な知識を習得する。後半は、ニューメディアの台頭を踏まえたマス・コミュニケーションの最前線や、受け手に与える影響の実証的研究、具体的な事例研究などを紹介する。	
			社会学	社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の基礎概念を概説しながら、社会学的な発想や基本的な考え方について講義し、「社会学的に考える」ことの意義について考察します。授業では、身近に経験するさまざまな社会現象や日常の出来事を考察の対象として選び、社会学の理論や方法論を使いながら社会についての理解を深めます。	
			家族社会学２	前半では「若者と親」のテーマを取り上げ、若者の自立を考える。指定のテキストの各章を読んで、毎回個人あるいは複数人でプレゼンを行い、テーマに関してディスカッションする。また後半ではそれらのテーマに関連して、各自が関心のある問題について資料（文献、新聞やニュース報道など）を持ち寄りディスカッションする。	
			職業社会学２	授業は、1.講義、2.対話（ワールドカフェスタイル）、3.リアクションペーパーの記入という３つの柱で進めていく。 ①働く場の実態について理解し、ジェンダーを取り巻く現実への認識を深め、職場構造についてジェンダーの視点から考える。 ②「働くこと」において、どのように男女で基準や役割が異なっているか、その結果、収入・機会・能力・評価においてどのような差が生じているのかについて理解する。 ③自分の「働き方」について考えていく力をつける。	
			キャリア形成の社会学	一般に、「キャリア」とは個人が職業上たどっていく経歴のこと、「キャリア形成」とは仕事の経験を重ねることで自分の職業能力を育てていくことだが、近年「職業」のみをキャリアの要素としてとらえるのではなく、社会的な活動を含めた生涯を通じたキャリア形成のあり方を考える必要があると、言われている。この授業は、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自分自身の生涯を通したキャリア形成のあり方を考えることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	社会学特講１	「老年学」は20世紀初頭に、ドイツの疫学者により創始された新しい学問領域である。20世紀から21世紀にかけて、先進国を中心に人口高齢化が進み、老年学の研究領域は自然科学にとどまらず、人文科学、社会科学へと及ぶようになった。本講義では、社会老年学の主要なトピックのうち、個人、家族、社会の「加齢」を中心に、ライフコース論の考え方を基礎におきつつ、ともに考察していく。	
			社会学特講２	近年の日本では、経済格差の拡大と貧困層の増加が注目を集め、不平等への社会的関心が高まっている。この授業では、①不平等をとらえるための社会学的な理論と方法について平易に解説し、②現代日本の格差の構造についていくつかの側面から概観し、③現代日本において格差拡大がもたらしているさまざまな問題と解決策について考えていく。	
			社会学特講３	グローバル化が進行する現代において、ナショナリズムの意味が再確認されると同時に、その表出形態には新たな展開が見られる。社会学、人類学、文化研究などの分野で展開してきたナショナリズムの社会理論を学習しながら、現代におけるナショナリズムの諸様相の理解を試みる。	
			社会学特講４	1990年代半ばから労働過程の分析に軸足をおき、労働組織におけるジェンダー関係に関する実証研究を展開する。	
			交流分析概論	アメリカの精神科医エリック・バーンが創始した交流分析（TA）は、心の仕組みや有り様を簡潔に説明した自己分析法である。心理療法として導入されたが、今日では自己啓発や対人関係調整のツールとして一般に普及している。授業では基礎理論と活用を解説し、社会病理の観点から社会や家族の混乱をTAを使って読み解く。	
			人格発達心理学	この授業では子どもの人格形成に影響を与えていく様々な要因について人格心理学および発達心理学の立場から講義していく。母親のみならず父親やきょうだいが人格発達に与えている影響について論じていく。また成人してからどのようにすれば性格を変えられるのかといった問題についても考えていく。	
			人格心理学特講１	心理学的個人差について、認知的能力（知能）、パーソナリティ（人格・性格）認知スタイルなどの個人差の問題を中心に、その基本的問題と歴史的展開と現在の動向について、多面的に論じる。認知的能力については、その概念と測定法上の問題について、パーソナリティに関しては、代表的なアプローチである資質（特性・類型）論的アプローチ、精神病理学的アプローチ、認知的アプローチについて、比較検討を行う。また、認知スタイルについては、脳・神経系に基礎を持つ個人差や、その進化心理学的説明について最新の研究を紹介する。	
			人格心理学特講４	「交流分析（TA）概論」で基礎知識を学んだので、本講座はTAの実践と応用を目的とする。TAの真髄は自己分析である。そのための具体的方法論をさらに深める。また、ライフサイクル論やアイデンティティ論などを加味し、日常の時事問題を材料にしながら、「生きること」や「人生」について、TAを中心にした新たな視点で考えてみたい。	
			人格臨床心理学特講２	臨床心理学や心理療法の実際、またパーソナリティの発達的な理解について講義する。	
			人格臨床心理学特講４	授業形式中心に行われる。基礎を学んだ後には、事例についてグループディスカッションも取り入れていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	比較文化宗教学１	宗教というとほとんどの人は自分の生活とはそれほど関係のないものだと考えるかもしれません。 しかし、現代社会では宗教は形を変えながらさまざまな領域へと浸透しています。この講義では、現代では聖なるものが政治経済・教育・医療・音楽・映画・サブカルチャー・観光といったさまざまな領域との相互作用の中で変化しつつあることに注目します。 可能な限り映像資料を用い、現代の宗教について、自由、他者、性、共同体といったテーマと関係づけながら具体的に学んでゆきます。	
			比較文化宗教学２	講義形式で行う。近代西欧では、新しい家族関係に基づく子ども観が形成され子どものための文学が誕生した。想像力によって別世界が描き出されるファンタジーには、古くからの宗教の中で受け継がれた死生観や運命観が息づいている。それらの物語の宗教性について、実際の作品や映像資料などを用いて解説する。	
			比較文化学特講	文化を学ぶ手法としてのフィールドワーク論、および南アジアの社会と文化についての総合的理解を行う。	
			比較文化学特講１	NGOの組織的理解を深め、日本の社会運動と支援について総合的に学ぶ。	
			比較文化学特講２	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			比較文化学特講３	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			比較文化学特講４	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			比較文化学特講５	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。なお下記の授業計画は実際の授業の進行の度合いによって変更する可能性がある。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
			比較文化学２	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	
			社会調査の技法１	講義とワークで構成する。前半は具体的な調査方法について、理論や知識を講義で学び、簡単なワーク課題を実践しながら、理解を深める。後半は、収集したデータの処理や分析との対応を学習する。最後に、実際の研究事例を読むトレーニングを通じて、研究目的と方法論、データ分析の対応を理解する。	
			社会調査の技法２	社会調査の目的と調査のプロセスを理解し、その目的に沿った調査方法の選択・企画・設計・データ収集の手法と、妥当性・信頼性の高い概念や変数の測定のための必要な基礎事項を身につける。その過程で、調査の実施において必要な知識（調査票の作り方、調査票の配布・回収法、調査データの整理など）もあわせて習得することを目指す。主に質問紙調査法（アンケート調査）を中心とするが、質的データ収集についても留意する。	
			社会統計学	社会学や社会心理学領域において実証的研究を進めるための基礎となる統計的知識を学習する。講義では実際の調査や実験データなどを用い、社会現象、心理現象を数量化し検討することの有効性や面白さを体験的に学んでゆく。	
			質的調査法１	質的調査の立案から実施・分析まで一連の具体的手法を人格へのアプローチという視点から学ぶ。質的方法の評価、質的データの収集方法（特に半構造化面接法と参与観察法）、分析方法（会話分析とライフストーリー分析）を学ぶことによって、人格を理解する方法や分析のあり方を身につける。	
			質的調査法２	講義を基本とするが、同時に幾つかのグループに分かれてインタビューを実践する。対象は、本学で学ぶ留学生や東京で働く在日外国人を考えている。各グループは、インタビューする内容についてテーマを設定するが、その下調べや質問項目の整備なども念入りに行う。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	心理学史	教員のガイダンスのもと、受講生によるレジュメやパワーポイントを使ったテキストの発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、テキスト以外に、事前に指定された大量の文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講４	PCプレゼンテーションと配付資料による講義形式となる。行動・心の科学的測定、動物やヒトの行動基盤としての進化などについて習得する。進化理論にもとづく仮説とその検証を通して動物とヒトを統合的に理解する視点を養う。	
			認知心理学特講５	認知心理学とは，「見たり，聞いたり，覚えたり，考えたり」といった認知機能の仕組みを明らかにする学問である．この授業では，認知心理学の基礎を学ぶ材料として，さまざまな認知的バイアスを取り上げるとともに，認知心理学の具体的な応用場面として，「目撃証言」および「デザイン」の2つを取り上げることで，認知心理学の基礎から応用まで幅広く解説する．	
			認知心理学特講６	教員のガイダンスのもと、テキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、事前に指定された文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	認知心理学特講７	教員の５回の講義に引き続いて、教員のガイダンスのもと、教員の用意するテキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、毎時間終了時に、事前に指定された文献を読み、毎回、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講８	基本は講義形式です。授業中，教科書を使いますので毎回持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，グループで討論をし、発表します。また，何回かゲームをして楽しみながら，授業内容を実感してもらいます。さらに，毎授業，皆さんからの「コメント・質問」をとり，次の授業で回答します。	
			発達心理学特講１	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても論考することにしたい。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHDや自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。	
			発達心理学特講３	老年期の人々の心理やメンタルヘルス，老年期をめぐる諸問題（介護や認知症，貧困の増加など），サクセスフル・エイジングについて学ぶ。内外における高齢者研究やジェンダーの視点から考える老年期の問題についても論じる。	
			発達心理学特講６	母親は常に子どもに対して慈愛の感情を抱くわけではない。子どもの発達につれて、母親は子どもに対し、時として嫌悪や煩わしさといった感情を抱くことがある。慈愛と嫌悪という矛盾した感情を母親が子に対して抱くのはなぜか。進化と発達の観点から論じていく。	
			発達心理学特講７	毎週、前の週に配布される論文を読み、その概要をまとめたレポートを提出する。授業では、論文の内容の分析を進める	隔年
			発達心理学特講８	まず、「女性に対する暴力」を生み出し、逆に「女性に対する暴力」によって支えられてきた戦後日本社会のジェンダー構造を確認する。その上で、家族の中の暴力として、ドメスティック・バイオレンスと児童虐待を詳述する。	
			臨床心理学特講１	神経心理学は，脳損傷者の示す多彩な高次脳機能障害を手がかりとして，心と脳の関連性について検討する心理学の一領域である．本講義では，顔の視覚的認知が選択的に障害される相貌失認と，wayfinding行動の選択的障害である地誌的失見当の話題を中心に取りあげながら，私たちの心的機能の実現を支える神経過程について神経心理学的に検討を試みる．	隔年
			臨床心理学特講２	適応と関わる重大な出来事としては、別離体験（子どもの短期間の親との別離、おとなの配偶者との死別）、被虐待体験を含む外傷的出来事の体験（対人関係の問題、解離性同一性障害、外傷後ストレス障害）などを取り上げる予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　国際交流学科）

科目区分			授業科目の名称（国際関係）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（心理学）	臨床心理学特講３	自己の発達における各時期の特徴を学ぶことで，標準的な発達とその過程における不利益，および病理について学ぶ。また，臨床心理学，発達心理学領域における代表的な自己理論について学ぶ。	隔年
			臨床心理学特講４	学校教育と心理臨床の違いと相補性を検討する。そして、学校で出会う子どもたちに対応するための知識を深め、子どもの適応のために必要な環境についても検討する。	
			臨床心理学特講５	（英文）　In many societies, numerous people suffer from a variety of psychopathology including childhood psychological disturbances, depression, schizophrenia, addiction, and suicide, to name a few.　In this course, we will learn some major forms of emotional and behavioral disorders and examine their causes, symptoms, clinical course, and treatment. （和訳）多くの社会で、たくさんの人々が、子どもの心理的問題、鬱、統合失調症、薬物依存症、自殺などの、精神病理に苦しんでいる。このコースでは、いくつかの情動や行動の問題を学び、その原因、症状、治療などについて検討する。	
			臨床心理学特講６	思春期は誰しもが心揺らぐ時期です。まず、思春期の心の特徴と問題について考えます。また、現代の社会は子どもも生きづらい世の中になっています。子どもを取り巻く社会の問題を取り上げて、子どもの心への影響について学びます。最後に、発達障害を理解し、その支援について考えます。	
			臨床心理学特講７	臨床心理学の中でもブリーフサイコセラピーについて学びます。入門書を読みながら、ロールプレイで体験をしながら、実感としての学びが得られるようにしていきます。カウンセリングマインド、クライエントに対する姿勢、受容と傾聴などカウンセリングの土台についても体験的に学びます。その中で、自分や他者の言動について振り返って考えることがあります。振り返ると、時に辛い気持ちになるかもしれません。そうした自分の気持ちに向かい合うエネルギーがないと思われる方は、授業を取る前にお考えください。心配な方は初回授業にご相談ください。	
			臨床心理学特講８	基本テーマは「眠りを疎かにしている日本社会」です。眠りに関する基礎知識を得たうえで、「ヒトは寝て食べて始めて活動できる動物である」との当然の事実を確認し、現代日本が抱えている問題のかなりの部分に、我々が動物であることの謙虚さを失い、眠りを疎かにしたことの代償が及んでいることを認識していただければと思います。そして願わくばこの講義が今後の皆さんの生き方を考える際の、さらには小児科医である私の立場からは、皆さんが今後子育てをなさる際の、参考に多少ともなれば幸いです。	
			発達心理学１	胎児期から幼児期くらいまでの発達を考える。可能な限りビデオなどを使用して、視覚・聴覚をフル活用するような授業をしたい。	
			発達心理学２	児童期から青年期の身体的発達と認知的発達、および心理社会的発達について概説する。発達心理学の基礎知識をふまえ、中学生・高校生に現れやすい心理臨床的諸問題とそれらへの対応を概説する。障害をもつ子どもの発達と学習の過程についても述べる。全体的には講義形式で行うが、グループ討論の機会も設ける。原則として毎回リアクション・ペーパーの提出を求める。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	必修科目	心理学実験演習１	心理学科を最も特徴づける必修科目である（内容はA，B，Cの各クラス共通）。心理学における基本的な実験の方法，結果の処理や記述の仕方などを学ぶ。受講生は相互に実験者および実験参加者となり，教員やTAの指導の下で様々なテーマの実験を行う。行った実験についてはレポートを執筆して提出し，添削を受ける。さらに，各クラスが2つの班に分かれ，班ごとに割り当てられた実験テーマについて全員のデータの再分析と考察を行った上，3クラス合同のグループ発表会を行う。	
			心理統計法Ｉ	記述統計とは，「実験や調査により得られたデータの特徴を，皆に分かりやすい形で提示するための方法」です。この授業では，講義とともに，実際にデータ処理を行うことにより，記述統計の基礎的な原理と手続きを学ぶことを目的とします。	
			心理学概論	現代心理学はあまりにも細分化され過ぎたために、ときとして研究者ですら、自身の専門分野と心理学の全体像との関わりを見失うきらいがある。そこで、この講義は心理学の全体像を把握することを目的として、研究室の全教員が分担し、心理学の各分野について相互の関連に留意しながら講義を行う。また、必要に応じて各分野の研究に携わる外部講師を招き特別講演等を行うことがある。	共同
			基礎情報処理技法	研究データの集計、解析、文書化、発表など、研究をまとめる一連の行程にはコンピュータを操作する能力が必須である。本授業では、実際にコンピュータを操作することを通し、研究をまとめる上で必要な技術を学習する。	
			３年心理学演習	前半は、文献講読、体験学習を行い、臨床心理学的援助について検討する。後半は、各自の関心のあるテーマを取り上げ、先行研究のレジュメを作成、発表し、全員で質疑応答、討論を行う。	
		４年演習	実験心理学演習	当該領域に貢献できる問題意識のもと、内外の多数の文献のレビューを行い、明確な仮説を設定し、個人ないしは数人で実験や調査を行って収集したデータを各自が統計手法を用いて分析した上で、卒業論文を作成する。授業では前後期２回ずつのレジュメやパワーポイントを使った発表を行わなければならない。	
			発達心理学演習	受講生各々の興味や関心を磨き上げ、研究で解決すべき問題を明確にする。そして、問題を解決するにするにはどうすればよいかを検討し、データ収集に着手する。得られた成果について討議し、与えられた時間内に卒業論文をまとめる。	
			発達臨床心理学演習	３年次の演習などを通じ、各自が関心をもつようになった研究テーマを先行研究を検討することによってさらに精緻なものにし、資料収集、解析を経て、論文を作成していく。研究テーマは、臨床心理学や人格心理学などの領域から選択する。	
		自由選択科目	計量心理学特講１	質問紙法は、心理学の主要な研究技法のひとつです。講義では、グループに分かれて、実際にオリジナルの「心理尺度」を作ります。教員からの説明をもとに少しずつ作っていくので、できる限り欠席しないようにしてください。講義の中で、適宜、進展状況をグループ単位で報告してもらいます。そして、最終的にまとめレポートを作成してもらいます。	
			計量心理学特講２	前半は統計の基礎を配布資料に基づいて説明する。後半はExcelやSPSSなどを用いてデータ分析の実習を行う。最後に課題を提出してもらう。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	計量心理学特講３	約３週で１つの分析法を取り上げ，以下の手順で進めていく。まず，各分析法に関する講義を行い，その分析が論文内でどのように使用されているか確認する。その後，SPSSを用いてデータの解析方法を学ぶ。最後に，個人でデータを一から分析し，結果の記述まで行う。	
			心理学研究法１	実験心理学の代表的なテーマを二つ取り上げ，刺激の準備から実験プログラムの作成，実験データの収集からデータの分析・解釈に至るまでの過程を，実習を通じて学んでいく。	
			心理学研究法２	実習形式で行う。毎授業ともに前半では学習する統計解析に関する事項を確認する時間に充てる。後半は実際にデータを使用して，操作や解析を学ぶ。	
			心理統計法Ⅱ	推測統計とは，「ある理論や仮説が正しいかどうか，実験や調査により得られた標本データから科学的に判断する方法」のことです。この授業では，コンピュータを用いて，実際のデータを処理することにより，推測統計の基礎的な原理と手続きを学ぶことを目的とします。	
			心理学史	教員のガイダンスのもと、受講生によるレジュメやパワーポイントを使ったテキストの発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、テキスト以外に、事前に指定された大量の文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			心理学実験演習２	受講生は２つのグループに分かれ、インストラクターの指導のもと、２種類の実験の実施、レポートの提出を行い、いずれか１種類の実験に関して、パワーポイントを使ったグループ発表を行う。	
			心理学実験演習３	心理学実験演習１の発展として、発達と臨床領域の研究に特有な、質的データの収集と処理、そして、各種心理テストの実施・分析についての実際を学ぶ。発達研究では、課題について、必要な研究対象を見つけて演習をし、データを処理して、レポートとしてまとめる。臨床研究では、いくつかの心理テストの結果を総合して、自己に向き合う。	
			心理学演習１	Cole,M. et al. The development of children.などを毎週逐語訳していく。心理学の論文の読み方、訳し方のコツなどを習得することをめざす。履修者の希望によって取り上げる文献も変えていく。毎週、次の週の文献を渡すので、欠席は許されない。	
			心理学演習２	教員の用意する心理学全般の日本語テキストと認知系の英語のテキストを、当該時間の発表者以外に、毎回、全員が事前に読んでレジュメを作成しなければならない。その後、教員のガイダンスのもと、全員で質疑応答、ディスカッションを行い、最後に、レジュメの交換を行い、相互に評価し合う。	
			認知心理学特講１	認知心理学とは、人間の知的活動の基本的な仕組みや働きを、実証的な方法で解明しようとする心理学の分野である。この授業では、認知心理学の中で、視知覚・注意・記憶の研究領域におけるトピックスを概観する。	
			認知心理学特講２	認知心理学を中心とした人間の知覚・認知・思考に関する古典的研究や理論から最新の研究成果までをできるだけ幅広く，かつ具体的に取り上げて講義を行う。他者の存在や，自身の感情が認知に与える影響など，身近な研究トピックもたくさん取りあげて解説する。	隔年
			認知心理学特講３	人間の高次視覚と統合的認知にかかわる最新の研究成果を，見落とし，情景認知，身体表象，感覚融合，美感などのデモンストレーションや模擬実験を体験するとともに，その背景や意義をできるだけ基礎的な事項から理解することによって，人間の情報処理原理を理解することを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	認知心理学特講４	PCプレゼンテーションと配付資料による講義形式となる。行動・心の科学的測定、動物やヒトの行動基盤としての進化などについて習得する。進化理論にもとづく仮説とその検証を通して動物とヒトを統合的に理解する視点を養う。	
			認知心理学特講５	認知心理学とは，「見たり，聞いたり，覚えたり，考えたり」といった認知機能の仕組みを明らかにする学問である．この授業では，認知心理学の基礎を学ぶ材料として，さまざまな認知的バイアスを取り上げるとともに，認知心理学の具体的な応用場面として，「目撃証言」および「デザイン」の2つを取り上げることで，認知心理学の基礎から応用まで幅広く解説する．	
			認知心理学特講６	教員のガイダンスのもと、テキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と、（毎回、無作為に指名する）質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、事前に指定された文献を読み、毎時間終了時に、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講７	教員の５回の講義に引き続いて、教員のガイダンスのもと、教員の用意するテキストを分担して、レジュメやパワーポイントを使った発表と質疑応答、討論、受講者全員による相互評価を行う。受講生は、毎時間終了時に、事前に指定された文献を読み、毎回、授業のまとめとコメントを提出しなければならない。	
			認知心理学特講８	基本は講義形式です。授業中，教科書を使いますので毎回持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，グループで討論をし、発表します。また，何回かゲームをして楽しみながら，授業内容を実感してもらいます。さらに，毎授業，皆さんからの「コメント・質問」をとり，次の授業で回答します。	
			発達心理学特講１	近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても論考することにしたい。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHDや自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。	
			発達心理学特講３	老年期の人々の心理やメンタルヘルス，老年期をめぐる諸問題（介護や認知症，貧困の増加など），サクセスフル・エイジングについて学ぶ。内外における高齢者研究やジェンダーの視点から考える老年期の問題についても論じる。	
			発達心理学特講６	母親は常に子どもに対して慈愛の感情を抱くわけではない。子どもの発達につれて、母親は子どもに対し、時として嫌悪や煩わしさといった感情を抱くことがある。慈愛と嫌悪という矛盾した感情を母親が子に対して抱くのはなぜか。進化と発達の観点から論じていく。	
			発達心理学特講７	毎週、前の週に配布される論文を読み、その概要をまとめたレポートを提出する。授業では、論文の内容の分析を進める	隔年
			発達心理学特講８	まず、「女性に対する暴力」を生み出し、逆に「女性に対する暴力」によって支えられてきた戦後日本社会のジェンダー構造を確認する。その上で、家族の中の暴力として、ドメスティック・バイオレンスと児童虐待を詳述する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	専攻分野	自由選択科目	臨床心理学特講１	神経心理学は，脳損傷者の示す多彩な高次脳機能障害を手がかりとして，心と脳の関連性について検討する心理学の一領域である．本講義では，顔の視覚的認知が選択的に障害される相貌失認と，wayfinding行動の選択的障害である地誌的失見当の話題を中心に取りあげながら，私たちの心的機能の実現を支える神経過程について神経心理学的に検討を試みる．	隔年
			臨床心理学特講２	適応と関わる重大な出来事としては、別離体験（子どもの短期間の親との別離、おとなの配偶者との死別）、被虐待体験を含む外傷的出来事の体験（対人関係の問題、解離性同一性障害、外傷後ストレス障害）などを取り上げる予定である。	
			臨床心理学特講３	自己の発達における各時期の特徴を学ぶことで，標準的な発達とその過程における不利益，および病理について学ぶ。また，臨床心理学，発達心理学領域における代表的な自己理論について学ぶ。	隔年
			臨床心理学特講４	学校教育と心理臨床の違いと相補性を検討する。そして、学校で出会う子どもたちに対応するための知識を深め、子どもの適応のために必要な環境についても検討する。	
			臨床心理学特講５	（英文）　In many societies, numerous people suffer from a variety of psychopathology including childhood psychological disturbances, depression, schizophrenia, addiction, and suicide, to name a few.　In this course, we will learn some major forms of emotional and behavioral disorders and examine their causes, symptoms, clinical course, and treatment. （和訳）多くの社会で、たくさんの人々が、子どもの心理的問題、鬱、統合失調症、薬物依存症、自殺などの、精神病理に苦しんでいる。このコースでは、いくつかの情動や行動の問題を学び、その原因、症状、治療などについて検討する。	
			臨床心理学特講６	思春期は誰しもが心揺らぐ時期です。まず、思春期の心の特徴と問題について考えます。また、現代の社会は子どもも生きづらい世の中になっています。子どもを取り巻く社会の問題を取り上げて、子どもの心への影響について学びます。最後に、発達障害を理解し、その支援について考えます。	
			臨床心理学特講７	臨床心理学の中でもブリーフサイコセラピーについて学びます。入門書を読みながら、ロールプレイで体験をしながら、実感としての学びが得られるようにしていきます。カウンセリングマインド、クライエントに対する姿勢、受容と傾聴などカウンセリングの土台についても体験的に学びます。その中で、自分や他者の言動について振り返って考えることがあります。振り返ると、時に辛い気持ちになるかもしれません。そうした自分の気持ちに向かい合うエネルギーがないと思われる方は、授業を取る前にお考えください。心配な方は初回授業にご相談ください。	
			臨床心理学特講８	基本テーマは「眠りを疎かにしている日本社会」です。眠りに関する基礎知識を得たうえで、「ヒトは寝て食べて始めて活動できる動物である」との当然の事実を確認し、現代日本が抱えている問題のかなりの部分に、我々が動物であることの謙虚さを失い、眠りを疎かにしたことの代償が及んでいることを認識していただければと思います。そして願わくばこの講義が今後の皆さんの生き方を考える際の、さらには小児科医である私の立場からは、皆さんが今後子育てをなさる際の、参考に多少ともなれば幸いです。	
			発達心理学１	胎児期から幼児期くらいまでの発達を考える。可能な限りビデオなどを使用して、視覚・聴覚をフル活用するような授業をしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	発達心理学２	児童期から青年期の身体的発達と認知的発達、および心理社会的発達について概説する。発達心理学の基礎知識をふまえ、中学生・高校生に現れやすい心理臨床的諸問題とそれらへの対応を概説する。障害をもつ子どもの発達と学習の過程についても述べる。全体的には講義形式で行うが、グループ討論の機会も設ける。原則として毎回リアクション・ペーパーの提出を求める。	
卒業論文	卒業論文	各学科専攻で個別に指導する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本史史料論	高校までの日本史と大学の日本史と、一番の違いは「なまの」歴史資料を扱うか否か、です。日本史という学問は、歴史資料を合理的に解釈し、それを積み重ねることによって実証的に構築していかねばなりません。この授業はとくに興味深い歴史資料を読み解きながら、歴史資料と歴史像とを包括的に理解しようとするものです。 なお、扱う時代は、平安時代中期から戦国時代くらいまでを考えています。	
			古文献入門	毎回テーマごとにパワーポイントの画像、配布資料を使用して講義する。その際に写真のみでなく和装本・複製本もできるだけ用いたい。ただし、一方的に講義するのではなく、学生にも一緒に考え意見を述べてもらう。また、前期には博物館で展示を見て原本を観察し、後期には修理工房に出かけて文献資料の修理を実際に見学する。	
			国際関係史Ⅰ	ヨーロッパの「西」と「東」の間にあって、ドイツ外交は常に慎重な舵取りを行わなければならなかった。ヨーロッパの秩序を作ることがドイツ（あるいはオーストリア・プロイセン）の利益になるという信念から、メッテルニヒ、ビスマルク、シュトレーゼマンといった外交の名手たちが登場した。そしてヨーロッパ秩序を破壊して戦争を導いたのもまたドイツであった。ヴィルヘルム2世とヒトラーの時代がそれである。 この授業では、ヨーロッパ国際秩序の形成と破壊という両面を担ったドイツ外交を、できる限り一国の外交史ではなく「ヨーロッパ」という地域の視点、そしてヨーロッパ統合の要素も含めて概観する。特に二つの世界大戦についてはドキュメント映像を鑑賞し、理解を深める材料としたい。	
			国際関係史Ⅱ	20世紀後半の国際関係を強く拘束した冷戦とは、実際にどのようなものであったのかについて、主に安全保障の観点から史的に概観する。冷戦期において世界はどのようにして戦争を防ごうとしてきたか、そしてどのようなときに戦争が起こされてきたのか、何をめぐって対立が起こるのか、協調関係がもたらされるのはいかなるときか、といった視点から冷戦史の諸問題に接近する。	
			世界音楽地誌	世界各地の音楽文化を視聴覚資料を多用しながら紹介し、音楽構造や特徴、さらにその背景となっている歴史、社会、文化について概説する。また、それぞれの音楽文化の歴史的変遷とその要因についても言及し、文化の流動性・可変性についての理解も促す。	
			日本史概説Ⅰ	映画・TVで流れている歴史の名場面には原作や史実と異なったり、考證に問題のあるものが少なくない。その実態を検証しつつ、名場面から人物の実像・時代の精神を読み取り、国史（日本の歴史）の常識を深める。併せて史料批判や時代考證の初歩を学ぶ。	
			日本史概説Ⅱ	私たちの国・日本の歴史を彩る数々の名文句。それは実証的な真偽を超えて、その時代の精神・雰囲気を伝え、人物の姿を活き活きと映し出す。それはある意味でその時代に生きた人々の自画像でもある。日本人として知っておきたい名文句・エピソードを軸に神話時代から戦後まで歴史と人間の機微を探る。併せてその信憑性も検証する。	
			外国史概説Ⅰ－1	13世紀末にアナトリア西部に生まれたオスマン朝は16世紀までに東地中海から東ヨーロッパにかけての広大な領域を支配するにいたります。授業では、なぜこれほど広大な領土を長期間統治することができたのかを様々な角度から考えます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	外国史概説Ⅰ－２	清朝末期から中華民国を経て現在の中華人民共和国にいたる中国近現代の歩みを、国内的には中国政治の歴史的特質、また国際的には日本、欧米諸国、ロシアなどとの関係に留意して検討したい。	
			外国史概説Ⅱ－１	ローマ教皇、修道院、騎士や商人など人々とキリスト教との関わり、などいくつかの大きなテーマを設定し、それぞれ２，３回ずつ議論してゆく予定です。 折にふれビジュアルな資料を提供して理解を助けられたらと思います。またリアクション・ペーパーを配布して自由な質問を受け付けます。	
			外国史概説Ⅱ－２	現在、私たちにとって当然の前提となっている「歴史の進歩」、「法の支配」、「議会制民主主義」、「政治参加」、「市場社会」などの成立過程を概観することによって、「ヨーロッパ的原理」を再検討したいと思います。	
			外国史概説Ⅱ－３	５つのテーマ（絶対王政、フランス革命、帝国主義、ナチズム、冷戦と東西ドイツ統一）に焦点をあてて近現代の世界を概観する。まずそれぞれのテーマに関連した映画を鑑賞し、内容について解説したのち、映画で扱われている時代や事件、人物について講義でさらに詳しい説明を加え、多面的に理解を深めていく。	
			資料整理実習	大学が所蔵している江戸時代の古文書や近代資料を調査・整理する。出所原則や現状記録の重要性を踏まえて資料の仕分け・内容採録・目録作成を実践することで、古文書の原物に触れる大切さを経験してもらいたい。この実習で博物館・文書館などでも通用する基本的な調査・整理の方法を習得していく。	
			史料講読Ⅰ	日本史研究には、史料（古文書）の読解が必要である。当授業では、史料の中でも汎用性が高い近世のくずし字を講読する訓練を行う。併せて、近世史料読解の為に必要な基礎知識の習得と、工具書類の把握にもつとめる。なお、毎回の講義の冒頭で様々な古文書の原物を紹介・回覧するので、実物を手に取り目にすることで、古文書に対する真の理解を深める。	
			史料講読Ⅱ	古文書の読解を演習形式で行う。つまり、受講生に読んでもらったあと、教員が補正・訂正することをくり返す。	
			日本考古学	考古学は歴史学の一分野ですが、文字記録を扱う文献史学とは研究方法が異なり、多くの素材からなる遺物・遺構から歴史的情報を読み取るさまざまな方法があります。そこで、考古学が発達してきた歴史を振り返りながら、基本的な研究方法と各時代の資料構成・研究成果を整理します。なお、博物館において展示資料の見学も行います。	
			日本民俗学	前期　民俗学概論.後期　民俗芸能論 日本の生活文化を伝承形態を通して探る。前期は概論で方法論、および生業・社会・儀礼などの基礎的知識を講ずる。後期は祭礼・芸能の歴史を中心に具体的事例を通して分析する。	
			日本古代史Ⅰ	前期は、平城京前史からはじめて、平城京成立の意義、平城京・平城宮の構造、平城京住民の生活をみていく。後期は、長岡京について触れた後、平安京・平安宮の構造、平安京住民の生活をみていき、最後に平城京と平安京の比較を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	日本中世史Ⅰ	本講義では歴史学の中でも、特に日本中世史を取り扱う。日本の前近代社会（江戸時代までの時期）の特異な性格として、朝廷（公家政権）と幕府（武家政権）という、権力の二重構造がある。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての時代（＝中世）においては、朝廷・天皇権力が有名無実化しつつあるものの、厳然たる現実的影響力を保持しており、本来的に幕府と朝廷は互いに対立する存在であると思われてきた。しかし、近年の研究成果によれば、朝廷と幕府、天皇と将軍は互いが互いを補う相互依存の関係にあったことが明らかにされている。本講義では、将軍（幕府＝武家）が、なぜ天皇制を打倒しなかったのか、なぜ天皇という存在を必要としたのかについて、説明していきたいと考えている。	
			日本近世史Ⅰ	江戸城本丸御殿を、儀式・政治空間である「表」、将軍の執務・生活空間である「奥」、女性たちの生活空間である「大奥」に分け、それぞれの構造からみた江戸幕府の政治・制度のあり方について、主に中・後期の状況を中心に講義する。	
			日本近世史Ⅱ	歴史研究にとって最も必要な「史料」に焦点を当て、東北地方の大名文書から、幕府と藩の関係や藩の政治を研究する上で重要な意味をもつ文書・記録などをとりあげ、何が書かれてあるのかはもちろん、史料のもつ背景にまで踏みこんで解説し、近世の支配関係文書に関する基礎知識習得を目指す。	
			日本近現代史Ⅰ	明治後期初頭の生活文化を、その時代に生きる人々の感覚・視点に立って、同時・等身大の追体験を行なう。毎回、オリジナル教材を配布する。 衣食住・交通・買い物・生活習慣・年中行事・行楽など、明治の生活文化を理解する	
			日本近現代史Ⅱ－１	明治維新後に新政府が選択した様々な政策は、現代にも影響を残し続けている。その内容を精査するが、理解を深めるために視聴覚資料（史料）を多数用いる。	
			日本近現代史Ⅱ－２	本講義は、戦前日本の統治構造を踏まえつつ、明治期から昭和戦前期にかけての議会政治を歴史的に辿る。政党勢力がいかにして実力を養い、国政の中枢に進出したのか、諸政治勢力が議会政治に何を期待し、議場の内外でいかなる相克が繰り広げられたかを複眼的に論じていく。	
			日本文化史Ⅰ	幕末の開国後、東洋の島国日本を訪れる欧米人が増加する。混乱や反感の時期を経て、積極的に迎え入れる動きが始まる。その取り組みの様子や、関わった人たちの思いやねらいなどを明らかにしていく。	
			日本文化史Ⅱ	江戸時代の文化の発展に大きな役割を果たした大名庭園の世界を探る。まず、徳川将軍家の庭園や大名庭園の形成過程とその特徴を検討する。続いて、古文書・絵巻・図面・古写真を使用しながら、将軍家と大名家・旗本・公家などとの交流の実態や園芸・植栽空間としての機能について明らかにしていく。	
			中国古代文化史	中国考古学の概説である。まず考古学の概要を説明し、中国考古学の歴史的な流れを把握する。そして各時代を通史的に概観することで、各時代の物質文化の様相を考古学の視点から見て行きたい。また、通史的トピックも扱う予定である。	
			中国近代史	王朝体制から共和制、そして社会主義国家へと近現代の中国は激動の歴史をたどった。本講義では、中国近代化の展開過程を概観し、伝統と外来がおりなす東西の対抗・融合の歴史を明らかにする。中華文化を代表する豆知識の紹介を行うほか、映像資料・新聞記事も適宜併用する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	朝鮮現代史	朝鮮現代史はおもに「三つの歴史」から成っています。大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、そして日本の中のコリアン（KOREAN）の戦後も。ひとつの民族が、どのような事情で分裂し、どのように絡み合いながら歴史を歩んできたのか、これが授業のテーマです。	
			東南アジア史	東南アジアの国々には、どんな巨大遺跡があるか。また古き美術があったか。それらの偉大性をスライドを用いて紹介していく。講義の主旨は、それらの遺跡に残された、美術が語る英知と、そこに見る物語を伝える。美術の歴史的な展開も語り、各国の美術に親しんでもらう。	
			南アジア現代史	講義形式をとります。前期においては、主として南アジアという地理的空間をどのように覚え、また、それを「わたしたちの位置」との関係的思考に発展させていくのかを探ります。後期に入ると、前期の準備をふまえ、講義はインド近現代史に焦点を絞ります。とくに独立を経て、今日に至る現代インドの成り立ちを学ぶことで、多元文化社会の歴史的仕組みを身近にすることになるでしょう。この授業は物知りになるための歴史を伝えるものではありません。受講者のみなさんが、この地球世界のメンバーとして、21世紀における共生という課題の重みをそれぞれに受けとめ直してみる、そのような機会につながることを願いながら組み立てるものです。	
			西アジア近代史	前期は、オスマン帝国の歴史を通じて重要な役割を果たした遊牧民に焦点を当て、帝国が彼らをどのように統合・利用しようとしたのか、また、近代への移行のなかで国家と遊牧民の関係がどのように変化したのかを考えます。後期は、オスマン帝国の都イスタンブルにおける犯罪と処罰を具体的事例に基きながら検討します。	
			西アジア文化史	衣服は、人々の価値観や信念、思想を映し出す鏡の一つである。その時々のファッション（流行の装い）に目を向けるとき、我々は、それぞれの時代の人々が、どのような美意識を持ち、何を大切にしていたのか、その一端を知ることができる。本授業では、西アジアを事例に、これを実感することを目指す。具体的に行うのは、史料の種類やそれぞれの読み方を学ぶ「前近代の衣服と史料」、一つの時代を「洋装化」をキーワードに比較検討する「近代と洋装化」、衣服に関わる現代の様々な事象について考える「現代の服飾と伝統の創出」という、三つの作業である。	
			イスラム社会史入門	自然環境は人間の営みにどのような影響を与えてきたのだろうか。そしてそれを歴史的に解き明かすにはどのような方法がありうるのだろうか。本講義では、特異な性質をもつ大河ナイルが流れるエジプトの中世に焦点をあて、その歴史をナイルと人との関係を軸にしながら解説する。	
			古代オリエント史	ナイル川流域に成立した古代エジプト文明では、ローマ帝国のもとでキリスト教が広がりを見せるまで、約3000年に亘り、周辺文化と交流しつつ伝統的な多神教に根ざした文化が展開した。その過程を考察することで文明の本質を知り、これからの人間の生き方を探る。	
			古代ローマ史	紀元前753年に建国されたとされる、古代ローマ国家の1200年にわたる歴史について、まずはその大枠の理解を深めてもらう。その上で、現代の世界とは大きく異なる古代世界の社会について、さらには古代世界の文化について、図像資料や映像教材などを随時活用しながら、解説を加えていく。同時に、そうした社会・文化の中で生活した古代ローマ人の心性・メンタリティについて、様々なトピックを通じて受講生に考えてもらいながら、その思考をいまの自分を見つめ直す機会として活用してもらうつもりだ。受講生の興味・関心に応じ、扱う内容も随時見直していく予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	ヨーロッパ中世史Ⅰ	古代末期の文化を継承した初期中世文化の形成を経て、盛期中世におけるさまざまな局面における文化的開花、そして中世末期の成熟へと至る経過をたどります。 ここで言う「文化」とは学問や芸術というより、それらを含めた衣食住、技術、道徳、宗教など物心両面にわたる生活様式やその内容のことを指します。	
			ヨーロッパ中世史Ⅱ	講義形式で行われる。フィレンツェとローマはイタリア中世史を知る上で欠かせない都市である。この両都市が中世においてどのような変遷をたどるのか、またどのような接点があるのか、そして華々しいルネサンス文化がどのように生まれたのか、を明らかにする。	
			ヨーロッパ近代史Ⅰ	大航海時代は、現在のグローバルな世界が形成され始める世界史上でもっとも重要な時期のひとつと考えられています。この時代のイギリスには、後に世界の覇権を握る大帝国に成長することを予期させるものはありません。ヨーロッパ大陸の沖合にあって、さまざまな意味で生き残りをかけて闘っている一流半の国に過ぎませんでした。 この授業では、彼らの課題が何だったのか、そして彼らがどのようにその課題に立ち向かっていったのかを明らかにしたいと思います。 中心になるのは新大陸との交易で、それがどのようにして新しい「大西洋世界」を構築していったのか、本国および新大陸植民地にどのような影響を及ぼしたのか、を考えてみたいと思います。	
			ヨーロッパ近代史Ⅱ	ヨーロッパの多様性と共通性を学び、ヨーロッパ連合の現状を理解する。「地域」の歴史の重要性について「国家」の歴史からは把握できない側面を紹介しながら検討する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅰ	ハプスブルク帝国の歴史について、その領土の一部をなしていたハンガリーとの関係に重点をおきながら、講義形式で授業をおこなう。ハプスブルク帝国に関する映画やドキュメンタリーを補助教材として使用する。	
			ヨーロッパ現代史Ⅱ	2000年に改正された新国籍法によって、ドイツでは出生地主義に基づく国籍取得が可能となり、帰化要件が緩和され、二重国籍が認められるようになった。国籍法改正から10年、さまざまな肌の色や宗教、民族と結び付けられるドイツ人のイメージが模索されているが、ドイツ社会に溶け込まない「平行社会」の存在が浮き彫りとなっている。また欧州統合の拡大を背景とし、ヨーロッパ・アイデンティティの高まりもみられる。帝政期以来、血統主義による国籍取得を原則としてきたドイツの国籍法は、出生地主義をとるフランスの国籍法と対置されてきた。歴史的に、フランス人が政治的な「国家国民」であるのに対し、ドイツ人は民族的に同質な「文化国民」であり、日本との類似性もしばしば指摘される。 この授業では、ネーションと「人種」、ジェンダーを基軸に据え、ヨーロッパの近現代を読み解いていく。近代国家は、国籍という制度によって「他者」を規定し、排除と内包の論理によってネーションを形成してきた。政治的統一に遅れたドイツにおいて、どのように「ドイツ人」や「ヨーロッパ市民」としてのアイデンティティが形成されたのか、ジェノサイドとの関連、欧州連合の拡大に重点を置いて考察していく。	
			ロシア文化史	18世紀初頭－20世紀初頭のロシア帝国の国家、社会、宗教、民族の状況を紹介し、この国が自身を「ヨーロッパか、アジアか」と問いながら近代化していった過程を学びます。	
			アメリカ史	植民地期から現代にいたるまでのアメリカ合衆国の歴史を概観する。「アメリカ人」の誕生と発展、奴隷制、産業化・都市化、移民の大量流入、社会改革運動、戦争と社会変動、権利獲得運動、女性性・男性性の構築といったテーマについて、歴史の大きな流れと関連づけつつ検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	ラテンアメリカ史	高度な古代文明が花開き、植民地時代から地域で重要な位置を占めて来たメキシコを主たる事例として取り上げ、各時代の社会構造や統治機構、思想的潮流などの特徴を概説し、ラテンアメリカ全体の共通性と地域ごとの差異についても考えてみたいと思います。	
			世界史文献講読Ⅱ－１	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅱ－２	第二外国語の科目として中国語を学び終えても、中国語の本や雑誌を読むのは容易ではない。その1つの理由は実際の中国語の文章に慣れていないことである。実際の中国文に親しめば、卒業論文に中国語史料を使う力も身につくのだということを実感してもらいたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－１	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語文献を用い、研究するための準備となればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅲ－２	フランス語文献を皆で読み、フランス語に慣れ、読解力を向上させるための訓練をする。自力でフランス語を用い、研究するための準備になればよい。 世界史専攻生のみならず、広くフランスの社会・文化に関心を持つ学生が参加できるような授業にしたい。	
			世界史文献講読Ⅳ－１	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。	
			世界史文献講読Ⅳ－２	エリザベス女王の治世、イギリスにおいてカトリックは反体制の「非国民」でした。そうした「非国民」を助けるために、大陸から多くのカトリック司祭がイギリスに潜入し、布教と救済に力をつくしました。しかしエリザベスの政府から見れば、彼らは「テロリスト」であり、その多くが処刑されました。 この授業であつかうのは、そうした司祭が書き残した自伝です。これを読むと、当時のイギリス社会、そしてそこでカトリックの置かれた状況が生き生きと伝わってきます。 前期に引き続き、テキストの続きを講読します。	
			世界史文献講読Ⅴ－１	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	
			世界史文献講読Ⅴ－２	ハプスブルク帝国皇帝フランツ・ヨーゼフの私生活を描いたドイツ語の歴史書を読み、19世紀末～20世紀初頭にかけての君主の日常や宮廷生活のあり方を理解する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（史学）	世界史文献講読Ⅵ－１	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
			世界史文献講読Ⅵ－２	16世紀にオスマン朝を経てサファヴィー朝に旅したヴェネツィア人の旅行記を読みます。16世紀前半、オスマン朝による東地中海支配に危機感をもったヴェネツィア共和国は、当時オスマン朝と対立していた東の隣国サファヴィー朝と同盟を結び、オスマン朝を挟み撃ちすることを画策します。そのための密使として派遣されたのが、旅行記の著者にして主人公であるミケーレ・メンブレでした。当時、ヴェネツィア領であったキプロス島にいたメンブレは、エーゲ海をわたってアナトリア西岸に上陸し、敵国オスマン領内に入ります。その後も変装して旅を続け、黒海に抜けて海路でコーカサスに渡り、ようやくサファヴィー朝へと入っていきます。結局、サファヴィー朝との同盟締結には至りませんでしたが、彼の記録はオスマン史・イラン史研究のための第一級の史料になっています。	
			世界史演習Ⅱ－１	中国近現代史に関する英語の研究文献と東アジア近代史に関する日本語の研究文献を読む。また自由テーマの研究発表を行い、研究方法を実践的に学ぶ。	
			世界史演習Ⅱ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅱ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。レポートの中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅱ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅱ－５	研究論文についての口頭発表と質疑を行う。このほか、後期には、卒業論文執筆の準備として、出席者がそれぞれの研究テーマに基づく口頭発表を行うこととする。	
			世界史演習Ⅲ－１	卒業論文テーマに関する発表とその相互批判を通じて卒業論文の内容充実を図る。また、東アジア史に関係する研究文献を読み、研究方法を学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
			世界史演習Ⅲ－２	まず、全員でヨーロッパ中世史にかんする共通のテキストを読み、中世全般について理解を深めながら、専門文献に慣れるようにします。次に、各自が関心を持つテーマについて研究発表し、質疑応答と討論を行います。 各自には、テキストの要約発表と、前期後期各１回の研究発表が義務となります。	
			世界史演習Ⅲ－３	結社（アソシエーション）について論じたテキストを読み、内容をまとめてそれぞれの担当週に発表する。卒業論文の中間報告もおりこんでいく。	
			世界史演習Ⅲ－４	カトリックといえば、普通、体制に忠実な保守派の人々を想像します。ところが近代イギリス社会において、カトリックは反体制的な「非国民」であり続け、彼らが市民権を回復するのは、ようやく19世紀半ばのことでした。 イギリス社会における異分子としてのカトリックの独特な性格は、20世紀に入っても残ります。イギリスを代表するカトリック作家グレアム・グリーンは、同じ異分子である共産主義者の同志意識に同情の念を隠しませんでした。 この授業では、なぜ「反体制的なカトリック」が出現したのかを、宗教改革とその帰結から明らかにするとともに、テロリストと化したカトリックの反体制活動に眼を向けたいと思います。	
			世界史演習Ⅲ－５	卒業論文の構想発表と文献講読を組み合わせて授業を進める。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	対人社会心理学１	社会的動物としての人間の行動や意識を考える上で、他者との関係性を無視することはできない。本講義では、個人が他者からどのような影響を受けているのか、また、社会的適応のために個人の行動や認知がどのような働きを持っているかなどについて、実証的な研究例を基に解説する。	
			マスコミ社会心理学１	個々人には、それぞれ感情や意思があるが、それが大勢集まって、集団や社会となったとき、個人の総和以上の現象を引き起こすことがある。この授業では、集団、社会、マス・コミュニケーションなどのマクロな分野を中心に、社会心理学の理論や研究事例を学ぶ。	
			人格心理学１	人格心理学の領域は広い。この入門講義は、特に臨床的な観点から、個としての人間を理解するための内容が主であり、この社会文化の中での人格の形成と変化、適応と不適応、そして心理的援助の方法の基礎等が論じられる。	
			家族社会学１	家族に関する基礎概念や学説を理解することと、家族に関する現状を知ること、さらには自身を取り巻く環境や社会について解釈し考える力を養う。	
			職業社会学１	職業・労働に関する社会学的研究について講義するとともに、レポートやディスカッションを通じて学生が自ら考え、理解を深める。	
			文化人類学１	文化人類学の基礎論を学ぶとともに、現代社会と関わるテーマにも深く切り込んでいく。また授業では、担当者がアフリカでのフィールドワークで入手した第一次資料や映像なども多く紹介する予定でいる。授業の後半期には、外国人ゲスト・スピーカーを招聘して、母国の社会や文化について話してもらうと同時に、受講生とのディスカッションを予定している。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	社会調査入門	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶ。社会調査の必要性とその意義について、(1)社会調査の歴史、(2)現在実施されている官庁統計、世論調査等、(3)社会学、社会心理学、文化人類学、人格心理学において行われている社会調査の実例とその学問的意義から学ぶ。また、調査倫理と調査データを読みこなす力を身につける。	共同
			比較文化学１	比較文化の基礎的な理解のために、インド・ヒンドゥー社会、開発、文化などをキーワードとして文化的議論を整理し、提示する。	
			社会心理学特講１	「他者の目に映る自己」をテーマに、自己意識、自己呈示、対人不安、羞恥心、プライバシー等について講義を行う。社会に依存して生きるヒトにとって、他者から排斥されないこと、あるいは賞賛されることは重要な課題である。これに関連する心理学的諸現象を扱った研究例を紹介し、社会適応と自己意識との関連について考える。	
			社会心理学特講２	社会調査実習と連動して、社会心理学のロジックの理解、データの解釈、考察のトレーニングのための授業である。ファン心理の研究を題材に、SPSSの出力結果を正確に読み取り、考察を導き、発表する作業をグループで行う。	
			社会心理学特講４	新製品開発や広告宣伝活動といった企業戦略の成否のカギは、ターゲットとなる消費者の心理・行動を客観的に理解することにあるといえます。同時にこのことはわれわれ消費者自身にとっても自己の利益を守るうえで重要なことです。この授業では心理学の理論を援用しながら「消費者理解」のあり方やその妥当性について考察します。	
			社会心理学特講６	講義形式で行われるが、犯人像推定などの課題に関しては、グループ討議を経て、発表を行ってもらう。犯罪学の基礎知識、精神医学的、社会心理学的、統計学的な手法による犯罪へのアプローチを学んでもらう。	
			社会心理学特講９	「大阪の人はせっかちだ」「女性は感情的だ」など、あるカテゴリーに含まれる人たちに対する固定化されたイメージ(ステレオタイプ)が社会の中に多数存在している。本授業では、ステレオタイプに関連する具体的な社会問題(特に偏見や差別にかかわる問題)を取り上げながら、ステレオタイプの形成・維持過程、変容過程に関する社会心理学的知見を解説する。	
			社会心理学特講１１	対人関係に関する社会心理学の研究成果を、トピックスを絞って紹介する。恋愛や友情という身近な対人関係に始まり、惨事ストレスや悲しみやカルトなどの社会全体に関わる心理現象も取り上げる。	
			社会心理学特講１４	現実の環境における人間の要素を広い範囲で研究する心理学である、環境心理学の基本的な理論と現実場面への応用を紹介する。写真や図表を多用し、環境と人間の興味深い関係とその背後にあるメカニズムを実感してもらうことを目的とする。	
			社会心理学特講１５	新聞を主にした日本のマスメディアの「過去・現在・未来」を考える。新聞記事や社説のつくられ方、戦争と新聞の責任、社会におけるメディアの役割などを学ぶ。また、ワークショップや、時事的なニュースやメディアの課題をテーマに討論もしたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	文化人類学特講４	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			文化人類学特講６	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			文化人類学特講７	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。	
			文化人類学特講１０	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			文化人類学特講１１	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	
			文化人類学特講１２	人はジェンダーという日常を生きる。本年度はジェンダーをめぐる諸問題について、文化人類学の立場からこれを講じる。ジェンダー概念の規定をめぐる諸理論、ジェンダー研究の変遷にふれ、ジェンダーをめぐる多様性／ローカリティ／グローバリティの現在について、政治・宗教・経済・開発・技術などの具体的事例にそくして議論していく計画である。	
			人文地理学１	都市地域を扱った分野を例として取り上げ、人文地理学の基本的な概念、方法等の入門的な紹介を行います。地域情報の具体的例として、地図、地域統計等の利用法の解説も合わせて行います。	
			人文地理学２	人文地理学における、やや専門的な研究分野の例として、時間地理学の枠組みに準拠した都市住民の生活活動の分析、特に女性の就業や社会参加に関わる実態分析を紹介します。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	自然地理学１	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学1では地形的要素を中心に講義を進める。	
			自然地理学２	本講義では、自然地理学の視点・考え方、地形図の活用方法、人間活動と自然環境との関わり合いの重要性を学習する。併せて、自然地理学の視点・考え方に基づき、景観や地形図などから、地域における自然現象・自然事象の特徴を読み解くための着眼点を養う。自然地理学2では気候・植生・水文的要素を中心に講義を進める。	
			地誌学１	講義形式で行われる。ヨーロッパの人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、ヨーロッパの地域構造への理解を深める。	
			地誌学２	講義形式で行われる。アメリカ合衆国の人間(人種と民族)、自然環境（地形・気候）、産業（農業・鉱工業）について総合的に学ぶことで、自然環境と人間活動とのかかわりあいを明らかにしていく。毎回配布される白地図に地理情報を記入しながら、アメリカ合衆国の地域構造への理解を深める。	
			マス・コミュニケーション論	マス・メディアの発達によって、社会構造やコミュニケーションのあり方は大きく変容した。この授業では、マス・コミュニケーションの基礎的な理論を学び、さまざまな社会の営みとの関わりについて考える。 前半は古典的なマス・コミュニケーションの効果論や、日本のジャーナリズム制度について学び、基礎的な知識を習得する。後半は、ニューメディアの台頭を踏まえたマス・コミュニケーションの最前線や、受け手に与える影響の実証的研究、具体的な事例研究などを紹介する。	
			社会学	社会学をはじめて学ぶ学生を対象に、社会学の基礎概念を概説しながら、社会学的な発想や基本的な考え方について講義し、「社会学的に考える」ことの意義について考察します。授業では、身近に経験するさまざまな社会現象や日常の出来事を考察の対象として選び、社会学の理論や方法論を使いながら社会についての理解を深めます。	
			家族社会学２	前半では「若者と親」のテーマを取り上げ、若者の自立を考える。指定のテキストの各章を読んで、毎回個人あるいは複数人でプレゼンを行い、テーマに関してディスカッションする。また後半ではそれらのテーマに関連して、各自が関心のある問題について資料（文献、新聞やニュース報道など）を持ち寄りディスカッションする。	
			職業社会学２	授業は、1.講義、2.対話（ワールドカフェスタイル）、3.リアクションペーパーの記入という３つの柱で進めていく。 ①働く場の実態について理解し、ジェンダーを取り巻く現実への認識を深め、職場構造についてジェンダーの視点から考える。 ②「働くこと」において、どのように男女で基準や役割が異なっているか、その結果、収入・機会・能力・評価においてどのような差が生じているのかについて理解する。 ③自分の「働き方」について考えていく力をつける。	
			キャリア形成の社会学	一般に、「キャリア」とは個人が職業上たどっていく経歴のこと、「キャリア形成」とは仕事の経験を重ねることで自分の職業能力を育てていくことだが、近年「職業」のみをキャリアの要素としてとらえるのではなく、社会的な活動を含めた生涯を通じたキャリア形成のあり方を考える必要があると、言われている。この授業は、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自分自身の生涯を通したキャリア形成のあり方を考えることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	社会学特講１	「老年学」は20世紀初頭に、ドイツの疫学者により創始された新しい学問領域である。20世紀から21世紀にかけて、先進国を中心に人口高齢化が進み、老年学の研究領域は自然科学にとどまらず、人文科学、社会科学へと及ぶようになった。本講義では、社会老年学の主要なトピックのうち、個人、家族、社会の「加齢」を中心に、ライフコース論の考え方を基礎におきつつ、ともに考察していく。	
			社会学特講２	近年の日本では、経済格差の拡大と貧困層の増加が注目を集め、不平等への社会的関心が高まっている。この授業では、①不平等をとらえるための社会学的な理論と方法について平易に解説し、②現代日本の格差の構造についていくつかの側面から概観し、③現代日本において格差拡大がもたらしているさまざまな問題と解決策について考えていく。	
			社会学特講３	グローバル化が進行する現代において、ナショナリズムの意味が再確認されると同時に、その表出形態には新たな展開が見られる。社会学、人類学、文化研究などの分野で展開してきたナショナリズムの社会理論を学習しながら、現代におけるナショナリズムの諸様相の理解を試みる。	
			社会学特講４	1990年代半ばから労働過程の分析に軸足をおき、労働組織におけるジェンダー関係に関する実証研究を展開する。	
			交流分析概論	アメリカの精神科医エリック・バーンが創始した交流分析（TA）は、心の仕組みや有り様を簡潔に説明した自己分析法である。心理療法として導入されたが、今日では自己啓発や対人関係調整のツールとして一般に普及している。授業では基礎理論と活用を解説し、社会病理の観点から社会や家族の混乱をTAを使って読み解く。	
			人格発達心理学	この授業では子どもの人格形成に影響を与えていく様々な要因について人格心理学および発達心理学の立場から講義していく。母親のみならず父親やきょうだいが人格発達に与えている影響について論じていく。また成人してからどのようにすれば性格を変えられるのかといった問題についても考えていく。	
			人格心理学特講１	心理学的個人差について、認知的能力（知能）、パーソナリティ（人格・性格）認知スタイルなどの個人差の問題を中心に、その基本的問題と歴史的展開と現在の動向について、多面的に論じる。認知的能力については、その概念と測定法上の問題について、パーソナリティに関しては、代表的なアプローチである資質（特性・類型）論的アプローチ、精神病理学的アプローチ、認知的アプローチについて、比較検討を行う。また、認知スタイルについては、脳・神経系に基礎を持つ個人差や、その進化心理学的説明について最新の研究を紹介する。	
			人格心理学特講４	「交流分析（TA）概論」で基礎知識を学んだので、本講座はTAの実践と応用を目的とする。TAの真髄は自己分析である。そのための具体的方法論をさらに深める。また、ライフサイクル論やアイデンティティ論などを加味し、日常の時事問題を材料にしながら、「生きること」や「人生」について、TAを中心にした新たな視点で考えてみたい。	
			人格臨床心理学特講２	臨床心理学や心理療法の実際、またパーソナリティの発達的な理解について講義する。	
			人格臨床心理学特講４	授業形式中心に行われる。基礎を学んだ後には、事例についてグループディスカッションも取り入れていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	比較文化宗教学１	宗教というとほとんどの人は自分の生活とはそれほど関係のないものだと考えるかもしれません。 しかし、現代社会では宗教は形を変えながらさまざまな領域へと浸透しています。この講義では、現代では聖なるものが政治経済・教育・医療・音楽・映画・サブカルチャー・観光といったさまざまな領域との相互作用の中で変化しつつあることに注目します。 可能な限り映像資料を用い、現代の宗教について、自由、他者、性、共同体といったテーマと関係づけながら具体的に学んでゆきます。	
			比較文化宗教学２	講義形式で行う。近代西欧では、新しい家族関係に基づく子ども観が形成され子どものための文学が誕生した。想像力によって別世界が描き出されるファンタジーには、古くからの宗教の中で受け継がれた死生観や運命観が息づいている。それらの物語の宗教性について、実際の作品や映像資料などを用いて解説する。	
			比較文化学特講	文化を学ぶ手法としてのフィールドワーク論、および南アジアの社会と文化についての総合的理解を行う。	
			比較文化学特講１	NGOの組織的理解を深め、日本の社会運動と支援について総合的に学ぶ。	
			比較文化学特講２	本講義は文化人類学の多様なテーマから「もの」と文化の関係に注目する。私たちの生活は様々な「もの」に取り囲まれている。それらの「もの」に人間はどのように関わっているのだろうか。異文化の「もの」について構築されてきた物質文化研究から、「もの」と人間の関わりを論じる近年の傾向まで文化人類学における「もの」の議論を概観していく。中でも「もの」を作る技―ものづくり―を通じて、形成される人間と「もの」の関係に注目する。	
			比較文化学特講３	「ムスリム女性の地位は低い」「彼女たちは抑圧されている」といわれることもあるが、はたして本当だろうか。イスラームは狭義の宗教の範疇を超えて、社会生活全般を規定するものである以上、彼女たちの地位あるいは彼女たちをめぐる語りはイスラームとの関わりの中で考えていかなくてはならない。この授業では、中東地域のムスリム女性の日常的な暮らしを紹介し、イスラームが現代社会という文脈のなかでどのような機能を果たしているのかについて考えていく。まずはイスラームおよびジェンダー論の基礎知識を習得したうえで、結婚やヴェール、性といった問題をイスラームの観点から扱っていく。広尾のオマーン大使館への訪問も計画している。	
			比較文化学特講４	いわゆる「黒人音楽」について、そのルーツであるアフリカ伝統音楽から、世界中に影響を与えつづけているアメリカ合衆国、レゲエを生みだしたジャマイカなどの事例を紹介し、音楽を通した異文化理解の可能性について考える。	
			比較文化学特講５	「観光」は現代世界を特徴づける現象として、多くの学問分野が注目するテーマである。本授業では観光に関係する事象を文化人類学的にどのように理解するのかについて講義する。特に観光と文化との関係に注目することにより、いかにして文化が意識化され、操作され、場合によっては作り変えられるのか、という動態的な状況について講義する。そのための事例として、担当教員がこれまで調査してきた、東南アジアやオセアニア、日本国内における観光の事例について紹介する予定である。なお下記の授業計画は実際の授業の進行の度合いによって変更する可能性がある。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（人間関係）	比較文化学２	ホモ・ロクエンス。すなわち、人は「ことば」とともにある。本講義では、「ことば」と人をめぐる諸問題に文化人類学の立場からの接近を試みる言語人類学に関する入門的な講義を行う。「ことば」をめぐる総合的知見、「ことば」と文化の関係、資源としての「ことば」、「ことば」と環境、等々、なるべく広い視点と素材から「ことば」と人の問題をとりあげ、21世紀の今と将来を考えるうえでの重要な鍵としての「ことば」の存在を問題化したい。	
			社会調査の技法１	講義とワークで構成する。前半は具体的な調査方法について、理論や知識を講義で学び、簡単なワーク課題を実践しながら、理解を深める。後半は、収集したデータの処理や分析との対応を学習する。最後に、実際の研究事例を読むトレーニングを通じて、研究目的と方法論、データ分析の対応を理解する。	
			社会調査の技法２	社会調査の目的と調査のプロセスを理解し、その目的に沿った調査方法の選択・企画・設計・データ収集の手法と、妥当性・信頼性の高い概念や変数の測定のための必要な基礎事項を身につける。その過程で、調査の実施において必要な知識（調査票の作り方、調査票の配布・回収法、調査データの整理など）もあわせて習得することを目指す。主に質問紙調査法（アンケート調査）を中心とするが、質的データ収集についても留意する。	
			社会統計学	社会学や社会心理学領域において実証的研究を進めるための基礎となる統計的知識を学習する。講義では実際の調査や実験データなどを用い、社会現象、心理現象を数量化し検討することの有効性や面白さを体験的に学んでゆく。	
			質的調査法１	質的調査の立案から実施・分析まで一連の具体的手法を人格へのアプローチという視点から学ぶ。質的方法の評価、質的データの収集方法（特に半構造化面接法と参与観察法）、分析方法（会話分析とライフストーリー分析）を学ぶことによって、人格を理解する方法や分析のあり方を身につける。	
			質的調査法２	講義を基本とするが、同時に幾つかのグループに分かれてインタビューを実践する。対象は、本学で学ぶ留学生や東京で働く在日外国人を考えている。各グループは、インタビューする内容についてテーマを設定するが、その下調べや質問項目の整備なども念入りに行う。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅠ（１）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅠ（２）	（仏文）Avec des exercices de prononciation, avec des structures de phrases simples, parler sur des thèmes enthousiasmants. （和訳）簡単な構文を使って、テーマに基づいた会話の練習をする。発音練習も行う。	
			フランス語コミュニケーションⅡ（１）	（仏文）Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. Les thèmes abordés dépendront de l'actualité sociale. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	フランス語コミュニケーションⅡ（２）	（仏文）　Dans ce cours, nous continuerons à faire des exercices de langue écrits et oraux. Nous étudierons aussi différents aspects de la société française. （和訳）会話と作文の練習を継続して行う。フランス社会のさまざまな側面についても学ぶ。現代社会に関するテーマを扱う。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅠ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（１）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			ドイツ語コミュニケーションⅡ（２）	ドイツ語の「話す」「聞く」能力の養成・発展に重点をおきます。文法事項の確認・復習も随時行います。 授業は基本的には教科書に沿って進めます。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（１）	スペイン語を聴くこと、読めること、意味がわかることを目指すために、スペイン語の要である動詞の活用練習をおこなう。さらに日本語からスペイン語への作文練習をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅠ（２）	テキストを講読しながら、接続法がどのように使われているか理解し、接続法を使う練習問題をおこなう。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（１）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			スペイン語コミュニケーションⅡ（２）	（西語）Presentación de los contenidos gramaticales de cada lección, repaso práctico en el caso de que sean contenidos ya tratados con anterioridad y explicación y puesta en práctica inmediata si son nuevos. Todo enfocado al progreso de las habilidades comunicativas de las estudiantes. Durante el curso se escucharán canciones con las que se trabajará y se verá una película. （和訳）授業の始めに文法について説明をします。既に学習したものについては復習を行い、新らたな内容については用法を初めから説明します。授業は全て学生のコミュニケーション能力を高めることに焦点を当てています。音楽鑑賞や映画鑑賞も行います。	
			中国語コミュニケーションⅠ（１）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	中国語コミュニケーションⅠ（2）	この授業は，初級を終えた学習者のための、リスニングとスピーキングの訓練を中心とした授業です。 テキストは中国の語学専門機関が留学生のために編纂した≪快捷漢語（スピード中国語）初中級教程≫を使用し、授業では映像や音声によるリスニングの練習、受講者と教員及び受講者同士の会話練習を通して、生きた中国語をマスターできるように指導します。 また異文化への理解を深めるために，中国人と日本人の考え方の違いや表現の違いなどについても随時触れていきます。	
			中国語コミュニケーションⅡ（1）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			中国語コミュニケーションⅡ（2）	この授業では、主に文章を読み解く力を向上させることに重点をおいて進めたい。合わせて中国の文化・歴史などにも触れ、中国文化への理解の深化も図る。授業では様々な文章を読んでいく。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（1）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅠ（2）	毎回のテーマに沿って、まず文法等の学習事項を一通り説明する。次に、例文を一人ずつ読ませ発音指導を行う。さらに、例文を基にさまざまな単語を入れ替えて作文練習をしたり、関連する表現を覚えたりと、主に口頭による練習をたくさん行うことで学習内容の定着を図ると同時に応用力を養う。	
			コリア語コミュニケーションⅡ（1）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			コリア語コミュニケーションⅡ（2）	コリア語コミュニケーションⅠの修了者を対象に、少し程度が高い会話文を学習します。より正確な発音で自然な会話が出来るように何回も読み、練習します。練習した会話文に感情と動作を入れ、実践にいかす訓練を行います。また、実際韓国を訪問して韓国人と話す事が出来るように、タクシーに乗る事から銀行や空港での手続きまで、様々な場面での会話を勉強します	
			法律学［含国際法］	グローバル化やIT技術の発展は、社会構造の複雑化と財の流通の加速化をもたらしますが、同時に我々をとりまく法的環境をも変化させています。この授業では、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会の法的問題に対する理解を深めていきましょう。	
			現代家族法	現代の日本社会では、個人の価値観が多様化し、夫婦・親子の家族生活に大きな変化が生じています。これは、非婚・シングルペアレント・離婚増加などの現象に表れている通りです。また、子のない夫婦の養子縁組・人工生殖は、生物学的な親子関係のない「親子」を法律的にどのように取り扱うかの課題をもたらします。高齢者の財産をどのように守るのかについても、後見制度や遺言制度のニーズを生みます。人が生まれてから死ぬまでの家族生活関係を、家族法という視点から学ぶことによって、21世紀の家族を考えて行きましょう。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	国際法１	国際法は国際交流の大前提となる国際社会の法である。国家間を規律するが国境を超える企業活動や個人にも関わりをもつ。領土紛争など国際法上の紛争も生じている。国際法の視点から歴史と国際関係を読み解き、平和、人権、人道、経済、環境などの今日的課題について考える。	
			国際法２	国際開発援助には主として2国間の条約に基づく2国間の開発援助と多国間条約に基づき設立された国際機関により行われる開発援助がある。本講義ではその仕組み、実際の活動を解説すると共に特にアフリカの具体的な例を取り上げ国際的な協力枠組みと現場レベルでの活動を解説する。	
			取引関係法	私企業をめぐる法律関係を、種々の法分野から考察することを目的とする。私企業の活動は、公法、私法、中間法といわれる各法分野に関係するものであり、さらに現代企業の国際化からすれば渉外的法律関係をも考慮しなくてはならないところから、複眼的にこれを考察する。	
			政治学概論［含国際政治］１	日本を取り巻く国際環境は歴史的な地殻変動の最中にある。かつて、”Japan As Number One”と言われた日本が政治的にも経済的にも低迷している中で、、BRICsと呼称される新興国の台頭は目覚ましく、またイスラム諸国の情勢も刻々と変化している。加えて2012年には、アメリカを始めとする主要国で指導者選出の選挙が行われる。この授業では、激動する内外情勢を視野に入れながら国際政治理論の変遷を追い、そうすることで国内政治と対外政策の相互作用や国家間の利害の衝突等、様々な要素が複雑に絡み合う現代世界を読み解く手がかりを模索する。	
			政治学概論［含国際政治］２	民主主義の基盤は権力の分立である。この授業では、まず徹底した三権分立を取り入れたアメリカの民主政について検証し、その上で、よりよき政体を模索し続けた人類の試行錯誤の歴史を振り返る。	
			国際交流特殊講義	授業では、①まず講義や講演を通じて、日本の援助政策をめぐる課題について意識を共有しあい、②次に、与えられたテーマごとにグループ別討論を行い、③最後に全体討論で各グループの代表がグループ別討論の内容を紹介する。これらを通して、単なる知識の吸収にとどまらない、問題点を掘り下げて考察する能力や自分の考えを体系的に表明する力を養うこととする。	
			現代国際政治Ⅰ	欧米主要紙の社説、インターナショナル・ヘラルド・トリビューンの報道などから国際情勢をレビューし、そのなかから、あるいはそれとは別に、テーマを選び、議論を深める。学生諸君にはペーパーを書いてもらう。	
			現代国際政治Ⅴ	1945年に戦争に敗北した日本はアメリカによる占領を受けた。アメリカの占領政策によって戦前の日本の政治体制は根本的に変化し、戦後の政治運営の基礎が築かれた。講義では、戦後日本政治の仕組みを解説し、そのもとで、日本の政治がどのように運営されてきたのか、そして、1990年前後から新たな政治体制が生れてきたが、それはどのようなものであるかを解説する。	
			行政学	行政サービスとは何か、その仕組み、行政組織と構成員の行動、政策形成、政策決定の過程について、具体的な経験を例示して講義を行う。	
			国際連合論	唯一の覇権国家になったアメリカは、ここ１５年ほど、民主主義国家の拡大を使命と感じて国際政治を動かそうとしている。このような状況下で、国連はどのような役割を果たしていけるのだろうか、考えていきたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	アメリカ外交論	授業の進め方としては、まず冷戦の起源から終焉までのアメリカ外交の軌跡を振りかえるとともに、冷戦終焉後の国際社会におけるアメリカの役割、特に９．１１テロ後の世界におけるアメリカの役割をさぐることとする。	
			経済学概論［含国際経済］	日本経済とグローバル経済で起きている主要なトピックに即して、マクロ経済学、歴史、制度を解説し、経済のしくみを理解します。マクロ経済学は問題を解きながら進みます。同時に、情報経済社会に必要な人材の条件を検討し、自らのあり方を考察する作業を平行して行います。	
			経済理論入門	経済分析を行うために必要な、最も基本的な理論と概念を学びます。各種公務員試験や経済学を課す各種試験のミクロの準備もここから始めましょう。理論の説明を行ったあと、簡単な形算を使って例題を解き、理解を完全なものとします。	
			国際経済学１	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際貿易を扱います。理論・実証・政策のバランスをとりつつ、大学で次世代に伝える内容として標準的と思われる内容を講義します。	
			国際経済学２	国際経済学の研究対象は、国境を越える経済取引です。その対象範囲は、大きく国際貿易と国際金融に分かれます。この講義では、そのうち国際金融と国際マクロ経済学を扱います。国際金融の理論、制度、歴史、政策や、マクロ経済およびマクロ経済政策の国境を越える影響について講義し、必要に応じてDVDなど映像資料で理解を深めます。	
			開発経済学	授業では、開発途上国の貧困問題について、個人や家計といったミクロ経済と、一国単位のマクロ経済の両方からアプローチします。それぞれについて理論の概要を理解した後に、貧困問題の具体的な事例（児童労働など）に応用して、その原因と解決策を学習します。	
			情報処理入門	この講義は5つの段階に分けられます。はじめに、情報ネットワークの基礎知識とその利用に伴う情報社会の様々な問題について学びます。次に、大学における論文、リポートの作成のためにLaTexを使った文章作成を行います。３番目に行うことはHTMLによる基本的なHPの作成です。そして、４番目にExcelの関数機能、データベース機能について学びます。最後に、CGI機能を備えたWebサイトの構築を行います。Perl（プログラム言語）を使ってCGIスクリプトを記述し、アクセスカウンターを備えたアンケートHPを作成します。そして、クライアントとメールサーバーとのデータの送受信を行い、メールサーバー上のアンケートデータをExcelに取り込んでそのデータ処理を行います。	
			プログラム入門	コンピュータ言語には語学と同じように単語があり、文法があります。この授業では、いわば初めての語学を初歩から始めるように、コンピュータとの簡単なコミュニケーションに必要なＣ言語の基本単語の習得から始め、様々な目的のための文法を学んでいきます。なお、授業ではマイクロソフト版のコンパイラーを使いますが、このコンパイラーのフリー版や仮想Linuxコンパイラー（Windowsで使える）の自宅でのダウンロードについても説明します。	
			コンピュータサイエンス	近年、コンピュータは、マウスでクリック、或いは、画面をタッチするだけで操作可能な、誰にでも扱える道具となりました。 しかし、資源の節約の観点からも電子化が進む中、コンピュータを十分活用していくためには、ある程度の知識が必要です。 この授業を通して、PCを実際に使いながら、幅広い知識を身につけていきます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	応用情報処理	この講義ではLinuxの基本的な操作・仕組みを学びながら、消費者としてだけではなく、生産者としてコンピュータを利用できるようにする視点を養いたいと思います。	
			国際コミュニケーション論	新聞、放送、出版などのマスメディアの現状、役割、その大きなパラダイムシフト、それらがどのようなルールで実施されているか、さらに社会にもたらす影響や諸問題などをケーススタディーしながら進める。	
			異文化間コミュニケーション（1）	（英文）　Students will be required to read an introductory book entitled ″Africa and Africans″ as well as other materials in both English and Japanese. In addition, TV programs and other media covering African issues will be used to recognize the problems which currently exist in Africa and to find solutions to those problems. （和訳）アフリカについて書かれた入門書や、日本語または英語で書かれたアフリカをテーマにした教材を読む。そして、テレビ番組や他のメディアがアフリカで起こっている問題についてどう捉え、どのような解決策を見出しているかを考える。	
			異文化間コミュニケーション（2）	国際協力、貢献論の基本的な知識を学んだ前提で、これまで行われてきた“教育支援事業”の実例を取り上げる。具体的には「日本賞国際コンクール」の役割や「ボツワナ教育テレビ創設事業」などを紹介、検証していく。 途上国の教育番組視聴などメディアによる貢献策を考える。	
			国際交流実習１	身近で日常的なことから“くに”とは、“ナショナリズム”とはを議論する。通信、ロジスティック、様々な交流が活発になったにもかかわらず、何故対立が生まれるのか。 グループに分かれ、事実関係の調査、研究をベースに議論をし、前期終了時にそれぞれのグループが“ナショナリズムを超えて”というテーマで発表する。 前半は各教師陣がそれぞれの専門性の立場で講義し、それをベースにグループでディスカッションを重ねていく。	共同
			フランスの社会と文化(１)	「国民国家」という概念が成立するフランス革命期から始め、政教分離（ライシテ）、学校教育の改変、植民地拡大政策、フランス社会とユダヤ人、第五共和制、フランスにおけるムスリムなどを順に取り上げていく。	
			フランスの社会と文化(２)	19世紀のフランスは、前世紀末の大革命の混乱を乗り越え、近代国家へと生まれ変わろうとする。産業革命にともない新たにブルジョア市民階級が生まれ、社会全体が大きく変貌していく。そのような中で芸術家たちはどのように自らの立場を位置づけ、またどのようにそれぞれの理想の実現と向かい合ったのだろうか。本講義では主に文学と絵画の領域から代表的な芸術家を取り上げ、作品創造にあたっての彼らの試行錯誤の模様を検討していく。またそれと同時に、彼らの生きた19世紀フランス社会についての理解をも深めていく。ユゴーやモネの生きた時代の空気をつかんでいきたい。	
			ドイツの社会と文化(１)	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。数回グループディスカッションも行う予定である。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	ドイツの社会と文化（２）	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。数回グループディスカッションも行う予定である。	
			東アジアの社会と文化（１）	地理的にも中国と不可分の関係にある日本。では我々はどれだけ中国を知っているか？　本講義では19世紀から現在に至る、中国の近現代史を概観し、基本情報を整理する。その上で、日本と中国との関係を考える手がかりを模索してみたい。また必要に応じて、時事的な問題についても言及し、そこから歴史的に遡ることもしたい。	
			ドイツ事情（１）	「良いマナーで女子力アップ」「おてんば娘」「女のくせに」等々、そのような言葉の背景には「女性」についての独特なイメージが隠されています。このイメージは個人や社会における女性に対する意識・無意識的なステレオタイプによって形成されていると考えられます。そのような言葉にみられる「女性」についてのアイデンティティーや役割分担は、生まれつき備わったものでしょうか？それとも社会により規定されたものでしょうか？ 本セミナーでは、ジェンダー学が扱う様々な問題を取り上げ、セクシュアリティーの視点から日本人女性とドイツ人女性について、日常生活から伺い知ることのできる特徴を考察します。例えば性役割、性暴力、メディアにおける性の表現などを題材に、「女性イメージ」の背後に隠された秘密を受講者とともに考え、明らかにします。尚、このセミナーは日本語で行います。	
			ドイツ事情（２）	戦争を直接知る者が誰一人いない、完全な「間接的証言」の時代の到来を目前に控え、20世紀の殺戮と破壊の記憶を、いかに後世につなぐか。21世紀に生きる私たちにとって、ますます重要な課題となっています。ナチズムとジェノサイドという負の遺産を抱えるドイツは、自国の歴史にどう向き合ってきたのでしょうか。この講義では、ナチズムとホロコーストをめぐる、戦後ドイツの共同想起の営み（想起の文化）の諸相を、諸々の論争、歴史政策、記念碑、ミュージアム、現代アートと連動した想起のプロジェクトなどの具体例に即して紹介します。	
			フランス事情（１）	まずデカルトからサルトルまでの近代的な主体観を総括し、その合理主義と人間中心主義がフランス現代思想の中心的批判対象であったことを確認する。つづいて近代的な知を批判したいくつかの思想潮流や主要な思想家の考えをたどり、そこで何が問題となっているのかを議論していく。またフランス的思想の伝統として文学を中心とした芸術も思考対象とする。	
			フランス事情（２）	写真論の古典であるベンヤミン、ソンタグ、バルトの著作を読んで写真の問題圏を整理する。そこから抽出されたテーマにそって重要な写真論者の指摘や写真芸術を見ていく。	
			中国事情（１）	歴史・ナショナリズム・人権・主権などをめぐる現代中国の諸情勢は、「尖閣」問題に象徴されるように、複雑な様相を呈している。こうした現代中国の政治・外交問題を歴史的文脈に即して解説する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　心理学科）

科目区分			授業科目の名称（心理）	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（国際交流）	Contemporary American Culture(１)	（英文）　This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure. Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	
			Contemporary American Culture(２)	（英文）This course considers basic American cultural values in areas like immigration, education, business and work, the family, changing roles of women, politics, minorities, and leisure.　Textbook readings, news articles, movies and documentaries are used to show the contemporary scene and how traditional values are affecting present day behavior and institutions. （和訳）　移民、教育、商業、労働、家族、女性の役割の変化、政治、マイノリティー、余暇などについて、アメリカにおける文化的価値を考察する。テキスト読解、ニュース、映画、ドキュメンタリーなどから、伝統的価値観が現在の行動様式や慣習にどのように影響を与えているかを考察する。	
			日欧思想交渉史入門(１)	歴史を通して、日本は度々ヨーロッパと出合い、交渉に及んでいる。その行程を「旅」としてとらえ、考察する。 本講義は入門（１）であるので、まずは様々な「旅」を促した基礎的な思想について学ぶ。特にヨーロッパの二大思想ヘレニズム（古代ギリシア）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教）において、「旅」はどのような特徴をもったか。次いで、学生の研究発表を通して、日欧の交渉に関わった人々の「旅」を具体的に検証していく。これらの「旅」と私たち自身の「旅」とに何らかのつながりを見ることはできるだろうか。	
			アジア文化論	本講義では、最初にイスラーム教に対する基本的な知識を習得する。そのうえで、現代のイスラーム世界において実際にイスラームがどのように実行されているか、イスラーム法がどのような意味を持つのかについて理解を深める。そして、イスラーム世界の家族や生活、文化全般、キリスト教徒などの少数派についても学習する。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	基礎課程科目	基礎課程演習	大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性を身につけること。また、このような資質・能力を1年次から養うことにより、社会への主体的参加の準備とすること。 大学で効果的に学修を進めるための基盤として、「文章等による表現力」「発表の力」「情報収集の力」を重点的に強くすること。 専任教員の専門性を通じて、学問に対する知的・興味関心を深め、視野を広げていくこと。 上記を目標に、テーマに基づき情報収集を行い、レポートにまとめ、発表・討議を行う。	
			アジア史入門	我々の住むアジアとはどういう地域なのか。そこにはどのような人々が暮らしており、どのような文化があるのか。本授業はそのアジア世界を教養として学ぶために開かれる。半期のうち、前半は中国を中心とする東アジアを、後半は西アジアをそれぞれ対象として取り上げる。それぞれ映像資料も使って、視覚的にわかりやすい授業を進める。	共同
			人間関係入門	本講義では、人間関係学科を構成する各分野における主要なテーマが講義される。人間を〈人格―社会―文化〉のなかに位置づけ、総合的な理解をすすめるための入門講義である。複雑な現代社会に生きる人間に対する学際的アプローチを示しながら、人間関係学科の概要を紹介する。	共同
			国際交流入門	国際交流学科の専任教員が、それぞれの専門分野における研究テーマをわかりやすく講義します。 本授業は、国際交流学科で学ぶ学問の紹介でもあり、１年次生が多様な文化や国際社会など幅広い分野へのアプローチの仕方を学ぶ上での橋渡しをします。	共同
			心理学入門	心理学科の専任教員が分担して、心理学の各分野の基礎的知見について、講義を行う。原則として、毎回、リアクション・ペーパー（授業のまとめ、クイズ、コメントなど）を提出しなければならない。また、必要に応じて、心理学の実験や調査を実際に体験する。	共同
			英語の世界	英語英文学科を構成する英語学・英語教育学、英米文学、メディア・コミュニケーションおよび英語コミュニケーション、英語文化の分野から、授業計画に示した講師の講義を聴講したうえで、毎回の講義について各講師の指示する課題を授業時間内ないし指定期日までに提出します。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	総合現代教養科目	３・４年英語	（英文）　The class will stress Communication Skills through a variety of tasks: pair or small group discussion and presentations; the use of audio-visual materials, etc. Topics will be timely, and of high interest. Students will work in pairs or small groups and complete a number of exercises, as well as guided conversations. Assignments will range from values clarification, film critiques, and current social issues to independent research and pair or small group presentations. Oral communication skills will be stressed throughout the class. （和訳）本授業はコミュニケーション力の上達を目標とする。視聴覚資料を使い、小グループでの討議と発表を行う。トピックはタイムリーで関心の高いものを扱う。二人組みもしくは小人数のグループに分かれて、さまざまな課題に取り組み、意見交換を行う。課題は、価値観についての討議、映画批評、現代の社会問題などを取り上げ、これらについて調べ、小グループで発表を行う。授業を通じて、オラルコミュニケーションスキルの向上を目指す	
			運動学１	かけがえのない身体を健康に保ち、心身のバランスを保つためには、日常的にメンテナンスをする意識と実践が大切である。本授業では、アメリカで100年の歴史を持ち、専門家、一般の老若男女を問わず、また、医学的観点からも関心をもたれているピラーティス・メソッドを実践し、歪みのない姿勢づくりの基礎を学ぶ。また、必要に応じて姿勢写真、足蹠、体力等のデータを収集し、各人の姿勢の改善を目指す。	
			運動学２	「ゴルフの唯一の欠点は、楽しすぎることである」（ヘンリー・ロングハート） 授業では、ゴルフの心得、ゴルフの技術、ルールとマナーなどの基本を学び、生涯を通じてゴルフを楽しむための基礎を身につける。	
			運動学３	かけがえのない身体を健康に保ち、心身のバランスを保つためには、日常的にメンテナンスをする意識と実践が大切である。本授業では、アメリカで100年の歴史を持ち、専門家、一般の老若男女を問わず、また、医学的観点からも関心をもたれているピラーティス・メソッドを実践し、歪みのない姿勢づくりの基礎を学ぶ。また、必要に応じて姿勢写真、足蹠、体力等のデータを収集し、各人の姿勢の改善を目指す。	
			憲法１	「日本国民である」ということは私達にとって何を意味するのでしょうか？　国家は国民とどのように関わるのでしょうか？　この授業では、日本国憲法の基本原理を踏まえ、国家と国民の関係－国はどのように国民を統治するのかーについて基礎から学びます。	
			憲法３	憲法を学ぶためには、条文だけでなく、判例や学説を理解することが重要になります。授業では、できるだけ具体的な憲法問題を提示しながら、憲法の基礎知識や論点をおさえていきます。	
			女性とキャリア形成	女性の生涯を通じた生き方をキャリアとしてとらえる基本的な考え方について学ぶ。女性をとりまく日本の実態や世界の状況について学び、男女共同参画政策や女性の生き方や働き方に大きな影響を及ぼす法制度・社会制度の現状と課題や支援について検討する。さまざまな社会事象もとりあげながら、とくに、男女共同参画に関わる統計や政策動向について学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	総合現代教養科目	国際平和と開発援助	合計３日の集中講義形式で行う。１日目は国際社会の紛争や開発の基本的概念を説明した上で、脆弱国家を見る視点を整理する。２日目は紛争と開発の関係や国家の脆弱性についての議論や実情を具体的に紹介する。３日目は脆弱国家への国際社会の支援について具体的な例を取り上げながら解説する。	
			地球化時代のＮＧＯ	ＮＧＯが発展した欧米、それに学び触発された各地のＮＧＯと、それを担う人のあり方や人生を具体的に追いながら、関わる問題と、その解決を考える。随時、質疑応答を行う。	
			人間の安全保障	講義形式で行われる。最初、国際関係論の基本的な考え方を学び、そのあと「人間の安全保障」という概念が登場した経緯、およびその概念の意味するところについて理解する。そうした基礎的理解を背景に、いくつかの事例を取り上げ、「人間の安全保障」概念の現代国際社会における意味について学ぶ。	
			中国古典への招待	中国古典を読むために必要な基礎的な知識を解説します。	隔年
			中国思想への招待	テキストを参考にしながら、初めて中国の古典を読む人にもわかりやすく中国古典を読むことにまつわるさまざまな問題を解説していきます。	隔年
			現代社会と環境	人間社会が、その解決を目指して挑戦していかなければならない環境問題について、基礎知識を学びます。授業は、環境問題が生じるメカニズムをまず学習し、次いでその問題解決についての基礎的な理解力をつけていただきます。講義は、日本の公害問題から、地球環境問題への対応までを歴史的に辿るという流れにそって進めます。また、適宜、環境問題・環境政策課題の具体的事例として気候変動問題、循環型社会、化学物質問題、水環境問題等を取り上げます。	
			現代の脳科学	神経心理学は，脳損傷者の示すさまざまな心の障害(高次脳機能障害)を手がかりとして，心と脳の関連性について検討を試みる心理学の一領域である。本講義では，神経心理学の話題を中心に，脳科学領域における代表的な研究成果や最新の研究動向を紹介しながら，私たちの心の営みとそれを支える神経過程について考えていきたい。	
			科学史１	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的･文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指します。	隔年
			科学史２	科学の歴史は単に科学の理論や概念の歴史だけではなく、科学という人間の営みの歴史でもあります。その営みには、様々な社会的要素が含まれており、本講義ではこのような科学と社会の相互作用、科学の社会的・文化的側面の歴史に焦点をあてて講義を進めます。講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、授業時に小レポートを課すなりして、双方向の授業を目指します。	隔年
			社会福祉論	子どもから高齢者まで、日本の現在の社会福祉サービスの種類と内容について広範囲にわたって解説し、その背景にある理念やニーズについて考察する。あわせて歴史的な経緯と海外の状況についても紹介する。 なお、子ども虐待の領域については「児童福祉論」であつかった内容と一部重なる部分があるが、さらに新しい情報を加えて解説する。	隔年

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	総合現代教養科目	児童福祉論	わが国の児童福祉に関する基本的な理念と具体的なサービス内容、専門職について基礎的な事項を紹介し解説する。 その上で、現状での問題点と今後の課題について深く考察する時間をもち意見交換をする。子育てサービスと子ども虐待に関する領域について詳しくあつかう。	隔年
			ビートルズの詩と音楽	ビートルズは英国のロックグループである。彼らの活動をデビュー前から解散（1970年）まで辿り、ビートルズの音楽の魅力を紹介する。 平易な英語の歌詞を理解した上で、さまざまな資料を基に彼らの野心的な音楽制作の現場を振り返り、重要な作品を生成の相の下から聴き直してゆく。	
			情報活用演習	日常的に興味のあることや学術的に興味を持っていることなどを題材とした情報収集、分析、報告・発表などの課題演習を通して、コンピュータやインターネットを活用した学習の方法を学ぶ。 情報活用演習A～Pは同じ内容であるが、情報収集、分析、報告・発表における一連の課題は、担当教員が以下の授業計画の内容の中から専門性や受講者の経験などを配慮して選び、決定するので、課題はクラスにより多少異なる。また、今年度から、自分のPCを持ち込んで、利用方法を高めることもできるクラスを数クラス開設します。	
			情報ネットワーク演習	コンピュータにおけるファイル管理の基本的な考え方やサーバからの情報配布の方法、情報収集の方法について学習する。フォームやスタイルシートを利用したWebの作成や構築の方法も学習する。	
			日本の伝統文化	日本の伝統文化について、最も本質的な価値や現在の到達点をわかりやすく明らかにします。具体的には、日本の伝統演劇であり、世界遺産でもある「能楽」について、入門的な概説も含めて、成り立ち・原理・表現内容･思想などさまざまに探究します。講義とテキスト講読のみならず、映像資料や音声資料を駆使し、予習授業をふまえた観能の機会も設け、多面的な授業を展開します。	
			アラビア語の世界	アラビア語学習とアラビア語圏の文化を平行して学んでいきます。アラビア語は、テキストに沿って文字の書き方を丁寧に解説して進みます。ミスをなくして確実に覚えるために、小テストで添削してプリントで練習します。文化的な学習は、アラビア語圏の社会や文化風土が垣間見られるようなトピックを紹介します。	
			金融のしくみ	講義形式で授業を進めます。また、２回～３回の講義に１回のペースで、受講生から質問票を提出してもらいます（質問は授業の終了後に書面で提出してもらいます）。質問については、出来る限り、次回以降の講義で数回に分けて答える時間を設けます。質問内容は、講義と関連するものであれば、特に制限はありません。	
			聖心スピリットと共生	・聖心会創立者マグダレナ＝ソフィア・バラの考え方、ビジョン、教育観、人間観などについて説明する。 ・日本における聖心の歩みについて説明する。 ・1800年の聖心会創立に続く聖心会シスターたちや卒業生たちの活動を紹介する。 ・毎回の講義では、質疑応答の時間を設けるとともに、講義を通して考えたことを文章にまとめる。	
			健康な生活と健康科学	大学生活と生涯を通じて豊かに過ごしていくためには，心身の健康の保持増進が重要である。 本授業では，現代社会における健康課題を取り上げ，自然科学的・社会科学的な分析と考察を行う。	
			情報産業論	１部では情報産業の全般像とコンピュータとネットのビジネス利用について講義する。２部では、インターネット上での情報共有の仕組みとその可能性、これに関連した著作権問題についてとりあげる。３部では、著作権の経済学的分析とともに情報産業の一人勝ち傾向と日本のコンテンツ産業について講義する。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	総合現代教養科目	ポップカルチャー	講義形式で行われる。主な内容は次の３パートで構成される。１）ジェンダーと大衆文化、２）消費と社会風俗、３）オタク文化いずれのパートにおいても、具体的な事例を紹介し、固有の社会的背景を解説する。	
			キャリアデザイン入門	皆さんには、自分が卒業後に進む道が見えているでしょうか？アメリカには「シニア・パニック」という言葉があります。大学４年生（seniors）が経験する不安定な精神状態を指すのですが、アメリカの若者にとっても、長年慣れ親しんだ「学生」という身分を脱ぎ捨てて、「社会人」としてのキャリアをスタートすることは、身のすくむような体験なのです。と同時に、日本にやってくる留学生の多くが、日本の大学生の就職活動を目の当たりにして、日本人の仕事観やキャリアのあり方に驚きや疑問を感じるようです。この講座では「働くことの意味」を多角的に考えますが、現代日本で働くときに私たちが直面する問題や困難に目を向けながら、（世界は言うに及ばず）日本社会の中にも多彩な働き方が存在することを、人々の「語り」や「体験」を通して理解していきます。そして最終的に考えるのは、皆さん自身の未来のキャリアであり、それをどのようにデザインしていくかです。	
			チェコ語の世界	チェコ語の習得に欠かせないチェコの現状や文化的背景について学ぶ。	
			災害と人間	2011年3月11日に起きた東日本大震災の心理的、社会的、文化的影響について、本学の教員がそれぞれの専門的視点から講義を行う。また、支援活動を続けている本学関係者をゲスト講師として招き、被災地の今と今後について考える。さらに、現代社会に内包される様々な災害リスクを私たちの問題としてとらえ、どう向き合うのかについて、共に考えていきたい。	共同
			現代を考える	毎回一つの問題を事前に提示し、賛否どちらかの立場を選んで、意見とその論拠を述べてもらいます。意見や根拠を付き合わせ、整理しながら、議論を深めて行きます。	
			ジェンダー学１	ジェンダー(Gender)とは生物学的な性のあり方を意味するセックス（Sex）に対して、社会的・文化的・心理的な性のあり方を示す概念として使われている。本講義ではジェンダーの概念を理解するとともに、ジェンダーの視点からみみた現在の日本社会の問題について統計データやこれまでの実証的研究成果から解説する。	
			ジェンダー学２－１	「聖書によれば同性愛は罪」と広く信じられています。このために実に多くの人々が苦しんできています。しかし最近の聖書学では、時代錯誤の誤読と指摘されています。古代中東の性理解や慣習を学ぶと、聖書の色々な話しについても、「性」と「生」についても、新しい世界が広がります。驚きの発見をしながらジェンダー意識を高めます	
			ジェンダー学３－１	恋愛を「熱情」と「親密さの感覚」によって特徴づけられる個人間の関係と定義するなら、恋愛は二者を融合する幸福なものである。しかし、一体感の感得、親密さの維持、支配と逆支配、そして恋愛の喪失にはジェンダーの構造が深く関わっている。私的な二者の間に隠されたジェンダー構造について漫画やドラマを通して考察する	
			ジェンダー学５－１	ジェンダーを概観して、ミレニアム開発目標（ＭＤＧｓ）がどのようにジェンダーをとらえているのかを中心に、開発と女性の健康を考える。特に、ロールプレイや討論を多く取り入れた参加型の授業となるので、自分の意見を持つ"critical thinking"のトレーニングとなる。授業では、５人が一グループで一つのテーマ・トピックに取り組み、一人５分づつの発表をしてもらうことになるので、コースが終わるまでに全員が発表をすることになる。登録確定後に、どのテーマで、いつなのかを連絡する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	総合現代教養科目	ジェンダー学５－２	ジェンダー平等は、国連憲章等に表されるように国際社会の基本理念であると同時に、人間中心の開発・持続的経済発展の実現に必要不可欠な分野横断的テーマである。本講義では、グローバルな視点から「ジェンダー」を捉えるために必要な基礎知識を習得し、最新の政策議論および取組みについて学ぶ。	
			ジェンダー学６－１	ジェンダー法学という学問の名称は新しいものであるが、取り扱う内容は古くから続く法と性差別をめぐる問題であり、20世紀後半から興隆した第２波フェミニズムの成果を引き継いでいる。日本は性差別を禁じた憲法を持ち、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の７割が「社会全体において男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、そもそも法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、現在の法は女性が現実の生活で出会う出来事にどのように対応しているのか（いないのか）…等について、担当者が、法学の知識の無い受講者にも分かりやすく説明する。受講者は、性差別の無い社会を構築するには法はどのようにあるべきかを深く考えてほしい。	
			ジェンダー学６－２	講義と参加型形式の授業を組み合わせて行う。はじめにジェンダートレーニングのワークショップを通して、ジェンダーの視点を養う。次に国際社会における貧困の現状や原因を開発教育の教材等を使用しながら理解を深め、その解決のあり方についてNGO活動の事例を通して考える。	
			ジェンダー学６－３	1980年代の福祉国家の縮減と、90年代のグローバリゼーションを背景として市場主義化、個人主義化が進展している。本講義では、一方で、格差社会の中における女性の地位について、また他方で、どのような家族政策が必要なのかについて国際的な福祉国家の比較を通して考える。	
			ボランティア研究概論１	本授業では、ボランティアに関する基礎的な理解を図るために、その思想や理論をはじめ、歴史や現状、制度や組織などについて概説していく。具体的には、宗教や現代思想に見られるボランタリズムや19世紀の産業革命期にボランティア組織が誕生した背景や経緯などを確認する。また、日本では阪神淡路大震災が起きた1995年を「ボランティア元年」とする見方もあるが、戦前からそこに至るまでの日本の社会運動や市民運動の歴史や経験にも学ぶこととする。さらに、公益法人制度や特定非営利活動促進法（ＮＰＯ法）をはじめ、ボランティアをテーマとする教育学習活動や、企業・行政によるボランティア支援の取り組みなどについても取り上げてみたい。 こうした講義のほか、ワークショップを通じた参加･体験型学習をはじめ、ゲスト講師による活動紹介や現場報告なども可能な範囲で試みることとしたい。 なお、この授業の履修に際しては、次の点を留意されたい。 ①受講生の人数やワークショップの進捗状況によっては、授業計画の内容や順序を一部変更する場合がある。 ②ゲスト講師としてＮＰＯ関係者等の授業への招聘を予定するが、先方の都合により、日程や回数には変更の可能性がある。 ③履修に際して、ボランティア活動の経験の有無は問わない。	
			ボランティア研究概論２	総論としての「ボランティア研究概論１」（履修しておくことが望ましいが、本講義の履修条件では必ずしもない）を踏まえ、より具体的な事例をもとに、対話型で「ボランティアとは何か」「ボランティアとはどうあるべきか」について互いに追究し、理解を深めていく。 特に、国際協力やNGOという視点を中心に考察していく。	
			ボランティア研究演習１	個人研究の報告とそれに対する討論が基本となるが、他学科の学生とボランティアという共通テーマを探究する機会を活かし、多様な視点を互いに学び合い、チームで課題に取り組むグループワークも聖心祭に向けて実施する。	
			ボランティア研究演習２	各自の研究報告とそれに対する演習参加者からのコメントをもとに討論をおこない、お互いの研究内容を深め合っていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（日本語日本文学）	日本文学史Ⅰ	講義形式でおこなう。 文字をもつことが何をもたらしたか、単純に伝承がもとになったというのでなく、文字世界のなかでつくられるものに注目したい。できるだけ具体的な作品にふれながら見てゆく。	
			日本文学史Ⅱ	「文学史」とは何か、という問いを頭の隅に置きながら、『源氏物語』を頂点とする散文作品を中心に、平安朝の文学史の展開を考える。上代からの流れも射程に入れつつ考察を試みる予定である。	
			日本文学史Ⅲ	中世日本文学の展開と諸相を、作品に即しながら講義する。 中世日本文学のさまざまなジャンルを、歴史や政治と関連させて、新たな視点を獲得したい。	
			日本文学史Ⅳ	近世の文学の流れを通史的に概観し、各ジャンルの特色と代表的作者及び作品について理解する。また、俳諧紀行『おくのほそ道』（松尾芭蕉）、読本『雨月物語』（上田秋成）を取り上げ、一部分ではあるが近世の作品を鑑賞する。	
			日本文学史Ⅴ	まず、日本の近代小説の一つの成熟形として、大正期の芥川龍之介作品を読む。次に、芥川作品を成り立たせたそれ以前の文学史の歩み、また、芥川と同時代の文学状況を学ぶ。 講義に加え、授業の中でさまざまな文学作品を実際に読んで学生が話し合いや報告を行う、受講者参加型の教室にしたい。	
			日本文学史Ⅵ	対象から昭和にかけての文学の歩みを眺めるために、まず明治以降の近代文学の成立を見る。そして、大正昭和の文学がその時代の中でいかに文学として存在してきたのかを検証する。作品を見るだけでない、文学の社会との関わりを見ていくことになる。	
			日本語学概論Ⅰ	現代の日本語を使う話し手の頭の中にはどのような知識が蓄えられていて、それがどのような現象となって現れているのか。また、諸言語の１つとしての日本語はどのような言語なのか。語彙・音声を中心に基礎的な事項を述べる。	
			日本語学概論Ⅱ	現代の日本語を使う話し手の頭の中にはどのような知識が蓄えられていて、それがどのような現象となって現れているのか。また、諸言語の１つとしての日本語はどのような言語なのか。文法を中心に基礎的な事項を述べる。	
			日本語史概説Ⅰ	最初に、日本語史全般に関わる基礎的な事項を解説し、次に、語彙・文字・音の歴史について、古代から近代までを概観する。そして、この３つが関係し合うことを示し、また、歴史はそれだけで閉じておらず現代に大きく影響していることを述べる。	
			日本語史概説Ⅱ	最初に、動詞の活用の仕組みについて解説し、次に、動詞の活用の変遷を古代から近代まで詳しく見ていき、動詞の活用の歴史は閉じておらず現代に大きく影響し、今後も変化し続けると予想されることを述べる。最後に、助動詞の変遷を見て上記の内容を補う。	
			古典文学研究Ⅰ	講義形式で行う。万葉集の代表的雑歌作品を読む。	
			古典文学研究Ⅱ	講義形式で行う。万葉集の代表的な雑歌を読む。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（日本語日本文学）	古典文学研究Ⅲ	『源氏物語』宇治十帖には、仏教が色濃く影を落としている。出生の秘密を胸に、仏道に心を傾ける主人公薫は、同じく仏道に関心の深い八の宮に傾倒し、そこから八の宮の姫君たちとの恋が始発する。その八の宮と薫を結びつけたのは、宇治の阿闍梨という僧侶であった。さらに最も大きな形で立ち現れるのが、『源氏物語』の最後の女主人公浮舟の出家の問題である。浮舟の出家への道筋はどう語られ、それは最終的に救済に結びつくのかどうか。阿闍梨と対比的に考えられることも多い、浮舟を出家に導いた横川僧都の存在も併せ、宇治十帖のさまざまな仏教的要素の意味を受講生とともに考えたい。	
			古典文学研究Ⅳ	物語と仏道とのあわいを揺れる『更級日記』。旅の記を中心とする少女時代、宮仕えと結婚、そして中年期以降の物詣での日々等、短い作品ながら『更級日記』には、平安朝の女性の人生が、十代から五十代までという長い時間に亘って描かれている。同時代の他の女性作家の作品との比較も試みながら、『更級日記』作者・孝標女の生を読み深めたい。	
			古典文学研究Ⅴ	中世には、今様、早歌、小歌などさまざまな歌謡、流行歌が存在した。例歌をいくつかあげて、注釈をつけていきながら読み、古典に対する知識を付け、中世歌謡特有の表現を探っていきたい。	
			古典文学研究Ⅵ	講義形式でおこなう。平安時代までの伝統や文化の面影を強く残しながら、武士や経済力を持つ庶民など新興勢力が新しい文化や秩序を各地にもたらした――それが中世（おおよそ13～16世紀）である。内乱が次々と起きた激動の世にふさわしく、人々の救済を目指す新しい宗教や上下貴賤を問わない芸能が生まれ、失われつつある王朝文化への憧れが伝統を根付かせていった時代でもあった。この講義では、この時代に花開いたジャンルである「お伽草子」について、その時代背景や表現、主題を分析・考察することで、中世文学の特質の一端をとらえてみたい。折々、絵や映像を用いる予定。	
			古典文学研究Ⅶ	近世を代表する俳諧師・松尾芭蕉は、旅に生き『おくのほそ道』の作者として知られている。本授業では、それに先立つ紀行文『野ざらし紀行』をとりあげ、句と地の文との関わり、作者の心境の変化をたどってゆく。テキストとしては、芭蕉の自筆初稿本のコピーを用い、原典の雰囲気に触れるとともに、変体仮名にも慣れてゆきたい。	
			古典文学研究Ⅷ	江戸時代の女性俳人の発句を読む。発句とは、現在「俳句」として知られている五・七・五の詩のことである。近世における女性の文学作品は、男性に比べると必ずしも多くはないが、じつは魅力的な発句を詠んでいる女性俳人はたくさんいる。 そこで、有名な女性俳人を一人ずつ取り上げ、彼女たちの人生とその発句について解説してゆく。季語や表現に注意しながら発句作品を鑑賞するとともに、江戸時代の女性の生き方や、女性を取り巻く環境・文化などについても触れてみたい。	
			近代文学研究Ⅰ	文学をめぐる問題を毎回１つずつ取り上げる。教員は資料と考察のポイントを提示し、あとは全体の進行役を務める。 主役は受講生。資料を参照し、まずグループディスカッションを行う。次に教室全体で意見を共有する。最後に各人が小レポートに自分の見解をまとめる。	
			近代文学研究Ⅱ	レトリック（言語表現に特別な効果を発揮させるテクニック）のうち、比喩（物事を別の物事でたとえること）を中心に学ぶ。文学作品を読解する力はもちろん、宣伝・広告など社会に影響力をもつ言葉への理解が深まるはず。 主として講義形式で進める。	
			近代文学研究Ⅲ	プリントによって代表的な詩歌の表現を鑑賞検討し、その後、一つの小説作品を詳細に読むことで、小説の読み方を考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（日本語日本文学）	近代文学研究Ⅳ	原民喜の作品集の作品を中心に、必要に応じてプリントを使いながら読んでゆく。その折々に、実際の民樹の生涯を重ねてみる。	
			日本語学研究Ⅰ	日本語を表記する文字と記号について、その複雑な実態を正確に把握するとともに、その状況を生み出す背景を体系的に理解する。 合わせて、各自が主体的に自分の関心のある素材やメディアに対して観察を行い、それについて自由に考察と分析を進め、それらの位置付けや意義について理論的に捉えていく。	
			日本語学研究Ⅱ	表記という視点から古代から近代の日本語学史的現象を概観します。それぞれの時代の文献の表記に着目しながら特徴や機能性等を検討し、その歴史的変遷について学習します。	
			日本語学研究Ⅲ	狭義の敬語の枠に当てはまらない「対人配慮」の表現を考察する。対人配慮の表現は、敬語が中心となるが、敬語のシステムを使っただけでは失礼にあたる言い方も多い。これをどのような観点から考えればよいのか、ということを考える。また、現代語の敬語に直接かかわる近代の敬語もあわせてとりあげる。	
			日本語学研究Ⅳ	〈授業計画〉に記した諸現象について、適格性判断に見られる個人的変異の観点から論じた諸文献を取り上げ、（１）現象自体の解説、（２）個人的変異の考察、（３）文献の構成の吟味、という流れで講義を進めていきます。	
			古典文学講読Ⅰ	授業時間の前半では、変体仮名を丁寧に一字ずつ追いながら解説する。また、変体仮名読解の理解度を確認するため、練習問題を解くなどの作業も取り入れる。後半では、主題・時代背景・和歌の修辞法・古典文法などに注意しつつ、物語を読んで行く。	
			言語学概論Ⅰ	通常の「言語学概論」という形で「言語学」についての概念や方法を「知識」の形で伝えるのではなく，言語とは何なのか，どういう性質を持っているのかを，既存の知識に頼ることなく，できるだけ基本の部分から考え直してみたい。講師の側も新しい試みなので，毎回考えながら，受講生にも問い掛けて議論をしつつ話を進めていく。その材料はできるだけ日本語から取る。	
			言語学概論Ⅱ	通常の「言語学概論」という形で「言語学」についての概念や方法を「知識」の形で伝えるのではなく，言語とは何なのか，どういう性質を持っているのかを，既存の知識に頼ることなく，できるだけ基本の部分から考え直してみたい。講師の側も新しい試みなので，毎回考えながら，受講生にも問い掛けて議論をしつつ話を進めていく。その材料はできるだけ日本語から取る。	
			対照言語学Ⅰ	日本語がどのような言語であるかを考えるときに、日本語とは異なるタイプの言語、たとえば英語や中国語と比べてみる、すなわち対照してみると、日本語だけを調べているときには気づかれにくかった面がよく見えてくることがある。この講義では、日本語・英語を中心に、あまりなじみのない言語も取り上げて学ぶ。	
			対照言語学Ⅱ	対照言語学では、複数の言語を比較対照し共通する特徴と相違点を探ろうとする。またそうすることにより、ある1つの言語だけを見ていては気づかない特徴を捉えることが可能になる。この講義では、いくつかのトピックを選び、日本語を他言語と対照しながらその性質を考察していく。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（日本語日本文学）	文芸創作入門	短歌は日本の詩の中で一番古い詩型ですが、若者たちが自分を表現したり、パズルを楽しむように言葉遊びの中で表現を磨く詩型でもあります。この不可思議な伝統詩短歌を実際に作ることを通してその魅力を実感し、実作者としての表現力を身につけます。そのためには他者の作品を読み、批評する歌会も不可欠、月に一度は歌会を行います。	
			書道Ⅰ	(1)漢字楷書の基礎的、基本的な書き方とそれに調和する平仮名、片仮名の書き方の技能を身につける。 (2)学習指導要領により、書写のねらい、内容を理解し、学習指導案の作り方、指導法の研究をする。 (3)毛筆の書写書道に基づく硬筆の書き方を身につける。	
			書道Ⅱ	(1)漢字楷書の基礎的、基本的な書き方とそれに調和する平仮名の書き方の技能を身につける。 (2)学習指導要領により、書写のねらい、内容を理解し、学習指導案の作り方、指導法の研究をする。 (3)毛筆の書写書道に基づく硬筆の書き方を身につける。	
			中国文学概論Ⅰ	漢文訓読の基本を講義するとともに、専門的に中国古典を扱う技能習得のための導入教育を行う。	
			中国文学概論Ⅱ	実際に中国古典をテキストに、解読の際の注意事項を指摘しながら、解釈を行う。同時に中国文化やその日本での受容についての基本的知識が習得できるように適宜説明を加えていく。	
			哲学演習Ⅰ	学習目標を実現するために、関連する文献や論文を分担してレジュメを用いた発表を行い、参加者全員で質疑応答、ディスカッションを行う。一部英語、ドイツ語（習得者のみ）の文献を用いる。	
			哲学演習Ⅲ	本演習においては、『大学』（旧本）の素読用テクスト（レ点付き・旧字旧仮名）の作成を縦軸に、『大学』に引用され、またその背景をなす古典（『詩経』・『論語』等）やその他関連事項に関する調査と発表を交えつつ、『大学』を総合的に読み解いてゆく。履修者は順に分担箇所の素読用テクストを板書する。	
			哲学演習Ⅳ	ガリレオが天文学・物理学で完遂した思考の転換を、デカルトが哲学・数学の領域で追認し、近代哲学の礎を築いた。これらの近代哲学･科学の発想や方法論が、現代人の思考法に及ぼす功罪を探りつつ、文献精読、要約（レジュメ）作成、研究発表、質疑応答、小論文執筆等、具体的な作業を通じて、哲学論文研究の方法論を実践的に修得する。	
			哲学演習Ⅶ－１	英語で書かれた哲学解説書の抜粋を読み、西洋哲学史を通時的に取扱いながら、英語の哲学用語の解説も行う。 英語テクストを読み進めながら、語学力をつけることができるように、英語文法・語彙の説明も行う。	
			哲学演習Ⅶ－２	英語で書かれた哲学解説書の抜粋を読み、西洋哲学のトピックス取扱いながら、英語の哲学用語の解説も行う。 英語テクストを読み進めながら、語学力をつけることができるように、英語文法・語彙の説明も行う。	
			哲学史演習Ⅰ	プラトン、アリストテレスなど、哲学分野ではだれもが一度は触れておくべき文献をとりあげます。 授業は、テクストを扱う演習方式ですが、分担ではなく、全員参加の授業にします。特に、二年生に履修してほしい授業です。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（哲学）	倫理学演習Ⅰ	基本的文献についてレジュメを作成し、一部英語の文献を使用し、内容を発表する。それについて質疑応答し、全員で議論する。	
			倫理学演習Ⅱ	授業は、グループ単位による、問題研究、文献研究を踏まえた発表と、受講者全員による共同討議を中心に行います。テーマは、受講者の希望を踏まえて、年度初めに選定します。 また、話しっぱなし、聞きっぱなしにならないように、質疑、総括などの技術も身につけてもらいます。	
			倫理学演習Ⅲ	感情などを表すやまと言葉をひとつひとつ取り上げながら，日本の言葉によってとらえられてきた世界のありかたや人間関係のありかたを考えていく。	
			日本思想史学演習Ⅰ	能の台本である謡曲を毎回一作品ずつ読む。能では，主役をシテ，シテの相手役をワキと言う。ワキの呼びかけに対して，シテは心のうちを語り，舞う。思いを語ることと聞いてやること，またそれを芸能として演ずることと観ることにどのような意味があるか，それぞれの謡曲が「本説(ほんぜつ)」とした古典作品も併せて眺めながら，ゆっくりと味わい，ともに考えていく。	
			美学・芸術学演習Ⅱ	前期は、パフォーミング・アーツを考察するために必要な基礎的事項や方法を学ぶ。後期は、毎回担当者を決めて、自分が選んだアーティストやその活動について、調査・発表を行う。発表後のディスカッションを通して、美学・芸術学的な議論に慣れるとともに、自ら問題を発見していくための訓練を行う。	
			キリスト教学演習Ⅰ	●荒井献先生の『新約聖書の女性観』に沿って、新約聖書の福音書と書簡を、ゆっくりと読み進める。聖書に関する知識やギリシア語は前提としない。聖書に興味のある学生は誰でも参加可能である。 ●最初の２～３回の授業で、新約聖書、福音書、および書簡についての基本事項を講義するので、履修を希望する学生はなるべく最初の授業から出席することが望ましい。その後は、ゼミ形式で担当学生の発表および質疑応答で授業を進める予定である。	
			キリスト教学演習Ⅱ	『神学大全』第Ⅰ部第1問題から読み始めます。この部分は、究極的な真理を扱う学問である「神学」の方法や特徴が検討されます。 授業は、テクストを一節一節丁寧に読み解きながら、その内容的理解を目指すとともに、そこで扱われている哲学的問題を考えていきます。	
			社会思想史Ⅰ	「諸君らは、上位者から明らかに不正な行動を要請された場合、それに対して異議を差し挟むことができるだろうか？」。これは有名なミルグラム実験の主題である。全体主義国家に服従した人々の心理を探求するために行われた半世紀前のこの実験は、今なお私たちにとって大きな意味を持っている。 例えば、「偽」、これは平成19年の我が国を象徴するものとして選ばれた言葉である。当時、企業ぐるみの食品偽装などが大きな問題になったのである。そして、平成23年3月11日に発生した震災はこの「偽」について私たちに多くの問いを投げかけることになった。多くの反省を経て、今、私たちには一人一人の責任ある態度、「公共」に配慮した行動が改めて求められるに至っている。では、その「公共」とは何だろうか。どのような行動が「公共性」に基づいたものと言われうるのであろうか。本講義では、3・11をめぐる状況を視野に入れた上で、この問題を考えていくことになる。その際、過去の歴史的事例や思想史上の先人達から多くの学びを得ていくことになるが、それを「対岸の火事」、「過去のもの」と見なすことなく、自分自身を映す鏡として認識することが重要であり、それがすべての思考の出発点である。本講義がそのきっかけになればと考えている。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（哲学）	社会思想史Ⅱ	2011年、30年もの強権支配を続けたムバラク政権を打倒し、エジプト革命を成し遂げる原動力となったのは、ネットで意見を交換し、フェイスブックで結集を呼びかけた若者たちであった。しかし、その一方で、ナチス・ドイツにおいて人々を扇動するために活用されたのも、またメディアだったのである。このように、情報とコミュニケーションの媒体としてのメディアには有用性と危うさ、二つの側面が備わっている。そして、それらは一つのコインの裏表の関係なのである。よって、メディアを利用するにあたっては、「公共性」に配慮した行動、あるいは、それに照らしてメディアを吟味する姿勢が不可欠となる。この点で、論じられる主題は「社会思想史Ⅰ」の内容と連動している。 本講義では議論の端緒として「正義」を採り上げる。この問題は、我が国で多くの話題を呼んだサンデルの白熱教室のテーマでもあった。彼の「正義論」は公共哲学の正統な系譜上にある。だが、この正義という言葉は、「正義のための戦争」といったプロパガンダに用いられることによって、どことなく疑わしいものとしても見られるようにもなっている。よって、まず、このような意味での「正義」と、それに突き動かされる「大衆」の危うさが視野に入れられた上で、本講義は進められていくことになる。	
			哲学概論Ⅰ	物質と精神の二元論、時間と空間の感覚、世界の客観性、世界内存在としての人間、労働の意義と隷属性、宗教と思想の分離、思想信条の自由、権利と義務の相関性など、わたしたちが日常的に使用する語彙や思考回路を、各哲学者・思想家の原著を参考にしつつ、読み解く。前期は古代・中世を中心に、後期は近代・現代を論じる。通年の受講は必須ではないが、哲学の全体像をつかむには、前・後期ともの受講が望ましい。	
			哲学概論Ⅱ	物質と精神の二元論、時間と空間の感覚、世界の客観性、世界内存在としての人間、労働の意義と隷属性、宗教と思想の分離、思想信条の自由、権利と義務の相関性など、わたしたちが日常的に使用する語彙や思考回路を、各哲学者・思想家の原著を参考にしつつ、読み解く。前期は古代・中世を中心に、後期は近代・現代を論じる。通年の受講は必須ではないが、哲学の全体像をつかむには、前・後期ともの受講が望ましい。	
			哲学概論Ⅲ	〈知（知識と知恵）への愛（探求）〉としての「哲学」の基本的問題を、主に古代、中世、近代の西洋の哲学者の見解を中心に概観する。	
			哲学概論Ⅳ	〈知（知識と知恵）への愛（探求）〉としての「哲学」の基本的問題を、近代、現代の哲学者の見解を中心に概観する。	
			倫理学概論Ⅰ	狭義の倫理思想はもちろん、人間に関する様々な学問（特に文学、心理学、映画など）の知見を多く援用しながら、現代における様々な倫理的課題を考察する。	
			倫理学概論Ⅱ	狭義の倫理思想はもちろん、人間に関する様々な学問（特に文学、心理学、ＤＶＤなど）の知見を多く援用しながら、現代における様々な倫理的課題を考察する。	
			倫理学概論Ⅲ	倫理学と哲学や道徳や宗教は違うのか違わないのか。その相違をめぐる問題意識を出発点とし、素朴な質問や身近な問題をとりあげ、具体的な例を設定して、善悪や正義や真偽について考える。 前期は主として理論的な規範倫理学を、後期は主として理論の実践篇である応用倫理学を学ぶ。	
			倫理学概論Ⅳ	倫理学と哲学や道徳や宗教は違うのか違わないのか。その相違をめぐる問題意識を出発点とし、素朴な質問や身近な問題をとりあげ、具体的な例を設定して、善悪や正義や真偽について考える。 前期は主として理論的な規範倫理学を、後期は主として理論の実践篇である応用倫理学を学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（哲学）	哲学・倫理学特講Ⅰ	この講義では、現代の哲学的な議論を紹介するのはもちろんであるが、それにとどまることなく、多彩で学際的な素材を用いて、具体的に認識のあり方について論じたいと思う。	
			哲学・倫理学特講Ⅱ	必然（運命）と偶然と自由意志という哲学の根本問題について、狭い意味の哲学者の見解だけではなく、心理学者、文学者の見解も交えて考察する。	
			哲学・倫理学特講Ⅲ	アリストテレスの確立した伝統的論理学の体系を学ぶことによって、論理的思考方法について考える。また、基礎教養として、哲学史などにあらわれる論理学関連の用語を理解できるようにする。	
			哲学・倫理学特講Ⅳ	現代論理学の基本的考え方、真理関数・トートロジーの概念について学び、命題論理や述語論理の基礎を理解するようにする。また、記号論理学を基礎にした現代英米哲学の文献を読解できるようにする。	
			哲学・倫理学特講Ⅴ	生命・身体・医療にかかわる倫理問題について、具体的なケースを中心に検討を加え、討議を行う。	
			哲学・倫理学特講Ⅵ	生命・身体・医療にかかわる倫理問題について、具体的なケースを中心に検討を加え、討議を行う。	
			哲学・倫理学特講Ⅶ	全体としては、近代以降のドイツ思想を中心にしながら、哲学的諸相と倫理学的諸相との相関的関係によって生じる思想史上の諸問題を講義する。そのことを通して現代のわれわれから見て重要かつ不可欠な近代における思想のもつ基本的な諸課題を考える。	
			哲学・倫理学特講Ⅷ	全体としては、近代から現代にかけての特にドイツ思想を中心にしながら、哲学的諸相と倫理学的諸相との相関関係によって生じる思想史上の諸問題を講義する。そのことを通して現代のわれわれから見て重要かつ不可欠な近・現代における思想の持つ基本的な諸課題を考える。	
			哲学・倫理学特講Ⅸ	山中伸弥教授らのiPS細胞の研究や、胃ろうなどの終末期医療、遺伝子治療や臓器移植など、医療技術の開発は、今までにないほどの勢いで進みつつある。歓迎すべきこの状況は、しかし同時に、私たちに、死生に関わる新たな問題を突きつけてくるものでもある。また、医療技術の問題ばかりでなく、深刻な地球環境の問題、自殺者増加や無縁化・少子高齢化社会の問題、そして震災・原発という生と死をめぐる大きな出来事を通して、私たちは今、あらためて死生観を問われている。 この講義では、東日本大震災後に見られた生と死をめぐる言説や、医療や死をめぐる問題、自然・環境をめぐる問題、仕事や経済をめぐる問題、あるいは家族や周りの人とのつき合いなどのごく身近な出来事など、現代社会を生きる私たちが出会うさまざまな課題を取りあげながら、それらと関連するこれまでの思想（文学・文化・芸能をふくむ）を見渡しながら、現在そして未来を生きていくヒントを探っていきたいと思います。	
			哲学・倫理学特講Ⅹ	日本の思想は中国・朝鮮の思想と深いかかわりを持ちます。中でも『論語』は、日本においても古くから親しまれてきました。本講義では、『論語』を読みながら、儒教思想にかんする基礎知識を習得します。また『論語』の代表的な解釈（中国朱子学・日本古学）をとりあげることで、その意味の多義性と、儒教思想の発展・日本における儒教的思惟の受容を見ます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（哲学）	西洋古代・中世哲学史Ⅰ	西洋哲学の二大源流であるプラトンとアリストテレス、さらには、その後ギリシア哲学とキリスト教の統合に努めたギリシア教父のテキストから、重要な箇所を選び出し、丁寧に読み進めながら、わかりやすく解説していく。同時に、いろいろな哲学的テーマに焦点を合わせ、哲学的なものの見方、考え方に習熟してもらうために、受講生皆で議論する時間も設ける。	
			西洋古代・中世哲学史Ⅱ	西洋古代・中世の哲学史において、くりかえし現れる地名がある。アテナイ、アレクサンドリア、ローマ、パリ・・・。人々がそこで生き、思索し、出会い、語り合う営みから、哲学は生まれた。哲学が営まれる空間に着目して、哲学の歴史をたどる。	
			西洋近代哲学史Ⅱ	現代人の語彙や思考法に大きな影響を与えた近代哲学を学ぶことで、みずからの思考を批判的に検討し、言語化し、文章化することで、内省する習慣を身につける。 とくに16-17世紀は哲学のみならず文学・芸術・政治・社会全般に「コペルニクス的転換」が生じた世紀である。中世やルネサンスと訣別する一方で、現代思想への反面教師となった近代哲学の主概念を、時間軸に添って概観する。	
			日本倫理思想史Ⅰ	この講義では，日本列島に生きた先人が，人と人との交わり（人間関係）をどのようなものと捉えたかについて，特に「なさけ」，「あはれ」，「縁」といった概念を手がかりに探る。	
			日本倫理思想史Ⅱ	この講義では，日本列島に生きた先人が人と人との交わり（人間関係）をどのようなものと捉えたかを，特に武士の精神を手がかりに探る。武士のありかたは歴史的には大きな変遷を遂げてきており，一概に論ずることはできないことを踏まえながら，慎重にその功罪を考えていく。	
			宗教思想史Ⅰ	ユダヤ教を母体として、ヘレニズムの宗教思潮と関わりながら誕生したキリスト教は、その後も、古代ローマ、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ・アジアと拡がっていくにつれて、様々な宗教や宗教思想と出会い、影響を受け、また影響を与えてきた。キリスト教の歴史を軸に、他の宗教思想との関わりを扱う。	
			宗教思想史Ⅱ	メソポタミア、エジプト、ギリシア、イスラエル、ケルトなど、主としてオリエント、西アジア、ヨーロッパの宗教思想の外観をつかむために、独創的な神話や伝承テクストを読み、その意味を探り、それぞれの宗教思想の特徴を理解する。	
			美学・芸術学概論Ⅰ	これまで美学が主題としてきた「美」・「芸術」・「感性的認識」を中心に、古代ギリシアから中世にわたって、美学的な議論を取り上げ、その理解を目指す。歴史的・概念的な考察を通して、現代における「美的な体験・現象」や「芸術的営み」がいかなるものとして捉えられるのか、その可能性と方法とを探る。	
			美学・芸術学概論Ⅱ	これまで美学が主題としてきた「美」・「芸術」・「感性的認識」を中心に、近世から現代にわたって、美学的な議論を取り上げ、その理解を目指す。歴史的・概念的な考察を通して、現代における「美的な体験・現象」や「芸術的営み」がいかなるものとして捉えられるのか、その可能性と方法とを探る。	
			美学・芸術学特講Ⅰ	本講義用に簡便にまとめた原稿を読み上げるので、受講者はそれをノートに書き写す。まとまり毎に解説をする。 特講Ⅰでは、「美しさの体験」というトピックへの収斂する価値論的考察を講ずる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（哲学）	美学・芸術学特講Ⅱ	本講義用に簡便にまとめた原稿を読み上げるので、受講者はそれをノートに書き写す。まとまり毎に解説をする。 特講Ⅱでは、「芸術制作」というトピックへと収斂する制作論的考察を講ずる。	
			美学・芸術学特講Ⅲ	ベルリンでは1780年以降一世紀以上にわたり、サロン文化が興隆した。女性の開くその茶会には、詩人、哲学者、科学者、神学者、王族、官僚、画家、音楽家、彫刻家等が集まり、水準の高い談話を重ねた。本講は特に重要な三つの文学サロンを採り上げ、その議論を跡付けながら、サロンの果たした文化機能を考察する。	
			美学・芸術学特講Ⅳ	ベルリンでは1780年以降一世紀以上にわたり、サロン文化が興隆した。女性の開くその茶会には、詩人、哲学者、科学者、神学者、王族、官僚、画家、音楽家、彫刻家等が集まり、水準の高い談話を重ねた。本講は特講Ⅲの続編として一つの文学サロンを、そして新たに二つの音楽サロンの内実を追い、サロンの果たした文化機能を考察する。	
			東洋美術史Ⅰ	アジア各地に展開した仏教美術の淵源として、東洋美術の一つの核を形成するインド古代美術史を概観しつつ、最近の南アジア研究の成果に基づいて、古代インドにおける仏教説話図像の成立プロセスを考察する。特に、ブッダの前生物語（ジャータカ）について、経典（テキスト）と図像の相関を中心に、経典成立時期と図像の変容を、インドから東アジア、東南アジアに展開した作例をもとに、地域性と歴史的背景から検討する。	
			東洋美術史Ⅱ	アジア各地に展開した仏教美術の淵源として、東洋美術の一つの核を形成するインド古代美術史を概観しつつ、最近の南アジア研究の成果に基づいて、古代インドにおける仏教説話図像の成立プロセスを考察する。特に、ブッダの生涯を物語る仏伝を中心に、経典（テキスト）と図像の相関について、経典成立時期と図像の変容を、インドから東アジア、東南アジアに展開した作例をもとに、地域性と歴史的背景から検討する。	
			西洋美術史Ⅰ	15～16世紀のヨーロッパ美術について、様々な視点から考察する。本年度は天使や怪物の図像学について取り上げる予定である。毎回1、2点の作品を中心に取り上げ、それと関連する事項を取り扱う。	
			西洋美術史Ⅱ	ルネサンス絵画史を概観しつつ、南北ルネサンスの遠近法の特徴を捉え、図像表現の歴史的な流れを理解する。 講義形式で行う。１つのテーマについて２～３回にわたって学習し、中心となる作品の他、関連する様々な事柄を、スライドを使って紹介しながら授業をすすめていく。	
			キリスト教学概論Ⅰ	「キリスト教学」(Christian Studies)は、宗教・思想としてのキリスト教を中心に、その芸術文化（美術、音楽、文学）や社会への影響や、その多様な歴史的・現実的様態を研究するものです。 授業は、キリスト教の基本事項を縦軸にしながら、基礎知識の確認を行い、また研究法を説明し、基本文献・参考文献などを紹介します。	
			キリスト教学概論Ⅱ	本学のキリスト教学は、大きく分けて聖書学研究、キリスト教思想研究、キリスト教文化研究の三つを内容とする。本授業では、講義形式で、キリスト教学全体への見通しもつけながら、キリスト教思想研究の基本事項を扱う。また、日本語で読める原典を随時紹介しする。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（哲学）	新約聖書学	本講においては、キリスト教の基盤である新約聖書について概観する。特に、四つの福音書を中心とする新約聖書文書とその世界に焦点をあてる。新約聖書文書の成立過程を歴史的・社会的背景を踏まえながら考察し、各文書の根本構造と神学的関心を理解することを目指す。前期においては、『マルコ福音書』と『マタイ福音書』を、後期においては、『ルカ福音書』（時間が許せば、『使徒言行録』も）と『ヨハネ福音書』を取り扱う。	
			旧約聖書学Ⅰ	ユダヤ教とキリスト教にとって重要な正典であるヘブライ語聖書について概観する。各文書の成立過程を歴史的・社会的背景を踏まえながら考察し、各文書の根本構造と神学的関心を理解できるように解説する。	
			旧約聖書学Ⅱ	ユダヤ教とキリスト教にとって重要な正典、ヘブライ語聖書について概観する。各文書の成立過程を歴史的・社会的背景を踏まえながら考察し、各文書の根本構造と神学的関心を理解できるように解説する。	
			キリスト教音楽	前期は、バッハの《ロ短調ミサ曲》を中心に、ミサ曲の歴史と意義を学ぶ。バッハの到達点を示す深遠にして複雑な作品を、詳細に講義する。後期は「聖と俗」というテーマのもとに西洋音楽史を見直し、音楽における宗教性は何かを探索する。	隔年
			キリスト教美術	前期はキリスト教のさまざまなテクストがどのように図像化されてきたのかを概観し、後期はカトリックの教義、歴史、社会等がキリスト教美術にどのように影響したのかを多角的な視点から学びます。スライドで作品を映写しながら、講義形式で進めます。	隔年
			キリスト教思想史Ⅱ	この授業では、13世紀西欧で成立したスコラ哲学の基礎であるアリストテレス哲学がローマ帝国、イスラーム世界を経由してどのように西欧に導入されたのかを、さらにその基礎である知性論に注目しながら探っていきます。	
			キリスト教学特講Ⅰ	音楽は人間の創造性とスピリチュアリティを読み解く面白い切り口である。授業ではキリスト教と深く関わって来た西洋音楽の歴史を遡り、作品が作られた背景や作曲家について学びながら人間と神の対話について考えていきたい。授業内では毎回作品を鑑賞するとともに皆で簡単な歌を歌いながら祈りの実習を行う。	
			キリスト教学特講Ⅱ	毎回、椅子禅を行い、坐禅の世界に体験的に接近する。前期には、坐禅の世界の実践的な枠組みを理解し、さらにはその世界観と歴史を概観する。後期には、キリスト教の本質を考察し、それが禅と一体化ないしは共存しうるのかどうかを探る。また、現在の世界における禅の実情を観察しつつ、禅の将来的可能性を検討する。	
			キリスト教学特講Ⅳ	「普遍的」と思われる「抽象的・哲学的思想」も、ある時代・社会・集団に共有される、ものの感じ方・考え方（「心性」）の影響を受けています。授業では、西欧の社会・文化に深い影響を与えてきたキリスト教、特にカトリックの「心性」に、具体例を通して触れていきます。	
			ギリシア語Ⅰ	基礎的な文法を学ぶとともに、ギリシア語で書かれた詩や散文（歴史、哲学など）や聖書の言葉にも触れて、古典ギリシア語文化の理解につなげてゆきます。	
			ギリシア語Ⅱ	プラトンの書『クリトン』の原典を最後まで読み通す。あらかじめ語釈が作成してあるので、履修者はそれを参照しながら分担箇所を翻訳すること。もちろん、邦訳を始め各国語の翻訳や註釈も参照する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
			ラテン語Ⅰ	この授業では、しばしば難解で無味乾燥になりがちなラテン語初級の学習を無理なく進め、まずラテン語に親しむことを目指します。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（教育学）	教育学概論	教育という営みは人類が地球上に誕生してから存在した人間の生の営みです。とくに制度化されるにつれて「教育」という言葉も概念も意味を少しずつ変えていきます。家庭・学校・社会においてそれぞれの目標とする教育の役割の変化に注意しながら、現代の教育を理解するための諸課題について総合的に理解できるよう、具体的事例を取り入れて講義します。	
			教育哲学２	教育を哲学的に理解するとはどのようなことかを考え、人間の尊厳を考える教育とはどのような教育であるかに対するアプローチの仕方を習得します。特に共生社会に求められる人間の生き方を中心に、他者理解のための教育学的課題を考えます。キリスト教的人間観に基づく教育理論および実践課題についても触れていきます。	
			西洋教育史２	大人の付属物に過ぎぬとみなされてきた子どもが、子どもとして独自に生きる権利を認められるに至った歴史的歩みならびに長い間教育不要とされてきた民衆の子どもを学校教育の対象とするに至った思想と論理、近代市民社会における国民教育制度の形成過程などを中心に、具体的に講述する。	
			日本教育史１	この日本列島に住む人々は、古来、様々な知識、技術、価値観、生き方等を世代を超えて継承、発展させてきた。その中には、今日の私たちにとり常識となった教育観や人間観へと形を変えて引き継がれたものもあれば、激しい時代の変動の中で忘れ去られたものもある。 この講義では、無文字の時代から近世末までの歴史をたどり、日本の教育のルーツと遺産を探り、その意味を今日どのようにとらえるのか、考えたい。	
			日本教育史２	日本の「発展」をもたらした原動力として国際的に高い評価を得てきた我が国の教育は、いま、新しい時代に向けて大きな変革を迫られている。講義では、明治以降の日本の教育史を概観しつつ、歴史的に形成されてきた日本の教育に見られる、理念、思想、方法等の伝統的特質を明らかにし、その意義と問題点を考察する。	
			西洋教育運動史	西洋は、多様な民族と文化の対立と融合を繰り返しながら、世界の他の地域にも強い影響力をもつ文明の一つの「典型」を創り出す過程で、近代的教育のモデルを創り出した。本授業では中世から20世紀前半の西洋の教育の歴史を概観するとともに、歴史の転換期に古い教育方法を批判し新しい教育を提起した人々の思想と教育実践に注目する。	
			教育原理	教育関係の専門家として、あるいは一人の市民として、見識をもって教育活動に携わろうとするとき、教育学的知見が必須の支えとなる。この講義では、教育学のこれまでの知見に基づき、教育の理念・目的・目標、思想、歴史を中心に教育一般に関する原理的な理解を目指す。	
			教育行政学２	教育行政からみた現代日本の教育改革の動向を理解し、その課題を考えます。具体的には、教育行政を支える基本的考え方を理解し、さらに学校参加や選択、評価といった、進行中の学校改革をめぐる教育行政の改革内容やその課題について、欧米の状況も参照しつつ理解を深めます。多くの授業は講義形式で実施されます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（教育学）	教育社会学概論１	社会学の醍醐味として「自明性の罠」から自らを解き放つことを挙げることができる。この授業では、社会学の基本的概念を用いて、当然のものとして見なされる傾向にある「学校」や「教育」などを捉え直す。現代社会の多様なテーマをもとに社会の事象を複眼的に捉える力を培うことを狙いとする。	
			教育社会学概論２	「子どもには幸せになってほしい」・・・こうした想いを多くの大人が抱く。まして「我が子」となると、想いはなおさら強くなるのが自然である。しかし、幸福が教育の目的として語られることは決して多くない。そこには教育と社会との多義的な関係性が介在している。この授業では、こうした関係性に対して、不登校などの最近の教育問題を手がかりにアプローチする。また現実問題の理解、問題を解決しようとするオルタナティブの可能性についても具体的な事例を検討しながら受講生と共に考えてみたい。なお、一連の学習の最終段階で不登校児童・生徒の通うフリースペースへの訪問を週末に予定している。	隔年
			比較教育学	2000年代に入り、国際学力調査の結果が各国のメディアで大きく取り上げられ、「比較教育学」が再び注目を集めている。前期は、「比較教育学」の歴史と方法論を紹介するとともに、教科書等にもとづき世界各国の学校教育制度とカリキュラムの成り立ちを検討する。後期は、文献、国際教育統計、学力調査等のデータとインタビュー等のフィールドワークの手法を用いて、トピック別に各国横断的な比較分析を行う。また、比較教育研究・調査の意義についても考察する。	
			比較教育学特講	本授業では、20世紀末に社会主義体制から市場経済への移行と民主化を図った旧ソビエト連邦と、独立国家となったロシア、ウクライナ、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスなどを含むＣＩＳ（独立国家共同体）における教育制度・政策と教育実践の変化に着目することにより、各国の教育制度・政策形成の構造を規定する政治、経済、社会、文化等の諸要因を解明する。また、ロシア・ＣＩＳ諸国とＥＵ、アメリカ、日本などの周辺地域・国や国際機関、ＮＧＯとの影響関係を分析することにより、グローバリゼーションの下での教育政策形成や教育交流の在り方について考察する。	
			生涯学習概論	生涯学習の概念、生涯学習の意義と特質、生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係、生涯学習振興行政、社会教育の内容・方法・形態・指導者などを概観する。 平成18年に改正された教育基本法第3条の「生涯学習の理念」の意図するところを理解し、生涯学習社会構築の課題について考える。	
			教育経営	現代日本の教育経営がいかなる理念・原理のもと、どのような法制度のもとで運営されているのか、またそこにどのような制度的・経営的課題があるかについて、学校教育の観点から概説する。	
			教育心理学	教育心理学は、人間生活における「学び」と「教え」を心理学の理論と方法によって解きあかしていく学問です。本講義では、教育現場において子どもを理解し、適切な支援を提供するために必要な心理学の基礎理論について、発達障害の理解や特別支援教育の現状を含めて講述します。また、教育をめぐる諸問題についてもディスカッションを導入することで、社会の中で生じている教育心理学的な諸問題の対策と改善点を考察していきます。	
			教育課程方法論	本授業では、まず「カリキュラムのパラダイム」として、カリキュラムの理論の歴史的な変遷を検討する。そのうえで、「授業研究とカリキュラム開発」と「カリキュラムと教材開発」において、学習経験の総体としてのカリキュラムの実践的な開発について、授業研究と教材の両側面から考えてみたい。最後に「カリキュラム開発の視点」では、カリキュラムにとって今後重要だと思われる3つの視点から、その開発とあり方について考える。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（教育学）	教育方法	学ぶこと、教えることについて問い直します。教育方法の古典的な理論から、コンピュータを用いた教育の現状に至るまで、実例に基づき多面的に学びます。学校現場で行われている意欲的な試みを知るとともに、自分ならどのようにしたいかを考える場とします。	
			教育課程論	教育の現場では、教師一人ひとりに力リキュラムのデザインカが求められる時代になってきている。この授業では、力リキュラムの概念とその基本的知識を学ぶとともに、「総合的な学習の時間」の単元指導計画を実際に作成する。	
			人間学習原論	近代とは何かを見据えた上で、学級崩壊、不登校、教員社会、高校教育改革等の現実をふまえて教育課題の本質を見つめる。具体的な事例やデータをひもときながら、教育社会とどう向き合うかを受講者とともに考えていきたい。	
			人間学習３	受講生相互にインタビューをしあったり、グループ創作活動を観察しあったりして、その記録に基づく報告書作成を行う。それぞれが「きく―きかれる」「みる―みられる」立場を経験することによって、他者の音楽経験にどのようにしたら迫ることが出来るのか、倫理的な問題も含めて考えていく。フィールドに出てインタビューすることなども予定している。	
			人間学習４	「路上観察」「コラージュ製作」などの制作活動を通して、身の回りの素材や空間のあり方について関心を持ち、地域における環境の問題を体験的に問う場を設定する。この過程において「環境」や「視覚芸術」をめぐる価値や課題について考察し、「自己」についての洞察を深める。	
			人間学習５	インプロビゼイションというさまざまな即興的なシアター・ゲームを実際に経験する。ドラマ活動をする過程で何を感じ、何を学んだかについて話し合いをする。これらの経験についてレポートにまとめる。	
			人間学習６	「心・からだ・コミュニケーション」のテーマから、身体表現や身体によるコミュニケーションの内容として、「体ほぐし」（ボディーワーク）と「ダンス」を中心に取り上げ、個々のテーマに沿った実践とグループワークを行う。また、テーマに応じた教材をデザインし、発表しあって検討する。	
			人間学習７	この授業では、ことばを軸に、他者との違いを活かし合い、認め合うためのことばの学びのあり方を問い直していきます。皆さんは、母語を獲得し、その後学校教育において当然のように国語教育・外国語教育などに親しまれてきたと思います。また、学校教育以外でも、ことばを受け取り、また表現することで、ことばの学びは日々続いています。ことばによって支えられたり、励まされたという経験も持っていることと思います。ですが、一方、日本社会では、同調圧力の高さにより、本当にいいたいことをいうこと・伝えることを我慢したり、また目立った意見は排除や攻撃の対象になったり、ということがしばしばあります。多様な価値観の尊重、他者との違いを認め合い、また活かし合うことが重要な多文化共生社会において、ことばの学びはどのような課題と可能性を持っているのでしょうか。ことばと非言語、ことばと身体など、ことばとつながる様々な事象も視野にいれながら、これからのことばの学びのあり方をめぐり、自由に検討していきたいと思います。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（教育学）	人間学習８	通例、国際理解教育は異民族(国民)同士の相互理解を前提として行われるが、この授業では「他者を理解することは可能か」という問いからはじめる。国連総会の決議による「平和と文化と非暴力の10年」の初年に起きたのが同時多発テロ事件であり、事件を契機に他者との相互理解など絶望的であると考えるに至った者も少なくない。こうした近年の国際情勢を踏まえ、授業では「理解可能な他者」を前提とせず、自分と他者との間にある＜溝＞やコミュニケーションというツールの無力さについて様々なアクティビティを通して学び、その上で現代社会での相互理解の可能性を検討していく。	
			人間学習１０	「風景芸術」をテーマに古今東西の美術作品や建築表現の中からいくつかの例を紹介しながらその内容を解説する。	
			人間学習１１	自分自身のいのちの大切さに気づくこと（基本的自尊感情の醸成）を目指した、いのちの教育の理論と実践を学ぶ。基本的には、まずいのちの教育の基礎理論を学んだ後、基本的自尊感情を育む共有体験の具体的な展開として、いのちの教育の授業プランを考え検討する。	
			教育メディア論	本講義は、第一段階では、高度情報化社会に生きる”いまどきの子ども達”の様相を浮き彫りにする。多メディア時代の子ども達には、メディアリテラシー（メディアを主体的に読み解く能力）が必要である。そのために次段階では、幼稚園や小学校の教育現場で活用できるメディアリテラシー教育や情報モラル教育の基礎理解を深め、教育メディアの学習を進めていく。21世紀型の「楽しくわかる教育メディア」のあり方を探求する。	
			教育情報学	本授業では、授業をはじめとする学習活動における情報の取り扱いを考察するために、小中学校において実施される調べ学習活動をシミュレーション的に行って、その過程でどのように情報が取り扱われているかを分析検討する。また、それを元に新しいテクノロジーやメディアが学習及び教育に与える影響について考察する。	
			教育工学	情報とコミュニケーションをキーワードとして、授業の特性を教育工学的な観点から検討していく。特に総合的な学習やティームティーチングなどの新しい授業形態や、コンピュータ等の電子メディアの導入等が、授業におけるコミュニケーションや学習に与える影響を、事例を通して考察する。	
			メディア教材開発	授業や学習活動で使用するメディア教材（パワーポイントによるスライド）を制作します。算数や国語など教科の他、絵本や道徳、総合学習など状況や場面は各自で設定することとします。 パワーポイントの使い方と機能の説明と、各自の制作演習を併行して授業を進めます。	
			教育学特講２	この講義では、ヨーロッパ近代の教育思想と発達思想の根底に横たわっている「近代的子ども観」がどのような生物学・医学・自然的基盤と社会・文化的な基盤の交点に成立してきたのかを、多様な学問領域のなかに探ります。そして、教育学の基礎理論を深めるために、人間形成につながるさまざまな学問分野の成果に学びながら、親子関係と子どもの発達・教育に関する多様な経験を紹介します。	
			教育学特講５	小学校英語教育に関する基本的な内容を，講義のほかに映像，実技，公立小学校等における実践例から学ぶ。学びの援助者として，また自らも学ぶ者として，受講者が双方向的な関係の中で英語教育を捉え，模擬授業やディスカッションを通して，多様な角度から小学校英語教育を見る視点を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（教育学）	教育学特講７	赤ちゃんへの関心が高まり、これまで解明されてこなかった事実がわかるようになってきた。最新の赤ちゃん研究から、人間の子どもの成長のメカニズムと行動の意味を理解する。	隔年
			教育学特講８	国内の小学校及び中学校，高等学校における国内の優れた事例の分析・検討を通して，単元開発及び授業づくりの手立てについて実践的に学ぶ。後半は事例分析や解説を通して学んだことを協同的に整理・構造化し，生きて働く実践的知識とする。	
			教育相談	現在、学校では多くの教員がいじめ、不登校、薬物乱用など、児童・生徒の生命・健康にも関わる深刻な問題に直面している。本講ではまず、実際に教育現場で何が起こっているのか、そのメカニズム、真因をひも解く。その上で、教育相談・カウンセリングの役割と重要性を考える。また、事例を通じてスクールカウンセラーなどの専門家や、医療などの専門機関、家庭や地域社会との連携のあり方について学ぶ。最後に、実習を通じて教育現場で生かせる実践力を養う。	
			道徳教育の研究	戦後日本における教育の民主的改革期は、道徳教育にかかわる時間を設けることがなかった。しかし1958年に「道徳」の時間が特設され、20世紀末には中教審によってこれが「道徳教育のかなめ」の時間として位置づけられるとともに、さらに2008年告示の学習指導要領では「道徳教育推進教師」を中心に道徳教育を行うこととされた。本講はこれらを踏まえて学校における道徳教育の在り方について講じる。	
			特別活動	学校教育には、教科指導と教科外指導がある。この二つの指導は車の両輪であり、どちらも重要な指導である。 特別活動の内容は、学習指導要領では次のようになっている。 小学校　　学級活動、児童活動、クラブ活動、学校行事 中学校　　学級活動、生徒会活動、学校行事 高等学校　ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事 本講義では、特別活動の教育的意義と指導上の留意点について解説し、映像資料や事例等を知ることで即戦力となる教師になるよう講義を進めていく。	
			生徒指導［含進路指導］	生徒指導および進路指導の成否を左右するのは、第一に教師による生徒理解の深さの度合い、第二に生徒自身による自己理解の深さの度合い、第三に「いかに生きるべきか」についての理解の深さの度合い、そしてそれらの背景に存在する教師と生徒の信頼関係の深さの度合いではないか。それらの深化に向かって努力したい。	
			教育学入門	本学教育学・初等教育学専攻の専任教員全員がその専門や隣接領域に関してそれぞれ1～2回ずつの講義を行う。分野としては教育思想・教育史、教育社会学、生涯学習、情報教育、幼児教育、生活科学、体育科・健康教育、美術・造形教育、音楽教育、国際理解教育などを取り上げる。	共同
			障害者教育・福祉概論	教員免許取得希望者に限らず、障害と障害者を理解することの重要性を踏まえながら、障害児・者の現状について、調査結果の紹介や障害児対策の課題等を実際の事例等を紹介しながら支援の着眼点を獲得して欲しい。	
			幼児教育原論	人間は誕生してからどのように自立的自己形成の道を歩むのだろうか。乳幼児期の発達と教育について、その思想、概念、歴史、制度等、基本となる事項を学ぶ。	
			視聴覚教育１	メディアは今まで視聴覚教育にどのような形で用いられ、意義あるものとなったのかを概観する。また近代以降の視聴覚教育の歩みを辿り、メディアリテラシーの視点も含めたこれからの視聴覚教育の在り方や可能性について考察する。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（教育学）	視聴覚教育２	メディアは今まで視聴覚教育にどのような形で用いられ、意義あるものとなったのかを概観する。また近代以降の視聴覚教育の歩みを辿り、メディアリテラシーの視点も含めたこれからの視聴覚教育の在り方や可能性について考察する。	
			健康社会学	健康観，健康問題，健康行動，健康現象等について，それらと社会的要因との関わりの検討ならびにそれらへの社会学的接近を行い，健康社会学の基本的な概念と理論を学ぶ。	
			教育調査	教育を題材としたデータを用いながら、社会調査データの二次分析に取り組む。２～４人の班で、グループワークを中心とした授業。 １日目は、調査（分析）とは何を目指し、そのためにどのような思考が必要なのかを学ぶ。それをもとに、具体的なデータを用いつつ、グループでの議論を通じて問題関心を鍛え仮説を練る。２日目は、統計ソフトの基礎的なレクチャーを受けたあと、分析に取り組む。３日目は、分析を発展させ、ストーリーを作成する。最後に発表を行う。	
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（英語英文学）	英文学史概説１	20世紀末から「イギリス文学」の意味が大きく変化したことを踏まえ、前期の授業はグローバル化を背景としたポストコロニアリズム、ポストモダニズムによって大きく変容した現代イギリス文学についてまず理解し、その後、イギリス文学の黎明期に立ち戻り、ロマン派の文学までについて学びます。	
			英文学史概説２	後期の授業はイギリスが大英帝国へと大きな発展を遂げたヴィクトリア朝の文学、20世紀の文学、そして現在の英語文学について学びます。特に20世紀は、小説形式の可能性が問われ続けた世紀として重要ですので、その実験性の具体例のいくつかを詳しく見ていきます。学期後半には、グループに分かれて作家・作品研究を行ない、最後にプレゼンテーションをします。	
			英作文１	（英文）This course will cover the basic techniques necessary for writing an organized composition in preparation for the papers required in upper division courses and the graduation thesis. Emphasis will be on developing the ability to gain skills in logically developed writing. （和訳）本授業は専門科目や卒業論文を英語で書くために必要な、ライティングの基礎を扱う。論理的な文章を書く技術を習得することに重点をおいている。	
			英作文２	（英文）This course will cover the basic techniques necessary for writing an organized composition in preparation for the papers required in upper division courses and the graduation thesis. Emphasis will be on developing the ability to gain skills in logically developed writing. （和訳）本授業は専門科目や卒業論文を英語で書くために必要な、ライティングの基礎を扱う。論理的な文章を書く技術を習得することに重点をおいている。	
			英語学概論	日常意識されていない様々な法則性が言語には存在する。それを発見するための科学的・論理的な分析法と、実際の成果を提示する。この授業が、英語とはどのような言語であるか、さらに人間言語とはいかなる性質を持った体系であるかを考えるきっかけとなることを期待する。基本的に講義形式により授業を進める。	
			英語学特講３－１	テキストを読みながら言語分析の方法を学ぶと同時に英語の構造について理解を深めていく。講義形式を主体とするが、受講者の発言も随時求める。問題演習も行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（英語英文学）	英語学特講３－２	前期「英語学特講３－１」の継続である。テキストを読みながら言語分析の方法を学ぶと同時に英語の構造について理解を深めていく。講義形式を主体とするが、受講者の発言も随時求める。問題演習も行う。	
			メディア・コミュニケーション特講１	（英文）This course is a collection of lectures and workshops by professionals in the media industry who will discuss about current trends and changes that are taking place in the media world. （和訳）本授業ではメディア業界に携わる専門家をゲストに迎え、講義とワークショップを行う。メディア界でのトレンドやメディア界に起こっている変化について検討する。	
			メディア・コミュニケーション特講２	コンテンツとは何か、其の持つ訴求力とは、それらをいかにして発展できるか、さらにコンテンツを開発していくプロセスや方法論などを具体例をあげながら検討し、コンテンツにかかわる未来像を描いて行く。メディアにおけるコンテンツ企画制作などプラクティカルな実習も試みる。	
			メディア・コミュニケーション特講８－２	テレビ番組を教材として紹介しながら、ドキュメンタリーがどう作られ、制作者は何を考え、視聴者はどう受け止めるか、などを具体的に分かりやすく検証し、新しいメディア状況の中でジャーナリズムとしてのテレビ・ドキュメンタリーはどう変わろうとしているかを考える。	
			英語史	テクストを、学術的な英文読解の訓練を兼ねながら、正確に読み、適宜、説明を加えつつ、英語の歴史、とりわけ、現代英語の説明となる語、文法、意味について解説してゆきます。また、社会、歴史的な背景にもふれることになると思います。	
			米文学史概説１	テキストに沿った講義が中心だが、抜粋の精読には学生参加のディスカッションを伴う。学期中にそれぞれの時代を範囲として３回の試験を行う。	
			米文学史概説２	テキストに沿った講義が中心だが、抜粋の精読には学生参加のディスカッションを伴う。学期中にそれぞれの時代を範囲として３回の試験を行う。	
			メディア・コミュニケーション入門１	（英文）Why should we study the media? Perhaps because we can no longer escape being involved with the media in our daily lives. This course is a general overview to Media Studies. We will study the basic terms and concepts related to Media Studies in order to discuss various issues concerning mass media today. （和訳）なぜメディアについて学ぶ必要があるのだろうか。それはメディアが私たちの日常生活と切り離すことができないからだろう。本授業はメディア学についての概論である。メディア学に関連した基本用語や概念を学び、今日のマスメディアに関するさまざまな問題について検討する。	
			英文法	コミュニケーションのために必要な英文法を習得するために、多くの使用例や演習問題にあたる。特に日本人が不得意とする部分に時間を使う。英文法を高校までに60～70%理解している学生ならば、これを90～100%に引き上げることをめざす。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（英語英文学）	英会話	（英文）The student will analyze a number of high-interest, timely topics ranging from news and documentaries to television programs, all of which will be in English. Students will work in pairs/small groups to complete a variety of tasks which will center on a specific skill or skills. Assignments will include independent as well as small group research projects, public speaking and presentations. Written work will also be assigned. （和訳）英語のニュースやドキュメンタリー番組などから関心が高く、タイムリーなトピックをいくつか取り上げ、分析する。調査、ディスカッション、発表を行います。二人または小グループにわかれ、英語のスキル向上を目標とした様々な課題に取り組む。課題は一人で取り組むものだけでなく、小グループでの研究、討議、発表、また英作文をも含む。	
			オラルコミュニケーション	（英文）One part of the course will focus on fluency--developing smoother speaking ability through a variety of common topics. Another part of the course will focus on speaking in more formal situations--giving presentations to other groups or before the class. We will also spend time building vocabulary with idioms, proverbs and common, informal English phrases. Students will be expected to participate actively in pairs, small groups, before the class, and with the teacher. （和訳）　まず、日常的なトピックを通して英語を流暢に話す力を高めます。また、グループやクラス全体の前でプレゼンテーションを行うなど、よりフォーマルな場面で話すことにも取り組む。イディオム、ことわざ、慣用句を使って語彙力も強化する。学生の積極的な授業参加が期待される。	
			英語文化論［英語と聖書］1	（英文）This course aims to aid students in obtaining general knowledge of the Bible and assist them in getting basic understanding of its messages. In the first half of each class, students learn about the Bible through lecture and group discussion. This year we will read the Gospel of Luke. In the second half of the class, students are requested to appreciate the messages of the Bible by silent reading and oral reading and connecting them with our daily experiences. Students are highly expected to share their ideas and opinions during the class. The course will be conducted primarily in English. （和訳）本授業では聖書について一般的な知識を得ること、また聖書が伝えようとすることの基本的な意味を理解することを目標とする。授業の前半では、講義やグループディスカッションを通して聖書について学ぶ。今年度はルカによる福音書を読む。授業の後半では、黙読や朗読を通して、聖書のメッセージを自らの日常生活と結びつけることによって聖書を理解することが要求される。積極的に発言し、他の学生や講師と意見交換をすることが期待される。授業は主に英語で行われる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（英語英文学）	英語文化論［英語と聖書］2	（英文）This course aims to aid students in obtaining general knowledge of the Bible and assist them in getting basic understanding of its messages. In the first half of each class, students learn about the Bible through lecture and group discussion. This year we will read mainly Genesis and Exodus. In the second half of the class, students are requested to appreciate the messages of the Bible by silent reading and oral reading and connecting them with our daily experiences. Students are highly expected to share their ideas and opinions during the class. The course will be conducted primarily in English. （和訳）本授業では聖書について一般的な知識を得ること、また聖書が伝えようとすることの基本的な意味を理解することを目標とする。授業の前半では、講義やグループディスカッションを通して聖書について学ぶ。今年度は創世記と出エジプト記を読む。授業の後半では、黙読や朗読を通して、聖書のメッセージを自らの日常生活と結びつけることによって聖書を理解することが要求される。積極的に発言し、他の学生や講師と意見交換をすることが期待される。授業は主に英語で行われる。	
			英語文化論［翻訳実践］1	（英文）Translation is an exciting act of creation. It requires a sound and imaginative understanding of both source language and target language. Constant practice is the key to becoming a competent translator. Students are expected to make the most of the opportunities offered in this course to engage in various types of translation, from news topics, nonfiction, short stories, children's Literature to drama scripts and film captions. （和訳）翻訳は1つの創作活動です。原文と訳文の両言語において、明確で想像力にあふれた理解が必要です。翻訳家を目指すにためには、たゆまぬ訓練が重要です。そのため、この授業では様々な文章の翻訳を行います。時事問題、ノンフィクション、短編小説、児童文学といったものから、ドラマの脚本や映画の字幕など様々な形式の翻訳を行います。	
			英語文化論［翻訳実践］2	（英文）Translation is an exciting act of creation. It requires a sound and imaginative understanding of both source language and target language. Constant practice is the key to becoming a competent translator. Students are expected to make the most of the opportunities offered in this course to engage in various types of translation, particularly nonfiction, fiction, children's literature to drama captions. （和訳）翻訳は1つの創作活動です。原文と訳文の両言語において、明確で想像力にあふれた理解が必要です。翻訳家を目指すにためには、たゆまぬ訓練が重要です。そのため、この授業では様々な文章の翻訳を行います。時事問題、ノンフィクション、短編小説、児童文学といったものから、ドラマの脚本など様々な形式の翻訳を行います。	
			英語文化論［児童文学］2	This course focuses on some traditions of children's literature in English, from alphabets to comics, mixing the classic and the emergent in each genre. The aim is to stimulate students to read afresh, honing their skills in close reading, in visual literacy, and in contextualising historical and cross-cultural constructions of childhood and adulthood. Students will be encouraged to engage in their own creative work. （和訳）翻訳は1つの創作活動です。原文と訳文の両言語において、明確で想像力にあふれた理解が必要です。翻訳家を目指すにためには、たゆまぬ訓練が重要です。そのため、この授業では様々な文章の翻訳を行います。特にノンフィクション、小説、児童文学といったものから、ドラマの脚本など様々な形式の翻訳を行います。	
			英語文化論［文学と電子メディア］1	始めにサンプルとして、ベケットの短い劇作品の中でもとりわけ短い_i_Breath_/i_をとりあげ、3Dアニメを作るためのいろいろな技術を習得します。次にグループごとに作品を割り当て、その劇の意味を十分考えた上で、3Dアニメを制作してもらい、完成作品を教室で上演します。最後に、自分の取り組んだ劇作品についての解説と考察をリポートにまとめます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	他学科開講科目（英語英文学）	英語文化論［文学と電子メディア］２	Hint Fictionという２５語以内で書かれた一連の超ショートストーリーをとりあげ、PowerPointを使って文字・画像・音声情報を盛り込んだデジタル作品にします。次に、既成の作品からヒントを得て、自分独自のHint Fiction作品を創作します。最後に作品の発表と講評を経て、自分の作品についての解説と考察をレポートにまとめます。	
			異文化理解	（英文）The primary focus will be on comparing Japanese and American communication styles and examining contemporary topics combined with cross cultural topics such as culture shock, facial expressions, cultural stereotypes, cross cultural relationships, cultural sensitivity and methods for teaching cross culture communication. （和訳）日本とアメリカのコミュニケーションスタイルの比較、また現代社会のトピックと関連した異文化間のトピック、例えば、カルチャーショック、表情、ステレオタイプ、異文化交流、異文化の認識、異文化間コミュニケーションの教授方法などを扱う。	
		博物館関連科目	博物館概論	（１）現代の博物館の役割とその仕事の中味、抱えている問題点、（２）近代以降の博物館の成立と発展、（３）博物館の将来、特にネットワーク時代の博物館のあり方、の３点を中心に授業を行う。博物館またはデジタル・ミュージアムの見学の機会を期間中１回予定している。	
			博物館学各論１	人と馬のかかわりの歴史は、遥か古代に始まり、東西文明に広がり、連綿として現代に続いている。そして馬は、軍事や産業、競馬などの競技、神事や信仰などの生活の中でも密接であった。そうした人と馬の歴史を、東西文明の考古、歴史、美術史の各分野から映像を通して紹介しつつ、実際の馬の博物館の経営、展示等の諸活動を通して紹介する	
			博物館学各論２	【博物館資料論】 複数の分野の作品を保管・展示する総合博物館では、文化財作品をどのように収集し、分類して整理しているか、また、資料の整理方法やそれらの活用方法といった博物館の作品収集、調査、公開等の実態を理解する。 【博物館資料保存論】 文化財作品を安全に保管し、後世へ引き継ぐためには文化財作品の現状把握が不可欠で、損傷状況により修理等が必要となる。各分野の修理について、文化財作品の現状を熟知し、修理の立案、修理方法の検討、修理業者の決定といった修理の流れと修理後の報告書作成等について学ぶ。また、文化財作品を貸与または借用する際の梱包と輸送について学ぶ。さらに、博物館の収蔵庫や展示場での安全な保存環境を維持するための方法についても学ぶ。	
			博物館情報・メディア論	博物館でのメディア活用を放送や通信を中心に学習する。また映像や音声を活用した企画を立案するための知識も習得する。様々な形式の情報機器の基礎知識を学ぶ。更にこれからの博物館にとって重要となるデジタルによる資料保存としてのアーカイブやその際に必要となる著作権に関する知識にも言及する。	
			博物館教育論	博物館教育の意義と理念について理解したうえで、その実際的活動を、博物館における教育的活動、ボランティア活動、学校教育との連携、障がい者への対応などの諸点について、実際的な活動例を示し、そのねらいと効果、問題点を明らかにする。	
			２年日本語２	１．様々な分野にわたる論文例を、構成・論の進め方に着目しながら理解、分析する。同時に必要な表現、文型を学ぶ。 ２．論文で使われる文体、資料収集とその活用法を学ぶ。	共同

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻課程分野	関連分野	日本語関連科目	上級日本語１－１	１．各課の内容理解、語彙・表現の習得、設問への記述または口頭での回答、要約訓練などを行う。 ２．関連資料を収集し、レポート作成に結びつける。 ３．大学生にとって必要な敬語などの高度な日本語の表現を学ぶ。 ４．漢字テキストを使い、漢字の読み書き能力向上をはかる。 漢字は毎回小テストを行う。	
			上級日本語１－２	１．『ことばと文化」を読み、分担箇所の要約、内容の分析/意見の発表し、クラスでディスカッションを行う。最後にレポートにまとめる。 ２．『日本語　表と裏』を読み、何気なく使っている語彙について表の意味、裏の意味、ことばに潜む考え方を分析し理解する。 ３．漢字テキストを使って大学生レベルの漢字力をつける。 毎回漢字小テストを実施する。	
			日本事情１	１．現代日本で起こる様々な出来事の基礎知識を映像、読み物など、異なる媒体から得る。 ２．内容理解→ディスカッション→発表へと進める。 ３．毎回の授業で理解できたこと、意見などをまとめて提出する。 ４．期末レポートを作成し提出する。	
			日本事情２	１．現代日本で起こる様々な出来事の基礎知識を映像、読み物など、異なる媒体から得る。 ２．内容理解→要約→意見発表→ディスカッションへと進む。 ３．毎回の授業で理解できたこと、意見などをまとめて発表し書いて提出する。 ４．期末レポートを作成し提出する。	
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ		キリスト教学Ⅰ－１	学習目標を達成するために聖書の研究と共にカトリック教会が大切にしているミサを解説し、受講者学生たちで協力して準備したり実際に参加する機会を設けます。呼吸を使っての祈り、伝統的な祈り、聖歌を共に歌うことも大切にします。自分は生涯にわたっていのちを与えてくれる神と世界中の人々との絆によって生かされているという真理を深め、自分を成長させる習慣を身につけるためにイグナチオの霊操の識別のトレーニングを行います。	
			キリスト教学Ⅰ－２	前期は、旧約聖書を主要資料として、キリスト教成立の基盤となった初期ユダヤ教の思想を、後期は、新約聖書を主要資料として、イエスと初期キリスト教の思想を学ぶ。講義に加えて、毎回の授業内に履修者が書くリアクション・ペーパーを通して質疑応答と意見交換を行なう。	
			キリスト教学Ⅰ－３	１．キリスト教の教理に関する基本的知識の紹介―講義を行う。 ２．聖書の読み方の指導（聖書本文とテキストを通して）。 ３．少人数の場合は、（ゼミ形式で）話し合って理解へと導くこともする。	
			キリスト教学Ⅰ－４	礼拝は、他の宗教同様、キリスト教においても、その中心の一つです。キリスト教の礼拝の中心は、正教会では聖体礼儀、ローマ・カトリックでは感謝の祭儀、プロテスタントでは聖餐式と呼ばれる、「最後の晩餐」を再現した儀礼です。この講義では、この儀礼を中心に、古代の初期キリスト教において礼拝がどのように成立・展開していったかを、思想史的に探求します。	
			キリスト教学Ⅰ－５	キリスト教にこれまであまり縁がなかった学生、そもそも宗教に関心のなかった学生を対象に、キリスト教の基本的な知識を説明します。また、聖書をはじめとして、キリスト教に関連する諸文献を実際に手にして、読んでいきます。また、キリスト教や宗教全般についての疑問にも答えていきたいと考えています。 さらに、キリスト教の宗教行事や、祈り、ミサなども体験する機会をもうけます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ	キリスト教学Ⅰ－６	キリスト教の基礎について聖書を通して概観する。キリスト教の背景としてのユダヤ教および旧約聖書の成立、イエス運動の展開とキリスト教の発展などを、歴史的背景・文化的状況を交えて学ぶ。特に、人間が超越者である神との関わりにおいて生きる意味（信仰）、そして信仰の表現として聖書（旧約聖書・新約聖書）が成立した過程、また歴史的な出来事の中で、それが新たに解釈され、深められていくことの意味を考えてみたい。さらに、それが現代に生きる私たちに、どのような意味を持つかを考えてみたい。	
		キリスト教学Ⅰ－７	キリスト教は、イエス･キリストが人間と世界に対する神の決定的な働きかけであると理解し、この理解の証言として『聖書』という書物を「正典」と定めている。その『聖書』の歴史的･文化的な背景を踏まえつつ、いくつかの視点からキリスト教に特徴的な内在的論理の特徴を探る。	
		キリスト教学Ⅰ－８	前半は、ホロコーストに関わる文学作品・資料を読みＤＶＤを鑑賞した上で、クラスで討論を行なう。ナチス・ドイツの全体主義国家の極限状況において、個人や集団がどのように自分の行動を選択していったかを考察する。後半は、ナチス政権下のドイツ教会の状況、特に地下抵抗運動に身を投じたディートリッヒ・ボンヘッファーの生涯と思想に注目する。	
		キリスト教学Ⅰ－９	神（超越的なもの）との出会いによって，人生を一変させた人々がいる。この講義では，私たち自身の生きる場である日本においてそのような人々を探し出し，彼らの宗教的な経験が，その人々の人生にどのような意味をもったのか，またその後その人々がその経験をふまえてどのように生きていったのかを，彼ら自身の言葉を丹念にたどることで検証していく。具体的には，まず1年を通して研究するひとりの人物を，受講者各自（あるいは少人数のグループ）で選ぶ。そのうえで，その人物が信仰を語った言葉に関して数回の発表を行い，発表に対する参加者の討論を通じて理解を深めていく形式で進める。	
		キリスト教学Ⅱ－１	聖血の容器〈聖杯〉はなぜヨーロッパ各国で語られ、また探され続けてきたのでしょうか。中世から今日までの聖杯にかかわる文学、絵画、音楽、映画などを鑑賞し、その意味を考えます。聖杯物語の歴史は受難についての解釈の歴史であるとともに、地上における神や至高性の探索の歴史でもあります。それがアーサー王物語や現代ファンタジーと結びついていく過程を具体的に見てみましょう。	
全学必修分野	キリスト教学Ⅱ	キリスト教学Ⅱ－２	古代ローマの社会でキリスト教がどのように受け入れられ、その後の西欧社会で変化して行ったのか、誕生期のキリスト教美術の作例から丹念に追っていくことにする。前期は特に誕生期のキリスト教美術に焦点を当て、葬礼美術に関して講義をし、後期は教会堂建築とその内部装飾について講義することとする。	
		キリスト教学Ⅱ－３	前半は、キリスト教思想に大きな影響を与えた哲学者の倫理的方法論を中心に扱う。 後半は、キリスト教やユダヤ教における様々な思想の倫理的な側面を扱う。	
		キリスト教学Ⅱ－４	各回１－２作品を取り上げ、楽曲分析を行う。受講者の理解度に応じて講義を進めるため、あらかじめ固定した計画は立てないが、扱う作曲家はギョーム・ド・マショー他多数。	
		キリスト教学Ⅱ－６	序論に続いて、前期には、創世記の「父祖と母祖」の物語を、後期には、出エジプト記からサムエル記までの「歴史」の物語を取り上げる。基本的に講義形式をとるが、履修者が毎回の授業において記すリアクション・ペーパーとそのフィードバックによって、質疑応答と意見交換を行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学必修分野	キリスト教学Ⅱ	キリスト教学Ⅱ－８	神与の天才が人生経験と学習を通じていかに発展していったかを、伝記に照らし、重要作品を調べつつ確認していく。視聴覚素材を使いながら授業するが、楽譜を極力参照し、分析も行う。音楽の基本を知り、基礎的な耳が養成されるような授業としたい。	
		キリスト教学Ⅱ－９	前期はキリスト教のさまざまなテクストがどのように図像化されてきたのかを概観し、後期はカトリックの教義、歴史、社会等がキリスト教美術にどのように影響したのかを多角的な視点から学びます。スライドで作品を映写しながら、講義形式で進めます。	
		キリスト教学Ⅱ－１０	音楽は人間の創造性とスピリチュアリティを読み解く面白い切り口である。授業ではキリスト教と深く関わって来た西洋音楽の歴史を遡り、作品が作られた背景や作曲家について学びながら人間と神の対話について考えていきたい。授業内では毎回作品を鑑賞するとともに皆で簡単な歌を歌いながら祈りの実習を行う。	
		キリスト教学Ⅱ－１１	毎回、椅子禅を行い、坐禅の世界に体験的に接近する。前期には、坐禅の世界の実践的な枠組みを理解し、さらにはその世界観と歴史を概観する。後期には、キリスト教の本質を考察し、それが禅と一体化ないしは共存しうるのかどうかを探る。また、現在の世界における禅の実情を観察しつつ、禅の将来的可能性を検討する。	
		キリスト教学Ⅱ－１４	この授業では、前期においてキリスト教の聖典である聖書（旧約聖書および新約聖書）とは何かをトピックス形式で学び、キリスト教思想を理解する。後期においては、現代社会の諸問題―例えば、グローバリゼーション、新宗教・カルト、戦争、原理主義等の問題―とキリスト教信仰の関わりについて、様々な角度から考察してみたい。	
		キリスト教学Ⅱ－１６	近代ドイツ文学において、キリスト教のモチーフがまったく出てこない作品はほとんどない。それほどまで、キリスト教は文化的にすみずみまで浸透していた。だが、キリスト教はたんに信仰の対象ではなかった。むしろ、ゲーテやニーチェをはじめ、ドイツ語圏の作家・思想家は、キリスト教を痛烈に批判してきた。この授業で取り上げる作品も、キリスト教を批判しているものが多い。それはドイツ語圏の人々にとって、キリスト教とは格闘しなければならないほど重要な対象であったことを意味する。そのようなキリスト教批判も授業で取り上げることで、キリスト教の性質を考えていきたい。 作品だけではなく、作家の伝記を映像資料などを用いて紹介する。 数回グループディスカッションも行う予定である。	
	第一外国語	１年英語	（英文）This is a required course for all first-year students designed to help them improve the four basic skills in English: speaking, listening, writing, and reading. Along with the language skills, the course also aims to help students develop critical thinking skills that are necessary for them to pursue academic studies. Students are divided into approximately thirty per class according to the levels. Class is conducted in English. Self-study at the Multimedia Center for Active Learning (MCAL) is also obligatory. （和訳）本授業は1年次生必修科目です。「話す」「聞く」「書く」「読む」といった英語の基礎学力を養成します。加えて、学術的研究に必要とされる論理的思考力を身に付ける事も目指しています。 学力別にクラスに分かれ、授業を行います。授業は全て英語で行います。メディア学習センターでの自主学習が必須となっています。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学必修分野	第一外国語	２年英語２(リーディング)	(英文) The course aims to develop academic reading skills and strategies with an emphasis on vocabulary building through reading texts. Both intensive and extensive reading will be practiced, and students will have opportunities for independent study through technology supported materials. (和訳) テキストの読解を通して、学術的読解力と語彙力の強化を目指す。精読と多読の両方を練習し、ITを使った自主学習も行う。	
		２年英語２(オラル)	(英文) The course aims to improve students' basic communication skills, including listening, small group communication and presentation through the integration of classroom teaching techniques and technology. (和訳) 本授業は基礎コミュニケーション力を高めることを目標とする。講義とITを使った授業を通し、リスニングや小グループでのコミュニケーションや発表に取り組む。	
	第二外国語	１年フランス語(文法)	アルファベットから始めて、一年を通してフランス語文法の基礎を学んでいきます。英語とは異なる文法事項、とりわけ独特な動詞活用に最初は戸惑いを覚えるかもしれませんが、恐れることなく少しずつ慣れていきましょう。またこの授業は文法が中心ですが、発音も重視します。授業内では恥ずかしがることなく、大きな声で発音練習をしてください。また毎回必ず辞書を持参してください。	
		１年フランス語(オラル)	(仏文) Pouvoir répondre à des questions basiques et être capable de poser les mêmes questions. Etre capable de transcrire de simples énoncés. Premier semestre : UNITES 1 et 2 de TAXI 1 Deuxième semestre: UNITES 3 et 4 de TAXI 1 (和訳) 簡単な質問に答えられ、同じ質問をできるようになること。簡単な文を訳すことができることを目指します。	
	第二外国語	２年フランス語(講読)	比較的平易なフランス語で書かれた文章を読んでいきます。使用するテクストはそれぞれのクラスによって異なりますが、どのクラスにおいても、１年次に学んだ文法事項を復習しながら、総合的なフランス語の運用能力を高めていくという方針は同じです。	
		２年フランス語(会話)	(仏文) Comprendre et se faire comprendre en utilisant les bases acquises. Développer les compétences. Semestre 1 : UNITES 5 et 6 de TAXI 1 Semestre 2 : UNITES 7 et 8 de TAXI 1 (和訳) 学習したことを使って、会話をすることができるようになることが目標。応用力を養う。	
		１年ドイツ語(文法)	この授業科目は、みなさんがドイツ語の初級文法を習得できるようになることを目標としています。まずアルファベット、発音の規則、こんにちは・さようならなどの挨拶表現を学び、次にドイツ語の文の組み立てを理解して、使えるよう、説明と練習を積み重ねていきます。	
		１年ドイツ語(オラル)	アルファベットから始まり、発音のルール、挨拶を覚えます。日常生活のシーンごとに身近なテーマで、聞く、話す、読む、書くというドイツ語力をバランス良く養い、それを通じてドイツ語圏の人々や文化への興味関心も広げていきます。動詞の現在人称変化を覚えて自分や他者を紹介、居住地や出身地、趣味について質問したり答えたりできるようにしていきます。	
		２年ドイツ語(講読)	中級程度の読みものをつかって、「読解の技術」を習得することが目標。小テスト、本文読解、文法解説、という流れをとる。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学必修分野	第二外国語	２年ドイツ語(会話)	高度な読解力と聴解力の習得を目標とする。毎回、音声トレーニング→本文読解→文法解説、という流れをとる。	
		１年スペイン語(文法)	はじめてスペイン語を学ぶ学生のために、ことばの礎となる文法を発音からはじめ、文法力をつける。スペイン語文法の基礎となる直説法の動詞時制と活用を把握することを目標とする。授業時間90分を使い、前半は新しく学ぶ文法事項を教員が詳しく丁寧に説明し、後半は練習問題を受講生がおこなう。履修生は、必ず、予習をして授業に臨むこと。	
		１年スペイン語(オラル)	勉強した会話をグループかペアーで発表します。勉強した会話をグループかペアーで発表します。	
		２年スペイン語	スペイン語のさまざまな表現を学ぶことを学習目標とする。また、動詞の時制・直説法と接続法の時制と活用用法についても学習する。会話形式から構成されている各課のユニットを聞いて、スペイン語のリズムで読めるようにして、その文の意味を理解できるようにする。文法事項の説明・語句と表現の解説・表現力を高める練習をおこなう。	
		１年中国語(文法)	現代中国語を初歩から学習する。週２回の授業で、中国語の表音ローマ字に習熟することから入り、基本的な表現を学びながら中国語の考え方、ものごとのとらえ方を身につける。この授業と平行して開講される週１回のオラルの授業とともに履修することにより、大きな学習効果が期待できる。	共同
		１年中国語(オラル)	ネイティブの教員が週に１回、大陸での共通語である「普通話」を初歩から教授する。発音・会話に重点をおいて耳と口から中国語を学ぶ。	
	第二外国語	２年中国語(講読)	一通りの初級中国文法を(本学１年生相当)を学習済みであることを前提とした、読解力養成を中心とする中国語の授業です。	
		２年中国語(会話)	ネイティブの教員が中国語の会話・作文の能力向上を目標に授業を進める。教科書の暗誦や創作会話の表演などを通じて実践的な会話能力の向上を目指す。	
		１年コリア語(文法)	この授業では、コリア語の文字であるハングルの読み書き、文法、コリア語の読み書き等を学びます。また、ハングル検定５級、４級取得を目標としたテキストを用い、ハングル検定対策も行います。	共同
		１年コリア語(オラル)	テキストに沿って、まず単語の確認を行い、本文を、文法を説明しつつ和訳しながら一通り目を通す。次に、教師について正確に読む練習をし、さらに、すらすら言えるよう、一人またはペアで口頭練習を徹底する。その後、教科書の練習問題で学習内容の定着を図り、応用力を養う。	
		２年コリア語	1年コリア語を修了した学生を対象にし、少し程度が高い会話と文法を学び、簡単な作文ができるようになるのが目標です。まず、テキストの本文の会話文を読み、文法説明とその用例を学びます。次に文法の練習問題を解きます。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学必修分野	第二外国語	１年日本語１	各課の進め方は、トピックに沿っての話し合い、本文読解、語彙・漢字の確認、文型練習、関連の新聞記事やグラフ等を使って内容説明（口頭練習）、意見交換、日本人へのインタビューとそのまとめの記述。この他に、文法復習、漢字及び表現・語彙小テスト、発音、聴解、テーマレポート作成なども行う。	共同
		１年日本語２	各課の進め方は、トピックに沿っての話し合い、本文読解、語彙・漢字の確認、文型練習、関連の新聞記事やグラフ等を使って内容説明（口頭練習）、意見交換、日本人へのインタビューとそのまとめの記述。この他に、文法復習、漢字及び表現・語彙小テスト、発音、聴解、テーマレポート作成なども行う。	共同
		２年日本語１	１．「人権」をテーマにテキストの読解、関連映像の視聴、資料の理解・考察後、レポートにまとめる。さらにやや難解な文章の構造を分析するなどのストラテジーを使い、読解を行う。 ２．生教材を含む聴解・読解資料をもとに、大学生に相応しい口頭発表技術の訓練を行う。	共同
	体育運動学	体育運動学	バレエストレッチ、筋力強化エクササイズを行った後、バー・レッスンを行う。アレグロ等もバーを利用して練習するが、最終的にはセンターに出て行えるようにしたい。また、ＤＶＤ鑑賞により、バレエ作品にも触れてもらう。	
資格関係分野	教職専門科目	教職入門	20世紀末のわが国における相次ぐ教育職員免許法の改正は、教師の「資質」向上を目的として行われた。「教師における『資質』が後天的に形成可能」（教養審）であるとすれば、「資質」向上の在り方の追究は極めて重要な課題である。本講は、特にこの問題を中心に据えて講じる。	
		社会科教育法１	講義だけではなく、グループ討論やグループワーキングなどを多用して、双方向の授業を目指す。受講者の積極的な発言を求める。毎時間最後に小レポートもしくは感想文の提出を課する。その一部は次回の授業の冒頭で紹介し、問題意識を共有しながら授業を進める。	
		社会・地理歴史科教育法１	講義が中心です。社会科教育の概要と、おもに地理的な分野の内、最低限おさえておくべき内容を説明します。適宜視聴覚教材を用い、またフィールドワークも行います。	
		社会・地理歴史科教育法２	模擬授業を中心に行います。分野は社会科（地歴、公民）の科目で、自分が専門とするもので構いません。受講生の人数により、模擬授業の時間は変わりますが、なるべく実際の形に近い内容で実践的に行います（昨年度は持ち時間３０分、１回に２人）。講義やフィールドワークなども行います。	
		社会・公民科教育法１	社会科・公民科のより良い授業を作るために、この講義は組織される。これまで学生は学習者の立場で「社会」「現代社会」「倫理」「政治・経済」を学んできた。が、それらをなぜ学ぶのかを考えたことは少ない。教科理論レベルで、社会科・公民科がどのようになっているのかを吟味し、なぜ学ぶのか、教えるのかという課題を追究していく。	
		社会・公民科教育法２	社会科・公民科のより良い授業を作るために、この講義は組織される。これまで学生は学習者の立場で「社会」「現代社会」「倫理」「政治・経済」を学んできた。が、それらをなぜ学ぶのかを考えたことは少ない。授業理論レベルで、社会科・公民科がどのようになっているのかを吟味し、なぜ学ぶのか、教えるのかという課題を追究していく。	
		教育実習指導１（中学・高校）	教育実習に行くまでに知っておくべき事柄、持つべき心構え、準備すべき事柄などを、先輩の体験談や、現職教員の話などの実例を通して学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（文学部　史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科共通）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
資格関係分野	教職専門科目	教育実習指導４（中学・高校）	教育実習に行くまでに知っておくべき事柄、持つべき心構え、準備すべき事柄などを、先輩の体験談や、現職教員の話などの実例を通して学ぶ。	
		教育実習１	大学での理論学習をふまえて教員としての実践能力を養うために、実習校で担当教員の指導を受けつつ「観察」「参加」「実習」等の活動を体験する。学校組織の実際、教員の職務、生徒の実態等への理解を深めるとともに、教員としての自覚と使命感を高め、自己のあり方となすべき課題を明確に把握することが求められる。	
		教育実習２	大学での理論学習をふまえて教員としての実践能力を養うために、実習校で担当教員の指導を受けつつ「観察」「参加」「実習」等の活動を体験する。学校組織の実際、教員の職務、生徒の実態等への理解を深めるとともに、教員としての自覚と使命感を高め、自己のあり方となすべき課題を明確に把握することが求められる。	
		教職実践演習（中学・高校）	中学校及び高等学校の教員としての実践力について、使命感・責任感・教育的愛情、社会的・対人関係能力、生徒への理解力と学級経営能力、教科の指導力といった観点に基づき、それらの修得状況を総合的に評価しながら指導する。ロールプレイング、グループ討論、実技指導、事例研究、フィールドワーク、模擬授業などの方法を適宜用いる。	
	博物館実習	博物館実習	美術館・博物館における作品展示、保存整理など基本的な資料の取り扱い方、資料調査記録の取り方、美術品取り扱い、紐の結び方、収納の技術など、実際に作品を用いて実習を行います。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

聖心女子大学学則

第１章　目的

第１条　本学は、キリストの精神にもとづき、女子に高度の教養を授けるとともに、専門の学術を、教授研究し、豊かな見識とすぐれた人格をもって、社会と文化の発展に寄与する人物を育成することを目的とする。

第１章の２　自己点検・評価

第１条の２　本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行うものとする。

２　本学の自己点検・評価については、別に定める。

第２章　組織

第２条　本学に、文学部を置く。

文学部に、次の学科を置く。

英語英文学科、日本語日本文学科、史学科、人間関係学科、国際交流学科、哲学科、教育学科（教育学専攻、初等教育学専攻）、心理学科

第３条　文学部の収容定員は、次のとおりとする。

		入学定員	２年次編入学定員	収容定員
英語英文学科		９０名	６名	３７８名
日本語日本文学科		４５名	６名	１９８名
史学科		５５名	２名	２２６名
人間関係学科		５５名	２名	２２６名
国際交流学科		６０名	２名	２４６名
哲学科		４０名	４名	１７２名
教育学科	教育学専攻	２５名	４名	１１２名
	初等教育学専攻	４０名	---	１６０名
心理学科		５５名	４名	２３２名
合　　計		４６５名	３０名	1,９５０名

第４条　本学に、大学院を置く。

大学院の学則は、別に定める。

第５条　本学に、キリスト教文化研究所を置く。

キリスト教文化研究所に関する規則は、別に定める。

第５条の２　本学に、心理教育相談所を置く。

心理教育相談所に関する規則は、別に定める。

第６条　本学に、図書館を置く。

図書館に関する規則は、別に定める。

第７条　本学に、学寮を置く。

学寮に関する規則は、別に定める。

第８条　本学に、事務組織を置く。

事務組織に関する規則は、別に定める。

第８条の２　第２条から第８条までに定める組織のほか、本学に次の組織を置くことができる。

（１）センター

（２）その他、第９条に規定する学長が特に必要と認める組織

２　前項の組織に関する規則は、別に定める。

第３章　職員組織

第９条　本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助手、並びに事務職員その他必要な職員を置く。

本学に必要に応じ、学部長を置くことができる。

学長の選出については、別に定める。

第４章　教授会

第１０条　本学に、教授会を置く。

教授会は、学長、専任の教授、准教授並びに講師をもって組織する。

２　教授会は、次の事項を審議する。

（１）教育、研究及び授業に関する事項

（２）教育課程に関する事項

（３）学生の入学、編入学、転入学、再入学、学士入学、休学、復学、留学、転学及び退学に関する事項

（４）科目等履修生、研究生及び外国人留学生に関する事項

（５）学生の単位認定及び卒業に関する事項

（６）学生の賞罰に関する事項

（７）学生の厚生補導に関する事項

（８）教員の人事に関する事項

（９）教授会の設置する委員会に関する事項

（１０）学則その他諸規則に関する事項

（１１）学長の諮問する事項

（１２）その他教授会の必要と認める事項

３　教授会の運営に関する規則は、別に定める。

第５章　学年、学期及び休業日

第１１条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

第１２条　学年は、次の２期に分ける。

前期　４月１日から９月３０日まで

後期　１０月１日から翌年３月３１日まで

第１３条　休業日は、次のとおりとする。

（１）日曜日

（２）国民の祝日に関する法律に規定する日

（３）本学創立記念日（５月４日）

（４）夏期休業　７月２１日から９月２５日まで

（５）冬期休業　１２月２１日から翌年１月５日まで

（６）春期休業　３月１６日から３月３１日まで

必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

第１項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第６章　修業年限及び在学年限

第１４条　文学部の修業年限は、４年とする。

第１５条　在学年限は、８年を超えることができない。ただし、第２１条第１項及び第２項の規定により入学した者は、同条第３項により定められた在学すべき年数の２倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第７章　入学、編入学、転入学、再入学、学士入学及び転科

第１６条　入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の必要がある場合は、第１２条に規定する後期の始めを入学の時期とすることができる。

第１７条　本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する女子とする。

（１）高等学校を卒業した者

（２）通常の課程による１２年の学校教育を修了した者

（３）外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（４）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（５）文部科学大臣の指定した者

（６）大学入学資格検定規程（昭和２６年文部省令第１３号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者、又は文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

（７）本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第１８条　本学に入学を志願する者は、入学願書その他別に定める書類に所定の入学検定料を添えて、所定の期日内に願い出なければならない。

第１９条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

第２０条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書その他別に定める書類を提出するとともに、所定の学費を納付しなければならない。

２　学長は、前項の入学手続きを完了した者に対し入学を許可する。

第２１条　本学に編入学、転入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上、相当年次への入学を許可することがある。ただし､転入学については､欠員のある場合に限る。

２　本学を退学した後に再入学を､また本学を卒業した後に学士入学を志願する者があるときは、別に定めるところにより、選考の上、相当年次への入学を許可することがある。

３　第１項及び第２項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学長が決定する。

第２２条　転科を願い出た者には、事情を考慮した上でこれを許可することがある。

２　転科に関する規則は、別に定める。

第８章　教育課程及び履修方法

第２３条　本学の授業科目は、全学必修科目、総合現代教養科目、基礎課程科目及び専攻課程科目とする。

第２４条　本学において開設する授業科目の名称及び単位数は､別表第１に定めるとおりとする。

第２５条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

（１）講義及び演習については、１５時間の授業をもって１単位とする。

（２）実験、実習及び実技については、３０時間の授業をもって１単位とする。

第２６条　本学の教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて、編成するものとする。

第２７条　学生は、在学中に別表第１に掲げた授業科目の中から、次のように単位を修得するとともに最終年次に卒業論文を提出し、その審査に合格しなければならない。卒業に要する総単位数は１３２単位とする。

（１）全学必修科目は、２６単位以上を修得しなければならない。

（２）専攻課程科目、総合現代教養科目、基礎課程科目の履修及び各自の所属する専攻コースの卒業要件となる単位数等については、別に定める履修要項によるものとする。

（３）卒業論文の合格は８単位の修得とする。

２　教育職員免許法に定める教員免許状並びに博物館法に定める学芸員の資格を取得しようとする者は、それぞれ法定基準の定めるところにより、必要な専門科目等を修得しなければならない。なお、本学において取得できる教員免許状並びにその免許教科の種類等は、別表第２のとおりである。

３　単位取得の認定は、試験（論文、報告等を含む。）、平常の成績及び出席状況等を総合して決定する。なお、これらの細目については、別に定める履修要項によるものとする。

４　試験及び卒業論文の成績は、ＡＡ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｆの５段階とし、Ｃ以上を合格とする。

５　病気又は正当な理由により試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

６　合格点を取得できなかった者に対しては、卒業年次に限り願い出により再試験を行うことがある。

第２７条の２　本学に日本語教員課程を置く。

２　日本語教員課程を修了しようとする者は、別に定める履修要項により、課程の修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

３　日本語教員課程を修了した者には、卒業時に日本語教員課程修了証を授与する。

第２７条の３　本学に次の副専攻コースを置く。

（１）各専攻コースが開設する副専攻コース

（２）学科横断的に開設される副専攻コース

２　副専攻コースを修了しようとする者は、別に定める履修要項により、各コースの修了に必要な授業科目の単位を修得しなければならない。

３　副専攻コースを修了した者には、卒業時に副専攻修了証を授与する。

第２８条　教育上有益と認めるときは、学生が本学と協定のある又は認定する他大学の授業科目を履修することを認めることがある。

２　前項の規定により学生が履修し、修得した単位は、教授会の議を経て３０単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位として認定することができる。

第９章　休学、復学、留学、転学及び退学

第２９条　病気その他やむを得ない理由により休学を希望する者は、所定の様式による休学願を提出し、学長の許可を得なければならない。休学の時期は、前期中に休学を願い出た者については後期から､後期中に休学を願い出た者については次の年度の前期からの休学が認められる。

２　病気のため修学することが適当でないと認められる者については､休学を命ずることがある。

第３０条　休学期間は、１年又は半年とする。ただし、特別の事情がある場合は､１年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

２　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

３　休学期間は、在学期間に算入しない。

第３１条　休学中の者が復学を希望するときは、所定の様式による復学願を提出し、学長の許可を得なければならない。復学の時期は、前期中に復学を願い出た者については後期から、後期中に復学を願い出た者については次の年度の前期からの復学が認められる。

第３２条　外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て教授会の承認を得なければならない。

２　留学に関する規則は、別に定める。

第３３条　他の大学への転学を希望する者は、所定の様式による退学願を提出し、学長の許可を得なければならない。

第３４条　退学を希望する者は、所定の様式による退学願を提出し、学長の許可を得なければならない。退学の時期は、原則として前期末又は学年末とする。

第３５条　次の各号の１に該当する者について学長は、前条に定める退学願の提出を待たず、教授会の議を経て、退学させることができる。

（１）第１５条に定める在学年限を超えた者

（２）第３０条第２項に定める休学期間に達しても、なお修学できない者
（３）授業料等の納付を怠り、督促を受けても、なお納付しない者
２　第１項第３号により退学を命じられた者が、再入学を希望するときは、滞納授業料等を納付することにより再入学を志願することができる。

第１０章　卒業の認定並びに学士の学位の授与

第３６条　本学に、４年（第２１条第１項及び第２項の規定により入学した者については、同条第３項により定められた在学すべき年数）以上在学し、所定の授業科目の履修並びに単位数を取得し、かつ卒業論文の審査に合格した者に対し、学長が卒業を認定する。
２　学長は、卒業を認定した者に対し、学士の学位を授与する。
第３７条　削除

第１１章　学生納付金

第３８条　本学の授業料、施設設備費、諸費及び特別費（以下「授業料等」という。）並びに入学金については、別表第３に定めるとおりとする。
第３９条　授業料等は、年額を所定の期間に納付するものとする。ただし、第１２条に規定する前期及び後期の２期に分けてそれぞれの所定の期間に納付することもできる。この場合の各期の納付金額は年額の２分の１とする。
第４０条　休学期間中については、その学期に対応する授業料等の２分の１を納付するものとする。納付の時期は第３９条に準ずる。
第４１条　削除
第４２条　停学期間中の授業料等は、これを徴収する。
第４３条　やむを得ない事情があると認められた者に対し、授業料等の全部もしくは、一部を免除することがある。
第４４条　科目等履修生及び研究生の検定料、科目等履修料、研究料については、別に定める。
第４５条　既納の授業料等は、原則として返付しない。ただし、前期中の退学が許可された場合に限り、年額の２分の１を減額する。
第４６条　学生は、在学中に学生納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとする。
第４７条　本章に規定するもののほか、学生納付金に関する事項は、別に定める規則によるものとする。

第１２章　科目等履修生、研究生及び外国人留学生

第４８条　本学の授業科目のうち一又は数科目を選んで科目履修を志願する者があるときは、一般の授業及び研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生としてこれを許可することがある。
第４９条　本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、一般の授業及び研究に支障のない場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

２　研究生を志望できる者は、大学を卒業した者、又は、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

３　研究生の許可は、学年始めに行うものとし、その研究期間は１年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

第５０条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

第５１条　科目等履修生、研究生、外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第１３章　奨学生制度

第５２条　本学に、奨学金による奨学生制度を置く。

奨学生の種別、員数、その選考等については、別に定める。

第１４章　賞罰

第５３条　本学学生にして特に表彰に価する行為をした者に対し、学長は、教授会の議を経て表彰することがある。

第５４条　本学の教育方針に背き、本学の規則に違反し、又は、学生としての本分に反する行為をした者に対し、学長は、教授会の議を経て懲戒する。

２　前項の懲戒の種別は、退学、停学並びに訓告とする。なお、停学期間は、第１５条及び第３６条の在学期間には算入しない。

３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

（１）性行不良で改善の見込がないと認められる者

（２）正当な理由がなくて出席常でない者

（３）本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第１５章　公開講座、各種講習会

第５５条　本学には、公開講座並びに各種講習会を開設することができる。

附　則

この学則は、昭和２３年４月１日から施行する。

この学則は、昭和２６年４月１日から施行する。

この学則は、昭和３２年４月１日から施行する。

この学則は、昭和４１年４月１日から施行する。

この学則は、昭和４８年９月２０日から施行する。

この学則は、昭和４９年２月２５日から施行する。

この学則は、昭和５４年４月１日から施行する。

この学則は、昭和５５年８月１日から施行する。

この学則は、昭和５６年４月１日から施行する。

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成２年４月１日から施行する。

（従前の高等学校社会一種免許状の経過措置）

2　平成２年３月３１日の在籍者及びこの附則施行日以降の聴講生は、改正後の別表第２の規定にかかわらず、高等学校社会一種免許状については、なお従前の例による。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成３年４月１日から施行する。

（文学部国語国文学科の存続に関する経過措置）

2　文学部国語国文学科は、改正後の第２条の規定にかかわらず、平成３年３月３１日に当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則

この学則は、平成４年２月１日から施行する。

この学則は、平成４年４月１日から施行する。

この学則は、平成５年４月１日から施行する。ただし､平成５年３月３１日に在籍する者は、単位修得に関する改正規定にかかわらず、なお従前の規定を適用する。

附　則

この学則は、平成６年４月１日から施行する。

この学則は、平成７年４月１日から施行する。

この学則は、平成７年６月２０日から施行し、平成７年４月１日から適用する。

この学則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

この学則は、平成１０年４月１日から施行する。

この学則は、平成１１年４月１日から施行する。

この学則は、平成１２年３月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１４年６月１１日から施行し、平成１４年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１５年１０月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１８年３月３１日に在籍する者については、改正後の第２７条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成１８年１１月２１日から施行し、平成１８年１０月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　この学則による改正後の第２条、第３条、別表第１及び別表第２の規定は、この学則の施行日以後に第１年次に入学する者について、平成２０年４月１日から適用する。

３　前項の規定は、適用日以後に、第２年次に転科、編入学及び再入学した者について準用する。

４　施行日の前日までに入学した者及び適用日の前日において外国語外国文学科に在籍する者については、なお従前の規定により、外国語外国文学科は、当該学科に在籍する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則

この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、平成２１年５月１９日から施行し、平成２１年４月１日から適用する。

２　改正後の第２７条第４項の規定は、平成１５年４月１日以後に在籍する者（同日以後に在籍していた者を含む。）について適用し、平成１５年３月３１日以前に在籍しなくなった者については、同規定にかかわらず、なお従前の例（「秀、優、良、可、不可」の表記）による。

附　則

この学則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日に在籍する者ならびに平成２４年４月１日に２年次に編入学する者については、改正後の第２３条および第２７条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成２５年１月１５日）

この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則（平成２５年２月５日）

この学則は、平成２５年４月１日から施行する。

附　則（平成２５年４月９日）

1　この学則は、平成２６年４月１日から施行する。

2　前項による改正後の第２条、第３条及び別表第１の規定は、平成２６年４月１日以後に第１年次に入学する者について適用する。

3　前項の規定は、平成２７年４月１日以後に、次のとおり第２年次以上の年次に編入学又は再入学した者について準用する。

第２年次　平成２７年４月１日以後

第３年次　平成２８年４月１日以後

第４年次　平成２９年４月１日以後

4　平成２６年３月３１日において第１年次に在籍する者については、なお従前の規定による。

5　平成２６年３月３１日において歴史社会学科に在籍する者については、なお従前の規定による。平成２６年４月１日から募集を停止する歴史社会学科は、当該学科に在籍する者の卒業（退学を含む。）を待って廃止する。

6　平成２６年３月３１日において教育学科教育・心理学専攻に在籍する者については、なお従前の規定による。

7　改正後の第３条の規定にかかわらず、平成２６年度から平成２８年度までの各学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
英語英文学科	90	6	378	90	6	378	90	6	378
日本語日本文学科	45	6	198	45	6	198	45	6	198
哲学科	40	4	172	40	4	172	40	4	172
歴史社会学科	－	6	528	－	－	352	－	－	176
教育学科 教育・心理学専攻	－	8	279	－	－	186	－	－	93
教育学科 初等教育学専攻	40	－	100	40	－	120	40	－	140
教育学科 教育学専攻	25	－	25	25	4	54	25	4	83
史学科	55	－	55	55	2	112	55	2	169
人間関係学科	55	－	55	55	2	112	55	2	169
国際交流学科	60	－	60	60	2	122	60	2	184
心理学科	55	－	55	55	4	114	55	4	173
合　計	465	30	1905	465	30	1920	465	30	1935

別表第１

１．全学必修科目

授　業　科　目	単位	週時
キリスト教学Ⅰ－１	4	2
キリスト教学Ⅰ－２	4	2
キリスト教学Ⅰ－３	4	2
キリスト教学Ⅰ－４	4	2
キリスト教学Ⅰ－５	4	2
キリスト教学Ⅰ－６	4	2
キリスト教学Ⅰ－７	4	2
キリスト教学Ⅰ－８	4	2
キリスト教学Ⅰ－９	4	2
キリスト教学Ⅰ－１０	4	2
キリスト教学Ⅰ－１１	4	2
キリスト教学Ⅰ－１２	4	2
キリスト教学Ⅰ－１３	4	2
キリスト教学Ⅱ－１	4	2
キリスト教学Ⅱ－２	4	2
キリスト教学Ⅱ－３	4	2
キリスト教学Ⅱ－４	4	2
キリスト教学Ⅱ－５	4	2
キリスト教学Ⅱ－６	4	2
キリスト教学Ⅱ－７	4	2
キリスト教学Ⅱ－８	4	2
キリスト教学Ⅱ－９	4	2
キリスト教学Ⅱ－１０	4	2
キリスト教学Ⅱ－１１	4	2
キリスト教学Ⅱ－１２	4	2
キリスト教学Ⅱ－１３	4	2
キリスト教学Ⅱ－１４	4	2
キリスト教学Ⅱ－１５	4	2
キリスト教学Ⅱ－１６	4	2
１年英語	4	4
２年英語２(リーディング)	2	2
２年英語２(オラル)	2	2
２年英語１	2	2
２年英作文	2	2
１年フランス語(文法)	4	4
１年フランス語(オラル)	2	2
２年フランス語(講読)	2	2
２年フランス語(会話)	2	2
１年ドイツ語(文法)	4	4
１年ドイツ語(オラル)	2	2
２年ドイツ語(会話)	2	2
２年ドイツ語(講読)	2	2
１年スペイン語(文法)	4	4
１年スペイン語(オラル)	2	2
２年スペイン語	2	2
１年中国語(文法)	4	4
１年中国語(オラル)	2	2
２年中国語(講読)	2	2
２年中国語(会話)	2	2
１年コリア語(文法)	4	4
１年コリア語(オラル)	2	2
２年コリア語	2	2
１年日本語１	3	3
１年日本語２	3	3
２年日本語１	2	2
２年日本語２	2	2
上級日本語１－１	1	2
上級日本語１－２	1	2
日本事情１	2	2
日本事情２	2	2
体育運動学	2	2

２．基礎課程科目

授　業　科　目	単位	週時
基礎課程演習	2	2
人間関係入門	2	2
国際交流入門	2	2
心理学入門	2	2
英語の世界	2	2
アジア史入門	2	2

３．総合現代教養科目

授　業　科　目	単位	週時
女性とキャリア形成	2	2
国際平和と開発援助	2	2
地球化時代のＮＧＯ	2	2
人間の安全保障	2	2
憲法１	2	2
憲法２	2	2
憲法３	2	2
憲法４	2	2
情報活用演習	2	2
情報ネットワーク演習	2	2
自己を見つめる	2	2

ビートルズの詩と音楽	2	2
中国古典への招待	2	2
中国思想への招待	2	2
ボランティア共生学	2	2
現代社会と環境	2	2
現代の脳科学	2	2
脳科学の最前線	2	2
生命と人生の倫理	2	2
科学史１	2	2
科学史２	2	2
イスラム世界入門	2	2
イスラムの世界	2	2
アラビア語入門	4	2
アラビア語の世界	4	2
トルコ語の世界	4	2
イタリア語入門	4	2
イタリア語の世界	4	2
タイ語の世界	2	2
チェコ語の世界	4	2
社会福祉論	2	2
児童福祉論	2	2
日本の伝統文化	2	2
ポップカルチャーとジェンダー	2	2
ポップカルチャー	2	2
金融のしくみ	2	2
情報産業論	2	2
聖心スピリットと共生	2	2
健康な生活と健康科学	2	2
キャリアデザイン入門	2	2
災害と人間	2	2
現代を考える	2	2
運動学１	1	2
運動学２	1	2
運動学３	1	2
３・４年英語	2	2
ジェンダー学1	2	2
ジェンダー学２－１	2	2
ジェンダー学３－１	2	2
ジェンダー学４－１	2	2
ジェンダー学５－１	2	2
ジェンダー学５－２	2	2
ジェンダー学６－１	2	2
ジェンダー学６－２	2	2
ジェンダー学６－３	2	2
副専攻修了レポートＡ１	2	－
ボランティア研究概論１	2	2
ボランティア研究概論２	2	2
ボランティア研究演習１	2	2
ボランティア研究演習２	2	2

英語英文学科

授　業　科　目	単位	週時
英作文１	2	2
英文法２	2	2
コンピュータ・リテラシーⅠ	2	2
英文学史概説１	2	2
英文学史概説２	2	2
英語学入門	4	2
英語学概論	4	2
２年英文講義１－１	2	2
２年英文講義１－２	2	2
２年英文講義２－１	2	2
２年英文講義２－２	2	2
２年英文講義３－１	2	2
２年英文講義３－２	2	2
２年英文講義４－１	2	2
２年英文講義４－２	2	2
２年英文演習１	2	2
２年英文演習１－１	2	2
２年英文演習１－２	2	2
２年英文演習２－１	2	2
２年英文演習２－２	2	2
２年英文演習３－１	2	2
２年英文演習３－２	2	2
２年英文演習４－１	2	2
２年英文演習４－２	2	2
２年英文演習５－１	2	2
２年英文演習５－２	2	2
２年英文演習６－１	2	2
２年英文演習６－２	2	2
２年英文演習７	2	2
２年英文演習７－１	2	2
２年英文演習７－２	2	2
２年英文演習８－１	2	2
２年英文演習８－２	2	2
２年英文演習９－１	2	2
２年英文演習９－２	2	2
２年英文演習１０－１	2	2
２年英文演習１０－２	2	2

2年英文演習１１－１	2	2
2年英文演習１１－２	2	2
2年英文演習１２－１	2	2
2年英文演習１２－２	2	2
3年英語学演習１－１	2	2
3年英語学演習１－２	2	2
3年英語学演習２－１	2	2
3年英語学演習２－２	2	2
3年英語学演習３－１	2	2
3年英語学演習３－２	2	2
3年英米文学演習１－１	2	2
3年英米文学演習１－２	2	2
3年英米文学演習２－１	2	2
3年英米文学演習２－２	2	2
3年英米文学演習３－１	2	2
3年英米文学演習３－２	2	2
3年英米文学演習４－１	2	2
3年英米文学演習４－２	2	2
3年英米文学演習５－１	2	2
3年英米文学演習５－２	2	2
3年英米文学演習８－１	2	2
3年英米文学演習８－２	2	2
3年メディア・コミュニケーション演習１－１	2	2
3年メディア・コミュニケーション演習１－２	2	2
3年メディア・コミュニケーション演習２－１	2	2
3年メディア・コミュニケーション演習２－２	2	2
3年メディア・コミュニケーション演習３－１	2	2
3年メディア・コミュニケーション演習３－２	2	2
4年英語学演習１－１	2	2
4年英語学演習１－２	2	2
4年英語学演習２－１	2	2
4年英語学演習２－２	2	2
4年英語学演習３－１	2	2
4年英語学演習３－２	2	2
4年英米文学演習１－１	2	2
4年英米文学演習１－２	2	2
4年英米文学演習２－１	2	2
4年英米文学演習２－２	2	2
4年英米文学演習３－１	2	2
4年英米文学演習３－２	2	2
4年英米文学演習４－１	2	2
4年英米文学演習４－２	2	2
4年英米文学演習５－１	2	2
4年英米文学演習５－２	2	2
4年英米文学演習８－１	2	2

4年英米文学演習８－２	2	2
4年メディア・コミュニケーション演習１－１	2	2
4年メディア・コミュニケーション演習１－２	2	2
4年メディア・コミュニケーション演習２－１	2	2
4年メディア・コミュニケーション演習２－２	2	2
4年メディア・コミュニケーション演習３－１	2	2
4年メディア・コミュニケーション演習３－２	2	2
英語学特講１－１	2	2
英語学特講１－２	2	2
英語学特講２－１	2	2
英語学特講２－２	2	2
英語学特講３－１	2	2
英語学特講３－２	2	2
英語学特講４－１	2	2
英語学特講４－２	2	2
英語学特講５－１	2	2
英語学特講５－２	2	2
英語学特講６－１	2	2
英語学特講６－２	2	2
英米文学特講１	2	2
英米文学特講２－１	2	2
英米文学特講２－２	2	2
英米文学特講３－１	2	2
英米文学特講３－２	2	2
英米文学特講４－１	2	2
英米文学特講４－２	2	2
英米文学特講５－１	2	2
英米文学特講５－２	2	2
英米文学特講６－１	2	2
英米文学特講６－２	2	2
英米文学特講７－１	2	2
英米文学特講７－２	2	2
英米文学特講８－１	2	2
英米文学特講８－２	2	2
メディア・コミュニケーション特講１	2	2
メディア・コミュニケーション特講２	4	2
メディア・コミュニケーション特講３	4	2
メディア・コミュニケーション特講４	4	2
メディア・コミュニケーション特講５	4	2
メディア・コミュニケーション特講６	4	2
メディア・コミュニケーション特講７－２	2	2
メディア・コミュニケーション特講８－２	2	2
英語史	4	2
英文学入門	4	2
米文学史概説１	2	2

米文学史概説２	2	2
メディア・コミュニケーション入門１	2	2
メディア・コミュニケーション入門２	2	2
メディア・リテラシー	2	2
英語発音法	2	2
英会話	4	2
オラルコミュニケーション	4	2
英文法	2	2
英語文化論［英語と聖書］１	2	2
英語文化論［英語と聖書］２	2	2
英語文化論［児童英語］１	2	2
英語文化論［児童英語］２	2	2
英語文化論［児童文学］１	2	2
英語文化論［児童文学］２	2	2
英語文化論［映画批評］１	2	2
英語文化論［映画批評］２	2	2
英語文化論［アメリカ研究］１	2	2
英語文化論［アメリカ研究］２	2	2
英語文化論［文学と電子メディア］１	2	2
英語文化論［文学と電子メディア］２	2	2
英語文化論［翻訳実践］１	2	2
英語文化論［翻訳実践］２	2	2
異文化理解	2	2
米文学入門	4	2
マルチメディアと英語	4	2
メディア・ライティング	4	2
比較文化論	2	2
コンピュータ・リテラシーⅡ	2	2
英語学・英語教育学副専攻修了レポート	2	－
英米文学副専攻修了レポート	2	－
メディア・コミュニケーション副専攻修了レポート	2	－
卒業論文	8	－

日本語日本文学科

授　業　科　目	単位	週時
研究法実習Ⅰ	2	2
研究法実習Ⅱ	2	2
研究法実習Ⅳ	2	2
研究法実習Ⅳ	2	2
研究法実習Ⅴ	2	2
研究法実習Ⅵ	2	2
研究法実習Ⅶ	2	2
研究法実習Ⅷ	2	2
日本文学史Ⅰ	2	2
日本文学史Ⅱ	2	2
日本文学史Ⅲ	2	2
日本文学史Ⅳ	2	2
日本文学史Ⅴ	2	2
日本文学史Ⅵ	2	2
日本語学概論Ⅰ	2	2
日本語学概論Ⅱ	2	2
日本語史概説Ⅰ	2	2
日本語史概説Ⅱ	2	2
古典文学演習Ⅰ	4	2
古典文学演習Ⅱ	4	2
古典文学演習Ⅲ	4	2
古典文学演習Ⅳ	4	2
近代文学演習Ⅰ	4	2
近代文学演習Ⅱ	4	2
近代文学演習Ⅲ	4	2
近代文学演習Ⅳ	4	2
日本語学演習Ⅰ	4	2
日本語学演習Ⅱ	4	2
日本語学演習Ⅲ	4	2
日本語学演習Ⅳ	4	2
日本語学演習Ⅴ	4	2
古典文学研究Ⅰ	2	2
古典文学研究Ⅱ	2	2
古典文学研究Ⅲ	2	2
古典文学研究Ⅳ	2	2
古典文学研究Ⅴ	2	2
古典文学研究Ⅵ	2	2
古典文学研究Ⅶ	2	2
古典文学研究Ⅷ	2	2
近代文学研究Ⅰ	2	2
近代文学研究Ⅱ	2	2
近代文学研究Ⅲ	2	2
近代文学研究Ⅳ	2	2
近代文学研究Ⅴ	2	2
近代文学研究Ⅵ	2	2
近代文学研究Ⅶ	2	2

近代文学研究Ⅷ	2	2
児童文学研究Ⅰ	2	2
児童文学研究Ⅱ	2	2
日本語の文法Ⅰ	2	2
日本語の文法Ⅱ	2	2
日本語の音声Ⅰ	2	2
日本語の音声Ⅱ	2	2
日本語学研究Ⅰ	2	2
日本語学研究Ⅱ	2	2
日本語学研究Ⅲ	2	2
日本語学研究Ⅳ	2	2
古典文学講読Ⅰ	2	2
古典文学講読Ⅱ	2	2
日本語の世界	2	2
古典文学の世界	2	2
近代文学の世界	2	2
ことばの世界	2	2
文章表現法	4	2
言語学概論Ⅰ	2	2
言語学概論Ⅱ	2	2
対照言語学Ⅰ	2	2
対照言語学Ⅱ	2	2
日本語教授法Ⅰ	4	2
日本語教授法Ⅱ	4	2
日本語教育実習	2	2
日本語教育入門	2	2
日本文化研究Ⅰ	2	2
日本文化研究Ⅱ	2	2
日本文化研究Ⅲ	2	2
日本文化研究Ⅳ	2	2
文献情報処理入門	4	2
文芸創作入門	4	2
中国文学概論Ⅰ	2	2
中国文学概論Ⅱ	2	2
書道Ⅰ	2	2
書道Ⅱ	2	2
卒業論文	8	－

史学科

授　業　科　目	単位	週時
日本史史料論	4	2
日本史演習Ⅰ	4	2
日本史演習Ⅱ－１	4	2
日本史演習Ⅱ－２	4	2
日本史演習Ⅱ－３	4	2
日本史演習Ⅱ－４	4	2
日本史演習Ⅲ－１	4	2
日本史演習Ⅲ－２	4	2
日本史演習Ⅲ－３	4	2
日本史演習Ⅲ－４	4	2
世界史文献講読Ⅰ－１	2	2
世界史文献講読Ⅰ－２	2	2
世界史演習Ⅰ－１	2	2
世界史演習Ⅰ－２	2	2
世界史演習Ⅱ－１	4	2
世界史演習Ⅱ－２	4	2
世界史演習Ⅱ－３	4	2
世界史演習Ⅱ－４	4	2
世界史演習Ⅱ－５	4	2
世界史演習Ⅱ－６	4	2
世界史演習Ⅲ－１	4	2
世界史演習Ⅲ－２	4	2
世界史演習Ⅲ－３	4	2
世界史演習Ⅲ－４	4	2
世界史演習Ⅲ－５	4	2
世界史演習Ⅲ－６	4	2
古文献入門	4	2
国際関係史Ⅰ	4	2
国際関係史Ⅱ	4	2
世界音楽地誌	4	2
日本史概説Ⅰ	2	2
日本史概説Ⅱ	2	2
外国史概説Ⅰ－１	2	2
外国史概説Ⅰ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－１	2	2
外国史概説Ⅱ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－３	2	2
資料整理実習	2	2
史料講読Ⅰ	4	2
史料講読Ⅱ	4	2
日本考古学	4	2
日本民俗学	4	2
日本古代史Ⅰ	4	2

平成 26 年 4 月 1 日

日本中世史Ⅰ	4	2
日本近世史Ⅰ	4	2
日本近世史Ⅱ	4	2
日本近現代史Ⅰ	4	2
日本近現代史Ⅱ－１	2	2
日本近現代史Ⅱ－２	2	2
日本文化史Ⅰ	2	2
日本文化史Ⅱ	2	2
中国古代文化史	4	2
中国近代史	4	2
朝鮮現代史	4	2
東南アジア史	4	2
南アジア現代史	4	2
西アジア近代史	4	2
西アジア文化史	4	2
イスラム社会史入門	2	2
古代オリエント史	4	2
古代ローマ史	4	2
ヨーロッパ中世史Ⅰ	4	2
ヨーロッパ中世史Ⅱ	4	2
ヨーロッパ近代史Ⅰ	4	2
ヨーロッパ近代史Ⅱ	4	2
ヨーロッパ現代史Ⅰ	4	2
ヨーロッパ現代史Ⅱ	4	2
ロシア文化史	4	2
アメリカ史	4	2
ラテンアメリカ史	4	2
世界史文献講読Ⅱ－１	2	2
世界史文献講読Ⅱ－２	2	2
世界史文献講読Ⅲ－１	2	2
世界史文献講読Ⅲ－２	2	2
世界史文献講読Ⅳ－１	2	2
世界史文献講読Ⅳ－２	2	2
世界史文献講読Ⅴ－１	2	2
世界史文献講読Ⅴ－２	2	2
世界史文献講読Ⅵ－１	2	2
世界史文献講読Ⅵ－２	2	2
人文地理学１	2	2
人文地理学２	2	2
地誌学１	2	2
地誌学２	2	2
自然地理学１	2	2
自然地理学２	2	2
法律学［含国際法］	4	2
政治学概論［含国際政治］１	4	2
政治学概論［含国際政治］２	4	2
取引関係法	4	2
国際法１	2	2
国際法２	2	2
現代家族法	4	2
社会学	4	2
経済学概論[含国際経済]	4	2
哲学概論Ⅰ	2	2
哲学概論Ⅱ	2	2
哲学概論Ⅲ	2	2
哲学概論Ⅳ	2	2
倫理学概論Ⅰ	2	2
倫理学概論Ⅱ	2	2
倫理学概論Ⅲ	2	2
倫理学概論Ⅳ	2	2
卒業論文	8	－

人間関係学科

授　業　科　目	単位	週時
対人社会心理学１	2	2
マスコミ社会心理学１	2	2
人格心理学１	2	2
家族社会学１	2	2
職業社会学１	2	2
文化人類学１	2	2
社会調査入門	2	2
比較文化宗教学１	2	2
人間関係共通演習	2	2
対人社会心理学演習１	4	2
マスコミ社会心理学演習１	4	2
人格心理学演習１	4	2
家族社会学演習１	4	2
職業社会学演習１	4	2
文化人類学演習１	4	2
比較文化学演習１	4	2
対人社会心理学演習２	4	2
マスコミ社会心理学演習２	4	2
人格心理学演習２	4	2
家族社会学演習２	4	2
職業社会学演習２	4	2
文化人類学演習２	4	2
比較文化学演習２	4	2
社会心理学特講１	2	2
社会心理学特講２	2	2

社会心理学特講４	2	2
社会心理学特講６	2	2
社会心理学特講９	2	2
社会心理学特講１１	2	2
社会心理学特講１４	2	2
社会心理学特講１５	2	2
文化人類学特講４	2	2
文化人類学特講６	2	2
文化人類学特講７	2	2
文化人類学特講１０	2	2
文化人類学特講１１	2	2
文化人類学特講１２	2	2
人文地理学１	2	2
人文地理学２	2	2
自然地理学１	2	2
自然地理学２	2	2
地誌学１	2	2
地誌学２	2	2
マス・コミュニケーション論	2	2
社会学	4	2
家族社会学２	2	2
職業社会学２	2	2
キャリア形成の社会学	2	2
社会学特講１	2	2
社会学特講２	2	2
社会学特講３	2	2
社会学特講４	2	2
交流分析概論	2	2
人格発達心理学	2	2
人格心理学特講１	2	2
人格心理学特講４	2	2
人格臨床心理学特講２	2	2
人格臨床心理学特講４	2	2
比較文化宗教学２	2	2
比較文化学特講	4	2
比較文化学特講１	2	2
比較文化学特講２	2	2
比較文化学特講３	2	2
比較文化学特講４	2	2
比較文化学特講５	2	2
比較文化学１	2	2
比較文化学２	2	2
人間関係副専攻演習１	2	2
社会調査の技法１	2	2
社会調査の技法２	2	2

データ分析の基礎	2	2
社会統計学	2	2
多変量解析法	2	2
質的調査法１	2	2
質的調査法２	2	2
社会調査実習１	4	2
社会調査実習２	4	2
社会調査実習３	4	2
経済学概論［含国際経済］	4	2
国際経済学１	2	2
国際経済学２	2	2
開発経済学	4	2
哲学概論Ⅰ	2	2
哲学概論Ⅱ	2	2
哲学概論Ⅲ	2	2
哲学概論Ⅳ	2	2
倫理学概論Ⅰ	2	2
倫理学概論Ⅱ	2	2
倫理学概論Ⅲ	2	2
倫理学概論Ⅳ	2	2
日本倫理思想史Ⅰ	2	2
日本倫理思想史Ⅱ	2	2
キリスト教学概論Ⅰ	2	2
キリスト教学概論Ⅱ	2	2
宗教思想史Ⅰ	2	2
宗教思想史Ⅱ	2	2
日本史概説Ⅰ	2	2
日本史概説Ⅱ	2	2
外国史概説Ⅰ－１	2	2
外国史概説Ⅰ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－１	2	2
外国史概説Ⅱ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－３	2	2
法律学［含国際法］	4	2
政治学概論［含国際政治］１	4	2
政治学概論［含国際政治］２	4	2
卒業論文	8	－

国際交流学科

授　業　科　目	単位	週時
国際交流概論	4	2
英語コミュニケーションⅠ（１）	2	2
英語コミュニケーションⅠ（２）	2	2
英語コミュニケーションⅡ（１）	2	2

英語コミュニケーションⅡ(2)	2	2
フランス語コミュニケーションⅠ(1)	2	2
フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2	2
フランス語コミュニケーションⅡ(1)	2	2
フランス語コミュニケーションⅡ(2)	2	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ(1)	2	2
ドイツ語コミュニケーションⅠ(2)	2	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ(1)	2	2
ドイツ語コミュニケーションⅡ(2)	2	2
スペイン語コミュニケーションⅠ(1)	2	2
スペイン語コミュニケーションⅠ(2)	2	2
スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	2	2
スペイン語コミュニケーションⅡ(2)	2	2
中国語コミュニケーションⅠ(1)	2	2
中国語コミュニケーションⅠ(2)	2	2
中国語コミュニケーションⅡ(1)	2	2
中国語コミュニケーションⅡ(2)	2	2
コリア語コミュニケーションⅠ(1)	2	2
コリア語コミュニケーションⅠ(2)	2	2
コリア語コミュニケーションⅡ(1)	2	2
コリア語コミュニケーションⅡ(2)	2	2
法学演習Ⅰ(1)	2	2
法学演習Ⅰ(2)	2	2
国際政治演習Ⅰ(1)	2	2
国際政治演習Ⅰ(2)	2	2
国際経済演習Ⅰ(1)	2	2
国際経済演習Ⅰ(2)	2	2
情報科学演習Ⅰ(1)	2	2
情報科学演習Ⅰ(2)	2	2
異文化間コミュニケーション演習Ⅰ(1)	2	2
異文化間コミュニケーション演習Ⅰ(2)	2	2
フランス社会文化演習Ⅰ(1)	2	2
フランス社会文化演習Ⅰ(2)	2	2
ドイツ社会文化演習Ⅰ(1)	2	2
ドイツ社会文化演習Ⅰ(2)	2	2
中国社会文化演習Ⅰ(1)	2	2
中国社会文化演習Ⅰ(2)	2	2
日欧比較思想演習Ⅰ(1)	2	2
日欧比較思想演習Ⅰ(2)	2	2
法学演習Ⅱ(1)	2	2
法学演習Ⅱ(2)	2	2
国際政治演習Ⅱ(1)	2	2
国際政治演習Ⅱ(2)	2	2
国際経済演習Ⅱ(1)	2	2
国際経済演習Ⅱ(2)	2	2

情報科学演習Ⅱ(1)	2	2
情報科学演習Ⅱ(2)	2	2
異文化間コミュニケーション演習Ⅱ(1)	2	2
異文化間コミュニケーション演習Ⅱ(2)	2	2
フランス社会文化演習Ⅱ(1)	2	2
フランス社会文化演習Ⅱ(2)	2	2
ドイツ社会文化演習Ⅱ(1)	2	2
ドイツ社会文化演習Ⅱ(2)	2	2
中国社会文化演習Ⅱ(1)	2	2
中国社会文化演習Ⅱ(2)	2	2
日欧比較思想演習Ⅱ(1)	2	2
日欧比較思想演習Ⅱ(2)	2	2
法律学［含国際法］	4	2
現代家族法	4	2
国際法１	2	2
国際法２	2	2
取引関係法	4	2
政治学概論［含国際政治］１	4	2
政治学概論［含国際政治］２	4	2
国際交流特殊講義	2	2
現代国際政治Ⅰ	4	2
現代国際政治Ⅴ	2	2
行政学	4	2
国際連合論	2	2
アメリカ外交論	4	2
経済学概論［含国際経済］	4	2
経済理論入門	4	2
国際経済学１	2	2
国際経済学２	2	2
開発経済学	4	2
情報処理入門	4	2
プログラム入門	4	2
コンピュータサイエンス	4	2
応用情報処理	4	2
国際コミュニケーション論	4	2
異文化間コミュニケーション(1)	2	2
異文化間コミュニケーション(2)	2	2
国際交流実習１	2	2
フランスの社会と文化(1)	2	2
フランスの社会と文化(2)	2	2
ドイツの社会と文化(1)	2	2
ドイツの社会と文化(2)	2	2
東アジアの社会と文化(1)	2	2
ドイツ事情(1)	2	2
ドイツ事情(2)	2	2

フランス事情(1)	2	2
フランス事情(2)	2	2
中国事情(1)	2	2
Contemporary American Culture(1)	2	2
Contemporary American Culture(2)	2	2
日欧思想交渉史入門(1)	2	2
アジア文化論	2	2
社会学	4	2
文化人類学特講１０	2	2
文化人類学特講１１	2	2
文化人類学１	2	2
家族社会学１	2	2
家族社会学２	2	2
哲学概論Ⅰ	2	2
哲学概論Ⅱ	2	2
哲学概論Ⅲ	2	2
哲学概論Ⅳ	2	2
倫理学概論Ⅰ	2	2
倫理学概論Ⅱ	2	2
倫理学概論Ⅲ	2	4
倫理学概論Ⅳ	2	4
日本倫理思想史Ⅰ	2	2
日本倫理思想史Ⅱ	2	2
キリスト教学概論Ⅰ	2	2
キリスト教学概論Ⅱ	2	2
宗教思想史Ⅰ	2	2
宗教思想史Ⅱ	2	2
日本史概説Ⅰ	2	2
日本史概説Ⅱ	2	2
外国史概説Ⅰ－１	2	2
外国史概説Ⅰ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－１	2	2
外国史概説Ⅱ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－３	2	2
人文地理学１	2	2
人文地理学２	2	2
地誌学１	2	2
地誌学２	2	2
自然地理学１	2	2
自然地理学２	2	2
卒業論文	8	－

哲学科

授　業　科　目	単位	週時
哲学入門Ⅰ	2	2
哲学入門Ⅱ	2	2
哲学演習Ⅰ	4	2
哲学演習Ⅱ	4	2
哲学演習Ⅲ	4	2
哲学演習Ⅳ	4	2
哲学演習Ⅴ－１	2	2
哲学演習Ⅴ－２	2	2
哲学演習Ⅵ－１	2	2
哲学演習Ⅵ－２	2	2
哲学演習Ⅶ－１	2	2
哲学演習Ⅶ－２	2	2
倫理学演習Ⅰ	4	2
倫理学演習Ⅱ	4	2
倫理学演習Ⅲ	4	2
哲学史演習Ⅰ	4	2
哲学史演習Ⅱ	4	2
哲学史演習Ⅲ	4	2
日本思想史学演習Ⅰ	4	2
日本思想史学演習Ⅱ	4	2
美学・芸術学演習Ⅰ	4	2
美学・芸術学演習Ⅱ	4	2
美学・芸術学演習Ⅲ	4	2
美学・芸術学演習Ⅳ	4	2
キリスト教学演習Ⅰ	4	2
キリスト教学演習Ⅱ	4	2
キリスト教学演習Ⅲ	4	2
キリスト教学演習Ⅳ	4	2
日本美術史演習	4	2
西洋美術史演習	4	2
東洋美術史演習	4	2
哲学特殊演習Ⅰ	2	2
哲学特殊演習Ⅱ	2	2
哲学特殊演習Ⅲ	2	2
哲学特殊演習Ⅳ	2	2
哲学特殊演習Ⅴ	2	2
哲学特殊演習Ⅵ	2	2
哲学特殊演習Ⅶ	2	2
哲学概論Ⅰ	2	2
哲学概論Ⅱ	2	2
哲学概論Ⅲ	2	2
哲学概論Ⅳ	2	2
倫理学概論Ⅰ	2	2
倫理学概論Ⅱ	2	2
倫理学概論Ⅲ	2	2

倫理学概論Ⅳ	2	2
美学・芸術学概論Ⅰ	2	2
美学・芸術学概論Ⅱ	2	2
キリスト教学概論Ⅰ	2	2
キリスト教学概論Ⅱ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅰ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅱ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅲ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅳ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅴ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅵ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅶ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅷ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅸ	2	2
哲学・倫理学特講Ⅹ	2	2
哲学・倫理学特講ⅩⅠ	2	2
哲学・倫理学特講ⅩⅡ	2	2
美学・芸術学特講Ⅰ	2	2
美学・芸術学特講Ⅱ	2	2
美学・芸術学特講Ⅲ	2	2
美学・芸術学特講Ⅳ	2	2
美学・芸術学特講Ⅴ	2	2
美学・芸術学特講Ⅵ	2	2
美学・芸術学特講Ⅶ	2	2
美学・芸術学特講Ⅷ	2	2
美学・芸術学特講Ⅸ	2	2
美学・芸術学特講Ⅹ	2	2
キリスト教学特講Ⅰ	4	2
キリスト教学特講Ⅱ	4	2
キリスト教学特講Ⅲ	4	2
キリスト教学特講Ⅳ	4	2
キリスト教学特講Ⅴ	4	2
論理学	4	2
存在論	4	2
認識論Ⅰ	2	2
認識論Ⅱ	2	2
西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2	2
西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2	2
西洋近代哲学史	4	2
西洋近代哲学史Ⅰ	2	2
西洋近代哲学史Ⅱ	2	2
日本倫理思想史Ⅰ	2	2
日本倫理思想史Ⅱ	2	2
社会思想史Ⅰ	2	2
社会思想史Ⅱ	2	2

宗教思想史Ⅰ	2	2
宗教思想史Ⅱ	2	2
日本美術史Ⅰ	2	2
日本美術史Ⅱ	2	2
西洋美術史Ⅰ	2	2
西洋美術史Ⅱ	2	2
東洋美術史Ⅰ	2	2
東洋美術史Ⅱ	2	2
キリスト教思想史Ⅰ	2	2
キリスト教思想史Ⅱ	2	2
キリスト教倫理学	4	2
キリスト教美術	4	2
キリスト教音楽	4	2
キリスト教文学	4	2
旧約聖書学Ⅰ	2	2
旧約聖書学Ⅱ	2	2
聖書学講読Ⅰ	4	2
聖書学講読Ⅱ	4	2
ギリシア語Ⅰ	4	2
ギリシア語Ⅱ	4	2
ラテン語Ⅰ	4	2
ラテン語Ⅱ	4	2
宗教心理学	4	2
世界音楽地誌	4	2
中国古代文化史	4	2
西アジア文化史	4	2
古代ギリシャ史	4	2
日本史概説Ⅰ	2	2
日本史概説Ⅱ	2	2
外国史概説Ⅰ	2	2
外国史概説Ⅰ－1	2	2
外国史概説Ⅰ－2	2	2
外国史概説Ⅱ	2	2
外国史概説Ⅱ－1	2	2
外国史概説Ⅱ－2	2	2
外国史概説Ⅱ－3	2	2
人文地理学1	2	2
人文地理学2	2	2
自然地理学1	2	2
自然地理学2	2	2
地誌学1	2	2
地誌学2	2	2
社会学	4	2
法律学［含国際法］	4	2
政治学概論［含国際政治］1	4	2

政治学概論［含国際政治］２	4	2
経済学概論［含国際経済］	4	2
卒業論文	8	－

教育学科　教育学専攻

授　業　科　目	単位	週時
教育学概論	4	2
教育学演習２－１	2	2
教育学演習２－２	2	2
教育学演習２－３	2	2
教育学演習２－４	2	2
教育学演習２－５	2	2
教育学演習２－６	2	2
教育学演習２－７	2	2
教育学演習２－８	2	2
教育学演習２－９	2	2
教育学演習２－１０	2	2
教育学演習２－１１	2	2
教育学演習２－１２	2	2
教育学演習２－１３	2	2
教育学演習２－１４	2	2
教育学演習２－１７	2	2
教育学演習２－１９	2	2
教育学演習２－２０	2	2
教育学演習３	4	2
教育学演習１	4	2
教育情報基礎演習１	2	2
教育情報基礎演習２	2	2
教育哲学１	2	2
教育哲学２	2	2
教育哲学特講	4	2
西洋教育史２	2	2
日本教育史１	2	2
日本教育史２	2	2
日本教育史特講	4	2
西洋教育運動史	2	2
教育行政学２	2	2
教育社会学概論１	2	2
教育社会学概論２	2	2
比較教育学	4	2
比較教育学特講	2	2
生涯学習概論	2	2
教育心理学	2	2
教育課程方法論	2	2
教育方法	2	2
教育調査	2	2
人間学習原論	2	2
人間学習１	2	2
人間学習２	2	2
人間学習３	2	2
人間学習４	2	2
人間学習５	2	2
人間学習６	2	2
人間学習７	2	2
人間学習８	2	2
人間学習９	2	2
人間学習１０	2	2
人間学習１１	2	2
人間学習１２	2	2
人間学習原論［総合演習］	2	2
人間学習１［総合演習］	2	2
人間学習２［総合演習］	2	2
人間学習３［総合演習］	2	2
人間学習４［総合演習］	2	2
人間学習５［総合演習］	2	2
人間学習６［総合演習］	2	2
人間学習７［総合演習］	2	2
人間学習８［総合演習］	2	2
人間学習９［総合演習］	2	2
人間学習１０［総合演習］	2	2
人間学習１１［総合演習］	2	2
人間学習１２［総合演習］	2	2
教育メディア論	2	2
教育情報学	2	2
メディア教材開発	2	2
教育工学	2	2
マルチメディア活用演習１	2	2
マルチメディア活用演習２	2	2
教育学特講１	4	2
教育学特講２	2	2
教育学特講３	2	2
教育学特講４	2	2
教育学特講５	2	2
教育学特講６	2	2
教育学特講７	2	2
教育学特講８	2	2
教育学特講９	2	2
教育学特講１０	2	2
体育学特講	2	2

教育相談	2	2
道徳教育の研究	2	2
特別活動	2	2
生徒指導［含進路指導］	2	2
教育学入門	2	2
障害者教育・福祉概論	2	2
視聴覚教育１	2	2
視聴覚教育２	2	2
教育音楽地誌	2	2
健康社会学	2	2
自主プロジェクト研究(My プロジェクト)	4	2
日本史概説Ⅰ	2	2
日本史概説Ⅱ	2	2
外国史概説Ⅰ－１	2	2
外国史概説Ⅰ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－１	2	2
外国史概説Ⅱ－２	2	2
外国史概説Ⅱ－３	2	2
人文地理学１	2	2
人文地理学２	2	2
地誌学１	2	2
地誌学２	2	2
自然地理学１	2	2
自然地理学２	2	2
社会学	4	2
経済学概論[含国際経済]	4	2
法律学[含国際法]	4	2
政治学概論[含国際政治]１	4	2
政治学概論[含国際政治]２	4	2
卒業論文	8	－

教育学科　初等教育学専攻

授　業　科　目	単位	週時
教育学概論	4	2
幼児教育原論	2	2
教育学演習３	4	2
教育学演習２－１	2	2
教育学演習２－２	2	2
教育学演習２－３	2	2
教育学演習２－４	2	2
教育学演習２－５	2	2
教育学演習２－６	2	2
教育学演習２－７	2	2
教育学演習２－８	2	2
教育学演習２－９	2	2
教育学演習２－１０	2	2
教育学演習２－１１	2	2
教育学演習２－１２	2	2
教育学演習２－１３	2	2
教育学演習２－１４	2	2
教育学演習２－１７	2	2
教育学演習２－１９	2	2
教育学演習２－２０	2	2
特別活動	2	2
道徳教育の研究	2	2
教育相談	2	2
生徒指導［含進路指導］	2	2
教職入門	2	2
教育実習指導１	1	2
教育実習指導２	1	2
教育実習指導３	1	2
教育実習指導４	1	2
教育実習指導５	1	2
教育実習指導６	1	2
教育実習１	2	－
教育実習２	2	－
教育実習３	2	－
教育実習４	2	－
教職実践演習（幼稚園・小学校）	2	2
国語科教育法［小学校］	2	2
社会科教育法［小学校］	2	2
算数科教育法	2	2
理科教育法	2	2
生活科教育法	2	2
音楽科教育法	2	2
図画工作科教育法	2	2
家庭科教育法	2	2
体育科教育法	2	2
保育内容研究［健康］	2	2
保育内容研究［人間関係］	2	2
保育内容研究［環境］	2	2
保育内容研究［言葉］	2	2
保育内容研究［表現］１	2	2
保育内容研究［表現］２	2	2
幼児音楽１	2	2
幼児音楽２	2	2
国語概論［含書写］	2	2
日本語学概論Ⅰ	2	2
日本語学概論Ⅱ	2	2

書道Ⅰ	2	2
書道Ⅱ	2	2
社会科概論	2	2
数学概論	2	2
理科概論	2	2
生活科概論	2	2
音楽概論１	2	2
音楽概論２	2	2
造形概論	2	2
家政学概論	2	2
体育概論	2	2
教育哲学１	2	2
教育哲学２	2	2
日本教育史１	2	2
日本教育史２	2	2
西洋教育史２	2	2
西洋教育運動史	2	2
教育原理	2	2
教育行政学２	2	2
教育社会学概論１	2	2
教育社会学概論２	2	2
教育経営	2	2
教育課程方法論	2	2
教育課程論	2	2
幼児教育課程論	2	2
教育心理学	2	2
幼児理解［含教育相談］	2	2
保育方法論	4	2
保育方法論１	2	2
保育方法論２	2	2
教育方法	2	2
教育メディア論	2	2
教育工学	2	2
教育情報学	2	2
メディア教材開発	2	2
人間学習原論	2	2
人間学習１	2	2
人間学習２	2	2
人間学習３	2	2
人間学習４	2	2
人間学習５	2	2
人間学習６	2	2
人間学習７	2	2
人間学習８	2	2
人間学習９	2	2
人間学習１０	2	2
人間学習１１	2	2
人間学習１２	2	2
人間学習原論［総合演習］	2	2
人間学習１［総合演習］	2	2
人間学習２［総合演習］	2	2
人間学習３［総合演習］	2	2
人間学習４［総合演習］	2	2
人間学習５［総合演習］	2	2
人間学習６［総合演習］	2	2
人間学習７［総合演習］	2	2
人間学習８［総合演習］	2	2
人間学習９［総合演習］	2	2
人間学習１０［総合演習］	2	2
人間学習１１［総合演習］	2	2
人間学習１２［総合演習］	2	2
教育学演習１	4	2
教育情報基礎演習１	2	2
教育情報基礎演習２	2	2
生涯学習概論	2	2
比較教育学	4	2
比較教育学特講	2	2
教育調査	2	2
視聴覚教育１	2	2
視聴覚教育２	2	2
マルチメディア活用演習１	2	2
マルチメディア活用演習２	2	2
卒業論文	8	－

心理学科

授　業　科　目	単位	週時
心理学実験演習１	4	2
心理統計法Ⅰ	2	2
心理学概論	4	2
基礎情報処理技法	2	2
３年心理学演習	4	2
実験心理学演習	4	2
発達心理学演習	4	2
発達臨床心理学演習	4	2
計量心理学特講１	2	2
計量心理学特講２	2	2
計量心理学特講３	2	2
心理学研究法１	2	2
心理学研究法２	2	2

心理統計法Ⅱ	2	2
心理学史	2	2
心理学実験演習２	2	2
心理学実験演習３	2	2
心理学演習１	2	2
心理学演習２	2	2
認知心理学特講１	2	2
認知心理学特講２	2	2
認知心理学特講３	2	2
認知心理学特講４	2	2
認知心理学特講５	2	2
認知心理学特講６	2	2
認知心理学特講７	2	2
認知心理学特講８	2	2
発達心理学特講１	2	2
発達心理学特講３	2	2
発達心理学特講６	2	2
発達心理学特講７	2	2
発達心理学特講８	2	2
臨床心理学特講１	2	2
臨床心理学特講２	2	2
臨床心理学特講３	2	2
臨床心理学特講４	2	2
臨床心理学特講５	2	2
臨床心理学特講６	2	2
臨床心理学特講７	2	2
臨床心理学特講８	2	2
発達心理学１	2	2
発達心理学２	2	2
社会学	4	2
経済学概論[含国際経済]	4	2
健康社会学	2	2
哲学概論Ⅰ	2	2
哲学概論Ⅱ	2	2
哲学概論Ⅲ	2	2
哲学概論Ⅳ	2	2
倫理学概論Ⅰ	2	2
倫理学概論Ⅱ	2	2
倫理学概論Ⅲ	2	2
倫理学概論Ⅳ	2	2
キリスト教学概論Ⅰ	2	2
キリスト教学概論Ⅱ	2	2
宗教思想史Ⅰ	2	2
宗教思想史Ⅱ	2	2
卒業論文	8	－

教職課程

授業科目	単位	週時
教職入門	2	2
教育原理	2	2
教育哲学１	2	2
教育哲学２	2	2
教育心理学	2	2
発達心理学１	2	2
発達心理学２	2	2
教育経営	2	2
教育行政学２	2	2
教育社会学概論１	2	2
教育社会学概論２	2	2
比較教育学	4	2
教育課程論	2	2
教育課程方法論	2	2
道徳教育の研究	2	2
特別活動	2	2
教育学概論	4	2
教育方法	2	2
教育メディア論	2	2
教育情報学	2	2
メディア教材開発	2	2
生徒指導［含進路指導］	2	2
教育相談	2	2
日本教育史１	2	2
日本教育史２	2	2
西洋教育史２	2	2
西洋教育運動史	2	2
教育工学	2	2
国語科教育法１	4	2
国語科教育法２	2	2
国語科教育法３	2	2
社会科教育法１	2	2
社会科教育法２	2	2
社会・地理歴史科教育法１	2	2
社会・地理歴史科教育法２	2	2
社会・公民科教育法１	2	2
社会・公民科教育法２	2	2
宗教科教育法１	4	2
宗教科教育法２	2	2
宗教科教育法３	2	2
英語科教育法１	4	2

英語科教育法2	2	2
英語科教育法3	2	2
国語科教育法［小学校］	2	2
社会科教育法［小学校］	2	2
生活科教育法	2	2
算数科教育法	2	2
理科教育法	2	2
音楽科教育法	2	2
図画工作科教育法	2	2
家庭科教育法	2	2
体育科教育法	2	2
幼児教育原論	2	2
幼児教育課程論	2	2
保育内容研究［健康］	2	2
保育内容研究［人間関係］	2	2
保育内容研究［環境］	2	2
保育内容研究［言葉］	2	2
保育内容研究［表現］１	2	2
保育内容研究［表現］２	2	2
保育方法論	4	2
保育方法論1	2	2
保育方法論2	2	2
幼児理解［含教育相談］	2	2
人間学習原論［総合演習］	2	2
人間学習１［総合演習］	2	2
人間学習２［総合演習］	2	2
人間学習３［総合演習］	2	2
人間学習４［総合演習］	2	2
人間学習５［総合演習］	2	2
人間学習６［総合演習］	2	2
人間学習７［総合演習］	2	2
人間学習８［総合演習］	2	2
人間学習９［総合演習］	2	2
人間学習１０［総合演習］	2	2
人間学習１１［総合演習］	2	2
人間学習１２［総合演習］	2	2
教育実習指導1	1	2
教育実習指導2	1	2
教育実習指導3	1	2
教育実習指導4	1	2
教育実習指導5	1	2
教育実習指導6	1	2
教育実習1	2	－
教育実習2	2	－
教育実習3	2	－
教育実習4	2	－

教職実践演習（中学・高校）	2	2
教職実践演習（幼稚園・小学校）	2	2

博物館学芸員課程

授　業　科　目	単位	週時
博物館概論	2	2
博物館学各論1	4	2
博物館学各論2	4	2
博物館情報・メディア論	2	2
博物館教育論	2	2
博物館実習	3	2
生涯学習概論	2	2

別表第２

本学において取得できる教員免許状の種類と教科 ※

学校種別	免許教科	一、二種の別	学　　科
高等学校	英　　語	一種免許状	英語英文学科
	国　　語	一種免許状	日本語日本文学科
	地理歴史	一種免許状	史学科／哲学科
	公　　民	一種免許状	哲学科／教育学科（教育学専攻）／心理学科
	宗　　教	一種免許状	哲学科
中 学 校	英　　語	一種免許状	英語英文学科
		二種免許状	
	国　　語	一種免許状	日本語日本文学科
		二種免許状	
	社　　会	一種免許状	哲学科
		二種免許状	
	宗　　教	一種免許状	哲学科
		二種免許状	
小 学 校	一　種　免　許　状		教育学科（初等教育学専攻）
	二　種　免　許　状		
幼 稚 園	一　種　免　許　状		教育学科（初等教育学専攻）
	二　種　免　許　状		

※認可申請中（平成２５年５月書類提出）

別表第３

学部学生納付金額　　[単位：円]

区　　分	１　年　次	２　年　次	３　年　次	４　年　次
入　学　金	350,000	-----	-----	-----
授　業　料	650,000	650,000	650,000	650,000
施設設備費	265,000	200,000	200,000	200,000
諸　　費	90,000	90,000	90,000	90,000
特　別　費	30,000	30,000	30,000	30,000
計	1,385,000	970,000	970,000	970,000

聖心女子大学教授会規程

第１条　聖心女子大学学則に定める教授会の運営は、本規程によって行う。

第２条　教授会は、学長、副学長、専任の教授、准教授及び講師をもって組織する。

第３条　教授会は学長が招集し、その議長となる。

２　学長に支障があるときは、あらかじめ学長が指名した代理者がこれに当たる。

第４条　学長は、次の場合教授会を招集する。

⑴ 月１回（定例）

⑵ 学長が必要と認めるとき

⑶ 教授会構成員の３分の１以上から要求のあるとき

第５条　教授会は、その構成員の４分の３以上の出席をもって成立する。

２　前項の定足数の算定には、研修年適用者及び休職者を加えない。

第６条　教授会は次の事項を審議する。

⑴ 教育、研究及び授業に関する事項

⑵ 教育課程に関する事項

⑶ 学生の入学、編入学、転入学、再入学、学士入学、休学、復学、留学、転学、及び退学に関する事項

⑷ 科目等履修生、研究生及び外国人留学生に関する事項

⑸ 学生の単位認定及び卒業に関する事項

⑹ 学生の賞罰に関する事項

⑺ 学生の厚生補導に関する事項

⑻ 教員の人事に関する事項

⑼ 学則その他諸規則に関する事項

⑽ 学長の諮問する事項

⑾ その他教授会の必要と認める事項

２　前項第８号に掲げる事項については、学長は別に定める資格審査委員会の答申に基づき、教授会の議を経てこれを決定する。

第７条　教授会の審議において議決を必要とするときは、出席者の過半数の賛成をもってする。ただし、学則、教授会規程の改正、その他教授会が特に重要事項として指定した事項については、出席者の３分の２以上の賛成をもってする。学長は教授会の議決に基づいてこれを決定する。

第８条　教授会の事務は、事務局企画部が所管し、議事録の作成及び保管に当たる。

第９条　教授会の諮問事項及び教授会への提案事項等を審議するために、各種委員会を置く。

２　各種委員会については、別に定める。

第１０条　学長は必要に応じ、教授会構成員以外の事務職員を教授会に出席させることができる。

附　則

１　この規程は、平成１８年４月１日から施行する。

２　この規程の制定により、聖心女子大学教授会運営規則は廃止する。

附　則

この規程は、平成１８年１１月１４日から施行し、平成１８年１０月１日に遡って適用する。

附　則

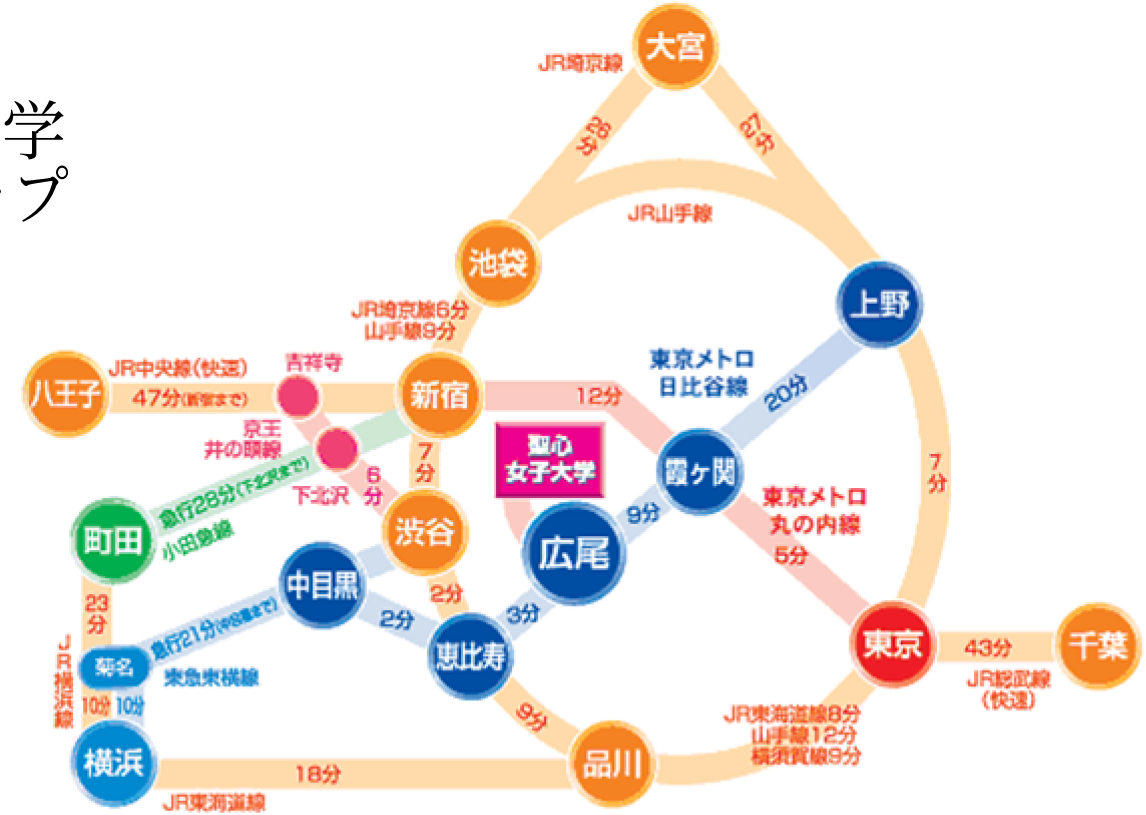
この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成２１年４月１日から施行する。

都道府県内における位置関係の図面

聖心女子大学
アクセスマップ



所要時間等は目安です。実際にご来学の節は、ご自分で各交通機関にお問い合わせください。

■東京メトロ日比谷線「広尾駅」
(2番「天現寺橋(聖心女子大学)方面」出口)下車
広尾商店街(散歩通り)を通り 約3分

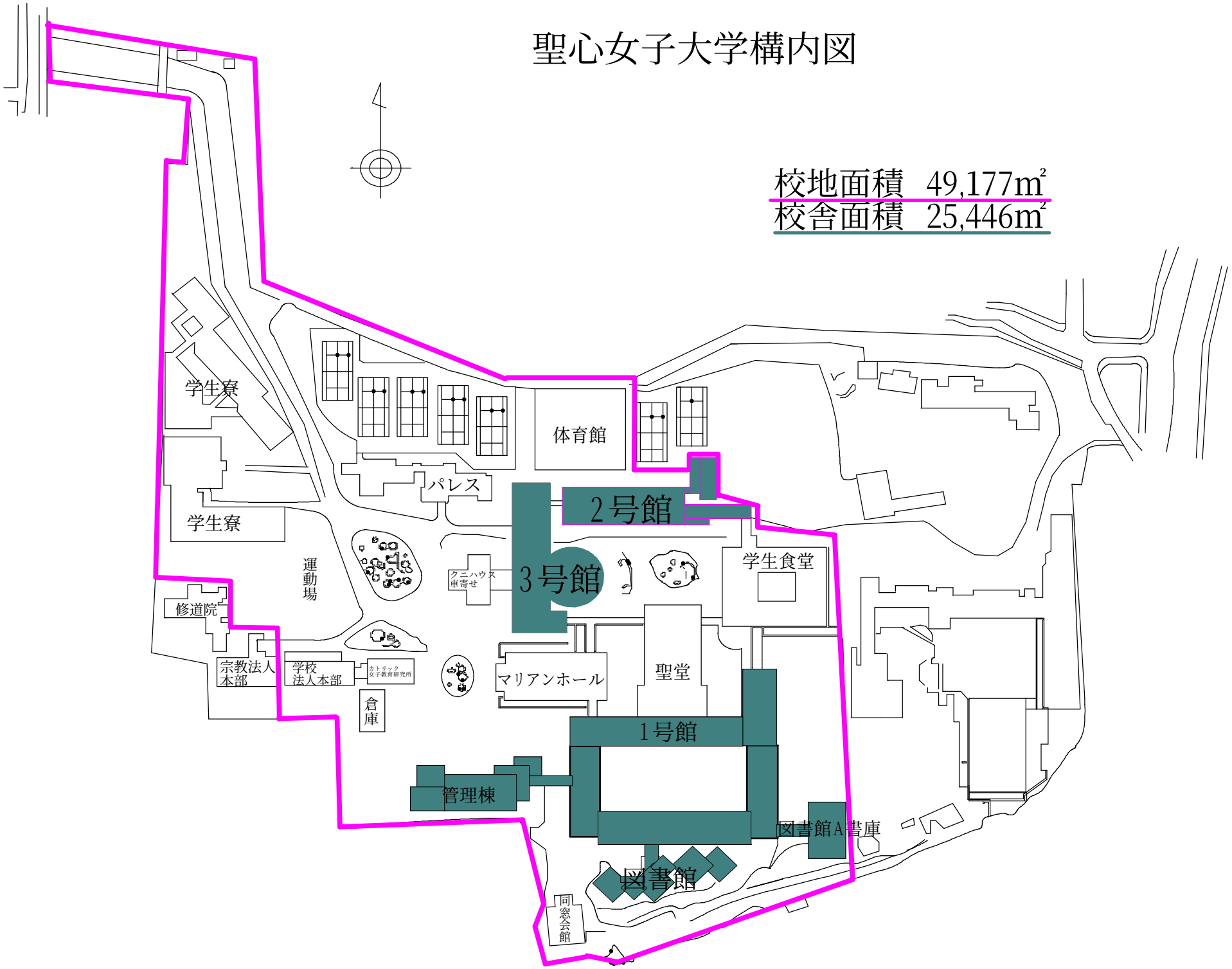
■JR渋谷駅東口または恵比寿駅より都バス
「日赤医療センター前」行 終点「日赤医療センター前」下車 約3分

■JR品川駅より都バス「新宿駅西口」行
「広尾橋」下車 約4分

■JR目黒駅より都バス「千駄ヶ谷駅」、「新橋駅」行
「広尾橋」下車 約4分

聖心女子大学構内図

校地面積　49,177㎡
校舎面積　25,446㎡



設置の趣旨等を記載した書類(学科新設)

ア　設置の趣旨及び必要性

（1）大学全体の理念と目的

聖心女子大学の母体となった聖心女子学院は、19 世紀初頭のフランスで、聖マグダレナ・ソフィア・バラという修道女によって創立された。その教育理念は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心(みこころ)に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」というものであり、これは全世界の聖心姉妹校に共有されている。

聖心女子大学では、この理念をもとに、「知性を磨く」、「使命感を自覚する」、「発信力、実践力を高める」という 3 つの教育目標を定め、これらの資質を持つ人材の養成を目指している。

これらの教育目標を実現するため、各学科専攻での専門的教育はもとより、キリスト教に関する教育、国際性を身につけるための外国語教育に加え、幅広い教養と自由で柔軟な思考力を育てるリベラルアーツ教育にも大きな力を注いでいる。

（2）沿革と現在の教育組織

聖心女子大学は、昭和 23 年(1948)4 月、文学部のもとに、外国語外国文学科(現英語英文学科)、国語国文学科(現日本語日本文学科)、歴史社会学科、哲学科の４学科を置いて発足した。その後、昭和 26 年(1951)4 月、教育学科が新設され、さらに昭和 32 年(1957)4 月、初等教育学専攻の設置によって、教育学科は同専攻と教育・心理学専攻とに分けられた。

また昭和 47 年(1972)4 月、歴史社会学科が史学コース(「専攻」＊)と人間関係コース(「専攻」＊)に分けられ、平成 5 年(1993)には、一般教養課程の一部を統合して、歴史社会学科のなかに国際交流コース(「専攻」＊)が置かれた。

＊　史学・人間関係・国際交流の各コースは、現行の学則に明記されていない学科内の組織であるが、後述するように、実態としては学科とほぼ同等の独自の教育課程を持っているので、これらのコースについても、以下カギ付きの「専攻」と表記する。

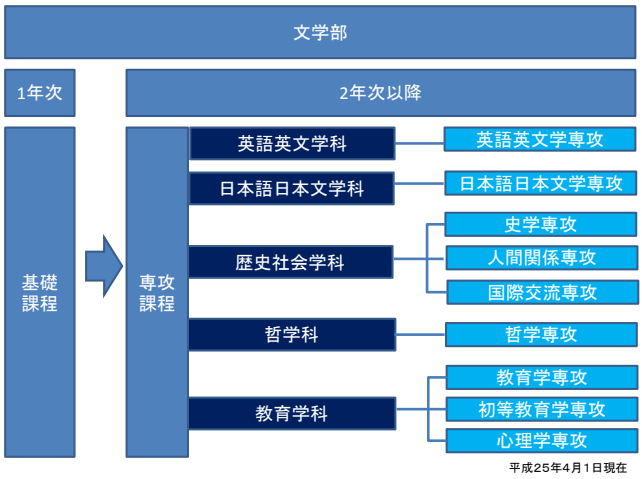
以上のような変遷を経て、現在聖心女子大学は５学科９「専攻」の教育組織を持つにいたっている。

また本学では開学以来、学生は学科「専攻」を決めずに入学し、２年次または３年次になって各学科「専攻」の所属を決定する教育課程を採用してきた。現在では１年次を基礎課程とし、大学での学修の基礎を学ぶと同時に、各自の関心や適性をみきわめるための期間と位置づけている。

そのうえで学生は、２年次に各学科「専攻」に分かれた専攻課程に進むのであるが、専攻課程における所属は、学科ではなく「専攻」としている。したがって歴史社会学科の場合には、史学・人間関係・国際交流の各「専攻」が、それぞれ別個にカリキュラムを立てて学生の教育にあたっている。また教育学科では、教育・心理学専攻をさらに教育学コース(「専攻」)と心理学コース(「専攻」)に分けて、初等教育学専攻を加えた３「専攻」の形

で２年次生を受け入れ、教育課程については、共通性の多い教育学コース(「専攻」)と初等教育学専攻が一体となって運営している。

このように、現在聖心女子大学文学部では、基礎課程の上に、５学科９「専攻」(うち教育学と初等教育学は一体的に運営されている)の教育組織を持ち、学生の教育にあたっている。



（３）学科新設の趣旨及び必要性

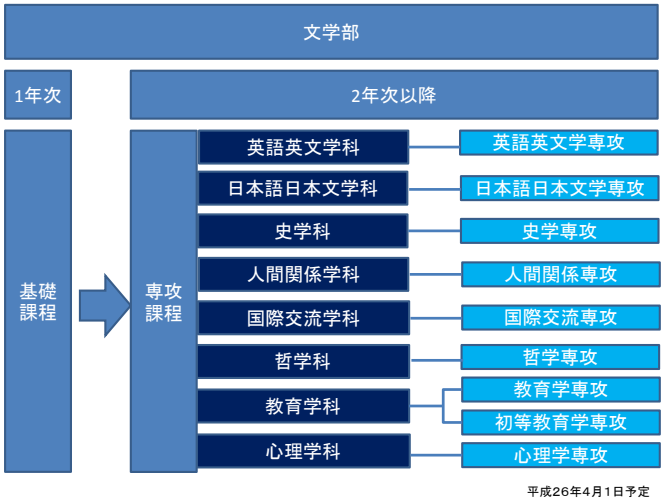
上記のような現在の教育組織のありかたは、一方では教育研究上、有効な面を持っている。例えば、複数の「専攻」を置いている学科では、学生の志望動向や、社会の状況に応じて、「専攻」ごとの教員数や学生数を柔軟に変更できる点などであり、実際に、これまで何度かにわたって見直しを行ってきた。

しかし他方で、前項に記したように、同一学科内の各「専攻」は、大学全体の教育理念を共有しながらも、それぞれ独自の教育課程を設けており、史学「専攻」は 65 年、人間関係「専攻」は 41 年、国際交流「専攻」は 20 年、心理学「専攻」は 56 年にわたってその専門性を維持しつつ、学生を社会に送り出してきた。すなわち現在の歴史社会学科・教育学科内の各「専攻」は、実質的には英語英文学科・日本語日本文学科・哲学科と同等の教育組織として機能しているのである。にもかかわらず、とくに本学の教育内容を外部に説明する場合などには、学部学科単位での説明を強いられる場合も多く、その多様性がわかりにくくなるという問題があることも否定できない。本学では、毎年 5 月、新入学生を対象にアンケート調査を行っており、そのなかの「本学を受験した理由」「本学に入学を決めた理由」では、ともに「就職状況がよい」「入学後に専攻が選べる」とならんで、「学びたい学科専攻がある」が上位を占めている。このアンケート結果によれば、受験生には本学で学ぶことができる学問内容が、一定程度認識されていると評価することもできる。しかしこのような自分の学びたい学問内容から大学を選択するという受験生の志向に充分応えていくためには、とくに学科のなかに置かれた「専攻」を、学則上の組織である学科とすることによって、本学における多様な学問分野を、より簡潔、明瞭な形で示す必要があると考えるのである。

また、現在の教育組織においても、学位については、「専攻」ごとに「学士(史学)」「学士(人間関係)」「学士(国際交流)」(以上、歴史社会学科)、「学士(教育学)」「学士(初等教育学)」

「学士(心理学)」(以上、教育学科)を授与している。さらに大学院修士課程・博士前期課程については、学部の人間関係専攻・国際交流専攻と大学院文学研究科社会文化専攻とが対応しているが、学部の史学専攻は文学研究科史学専攻、学部の教育学・初等教育学コースは文学研究科人間科学専攻の「教育研究」領域、心理学コースは「視聴覚情報研究」「発達心理学研究」「臨床心理学研究」の各領域に対応している。すなわち大学院の構成も基本的には学部の「専攻」を基礎としたものとなっており、また教員も、学部の「専攻」の教育にあたる教員が、これに対応する大学院の担当教員を兼務する体制となっているのである。

そこで今回、現歴史社会学科の３「専攻」を、史学科・人間関係学科・国際交流学科の３学科に分け、教育学科から心理学科を独立させることより、大学全体としての教育内容と人材養成の方針を、より明確な形で示すとともに、授与する学位や大学院の構成との整合性を図ることとしたい。あらためて新たな教育組織を図示すると、以下の通りである。



同時に、本学の重要な特徴のひとつであるリベラルアーツ教育を一層充実させるため、学科横断型の副次的カリキュラムの充実をはかる。これは各学科における、特定の学問分野を対象とした、卒業論文を到達目標とする専門的教育と並行して、研究対象への幅広く多様なアプローチの方法を身につけ、また現代社会の複雑かつ多様な問題について考える力を伸ばすことを目的とするものである。なお、この副次的カリキュラムについては、「オ」で具体的に述べる。

（４）新設する学科が養成する人材像と教育研究上の目的

新設する各学科が研究対象とする中心的な学問分野、及び養成する人材像と、教育研究上の目的は以下の通りである。

〈史学科〉

中心的学問分野：歴史学

単に過去の時代に何が起こったかを理解しているだけではなく、「歴史的なものの考え方」、すなわちさまざまな事象とそれら相互の関係を、時間軸に沿って考える力を身につけた人材を養成する。そのため、自分自身の周辺で、あるいは広く現代社会において生じるさまざまな問題を、過去の経験に照らして正確に分析し、それに対する適切な解決策を提

示する能力を習得させることを目的とする。卒業後の進路としては、中等教員、博物館・美術館の学芸員、編集者、研究者などの歴史に関する専門的知識が必要とされる分野のみならず、一般企業に進む場合でも、「歴史的なものの考え方」を活かした活躍を期待する。

〈人間関係学科〉

中心的学問分野：比較文化学・文化人類学・社会心理学・社会学・人格心理学

現代社会に生きる人間を対象として、個人の心理的問題から、文化・社会に関わるマクロな問題にいたるまでを、学際的かつ実証的に理解し、それに基づいた自らの考えを積極的に表現できる人材を養成する。そのため、人間や社会に関わるテーマについて、複眼的な視点からそれらの多様で複雑な側面を深く理解する能力を習得させるとともに、情報収集と客観的分析のための学問的方法論を身につけさせることを目的とする。卒業後は、社会の各方面で、人間のあり方や社会・文化に対して批判的な問題意識を持ち、自発的に未知の情報やデータを掘り起こして、自らの考えを自らの言葉で表現できる力を活かした活躍を期待する。

〈国際交流学科〉

中心的学問分野：言語コミュニケーション・国際文化論・国際政治学

社会の変化に適切に対応できる見識と、幅広い国際的視野を備え、文化間の相互理解や交流に貢献できる人材を養成する。そのため、多様な文化に関する深い学問的知識と高い言語コミュニケーション能力を習得させるとともに、広く国際問題を理解するための政治・経済・法律に関する知識や情報処理能力を身につけさせることを目的とする。卒業後は、本学科で習得した各分野の専門的知識とコミュニケーション能力を活かして、国際的な機関や企業、情報産業、マスコミ関係、文化交流事業などの各分野での活躍を期待する。

〈心理学科〉

中心的学問分野：心理学

人間の心理とその発達、それにともなう行動を科学的・実証的に理解し、国際化や高度情報化のなかで、多種多様な情報を的確に分析し、表現できる人材を養成する。そのため、人間の心理機能の基礎的な知識、人間の心理と行動の多様な測定方法、測定によって得られた行動データの多面的な分析方法、科学論文の作成技能とプレゼンテーション技能を習得させることを目的とする。卒業後は、大学院に進学して臨床心理士の資格を取得し、カウンセラーとしての活躍が期待されるほか、習得した知識・技能を活かして、公務員、教育・保育関係の機関などでの活躍を期待する。

イ　学生確保の見通しと社会的な人材需要

（1）入学定員設定の考え方とその根拠となる学生確保の見通し

現行の入学定員・収容定員と、平成 26 年度から実施を計画している新学科組織での入学定員・収容定員との関係は、資料 1 の通りである。なお、初等教育学専攻の収容定員増については、別途認可申請を行う。

まず大学全体の入学定員に対する学生確保の見通しについて、資料 2「平成 21～25 年度入試状況」を参照しながら述べる。この表から明らかなように、本学の志願者総数は、平

成 23 年度入試を底として、この 3 年間は微増傾向にあるものの、依然として厳しい状況が続いているといわざるを得ない。しかし学力試験を課す一般入試全体の倍率は 2.4 倍前後を堅持しており、一般入試の中でもっとも志願者数の多い 3 教科入試においても、その傾向は同様である。

これら一般入試のうち、2 月中旬に行う総合小論文方式入試は、平成 24 年度までのプレゼンテーション方式入試のあり方を見直し、25 年度から新規に採用したもので、直前のプレゼンテーション方式入試に対して、2 倍以上の志願者を得ることができた。また、学生募集に大きな影響力を及ぼすオープンキャンパスについては、入試委員会での検討を重ねた結果、平成 24 年度から開催回数・プログラム内容ともに大幅に強化し、その結果、『大学ランキング 2013 年版』(朝日新聞出版)によれば、オープンキャンパス参加者の入学定員を基準とした倍率は、6.67 人となり、756 大学中 101 位にランクされた(同書 77 頁)。

このほか、姉妹校各校(同一学校法人に属する札幌聖心女子学院高等学校(北海道)・聖心女子学院高等科(東京都)・不二聖心女子学院高等学校(静岡県)・小林聖心女子学院高等学校(兵庫県))での大学説明会や模擬授業の開催、教職員による指定校を中心とした高校訪問、在学生による出身高校訪問など、さまざまな機会を捉えて、本学の教育の特徴を高等学校の生徒や教員に説明している。前掲の『大学ランキング 2013 年度版』で、女子大学に対する「高校からの評価」が 14 位の評価を得ているのも(同書 117 頁)、さまざまな要因はあるだろうが、オープンキャンパスの強化や高校訪問の取組などと無関係ではないだろう。

したがって、本学としては、別途申請の収容定員増(入学定員の 15 名増)を含めても、オープンキャンパスをはじめとする学生募集活動の強化を続けることによって、一般入試における倍率 2 倍以上の選抜は、充分行えると考える。

次に新設各学科の入学定員については、歴史社会学科と教育学科で、現在学内的に割り当てている人数とした。この人数は、現在の各専攻の専任教員数とともに、これまで何度かの見直し、変更を加えてきたものであり、直近では平成 13 年度に現在の数字を定めた。資料 3 は、過去 5 年間の新設各学科の母体となる各「専攻」への 2 年次進学者数の推移である。本学では、1 年次の後期、9 月末から 12 月はじめにかけて、各学科「専攻」の説明会、1 年次生への進路志望動向調査、各学科「専攻」における面接などを行い、2 年次の進路を決定している。その結果、新設各学科の母体となる各「専攻」への 2 年次進学者数は、平成 24 年度に史学「専攻」への進学者が入学定員を若干下回ったものの、それ以外については、いずれも入学定員の 1.2 倍前後で推移している。これは学生の志望状況を考慮しながら、学科内での各「専攻」の定員の割当を何度かにわたって見直してきた結果であり、各「専攻」が学科となっても、当面は大きな変化はみられないと予測するものである。

編入学については、過去 5 年間の編入学入試の状況を示した資料 4 を参照されたい。現在本学全体での編入学定員は 30 名、学科別では英語英文学科・日本語日本文学科・歴史社会学科各 6 名、哲学科 4 名、教育学科 8 名である。過去 5 年間の推移をみると、全体で合格者数の合計は 112 名、年平均では 22 名強となり、残念ながら編入学定員の 70%強の入学率にとどまっている。これは、本学では教育課程の編成上、一般学生が基礎課程から各学科「専攻」に進学する 2 年次への編入を行っている点に最大の理由があると考えている。したがって、大学全体としては、すでに平成 23 年度から推薦編入学の人数枠を緩和するな

どの改善策を講じているが、今後も、編入年次や編入学定員の再検討を行っていかなければならないと考える。

ただし、今回新設を申請する母体となっている歴史社会学科と教育学科についてみると、前者は編入学定員を上回る合格者数を出し、後者においても 80%を超える合格者数を得ている。そこで今回の学科新設にあたっては、旧歴史社会学科の編入学定員 6 名を、新設 3 学科に 2 名ずつ振り分け、教育学科から独立する心理学科についても、旧教育学科の編入学定員 8 名の半分である 4 名の編入学定員を設けることとした。

（2）社会的な人材需要

まず大学全体の状況を説明する。資料 5-1 は、平成 23 年度・平成 24 年度の本学卒業予定者の就職内定率(3 月 31 日現在)を、文部科学省・厚生労働省調査の数値(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/03/__icsFiles/afieldfile/2013/03/15/1332006_1.pdf)と比較したものである。文部科学省・厚生労働省調査は 2 月 1 日現在、本学の調査は 3 月 31 日現在であるから、本学の数値が非常に高くなるのは当然であるが、文部科学省・厚生労働省調査の前年度卒業学生の就職率(平成 24 年 4 月 1 日)と比較しても、全大学・全私立大学の数値よりは若干低いが、全私立大学女子の数値よりはやや上回っている。平成 24 年度も、文部科学省・厚生労働省調査の 2 月 1 日現在の数値との比較から、ほぼ同程度の実績が予想されるところである。

次に新設を予定している学科についてみていく。資料 5-2 は、文部科学省の「学校基本調査」における就職率(就職者÷卒業者)と進学率(進学者÷卒業者)に対して、新設学科の母体となる本学歴史社会学科と教育学科の就職率・進学率の状況を示したものである。本学歴史社会学科は、「学校基本調査」では社会科学系に分類されているが、その社会科学系、人文科学系のどちらと比較しても就職率は大幅に上回っており、進学率についても社会科学系と比較すると高率となっている。一方、教育学科については、就職率において「学校基本調査」教育系をわずかに下回る。しかし、心理学「専攻」についてみると、進学率が平成 22 年度は 14.8%、23 年度は 28.1%と教育系の進学率を大幅に上回っており、これが教育学科全体の就職率をやや引き下げたとみることができる。

なお、平成 23 年度に卒業した本学学生の、学科「専攻」別就職先は、資料 6(聖心女子大学ガイドブック 2013)にある通りであり、この資料にもあるように、単に就職率だけでなく、満足度も大変高いのが特徴である。

以上のように、本学全体としてみても、新設を予定している学科の母体となる学科をみても、本学が養成した人材に対して、これまで十分な需要があったことは明らかである。

このような高い人材需要を、学科新設後も維持し、さらには発展させていく方策として、教育課程内ではキャリア教育の充実、教育課程外では学生のキャリア形成、進路決定を支援する組織であるキャリアセンターを中心とするさまざまな取組を強化していく必要があるが、これについては「ヌ　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制」で具体的に述べる。

このような高い人材需要を、学科新設後も維持し、さらには発展させていく方策として、正課教育の面では、単に卒業後の進路、就職という課題にとどまらず、生涯を通じたキャ

リア形成、キャリアデザインに対する学生の理解を深めるため、現在でも開講している「女性とキャリア形成」「キャリアデザイン入門」に加えて、オで述べる副次的カリキュラムのなかに、キャリア形成に関するプログラムを設置する。

一方、正課外教育の面では、これも従来からキャリアセンターが、学生の進路決定についてさまざまな支援を行っているが、今後もキャリアカウンセリングや各種ワークショップをはじめとしたプログラムの充実につとめ、小規模大学の特徴をいかしたきめ細かな支援体制の充実をはかる。

ウ　学部、学科等の特色

聖心女子大学は、創立当初から、各学科専攻での専門的教育と、幅広いリベラルアーツ教育とを、教育課程のなかで両立させるようつとめてきた。したがって、「わが国の高等教育の将来像」(平成 17 年中央教育審議会答申)に掲げられた「高等教育の多様な機能」のうち、④総合的教養教育が本学のもっとも基本的な役割である。また冒頭に記した３つの教育目標のうち、「使命感を自覚する」、「発信力、実践力を高める」は、獲得した教養を自己の内にとどめるのではなく、広く社会に向けて発信し、役立てていくことを目指すものであり、③幅広い職業人養成、⑦社会貢献機能もあわせて担っている。このことをふまえ、新設学科の特色を以下に述べる。

〈史学科〉

史学科は、日本史コースと世界史コースの２つのコースに分かれ、それぞれ日本と世界のさまざまな事象を歴史的に、すなわち時間軸に沿って考えていく力を学生に習得させることを目標とする。

両コースともに、身につけるべき能力として重視するのは、一次資料(史料)を直接読み解き、これを批判し、分析する力である。インターネットの普及等により、二次的、三次的情報が氾濫しているなかで、それらを安易に利用するのではなく、一次的資料に依拠する姿勢を持つことは、歴史学に限らず、現代社会を生き抜くために重要である。

日本史コースでは、専門教育が始まる２年次に、「日本史史料論」を必修科目として置き、日本史史料の概要を把握させ、２～４年次の演習科目でも、必ず史料の講読を行う。また「史料講読Ⅰ」「史料講読Ⅱ」はおもに近世の原史料を、写真版などを用いて読解するもので、自由選択科目ではあるが、日本史コース在籍者には、とくに「史料講読Ⅰ」については必ず履修するよう指導する。このようにして、一次資料の読解力を身につけることにより、４年次には史料をもとにした歴史的事象の復元と、事象間の相互関係の検討を基礎とした卒業論文を執筆することになる。

世界史コースでは、学士課程では外国の一次資料(古文書等)そのものの読解まではむつかしいが、外国語で書かれた研究文献については、原語で読む力を習得させるようつとめる。日本史コースと同様、２～４年次の演習科目で、外国語文献を材料とした演習を展開するほか、２年次の「世界史文献講読Ⅰ」を必修科目とし、このほか「世界史文献講読Ⅱ」以下を選択科目として置いて、英語・フランス語・ドイツ語・中国語の文献の読解力を高め、これを基礎に、世界的な研究動向を視野に入れた卒業論文の執筆を指導する。

また、日本史コース・世界史コースのいずれにおいても、特定の地域・時代に偏ることなく、幅広くさまざまな地域・時代の歴史を学ぶことができる教育課程を設け、さらには「日本民俗学」「日本考古学」などの授業科目も開設して、学問的な方法という面でも、多様な視点を持てるように配慮する。

以上を通じて、史学科の学生は、一次資料に依拠した本格的な歴史研究の方法を習得すると同時に、さまざまな地域・時代の歴史をさまざまな視点によって学び、幅広い歴史的な知識・教養を身につけることとなる。その結果、一部では大学院に進学して研究を深め、研究者をめざす卒業生も現れると思われるが、大半の卒業生は、歴史的なものの考え方と一次資料に依拠する姿勢を持ち、幅広い歴史的知識・教養を身につけた社会人としての活躍が期待される。

〈人間関係学科〉

人間関係学科では、現代の人間と、人間が形作る社会・文化を対象として、それらを幅広い視野から複眼的に理解する力と、そのための調査研究の方法を学生に習得させることを目標とする。このような目標を達成するための本学科のキーワードは、「学際性」と「フットワーク」である。

前者については、専門教育が始まる 2 年次に「人間関係共通演習」で、これまでに提出された代表的な卒業論文を材料として、各学問領域の視点や方法論の基礎を学ぶとともに、比較文化学・社会人類学・社会心理学・社会学・人格心理学という５つの学問領域の概論的授業を必修科目として履修し、人間と社会を学際的、総合的に理解する視点を身につけることになる。3 年次以降も、学生は各自の関心にしたがって、複数の領域の専門的な授業を受講するよう指導する。

後者については、2 年次に「社会調査入門」を必修科目とし、各学問領域における調査方法の基礎を学び、そのうえで 3 年次以降、インタビュー・フィールドワークなど、生きた社会を理解するための実践的調査方法を習得し、その結果を実証的・客観的に分析する力も養うことになる。なお、これらは単に講義形式の授業で学ぶだけでなく、演習・実習形式の授業によって、学生自身が調査とその結果の分析を実践する機会を設けることにも配慮する。さらに本学科では、卒業までに「社会調査士」資格を取得できるカリキュラムを備えており、科学的な社会調査を担うに足る本格的な知識・技術の習得も充分可能である。

以上を通じて、人間関係学科の学生は、現代社会が抱えている諸問題を、学際的かつ幅広い視野から認識し、これを実践的な調査研究方法によって解決していく能力を身につけることとなる。その結果、「社会調査士」の資格を持った卒業生は、調査の専門家として企業や自治体などで重要な役割を担っていくものと考えるが、それ以外の卒業生も、本学科で培った「学際性」豊かな教養と、「フットワーク」に富んだ調査・分析の能力を活かして、社会の各方面での活躍が期待される。

〈国際交流学科〉

国際交流学科は、高い言語コミュニケーション能力を基礎として、多様な文化に対する理解を深め、同時に現在の複雑な国際問題を、政治・法律・経済・文化などのさまざまな側面から幅広く捉え、これらを解決していくための国際交流、国際協力に貢献できる力を養うことを目標とする。

言語コミュニケーションについては、2・3 年次の 2 年間にわたって、英語ともう 1 つの外国語(フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・コリア語のいずれか)の言語コミュニケーション科目を必修科目として、能力の向上をめざす。これらの科目では、いわゆる語学の授業とは異なり、外国語を学ぶというよりは、外国語でさまざまな知識を身につけたり、ディスカッションやプレゼンテーションを行う力を高めたりすることに重点が置かれる。

一方、国際問題や異文化に対する理解については、2 年次に「国際交流概論」を必修科目として、国際文化・国際政治・国際関係法・国際経済・情報科学などの多様な分野の基礎を学ぶが、単なる講義科目ではなく、年度ごとに国際的なテーマを決めて、学生が調査、研究、発表する「国際交流カップ」が組み込み、学生の自発性や発信力を高めることを促す。3 年次以後も、上記諸領域の講義科目を幅広く履修させるが、そのなかには英語による講義も含まれる。さらに任意の領域の演習を必修科目として、より専門的な知識と、それを踏まえた発信する力の習得をはかり、4 年次の卒業論文につなげていく。

また本学科では、外交・国際交流などの諸分野で活躍している方々を外部から招いて講演会を催し、同時に学生自身の海外留学も積極的に奨励する。

以上を通じて、国際交流学科の学生は、高い言語コミュニケーション能力を基礎とした、国際問題についての知識・教養と、異文化に対する深い理解を身につけることとなる。その結果、卒業後は政治・経済・文化交流などの各方面で国際的に活躍することが期待される。

〈心理学科〉

心理学科では、人間の心理に関わる基礎的な知識を習得したうえで、心理と行動の客観的な測定方法、測定結果の科学的な分析方法、分析をもとにした科学論文の作成やプレゼンテーションの力を学生に身につけさせることを目標とする。

心理に関わる基礎的な知識については、2 年次の必修科目「心理学概論」によって、知覚・認知心理学、発達心理学、臨床心理学の 3 領域に関する基本的知見を学ぶこととする。

心理学的な測定・分析の技法については、やはりおもに 2 年次生を対象とした「心理学実験演習」「心理統計法」「基礎情報処理技法」などの科目を用意し、その基礎を学ぶ。このうち「心理学実験演習」は、履修学生に実験を行う者と被験者の双方を体験させること、卒業生をインストラクターとしてきめ細かな指導を行うこと、グループごとに事件内容をコンピュータで分析し、これを発表して討論を行うことなど、本学科での調査研究の特色を、早期に学生に浸透させる意図を持つ。

これらの基礎の上に立って、学生は 3 年次以降、各自の関心にしたがって、上記 3 領域のいずれかの演習に所属し、より深く心理学の最先端を学んでいく。そして 4 年次では、演習の担当教員の指導の下で、実験や調査を自らの手で計画、実施し、これまで学んできた知識や技法を活かした卒業論文を執筆する。また本学科では、心理学の専門家として仕事をしていくための基本的知識を身につけたことを証する、社団法人日本心理学会認定の「認定心理士」資格を取得できるカリキュラムを備える。

以上を通じて、心理学科の学生は、人間の心理とその発達、それにともなう行動を科学的・実証的に理解し、国際化や高度情報化のなかで、多種多様な情報を的確に分析し、表

現できる力を身につけることとなる。その結果、卒業後は心理学の専門的知識と調査研究の技法を活かして、官公庁・教育・保育などの現場での活躍が期待されるほか、一部は大学院に進学して臨床心理士の資格を取得し、カウンセラーとして活躍する者の輩出も期待できる。

エ　学部、学科等の名称及び学位の名称

今回新設を予定している 4 学科の名称と英文表記、及び学位の名称は、下記の通りである。

学科名称	英文表記	授与する学位
史学科	Department of History	学士(史学)
人間関係学科	Department of Human Relations	学士(人間関係)
国際交流学科	Department of International Studies	学士(国際交流)
心理学科	Department of Psychology	学士(心理学)

以上のように、学科名称と授与する学位は、これまで歴史社会学科、教育学科で学内的に置かれていた「専攻」の名称と、各「専攻」で授与していた学位の名称を踏襲する。

このうち、史学科と心理学科については、ア（4）に記した中心的学問分野を、そのまま学科と学位の名称とするものである。

人間関係学科は、ア（4）及びウに記したように、現代の人間と、人間が形作る社会・文化を多面的、複眼的に調査研究するという目的を持つ。中心的学問分野のなかには、個々の人間そのものを主たる対象とするもの(人格心理学)も含まれるが、大半は人間を相互の関係性において捉えることを主眼とするものである。このような学科の特色を総体的に示すために、「人間関係(Human Relations)」という学科名称は適切なものだと考える。

国際交流学科については、ア（4）及びウに記したように、高い言語コミュニケーション能力を身につけたうえで、多様な国際問題を理解するために、国際文化・国際政治・国際関係法・国際経済・情報科学などの学問分野を幅広く学び、国際社会での交流・協力に貢献できる人材を養成するという目的を持つ。そのような本学科の目的を端的に示す名称として「国際交流学科」は適切なものだと考える。

オ　教育課程の編成の考え方及び特色

（1）科目区分の設定と卒業要件

まず、本学における科目区分と卒業要件について説明する。本学における卒業要件とその科目区分は、文学部で統一され、新設学科を含む 8 学科の必要単位数の内訳は、下表の通りである。

科目区分		必要単位数	
分野	系列		
全学必修分野	キリスト教学Ⅰ	4	
	キリスト教学Ⅱ	4	
	第一外国語	8	
	第二外国語	8	
	体育運動学	2	
専攻分野	専攻科目	60	98
関連分野	総合現代教養科目 基礎課程科目 専攻科目　他	26	
卒業論文		8	
計		132	

なお、「専攻分野」「関連分野」をあわせて 98 単位というのは、「専攻分野」60 単位、「関連分野」26 単位を満たし、さらに「専攻分野」と「関連分野」の合計が 98 単位以上になるように、「専攻分野」または「関連分野」から 12 単位以上を修得するということである。また、教育学科初等教育学専攻については、小学校又は幼稚園教諭免許状取得を卒業要件とすることから、「専攻分野」84 単位、「関連分野」14 単位を卒業要件とする。

次に各科目区分の内容と設定の趣旨について説明する。

5 つの系列から構成される「全学必修分野」は、全学生が本学の教育理念を理解し、在学中および卒業後を通じて身につけるべき教養の基礎を修得させるものである。

「キリスト教学」は、本学の教育の基盤であるキリスト教の価値観について、多面的・多角的な視点で学ぶものである。このうち 1・2 年次に配当される「キリスト教学Ⅰ」は、おもにキリスト教の教えと聖書全体の理解をめざし、3・4 年次に配当される「キリスト教学Ⅱ」は、キリスト教をめぐる文化、社会、歴史、思想等の多様なテーマを掘り下げる。これらを通じて、キリスト教の価値観に基づき、世界と人間に対する深い洞察力と心の豊かさを涵養する。

「第一外国語」「第二外国語」は、国際化の時代にふさわしい語学力、コミュニケーション能力を身につけるために置かれる。同時に、その修得によって、諸外国の文化的背景を学び、国際的視野を広げ、また専攻課程での学修研究活動の基礎を身につけることも目的とする。「第一外国語」(英語)、「第二外国語」(フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・コリア語から選択、外国人留学生は日本語を選択)ともに、1・2 年次に配当され、「読む」「書く」「聞く」「話す」力が段階的かつバランスよく身につくように、授業科目を設定する。

「体育運動学」は 1 年次に配当され、健康の科学や運動文化への理解を深め、適切な運動習慣を身につけ、生涯にわたる健康保持のための基盤を作ることを目的とする。

「専攻分野」の系列「専攻科目」は、学生が 2 年次以降に所属する各学科が開設する専

門科目であり、必要単位数 60 単位の内訳・履修方法は、学科ごとに設定する。これについては、新設各学科について具体的に後述する。

「関連分野」はおもに次の 3 つの系列から構成される。

「総合現代教養科目」は、地球規模で人々が考え、行動し、交流することが求められる現代において、世界の多様な社会と文化を理解し、時代を見通し、その中で自身の生き方を考えていくことのできる、幅広い知識と教養を獲得することを目的とする。

「基礎課程科目」は、基礎課程、すなわち 1 年次生のみを対象とする科目で、「基礎課程演習」と、各学科による入門的講義からなる。前者は、大学での学修・研究活動に求められる主体的な姿勢・意欲や積極性を身につけることを目的とし、大学で学修を進めるための基盤として、「文章等による表現力」「発表の力」「情報収集の力」を高めることに主眼を置く。

「関連分野」の系列「専攻科目」は、学生が 2 年次以降に所属する学科以外の 7 学科が開設する専門科目で、他学科学生の履修も認める科目である。本学では演習・実習科目以外の大半の講義科目が、他学科所属学生にも開かれており、これらの科目の履修を通じて、自らが専攻する分野以外の専門的な知識・教養の獲得も可能とする。

なお、卒業要件中の「関連分野」の単位数の比率は、最低で「専攻分野」の 40%強、最高で 60%強となっており、他大学に比べてかなり高く設定されている。これは本学が開学以来目指している幅広いリベラルアーツ教育、換言すれば「わが国の高等教育の将来像」に掲げられている総合的教養教育を実現するための工夫のひとつである。さらに、「関連分野」をより系統的に学修するため、副専攻とリベラルアーツ総合プログラムの制度を設けるが、これについては（4）で述べる。

「卒業論文」は、大学での学問研究の集大成として位置づけられる。自らの問題意識を明確化し、これにしたがって論旨を体系的に構成する過程を通して、専門的・学問的に思考する力、論理的に説明・発信する力を涵養する。詳しくは「キ　教育方法、履修指導及び卒業要件」（2）で述べる。

（2）基礎課程の位置づけ

ア（2）で触れたように、本学では 1 年次生は特定の学科「専攻」を決めずに入学し、全員が基礎課程に所属することになっており、この体制は、学科新設後も維持する。これも前述したように、基礎課程は、大学での学修の基礎を学ぶと同時に、各自の関心や適性をみきわめるための期間として、重要な意義を持つと考えるからである。

基礎課程の 1 年次生が履修すべき科目としては、まず「第一外国語」「第二外国語」の 1 年次対象科目、「キリスト教学Ⅰ」、「体育運動学」、及び「基礎課程演習」などがあり、これらは大学での学修の基礎を学ぶためのものである。なお、「基礎課程演習」(1 クラス 20 名を上限とする)の担当専任教員は、同時にそのクラスの 1 年次生の「アカデミックアドバイザー」として、大学での学修方法や進路決定についてのアドバイスを行う。一方、「総合現代教養科目」や、「基礎課程科目」のなかの各学科による入門的講義によって、1 年次生は、学問研究の多様な視点や方法を学び、自身の関心や適性を確認して、2 年次以降の所属学科を決めることとなる。

さらに、おもに 1 年次生を対象として開学以来続けられてきた「ジェネラルレクチャー」がある。これは年間 20 回程度、水曜日 4 時限に開かれる連続講演会である。講師は、学長をはじめとする本学教員だけでなく、外部からも多くの専門家を招き、本学の伝統や教育理念、大学生として社会の中で身につけ、守るべきこと、さまざまな学問分野での先端的成果などがとりあげられる(資料 7「平成 24 年度ジェネラルレクチャー一覧」)。「ジェネラルレクチャー」は単位化されたものではなく、出席も任意であるが、例年 1 年次生の出席率は 70%ほどあり、大きな教育的効果を挙げている。

（3）新設学科(専攻課程)の教育課程

従来から、本学専攻課程の教育課程編成における基本的な考え方は、①2 年次から 4 年次にかけて、多様な視点から幅広く学ぶという環境を維持しながら、次第に専門性を高め、卒業論文の制作につなげていく、②演習・実習といった学生が主体的かつ実践的に学修する授業科目を教育課程の中心に据える、の 2 点である。これは新設学科においても同様であり、以下、この 2 点を念頭に置きながら、新設学科の教育課程について説明する。

〈史学科〉

史学科は、日本史コースと世界史コースの 2 つのコースからなっており、各コースの教育課程を順に説明していく。

日本史コースにおける各年次の必修科目、(必修)選択科目は、以下の通りである。

2 年次：「日本史史料論」4 単位、「日本史演習Ⅰ」4 単位

3 年次：「日本史演習Ⅱ」(1～4 から選択)4 単位

4 年次：「日本史演習Ⅲ」(1～4 から選択)4 単位、「卒業論文」8 単位

2～4 年次：「世界史系列科目」から 8 単位

2 年次の「日本史史料論」は、一次資料(史料)から歴史事象を復元する事例を数多く紹介することによって、歴史学の方法の基本を学ぶものであり、「日本史演習Ⅰ」は、専任教員 4 名が分担し、古代・中世・近世・近現代の各時代の基本的史料の読解や研究方法を指導する。3 年次の「日本史演習Ⅱ」は、専任教員 4 名が 1～4 を担当し、各時代の史料のより本格的な読解、研究動向などについて指導する。4 年次の「日本史演習Ⅲ」では、卒業論文の制作を念頭に置いて、参加学生が各自設定した課題についての発表と質疑を行う。このように、教育課程の中核となる演習は、日本史全体の基本的知識・研究方法を身につけたうえで、特定の時代・分野へと次第に専門性を深めていくという構成をとる。

また演習の中心的内容は、史料の講読とそれに基づいた質疑・討論であり、これらに加えて「日本史史料論」と、自由選択科目ではあるが日本史コース在籍者に強く履修を奨める「史料講読Ⅰ」「史料講読Ⅱ」を開設することによって、一次資料の読解力を高めていく。さらに 2～4 年次に「世界史系列科目」から 8 単位修得させることによって、世界の歴史のなかで日本の歴史を考える重要性が認識できるよう配慮する。

世界史コースにおける各年次の必修科目、(必修)選択科目は、以下の通りである。

2 年次：「世界史演習Ⅰ」4 単位、「世界史文献講読Ⅰ」4 単位

3 年次：「世界史演習Ⅱ」(1～6 から選択)4 単位

4 年次：「世界史演習Ⅲ」(1～6 から選択)4 単位、「卒業論文」8 単位

2〜4 年次：「日本史系列科目」から 8 単位

2 年次の「世界史演習Ⅰ」は、専任教員 3 名が分担し、世界史に関する日本語研究文献をテキストとして、歴史学的な考え方や研究方法の基礎を指導する。一方「世界史文献講読Ⅰ」は、東洋史・西洋史分野の専任教員各 1 名が分担し、英語の研究文献をテキストとして、外国語文献による歴史研究の基礎を指導する。3 年次の「世界史演習Ⅱ」は地域・時代を異にする 6 つのクラスを用意し、それぞれの地域・時代について、より専門的な研究文献を講読しながら、研究方法についての理解を深める。4 年次の「世界史演習Ⅲ」では、卒業論文の制作を念頭に置いて、参加学生が各自設定した課題についての発表と質疑を行う。このように、教育課程の中核となる演習は、世界史全体の基本的知識・研究方法を身につけたうえで、特定の時代・分野へと次第に専門性を深めていくという構成をとる。

また演習の中心的内容は、世界史に関する研究文献の講読とそれに基づいた質疑・討論であり、同時に必修の「世界史文献講読Ⅰ」に加えて、自由選択科目のなかに、「世界史文献講読Ⅱ〜Ⅵ」を置くことにより、英語のみならずドイツ語・フランス語・中国語などの研究文献の読解力も高めていく。

さらに 2〜4 年次に「日本史系列科目」から 8 単位修得させることによって、世界の歴史のなかで日本の歴史を考える重要性が認識できるよう配慮する。

〈人間関係学科〉

人間関係学科における各年次の必修科目、(必修)選択科目は、以下の通りである。

2 年次：「対人社会心理学 1」、「マスコミ社会心理学 1」、「人格心理学 1」、「家族社会学 1」、「職業社会学 1」、「文化人類学 1」、「比較文化学 1」各 2 単位
「人間関係共通演習」、「社会調査入門」各 2 単位

3 年次：「対人社会心理学演習 1」、「マスコミ社会心理学 1」、「人格心理学演習 1」、「家族社会学演習 1」、「職業社会学演習 1」、「文化人類学演習 1」、「比較文化学演習 1」から 1 科目 4 単位

4 年次：「対人社会心理学演習 2」、「マスコミ社会心理学 2」、「人格心理学演習 2」、「家族社会学演習 2」、「職業社会学演習 2」、「文化人類学演習 2」、「比較文化学演習 2」から 1 科目 4 単位、「卒業論文」8 単位

2 年次の「対人社会心理学 1」から「比較文化学 1」までの講義科目は、本学科の特色である「学際性」を身につけるため、それぞれの学問分野の理論と知識の基礎を学ぶ科目である。一方「人間関係共通演習」では、過去の卒業論文を材料として、本学科における学問研究の方法を学び、専門課程 3 年間に達成すべき目標をそれぞれの学生が明確に自覚するよう指導する。さらに「社会調査入門」では、各学問分野における社会調査の意義、方法、倫理など、社会調査の基本的事項を習得する。

3 年次の各「演習 1」では、それぞれの学問分野における理論と方法に対する理解を深めるため、研究文献の講読を行うと同時に、社会調査やフィールドワーク、その結果の分析を実際に行い、実践的研究方法を身につける。そのうえで 4 年次の各「演習 2」では、卒業論文制作に向けて、参加学生が各自設定した課題についての発表と質疑を行う。

自由選択科目では、本学科の各学問分野について、より専門的な理解を深めるための講義科目が開かれるほか、「社会調査の技法」、「データ分析の基礎」、「社会統計学」、「多変量

解析法」、「質的調査法」などの科目によって、社会調査の方法に対するより深い理解が得られるよう配慮され、さらに 3・4 年次に配当される「社会調査実習」では、調査の企画、仮説の設定、データの収集と分析、報告書の執筆とプレゼンテーションといった本格的な社会調査を実地に体験し、実践的研究能力の向上をはかる。

〈国際交流学科〉

国際交流学科における各年次の必修科目、(必修)選択科目は、以下の通りである。

2 年次：「国際交流概論」4 単位、「英語コミュニケーションⅠ」4 単位、「基礎言語コミュニケーションⅠ」（フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・コリア語から選択）4 単位、「領域科目」(国際社会領域・情報コミュニケーション領域・国際文化領域の各領域からそれぞれ 1 科目以上)2～4 単位

3 年次：「英語コミュニケーションⅡ」4 単位、「基礎言語コミュニケーションⅡ」4 単位、「演習Ⅰ」(国際社会領域・情報コミュニケーション領域・国際文化領域のなかから 1 科目選択)4 単位、「領域科目」(「演習Ⅰ」と同じ領域から 1 科目以上)2～4 単位

4 年次：「演習Ⅱ」(国際社会領域・情報コミュニケーション領域・国際文化領域のなかから 1 科目選択)4 単位、「卒業論文」8 単位

2 年次の「国際交流概論」は、本学科における多様な専門分野の特徴・研究方法を、専任教員が分担して指導する導入科目であり、「領域科目」の履修とあわせて、学生はどの学問分野を主として専攻するかを、より深く考えることとなる。同時に「国際交流概論」のなかには、「国際交流カップ」と呼ばれる学生によるプレゼンテーション大会が組み込まれている。「国際交流カップ」は、国際連合が毎年重点的課題として掲げている「国際年(International Year)」からテーマを選び、学生が調査、研究を積み重ねたうえで、10 月の学園祭で発表するというものである。一方、「英語コミュニケーション」「基礎言語コミュニケーション」は、「全学必修分野」の「第一外国語」「第二外国語」が、「外国語を学ぶ」という趣旨の科目であるのに対して、「外国語でコミュニケーションを行う力」を強化するのを趣旨とした科目で、2 年次、3 年次と段階的にコミュニケーション能力を向上させていく。

3 年次には、国際社会領域・情報コミュニケーション領域・国際文化領域の 3 領域のなかから選択する「演習Ⅰ」がカリキュラムの中心となる。「領域科目」の履修とあわせて、各専門分野に対する理解を深めるとともに、他大学との合同ゼミナール、合同研究会が組み込まれている演習も多く、より広い舞台でプレゼンテーションの力が試されることとなる。このような過程を経て、4 年次では「演習Ⅱ」で、卒業論文制作に向けて、参加学生が各自設定した課題についての発表と質疑を行う。

〈心理学科〉

心理学科における各年次の必修科目、(必修)選択科目は、以下の通りである。

2 年次：「心理学概論」4 単位、「心理学実験演習 1」4 単位、「心理統計法Ⅰ」2 単位、「基礎情報処理技法」2 単位

3 年次：「3 年心理学演習」(認知心理学・発達心理学・臨床心理学の計 6 科目から 1 科目選択)4 単位

4 年次：「実験心理学演習」、「発達心理学演習」、「発達臨床心理学演習」の計 6 科目から 1 科目選択、4 単位、「卒業論文」8 単位

2 年次の「心理学概論」は、心理学の全体像、各専門分野の特徴や研究方法の基礎などを、専任教員が分担して指導する導入科目であり、この科目を履修することにより、学生は 3 年次以後、本学科の 3 本の柱である知覚・認知心理学、発達心理学、臨床心理学のどの分野を詳しく学修していくかを見定めることとなる。「心理学実験演習 1」は、心理学のいずれの分野においても要求される正確かつ綿密なデータの収集と分析の方法を学び、あわせてそれをもとにした学術的な文章の書き方を習得することを目的とする。2 年次前期に週 2 時限ずつ開講され、さらに「心理統計法 I 」と「基礎情報処理技法」も同じく前期に開講され、心理学の方法を早い時期に集中的・徹底的に学べるよう配慮する。

このように、2 年次において心理学の全体像と、その方法について学んだうえで、3 年次には認知心理学・発達心理学・臨床心理学の各分野から「3 年心理学演習」を選択し、それぞれの領域についてより深く学ぶことになる。また自由科目のなかには、各分野の最先端の研究成果を学ぶ「特講」類と、心理学の研究方法についてより深く学ぶ「心理学研究法 1・2」、「心理学実験演習 2」などが含まれているが、本学科では必修科目、(必修)選択科目の数をなるべく絞り、学生の関心や自身の設定した課題によって、多様な科目選択ができる教育課程を組んでいる。

このような過程を経て、4 年次では「実験心理学演習」、「発達心理学演習」、「発達臨床心理学演習」のうち 1 科目を選択し、卒業論文制作に向けて、参加学生が各自設定した課題についての発表と質疑を行う。

（4）副専攻とリベラルアーツ総合プログラム

これまで重ねて述べてきたように、本学では、基礎課程と専攻課程(各学科)の 2 部構成の教育課程を持っているが、総合的教養教育の充実をはかるための副次的教育課程として、副専攻とリベラルアーツ総合プログラム(仮称)を持つ。

〈副専攻〉

本学の副専攻制度は、2 年次から所属する学科を「主」(major)として学びながら、もう 1 つの学科の学問分野を「副」(minor)として学ぶものであり、平成 16 年度から始められている。（1）の卒業要件に関して前述したように、本学の卒業要件では、自らが所属する以外の学科が開講する科目(「関連分野」)の修得単位を、かなり多めに設定すると同時に、学生の選択の自由度を高く設定している。この「関連分野」を系統立てて履修するための制度が副専攻であり、学生が自分の所属する学科での研究対象を、所属する学科での研究方法とは別の角度から捉えたり、より広い視野から相対化する力を身につけたりすることを目的とする。

平成 25 年度現在、教員養成を主とする初等教育学専攻を除く 5 学科 8「専攻」が副専攻を開設しており、新学科を設置する平成 26 年度以降も、引き続き 8 学科 8 副専攻の体制で運営する。副専攻履修を希望する学生は、2 年次又は 3 年次に登録し、副専攻担当教員からの履修指導を受けながら、20～22 単位からなる修了要件を満たし、卒業と同時に修了する。なお副専攻のなかには、複数のコースを設定する学科(英語英文学科の〈英語学・英語教育

学分野〉〈英米文学分野〉〈メディアコミュニケーション分野〉、日本語日本文学科の〈古典文学を中心に学ぶ〉〈近代文学を中心に学ぶ〉〈日本語学を中心に学ぶ〉、史学科の〈日本史コース〉〈世界史コース〉)、演習科目を必修とする学科(人間関係学科、哲学科)などがある。なお、近年の副専攻登録者(2 年次)は 100 名前後、履修要件を満たして最終的に修了する者は 50 名前後となっている。

〈リベラルアーツ総合プログラム(仮称)〉

今回の学科新設と同時に、新たに導入を予定している副次的教育課程である。上述の副専攻が、自らが所属する学科とは異なる学問研究の方法や視点を学ぶものであるのに対して、本課程では、どのような学問分野においても共通する研究の方法を、幅広く多様な研究対象を通じて学んだり、やはりどのような学問分野においても、現代社会でとくに重要な課題とされている事柄を学際的に学んだりすることに主眼を置く。

具体的には、研究方法や視点を学ぶものとして、A「世界のなかで地域を見つめる」、B「多様な文化を比較する」、また現代社会における重要な課題を学ぶものとして、C「持続可能な社会を構築する」、D「生涯を通じたキャリアを考える」、という 4 つのメインカテゴリーを置き、そのなかで学生が各自の研究課題を設定し、これに沿った授業科目を履修するという形をとる。各メインカテゴリーのなかでの研究課題は、基本的には学生が設定するものとするが、大学側でも、例えば A では「アジア研究」「ヨーロッパ研究」「アメリカ研究」、B では「～についての日本語と英語との比較」「～についての日本文学と欧米文学との比較」「日本と中国の文化における～の比較」、C では「多文化宗教社会における共生」「環境と開発」「ボランティア研究」、D では「ジェンダー学」「キャリアと子育ての人間科学」「生涯学習社会における学びのデザイン」などの課題を例示する。

履修方法としては、2 年次又は 3 年次に登録するのは副専攻と同様で、登録時に各学科の教務委員の指導の下に研究課題を決定する。登録した学生は、メインカテゴリーごとに定められた 3～4 科目の基幹科目(研究方法の基礎を学ぶ科目や、研究課題の全体像を概観する科目)のなかから 1 科目を履修し、これを含めて研究課題に関係する授業科目 16 単位を履修したうえで、3 年次後期(4 年次後期も可)に修了レポートを作成して修了する。副専攻と異なり原則として 3 年次修了とするのは、本学学生の「関連分野」科目の履修が 2・3 年次に集中する傾向があること、本課程の修了レポートを、各学科での卒業論文の制作に役立ててほしいこと、といった理由による。

カ　教員組織の編成の考え方及び特色

新設学科における教員組織は、各学科の多様な学問分野を概ねカバーすること、教育課程の中核となる演習科目を担当して、卒業論文の指導までつなげること、の 2 点を重視して編成されている。

〈史学科〉

史学科の専任教員の専門分野は、日本史コースが日本古代史、日本中世史、日本近世史、日本近現代史各 1 名、世界史コースが中国近代史、西アジア近代史、ヨーロッパ中世史、ヨーロッパ近世史、ヨーロッパ近現代史各 1 名である。日本史コースについては、日本の

各時代をカバーし、研究体制の面でも、学生指導の面でも小規模大学としては万全のものといえる。世界史コースでは、対象となる地域・時代が広範にわたるため、専任教員ですべてをカバーするのは困難であるが、とくにヨーロッパ史については充実している。

オで述べた教育課程との関係については、必修の演習科目は、世界史コースのアメリカ史を扱う「世界史演習Ⅱ－6」(3 年次必修)、「世界史演習Ⅲ－6」(4 年次必修)を除き、すべて専任教員が担当し、4 年次における卒業論文制作にあたっても、きめ細かい個別指導を行う体制が整っている。また、世界史コースの 2 年次必修科目「世界史文献講読Ⅰ」や、自由科目である「同Ⅱ」～「同Ⅵ」も、すべて専任教員が担当する。一方、日本史コースの必修科目のうち「日本史史料論」は、非常勤講師の担当であるが、これはこの科目の性格上、日常的に生の史料に接している研究者に、その体験に基づいた授業を担当してほしいという意図によるもので、学科新設後も東京大学史料編纂所に勤務する講師をお願いする予定である。

年齢構成については、本項末尾の下表の通りである。平成 25 年 4 月に 30 代の教員を採用したが、60 代の教員がやや多くなっている。これまでの採用人事において、本学の教育方針や学問分野などに基づき、慎重に検討した結果であるが、女性教員の少なさも含め、今後の採用人事にあたって課題としたい。

〈人間関係学科〉

人間関係学科の専任教員の専門分野は、社会人類学、比較文化学、社会心理学(2 名)、家族社会学、職業社会学、人格心理学である。ウで述べた、現代の人間と、人間が形作る社会・文化を対象として、それらを幅広い視野から複眼的に理解するという本学科の特色を体現する構成となっている。

オで述べた教育課程との関係については、講義科目・演習科目いずれにおいても、各年次の必修科目、(必修)選択科目のすべてを専任教員が担当し、4 年次における卒業論文制作にあたって、きめ細かい個別指導を行う体制が整っている。また、本学科の特色である社会調査に関する授業科目についても、「社会統計学」、「質的調査法 1・2」、「社会調査実習 1～3」を専任教員が担当し、学生の調査能力の向上をはかるため、丁寧に指導する。

年齢構成については、本項末尾の下表の通りである。40 代から 60 代まで、バランスのとれた構成となっており、女性教員の比率も適性だといえるだろう。

〈国際交流学科〉

国際交流学科の専任教員の専門分野は、日欧比較思想史、古代中国哲学、近代フランス文学、近代ドイツ文学、英語コミュニケーション、フランス語コミュニケーション、国際コミュニケーション論、国際政治学、国際経済学、法学、数学・情報科学各 1 名である。ウで述べた、高い言語コミュニケーション能力を基礎として、多様な文化に対する理解を深め、同時に現在の複雑な国際問題を、政治・法律・経済・文化などのさまざまな側面から幅広く捉えるという本学科の特色を体現する構成となっている。

オで述べた教育課程との関係については、2 年次必修の「国際交流概論」と「英語コミュニケーションⅠ」、3 年次必修の「英語コミュニケーションⅡ」と各「演習Ⅰ」、4 年次必修の各「演習Ⅱ」は、すべて専任教員が担当する。その結果、4 年次における卒業論文制作にあたっても、きめ細かい個別指導を行う体制が整っている。

年齢構成については、本項末尾の下表の通りである。40 代以下の教員も一定程度いるが、60 代がやや多い構成となっている。これまでの採用人事において、本学の教育方針や学問分野などに基づき、慎重に検討した結果であるが、今後の採用人事にあたって課題としたい。なお女性教員の比率は適正なものと考える。

〈心理学科〉

心理学科の専任教員の専門分野は、認知心理学 2 名、発達心理学 2 名、臨床心理学 3 名である。本学科における 3 本の柱のそれぞれについて、バランスよく教員が配置され、ウで述べた、人間の心理に関わる基礎的な知識を習得したうえで、心理と行動の客観的な測定方法、測定結果の科学的な分析方法、分析をもとにした科学論文の作成やプレゼンテーションの力を学生に身につけさせるという本学科の目標の達成にとって、適正な配置をとっている。

オで述べた教育課程との関係については、2 年次必修の「心理学概論」と「心理学実験演習 1」、3 年次・4 年次必修の演習科目のすべてを専任教員が担当し、4 年次における卒業論文制作にあたって、きめ細かい個別指導を行う体制が整えている。また自由科目においても、「心理学研究法 1」、「心理学実験演習 2・3」など、心理学研究にとって不可欠な、正確かつ綿密なデータの収集と分析の方法を指導する科目は、極力専任教員が担当し、学生のデータ収集・分析能力の向上をはかるため丁寧な指導体制をとる。

年齢構成については、本項末尾の下表の通りである。30 代前半から 60 代までバランスのよい配置といえる。また女性教員の比率も適正なものと考える。

新設学科における専任教員の年齢構成(平成 27 年 4 月現在)

	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	計 (うち女性)
史学科	0	1	0	1	1	2	4	0	9(1)
人間関係学科	0	0	2	0	2	1	2	0	7(4)
国際交流学科	0	1	1	1	2	1	1	4	11(6)
心理学科	1	0	1	0	2	0	3	0	7(2)

キ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本項は、新設各学科で共通する面が多いので、内容ごとに一括して説明する。

（1）授業内容に応じた授業の方法、授業方法に適した学生数の設定、配当年次の設定等

オ（3）で述べたように、本学の教育課程編成上の基本的な考え方は、①2 年次から 4 年次にかけて、多様な視点から幅広く学ぶという環境を維持しながら、次第に専門性を高め、卒業論文の制作につなげていく、②演習・実習といった学生が主体的かつ実践的に学修する授業科目を教育課程の中心に据える、の 2 点である。①のうち、多様な視点から幅広く学ぶという環境は、各学科における専攻分野科目中の、学生が自由に選択できる多様な講義科目によって担保されている。その科目数を「教育課程の概要」(別記様式第 2 号)によっ

て挙げると、史学科では「史学共通」、「日本史系列」、「世界史系列」のあわせて 41 科目、人間関係学科では「自由選択科目」中の 51 科目、国際交流学科では「領域科目」の 39 科目、心理学科では「自由選択科目」中の 28 科目であり、その多様性は十分なものだと考える。また、これら講義科目のほとんどは、他学科に所属する学生が「関連分野」の科目として履修することが可能であり、オ（４）で述べた副次的教育課程の設定を可能なものとしている。

また、これら講義科目のほとんどは、他学科に所属する学生が「関連分野」の科目として履修することが可能であり、オ（４）で述べた副次的教育課程の設定を可能なものとしている。

②の演習科目は、少人数で授業を行うことが必須であるが、各学科の 3・4 年次の演習科目数と学年ごとの定員は、史学科 10 科目－55 人、人間関係学科 7 科目－55 人、国際交流学科 9 科目－60 人、心理学科 7 科目－55 人となっており、平均すれば 1 科目 6～8 人程度と、演習の教育的効果を充分挙げることが可能な規模である。なお、各学科 2 年次の演習科目については、史学科の「日本史演習Ⅰ」を 2 クラス、「世界史演習Ⅰ」を 1 クラス、人間関係学科の「人間関係共通演習」を 2 クラス、心理学科の「心理学実験演習 1」を 3 クラス設け、3・4 年次の演習より人数は多くなるものの、極力きめ細かい指導ができるよう配慮する。

配当年次については、オ（３）で述べたように、教育課程の中核となる必修科目、(必修)選択科目については、各学科とも 2 年次、3 年次、4 年次と段階的に履修、修得する形をとる。自由選択科目については、大半は 2 年次～4 年次のどの年次でも、学生自身の関心に応じて履修することができる。さらにこれらの科目の大半は、2 年次以後の進路を考えさせるという意味で、意欲のある 1 年次生にも開放し、これらの科目についてはシラバス上に、その旨を記載する。ただし、その結果履修者が適切な規模を超えた場合には、開設学科に所属する学生を優先する形で人数制限を行うことがあり、それは年度始めに全学生に配付する『開講科目一覧』に明記する。

（２）卒業論文について

本学のすべての学科において、「卒業論文」(8 単位)は必修である。

4 年次年度始めに科目「卒業論文」の履修登録を行い、7 月に主査、11 月に副査を決定、12 月中旬に提出する。分量についてとくに定めはないが、本文・注釈を含めて 20,000 字以上を目安としている。

卒業論文についての指導は、基本的には 3・4 年次演習の担当教員(ほぼ全員が専任教員)が行う。その標準的な進め方は、以下の通りである。

① 3 年次後半に、所属する演習の担当教員が、卒業論文のテーマの設定の仕方、準備の進め方などについて指導し、大まかなテーマを決める。
② 演習の担当教員が、3 年次年度末の休暇期間中、テーマに関係する資料・先行研究の検索を行うための助言を行う。
③ 4 年次の 4～5 月に卒業論文の題目を決定する。
④ 4 年次前期には、所属する演習で、卒業論文に関する資料・先行研究についての報告を

行うほか、演習以外の時間にも適宜指導を行う。

⑤　前期末に夏期休暇中の課題を指示し、場合によっては休暇中に卒業論文合宿を行ったり、学内で日時を定め集中的に指導を行ったりする。

⑥　後期に入ると、演習とは別に、週 1 回程度、指導教員が学生との個別面談の機会を設定し、その指導の下で執筆を進めていく。

⑦　11 月、教務課が卒業論文提出の際の体裁などについて、ガイダンスを行う。

⑧　12 月中旬、卒業論文を提出する。

このようなプロセスを経て提出された卒業論文は、主査(原則として 4 年次演習の担当教員)・副査(原則として当該学科の他の専任教員)が読み、最終的に学科内の会議によって合否、成績評価を決定する。評価基準については『履修要覧』に明記されており、平成 26 年度版では、以下の通りである。

①　所属専攻の指定する研究指導を受け、専攻分野にふさわしいテーマを設定し、執筆されていること。

②　学術論文としての体裁が整い、かつ、論理的に整合した内容を備えていること。

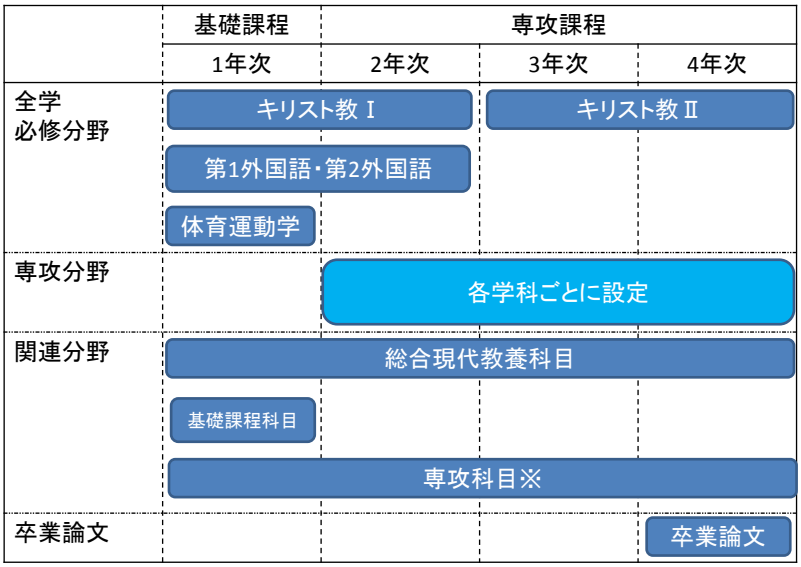
③　資料・情報の入手、研究の引用等に関する研究倫理に反していないこと。

卒業論文については、以上のような指導と評価の体制を整えており、科目としての「卒業論文」に 8 単位を付与することは適切だと考える。

（3）履修モデルの提示

各学科の履修モデルは、『履修要覧』に明記する。「オ　教育課程の編成の考え方及び特色」で述べた通り、本学における卒業要件の科目区分は文学部で統一しており、新設する史学科、人間関係学科、国際交流学科、心理学科に共通する全学履修モデルは、次表の通りである。

文学部　全学履修モデル



※1年次で修得した専攻科目は、2年次進級後に学生の所属学科により専攻分野か関連分野に振分ける。

新設学科の専攻分野における履修モデルは以下の通りである。なお表中の◎は、年次指定科目である。

〈史学科〉

(日本史コース)

2 年次	3 年次	4 年次
日本史史料論(4 単位) ◎日本史演習Ⅰ(4 単位) 日本史系列科目 8～12 単位	◎日本史演習Ⅱ(4 単位) 左に準じる	◎日本史演習Ⅲ(4 単位) 左に準じる

世界史系列科目(合計 8 単位以上)、史学共通科目

(世界史コース)

2 年次	3 年次	4 年次
◎世界史演習Ⅰ-1(2 単位) ◎世界史演習Ⅰ-2(2 単位) ◎世界史文献講読 1-1(2 単位) ◎世界史文献講読 1-2(2 単位) 世界史系列科目 8～12 単位	◎世界史演習Ⅱ(4 単位) 左に準じる	◎世界史演習Ⅲ(4 単位) 左に準じる

日本史系列科目(合計 8 単位以上)、史学共通科目

〈人間関係学科〉

2 年次	3 年次	4 年次
基礎科目(計 18 単位) 対人社会心理学 1 マスコミ社会心理学 1 人格心理学 1 家族社会学 1 職業社会学 1 文化人類学 1 比較文化学 1 社会調査入門 ◎人間関係共通演習	◎演習 1(最低 4 単位) 対人社会心理学演習 1 マスコミ社会心理学演習 1 人格心理学演習 1 家族社会学演習 1 職業社会学演習 1 文化人類学演習 1 比較文化学演習 1	◎演習 2(最低 4 単位) 対人社会心理学演習 2 マスコミ社会心理学演習 2 人格心理学演習 2 家族社会学演習 2 職業社会学演習 2 文化人類学演習 2 比較文化学演習 2

自由選択科目

〈国際交流学科〉

2 年次	3 年次	4 年次
◎国際交流概論(4 単位) ◎英語コミュニケーションⅠ(計 4 単位) ◎基礎言語コミュニケーションⅠ(計 4 単位) 領域科目(3 領域 3 科目) 国際社会領域 情報コミュニケーション領域 国際文化領域	◎演習Ⅰ(最低 4 単位) ◎英語コミュニケーションⅡ(計 4 単位) ◎基礎言語コミュニケーションⅡ(計 4 単位) 領域科目 演習Ⅰと同一領域から 1 科目以上	◎演習Ⅱ(最低 4 単位) 領域科目 任意

自由選択科目

〈心理学科〉

2 年次	3 年次	4 年次
◎心理学概論(4 単位) ◎基礎情報処理技法(2 単位) ◎心理学実験演習 1(4 単位) ◎心理統計法Ⅰ(2 単位)	◎3 年心理学演習(4 単位)	◎4 年演習(4 単位) 実験心理学演習 発達心理学演習 発達臨床心理学演習

自由選択科目

（4）履修科目の年間登録上限

「大学設置基準」第 27 条の 2 に基づき、各年次の年間登録単位数の上限を以下のように定め、『履修要覧』に明記する。

1 年次：42 単位　2 年次：48 単位　3 年次：48 単位　4 年次：42 単位

なお、4 年次の「卒業論文」8 単位、海外語学研修(シ参照)等で認定された単位は、登録単位数の上限には含まない。

また、教員免許状取得等の理由により、やむを得ず上記の上限を超える場合は、学生が所属する学科の専任教員の履修指導を受けて、承認を得ることとする。

ク　施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

改組により新設する史学科、人間関係学科及び国際交流学科は、今回廃止する歴史社会学科の各専攻を発展させて改組するものであり、また、新設する心理学科は既存の教育学科の教育学・心理学専攻からの発展改組するものであるため、これら新設学科の教育内容における校地、運動場については既存施設で対応できる。また、収容学生数及び

教員数の純増は僅かであるため、校地、運動場について新たに整備する計画はない。

(b) 校舎等施設の整備計画

「キ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件」で述べた通り、所属学科を問わず、学生の関心に応じて履修可能な科目が多いため、引き続き、教室利用の自由度を確保する。新組織におけるカリキュラム構成についても、既存施設において対応することとする。

(c) 図書等の資料および図書館の整備計画

・図書等資料の整備計画

今回の設置計画は、既存の学科専攻の教育内容を大幅に変更するものではなく、従来から取り扱っている学問分野を学科レベルに組み直すものであり、既にこれらの分野に関する図書資料等は計画的に整備されている。図書館では、従来からの本学教育システムを支援し、学習図書館機能と研究図書館機能の両方の機能をさらに充実させるために、質量ともに十分な図書、学術雑誌等の学術情報資料を体系的に収集し、その整備充実に取り組んでいく。

・図書および雑誌

図書館の蔵書数は現在、約 413,000 冊であり、蔵書の内訳は製本雑誌約 58,000 冊を除く図書約 355,000 冊で、図書の内訳は和図書約 236,000 冊、洋図書約 119,000 冊となっている。分野別では歴史、社会科学の割合は全体の 34%を占め、関連分野である文学 24%、哲学 12%を含めると全体の 70%以上を占めており、本学の学科構成を反映している。冊子体雑誌の所蔵タイトル数は約 2,540 種以上あり、継続タイトル数は約 362 種であり、内和雑誌は「史學雑誌」、「家族社会学研究」、「国際問題」、「實驗心理學研究」等 251 種、洋雑誌は“English historical review”、“The Journal of economic perspectives”、“Sociological abstracts”、“Asian folklore studies”、“Psychological review”等 111 種を有している。文学部の多岐にわたる学問分野の利用に対応するために、冊子体雑誌から電子ジャーナル、オンラインデータベースへの切り替えをはかり、全文閲覧可能な雑誌論文数の増加をはかっている。

・電子ジャーナル、デジタルデータベース

特に洋雑誌について冊子体雑誌から電子ジャーナルへ媒体を切り替えており、出版社およびアグリテータとの契約により約 22,500 種の電子ジャーナルの全文を閲覧することができる。人文社会科学全分野をカバーする“ProQuest Central”をはじめ、“PsycARTICLES”、“Science Direct”では、心理学と社会科学分野に特化したジャーナルを利用することができる。

また、インターネットの普及により、利用者のオンラインデータベースへの需要が高まっており、「聞蔵ビジュアル II」等の新聞系データベース 4 種、“Gale Biography in Context”、“Handbook of Psychology”、「ジャパンナレッジ・プラス NRK」、「Web Oya-bunko」等の人物情報系・事典系・索引系データベース 15 種を導入している。

・図書館の機能

図書館には、雑誌閲覧室とレファレンスルームの 2 つ閲覧室、347 の閲覧席数があり、

学習研究環境として、十分な数を確保している。更にラーニングコモンズのエリアを設置し、グループ学習スペース・個人学習スペース・リフレッシュコーナーなど利用者からの要望を満たす空間を用意している。このエリアではレファレンスサービスとは別に、学生が本学大学院生による学習コンシェルジュの指導を受けながらレポート作成等を行うことが可能である。書庫以外のエリアには無線 LAN のアクセスポイントを設置し、貸出用ノートパソコン 6 台を含め自学自習用パソコンは 11 台、OPAC 用パソコン 18 台を備え、他に DVD・ビデオ等視聴覚資料用機器 42 台を揃えている。

図書館ＨＰと蔵書検索 OPAC については、24 時間学内外から利用できる環境を整えており、利用についての情報や論文閲覧は何時でも何処からでも可能になっている。また、OPAC のポータル機能である My library からは、学外においても蔵書検索や予約・貸出更新を行う事ができる。その他図書館では、図書館主催、または教員・学生からの要望を受けて実施する申込制講習会を開催し、資料の探し方やベータベースの使い方を指導することで利用者の学習・研究支援を行っている。特に、学部における導入教育プログラムである 1 年次生対象の「基礎課程演習」においては全クラスで図書館ガイダンスを実施しており、その学習効果は大きなものがある。

・他の大学図書館等との協力

日本カトリック大学連盟図書館協議会加盟大学によるカトリック大学図書館相互利用制度および日本赤十字看護大学図書館との相互利用協定により横断検索や利用の提携を行い、身分証明書の提示で他館の利用をすることができる。また、国立情報学研究所が提供している図書館間相互利用サービス(NACSIS-ILL)や BLDSS(British Library Document Supply Service）を通じて、本学にない資料の貸借や文献複写サービスを利用者へ提供している。なお、洋雑誌冊子体購入削減の代替措置という観点から、洋雑誌の文献複写代金については教員・学生が支払うことなく大学が負担するサービスを行っている。

ケ　入学者選抜の概要

（1）アドミッションポリシー

本学の公式ホームページ、ガイドブック等で公開しているアドミッションポリシーは、以下の通りである。

「幅広い教養と高度な専門性を身につけた自立的・実践的な女性をめざし、自ら学ぶ意欲をもった皆さんを受け入れるために、私たちは、３教科方式の入試のほか、総合小論文方式、アドミッションズ・オフィス入試、推薦入試、帰国子女入試、外国人留学生入試、編入学試験など、面接を含むさまざまな選抜方法を用意して、一人一人の受験生に丁寧に向き合おうとしています。３教科方式の入試で記述式の問題の多いことにもそれは表れています。

また、私たちは、無限の可能性を持つ受験生の皆さんに、入学前に急いで進路・専攻を決めることを求めません。受験の際には学科専攻を決めず、入学後の日々の勉学を通して、２年次からどの学科専攻で学ぶかを考える方式を採っています。」

ア（1）で述べた教育目標の 1 つに「発信力、実践力を高める」があり、またキ（2）に記したように「卒業論文」は全学生にとって卒業要件である。そこで学生受け入れにあたっても、基本的な学力はもちろんであるが、論理的な文章を書く力、論理的に話す力の基礎が身についているかどうかを選抜の重要なポイントとする。

（2）入試制度の概要

本学は、従来から文学部としての一括募集を行ってきた。現在の入試制度の概要は、下表の通りであり、この体制は学科新設後も維持する。

〈一般入試〉

名称	募集人員	審査期日	審査方法の概要
一般入試(3 教科方式)	265 名	2 月上旬	外国語(英語･フランス語から 1 科目選択)、国語、地理歴史(日本史・世界史から 1 科目選択)の学力試験
一般入試(総合小論文方式)	若干名	2 月中旬	日本語・英語・図表の読解問題と小論文
アドミッションズ・オフィス入試	若干名	1 次審査 : 10 月上旬 2 次審査 : 11 月上旬	1 次審査 : エントリーシート(志望動機など)に基づく面接と小論文 2 次審査 : 課題作文に基づく面接と出身高校の調査書

〈推薦入試〉

名称	募集人員	審査期日	審査方法の概要
指定校推薦入学	若干名	11 月上旬	課題作文に関する質問を含む面接
姉妹校推薦入学＊	若干名	12 月上旬	課題作文に関する質問を含む面接

＊　姉妹校とは、同一学校法人に属する札幌聖心女子学院高等学校(北海道)・聖心女子学院高等科(東京都)・不二聖心女子学院高等学校(静岡県)・小林聖心女子学院高等学校(兵庫県)を指す。

なお、近年の各入試における入学者の割合については、資料 2「平成 21～25 年度入試状況」を参照されたい。

（3）社会人・留学生・帰国子女の受入方針

本学では、社会人を対象とした学生の受入は行っていない。留学生・帰国子女を対象とした入試制度の概要は、下表の通りである。

名称	募集人員	審査期日	審査方法の概要
外国人留学生入試	若干名	1 月上旬	英語・小論文・面接・日本留学試験成績
帰国子女入試	若干名	10 月上旬	日本語・小論文・面接・TOEFL 成績

なお、近年の各入試における入学者の割合については、資料 2「平成 21～25 年度入試状

況」を参照されたい。

（4）科目等履修生・聴講生・研究生等の受入方針

科目等履修生については、「聖心女子大学学則」第 48 条及び「聖心女子大学科目等履修生規程」によって受け入れる。出願資格は、大学入学資格と同等で、希望者は、年度始めに「科目等履修願」「科目等履修の目的・理由書」「健康診断書」等の所定の書類を提出して出願する。出願があった場合、当該授業科目を開設している学科において、書類審査及び面接等を行い、当該授業科目担当者の承認を得た後、教授会の議を経て学長が履修を許可する。科目等履修生は、履修した科目について試験を受けることができ、合格した者には、当該授業科目の単位を与えられ、また、単位修得証明書の交付を受けることができる。

研究生は、「聖心女子大学学則」第 49 条及び「聖心女子大学研究生規程」によって受け入れる。出願資格は、大学を卒業した者、またはこれと同等以上の学力があると認められた者で、希望者は、年度始めに研究課題等を記した所定の書類を提出して出願する。出願があった場合、希望する研究課題に係る学科で審査を行い、教授会の議を経て学長が受入を決定する。研究生を受け入れた学科では、研究生に対して研究環境を整えるとともに、当該学科の専任教員が指導教員となり、研究生の研究指導にあたる。研究生は、研究期間が終了するまでに、研究課題に関する報告書を作成し、指導教員の点検評価を受けた後、その報告書を当該学科に提出する。研究期間は 1 年とするが、特別の理由がある場合は、教授会の議を経て、その期間を更新することができる。

コ　資格取得について

新設学科において取得できる資格は、下表の通りである。

学科名	取得できる資格
史学科	高等学校「地理歴史」一種免許状 博物館学芸員資格 日本語教員資格
人間関係学科	博物館学芸員資格 日本語教員資格 社会調査士資格(一般社団法人社会調査協会)
国際交流学科	博物館学芸員資格 日本語教員資格
心理学科	高等学校「公民」一種免許状 博物館学芸員資格 日本語教員資格 認定心理士資格(財団法人日本臨床心理士資格認定協会)

上記資格取得に必要な授業科目のうち、教職資格についての「教職入門」「社会科教育法」

「社会・地理歴史科教育法」「社会・公民科教育法」「教育実習指導」「教育実習」「教職実践演習」、博物館学芸員資格についての「博物館実習」は、資格関係分野の科目として卒業要件には算入されない。

なお、教職資格については、平成 26 年 5 月に教職課程認定の申請を行っている。

サ　実習の具体的計画

（1）教育実習

教職課程は、教育学科の教員 3 名及びその他の学科の教員各 1 名と学務担当副学長で構成される教職課程委員会(テ（3）参照)によって運営される。

「教育実習」の実習先は、実習の前年度(3 年次)4 月～6 月に実習の依頼を行い、実習校を決定する。交渉方法は、大学が実習校と交渉を行う「大学交渉」と、学生が実習校と交渉を行った後、学長からの依頼状を実習校に持参する「個人交渉」とがある。現段階における「大学交渉」の交渉先は、東京都教育委員会、札幌聖心女子学院、聖心女子学院、不二聖心女子学院、小林聖心女子学院である(資料 8 参照)。

教育実習の標準モデルは、下表の通りである(数値は時間数)

内　　容	中学校	高等学校
校長・教頭・教務主任及び各部署の担当者からの説明	8	8
参観	30	15
授業担当(教壇実習)	10	5
学校経営への参加及び全日経営	20	6
課外活動・学校行事への参加	10	5
合計時間数	120	60

事前・事後指導については、3 年次に「教育実習指導 1(教育実習事前指導)」1 単位、4 年次に「教育実習指導 4」1 単位を設けているほか、3～4 年次に複数回の教育実習ガイダンスを行って、現職教員からの助言を得ながら、教育実習の意義・目的の理解、実習体験の共有化などを図る。また、実習前年度(3 年次)1 月のガイダンスでは感染症の予防について説明し、実習年度(4 年次)4 月のガイダンスでは、学生教育研究災害傷害保険の付帯賠償責任保険に加入させる。

実習中には、専任教員が 1 ないし複数回、実習の視察(挨拶)に赴き、実習の状況を把握するが、遠隔地の場合には専任教員が複数回電話連絡をすることによって実習状況の把握に努める。

成績評価及び単位認定は、実習先からの成績評価をうけ、「教育実習」担当教員が行う。

（2）博物館実習

博物館学芸員課程は、各学科の教員と学務担当副学長で構成される博物館学芸員委員会(テ（3）参照)によって運営される。

「博物館実習」3 単位は、学内における半期(平成 26 年度では、前期 2 クラス、後期 3 クラスを設置)の実習と、学外の博物館・美術館等での館務実習を同一年度に行う。本科目は 4 年次に配当され、3 年次までに「博物館概論」、「博物館学各論 1」(博物館法の「博物館経営論」と「博物館展示論」に相当)、「博物館学各論 2」(博物館法の「博物館資料論」と「博物館資料保存論」に相当)のうち、最低 2 科目を修得していること、及び 3 年次 11 月中旬に行う「博物館実習ガイダンス」に出席することを、4 年次における履修登録の要件とする。

学外実習先については、基本的には学生自身が実習を希望する博物館等に問い合わせるか、博物館等から本学に送られてくる募集書類によって応募するかの方法をとるが、前述の「博物館実習ガイダンス」では、その申込方法について詳細に説明し、それ以外の機会においても教務課が学生の質問に対応する。学外実習を希望する学生は、「博物館実習申込手続依頼書」に学生自身の情報と、実習を希望する博物館等に関する情報を記入して教務課に提出し、最終的には実習先の博物館等(館長)と大学(学長)との間で契約を取り交わす。

学外実習中には、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県と、それ以外でとくに必要と認められる実習先には、専任教員が視察(挨拶)に赴き、学生の実習状況について把握する。

学外実習を終えた学生は、実習先の館長印が捺された実習録を「博物館実習」担当教員に提出し、担当教員はこれと学内の実習の状況を総合的に判断して成績評価を行う。

なお、実習に先立ち感染症の予防の説明を行うこと、実習先が決定した学生には教育研究災害傷害保険の付帯賠償責任保険に加入させることは、教育実習と同様である。

シ　海外語学研修の具体的計画

現在、文学部のすべての学科共通で実施している海外語学研修の研修先は下表の通りであり(参考のため、平成 24 年度の研修期間・参加学生数も記した)、学科新設後も同様に実施することを計画している。

研修校	所在国	研修期間	参加学生数
カリフォルニア大学デイビス校	アメリカ	8/10～9/07	18
サセックス大学	イギリス	8/6～8/31	20
バース大学	イギリス	8/6～8/31	11
ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	8/7～8/24	10
マギル大学	カナダ	8/6～8/24	12
韓国カトリック大学	韓国	8/8～8/28	4
ソウル女子大学	韓国	8/2～8/23	5
輔仁大学	台湾	8/1～8/24	3
パリ・カトリック大学	フランス	8/1～8/24	4
ドレスデン工科大学	ドイツ	8/13～8/31	8
アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ	スペイン	2/9～3/2	7
計			102

海外語学研修にいたるまでのスケジュールを、8 月出発の研修について説明すると、4 月

に語学研修全体説明会・研修校別説明会を実施して参加者を募集、5 月上旬に参加者を決定してあらためて説明会を実施する。6 月には「異文化コミュニケーションセミナー」「危機管理セミナー」を開催し、健康診断と保護者説明会を実施し、7 月下旬には渡航説明会を行う。帰国後は、9 月下旬に帰国報告会を行い、12 月に単位認定の結果を発表する。

海外語学研修に参加し、所定の成績を修めた者は、卒業要件のうちの「関連分野」として 2 単位を認定される。

ス　昼夜開講制を実施する場合の具体的計画(該当せず)

セ　編入学定員を設定する場合の具体的計画

学科新設に伴う編入学定員の設定については、イ（1）及び資料 1 を参照されたい。そこでも述べたように、本学では原則として 2 年次への編入学とする。これは、編入学生にとっては、出身学校と本学とをあわせた修業年限が 5 年になるという不利があるが、他方で本学が 1 年次を基礎課程とし、2 年次以後、専攻課程の学科に所属するという教育課程を有しているため、学科における教育課程の履修という点では、基礎課程から進学してきた学生と同じスタートを切れるという利点を持っている。

編入学者の既修得単位の認定については、出身校の成績証明書に基づき、編入学者が所属することとなる学科が、卒業要件の「全学必修分野」、「専攻分野」、「関連分野」の科目区分に基づき単位認定を行う。ちなみに平成 25 年度編入学者の単位認定数の平均は 43 単位、うち「全学必修分野」8.8 単位、「専攻分野」7.1 単位、「関連分野」27.1 単位である。

本学では 2 年次編入としているため、各学科における履修モデルは、基礎課程から進学してきた学生と同様である。ただし、とくに「全学必修分野」については、必修科目の内容・必要単位数の設定等が、当然出身校と異なるので、年度始めに編入学生のみを対象とした履修ガイダンスを設定し、さらに「全学必修分野」の時間割の組み方については、1 年次生と同内容のガイダンスを行って、履修方法についてきめ細かい指導を行っている。

ソ　2 つ以上の校地において教育を行う場合(該当せず)

タ　社会人を対象とした大学教育の一部を後者以外の場所(サテライトキャンパス)で実施する場合(該当せず)

チ　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室委倍の場所で履修させる場合(該当せず)

ツ　通信教育を実施する場合(該当せず)

テ　管理運営

本学の教学面での管理運営は、「聖心女子大学教授会規程」および「聖心女子大学教授会規程に基づく委員会規程」等により定められている。

（1）教授会

教授会は学長が招集し、その議長となる。構成は、副学長、専任の教授、准教授及び講師をもって組織する。定例教授会は月 1 回開催し、学長が必要と認めるとき、教授会構成員の 3 分の 1 以上から要求のある時には臨時教授会を開催することができる。審議事項は

以下の通りである。

「教育、研究及び授業に関する事項」「教育課程に関する事項」「学生の入学、編入学、転入学、再入学、学士入学、休学、復学、留学、転学、及び退学に関する事項」「科目等履修生、研究生及び外国人留学生に関する事項」「学生の単位認定及び卒業に関する事項」「学生の賞罰に関する事項」「学生の厚生補導に関する事項」「教員の人事に関する事項」「学則その他諸規則に関する事項」「学長の諮問する事項」「その他教授会の必要と認める事項」

（2）「聖心女子大学教授会規程に基づく委員会規程」に基づく委員会

以下の委員会は、教授会に提出する議題の素案を審議するとともに、大学の運営に関する事項のうち、教授会から委託された事項について審議する。

〈学科代表委員会〉

学科代表委員会は、学長、副学長、図書館長、事務局長、本学専任教員のうち各学科の推薦に基づき学長が指名する委員８名をもって構成する、審議事項は以下の通りである。

「教育及び研究に関する事項」「教員の選考、昇任その他人事に関する事項」「学科の予算に関する事項」「学長の諮問する事項」「その他委員会が必要と認める事項」

〈将来構想・評価委員会〉

将来構想・評価委員会は、学長、副学長、図書館長、事務局長、本学専任教員のうち各学科の推薦に基づき学長が指名する委員 8 名をもって構成する、審議事項は以下の通りである。

「大学全般の将来構想及び計画の策定に関する事項」 「文学部各学科専攻（副専攻を含む。以下同じ。）の自己点検・評価項目に関する事項」「聖心女子大学自己点検・評価規程に基づいて学長に提出された文学部各学科専攻の報告の取りまとめに関する事項」「文学部各学科専攻の自己点検・評価活動の見直しに関する事項」「文学部各学科専攻の自己点検・評価結果の取り扱いに関する事項」 「その他委員会が必要と認める事項」

〈教務委員会〉

教務委員会は、学務担当副学長、本学専任教員のうち各学科の推薦に基づき学長が指名する委員８名をもって構成する、審議事項は以下の通りである。

「教育課程（カリキュラム）の編成及び履修に関する事項」「教育内容及び教育方法の改善（ファカルティ・ディベロップメントを含む）に関する事項」「教育課程実施の年間計画に関する事項」「授業、定期試験及び授業時間割の編成に関する事項」「学生の学科・専攻の所属に関する事項」「学生の転科に関する事項」「学生の成績評価及び単位認定に関する事項」「学生の卒業認定に関する事項」「科目等履修生及び研究生に関する事項」「他大学との単位互換及び高等学校への授業提供に関する事項」「教員の配置に関する事項」「非常勤

講師枠の配当に関する事項」「その他委員会が必要と認める事項」

〈学生委員会〉

学生委員会は、学生担当副学長、本学専任教員のうち各学科の推薦に基づき学長が指名する委員８名をもって構成する、審議事項は以下の通りである。

「学生の学籍に関する事項」「学生行事、課外活動に関する事項」「学生の生活指導及び新入生オリエンテーションに関する事項」「学生の保健、奨学生選考、アルバイト等福利厚生に関する事項及び奨学生関係諸規定に関する事項」「その他委員会が必要と認める事項」

〈入試委員会〉

入試委員会は、学長、各副学長、入試担当の副学長補佐、事務局長、一般入試(3 教科方式)主査 3 名、及び本学専任教員のうち英語英文学科・日本語日本文学科・史学科を除く各学科の推薦に基づき学長が指名する委員 5 名をもって構成する、審議事項は以下の通りである。

「入学者の選抜方法及び入試制度に関する事項」「入学試験結果の分析に関する事項」「各種入学試験要項及び実施要項に関する事項」「出願資格及び推薦入学推薦基準に関する事項」「入学者選抜関係事務に関する重要事項」「その他委員会が必要と認める事項」

以上の委員会は、原則として毎月 1 回開催し、審議結果については、教授会及び関係する委員会に提案または報告するとともに、審議事項について、委員を通じて各学科及び関係事務部書等に周知する。

（3）その他の管理運営に係る組織

上記のほか、個別規程による委員会等の組織として、以下のものがある。

〈経営会議〉(「経営会議規則」)

聖心女子大学の企画・運営、経営に関する基本方針等を審議する機関として学長のもとに設置する。学長は、経営会議が審議した基本方針等について、教授会に審議付託した後に、学校法人聖心女子学院寄附行為に定める理事会に承認を求めるものとする。構成員は、学長、副学長、図書館長、事務局長。原則として週１回開催する。

＊全学評価委員会は不要だと思います。

〈広報委員会〉(「広報委員会規程」)

本学の大学内外にわたる広報活動全般の企画立案、実施に関する事項を審議・策定する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、副学長のうち学長が指名する者、教授会の推薦に基づき学長が指名する専任教員若干名、学務事務部入学広報課長、企画部長、学長が指名する専任職員若干名。年 4～6 回開催する。

〈キャリア委員会〉(「キャリア委員会規程」)

本学の学生のキャリア支援教育、就職支援、教職等資格取得者の就職支援等に関する重

要事項を審議・策定する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、キャリアセンター長、教授会の推薦に基づき学長が指名する専任教員若干名、学生事務部交流連携課長、学長が指名する専任職員若干名。年 4～6 回開催する。

〈国際化委員会〉(「国際化委員会規程」)

本学の教育、研究上の国際交流の推進及び留学生の派遣、受入に関する重要事項を審議・策定する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、国際センター長、教授会の推薦に基づき学長が指名する専任教員若干名、学生事務部交流連携課長、学長が指名する専任職員若干名。年 4～6 回開催する。

〈図書館委員会〉(「聖心女子大学図書館委員会規程」)

本学図書館の運営方針に関する事項、予算に関する事項、収集方針に関する事項について図書館長の諮問に基づき審議するとともに、図書館と各学科との連絡調整及び図書館利用等に関する事項について審議する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、図書館長、本学専任教員のうち各学科の推薦に基づき学長が指名する委員 8 名、図書館事務部長、図書館長が指名する図書館事務部職員若干名。原則として毎月 1 回開催する。

〈教職課程委員会〉(「教職課程委員会規程」)

本学教職課程の円滑な運営をはかるため、教職課程の教育の計画及び立案に関する事項、教育実習・介護等体験を含む教職課程の教育の実施に関する事項、教職課程の科目の履修及び単位認定に関する事項、教職課程の認定等の申請に関する事項、教職課程の予算及び施設整備に関する事項等について審議する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、学務担当副学長、教育学科から選出された 3 名の委員、その他の各学科から選出された 7 名の委員。年 3～4 回開催する。

〈博物館学芸員課程委員会〉(「博物館学芸員課程委員会規程」)

本学博物館学芸員課程の円滑な運営をはかるため、博物館学芸員課程の教育の計画・実施に関する事項、科目の履修・単位認定に関する事項、予算及び施設整備に関する事項等について審議する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、学務担当副学長、各学科から選出された 8 名の委員。年 1～2 回開催する。

〈日本語教員課程委員会〉(「日本語教員課程委員会規程」)

本学日本語教員課程の円滑な運営をはかるため、日本語教員課程の教育の計画・実施に関する事項、科目の履修・単位認定に関する事項等について審議する。審議結果は、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。委員は、学務担当副学長、日本語日本文学科から選出された 3 名の委員、その他の各学科から選出された 7 名の委員。年 2～3 回開催する。

ト　自己点検・評価

本学では、冒頭に掲げた見学の理念に基づく教育目標を達成し、教育研究水準の向上を図るため、平成 9 年 4 月に「聖心女子大学自己点検・評価規程」を制定し、自己点検・評価の実施体制を整えた。

この体制のもとで毎年行う自己点検・評価を基礎として、公益財団法人大学基準協会の認証評価を受審しており、前回の認証評価は平成 21 年度、次回は平成 28 年度である。

このような自己点検・評価活動は、副学長(評価・大学院担当)のもとに、各学科の委員からなる将来構想・評価委員会(月 1 回開催)と、大学院や事務部署の評価単位の責任者も含めた全学評価委員会(年 3 回程度開催)を中心に行われる。活動の内容は、各年度によって多少異なるが、平成 24 年度においては、①大学基準協会によって示された新点検・評価項目の検討と本学における点検・評価項目の策定、②(新項目に基づく)基盤自己評価の実施、③前回認証評価の際に提示した「到達目標」(平成 20 年度作成)による点検・評価の実施、④『学科専攻別自己点検・評価シート』に基づく点検・評価と、『シート』そのものの見直し、などを行った。その結果は、『聖心女子大学　点検・評価報告書』として大学公式ホームページ上に公開される(TOP ＞ 大学概要 ＞ 情報公開 ＞ 自己点検・評価及び認証評価、http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/grading/)。

また点検・評価活動の結果、見いだされた課題は、上記将来構想・評価委員会をはじめとする各委員会で、検討課題として議論され、毎年秋に策定される年度ごとの事業計画に反映される。

ナ　情報の公表

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動の状況を大学ホームページで公表している。各情報の詳細アドレスは次のとおりである。

①大学の教育研究上の目的に関すること。

・　大学の教育理念

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/rinen.html［TOP＞ 大学概要 ＞ 理念］

・ 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/images/1.pdf ［TOP>情報公開］

②教育研究上の基本組織に関すること。

・ 大学組織図

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/sosiki.html［TOP＞ 大学概要 ＞ 組織図］

・ 学部、学科の名称

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/index.html［TOP＞ 学部案内 ＞ 学部案内トップ_学科専攻一覧/取得できる学位］

・ 大学院研究科、専攻の名称

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/index.html［TOP＞ 大学院案内 ＞ 大学院案内トップ_専攻課程一覧/取得できる学位］

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

・ 教員の一覧及び有する学位と業績 教員の一覧及び有する学位と業績
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/report-x850d/procs/alllist.php [TOP>情報公開]
・ 教員専門分野
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/index.html［TOP > 学部案内 > 学科・専攻案内(2～4 年)_学科専攻ページ内］
・ 教員組織、教員数(年齢構成、職階別)
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP >情報公開 (C)大学基礎データ 内に掲載］
・ 専任教員一人あたりの学生数
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP >情報公開 (C)大学基礎データ 内に掲載］

④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
・ 学部の入学受入れ方針
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/houshin.html［TOP > 大学概要 > 聖心女子大学教育の 3 つの方針(ポリシー)］
・ 学部の入学・編入学定員/収容定員
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP >情報公開 (A)学則 内に掲載］
・ 学部の入学・編入学者数、在籍学生数
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP >情報公開 (C)大学基礎データ 内に掲載］
・ 学部の卒業者数、就職・進学者数（卒業)、就職・進学先等
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/employment/data.pdf［TOP > 就職関連情報 > 進路状況_就職者数等/就職先/進学先 就職者数等］
・ 大学院の入学定員/収容定員
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP >情報公開 (A)大学院学則 内に掲載］
・ 大学院の入学者数、在籍学生数
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP >情報公開 (C)大学基礎データ 内に掲載］
・ 大学院の修了者、就職・進学者数（修了）
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/employment/data.pdf［TOP > 就職関連情報 > 進路状況_就職者数等/就職先/進学先 就職者数等］

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
・ 学部の授業科目名、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/syllabus/2013/［TOP > 学部案内 > 学部案内トップ_授業

計画］

・ 大学院の授業科目名、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/syllabus/2013/［TOP > 大学院案内 > 大学院案内トップ_授業計画］

⑥学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

・ 学位授与方針(ディプロマポリシー)

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/houshin.html［TOP > 大学概要 > 聖心女子大学教育の 3 つの方針(ポリシー) ］

・ 学部の成績評価基準

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/risyu.html［TOP > 学部案内 > 学部案内トップ_学科専攻一覧/取得できる学位_学部成績評価基準］

・ 学部の取得可能な学位

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/index.html［TOP > 学部案内 > 学部案内トップ_学科専攻一覧/取得できる学位］

・ 学部の卒業認定基準

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/risyu.html［TOP > 学部案内 > 学部案内トップ_学科専攻一覧/取得できる学位_卒業要件］

・ 大学院の成績評価基準

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/risyu.html［TOP > 大学院案内 > 大学院案内トップ_専攻課程一覧/取得できる学位_大学院成績評価基準］

・ 大学院の取得可能な学位

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/index.html［TOP > 大学院案内 > 大学院案内トップ_専攻課程一覧/取得できる学位］

・ 大学院の修了認定基準

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/risyu/in_101.pdf［TOP > 大学院案内 > 大学院案内トップ_専攻課程一覧/取得できる学位_修了要件］

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

・ 施設(図書館)

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/library.html［TOP > 図書館］

・ 施設(その他)

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/sisetu.html［TOP > 大学概要 > 施設、設備］

・ 所在地、交通手段

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/access/［TOP > アクセス］

・ 課外活動

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/activity.html［TOP > キャンパスライフ > 課外活動］

⑧授業料、入学料その他大学が徴収する費用に関すること。

・ 学部の授業料等

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/exam/expense.html［TOP > 入試・入学案内 > 学費その他納付金[学部]］

・ 大学院の授業料等

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/exam/g-expense.html［TOP > 入試・入学案内 > 学費その他納付金[大学院]］

・ 学寮費

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/dormitory.html#2［TOP > キャンパスライフ > 学生寮］

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康に係る支援に関すること。

・ 学部の奨学制度

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/scholarship.html［TOP > 学部案内 > 各種制度：奨学制度］

・ 大学院の奨学制度

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/scholarship.html［TOP > 大学院案内 > 各種制度：奨学制度］

・ 進路選択に関する支援

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/employment/［TOP > 就職関連情報 > 就職関連トップ］

・ 留学者支援

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/internationalc.html［TOP > キャンパスライフ > 国際センター］

・ 障害者支援

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/exam/files/syugakushien.pdf［TOP > 入試・入学案内 > 各種入学試験トップ_修学支援願］

・ 学生の心身の健康に係る支援(1)

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/healthc.html［TOP > キャンパスライフ > 保健センター］

・ 学生の心身の健康に係る支援(2)

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/life/counseling.html［TOP > キャンパスライフ > 学生相談室］

⑩その他

・ 学部のカリキュラム

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/index.html［TOP > 学部案内 > 学部案内トップ_各学科専攻のカリキュラム］

・ 大学院のカリキュラム

http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/index.html［TOP > 大学院案内 > 大学院案内トップ_各専攻のカリキュラム］

・　学部の留学制度
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/studyabroad.html［TOP ＞ 学部案内 ＞ 各種制度：交換・推薦留学制度］
・　学部の語学研修制度
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/studytour.html［TOP ＞ 学部案内 ＞ 各種制度：海外語学研修］
・　大学院の委託聴講・留学制度
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/studyabroad.html［TOP＞ 大学院案内 ＞ 各種制度：委託聴講制度・留学制度］
・ 学部で取得できる資格・免許
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/depart/qualification.html［TOP＞ 学部案内 ＞ 資格・免許取得］
・ 大学院で取得できる資格・免許
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/graduate/qualification.html［TOP ＞ 大学院案内 ＞ 資格・免許取得］
・　学則、大学院学則
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP ＞情報公開　(A)学則］
・　財務、事業計画、事業報告
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP ＞情報公開　(B)財務、事業計画、事業報告］
・　大学評価（認証評価）結果および自己点検・評価活動
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/gakusoku.html［TOP ＞情報公開　(C)大学評価（認証評価）結果および自己点検・評価活動］

このほか、大学広報誌「聖心キャンパス」（年4回発行）を通じて、本学の様々な取り組みや行事、学生・教職員・卒業生の活躍等についての広報活動を展開している。
研究活動については、「聖心女子大学論叢」（年 2 回）を刊行するとともに、聖心女子大学学術リポジトリとしてデータベースをホームページで公開し、研究成果の公開に努めている。

ニ　授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

学務担当副学長を議長として、テ（２）に挙げた教務委員会の委員によって FD 協議会が毎月 1 回開かれ、そこで授業内容方法の改善を図るための方策の検討、実施運営、点検を行い、大学として改善すべき課題については、教授会及び関係する委員会に提案または報告する。

FD 協議会のもとで、毎年定期的に行っているおもな取組としては、『「学生による授業評価」に基づく授業報告書』の作成、公開と、FD 研修会がある。

前者は、前期末・後期末に実施する学生対象の授業アンケートに基づき、全専任教員が

担当授業について振り返り、改善すべき点、大学全体として取り組むべき点等を記載した授業報告書を作成、これらをふまえて教務委員が学科ごとの授業報告書を作成し、各教員の授業報告書と学科ごとの授業報告書を集約して、学務担当副学長が『「学生による授業評価」に基づく授業報告書』としてとりまとめるものである。本報告書は、各学科研究室にも配付され、学生の閲覧に供する。なお、非常勤講師については、授業アンケートの結果を学務事務部で集計し、その結果を送付する。

後者は、毎年 1 回、時宜にかなったテーマを FD 協議会で検討し、開催するもので、テーマによっては教員だけでなく職員の出席も促している。平成 24 年度は、発達障害を持つ学生への対応というテーマで、専門の医師を招き講演会を開いた。

ヌ　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）教育課程内の取組について

本学では、創立以来、キリスト教の精神とリベラルアーツの伝統のもとに、全人的な人間形成を教育目標としており、専攻課程分野では、所属学科の授業のみならず、関連科目としてさまざまな分野から学ぶことができるようカリキュラムが構成されている。その一つとして、先端的な科学知識と幅広い教養を身につけ、現代社会に主体的に関わり、地球的課題を共に考えることのできる責任感と実践力を養成することを目指して、「総合現代教養科目」が設置されている。この分野に『女性とキャリア形成』※、『キャリアデザイン入門A』※、『キャリアデザイン入門B』※を開講し、低学年のキャリア形成支援の充実を目指している。また、複雑で多様化した現代社会と人間のあり方を考える人間関係学科に、『職業社会学 1』※、『職業社会学 2』※、『キャリア形成の社会学』※を開講し、さまざまな糸口からキャリア形成を考える体制を整えているのと同時に、これらの科目は他学科の学生にも関連科目として受講可能としており、全学的に開放されている。

※ 資料 9 参照

（2）教育課程外の取組について

キャリアセンターにおいて、就職、進学、資格取得等の支援を行っている。民間企業・公務員・教員就職、大学院等進学希望者対象に、それぞれ各種ガイダンスおよび講座やセミナーを行い、そのプログラム（資料 10「キャリア形成支援プログラム」参照）はキャリアセンター職員によるものや外部講師を招くもの、卒業生によるもの等多彩である。

（3）適切な体制の整備について

本学のキャリア支援教育、就職支援、教職等資格取得者の就職支援等に関する重要事項を審議・策定するためにキャリア委員会が設置されている。また、進路支援の実行部署として学生事務部にキャリアセンターを置いている。キャリアセンターは、教員のセンター長を筆頭に職員が進路支援にあたっているが、センター内にキャリアカウンセラーを常駐させ、キャリアセンターの学生指導とカウンセリングとの連携を円滑にし、学生一人ひとりの状況に合わせた進路指導を実施している。

本学のキャリア形成支援は、生涯にわたって自分が社会とどのように関わるか、そのために何を学んでいこうとするのか、主体的に考える力を重視しており、幅広い視野と専門知識を育む学科教育・課外活動を含めた大学 4 年間の全ての活動と一体となって、自分らしい価値観と主体性の形成を支援している。

なお、平成 19・20 年度には専任教員 8 名による学内共同研究「聖心女子大学におけるキャリア教育の指導プランの開発」(報告書は平成 21 年 6 月刊行)が行われ、これが上記指導体制の整備、充実に大きく寄与したことを付言しておく。

（設置の趣旨添付資料一覧）

資料１　学科新設による入学定員・編入学定員・収容定員の新旧対照表
資料２　平成 21~25 年度各入試の志願者・合格者・入学者の推移
資料３　（新学科設置関係）専攻決定者数推移
資料４　平成 21~25 年度の編入学入試の志願者数・合格者数の推移
資料５－１　平成 23・24 年度就職内定率の状況
資料５－２　学校基本調査との就職率・進学率の比較
資料６　大学ガイドブック（就職状況）
資料７　平成 24 年度ジェネラルレクチャー
資料８　教育実習受入承諾書　　（※承諾書に代えて一覧表を添付）
資料９　シラバス（キャリア関係科目）
資料１０　キャリア形成支援プログラム
資料１１　聖心女子大学教育職員就業規程

資料1

学科新設による入学定員・編入学定員・収容定員の新旧対照表

現行の入学定員・編入学定員・収容定員						新学科組織における入学定員・編入学定員・収容定員				
学科	専攻	コース(「専攻」)	入学定員	編入学定員	収容定員	学科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
英語英文学科			90	6	378	英語英文学科		90	6	378
日本語日本文学科			45	6	198	日本語日本文学科		45	6	198
歴史社会学科			170	6	698	（歴史社会学科廃止）				
		史学コース	(55)			史学科		55	2	226
		人間関係コース	(55)			人間関係学科		55	2	226
		国際交流コース	(60)			国際交流学科		60	2	246
哲学科			40	4	172	哲学科		40	4	172
教育学科	初等教育学専攻		20	—	80	教育学科	初等教育学専攻	40	—	160
	教育・心理学専攻		85	8	364					
		教育学コース	(30)				教育学専攻	25	4	112
		心理学コース	(55)			心理学科		55	4	232
			450	30	1890			465	30	1950

＊　コースの入学定員は学内的な配分。

資料2

平成21～25年度の各入試の志願者・合格者・入学者の推移

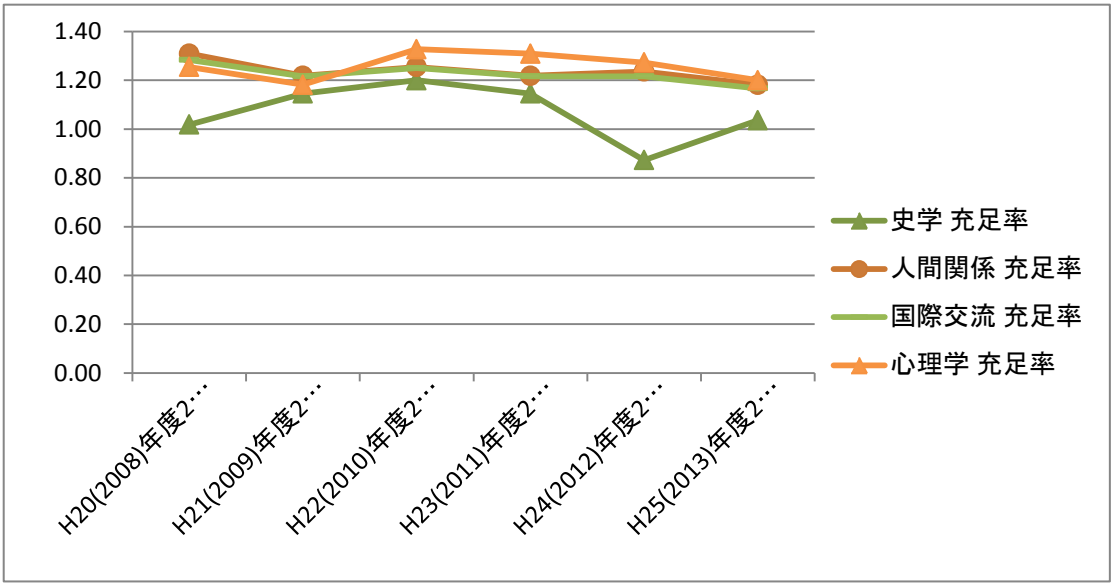
入試種別		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	倍率の平均
一般入試 (3教科方式)	志願者	1087	1036	786	862	878	4649
	合格者	425	406	358	389	372	1950
	倍率	2.6	2.6	2.2	2.2	2.4	2.4
	入学者	129	109	115	118	84	
一般入試 (総合小論文方式＊)	志願者	104	78	51	48	111	392
	合格者	20	17	12	10	31	90
	倍率	5.2	4.6	4.3	4.8	3.6	4.4
	入学者	18	16	11	10	25	
アドミッションズ・ オフィス入試	志願者	175	152	129	134	114	704
	合格者	79	78	72	66	68	363
	倍率	2.2	1.9	1.8	2	1.7	1.9
	入学者	79	78	71	66	68	
一般入試小計	志願者	1366	1266	966	1044	1103	5745
	合格者	524	501	442	465	471	2403
	倍率	2.6	2.5	2.2	2.2	2.3	2.4
	入学者	226	203	197	194	177	
姉妹校推薦	志願者	146	154	153	138	165	
	合格者	146	154	153	138	165	
	入学者	146	154	153	138	165	
指定校推薦	志願者	163	167	166	167	167	
	合格者	163	167	166	167	167	
	入学者	163	167	166	167	167	
留学生入試	志願者	12	8	11	10	11	
	合格者	10	5	8	6	8	
	入学者	10	4	6	5	6	
帰国子女入試	志願者	62	51	64	57	50	
	合格者	38	38	34	33	28	
	入学者	7	7	8	8	8	
計	志願者	1749	1646	1360	1416	1495	
	合格者	881	865	803	809	838	
	入学者	552	535	530	512	523	

＊　平成24年度までは「プレゼンテーション方式」で実施。

資料3

（新学科設置関係）専攻決定者数推移							
		H20(2008)年度2年次生	H21(2009)年度2年次生	H22(2010)年度2年次生	H23(2011)年度2年次生	H24(2012)年度2年次生	H25(2013)年度2年次生
史学	決定者数	56	63	66	63	48	57
	定員割合	55	55	55	55	55	55
	充足率	1.02	1.15	1.20	1.15	0.87	1.04
人間関係	決定者数	72	67	69	67	68	65
	定員割合	55	55	55	55	55	55
	充足率	1.31	1.22	1.25	1.22	1.24	1.18
国際交流	決定者数	77	73	75	73	73	70
	定員割合	60	60	60	60	60	60
	充足率	1.28	1.22	1.25	1.22	1.22	1.17
心理学	決定者数	69	65	73	72	70	66
	定員割合	55	55	55	55	55	55
	充足率	1.25	1.18	1.33	1.31	1.27	1.20

入学定員に対する決定者数の充足率



資料4

平成21～25年度の編入学入試の志願者数・合格者数の推移

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	5年間計
英語英文学科	志願者	8	12	11	12	15	58
	合格者	7	6	7	7	12	39
日本語日本文学科	志願者	1	2	3	0	3	9
	合格者	1	2	1	—	3	4
歴史社会学科	志願者	22	21	13	17	11	84
	合格者	11	9	5	6	5	36
哲学科	志願者	1	2	1	1	1	6
	合格者	1	2	0	1	1	5
教育学科	志願者	13	14	10	7	9	53
	合格者	7	5	4	5	4	25
計	志願者	45	51	38	37	39	210
	合格者	27	24	17	19	25	112

資料5-1

平成23・24年度就職内定率の状況

	平成23年度			平成24年度	
	2/1現在	3/31現在	4/1現在	2/1現在	3/31現在
文部科学省・厚生労働省調査 全大学	80.5		93.6	81.7	
文部科学省・厚生労働省調査 全私立大学	78.2		92.9	80.1	
文部科学省・厚生労働省調査 全私立大学女子	77.1		91.7	80.3	
聖心女子大学		92.7			93.2

文部科学省・厚生労働省調査は、平成25年3月15日付報道発表「平成24年度大学等卒業
予定者の就職内定状況調査(2月1日現在)」による。

資料5-2

学校基本調査との就職率・進学率の比較

	平成22年度		平成23年度	
	就職率	進学率	就職率	進学率
学校基本調査　社会科学	68.5	3.8	70.1	3.3
学校基本調査　人文科学	62.0	5.9	64.3	5.5
学校基本調査　教育	72.7	7.4	72.9	7.3
聖心女子大学　歴史社会学科	75.7	6.7	80.5	4.9
聖心女子大学　教育学科	72.2	7.1	69.0	8.7

就職状況

資料6

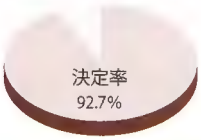
聖心女子大学は、多くの新聞・雑誌などのメディアに取り上げられているとおり、就職状況の極めて良い女子大学のひとつです。

2012年3月卒業生 就職決定率

雇用情勢に影響されることなく、例年高い水準を堅持しています。このような結果が出せるのも、自ら道を切り拓く主体性を重視した指導を行っているからです。

＊大学生：80.5%
＊大学生男子：80.7%
＊大学生女子：80.3%
＊私立大女子：77.1%

参考：大学等卒業予定者の就職内定率
文部科学省・厚生労働省発表
（2012年2月1日現在）



決定した進路への満足度

93.8%の学生が「決定した進路に満足している」と感じています。一人ひとりを大切にし、自己実現を支援する本学の理念が、着実に具現化されているあかしです。

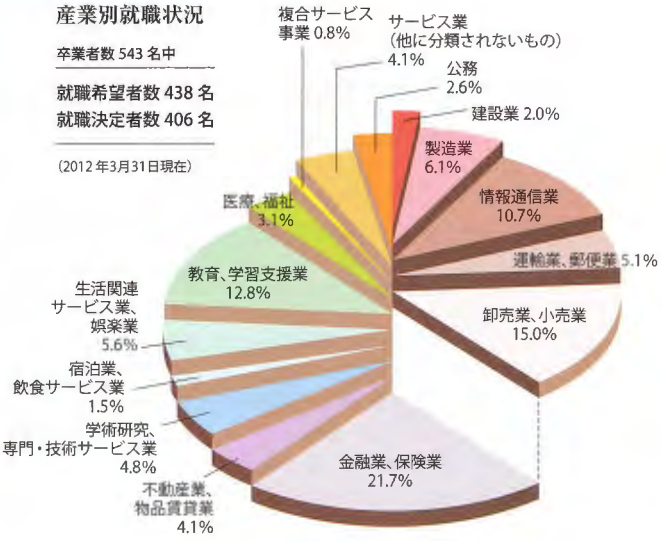
本学独自の
「進路決定プロセス調査」
より。

有効サンプル　436名
肯定回答　409名

産業別就職状況

卒業者数543名中
就職希望者数438名
就職決定者数406名

（2012年3月31日現在）



参考：	2011年3月卒業	2010年3月卒業	2009年3月卒業
就職決定率	92.4%	95.7%	99.1%
就職希望者数	434名	371名	427名
卒業者数	553名	506名	530名

学科専攻別就職先

専攻によって就職可能な産業が左右されることはありません。
学生たちは過去の就職実績にとらわれず、キャリアプランや「やりがい」にこだわり、企業へ積極的にアプローチしています。

英語英文学科
英語英文学専攻

※2007年度に英語英文学科に改称

製造業
トヨタ自動車
林商事
本田技研工業
明星産商

情報通信業
アイ・ティー・シーネットワーク
アイスタイル
住商情報システム
セプテーニ・ホールディングス
中央出版
東北新社
日本情報通信開発
ハースト婦人画報社
ベストセラーズ
北海情報サービス

運輸業、郵便業
ANAウイングス
ANAエアサービス東京
ジェイアール東海パッセンジャーズ
鈴与
スターフライヤー
全日本空輸
東京急行電鉄

卸売業、小売業
ジャパンビバレッジホールディングス
ジョルジオアルマーニジャパン
住友商事
セブン－イレブン・ジャパン
双日
双日エアロスペース
タウ
タルガ
蝶理
ネッツトヨタ東名古屋
ポロ・ラルフローレン
マーベラスビューティージャパン
丸紅
三越伊勢丹
八木通商

金融業、保険業
SMBC日興証券
イオンクレジットサービス
伊藤忠オリコ保険サービス
静岡銀行
第一生命保険
東京海上日動火災保険
日本生命保険
野村證券
みずほ銀行
みずほフィナンシャルグループ
三井住友信託銀行
三菱東京UFJ銀行
明治安田生命保険
横浜銀行

不動産業、物品賃貸業
静銀リース
東銀リース
三井住友ファイナンス&リース
三菱UFJ不動産販売

学術研究、専門・技術サービス業
潤美坂井法律事務所
エスプール
コスモ・ピーアール
御堂筋法律事務所
メディアポート成田

生活関連サービス業、娯楽業
JTB首都圏
エイチ・アイ・エス
近畿日本ツーリスト
タレントユニオン
日本中央競馬会
米国三越
ラビアンローゼ

教育、学習支援業
小林聖心女子学院

医療、福祉
オールライフメイト
銀座近視クリニック
東北大学病院
東品川クリニック
双葉の園

サービス業（他に分類されないもの）
日本バレエ協会

公務
経済産業省

日本語日本文学科
日本語日本文学専攻

製造業
サンエー・インターナショナル
三澤

情報通信業
トランスコスモス
ワークスアプリケーションズ

運輸業、郵便業
一畑電気鉄道

卸売業、小売業
岡谷鋼機
サマンサタバサジャパンリミテッド
トリンプ・スタッフ・サービス
日新堂
横浜冷凍

金融業、保険業
野村證券
むさし証券
明治安田生命保険
りそなホールディングス

学術研究、専門・技術サービス業
エン・ジャパン

宿泊業、飲食サービス業
大戸屋
シャノアール
人形町　今半
メルヘン

生活関連サービス業、娯楽業
不二ビューティ

教育、学習支援業
啓進塾
光塩女子学院日野幼稚園
聖心女子大学
不二聖心女子学院

医療、福祉
IMSグループ
高柴歯科ホワイト
エッセンスさつき橋

複合サービス事業
郵便局

サービス業（他に分類されないもの）
セコム

公務
小田原市役所
静岡市立図書館
守屋市役所

歴史社会学科
史学専攻

建設業
オンテックス
前田建設工業
三井ホーム

製造業
理研計器

情報通信業
ブレイズ
北港情報サービス

運輸業、郵便業
ヤマト運輸

卸売業、小売業
ガリバーインターナショナル
京都きもの友禅
国分
ファイブフォックス

金融業、保険業
イオン保険サービス
第一生命保険
野村證券
三浦藤沢信用金庫
三菱東京UFJ銀行
りそなホールディングス

不動産業、物品賃貸業
旭化成不動産レジデンス
みずほ信不動産販売
三井不動産住宅サービス
三菱UFJ不動産販売

学術研究、専門・技術サービス業
虎ノ門総合法律事務所
日本書道美術館
渡邉敦子法律事務所

生活関連サービス業、娯楽業
エイチ・アイ・エス
ボディワークホールディングス

教育、学習支援業
学習院大学
久保田一竹美術館
ケイライン
東京大学
獨協医科大学

医療、福祉
井口歯科医院
ケア21

サービス業(他に分類されないもの)
SMBCインターナショナル
オペレーションズ
セントラル警備保障
日和サービス

公務
藤沢市役所

歴史社会学科
人間関係専攻

建設業
竹中工務店

製造業
アース製薬
アステラス製薬
ジュングループ
バーンデストジャパンリミテッド
ブリヂストン
希松
三菱電機

情報通信業
Hachette Collections Japan
グリー
ゲイン
札幌テレビ放送
マクロミル
ミールソリューションズ

運輸業、郵便業
エミレーツ航空

卸売業、小売業
アイア
サンエー・インターナショナル
鈴与商事
天満屋
ナカミツモータース
ビームス
ベイシア
三貴
三菱商事
ユナイテッドアローズ
洋菓子舗ウエスト

金融業、保険業
池田泉州銀行
静岡県信用農業協同組合
日本生命保険
野村證券
みずほ証券
みずほフィナンシャルグループ
三井住友海上火災保険
三井生命
東京プラネット営業室
三菱UFJ信託銀行
三菱東京UFJ銀行
ゆうちょ銀行

不動産業、物品賃貸業
三井不動産レジデンシャル
レクシオ

学術研究、専門・技術サービス業
インターリスク総研
東京コンサルト
ホンダコムテック
マイナビ

生活関連サービス業、娯楽業
JTB法人東京
スタジオアリス
ディアーズ・ブレイン

教育、学習支援業
梅が丘天使幼稚園
順天堂
東京女子医科大学

複合サービス事業
津久井郡農業協同組合

サービス業(他に分類されないもの)
SMBCセンターサービス
シミックエムビーエスエス

公務
御殿場市役所
横浜市

歴史社会学科
国際交流専攻

建設業
イズミ・コンストラクション

製造業
IHI
TDK-EPC
日揮
プロクター・アンド・
ギャンブル・ジャパン
森永製菓

情報通信業
FBS
SCSK
グーグル
ジュピターテレコム
ティーガイア
日本経済新聞社
日本テレビ放送網
富士ソフト
ラックホールディングス

運輸業、郵便業
アートコーポレーション
全日本空輸

卸売業、小売業
NAAリテイリング
P&Gマックスファクター
アルカ
稲畑産業
豊通ケミプラス
バイオスペース
ファミリーマート
三越伊勢丹ホールディングス
リンク・セオリー・ジャパン

金融業、保険業
さわやか信用金庫
信金中央金庫
千葉銀行
東京海上日動火災保険
トヨタファイナンス
みずほ銀行
三菱東京UFJ銀行
明治安田生命保険

不動産業、物品賃貸業
サウスホームレントバイ
サンフロンティア不動産
シービー・リチャードエリス
明治商工

学術研究、専門・技術サービス業
アクセンチュア
朝日中央綜合法律事務所
インソース
宇宙航空研究開発機構

生活関連サービス業、娯楽業
フォーシス アンド カンパニー

医療、福祉
ベネッセスタイルケア

サービス業(他に分類されないもの)
インテリジェンス
高齢・障害・求職者雇用支援機構
電通ワークス
ベストケア

公務
座間市

哲学科
哲学専攻

製造業
セオリー

情報通信業
エヌ・ティ・ティコムウェア
オービック
京セラ丸善システムインテグレーション
ソフトバンク
トリム
報知新聞社

運輸業、郵便業
全日本空輸

卸売業、小売業
天満屋
三貴

金融業、保険業
岡三証券
芝信用金庫
ジャックス
日本生命保険
三菱UFJニコス
三菱東京UFJ銀行

宿泊業・飲食サービス業
山田屋

生活関連サービス業、娯楽業
サントリーパブリシティサービス

教育、学習支援業
学習院大学
浜松海の星高等学校

医療、福祉
学研ココファン

サービス業(他に分類されないもの)
パーソナル

教育学科
教育学専攻

建設業
竹中工務店

製造業
信越化学工業
ロッテ

情報通信業
エヌエイチケイ帯広放送局
オズビジョン
日本システムブレーンズ

卸売業、小売業
クロスカンパニー
ゼビオ
セブン－イレブン・ジャパン
ナイス
長瀬カラーケミカル
パナソニックテレコム

金融業、保険業
三菱東京UFJ銀行

学術研究、専門・技術サービス業
トーマツイノベーション

生活関連サービス業、娯楽業
エイチ・アイ・エス
劇団ポプラ

教育、学習支援業
埼玉県教育委員会
埼玉県南部教育委員会
聖セシリア小学校
星美学園小学校
聖母の騎士幼稚園
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
ドルトンスクール東京
みょうじょう幼稚園
若葉会幼稚園

サービス業(他に分類されないもの)
インテリジェンス

公務
さいたま市

教育学科
初等教育学専攻

卸売業、小売業
岩谷産業

金融業、保険業
西日本シティ銀行

宿泊業・飲食サービス業
富士屋ホテル

教育、学習支援業
EIS international Pre-school
追手門学院
カリタス小学校
向南幼稚園
白百合学園小学校
真珠幼稚園
清泉小学校
東京都教育委員会
沼津マリア幼稚園
初音丘幼稚園
双百合幼稚園
みょうじょう幼稚園
横浜市教育委員会
臨海セミナー

教育学科
心理学専攻

資料6

建設業
サンライト
大和ハウス工業

製造業
ディーエムエス
リファクトリィ

情報通信業
鈴与シンワート
ヤマトシステム開発

運輸業、郵便業
全日本空輸
日本通運

卸売業、小売業
京王ストア
ツツミ
三貴
三峰

金融業、保険業
AIU保険会社
損害保険ジャパン
第一生命相互保険
東京海上日動火災保険
野村證券
北洋銀行
三井住友海上火災保険
三井住友海上きらめき生命保険
三井住友銀行
三井住友トラストグループ
三菱東京UFJ銀行
明治安田生命保険
ゆうちょ銀行

生活関連サービス業、娯楽業
ベネフィット・ワン

教育、学習支援業
美しが丘子どもの家
星槎国際高等学校
福井学習センター
千葉県教育委員会
横浜YMCA

医療、福祉
羽生福祉会
児童養護施設ふれんど

サービス業(他に分類されないもの)
セコム

* 2012年3月31日現在・順不同　個人情報保護のため掲載許可をいただいた方のみ掲載しています。
* 企業名等は、学生本人からの報告に基づいています。

進学先
2012年3月31日現在

学習院大学大学院
慶応義塾大学法科大学院
聖心女子大学大学院
成徳大学短期大学部
大正大学大学院
東京学芸大学
東京歯科大学
東北大学 公共政策大学院
東北大学大学院
東洋英和女学院大学大学院
一橋大学 国際・公共政策大学院
早稲田大学大学院

留学先
2012年3月31日現在

ELSマンハッタン校(アメリカ)
The University of Edinburgh(イギリス)
University of Manchester(イギリス)
慶熙大学校 国際教育院(韓国)

資料7

平成24年度 ジェネラルレクチャー

1年次生対象　前期10回 後期6回 計16回

回	月日	演　題	講師名	講師肩書き
1	4 月 11 日	ジェネラルレクチャーとは	深沢 了子	1年次センター長
		聖心女子大学のルーツを探る	Sr.宇野 三恵子	聖心女子学院理事長
2	4 月 18 日	「大人」への第一歩を踏み出した皆さんへ	岩上 真珠	学生担当副学長
		グローバル化時代に必須の多角的視点 ーカンボジア古典舞踊家を通して考えるー	Sr.岡崎 淑子	学長
3	4 月 25 日	避難訓練と防災講話	渡邉 啓・署員	渋谷消防署恵比寿出張所長
4	5 月 9 日	大学生という時間	國分 牧子 佐々木 良子 新井 有紀子	学生相談室カウンセラー
5	5 月 16 日	今も受け継がれる創立者の思い ー21 世紀のフィリピンでー	Sr.有田 由佳	聖心会 ﾌｨﾘﾋﾟﾝ聖ﾏｸﾞﾀﾞﾚﾅ･ｿﾌｨｱ基金代表
6	5 月 23 日	災害、犯罪、流行、消費、メディア･･･研究テーマは目の前にある ー社会心理学への招待ー	小城 英子	人間関係専攻准教授
7	5 月 30 日	薬物乱用防止講話	中別府 太郎	警視庁組織犯罪対策第五課
8	6 月 13 日	学生時代の出会いによって拓けた NPO への道	神 直子	NPO 法人ﾌﾞﾘｯｼﾞ・ﾌｫｰ・ﾋﾟｰｽ代表理事
9	6 月 20 日	心に響け《よきたより》 ー聖書の新しい翻訳を通じて見えてきたことー	山浦 玄嗣	医療法人隆玄･山浦医院･理事長、医学博士
10	6 月 27 日	専攻説明会	佐々木 恵介 各学科専攻教員	学務担当副学長
11	10 月 3 日	古典文学を楽しむー『伊勢物語』の場合ー	山口 佳紀	本学名誉教授
12	10月10日	居場所の力	西野 博之	川崎市子ども夢ﾊﾟｰｸ所長 NPO 法人ﾌﾘｰｽﾍﾟｰｽたまりば理事長
13	10月17日	グリム童話集の読み方	畠山 寛	国際交流専攻専任講師
14	10月31日	自分の道を選ぶときーチャンスは何度も訪れる！ー	柴田 真希	JICA 地球ひろば 市民参加協力促進課 NGO 人材育成コーディネーター
15	11月21日	本学での学びと卒業後の活動	大槻 奈巳	キャリアセンター長
16	11月28日	副専攻について	佐々木 恵介	学務担当副学長
		2年次生へ向けて	岩上 真珠	学生担当副学長

資料８

教育実習承諾一覧表

学校名	教育実習の受け入れに係る 学科・課程等及び免許の種類	教育実習受入 予定人数
札幌聖心女子学院中・高等学校	文学部史学科　高校１種地理歴史 文学部教育学科教育学専攻　高校一種公民 文学部心理学科　高校一種公民	５名
聖心女子学院中・高等科	文学部史学科　高校１種地理歴史 文学部教育学科教育学専攻　高校一種公民 文学部心理学科　高校一種公民	１０名
不二聖心女子学院中・高等学校	文学部史学科　高校１種地理歴史 文学部教育学科教育学専攻　高校一種公民 文学部心理学科　高校一種公民	１０名
小林聖心女子学院中・高等学校	文学部史学科　高校１種地理歴史 文学部教育学科教育学専攻　高校一種公民 文学部心理学科　高校一種公民	１０名
東京都教育委員会	文学部史学科　高校１種地理歴史 文学部教育学科教育学専攻　高校一種公民 文学部心理学科　高校一種公民	－

聖心女子大学
University of the Sacred Heart

コード	AR31-01		
授業科目	女性とキャリア形成	単位	2
副題			
副専攻	A2		
特記事項	※2011年度以前入学者：指定領域		

学習目標

女性の生涯を通じたキャリア形成について、学生が自身のはたらき方や生き方について考えていくために必要な基礎知識および情報収集の方法を得ることを目的とする。女性が仕事をすることや生活することに対する現状や課題および社会の制度について、統計データを読み解きながら理解を深める。

授業概要

女性の生涯を通じた生き方をキャリアとしてとらえる基本的な考え方について学ぶ。女性をとりまく日本の実態や世界の状況について学び、男女共同参画政策や女性の生き方や働き方に大きな影響を及ぼす法制度・社会制度の現状と課題や支援について検討する。さまざまな社会事象もとりあげながら、とくに、男女共同参画に関わる統計や政策動向について学ぶ。

テキスト

『男女共同参画統計データブック2012』(ぎょうせい)。そのほか、資料等を配布する。

参考文献・課題図書

『女性とライフキャリア』矢澤澄子(編著)勁草書房
『人口減少社会のライフスタイル』(放送大学)そのほか適宜授業の中で紹介する。

受講生への要望

積極的な受講態度。女性とキャリアをめぐる時事情報や施策等について日ごろから問題意識を持つこと。欠席した場合には、その回のノート等を入手し、内容を理解しておくことが必須である。

評価方法

授業内での講義内容についてのミニテスト、期末試験によって評価する。

自由記述欄

授業計画

1. 生涯を通じたキャリアについて考える 1
2. 女性の生き方・はたらき方の変遷
3. 女性と家族
4. 女性と仕事
5. 生涯を通じたキャリアについて考える 2
6. 労働力と就業
7. 労働力と就業
8. 企業と男女共同参画
9. 多様な就業形態
10. 多様な就業形態
11. セクシュアルハラスメント、女性に対する暴力
12. 意思決定
13. コミュニティーと女性
14. グローバリゼーションと女性
15. まとめ

聖心女子大学
University of the Sacred Heart

コード	AS30-01		
授業科目	キャリアデザイン入門 A	単位	2
副題			
副専攻	A2		
特記事項			

学習目標

本講座では、「働くこと」の様々な意味と意義を考えながら、自らの特性、経験、希望等を深く掘り下げ、それらを生かす自分らしいキャリアのあり方を探ります。また、自分のキャリアは社会や世界と切り離せない関係にあること、そして他者との語り合いが、自らを知り、自らの道を切り開く大きな助けとなることにも目を向けていきます。

授業概要

皆さんには、自分が卒業後に進む道が見えているでしょうか？アメリカには「シニア・パニック」という言葉があります。大学4年生（seniors）が経験する不安定な精神状態を指すのですが、アメリカの若者にとっても、長年慣れ親しんだ「学生」という身分を脱ぎ捨てて、「社会人」としてのキャリアをスタートすることは、身のすくむような体験なのです。と同時に、日本にやってくる留学生の多くが、日本の大学生の就職活動を目の当たりにして、日本人の仕事観やキャリアのあり方に驚きや疑問を感じるようです。この講座では「働くことの意味」を多角的に考えますが、現代日本で働くときに私たちが直面する問題や困難に目を向けながら、（世界は言うに及ばず）日本社会の中にも多彩な働き方が存在することを、人々の「語り」や「体験」を通して理解していきます。そして最終的に考えるのは、皆さん自身の未来のキャリアであり、それをどのようにデザインしていくかです。

テキスト

毎回、資料を配付する予定です。

参考文献・課題図書

授業内で指示、紹介します。

受講生への要望

参加・体験型の授業です。学びのプロセスを充分に楽しむためにも、学習者としての責任を果たすためにも、教員やクラスメート、調査を通して出会う人々とのコミュニケーションを大切にし、主体的に考え、積極的に授業に参加しましょう。学習目標達成のためにも出席は必須です。どうしても出られない事情がある場合は事前に教員に相談・連絡してください。なお、履修者の人数やバックグラウンドに応じて、授業計画に若干の変更を加えることがあります。

授業計画

1. イントロダクション：「仕事」とは、「働く」とは、「キャリア」とは？
2. ディスカッション：あなたはどんな風に働いていく（いきたい）のか？
3. レクチャー＆ディスカッション：「働くこと」の意味
4. レクチャー＆ディスカッション：働く人を取り囲む諸問題
5. レクチャー＆ディスカッション：ジェンダーとキャリア①
6. レクチャー＆ディスカッション：ジェンダーとキャリア②
7. レクチャー＆ディスカッション：「語り」としてのキャリア
8. ゲスト・スピーカー：先輩女性のライフ・ストーリーから学ぶ
9. 仕事についてのインタビュー〈Ⅰ〉：「雇用されて働く人」をインタビューしてみよう
10. 仕事についてのインタビュー〈Ⅰ〉：報告とディスカッション
11. レクチャー＆ディスカッション：多様な働き方を考える
12. 仕事についてのインタビュー〈Ⅱ〉：「雇用という形態を取らずに働く人」をインタビューしてみよう
13. 仕事についてのインタビュー〈Ⅱ〉：報告とディスカッション
14. レクチャー＆ディスカッション：「良い仕事」とは何か
15. まとめ

評価方法

平常点（出席＋講義・ディスカッションへの参加と貢献度）とレポートで評価します。評価方法の詳細は、初回授業で配布するシラバスを参照してください。

自由記述欄

聖心女子大学
University of the Sacred Heart

コード	AS30-02
授業科目	キャリアデザイン入門 B
単位	2
副題	
副専攻	A2
特記事項	

学習目標

女性の就業や生き方の現状と課題、可能性について理解し、自分自身の将来の働き方・暮らし方について具体的な展望をもつ

授業概要

あなたは大学卒業後の働き方や暮らし方について、考えたことがありますか？ 自分はどんな仕事に向いているのか、出産・育児と仕事の両立は大変そう、働くってどういうことなのか…考えてみるといろいろな疑問があると思います。この授業では女性の就業や生き方の現状について考える基礎を多方面から提供します。また、キャリアデザインの実習や社会人の体験談を聴く機会を設けるなどして、将来について具体的に考えることを支援します。

テキスト

特になし。毎回、資料プリントを配布する

参考文献・課題図書

授業内で指示する

受講生への要望

将来の働き方や暮らし方は、講義を聴いているだけでは見えてきません。ぜひ積極的に発言し、参加してください。

評価方法

授業への参加態度とレポートによって評価する

自由記述欄

授業計画

1. オリエンテーション キャリアの概念
2. ワークショップ 私の未来を考える
3. ワークショップ 10年間のライフプラン
4. 女性と仕事の歴史と現状—男女雇用機会均等法、M字型就労
5. 働き方・暮らし方の変化Ⅰ 企業で進む女性活用
6. 働き方・暮らし方の変化Ⅱ 男性の育児休業
7. 先輩女性の体験談に学ぶ 働くこと・働き続けることⅠ
8. 先輩女性の体験談に学ぶ 働くこと・働き続けることⅡ
9. 妊娠・出産・育児の現状と課題
10. キャリアインタビューⅠ 目的・対象・方法の確認
11. キャリアインタビューⅡ 文章化・まとめの方法
12. キャリアインタビューⅢ 発表・討議
13. ワークライフバランスについて考えるⅠ
14. ワークライフバランスについて考えるⅡ
15. まとめ

聖心女子大学
University of the Sacred Heart

コード　EE32-01
授業科目　職業社会学1　　単位　2
副題
副専攻　A2・E1
特記事項

学習目標

職業は人々にとって、社会にとって、どのような意味をもっているのか理解することを目的とする。特に、女性が職業をもって働くということについて理解を深める。

授業概要

職業・労働に関する社会学的研究について講義するとともに、レポートやディスカッションを通じて学生が自ら考え、理解を深める。

テキスト

なし

参考文献・課題図書

佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学ー変貌する働き方[改訂版]』有斐閣ブックス2012年
上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房2012年
武石恵美子編著『女性の働きかた』ミネルヴァ書房2009年

受講生への要望

授業への積極的な参加を望む。

評価方法

レポートとテスト

自由記述欄

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「職業」の意味—人々は仕事に何を求めるか
3. 産業社会と女性の就業
4. 日本的雇用システムと女性①
5. 日本的雇用システムと女性②
6. 仕事と家庭生活①
7. 仕事と家庭生活②
8. 柔軟な働き方①
9. 柔軟な働き方②
10. 非正規雇用と女性①
11. 非正規雇用と女性②
12. 労使関係①
13. 労使関係②
14. グループ・ディスカッション
15. レポート発表、ディスカッション

聖心女子大学
University of the Sacred Heart

コード　EE33-01
授業科目　職業社会学2　単位　2
副題
副専攻　A2・E1
特記事項

学習目標

「働くこと」の意味について主体的に考える。特に「働くこと」のなかに埋め込まれている格差について「ジェンダー（社会的・文化的に規定された男性性・女性性）」の視点から考えていく。

授業概要

授業は、1.講義、2.対話（ワールドカフェスタイル）、3.リアクションペーパーの記入という3つの柱で進めていく。
①働く場の実態について理解し、ジェンダーを取り巻く現実への認識を深め、職場構造についてジェンダーの視点から考える。
②「働くこと」において、どのように男女で基準や役割が異なっているか、その結果、収入・機会・能力・評価においてどのような差が生じているのかについて理解する。
③自分の「働き方」について考えていく力をつける。

テキスト

授業中に随時、指示・紹介する。

参考文献・課題図書

授業中に随時、指示・紹介する。

受講生への要望

本授業は通常の聞く→書く→帰るではなく、聴く→話す→考える→書く→読む→考える･･･のサイクルで回していきます。授業に主体的かつ積極的に参加することが求められます。

評価方法

平常点（出席、授業への参加態度）
レポート点によって評価する。

自由記述欄

授業計画

1. オリエンテーションⅠ「働く、仕事、職業、会社とは？」
2. オリエンテーションⅡ「ジェンダーとは？」
3. ＜働く場の実態①＞学校から職場へⅠ：「就社」社会の形成
4. ＜働く場の実態①＞学校から職場へⅡ：2000年以降
5. ＜働く場の実態②＞雇用・処遇システムⅠ：人と職務
6. ＜働く場の実態②＞雇用・処遇システムⅡ：多様な評価システム
7. 役割理論から考えるⅠ：役割とジェンダー
8. 役割理論から考えるⅡ：職場におけるジェンダー
9. 性別役割分業の歴史と現在
10. ＜働く場の実態③＞職場の構造Ⅰ：多様化する雇用形態
11. ＜働く場の実態③＞職場の構造Ⅱ：ジェンダー構造
12. 労働市場の変容
13. キャリア論から考えるⅠ：キャリアとは何か
14. キャリア論から考えるⅡ：キャリアデザイン論から考える
15. 職業と働き方：ワークライフバランス、新しい働き方

聖心女子大学
University of the Sacred Heart

コード	EE40-01
授業科目	キャリア形成の社会学
単位	2
副題	（質的調査法によるキャリア形成へのアプローチ）
副専攻	E1
特記事項	

学習目標

本講義では、質的調査の立案から方法、分析にいたるまでの一連の具体的手法をキャリア形成へのアプローチという視点から学ぶ。①量的調査法と比較して質的調査法を評価し、②質的データの収集方法および分析方法として特にドキュメント分析法とインタビュー調査法について学び、③分析方法としてライフヒストリー分析について学ぶことによって、キャリア形成のあり方を理解する方法、分析のあり方を身につける。

授業概要

一般に、「キャリア」とは個人が職業上たどっていく経歴のこと、「キャリア形成」とは仕事の経験を重ねることで自分の職業能力を育てていくことだが、近年「職業」のみをキャリアの要素としてとらえるのではなく、社会的な活動を含めた生涯を通じたキャリア形成のあり方を考える必要があると、言われている。この授業は、女性のキャリア形成のあり方を社会構造の面からとらえた上で、自分自身の生涯を通したキャリア形成のあり方を考えることを目的とする。

テキスト

独立行政法人　国立女性教育会館　ブックレット5
『夢をかたちにした女性たち』 2007年3月

参考文献・課題図書

必要に応じて随時、指示・紹介する。

受講生への要望

グループワークを行ったり、インタビューに出向いたりするので、積極的に自分で考え、自分で行動する学生のみ受講して欲しい。出席必須。やむを得ない事情で欠席する場合は担当教員に欠席理由を説明する連絡を入れること。連絡なしの欠席が続いた場合は履修放棄と見なすこともあるので注意すること。

評価方法

グループワーク・ディスカッションへの貢献、インタビュー調査に基づいたレポートによって総合的に評価する。

授業計画

1. 質的調査法と量的調査法について：質的調査法と量的調査法の利点・不利な点について考える。どんな対象に適しているか、どんな利点と不利な点があるかについて学ぶ。
2. 質的調査法について：質的調査法のデータ収集方法と分析の方法についての概説。どのようなデータ収集方法、分析の方法があるかを学ぶ。
3. キャリア形成へアプローチするための手法について：キャリア形成にアプローチするためのデータの収集方法と分析手法を考える。
4. ライフヒストリー分析について　その1：ライフヒストリーを取材する・分析するとは、聞き手・語り手の関係について学ぶ。
5. ライフヒストリー分析について　その2：ライフヒストリー分析の事例とその知見について学ぶ。
6. ドキュメント分析法について　その1：ドキュメント分析の手法と事例について学ぶ。
7. ドキュメント分析法について　その2：女性の人生とキャリア形成について書かれた事例集を用いて、キャリア形成のあり方をドキュメント分析およびライフヒストリー分析の手法を用いて分析する（第1回）。
8. ドキュメント分析法について　その3：女性の人生とキャリア形成について書かれた事例集を用いて、キャリア形成のあり方をドキュメント分析およびライフヒストリー分析の手法を用いて分析する（第2回）。
9. インタビュー調査法について　その1：インタビュー調査の手法と注意点を学ぶ。
10. インタビュー調査法について　その2：調査票の作成を行い、聞き取り調査法の実践を学ぶ。
11. インタビュー調査法について　その3：働いている女性にインタビュー調査を実施する。
12. インタビュー調査法について　その4：インタビュー調査で得られたデータを分析し、キャリア形成のあり方を考える（第1回）。
13. インタビュー調査法について　その5：インタビュー調査で得られたデータを分析し、キャリア形成のあり方を考える（第2回）。
14. 参与観察、会話分析について：参与観察、会話分析を行った研究の対象・方法・その知見について学ぶ。
15. まとめ

自由記述欄

キャリア形成支援プログラム

課外での支援活動

	1年次	2年次	3年次	4年次
就職対策	● TOEIC® 説明会　● TOEIC®IP テスト学内団体受験会　● 留学希望者のための進路ガイダンス ● 外国人留学生のための就職ガイダンス　● Uターン就職ガイダンス　● 日本経済新聞の読み方セミナー ● ソーシャルメディア活用ガイダンス	● 進路ガイダンス　● ハナカフェ(卒業生との座談会)　● キャリアセミナー	● 就職ガイダンス ● 就職活動スタートセミナー＜入門編＞ ● 就職活動スタートセミナー＜実践編＞ ● 卒業生情報取得説明会 ● OG 訪問マナー講座 ● 就職活動のためのメイクアップ講座 ● 就活イメージアップセミナー ● 4年次生による就職活動報告会 ● 4年次生による就職活動よろず相談会 ● 業界研究セミナー ● 採用試験対策講座「一般常識」「SPI」等 ● エントリーシート対策講座 ● エントリーシート課題添削講座 ● SPI 模擬テスト ● 面接／グループディスカッション対策講座 ● 就職活動実践セミナー ● バーチャル採用試験セミナー	● 就職応援セミナー
教員採用試験対策	● 小学校教員セミナー　● 幼稚園教員セミナー		● 教職ガイダンス　● 第2回公立学校教員採用試験説明会 ● 第1回公立学校教員採用試験説明会 ● 4年次生による教員就職報告会 ● 4年次生による教員就職相談会 ● 教員採用試験模擬試験 ● 教員採用試験対策講座 ● 教員採用試験対策面接基礎講座	
公務員支援	● 公務員ガイダンス　● 各種公務員セミナー　● 公務員座談会(合格体験談会 & 情報交換会)　● 公務員講座 ● 国際公務員ガイダンス & 座談会　● 公務員就職相談会			
進学支援	● 大学院合格体験談(報告会)　● 大学院進学相談会		● 進学ガイダンス	
その他の進路支援	● キャリアカウンセリング ● インターンシップガイダンス ● TOEIC® 講座 ● 簿記3級講座 ● BATIC(国際会計検定)講座		● パネルディスカッション「先輩に聞こう！わたしの仕事　わたしの未来」 ● キャリアセンターツアー ● 資格取得ガイダンス ● 簿記学習経験者のための「英文会計」体験講義 ● 適職探究セミナー(学生会役員会と共催)	

別記様式第3号 （その1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　員　名　簿						
学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現職（就任年月）
－	学長	ｵｶｻﾞｷ ﾖｼｺ 岡崎　淑子 〈平成26年4月＞		Ph.D. in Ethnomusicology（米国）		聖心女子大学文学部学長（平成23年10月）

別記様式第3号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	フカイ マサウミ 深井　雅海 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		日本史演習Ⅱ－3 日本史演習Ⅰ 日本近世史Ⅰ 史料講読Ⅱ 日本史演習Ⅲ－3 卒業論文	3通 2通 2･3･4通 3･4通 4通 4通	4 2 4 4 4 8	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
2	専	教授	アジオカ トオル 味岡　徹 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		卒業論文 世界史文献講読Ⅰ－2 中国近代史 世界史文献講読Ⅰ－1 世界史文献講読Ⅱ－2 世界史文献講読Ⅱ－1 世界史演習Ⅱ－1 アジア史入門 外国史概説Ⅰ－2 世界史演習Ⅲ－1	4通 2後 2･3･4通 2前 2後 2前 3通 1前 2･3･4前 4通	8 1 4 1 2 2 4 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
3	専	教授	ササキ タカシ 佐々木　隆 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日本史演習Ⅲ－4 日本史演習Ⅱ－4 卒業論文 日本史概説Ⅱ 日本史演習Ⅰ 日本近現代史Ⅰ 日本史概説Ⅰ	4通 3通 4通 2･3･4後 2通 2･3･4通 2･3･4前	4 4 8 2 2 4 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
4	専	教授	コイズミ トオル 小泉　徹 ＜平成26年4月＞		文学修士※		世界史文献講読Ⅳ－1 世界史文献講読Ⅳ－2 世界史演習Ⅰ－1 世界史演習Ⅱ－4 ヨーロッパ近代史Ⅰ 卒業論文 外国史概説Ⅱ－2 世界史演習Ⅰ－2 世界史演習Ⅲ－4	2前 2後 2前 3通 2･3･4通 4通 2･3･4後 2後 4通	2 2 0.7 4 4 8 2 0.7 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
5	専	教授	ササキ ケイスケ 佐々木　恵介 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 日本史演習Ⅲ－1 日本古代史Ⅰ 卒業論文 日本史演習Ⅱ－1 日本史演習Ⅰ	1前 4通 2･3･4通 4通 3通 2通	2 4 4 8 4 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
6	専	教授	インデ タダオ 印出　忠夫 ＜平成26年4月＞		文学修士 D.E.A （仏国）		世界史文献講読Ⅲ－1 卒業論文 世界史演習Ⅱ－2 世界史文献講読Ⅰ－2 世界史文献講読Ⅲ－2 世界史演習Ⅲ－2 世界史文献講読Ⅰ－1 外国史概説Ⅱ－1 ヨーロッパ中世史Ⅰ	2前 4通 3通 2後 2後 4通 2前 2･3･4後 2･3･4通	2 8 4 1 2 4 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
7	専	准教授	クワナ エイコ 桑名　映子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		ヨーロッパ現代史Ⅰ 世界史演習Ⅱ－3 外国史概説Ⅱ－3 世界史文献講読Ⅴ－2 世界史演習Ⅰ－1 基礎課程演習 世界史文献講読Ⅴ－1 世界史演習Ⅰ－2 卒業論文 世界史演習Ⅲ－3	2･3･4通 3通 2･3･4後 2後 2前 1前 2前 2後 4通 4通	4 4 2 2 0.7 2 2 0.7 8 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
8	専	准教授	ヤマグチ アキヒコ 山口　昭彦 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学） Docteur （仏国）		基礎課程演習 世界史演習Ⅰ－2 世界史文献講読Ⅵ－1 卒業論文 外国史概説Ⅰ－1 西アジア近代史 世界史演習Ⅲ－5 アジア史入門 世界史演習Ⅰ－1 世界史文献講読Ⅵ－2 世界史演習Ⅱ－5	1前 2後 2前 4通 2･3･4前 2･3･4通 4通 1前 2前 2後 3通	2 0.7 2 8 2 4 4 1 0.7 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
9	専	講師	イシハラ ヒイロ 石原　比伊呂 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		日本中世史Ⅰ 日本史演習Ⅱ－2 日本史演習Ⅰ 日本史演習Ⅲ－2 卒業論文	2･3･4通 3通 2通 4通 4通	4 4 2 4 8	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成25年4月）	6日
10	兼担	教授	サクマ カツヒコ 佐久間　勝彦 ＜平成26年4月＞		学士 （教育学）		基礎課程演習	1前	2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
11	兼担	教授	ヨネザワ カツオ 米澤　克夫 ＜平成26年4月＞		文学修士※		倫理学概論Ⅱ 哲学演習Ⅰ 哲学概論Ⅲ 倫理学演習Ⅰ 哲学・倫理学特講Ⅱ 哲学・倫理学特講Ⅰ 倫理学概論Ⅰ 哲学概論Ⅳ	2･3･4前 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 4 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成18年4月）	6日
12	兼担	教授	デッカー メリー アン DECKER M. ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		Contemporary American Culture(2) Contemporary American Culture(1)	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成2年4月）	3日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
13	兼担	教授	セキバ チカコ 関場　誓子 ＜平成26年4月＞		文学士		基礎課程演習 災害と人間 アメリカ外交論 国際交流入門 政治学概論[含国際政治]2 国際交流特殊講義 国際交流実習1 政治学概論[含国際政治]1	1前 1･2･3･4前 2･3･4通 1前 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4通	2 0.2 4 0.2 4 2 0.1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成8年4月）	6日
14	兼担	教授	ナカイ コウジ 仲居　宏二 ＜平成26年4月＞		文学士		基礎課程演習 国際交流実習1 国際コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション(1) 異文化間コミュニケーション(2) メディア・コミュニケーション特講2 国際交流入門	1前 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4後 3･4通 1前	2 1 4 2 2 4 0.2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成24年4月）	6日
15	兼担	教授	サクマ ラファエラ SAKUMA R. ＜平成26年4月＞		Licence es Letters （仏国）		1年フランス語(オラル) フランス語コミュニケーションⅡ(2) フランス語コミュニケーションⅡ(1) 2年フランス語(会話)	1通 3後 3前 2通	6 2 2 4	3 1 1 2	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成23年4月）	3日
16	兼担	教授	ハラオカ フミコ 原岡　文子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本文学史Ⅱ 古典文学研究Ⅲ 古典文学研究Ⅳ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成5年4月）	6日
17	兼担	教授	スズキ オトシ 鈴木　乙史 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		質的調査法1 社会調査入門 人間関係入門 人格心理学1 災害と人間	2･3･4前 2前 1前 2前 1･2･3･4前	2 0.5 0.3 2 0.2	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
18	兼担	教授	ヤマダ ススム 山田　進 ＜平成26年4月＞		文学修士		基礎課程演習 対照言語学Ⅰ 日本語学概論Ⅱ 日本語学概論Ⅰ	1前 3･4前 2･3･4後 2･3･4前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
19	兼担	教授	ナガノ カズオ 永野　和男 ＜平成26年4月＞		教育学士		情報ネットワーク演習 教育学入門	2･3･4前 1･2前	2 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成12年4月）	6日
20	兼担	教授	イワカミ マミ 岩上　真珠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		社会調査入門 家族社会学1 家族社会学2 人間関係入門	2前 2後 2･3･4後 1前	0.5 2 2 0.3	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
21	兼担	教授	ミタ ハルヨシ 三田　晴義 ＜平成26年4月＞		博士 （理学）		プログラム入門 情報処理入門 国際交流入門	2･3･4通 2･3･4通 1前	4 8 0.2	1 2 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成9年4月）	6日
22	兼担	教授	タカダ ユミ 高田　遵湖 ＜平成26年4月＞		文学修士		運動学3 教育学入門 体育運動学 運動学1	2･3･4後 1･2前 1通 2･3･4前	1 0.2 4 1	1 1 2 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
23	兼担	教授	キタムラ カズオ 北村　和夫 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		日本教育史2 教育原理 教育実習2 教育実習1 教育学入門 日本教育史1	2･3後 2･3前 4通 4通 1･2前 2･3前	2 2 2 2 0.2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
24	兼担	教授	カワカミ キヨフミ 川上　清文 ＜平成26年4月＞		教育学博士		発達心理学特講7 心理学入門 発達心理学1	3･4前 1前 2･3･4前	2 0.3 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成10年4月）	6日
25	兼担	教授	マーシャ クラッカワー KRAKOWER M. ＜平成26年4月＞		M. A. Med （米国）		メディア・コミュニケーション入門1 1年英語 メディア・コミュニケーション特講1 英語の世界 国際交流実習1	1･2前 1通 3･4後 1前 2･3･4前	2 4 2 0.2 0.1	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
26	兼担	教授	ササキ マサヒロ 佐々木　正宏 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		臨床心理学特講2 基礎課程演習 心理学入門	2･3･4後 1前 1前	2 2 0.3	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
27	兼担	教授	ブッシェル ブレンダ アイリーン BUSHELL B. ＜平成26年4月＞		M. A. Med		英語の世界	1前	0.2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
28	兼担	教授	トミハラ マユミ 冨原　眞弓 ＜平成26年4月＞		Docteur en Philosophie （仏国）		宗教思想史Ⅰ 西洋近代哲学史Ⅱ 宗教思想史Ⅱ 倫理学概論Ⅲ 哲学概論Ⅱ 哲学演習Ⅳ 哲学概論Ⅰ 倫理学概論Ⅳ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
29	兼担	教授	オガワ サユリ 小川　早百合 ＜平成26年4月＞		文学修士※		国際交流実習1 1年日本語2 国際交流入門 1年日本語1 基礎課程演習	2･3･4前 1後 1前 1前 1前	0.1 2 0.2 4 2	1 2 1 2 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
30	兼担	教授	アダチ マミ 安達　まみ ＜平成26年4月＞		文学修士※		英語文化論[児童文学]2 英語文化論[翻訳実践]2 英語文化論[翻訳実践]1 英語の世界	2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前 1前	2 2 2 0.2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
31	兼担	教授	カワツ マコト 川津　誠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		近代文学研究Ⅳ 日本文学史Ⅵ 近代文学研究Ⅲ 基礎課程演習	2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
32	兼担	教授	カワベ タカコ 河邉　貴子 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		幼児教育原論 教育学入門	2･3前 1･2前	2 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
33	兼担	教授	ミズシマ ナオキ 水島　尚喜 ＜平成26年4月＞		教育学修士		基礎課程演習 災害と人間 人間学習4 教育学入門	1前 1･2･3･4前 3･4前 1･2前	2 0.2 2 0.2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
34	兼担	教授	ナカガワ トモコ 中川　僚子 ＜平成26年4月＞		文学修士※ M.A. in Modern Literature （英国）		英文学史概説1 英語の世界 英文学史概説2 基礎課程演習	1･2前 1前 1･2後 1前	4 0.2 4 2	2 1 2 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
35	兼担	教授	スガワラ ケンスケ 菅原　健介 ＜平成26年4月＞		文学博士		災害と人間 対人社会心理学1 人間関係入門 社会統計学 社会調査入門 社会心理学特講1 基礎課程演習	1･2･3･4前 2前 1前 2･3･4後 2前 2･3･4前 1前	0.2 2 0.3 2 0.5 2 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
36	兼担	教授	タカハシ マサノブ 高橋　雅延 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		認知心理学特講7 認知心理学特講6 基礎課程演習 心理学史 心理学入門	3･4後 3･4前 1前 2･3･4後 1前	2 2 2 2 0.3	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
37	兼担	教授	フセ ミキオ 扶瀬　幹生 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		英語文化論［文学と電子メディア］1 英語文化論［文学と電子メディア］2 英語の世界 基礎課程演習 2年英語2(リーディング)	2前 2後 1前 1前 2通	2 2 0.2 2 4	1 1 1 1 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
38	兼担	教授	サワノ ユキコ 澤野　由紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		教育学入門 比較教育学特講 比較教育学 西洋教育運動史	1･2前 3･4後 3･4通 2･3後	0.2 2 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
39	兼担	教授	ハヤシ リュウジロウ 林　龍次郎 ＜平成26年4月＞		文学修士		英文法 英語学概論 英語学特講3－2 英語の世界 英語学特講3－1 2年英語2(リーディング)	2･3前 1･2通 2･3･4後 1前 2･3･4前 2通	2 4 2 0.2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
40	兼担	教授	ウエダ セイジ 植田　誠治 ＜平成26年4月＞		博士 （医学）		体育運動学 災害と人間 健康社会学 健康な生活と健康科学 運動学2 教育学入門	1通 1･2･3･4前 2･3･4前 1･2･3･4前 2･3･4後 1･2前	2 0.2 2 2 1 0.2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
41	兼担	教授	オオツキ ナミ 大槻　奈巳 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		社会調査入門 人間関係入門 職業社会学1 キャリア形成の社会学 職業社会学2	2前 1前 2後 2･3･4前 2･3･4前	0.5 0.3 2 2 2	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
42	兼担	教授	ムカイ タカヨ 向井　隆代 ＜平成26年4月＞		Ph.D. (Psychology) （米国）		臨床心理学特講7 心理学入門	2･3･4前 1前	2 0.3	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
43	兼担	教授	カトウ ヨシミツ 加藤　好光 ＜平成26年4月＞		Dr. phil. （ドイツ）		ビートルズの詩と音楽 哲学演習Ⅲ ギリシア語Ⅱ 基礎課程演習	1･2･3･4前後 2･3･4通 2･3･4通 1前	4 4 4 2	2 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
44	兼担	教授	カトウ カズヤ 加藤　和哉 ＜平成26年4月＞		文学修士※		災害と人間 キリスト教学概論Ⅰ 哲学史演習Ⅰ キリスト教学概論Ⅱ 現代を考える 基礎課程演習 キリスト教学演習Ⅱ キリスト教学Ⅰ－5 倫理学演習Ⅱ	1･2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通 2･3･4前 1･2･3･4前 1前 2･3･4通 1･2通 2･3･4通	0.2 2 4 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
45	兼担	教授	ナガタ ヨシユキ 永田　佳之 ＜平成26年4月＞		教育学博士		教育学入門 人間学習8 災害と人間 教育社会学概論1 基礎課程演習 教育社会学概論2	1･2前 3･4前 1･2･3･4前 2･3後 1前 2･3後	0.2 2 0.2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
46	兼担	教授	ヤマダ ユキ 山田　由紀 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 2年英語2(リーディング) 英語の世界	1前 2通 1前	2 2 0.2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
47	兼担	教授	オオツカ ミホ 大塚　美保 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本文学史Ⅴ 近代文学研究Ⅰ 近代文学研究Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
48	兼担	教授	フカサワ ノリコ 深沢　了子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅷ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
49	兼担	准教授	イマガワ キョウコ 今川　恭子 ＜平成26年4月＞		修士※ （音楽）		基礎課程演習 人間学習3 教育学入門	1前 3･4後 1･2前	2 2 0.2	1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
50	兼担	准教授	クボタ トモトシ 久保田　知敏 ＜平成26年4月＞		文学修士※		中国古典への招待 中国思想への招待 国際交流実習1 中国文学概論Ⅰ 国際交流入門 1年中国語(文法) 中国文学概論Ⅱ	1･2･3･4後 1･2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 1前 1通 2･3･4後	2 2 0.1 2 0.2 4 2	1 1 1 1 1 2 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
51	兼担	准教授	フルカワ ジュンコ 古川　純子 ＜平成26年4月＞		経済学修士※		国際交流入門 経済学概論［含国際経済］ 経済理論入門 国際経済学2	1前 2・3・4通 2・3・4通 2・3・4後	0.2 4 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
52	兼担	准教授	ミウラ ノゾミ 三浦　望 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		旧約聖書学Ⅰ キリスト教学Ⅱ－14 哲学演習Ⅶ－1 哲学演習Ⅶ－2 新約聖書学 キリスト教学演習Ⅰ キリスト教学Ⅰ－6 旧約聖書学Ⅱ	2・3・4前 3・4通 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4通 2・3・4通 1・2通 2・3・4後	2 4 2 2 4 4 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
53	兼担	准教授	マツウラ セイコ 松浦　聖子 ＜平成26年4月＞		法学修士※		国際交流実習1 法律学［含国際法］ 現代家族法 憲法1 国際交流入門	2・3・4前 1・2・3・4通 2・3・4通 1・2・3・4前 1前	0.1 4 4 4 0.2	1 1 1 2 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
54	兼担	准教授	ナガノ ミカ 長野　美香 ＜平成26年4月＞		博士 （人文科学）		基礎課程演習 日本思想史学演習Ⅰ 日本倫理思想史Ⅱ 倫理学演習Ⅲ 日本倫理思想史Ⅰ キリスト教学Ⅰ－9 災害と人間	1前 2・3・4通 2・3・4後 2・3・4通 2・3・4前 1・2通 1・2・3・4前	2 4 2 4 2 4 0.2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
55	兼担	准教授	コヤナギ トモカズ 小柳　智一 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本語史概説Ⅱ 日本語史概説Ⅰ 日本語学研究Ⅱ	2・3・4後 2・3・4前 2・3・4前	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
56	兼担	准教授	イシイ ヨウコ 石井　洋子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会人類学）		人間関係入門 社会調査入門 国際交流実習1 質的調査法2 文化人類学1 基礎課程演習	1前 2前 2・3・4前 2・3・4前 2後 1前	0.3 0.5 0.1 2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
57	兼担	准教授	ナガイ ジュンイチ 永井　淳一 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		心理学入門	1前	0.3	1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成22年4月）	6日
58	兼担	准教授	コシロ エイコ 小城　英子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		人間関係入門 社会調査入門 社会心理学特講2 基礎課程演習 災害と人間 マス・コミュニケーション論 マスコミ社会心理学1	1前 2前 3・4前 1前 1・2・3・4前 2・3・4前 2後	0.3 0.5 2 2 0.2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
59	兼担	講師	シバタ レイコ 柴田　玲子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		心理学入門 臨床心理学特講4 基礎課程演習	1前 2・3・4前 1前	0.3 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成20年4月）	6日
60	兼担	講師	ハマグチ トシコ 濱口　壽子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Liguistics （米国）		1年英語 基礎課程演習 英語の世界	1通 1前 1前	4 2 0.2	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成15年4月）	6日
61	兼担	講師	ハタ コウイチロウ 畑　浩一郎 ＜平成26年4月＞		Docteur en Litterature et civilisation Franqaises （仏国）		基礎課程演習 国際交流入門 フランスの社会と文化(1) 1年フランス語(文法) フランスの社会と文化(2) 国際交流実習1	1前 1前 2・3・4前 1通 2・3・4後 2・3・4前	2 0.2 2 4 2 0.1	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
62	兼担	講師	カミイシ マナブ 上石　学 ＜平成26年4月＞		修士※ （文学）		美学・芸術学概論Ⅰ 美学・芸術学概論Ⅱ 美学・芸術学演習Ⅱ	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4通	2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成14年4月）	6日
63	兼担	講師	フジイ アキコ 藤井　彰子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Linguistics （米国）		英語の世界	1前	0.2	1	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
64	兼担	講師	ハタケヤマ ヒロシ 畠山　寛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		ドイツの社会と文化(1) 1年ドイツ語(文法) ドイツの社会と文化(2) 国際交流入門 キリスト教学Ⅱ－16	2・3・4前 1通 2・3・4後 1前 3・4通	2 4 2 0.2 4	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
65	兼担	講師	スギモト ジュンコ 杉本　淳子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学） M.A. in Phonetics （英国）		1年英語 英語の世界	1通 1前	4 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成17年4月）	6日
66	兼担	講師	ニシハラ ナオエ 西原　直枝 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		教育学入門 基礎課程演習	1・2前 1前	0.2 2	1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
67	兼担	講師	キシモト タケシ 岸本　健 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		心理学入門 発達心理学特講6 発達心理学2	1前 3・4前 2・3・4前	0.3 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
68	兼任	講師	ツジ マチコ 辻　眞智子 ＜平成27年4月＞		学芸学士		書道Ⅱ 書道Ⅰ	2・3・4後 2・3・4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
69	兼任	講師	シミズ チョウコ 清水　窕子 ＜平成26年4月＞		文学修士		キリスト教学Ⅰ－3	1・2通	4	1	日本基督教団 牧師 （昭和63年12月）	
70	兼任	講師	サイグサ タカユキ 三枝　昂之 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		文芸創作入門	2・3・4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
71	兼任	講師	ナカヤマ ノリコ 中山　紀子 ＜平成26年4月＞		準学士		体育運動学	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
72	兼任	講師	カワカミ ショウシュウ 河上　正秀 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		体育運動学 哲学・倫理学特講Ⅶ 哲学・倫理学特講Ⅷ	1通 2・3・4前 2・3・4後	4 2 2	2 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
73	兼任	講師	イトウ ショウジ 伊東　照司 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東南アジア史	2・3・4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
74	兼任	講師	キムラ ヤスコ 木村　恭子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
75	兼任	講師	タシロ オサム 田代　攻 ＜平成29年4月＞		教育学士		教職実践演習(中学・高校)	4後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
76	兼任	講師	ミウラ ショウコ 三浦　笙子 ＜平成27年4月＞		Ph. D. in English （米国）		米文学史概説1 米文学史概説2 英作文1 英作文2	2･3･4前 2･3･4後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和59年4月）	
77	兼任	講師	ナカムラ マサハル 中村　雅治 ＜平成27年4月＞		国際学修士※		2年フランス語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
78	兼任	講師	マスブチ ユキオ 増渕　幸男 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育学概論 教育哲学2	2通 2･3前	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
79	兼任	講師	スズキ ヨウコ 鈴木　庸子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(リーディング) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
80	兼任	講師	ヤマグチ サトコ 山口　里子 ＜平成26年4月＞		Doctor of Mninistry （米国）		ジェンダー学2－1	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
81	兼任	講師	ニシハラ カズ 西原　和 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	花柳和舞踊研究所	
82	兼任	講師	ミヤケ ユキオ 三宅　幸夫 ＜平成28年4月＞		M. A. （ドイツ）		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
83	兼任	講師	アマキ ユキヒコ 天城　靱彦 ＜平成28年4月＞		法学士		メディア・コミュニケーション特講8－2	3･4後	2	1	東京TVフォーラム実行委員会 委員長 （平成23年7月）	
84	兼任	講師	マツバラミチコ 松原　美智子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	
85	兼任	講師	ナカムラ レイコ 中村　玲子 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成5年4月）	
86	兼任	講師	イソヤマ タダシ 礒山　雅 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キリスト教音楽 キリスト教学Ⅱ－8	2･3･4通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
87	兼任	講師	イワモト トシロウ 岩本　俊郎 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		教職入門 道徳教育の研究 西洋教育史2	2･3前 2･3後 2･3前	4 2 2	2 1 1	立正大学心理学部 教授 （平成14年4月）	
88	兼任	講師	ハヤシ マキコ 林　眞幾子 ＜平成26年4月＞		体育学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
89	兼任	講師	マスダ フミコ 増田　文子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
90	兼任	講師	タナカ ゼンイチロウ 田中　善一郎 ＜平成27年4月＞		博士 （政治学）		現代国際政治Ⅴ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
91	兼任	講師	アオキ モトユキ 青木　誠之 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年ドイツ語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
92	兼任	講師	ウワノ ゼンドウ 上野　善道 ＜平成27年4月＞		文学修士		言語学概論Ⅰ 言語学概論Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
93	兼任	講師	サカモト カナメ 坂本　要 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本民俗学	2･3･4通	4	1	筑波学院大学経営情報学部 教授 （平成8年4月）	
94	兼任	講師	ワダ ミチコ 和田　迪子 ＜平成27年4月＞		文学士		人格心理学特講4 交流分析概論	3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
95	兼任	講師	ヤキシタ マサハル 柳下　正治 ＜平成26年4月＞		工学士		現代社会と環境	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
96	兼任	講師	ハットリ シンジ 服部　進治 ＜平成27年4月＞		文学士		社会科教育法1	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
97	兼任	講師	オオヌキ ヤスオ 大貫　康雄 ＜平成26年4月＞		文学士		地球化時代のNGO	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
98	兼任	講師	モリ ヒデヨシ 森　秀善 ＜平成27年4月＞		文学士		特別活動	2･3後	4	2	青山学院大学文学部 講師 （平成19年4月）	
99	兼任	講師	アキヤマ テルフミ 秋山　光文 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東洋美術史Ⅱ 東洋美術史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	お茶の水女子大学文教育学部 教授 （平成19年4月）	
100	兼任	講師	マツカタ ユキコ 松方　由紀子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成8年4月）	
101	兼任	講師	スエザキ マスミ 末崎　真澄 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		博物館実習 博物館学各論1	4前後 2･3･4通	12 4	4 1	（財）馬事文化財団馬の博物館 理事（学芸部長） （平成19年10月）	
102	兼任	講師	コンドウ タク 近藤　卓 ＜平成28年4月＞		学術博士		人間学習11	3･4前	2	1	東海大学文学部 教授 （平成13年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
103	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐｶﾞｸ 佐藤　研 ＜平成27年4月＞		Dr.theol . （スイス）		キリスト教学Ⅱ－11 キリスト教学特講Ⅱ	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	立教大学文学部 教授 （平成3年4月）	
104	兼任	講師	ﾀｸﾎﾞ ｷｮｳｼﾞ 田窪　恭治 ＜平成28年4月＞		教育学士		人間学習10	3･4前	2	1	多摩美術大学芸術学部 客員教授 （平成24年4月）	
105	兼任	講師	ｻﾜﾀﾞ ﾑﾂﾖ 澤田　むつ代 ＜平成27年4月＞		文学博士		博物館学各論2	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
106	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾃﾂﾛｳ 渡部　哲郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通	4	1	横浜商科大学商学部 教授 （平成4年4月）	
107	兼任	講師	ｷﾀﾓﾄ ﾏｻｱｷ 北本　正章 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育学特講2	2･3･4前	2	1	青山学院大学教育人間科学部 教授 （平成8年4月）	
108	兼任	講師	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝ 松村　純 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国） Master in Education （カナダ）		2年英語2(リーディング) 英語文化論[英語と聖書]1 英語文化論[英語と聖書]2 1年英語	2通 2･3･4前 2･3･4後 1通	2 2 2 4	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
109	兼任	講師	ﾀｼﾛ ﾋﾛｼ 田代　博 ＜平成28年4月＞		理学士		教育実習指導4(中学・高校) 教育実習指導1(中学・高校) 社会・地理歴史科教育法2 社会・地理歴史科教育法1	4後 3後 3後 3前	1 1 2 2	1 1 1 1	筑波大学附属高等学校 教諭 （平成9年4月）	
110	兼任	講師	ﾈｼﾞﾒ ｹﾝｲﾁ 根占　献一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通	4	1	学習院女子大学国際文化交流学部 教授 （平成10年4月）	
111	兼任	講師	ﾄﾘｲ ｱｷｵ 鳥居　明雄 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本の伝統文化	1･2･3･4後	2	1	都留文科大学文学部 教授 （平成元年10月）	
112	兼任	講師	ｺｳﾉｼ ｻﾁｴ 神野志　幸恵 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅱ 日本文学史Ⅰ 古典文学研究Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
113	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｾｲｲﾁﾛｳ 鈴木　誠一郎 ＜平成26年4月＞		学士 （経済学）		博物館情報・メディア論 視聴覚教育2 視聴覚教育1	2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2	1 1 1	筑波大学図書館情報ﾒﾃﾞｨｱ系 教授 （平成19年6月）	
114	兼任	講師	ﾎｼﾉ ﾏｻﾐﾁ 星野　正道 ＜平成26年4月＞		音楽学士		キリスト教学Ⅰ－1	1･2通	4	1	白百合女子大学文学部 教授 （平成16年4月）	
115	兼任	講師	ｱｻｲ ｷｮｳｺ 浅井　経子 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		生涯学習概論	3･4前	2	1	八洲学園大学生涯学習学部 教授 （平成6年4月）	
116	兼任	講師	ｿﾝ ﾖﾝｵｸ 孫　英玉 ＜平成26年4月＞		文学修士 （韓国）		コリア語コミュニケーションⅡ(1) 1年コリア語(文法) コリア語コミュニケーションⅡ(2) 2年コリア語	3前 1通 3後 2通	2 4 2 4	1 1 1 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
117	兼任	講師	ﾐﾔｼﾞﾏ ﾂｶｻ 宮島　司 ＜平成27年4月＞		法学博士		取引関係法	2･3･4通	4	1	慶應義塾大学法学部 教授 （平成2年4月）	
118	兼任	講師	ﾑﾗﾀ ﾖｼｺ 村田　芳子 ＜平成28年4月＞		体育学修士		人間学習6	3･4前	2	1	筑波大学体育系 教授 （平成17年4月）	
119	兼任	講師	ｳﾉ ﾐｴｺ 宇野　三恵子 ＜平成26年4月＞		国際学修士		聖心スピリットと共生	1･2･3･4後	2	1	(学)聖心女子学院 理事長 （平成22年6月）	
120	兼任	講師	ｷﾓﾄ ｷﾐｺ 木本　喜美子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講4	2･3･4前	2	1	一橋大学大学院社会学研究科 教授 （平成5年4月）	
121	兼任	講師	ｱﾀﾞﾁ ﾅｵﾔ 安達　直哉 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古文献入門	2･3･4通	4	1	大東文化大学文学部 教授 （平成17年4月）	
122	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｱｵｲ 竹内　葵 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
123	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ｷﾖﾐ 小川　清美 ＜平成27年4月＞		家政学修士		教育学特講7	2･3･4後	2	1	東京都市大学人間科学部 教授 （平成21年4月）	
124	兼任	講師	ﾙｲｽ ｴｲﾐ LEWIS, Amy Rita ＜平成28年4月＞		M. A. （米国）		3･4年英語 英会話	3･4通 3･4通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
125	兼任	講師	ｵｸﾞﾗ ﾁｶｺ 小倉　千加子 ＜平成27年4月＞		医学博士		ジェンダー学3－1	2･3･4前	2	1	みすず学園森町こども園・森町幼稚園 園長 （平成23年4月）	
126	兼任	講師	ﾊﾗ ﾉﾌﾞｺ 原　伸子 ＜平成27年4月＞		経済学修士		ジェンダー学6－3	2･3･4前	2	1	法政大学経済学部 教授 （平成元年年4月）	
127	兼任	講師	ｲｹｶﾐ ｷﾖｺ 池上　清子 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		ジェンダー学5－1	1･2･3･4前	2	1	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授 （平成23年4月）	
128	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｱｷｺ 渡邉　昭子 ＜平成26年4月＞		文学修士		英作文2 1年英語 英作文1	3後 1通 3前	2 4 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和57年4月）	
129	兼任	講師	ｱｻｶ ﾀｹｶｽﾞ 浅香　武和 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年スペイン語(文法) スペイン語コミュニケーションⅠ(2) スペイン語コミュニケーションⅠ(1) 2年スペイン語	1通 2後 2前 2通	4 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	
130	兼任	講師	ﾌｼﾞｻｷ ﾋﾛｺ 藤崎　宏子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講1	2･3･4前	2	1	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成19年4月）	
131	兼任	講師	ｱﾗｷ ﾃﾞｲﾙ ARAKI , Dale M ＜平成27年4月＞		M.S.in Educational Administration （米国）		異文化理解	2･3･4前	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
132	兼任	講師	ｳｴｼﾞﾏ ﾖｳｲﾁ 上嶋　洋一 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		生徒指導[含進路指導]	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
133	兼任	講師	ｵﾀﾞ ｶｽﾞﾐ 小田　和美 ＜平成26年4月＞		学士 （物理教育）		情報活用演習	1･2･3･4前後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
134	兼任	講師	ｶﾅｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾐ 金澤　延美 ＜平成27年4月＞		Master of Science Teaching English to Speakers of other Languages （米国）		教育学特講5	2･3･4後	2	1	駒沢女子短期大学保育科 教授 （平成20年4月）	
135	兼任	講師	ﾅｶﾞﾐﾈ ﾖｼｵ 長峰　美夫 ＜平成27年4月＞		行政学修士		国際法2	2･3･4休	2	1	(株)グローバル・グループ21ジャパン シニアコンサルタント （平成21年8月）	
136	兼任	講師	ｱﾅﾝ ｴﾘ 阿南　えり ＜平成26年4月＞		英文学修士 M.A. in TESOL （英国）		1年英語	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
137	兼任	講師	ﾏﾂｲ ﾕﾀｶ 松井　豊 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会心理学特講11	2･3･4後	2	1	筑波大学人間系 教授 （平成17年9月）	
138	兼任	講師	ｱﾗｲ ﾖｼｵ 荒井　良雄 ＜平成27年4月＞		博士 （工学）		人文地理学2 人文地理学1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東京大学大学院総合文化研究科 教授 （平成8年10月）	
139	兼任	講師	ｲﾜﾀ ｺｳｷﾁ 岩田　功吉 ＜平成27年4月＞		法学士		朝鮮現代史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
140	兼任	講師	ｲﾅ ﾋｻﾖｼ 伊奈　久喜 ＜平成27年4月＞		政治学士		現代国際政治Ⅰ	2･3･4通	4	1	日本経済新聞社 特別編集委員 （平成22年4月）	
141	兼任	講師	ｾｷ ｶｵﾙ 関　かおる ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		1年日本語1 2年日本語2 上級日本語1－1 上級日本語1－2 日本事情1 1年日本語2 2年日本語1 日本事情2	1前 2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1後 2前 1･2･3･4後	1 1 1 1 2 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学神田外語キャリアカレッジ 法人研修部日本語コーディネーター （平成18年4月）	
142	兼任	講師	ﾖｼﾉ ｺｳｻｸ 吉野　耕作 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （英国）		社会学特講3	2･3･4後	2	1	上智大学総合人間科学部 教授 （平成17年4月）	
143	兼任	講師	ﾓﾘﾔﾏ ﾏｻﾋﾄ 盛山　正仁 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		行政学	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
144	兼任	講師	ﾂﾁﾊｼ ｼｹﾞｷ 土橋　茂樹 ＜平成27年4月＞		修士※ （哲学）		西洋古代・中世哲学史Ⅰ 西洋古代・中世哲学史Ⅱ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	中央大学文学部 教授 （平成15年4月）	
145	兼任	講師	ｸﾛﾀﾞ ﾕｳｺ 黒田　有子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	2	1	杏林大学外国語学部 教授 （平成16年4月）	
146	兼任	講師	ｼｮｻﾞﾜ ｼﾞｭﾝ 所澤　潤 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育方法	2･3後	2	1	東京未来大学こども心理学部 教授 （平成25年4月）	
147	兼任	講師	ｸｫﾝ ﾁｪｽｸ 権　在淑 ＜平成26年4月＞		人文科学修士※		コリア語コミュニケーションⅠ(1) 1年コリア語(オラル) 1年コリア語(オラル) コリア語コミュニケーションⅠ(2)	2前 1通 1通 2後	2 4 4 2	1 2 2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
148	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｽﾐ 山田　ますみ ＜平成26年4月＞		文学修士		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
149	兼任	講師	ｵﾉﾃﾞﾗ ｱﾂｺ 小野寺　敦子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格発達心理学	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
150	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾅｵｺ 佐藤　直子 ＜平成26年4月＞		修士 （スポーツ科学）		体育運動学	1通	4	2	東京国際大学人間社会学部 特命教授・客員教授 （平成23年4月）	
151	兼任	講師	ｵｵｼﾏ ｱｷﾗ 大島　聡 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育工学 教育情報学	3･4前 2･3前	2 2	1 1	横浜国立大学教育人間科学部 教授 （平成14年4月）	
152	兼任	講師	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ｱｷｵ 若林　明雄 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格心理学特講1	2･3･4休	2	1	千葉大学文学部 教授 （平成17年4月）	
153	兼任	講師	ｻｴｷ ﾔｽｺ 佐伯　康子 ＜平成27年4月＞		法学修士※		国際連合論	2･3･4後	2	1	清和大学法学部 教授 （平成7年4月）	
154	兼任	講師	ﾑﾗｶﾜ ﾏｻﾋﾛ 村川　雅弘 ＜平成27年4月＞		学術修士		教育学特講8	2･3･4前	2	1	鳴門教育大学大学院教育研究科 教授 （平成12年8月）	
155	兼任	講師	ﾀﾑﾗ ｼｽﾞｺ 田村　静子 ＜平成26年4月＞		社会福祉学修士		障害者教育・福祉概論	1･2･3･4前	2	1	(株)ライフエイドネクサスデザイン 代表取締役 （平成5年3月）	
156	兼任	講師	ｷﾀｶﾞﾐ ﾏｻﾕｷ 北神　正行 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育経営	2･3･4後	2	1	国士舘大学体育学部 教授 （平成20年4月）	
157	兼任	講師	ﾅｶﾉ ﾋﾛｴ 中野　洋恵 ＜平成27年4月＞		家政学修士		ジェンダー学1	2･3･4前	2	1	国立女性教育会館 研究国際室長 （平成14年4月）	
158	兼任	講師	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾛｼ 松浦　寛 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
159	兼任	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ｹｲｺ 杉山　圭以子 ＜平成27年4月＞		M.Phil （インド）		南アジア現代史	2･3･4通	4	1	恵泉女学園大学人間社会学部 教授 （平成25年4月）	
160	兼任	講師	ｱｼﾀﾞ ﾙﾘ 芦田　ルリ ＜平成27年4月＞		英文学修士 （カナダ）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	東京医科大学英語教室 講師 （平成23年4月）	
161	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕﾘｺ 小林　由利子 ＜平成28年4月＞		教育学修士		人間学習5	3･4後	2	1	東京都市大学人間科学部 教授 （平成20年3月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
162	兼任	講師	ﾓﾘｸﾞﾁ ﾛｰﾗ MORIGUCHI, Lola Gayle ＜平成27年4月＞		教育学修士		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
163	兼任	講師	ｲﾅﾀﾞ ｼﾞｭｳｲﾁ 稲田　十一 ＜平成27年4月＞		修士※ （国際学）		国際平和と開発援助	2･3･4前	2	1	専修大学経済学部 教授 （平成8年4月）	
164	兼任	講師	ｺｳﾔﾏ ｼﾞｭﾝ 神山　潤 ＜平成27年4月＞		医学博士		臨床心理学特講8	2･3･4後	2	1	東京ベイ浦安市川医療センター 管理者（CEO） （平成21年4月）	
165	兼任	講師	ﾐｽﾞｼﾏ ﾖｳｺ 水島　陽子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
166	兼任	講師	ｺｳ ﾚｲｶ 黄　麗華 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(オラル) 中国語コミュニケーションⅠ(1) 中国語コミュニケーションⅠ(2)	1通 2前 2後	4 2 2	2 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
167	兼任	講師	ｲﾉｸﾞﾁ ﾖｼﾋｺ 猪口　好彦 ＜平成26年4月＞		Ph. D. （仏国）		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
168	兼任	講師	ﾅｲﾄｳ ｶｽﾞﾐ 内藤　和美 ＜平成27年4月＞		保健学博士		発達心理学特講8	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
169	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾀｵｵ 田中　辰雄 ＜平成26年4月＞		経済学修士		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	慶應義塾大学経済学部 准教授 （平成10年4月）	
170	兼任	講師	ｺ ｴﾝﾆｮ 胡　婉如 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
171	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾐﾔｺ 冨士本　美矢子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		1年英語 2年英語2(リーディング) 2年英語2(オラル)	1通 2通 2通	4 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
172	兼任	講師	ｼﾞｬｸﾘｰﾇｺｰｴﾝ COHEN, Jacqueline ＜平成26年4月＞		Maitrise de Philosophie （仏国）		1年フランス語(オラル)	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
173	兼任	講師	ﾅｶﾞﾉ ﾐﾂﾛｳ 永野　光朗 ＜平成27年4月＞		文学修士		社会心理学特講4	2･3･4休	2	1	京都橘大学健康科学部 教授 （平成25年4月）	
174	兼任	講師	ｶﾜﾓﾄ ﾌｻｺ 河本　房子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(リーディング) 1年英語 2年英語2(オラル)	2通 1通 2通	2 4 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
175	兼任	講師	ﾀﾗｼﾏ ｻﾄｼ 田良島　哲 ＜平成27年4月＞		文学修士		博物館実習 博物館概論	4前後 2･3･4前	3 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
176	兼任	講師	ｱﾎﾞ ﾉﾘｺ 阿保　聖子 ＜平成26年4月＞		文学修士		1年中国語(文法)	1通	6	3	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
177	兼任	講師	ﾌﾙﾔ ﾀｹｼ 古谷　毅 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本考古学	2･3･4通	4	1	東京国立博物館 主任研究員 （平成23年4月）	
178	兼任	講師	ｷｰｽ ﾌｫｰﾄﾞ FORD, Keith ＜平成26年4月＞		M. A.（英国） Ed. D.（TESOL）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	4 4	2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
179	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 橋本　健二 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講2	2･3･4休	2	1	早稲田大学人間科学学術院 教授 （平成25年4月）	
180	兼任	講師	ﾀﾅﾊｼ ｻﾄｼ 棚橋　訓 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学特講12 比較文化学2 文化人類学特講11	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	2 2 2	1 1 1	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成18年4月）	
181	兼任	講師	ｴｼﾀ ﾏｻﾕｷ 江下　雅之 ＜平成26年4月＞		MS-MSID （仏国）		ポップカルチャー	1･2･3･4後	2	1	明治大学情報コミュニケーション学部 教授 （平成23年4月）	
182	兼任	講師	ｻﾅﾀﾞ ﾋﾛｺ 真田　博子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学） 文学博士 （韓国）		2年コリア語 1年コリア語(文法)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
183	兼任	講師	ｶﾅﾀ ﾌｻｺ 金田　房子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		古典文学研究Ⅶ 日本文学史Ⅳ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
184	兼任	講師	ﾏﾂｶﾜ ｲｸﾖ 松川　育代 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
185	兼任	講師	ｼﾞｮﾅｻﾝ SNELL, Jonathan ＜平成27年4月＞		教育学修士		オラルコミュニケーション	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
186	兼任	講師	ﾎﾝｺﾞｳ ｶｽﾞﾄ 本郷　和人 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年英語2(オラル) 日本史史料論	2通 2通	2 4	1 1	東京大学史料編纂所 教授 （平成23年4月）	
187	兼任	講師	ﾕﾓﾄ ﾋﾛﾕｷ 湯本　浩之 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論1	2･3･4前	2	1	宇都宮大学留学生・国際交流センター 准教授 （平成25年4月）	
188	兼任	講師	ｷﾘｳ ﾏｻﾕｷ 桐生　正幸 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		社会心理学特講6	2･3･4前	2	1	関西国際大学人間科学部 教授 （平成18年4月）	
189	兼任	講師	ｼｬｯｸﾙﾌｫｰﾄﾞ ﾎﾟｰﾙ SHACKLEFORD P. ＜平成26年4月＞		M. A. （オーストラリア）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
190	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾊｼﾞﾒ 阿部　一 ＜平成27年4月＞		博士 （理学）		地誌学2 地誌学1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部 教授 （平成25年4月）	
191	兼任	講師	ｼﾗｲｼ ﾖｼﾊﾙ 白石　嘉治 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年フランス語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
192	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾘｶ 堀内　里香 ＜平成26年4月＞		文学修士		アラビア語の世界	1･2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
193	兼任	講師	ﾋﾛｲｼ ﾉｿﾞﾑ 廣石　望 ＜平成26年4月＞		神学博士		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通	4	1	フェリス女学院大学国際交流交流学部 教授 （平成19年4月）	
194	兼任	講師	ｸｽﾓﾄ ﾜｶｺ 楠本　和佳子 ＜平成27年4月＞		M.A.in Anthropology※ （米国）		キャリアデザイン入門	2･3前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
195	兼任	講師	ｷｸﾁ ｴｲｼﾞ 菊地　栄治 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		人間学習原論	3･4前	2	1	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成21年4月）	
196	兼任	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ ｱｷｺ 谷口　明子 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		教育心理学	2･3前	2	1	東洋大学文学部 教授 （平成25年4月）	
197	兼任	講師	ｺﾏﾔ ﾏﾐ 駒谷　眞美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		教育メディア論	2･3前	2	1	昭和女子大学大学院生活機構研究科 准教授 （平成17年4月）	
198	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾄｼﾋｺ 遠藤　利彦 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講1	2･3･4後	2	1	東京大学大学院教育学研究科 准教授 （平成20年4月）	
199	兼任	講師	ｴﾋﾞﾅ ﾘｮｳｽｹ 蝦名　良亮 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
200	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｺｳｲﾁ 中村　幸一 ＜平成27年4月＞		文学修士※		英語史	2･3･4通	4	1	明治大学政治経済学部 教授 （平成17年4月）	
201	兼任	講師	ﾃﾗﾄﾞ ｼﾞｭﾝｺ 寺戸　淳子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学特講Ⅳ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
202	兼任	講師	ｱｹｵ ﾏﾕﾐ 明尾　真弓 ＜平成26年4月＞		文学修士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
203	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾀｶｵ 菊地　敬夫 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古代オリエント史	2･3･4通	4	1	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所 招聘研究員 （平成19年4月）	
204	兼任	講師	ﾘｮ ｼｮｳｴﾝ 呂　小燕 ＜平成26年4月＞		修士※ （総合文化）		1年中国語(オラル) 2年中国語(講読)	1通 2通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
205	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾖｼｶ 植田　美佳 ＜平成27年4月＞		理学修士※		コンピュータサイエンス	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
206	兼任	講師	ｻｴｷ ﾓﾄｺ 佐伯　素子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講6	2･3･4後	2	1	聖徳大学心理・福祉学部 准教授 （平成23年4月）	
207	兼任	講師	ﾏﾂｵ ﾄﾓｱｷ 松尾　知明 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （米国）		教育課程論	2･3前	2	1	国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 （平成17年4月）	
208	兼任	講師	ﾊﾏﾔ ｻﾄｼ 浜屋　敏 ＜平成26年4月＞		MBA （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	富士通総研　経済研究所 上席主任研究員 （平成23年7月）	
209	兼任	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ﾉﾌﾞｵ 高柳　信夫 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年中国語(文法)	1通	4	2	学習院大学外国語教育研究センター 教授 （平成18年4月）	
210	兼任	講師	ｶﾝｻﾞｷ ﾅｵﾐ 神崎　直美 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		史料講読Ⅰ	2･3･4通	4	1	城西大学経済学部 准教授 （平成21年4月）	
211	兼任	講師	ﾐｵ ﾀﾀﾞｵ 三尾　忠男 ＜平成27年4月＞		教育学修士		メディア教材開発	2･3後	2	1	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成17年4月）	
212	兼任	講師	ｵｵﾓﾘ ｶｽﾞﾃﾙ 大森　一輝 ＜平成28年4月＞		Ph.D. in History （米国）		世界史演習Ⅱ－6 世界史演習Ⅲ－6	3通 4通	4 4	1 1	都留文科大学文学部 教授 （平成17年10月）	
213	兼任	講師	ｷﾑ ﾃﾎ 金　泰昊 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年コリア語(オラル) 2年コリア語	1通 2通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
214	兼任	講師	ｺｳﾉ ﾄｼﾔ 河野　俊哉 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		科学史2 科学史1	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	暁星中学高等学校 教諭 （平成元年4月）	
215	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾖｼﾕｷ 木村　義之 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前	2	1	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 教授 （平成23年4月）	
216	兼任	講師	ﾌｸﾀﾞ ﾕｷ 福田　由紀 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		認知心理学特講8	2･3･4後	2	1	法政大学文学部 教授 （平成18年4月）	
217	兼任	講師	ﾀｷｻﾞﾜ ﾐｻｺ 滝澤　美佐子 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		国際法1	2･3･4前	2	1	桜美林大学リベラルアーツ学群 教授 （平成22年4月）	
218	兼任	講師	ｵｶﾐｮｳ ﾋﾃﾞﾀﾀﾞ 岡明　秀忠 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		社会・公民科教育法2 社会・公民科教育法1	3後 3前	2 2	1 1	明治学院大学文学部教職課程 教授 （平成16年4月）	
219	兼任	講師	ﾌﾞﾙｺﾞｽ BURGOS VIVAS, Juan Carlos ＜平成26年4月＞		B. A. （スペイン）		スペイン語コミュニケーションⅡ(1) 1年スペイン語(オラル) 2年スペイン語 スペイン語コミュニケーションⅡ(2)	3前 1通 2通 3後	2 6 2 2	1 3 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
220	兼任	講師	ﾊﾆｭｳ ｶｽﾞﾉﾘ 羽生　和紀 ＜平成28年4月＞		Ph.D. （米国）		社会心理学特講14	3･4前	2	1	日本大学文理学部 教授 （平成18年4月）	
221	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾋﾛﾕｷ 鈴木　裕之 ＜平成27年4月＞		修士※ （社会学）		文化人類学特講6 比較文化学特講4	2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	国士舘大学法学部 教授 （平成7年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
222	兼任	講師	ﾖｺﾔﾏ ｱﾕﾐ 横山　安由美 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学Ⅱ－1	3･4通	4	1	フェリス女学院大学国際交流交流学部 教授 （平成20年4月）	
223	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹｲｺ 渡邉　景子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	12	6	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
224	兼任	講師	ﾊﾗﾀﾞ ﾏﾘ 原田　眞理 ＜平成28年4月＞		保健学博士		人格臨床心理学特講4	3･4後	2	1	玉川大学･通信教育部 教授 （平成24年4月）	
225	兼任	講師	ｺﾏｲ ﾑﾂｺ 駒井　睦子 ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		1年スペイン語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
226	兼任	講師	ｶﾐｾ ﾕﾐｺ 上瀬　由美子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会心理学特講9	2･3･4後	2	1	立正大学心理学部 教授 （平成22年4月）	
227	兼任	講師	ｶﾄｳ ｸﾐｺ 加藤　久美子 ＜平成26年4月＞		文学修士※		キリスト教学Ⅰ－2 キリスト教学Ⅱ－6	1･2通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
228	兼任	講師	ｵｵﾀ ﾕｳｺ 太田　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
229	兼任	講師	ﾂﾁﾔ ｼﾞｭﾝｼﾞ 土屋　淳二 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会学	2･3･4通	4	1	早稲田大学文学学術院 教授 （平成18年4月）	
230	兼任	講師	ｵｷ ｷﾖﾀｹ 沖　清豪 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		教育行政学2	2･3後	2	1	早稲田大学文学学術院 教授 （平成21年4月）	
231	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾄｵﾙ 上田　徹 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅳ 哲学・倫理学特講Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
232	兼任	講師	ｷ ｷｮｸﾎｳ 紀　旭峰 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		1年中国語(オラル) 2年中国語(会話)	1通 2通	2 2	1 1	早稲田大学アジア研究機構 常勤次席研究員 （平成25年4月）	
233	兼任	講師	ｻｻﾊﾗ ﾋﾛﾕｷ 笹原　宏之 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本語学研究Ⅰ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
234	兼任	講師	ﾋﾗﾃﾞ ﾕｳｺ 平出　裕子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本文化史Ⅰ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
235	兼任	講師	ｽｶﾞ ｶｽﾞﾋﾄ 壽賀　一仁 ＜平成28年4月＞		社会学修士		ボランティア研究演習1 ボランティア研究演習2	3･4前 3･4後	2 2	1 1	（社）あいあいネット 理事 （平成21年6月）	
236	兼任	講師	ﾏﾚｼｬﾙ ﾍﾞｱﾄﾘｽ MARECHAL Beatrice ＜平成27年4月＞		Ph. D. (言語学) （仏国）		フランス語コミュニケーションⅠ(1) フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2前 2後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
237	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｶｵﾘ 山田　香里 ＜平成28年4月＞		修士 （神学） Licenza in Archeologia Cristiana （ヴァチカン市国）		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
238	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾁｱｷ 加藤　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
239	兼任	講師	ｶﾉ ﾐｷ 狩野　みき ＜平成28年4月＞		文学修士※		英作文1 英作文2	3前 3後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
240	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾋﾛ 遠藤　正寛 ＜平成27年4月＞		博士 （商学）		国際経済学1	2･3･4前	2	1	慶應義塾大学商学部 教授 （平成18年4月）	
241	兼任	講師	ﾜｾﾀﾞ ﾐﾅｺ 早稲田　みな子 ＜平成27年4月＞		Ph.D.in Music （米国）		世界音楽地誌	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
242	兼任	講師	ﾀﾁ ｹｻﾐ 舘　けさみ ＜平成26年4月＞		修士※ （人文学）		2年中国語(講読) 1年中国語(文法)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
243	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ｺﾞｳ 小林　剛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学Ⅰ－4 キリスト教思想史Ⅱ ラテン語Ⅰ	1･2通 2･3･4後 2･3･通	4 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
244	兼任	講師	ﾐﾔｹ ﾄｼﾋｺ 三宅　俊彦 ＜平成27年4月＞		博士 （歴史学）		2年中国語(講読) 中国古代文化史 中国語コミュニケーションⅡ(1) 中国語コミュニケーションⅡ(2)	2通 2･3･4通 3前 3後	2 4 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
245	兼任	講師	ﾏｸﾞｽ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ MAGGS Andrew、Jhon ＜平成26年4月＞		M. A. Linguistics （英国）		1年英語 2年英語2(オラル)	1通 2通	4 4	1 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
246	兼任	講師	ｵｵﾀﾆ ｸﾐ 大谷　公美 ＜平成27年4月＞		修士※ （美学）		キリスト教学Ⅱ－9 キリスト教美術	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
247	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾎ 渡辺　美穂 ＜平成27年4月＞		MPS in Industrial and Labor RelationsRelations		女性とキャリア形成	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
248	兼任	講師	ﾘｭｳｺﾞ ﾀﾞﾆｴﾗ 立古　ダニエラ ＜平成26年4月＞		東洋学・ 日本学修士 （チェコ）		チェコ語の世界	1･2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
249	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾉﾌﾞﾏｻ 秋山　信将 ＜平成26年4月＞		博士 （法学）		人間の安全保障	1･2･3･4後	2	1	一橋大学大学院法学研究科 教授 （平成24年8月）	
250	兼任	講師	ﾋﾒﾉ ｱﾂｺ 姫野　敦子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本文学史Ⅲ 古典文学研究Ⅴ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	清泉女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
251	兼任	講師	モリモトヨウコ 森本　陽子 ＜平成26年4月＞		M. A. （英国）		英作文2 2年英語2(オラル) 1年英語 英作文1	3後 2通 1通 3前	2 2 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
252	兼任	講師	マサキ アキコ 正木　晶子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学）		1年ドイツ語(文法)	1通	4	1	上智大学言語教育研究センター 嘱託講師 （平成16年4月）	
253	兼任	講師	ナカタニ シゲカズ 中谷　茂一 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		児童福祉論 社会福祉論	1･2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	聖学院大学人間福祉学部 教授 （平成23年4月）	
254	兼任	講師	イソノ ヨシコ 磯野　昌子 ＜平成27年4月＞		行政学修士		ジェンダー学6－2	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
255	兼任	講師	ヤタガワトモエ 谷田川　知恵 ＜平成26年4月＞		法学修士※		ジェンダー学6－1	1･2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
256	兼任	講師	カワカミ ヒサヨ 川上　寿代 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
257	兼任	講師	ミノワ シゲル 箕輪　茂 ＜平成27年4月＞		博士 （国際関係論）		ラテンアメリカ史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
258	兼任	講師	オオハシ ヒデトシ 大橋　英敏 ＜平成26年4月＞		修士 （経済学）		金融のしくみ	1･2･3･4前	2	1	ジャパン・クレジット・アドバイザリー（株） 代表取締役社長 （平成24年5月）	
259	兼任	講師	フクニシ タカヒロ 福西　隆弘 ＜平成27年4月＞		Master of Public Policy （米国） Ph.D.in Economics （英国）		開発経済学	2･3･4通	4	1	独行）日本貿易振興機構 アジア経済研究所　地域研究センター 副主任研究員 （平成18年10月）	
260	兼任	講師	ヒラバヤシ ユウコ 平林　優子 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		古典文学講読Ⅰ	2･3･4前	2	1	東京女子大学現代教養学部 助手 （平成8年4月）	
261	兼任	講師	イトウ シンジ 伊藤　信二 ＜平成27年4月＞		修士 （美術史）		博物館教育論	2･3･4前	2	1	独立行政法人 国立文化財機構東京国立博物館 教育普及室長 （平成22年4月）	
262	兼任	講師	マエガワ ケンイチ 前川　健一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅴ 哲学・倫理学特講Ⅵ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
263	兼任	講師	ホリエ ノリチカ 堀江　宗正 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学1	2前	2	1	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 （平成25年4月）	
264	兼任	講師	カミオカ マサシ 上岡　方士 ＜平成26年4月＞		教育学修士		体育運動学	1通	2	1	サイエンス・サービス （平成20年11月）	
265	兼任	講師	ヨシノトモミ 吉野　朋美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅵ	2･3･4前	2	1	中央大学文学部 准教授 平成21年4月	
266	兼任	講師	ウエダ カオリ 植田　かおり ＜平成27年4月＞		博士 （哲学）		ギリシア語Ⅰ	2･3･4通	4	1	神田外語大学外国語学部 准教授 （平成20年4月）	
267	兼任	講師	スキーツ コリン SKEATES ,Colin ＜平成26年4月＞		M. A. （英国）		英作文1 英作文2 1年英語	3前 3後 1通	4 4 4	2 2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
268	兼任	講師	シラネ コウイン 白根　孝胤 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		資料整理実習 日本文化史Ⅱ	3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所 研究員 （平成15年4月）	
269	兼任	講師	シウチ カズオキ 志内　一興 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		古代ローマ史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
270	兼任	講師	オオタワ ナオキ 大多和　直樹 ＜平成28年4月＞		博士 （教育学）		教育調査	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	
271	兼任	講師	アベ ミユキ 阿部　美由起 ＜平成27年4月＞		修士 （芸術学）		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
272	兼任	講師	ナカムラ マイコ 中村　麻衣子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		教育相談	2･3前	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
273	兼任	講師	ヨコタ チアキ 横田　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		フランス事情(1) フランス事情(2) 2年フランス語(講読)	2･3･4前 2･3･4後 2通	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
274	兼任	講師	シバサキ ミツヨ 柴崎　光世 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講1 現代の脳科学	2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	明星大学人文学部 准教授 （平成19年4月）	
275	兼任	講師	オオサキ アサコ 大崎　麻子 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		ジェンダー学5－2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
276	兼任	講師	アライ ヒロコ 新井　浩子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キャリアデザイン入門	2･3前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
277	兼任	講師	スズキ ミミ 鈴木　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		アジア文化論	2･3･4後	2	1	早稲田大学イスラーム地域研究機構 主任研究員 （平成20年10月）	
278	兼任	講師	チバ イチダイ 千葉　一大 ＜平成27年4月＞		修士※ （歴史学）		日本近世史Ⅱ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
279	兼任	講師	ホリウチ ヤスシ 堀内　康史 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		社会調査の技法2 情報活用演習	2･3･4前 1･2･3･4前後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
280	兼任	講師	サイキ ミチヨ 斉木　美知世 ＜平成27年4月＞		博士 （言語学）		日本語学研究Ⅳ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
281	兼任	講師	ｲﾁｶﾜ ﾃﾂ 市川　哲 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		文化人類学特講7 比較文化学特講5	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	立教大学観光学部 助教 （平成23年10月）	
282	兼任	講師	ﾄｺﾛ ﾏｷｺ 所　真紀子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
283	兼任	講師	ｱｵｷ ｱﾂｺ 青木　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （国際政治学） M.A. in Histry （米国）		1年英語 2年英語2(リーディング) 2年英語2(オラル)	1通 2通 2通	4 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
284	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ﾕｷ 島田　由紀 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		キリスト教学Ⅰ－8 キリスト教学Ⅱ－3	1･2通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
285	兼任	講師	ｼﾅｶﾞﾜ ﾅｷﾞｻ 品川　なぎさ ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年日本語1 1年日本語2	1前 1後	1 1	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
286	兼任	講師	ｱﾀｶ ﾉﾘｺ 安高　紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （比較社会文化）		1年日本語2 2年日本語2 1年日本語1 2年日本語1	1後 2･3･4後 1前 2前	1 1 1 1	1 1 1 1	独立行政法人　国際交流基金　日本語試験センター 研究員 （平成23年4月）	
287	兼任	講師	ｲｼｶﾜ ｶｽﾞﾖｼ 石川　一喜 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論2	2･3･4後	2	1	拓殖大学国際開発教育センター 准教授 （平成25年4月）	
288	兼任	講師	ｷｶﾞﾜ ﾋﾛﾐ 木川　弘美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		西洋美術史Ⅰ 西洋美術史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	清泉女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	
289	兼任	講師	ｸﾗｼﾏ ｵｻﾑ 倉島　治 ＜平成27年4月＞		修士※ （学術）		認知心理学特講4	2･3･4前	2	1	東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員 （平成21年10月）	
290	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾄﾓｱｷ 渡邊　智暁 ＜平成26年4月＞		Ph. D. In Mass Communications （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授 （平成24年7月）	
291	兼任	講師	ｼﾗｽﾅ ｻﾜｺ 白砂　佐和子 ＜平成27年4月＞		心理学修士※		人格臨床心理学特講2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
292	兼任	講師	ｵｵｶﾜ ﾏﾕｺ 大川　真由子 ＜平成27年4月＞		社会人類学博士		比較文化学特講3 文化人類学特講4	2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	早稲田大学人間科学学術院 助教 （平成25年4月）	
293	兼任	講師	ﾖｺﾀ ｶｽﾞｺ 横田　和子 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		人間学習7	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	
294	兼任	講師	ｺｳｻﾞｷ ﾕｳｺ 神前　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講3	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
295	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾓﾄﾔ 中村　元哉 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		中国事情(1)	2･3･4後	2	1	津田塾大学学芸学部 准教授 （平成22年4月）	
296	兼任	講師	ﾋﾗﾀ ﾕｷｴ 平田　由紀江 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Sociology （韓国）		1年コリア語(文法) 2年コリア語	1通 2通	4 2	2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
297	兼任	講師	ﾔｽｶﾜ ﾊﾙｷ 安川　晴基 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		ドイツ事情(2)	2･3･4後	2	1	慶應義塾大学 理工学部外国語総合教育教室 講師 （平成24年4月）	
298	兼任	講師	ﾋﾗｲ ﾐｶ 平井　美佳 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講3	2･3･4前	2	1	横浜市立大学国際総合科学部 准教授 （平成25年4月）	
299	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷ 小林　由紀 ＜平成26年4月＞		修士※ （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	8	4	東京大学大学院総合文化研究科基礎組織科学センター 特任研究員 （平成17年4月）	
300	兼任	講師	ｲﾏﾎﾘ ﾕﾐ 今堀　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		比較文化学特講2 文化人類学特講10	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
301	兼任	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｺ 杉山　佳子 ＜平成26年4月＞		DEA （スペイン語文学修士） （スペイン）		1年スペイン語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
302	兼任	講師	ﾔﾏﾐﾔ ﾕｳｺ 山宮　裕子 ＜平成27年4月＞		精神病理心理学博士 （米国）		臨床心理学特講5	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
303	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾃｯﾍｲ 鈴木　哲平 ＜平成26年4月＞		文学博士		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
304	兼任	講師	ｵｵｱｲ ﾀｶﾊﾙ 大愛　崇晴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		美学・芸術学特講Ⅰ 美学・芸術学特講Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	同志社大学文学部 准教授 （平成25年4月）	
305	兼任	講師	ｷﾀｶﾞﾐ ｼﾝｼﾞ 北神　慎司 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		認知心理学特講5	2･3･4休	2	1	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 平成19年4月	
306	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ ﾌﾐﾄ 早川　文人 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年ドイツ語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
307	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾕｷｺ 伊藤　由希子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅸ	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
308	兼任	講師	ｷﾀﾑﾗ ｱﾂｼ 北村　厚 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		国際関係史Ⅰ 国際関係史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
309	兼任	講師	ｺﾄｳ ｴﾐ 後藤　絵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		西アジア文化史	2･3･4通	4	1	東京大学東洋文化研究所 助教 （平成25年4月）	
310	兼任	講師	ｾｵ ﾌﾐｺ 瀬尾　文子 ＜平成27年4月＞		修士※ （人文社会）		美学・芸術学特講Ⅳ 美学・芸術学特講Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東京大学大学院人文社会系研究科 教務補佐 （平成21年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　史学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
311	兼任	講師	ｵｳ ｼｭﾝﾌﾞﾝ 王　俊文 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
312	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｱﾔﾉ 中村　綾乃 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
313	兼任	講師	ｻｶｲ ﾓｴ 酒井　もえ ＜平成28年4月＞		博士（学術） M.Phil. （英国）		英作文2 英作文1	3後 3前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
314	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｼｭｳﾀﾛｳ 鈴木　周太郎 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		アメリカ史	2･3･4通	4	1	一橋大学大学院社会研究科 特任講師 （平成24年4月）	
315	兼任	講師	ｸﾗﾊﾞﾔｼ ﾅｵｺ 倉林　直子 ＜平成27年4月＞		M．A． （米国） 文学修士※		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
316	兼任	講師	ｱﾗﾌﾈ ｼｭﾝﾀﾛｳ 荒船　俊太郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
317	兼任	講師	ｾｷ ﾄﾓﾋﾃﾞ 関　智英 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
318	兼任	講師	ﾀﾂﾐ ﾕｷｺ 巽　由樹子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ロシア文化史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
319	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁ 山田　淳一 ＜平成27年4月＞		博士 （地理学）		自然地理学1 自然地理学2	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
320	兼任	講師	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｹｲｺﾞ 大林　啓吾 ＜平成26年4月＞		博士 （法学）		憲法3	1･2･3･4前	4	2	千葉大学大学院専門法務研究科 准教授 （平成24年4月）	
321	兼任	講師	ﾖｼﾅｶ ﾄｼｷ 吉中　俊貴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年ドイツ語(会話) 2年ドイツ語(講読)	2通 2通	2 2	1 1	駒澤大学総合教育研究部 講師 （平成24年4月）	
322	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾘｮｳｺ 齊藤　良子 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		1年コリア語(文法)	1通	8	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
323	兼任	講師	ｷﾝ ﾃｼﾝ 金　泰植 ＜平成26年4月＞		修士※ （比較社会文化）		1年コリア語(オラル)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
324	兼任	講師	ﾐｶﾐ ｴﾘ 見上　英里 ＜平成27年4月＞		修士 （理学）		応用情報処理	2･3･4通	4	1	（株）ピコラボ システムエンジニア （平成24年4月）	
325	兼任	講師	ｺﾛﾝ ｴﾘｶ コロン　えりか ＜平成27年4月＞		文学修士 Master of Music （英国）		キリスト教学Ⅱ－10 キリスト教学特講Ⅰ	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
326	兼任	講師	ｸﾏｸﾗ ﾜｶｺ 熊倉　和歌子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		イスラム社会史入門	2･3･4後	2	1	財団法人　東洋文庫 日本学術振興会特別研究員 （平成24年4月）	
327	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ ﾘｮｳｽｹ 岡本　亮輔 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
328	兼任	講師	ﾀﾏｵｷ ﾕｳｽｹ 玉置　佑介 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	2	1	上智大学総合人間科学部 共同研究員 （平成24年4月）	
329	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾔ 髙橋　尚也 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		社会調査の技法1 社会心理学特講15	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	立正大学心理学部 准教授 （平成25年4月）	
330	兼任	講師	ｵｵｷ ｱﾔﾐ 大木　絢深 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年英語	1通	4	1	早稲田大学演劇博物館 助手 （平成23年4月）	
331	兼任	講師	ｲｽﾞﾓ ｼｭﾝﾒｲ 出雲　春明 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会思想史Ⅰ 社会思想史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
332	兼任	講師	ﾅｶｿﾞﾉ ﾕｷ 中園　有希 ＜平成27年4月＞		修士※ （教育学）		教育課程方法論	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
333	兼任	講師	ﾎﾘﾔﾏ ｱﾂｺ 堀山　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		2年英語2(リーディング) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
334	兼任	講師	ﾊﾞｲｱｰ ﾀﾞｲｱﾅ BEIER,Diana ＜平成26年4月＞		M．A． (Magistra Artium) （ドイツ）		1年ドイツ語(オラル) ドイツ語コミュニケーションⅠ(1) ドイツ語コミュニケーションⅠ(2) ドイツ語コミュニケーションⅡ(2) ドイツ語コミュニケーションⅡ(1)	1通 2前 2後 3後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東京外国語大学 特任講師 （平成25年4月）	
335	兼任	講師	ﾄｸｼｹﾞ ｸﾐ 徳重　公美 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		哲学・倫理学特講X	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
336	兼任	講師	ｸﾗｽﾞﾐ ﾄﾓｴ 倉住　友恵 ＜平成27年4月＞		修士 （心理学）		発達心理学2	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
337	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ｲﾂﾐ 島田　伊都美 ＜平成26年4月＞		人文学修士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
338	兼任	講師	ｶｼﾞ ﾋﾛﾐ 鍛治　広真 ＜平成28年4月＞		文学修士		対照言語学Ⅱ	3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
339	兼任	講師	ｼｭﾙﾂｪ ｱﾝﾅｰﾕﾘｱｰﾈ SCHULZE A.nna-Juliane ＜平成26年4月＞		修士 （日本学） （ドイツ）		1年ドイツ語(オラル) ドイツ事情(1)	1通 2･3･4前	4 2	2 1	ドイツ語学院ハイデルベルク 講師 （平成23年6月）	

別記様式第3号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｽｽﾞｷ ｵﾄｼ 鈴木　乙史 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		人格心理学演習2 災害と人間 人間関係入門 人間関係共通演習 質的調査法1 卒業論文 人格心理学1 人格心理学演習1 社会調査入門	4通 1･2･3･4前 1前 2後 2･3･4前 4通 2前 3通 2前	1 1 1 3 1 1 1 1 1	4 0.2 0.3 0.9 2 8 2 4 0.3	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
2	専	教授	ｲﾜｶﾐ ﾏﾐ 岩上　真珠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		社会調査実習2 人間関係共通演習 家族社会学演習1 家族社会学演習2 人間関係入門 卒業論文 社会調査入門 家族社会学1 家族社会学2	3･4通 2後 3通 4通 1前 4通 2前 2後 2･3･4後	1 2 1 1 1 1 1 1 1	4 0.6 4 4 0.3 8 0.3 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
3	専	教授	ｵｵﾊｼ ﾏｻｱｷ 大橋　正明 ＜平成26年4月＞		Master of Professional Studies (Agliculture) （米国）		人間関係共通演習 比較文化学演習1 人間関係入門 社会調査入門 比較文化学特講1 比較文化学演習2 卒業論文 比較文化学特講 比較文化学1	2後 3通 1前 2前 2･3･4前 4通 4通 2･3･4通 2･3･4前	2 1 1 1 1 1 1 1 1	0.6 4 0.3 0.3 2 4 8 4 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成26年4月）	6日
4	専	教授	ｽｶﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 菅原　健介 ＜平成26年4月＞		文学博士		対人社会心理学演習1 災害と人間 社会統計学 社会調査入門 卒業論文 社会心理学特講1 対人社会心理学演習2 対人社会心理学1 人間関係共通演習 基礎課程演習 社会調査実習1 人間関係入門	3通 1･2･3･4前 2･3･4後 2前 4通 2･3･4前 4通 2前 2後 1前 3･4通 1前	1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1	4 0.2 2 0.3 8 2 4 2 0.6 2 2 0.3	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
5	専	教授	ｵｵﾂｷ ﾅﾐ 大槻　奈巳 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		卒業論文 人間関係共通演習 キャリア形成の社会学 社会調査入門 職業社会学1 人間関係入門 職業社会学演習2 職業社会学2 職業社会学演習1	4通 2後 2･3･4前 2前 2後 1前 4通 2･3･4前 3通	1 2 1 1 1 1 1 1 1	8 0.6 2 0.3 2 0.3 4 2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
6	専	准教授	ｲｼｲ ﾖｳｺ 石井　洋子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学1 基礎課程演習 人間関係入門 卒業論文 社会調査入門 質的調査法2 人間関係共通演習 社会調査実習3 国際交流実習1 文化人類学演習1 文化人類学演習2	2後 1前 1前 4通 2前 2･3･4前 2後 3･4通 2･3･4前 3通 4通	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	2 2 0.3 8 0.3 2 0.6 4 0.1 4 4	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
7	専	准教授	ｺｼﾛ ｴｲｺ 小城　英子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		マスコミ社会心理学演習1 マスコミ社会心理学演習2 社会調査実習1 人間関係入門 社会調査入門 人間関係共通演習 マス・コミュニケーション論 マスコミ社会心理学1 基礎課程演習 卒業論文 災害と人間 社会心理学特講2	3通 4通 3･4通 1前 2前 2後 2･3･4前 2後 1前 4通 1･2･3･4前 3･4前	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	4 4 2 0.3 0.3 0.6 2 2 2 8 0.2 2	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
8	兼担	教授	ｻｸﾏ ｶﾂﾋｺ 佐久間　勝彦 ＜平成26年4月＞		学士 （教育学）		基礎課程演習	1前	1	2	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
9	兼担	教授	ﾖﾈｻﾞﾜ ｶﾂｵ 米澤　克夫 ＜平成26年4月＞		文学修士※		倫理学演習Ⅰ 哲学演習Ⅰ 哲学・倫理学特講Ⅱ 哲学・倫理学特講Ⅰ 倫理学概論Ⅱ 倫理学概論Ⅰ 哲学概論Ⅳ 哲学概論Ⅲ	2･3･4通 2･3･4通 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前	1 1 1 1 1 1 1 1	4 4 2 2 2 2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成18年4月）	6日
10	兼担	教授	ﾃﾞｯｶｰ ﾒﾘｰ ｱﾝ DECKER M. ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		Contemporary American Culture(2) Contemporary American Culture(1)	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成2年4月）	3日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
11	兼担	教授	ｾｷﾊﾞ ﾁｶｺ 関場　誓子 ＜平成26年4月＞		文学士		国際交流特殊講義 国際交流実習1 災害と人間 国際交流入門 アメリカ外交論 政治学概論[含国際政治]1 基礎課程演習 政治学概論[含国際政治]2	2･3･4前 2･3･4前 1･2･3･4前 1前 2･3･4通 2･3･4通 1前 2･3･4通	1 1 1 1 1 1 1 1	2 0.1 0.2 0.2 4 4 2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成8年4月）	6日
12	兼担	教授	ﾅｶｲ ｺｳｼﾞ 仲居　宏二 ＜平成26年4月＞		文学士		国際交流実習1 異文化間コミュニケーション(2) 異文化間コミュニケーション(1) 国際コミュニケーション論 メディア・コミュニケーション特講2 基礎課程演習 国際交流入門	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4通 3･4通 1前 1前	1 1 1 1 1 1 1	1 2 2 4 4 2 0.2	聖心女子大学文学部 教授 （平成24年4月）	6日
13	兼担	教授	ｻｸﾏ ﾗﾌｧｴﾗ SAKUMA R. ＜平成26年4月＞		Licence es Letters （仏国）		2年フランス語(会話) 1年フランス語(オラル) フランス語コミュニケーションⅡ(2) フランス語コミュニケーションⅡ(1) 2年フランス語(会話)	2通 1通 3後 3前 2通	2 3 1 1 2	4 6 2 2 4	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成23年4月）	3日
14	兼担	教授	ﾊﾗｵｶ ﾌﾐｺ 原岡　文子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅳ 日本文学史Ⅱ 古典文学研究Ⅲ	2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前	1 1 1	2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成5年4月）	6日
15	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ｽｽﾑ 山田　進 ＜平成26年4月＞		文学修士		対照言語学Ⅰ 日本語学概論Ⅱ 基礎課程演習 日本語学概論Ⅰ	3･4前 2･3･4後 1前 2･3･4前	1 1 1 1	2 2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	
16	兼担	教授	ﾅｶﾞﾉ ｶｽﾞｵ 永野　和男 ＜平成26年4月＞		教育学士		教育学入門 情報ネットワーク演習	1･2前 2･3･4前	1 1	0.2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成12年4月）	6日
17	兼担	教授	ﾌｶｲ ﾏｻﾐ 深井　雅海 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		日本近世史Ⅰ 史料講読Ⅱ	2･3･4通 3･4通	1 1	4 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
18	兼担	教授	ｱｼﾞｵｶ ﾄｵﾙ 味岡　徹 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		アジア史入門 世界史文献講読Ⅱ－1 外国史概説Ⅰ－2 世界史演習Ⅲ－1 中国近代史 世界史演習Ⅱ－1 世界史文献講読Ⅱ－2	1前 2前 2･3･4前 4通 2･3･4通 3通 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 2 2 4 4 4 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
19	兼担	教授	ﾀｶﾀﾞ ﾕﾐ 高田　遵湖 ＜平成26年4月＞		文学修士		運動学3 運動学1 教育学入門 体育運動学 体育運動学	2･3･4後 2･3･4前 1･2前 1通 1通	1 1 1 2 2	1 1 0.2 4 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
20	兼担	教授	ｷﾀﾑﾗ ｶｽﾞｵ 北村　和夫 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		教育学入門 日本教育史2 教育原理 教育実習2 教育実習1 日本教育史1	1･2前 2･3後 2･3前 4通 4通 2･3前	1 1 1 1 1 1	0.2 2 2 2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
21	兼担	教授	ｻｻｷ ﾀｶｼ 佐々木　隆 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日本史概説Ⅰ 日本近現代史Ⅰ 日本史概説Ⅱ	2･3･4前 2･3･4通 2･3･4後	1 1 1	2 4 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
22	兼担	教授	ﾐﾀ ﾊﾙﾖｼ 三田　晴義 ＜平成26年4月＞		博士 （理学）		情報処理入門 プログラム入門 情報処理入門 国際交流入門	2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 1前	2 1 2 1	8 4 8 0.2	聖心女子大学文学部 教授 （平成9年4月）	6日
23	兼担	教授	ｶﾜｶﾐ ｷﾖﾌﾐ 川上　清文 ＜平成26年4月＞		教育学博士		発達心理学1 発達心理学特講7 心理学入門	2･3･4前 3･4前 1前	1 1 1	2 2 0.3	聖心女子大学文学部 教授 （平成10年4月）	6日
24	兼担	教授	ﾏｰｼｬ ｸﾗｯｶﾜｰ KRAKOWER M. ＜平成26年4月＞		M. A. Med （米国）		メディア・コミュニケーション入門1 国際交流実習1 英語の世界 メディア・コミュニケーション特講1 1年英語	1･2前 2･3･4前 1前 3･4後 1通	1 1 1 1 1	2 0.1 0.2 2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
25	兼担	教授	ｺｲｽﾞﾐ ﾄｵﾙ 小泉　徹 ＜平成26年4月＞		文学修士※		世界史演習Ⅱ－4 世界史文献講読Ⅳ－2 世界史文献講読Ⅳ－1 世界史演習Ⅲ－4 外国史概説Ⅱ－2 ヨーロッパ近代史Ⅰ	3通 2後 2前 4通 2･3･4後 2･3･4通	1 1 1 1 1 1	4 2 2 4 2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
26	兼担	教授	ｻｻｷ ﾏｻﾋﾛ 佐々木　正宏 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		臨床心理学特講2 心理学入門 基礎課程演習	2･3･4後 1前 1前	1 1 1	2 0.3 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
27	兼担	教授	ﾌﾞｯｼｪﾙ ﾌﾞﾚﾝﾀﾞ ｱｲﾘｰﾝ BUSHELL B. ＜平成26年4月＞		M. A. Med		英語の世界	1前	1	0.2	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	
28	兼担	教授	ﾄﾐﾊﾗ ﾏﾕﾐ 冨原　眞弓 ＜平成26年4月＞		Docteur en Philosophie （仏国）		倫理学概論Ⅳ 西洋近代哲学史Ⅱ 宗教思想史Ⅰ 倫理学概論Ⅲ 宗教思想史Ⅱ 哲学概論Ⅰ 哲学演習Ⅳ 哲学概論Ⅱ	2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4前	1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 4 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
29	兼担	教授	ｵｶﾞﾜ ｻﾕﾘ 小川　早百合 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年日本語1 国際交流実習1 基礎課程演習 国際交流入門 1年日本語2 1年日本語2 1年日本語1	1前 2･3･4前 1前 1前 1後 1後 1前	2 1 1 1 2 2 2	4 0.1 2 0.2 4 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
30	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾏﾐ 安達　まみ ＜平成26年4月＞		文学修士※		英語文化論[翻訳実践]1 英語文化論[翻訳実践]2 英語の世界 英語文化論[児童文学]2	2･3･4前 2･3･4後 1前 2･3･4後	1 1 1 1	2 2 0.2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
31	兼担	教授	ｻｻｷ ｹｲｽｹ 佐々木　恵介 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 日本古代史Ⅰ	1前 2･3･4通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
32	兼担	教授	ｶﾜﾂ ﾏｺﾄ 川津　誠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 近代文学研究Ⅲ 近代文学研究Ⅳ 日本文学史Ⅵ	1前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4後	1 1 1 1	2 2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
33	兼担	教授	ｶﾜﾍﾞ ﾀｶｺ 河邉　貴子 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		教育学入門 幼児教育原論	1･2前 2･3前	1 1	0.2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
34	兼担	教授	ｲﾝﾃﾞ ﾀﾀﾞｵ 印出　忠夫 ＜平成26年4月＞		文学修士 D.E.A （仏国）		世界史演習Ⅲ－2 世界史文献講読Ⅲ－2 外国史概説Ⅱ－1 ヨーロッパ中世史Ⅰ 世界史文献講読Ⅲ－1 世界史演習Ⅱ－2	4通 2後 2･3･4後 2･3･4通 2前 3通	1 1 1 1 1 1	4 2 2 4 2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
35	兼担	教授	ﾐｽﾞｼﾏ ﾅｵｷ 水島　尚喜 ＜平成26年4月＞		教育学修士		教育学入門 災害と人間 基礎課程演習 人間学習4	1･2前 1･2･3･4前 1前 3･4前	1 1 1 1	0.2 0.2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
36	兼担	教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾄﾓｺ 中川　僚子 ＜平成26年4月＞		文学修士※ M.A. in Modern Literature （英国）		英文学史概説1 英語の世界 英文学史概説1 英文学史概説2 基礎課程演習	1･2前 1前 1･2前 1･2後 1前	2 1 2 2 1	4 0.2 4 4 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
37	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾏｻﾉﾌﾞ 高橋　雅延 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		心理学史 心理学入門 基礎課程演習 認知心理学特講6 認知心理学特講7	2･3･4後 1前 1前 3･4前 3･4後	1 1 1 1 1	2 0.3 2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
38	兼担	教授	ﾌｾ ﾐｷｵ 扶瀬　幹生 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		基礎課程演習 英語文化論[文学と電子メディア]1 英語文化論[文学と電子メディア]2 英語の世界 2年英語2(リーディング)	1前 2前 2後 1前 2通	1 1 1 1 2	2 2 2 0.2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
39	兼担	教授	ｻﾜﾉ ﾕｷｺ 澤野　由紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		教育学入門 比較教育学特講 西洋教育運動史 比較教育学	1･2前 3･4後 2･3後 3･4通	1 1 1 1	0.2 2 2 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
40	兼担	教授	ﾊﾔｼ ﾘｭｳｼﾞﾛｳ 林　龍次郎 ＜平成26年4月＞		文学修士		英語の世界 2年英語2(リーディング) 英語学概論 英語学特講3－1 英文法 英語学特講3－2	1前 2通 1･2通 2･3･4前 2･3前 2･3･4後	1 1 1 1 1 1	0.2 2 4 2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
41	兼担	教授	ｳｴﾀﾞ ｾｲｼﾞ 植田　誠治 ＜平成26年4月＞		博士 （医学）		体育運動学 運動学2 健康な生活と健康科学 健康社会学 教育学入門 災害と人間	1通 2･3･4後 1･2･3･4前 2･3･4前 1･2前 1･2･3･4前	1 1 1 1 1 1	2 1 2 2 0.2 0.2	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
42	兼担	教授	ｶﾄｳ ﾖｼﾐﾂ 加藤　好光 ＜平成26年4月＞		Dr. phil. （ドイツ）		基礎課程演習 ビートルズの詩と音楽 ギリシア語Ⅱ 哲学演習Ⅲ ビートルズの詩と音楽	1前 1･2･3･4前後 2･3･4通 2･3･4通 1･2･3･4前後	1 2 1 1 2	2 4 4 4 4	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
43	兼担	教授	ﾑｶｲ ﾀｶﾖ 向井　隆代 ＜平成26年4月＞		Ph.D. (Psychology) （米国）		臨床心理学特講7 心理学入門	2･3･4前 1前	1 1	2 0.3	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
44	兼担	教授	ｶﾄｳ ｶｽﾞﾔ 加藤　和哉 ＜平成26年4月＞		文学修士※		災害と人間 キリスト教学概論Ⅱ キリスト教学Ⅰ－5 キリスト教学概論Ⅰ 哲学史演習Ⅰ キリスト教学演習Ⅱ 倫理学演習Ⅱ 基礎課程演習 現代を考える	1･2･3･4前 2･3･4前 1･2通 2･3･4後 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 1前 1･2･3･4前	1 1 1 1 1 1 1 1 1	0.2 2 4 2 4 4 4 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
45	兼担	教授	ﾅｶﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 永田　佳之 ＜平成26年4月＞		教育学博士		教育学入門 人間学習8 基礎課程演習 教育社会学概論2 教育社会学概論1 災害と人間	1･2前 3･4前 1前 2･3後 2･3後 1･2･3･4前	1 1 1 1 1 1	0.2 2 2 2 2 0.2	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
46	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｷ 山田　由紀 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年英語2(リーディング) 英語の世界 基礎課程演習	2通 1前 1前	1 1 1	2 0.2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
47	兼担	教授	ｵｵﾂｶ ﾐﾎ 大塚　美保 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		近代文学研究Ⅱ 近代文学研究Ⅰ 日本文学史Ⅴ	2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前	1 1 1	2 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
48	兼担	教授	ﾌｶｻﾜ ﾉﾘｺ 深沢　了子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅷ	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
49	兼担	准教授	ｲﾏｶﾞﾜ ｷｮｳｺ 今川　恭子 ＜平成26年4月＞		修士※ （音楽）		人間学習3 教育学入門 基礎課程演習	3･4後 1･2前 1前	1 1 1	2 0.2 2	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
50	兼担	准教授	ｸﾎﾞﾀ ﾄﾓﾄｼ 久保田　知敏 ＜平成26年4月＞		文学修士※		中国思想への招待 中国古典への招待 中国文学概論Ⅱ 国際交流入門 国際交流実習1 中国文学概論Ⅰ 1年中国語(文法)	1･2･3･4後 1･2･3･4後 2･3･4後 1前 2･3･4前 2･3･4前 1通	1 1 1 1 1 1 2	2 2 2 0.2 0.1 2 4	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
51	兼担	准教授	ｸﾜﾅ ｴｲｺ 桑名　映子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		基礎課程演習 世界史演習Ⅲ－3 ヨーロッパ現代史Ⅰ 世界史文献講読Ⅴ－2 世界史文献講読Ⅴ－1 外国史概説Ⅱ－3 世界史演習Ⅱ－3	1前 4通 2･3･4通 2後 2前 2･3･4後 3通	1 1 1 1 1 1 1	2 4 4 2 2 2 4	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
52	兼担	准教授	ﾌﾙｶﾜ ｼﾞｭﾝｺ 古川　純子 ＜平成26年4月＞		経済学修士※		国際交流入門 国際経済学2 経済理論入門 経済学概論[含国際経済]	1前 2･3･4後 2･3･4通 2･3･4通	1 1 1 1	0.2 2 4 4	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
53	兼担	准教授	ﾐｳﾗ ﾉｿﾞﾐ 三浦　望 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		旧約聖書学Ⅰ 新約聖書学 旧約聖書学Ⅱ キリスト教学Ⅰ－6 キリスト教学Ⅱ－14 キリスト教学演習Ⅰ 哲学演習Ⅶ－1 哲学演習Ⅶ－2	2･3･4前 2･3･4通 2･3･4後 1･2通 3･4通 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4後	1 1 1 1 1 1 1 1	2 4 2 4 4 4 2 2	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
54	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 山口　昭彦 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学） Docteur （仏国）		世界史演習Ⅲ－5 世界史文献講読Ⅵ－2 世界史文献講読Ⅵ－1 西アジア近代史 外国史概説Ⅰ－1 アジア史入門 基礎課程演習 世界史演習Ⅱ－5	4通 2後 2前 2･3･4通 2･3･4前 1前 1前 3通	1 1 1 1 1 1 1 1	4 2 2 4 2 1 2 4	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
55	兼担	准教授	ﾅｶﾞﾉ ﾐｶ 長野　美香 ＜平成26年4月＞		博士 （人文科学）		倫理学演習Ⅲ 基礎課程演習 キリスト教学Ⅰ－9 災害と人間 日本倫理思想史Ⅱ 日本思想史学演習Ⅰ 日本倫理思想史Ⅰ	2･3･4通 1前 1･2通 1･2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通 2･3･4前	1 1 1 1 1 1 1	4 2 4 0.2 2 4 2	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
56	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ｾｲｺ 松浦　聖子 ＜平成26年4月＞		法学修士※		憲法1 国際交流入門 法律学[含国際法] 国際交流実習1 現代家族法	1･2･3･4前 1前 1･2･3･4通 2･3･4前 2･3･4通	2 1 1 1 1	4 0.2 4 0.1 4	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
57	兼担	准教授	ｺﾔﾅｷﾞ ﾄﾓｶｽﾞ 小柳　智一 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本語史概説Ⅱ 日本語学研究Ⅱ 日本語史概説Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	1 1 1	2 2 2	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
58	兼担	准教授	ﾅｶｲ ｼﾞｭﾝｲﾁ 永井　淳一 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		心理学入門	1前	1	0.3	聖心女子大学文学部 准教授 （平成22年4月）	6日
59	兼担	講師	ｼﾊﾞﾀ ﾚｲｺ 柴田　玲子 ＜平成26年4月＞		博士（心理学）		基礎課程演習 心理学入門 臨床心理学特講4	1前 1前 2･3･4前	1 1 1	2 0.3 2	聖心女子大学文学部 講師 （平成20年4月）	6日
60	兼担	講師	ﾊﾏｸﾞﾁ ﾄｼｺ 濱口　壽子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Liguistics （米国）		基礎課程演習 英語の世界 1年英語	1前 1前 1通	1 1 1	2 0.2 4	聖心女子大学文学部 講師 （平成15年4月）	6日
61	兼担	講師	ｶﾐｲｼ ﾏﾅﾌﾞ 上石　学 ＜平成26年4月＞		修士※ （文学）		美学・芸術学概論Ⅰ 美学・芸術学概論Ⅱ 美学・芸術学演習Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通	1 1 1	2 2 4	聖心女子大学文学部 講師 （平成14年4月）	6日
62	兼担	講師	ﾊﾀ ｺｳｲﾁﾛｳ 畑　浩一郎 ＜平成26年4月＞		Docteur en Litterature et civilisation Franqaises （仏国）		フランスの社会と文化(1) 国際交流入門 基礎課程演習 国際交流実習1 1年フランス語(文法) フランスの社会と文化(2)	2･3･4前 1前 1前 2･3･4前 1通 2･3･4後	1 1 1 1 1 1	2 0.2 2 0.1 4 2	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
63	兼担	講師	ﾌｼﾞｲ ｱｷｺ 藤井　彰子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Linguistics （米国）		英語の世界	1前	1	0.2	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
64	兼担	講師	ｽｷﾞﾓﾄ ｼﾞｭﾝｺ 杉本　淳子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学） M.A. in Phonetics （英国）		英語の世界 1年英語	1前 1通	1 1	0.2 4	聖心女子大学文学部 講師 （平成17年4月）	6日
65	兼担	講師	ﾊﾀｹﾔﾏ ﾋﾛｼ 畠山　寛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		国際交流入門 ドイツの社会と文化(2) キリスト教学Ⅱ－16 1年ドイツ語(文法) ドイツの社会と文化(1)	1前 2･3･4後 3･4通 1通 2･3･4前	1 1 1 1 1	0.2 2 4 4 2	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
66	兼担	講師	ﾆｼﾊﾗ ﾅｵｴ 西原　直枝 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		教育学入門 基礎課程演習	1･2前 1前	1 1	0.2 2	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
67	兼担	講師	ｲｼﾊﾗ ﾋｲﾛ 石原　比伊呂 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		日本中世史Ⅰ	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 講師 （平成25年4月）	6日
68	兼担	講師	ｷｼﾓﾄ ﾀｹｼ 岸本　健 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		心理学入門 発達心理学2 発達心理学特講6	1前 2･3･4前 3･4前	1 1 1	0.3 2 2	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
69	兼任	講師	ﾂｼﾞ ﾏﾁｺ 辻　眞智子 ＜平成27年4月＞		学芸学士		書道Ⅰ 書道Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
70	兼任	講師	ｼﾐｽﾞ ﾁｮｳｺ 清水　寵子 ＜平成26年4月＞		文学修士		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通	1	4	日本基督教団 牧師 （昭和63年12月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
71	兼任	講師	ｻｲｸﾞｻ ﾀｶﾕｷ 三枝　昂之 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		文芸創作入門	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
72	兼任	講師	ﾅｶﾔﾏ ﾉﾘｺ 中山　紀子 ＜平成26年4月＞		準学士		体育運動学 体育運動学	1通 1通	2 2	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
73	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ｼｮｳｼｭｳ 河上　正秀 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅷ 哲学・倫理学特講Ⅶ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
74	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾔｽｺ 木村　恭子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
75	兼任	講師	ﾀｼﾛ ｵｻﾑ 田代　攻 ＜平成29年4月＞		教育学士		教職実践演習(中学・高校) 教職実践演習(中学・高校)	4後 4後	2 2	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
76	兼任	講師	ｲﾄｳ ｼｮｳｼﾞ 伊東　照司 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東南アジア史	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
77	兼任	講師	ﾐｳﾗ ｼｮｳｺ 三浦　笙子 ＜平成27年4月＞		Ph. D. in English （米国）		英作文2 米文学史概説2 英作文1 米文学史概説1	3後 2･3･4後 3前 2･3･4前	1 1 1 1	2 2 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和59年4月）	
78	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾏｻﾊﾙ 中村　雅治 ＜平成27年4月＞		国際学修士※		2年フランス語(講読)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
79	兼任	講師	ﾏｽﾌﾞﾁ ﾕｷｵ 増渕　幸男 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育哲学2 教育学概論	2･3前 2通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
80	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾖｳｺ 鈴木　庸子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		1年英語 2年英語2(リーディング)	1通 2通	1 1	4 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
81	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ｻﾄｺ 山口　里子 ＜平成26年4月＞		Doctor of Mninistry （米国）		ジェンダー学2－1	1･2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
82	兼任	講師	ﾆｼﾊﾗ ｶｽﾞ 西原　和 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	1	2	花柳和舞踊研究所	
83	兼任	講師	ﾐﾔｹ ﾕｷｵ 三宅　幸夫 ＜平成28年4月＞		M. A. （ドイツ）		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
84	兼任	講師	ｱﾏｷﾞ ﾕｷﾋｺ 天城　靭彦 ＜平成28年4月＞		法学士		メディア・コミュニケーション特講8－2	3･4後	1	2	東京TVフォーラム実行委員会 委員長 （平成23年7月）	
85	兼任	講師	ﾏﾂﾊﾞﾗﾐﾁｺ 松原　美智子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	
86	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾚｲｺ 中村　玲子 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年英語2(リーディング)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成5年4月）	
87	兼任	講師	ｲｿﾔﾏ ﾀﾀﾞｼ 礒山　雅 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キリスト教音楽 キリスト教学Ⅱ－8	2･3･4通 3･4通	1 1	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
88	兼任	講師	ｲﾜﾓﾄ ﾄｼﾛｳ 岩本　俊郎 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		西洋教育史2 教職入門 道徳教育の研究 教職入門	2･3前 2･3前 2･3後 2･3前	1 2 1 2	2 4 2 4	立正大学心理学部 教授 （平成14年4月）	
89	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾏｷｺ 林　眞幾子 ＜平成26年4月＞		体育学士		体育運動学	1通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
90	兼任	講師	ﾏｽﾀﾞ ﾌﾐｺ 増田　文子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
91	兼任	講師	ﾀﾅｶ ｾﾞﾝｲﾁﾛｳ 田中　善一郎 ＜平成27年4月＞		博士 （政治学）		現代国際政治Ⅴ	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
92	兼任	講師	ｱｵｷ ﾓﾄﾕｷ 青木　誠之 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年ドイツ語(講読)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
93	兼任	講師	ｳｳﾉ ｾﾞﾝﾄﾞｳ 上野　善道 ＜平成27年4月＞		文学修士		言語学概論Ⅱ 言語学概論Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
94	兼任	講師	ｻｶﾓﾄ ｶﾅﾒ 坂本　要 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本民俗学	2･3･4通	1	4	筑波学院大学経営情報学部 教授 （平成8年4月）	
95	兼任	講師	ﾜﾀﾞ ﾐﾁｺ 和田　迪子 ＜平成27年4月＞		文学士		人格心理学特講4 交流分析概論	3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
96	兼任	講師	ﾔｷﾞｼﾀ ﾏｻﾊﾙ 柳下　正治 ＜平成26年4月＞		工学士		現代社会と環境	1･2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
97	兼任	講師	ﾊｯﾄﾘ ｼﾝｼﾞ 服部　進治 ＜平成27年4月＞		文学士		社会科教育法1	2･3後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
98	兼任	講師	ｵｵﾇｷ ﾔｽｵ 大貫　康雄 ＜平成26年4月＞		文学士		地球化時代のNGO	1･2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
99	兼任	講師	ﾓﾘ ﾋﾃﾞﾖｼ 森　秀善 ＜平成27年4月＞		文学士		特別活動 特別活動	2･3後 2･3後	2 2	4 4	青山学院大学文学部 講師 （平成19年4月）	
100	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾃﾙﾌﾐ 秋山　光文 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東洋美術史Ⅱ 東洋美術史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	お茶の水女子大学文教育学部 教授 （平成19年4月）	
101	兼任	講師	ﾏﾂｶﾀ ﾕｷｺ 松方　由紀子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成8年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
102	兼任	講師	ｽｴｻﾞｷ ﾏｽﾐ 末崎　真澄 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		博物館実習 博物館学各論1	4前後 2･3･4通	4 1	12 4	（財）馬事文化財団馬の博物館 理事（学芸部長） （平成19年10月）	
103	兼任	講師	ｺﾝﾄﾞｳ ﾀｸ 近藤　卓 ＜平成28年4月＞		学術博士		人間学習11	3･4前	1	2	東海大学文学部 教授 （平成13年4月）	
104	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐｶﾞｸ 佐藤　研 ＜平成27年4月＞		Dr.theol . （スイス）		キリスト教学特講Ⅱ キリスト教学Ⅱ－11	2･3･4通 3･4通	1 1	4 4	立教大学文学部 教授 （平成3年4月）	
105	兼任	講師	ﾀｸﾎﾞ ｷｮｳｼﾞ 田窪　恭治 ＜平成28年4月＞		教育学士		人間学習10	3･4前	1	2	多摩美術大学芸術学部 客員教授 （平成24年4月）	
106	兼任	講師	ｻﾜﾀﾞ ﾑﾂﾖ 澤田　むつ代 ＜平成27年4月＞		文学博士		博物館学各論2	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
107	兼任	講師	ｷﾀﾓﾄ ﾏｻｱｷ 北本　正章 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育学特講2	2･3･4前	1	2	青山学院大学教育人間科学部 教授 （平成8年4月）	
108	兼任	講師	ﾏﾂﾑﾗ ｼﾞｭﾝ 松村　純 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国） Master in Education （カナダ）		英語文化論［英語と聖書］1 英語文化論［英語と聖書］2 2年英語2(リーディング) 1年英語	2･3･4前 2･3･4後 2通 1通	1 1 1 1	2 2 2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
109	兼任	講師	ﾀｼﾛ ﾋﾛｼ 田代　博 ＜平成28年4月＞		理学士		教育実習指導1(中学・高校) 教育実習指導4(中学・高校) 社会・地理歴史科教育法1 社会・地理歴史科教育法2	3後 4後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 2 2	筑波大学附属高等学校 教諭 （平成9年4月）	
110	兼任	講師	ﾄﾘｲ ｱｷｵ 鳥居　明雄 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本の伝統文化	1･2･3･4後	1	2	都留文科大学文学部 教授 （平成元年10月）	
111	兼任	講師	ｺｳﾉｼ ｻﾁｴ 神野志　幸恵 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅱ 古典文学研究Ⅰ 日本文学史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	1 1 1	2 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
112	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｾｲｲﾁﾛｳ 鈴木　誠一郎 ＜平成26年4月＞		学士 （経済学）		博物館情報・メディア論 視聴覚教育1 視聴覚教育2	2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後	1 1 1	2 2 2	筑波大学図書館情報ﾒﾃﾞｨｱ系 教授 （平成19年6月）	
113	兼任	講師	ﾎｼﾉ ﾏｻﾐﾁ 星野　正道 ＜平成26年4月＞		音楽学士		キリスト教学Ⅰ－1	1･2通	1	4	白百合女子大学文学部 教授 （平成16年4月）	
114	兼任	講師	ｱｻｲ ｷｮｳｺ 浅井　経子 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		生涯学習概論	3･4前	1	2	八洲学園大学生涯学習学部 教授 （平成6年4月）	
115	兼任	講師	ﾈｼﾞﾒ ｹﾝｲﾁ 根占　献一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通	1	4	学習院女子大学国際文化交流学部 教授 （平成10年4月）	
116	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾃﾂﾛｳ 渡部　哲郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通	1	4	横浜商科大学商学部 教授 （平成4年4月）	
117	兼任	講師	ｿﾝ ﾖﾝｵｸ 孫　英玉 ＜平成26年4月＞		文学修士 （韓国）		コリア語コミュニケーションⅡ(2) コリア語コミュニケーションⅡ(1) 2年コリア語 1年コリア語(文法) 2年コリア語	3後 3前 2通 1通 2通	1 1 2 1 2	2 2 4 4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
118	兼任	講師	ﾐﾔｼﾞﾏ ﾂｶｻ 宮島　司 ＜平成27年4月＞		法学博士		取引関係法	2･3･4通	1	4	慶應義塾大学法学部 教授 （平成2年4月）	
119	兼任	講師	ﾑﾗﾀ ﾖｼｺ 村田　芳子 ＜平成28年4月＞		体育学修士		人間学習6	3･4前	1	2	筑波大学体育系 教授 （平成17年4月）	
120	兼任	講師	ｳﾉ ﾐｴｺ 宇野　三恵子 ＜平成26年4月＞		国際学修士		聖心スピリットと共生	1･2･3･4後	1	2	（学）聖心女子学院 理事長 （平成22年6月）	
121	兼任	講師	ｷﾓﾄ ｷﾐｺ 木本　喜美子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講4	2･3･4前	1	2	一橋大学大学院社会学研究科 教授 （平成5年4月）	
122	兼任	講師	ｱﾀﾞﾁ ﾅｵﾔ 安達　直哉 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古文献入門	2･3･4通	1	4	大東文化大学文学部 教授 （平成17年4月）	
123	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｱｵｲ 竹内　葵 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
124	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ｷﾖﾐ 小川　清美 ＜平成27年4月＞		家政学修士		教育学特講7	2･3･4後	1	2	東京都市大学人間科学部 教授 （平成21年4月）	
125	兼任	講師	ﾙｲｽ ｴｲﾐ LEWIS, Amy Rita ＜平成28年4月＞		M. A. （米国）		英会話 3･4年英語	3･4通 3･4通	1 1	4 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
126	兼任	講師	ｵｸﾞﾗ ﾁｶｺ 小倉　千加子 ＜平成27年4月＞		医学博士		ジェンダー学3－1	2･3･4前	1	2	みすず学園森町こども園・森町幼稚園 園長 （平成23年4月）	
127	兼任	講師	ﾊﾗ ﾉﾌﾞｺ 原　伸子 ＜平成27年4月＞		経済学修士		ジェンダー学6－3	2･3･4前	1	2	法政大学経済学部 教授 （平成元年4月）	
128	兼任	講師	ｲｹｶﾞﾐ ｷﾖｺ 池上　清子 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		ジェンダー学5－1	1･2･3･4前	1	2	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授 （平成23年4月）	
129	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｱｷｺ 渡邉　昭子 ＜平成26年4月＞		文学修士		英作文1 英作文2 1年英語	3前 3後 1通	1 1 1	2 2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和57年4月）	
130	兼任	講師	ｱｻｶ ﾀｹｶｽﾞ 浅香　武和 ＜平成26年4月＞		文学修士※		スペイン語コミュニケーションⅠ(2) 2年スペイン語 スペイン語コミュニケーションⅠ(1) 1年スペイン語(文法)	2後 2通 2前 1通	1 1 1 1	2 2 2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
131	兼任	講師	フジサキ ヒロコ 藤崎　宏子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講1	2･3･4前	1	2	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成19年4月）	
132	兼任	講師	アラキ デイル ARAKI , Dale M ＜平成27年4月＞		M.S.in Educational Administration （米国）		異文化理解 異文化理解	2･3･4前 2･3･4前	2 2	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
133	兼任	講師	ウエジマ ヨウイチ 上嶋　洋一 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		生徒指導［含進路指導］	2･3後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
134	兼任	講師	オダ カズミ 小田　和美 ＜平成26年4月＞		学士 （物理教育）		情報活用演習 情報活用演習	1･2･3･4前後 1･2･3･4前後	2 2	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
135	兼任	講師	カナザワ ノブミ 金澤　延美 ＜平成27年4月＞		Master of Science Teaching English to Speakers of other Languages （米国）		教育学特講5	2･3･4後	1	2	駒沢女子短期大学保育科 教授 （平成20年4月）	
136	兼任	講師	ナガミネ ヨシオ 長峰　美夫 ＜平成27年4月＞		行政学修士		国際法2	2･3･4休	1	2	（株）グローバル・グループ21ジャパン シニアコンサルタント （平成21年8月）	
137	兼任	講師	アナン エリ 阿南　えり ＜平成26年4月＞		英文学修士 M.A. in TESOL （英国）		1年英語	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
138	兼任	講師	マツイ ユタカ 松井　豊 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会心理学特講11	2･3･4後	1	2	筑波大学人間系 教授 （平成17年9月）	
139	兼任	講師	アライ ヨシオ 荒井　良雄 ＜平成27年4月＞		博士 （工学）		人文地理学2 人文地理学1	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	東京大学大学院総合文化研究科 教授 （平成8年10月）	
140	兼任	講師	イワタ コウキチ 岩田　功吉 ＜平成27年4月＞		法学士		朝鮮現代史	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
141	兼任	講師	イナ ヒサヨシ 伊奈　久喜 ＜平成27年4月＞		政治学士		現代国際政治Ⅰ	2･3･4通	1	4	日本経済新聞社 特別編集委員 （平成22年4月）	
142	兼任	講師	セキ カオル 関　かおる ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		2年日本語1 日本事情2 2年日本語2 1年日本語2 日本事情1 上級日本語1－2 上級日本語1－1 1年日本語1	2前 1･2･3･4後 2･3･4後 1後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1前	1 1 1 1 1 1 1 1	1 2 1 1 2 1 1 1	神田外語大学神田外語キャリアカレッジ 法人研修部日本語コーディネーター （平成18年4月）	
143	兼任	講師	ヨシノ コウサク 吉野　耕作 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （英国）		社会学特講3	2･3･4後	1	2	上智大学総合人間科学部 教授 （平成17年4月）	
144	兼任	講師	ツチハシ シゲキ 土橋　茂樹 ＜平成27年4月＞		修士※ （哲学）		西洋古代・中世哲学史Ⅱ 西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	中央大学文学部 教授 （平成15年4月）	
145	兼任	講師	モリヤマ マサヒト 盛山　正仁 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		行政学	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
146	兼任	講師	クロダ ユウコ 黒田　有子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	1	2	杏林大学外国語学部 教授 （平成16年4月）	
147	兼任	講師	ショザワ ジュン 所澤　潤 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育方法	2･3後	1	2	東京未来大学こども心理学部 教授 （平成25年4月）	
148	兼任	講師	クォン チェスク 権　在淑 ＜平成26年4月＞		人文科学修士※		コリア語コミュニケーションⅠ(1) 1年コリア語(オラル) コリア語コミュニケーションⅠ(2) 1年コリア語(オラル)	2前 1通 2後 1通	1 2 1 2	2 4 2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
149	兼任	講師	ヤマダ マスミ 山田　ますみ ＜平成26年4月＞		文学修士		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
150	兼任	講師	オノデラ アツコ 小野寺　敦子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格発達心理学	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
151	兼任	講師	サトウ ナオコ 佐藤　直子 ＜平成26年4月＞		修士 （スポーツ科学）		体育運動学	1通	2	4	東京国際大学人間社会学部 特命教授・客員教授 （平成23年4月）	
152	兼任	講師	オオシマ アキラ 大島　聡 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育工学 教育情報学	3･4前 2･3前	1 1	2 2	横浜国立大学教育人間科学部 教授 （平成14年4月）	
153	兼任	講師	ワカバヤシ アキオ 若林　明雄 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格心理学特講1	2･3･4休	1	2	千葉大学文学部 教授 （平成17年4月）	
154	兼任	講師	タムラ シズコ 田村　静子 ＜平成26年4月＞		社会福祉学修士		障害者教育・福祉概論	1･2･3･4前	1	2	（株）ライフエイドネクサスデザイン 代表取締役 （平成5年3月）	
155	兼任	講師	キタガミ マサユキ 北神　正行 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育経営	2･3･4後	1	2	国士舘大学体育学部 教授 （平成20年4月）	
156	兼任	講師	ナカノ ヒロエ 中野　洋恵 ＜平成27年4月＞		家政学修士		ジェンダー学1	2･3･4前	1	2	国立女性教育会館 研究国際室長 （平成14年4月）	
157	兼任	講師	サエキ ヤスコ 佐伯　康子 ＜平成27年4月＞		法学修士※		国際連合論	2･3･4後	1	2	清和大学法学部 教授 （平成7年4月）	
158	兼任	講師	ムラカワ マサヒロ 村川　雅弘 ＜平成27年4月＞		学術修士		教育学特講8	2･3･4前	1	2	鳴門教育大学大学院教育研究科 教授 （平成12年8月）	
159	兼任	講師	マツウラ ヒロシ 松浦　寛 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年フランス語(文法)	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
160	兼任	講師	ｱｼﾀﾞ ﾙﾘ 芦田　ルリ ＜平成27年4月＞		英文学修士 （カナダ）		2年英語2(オラル)	2通	1	2	東京医科大学英語教室 講師 （平成23年4月）	
161	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕﾘｺ 小林　由利子 ＜平成28年4月＞		教育学修士		人間学習5	3･4後	1	2	東京都市大学人間科学部 教授 （平成20年3月）	
162	兼任	講師	ﾓﾘｸﾞﾁ ﾛｰﾗ MORIGUCHI, Lola Gayle ＜平成27年4月＞		教育学修士		2年英語2(オラル)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
163	兼任	講師	ｲﾅﾀﾞ ｼﾞｭｳｲﾁ 稲田　十一 ＜平成27年4月＞		修士※ （国際学）		国際平和と開発援助	2･3･4前	1	2	専修大学経済学部 教授 （平成8年4月）	
164	兼任	講師	ｺｳﾔﾏ ｼｭﾝ 神山　潤 ＜平成27年4月＞		医学博士		臨床心理学特講8	2･3･4後	1	2	東京ベイ浦安市川医療センター 管理者（CEO） （平成21年4月）	
165	兼任	講師	ﾐｽﾞｼﾏ ﾖｳｺ 水島　陽子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
166	兼任	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ｹｲｺ 杉山　圭以子 ＜平成27年4月＞		M.Phil （インド）		南アジア現代史	2･3･4通	1	4	恵泉女学園大学 人間社会学部 教授 （平成25年4月）	
167	兼任	講師	ｺｳ ﾚｲｶ 黄　麗華 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(オラル) 1年中国語(オラル) 中国語コミュニケーションⅠ(2) 中国語コミュニケーションⅠ(1)	1通 1通 2後 2前	2 2 1 1	4 4 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
168	兼任	講師	ｲﾉｸﾞﾁ ﾖｼﾋｺ 猪口　好彦 ＜平成26年4月＞		Ph. D. （仏国）		1年フランス語(文法)	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
169	兼任	講師	ﾅｲﾄｳ ｶｽﾞﾐ 内藤　和美 ＜平成27年4月＞		保健学博士		発達心理学特講8	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
170	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾀﾂｵ 田中　辰雄 ＜平成26年4月＞		経済学修士		情報産業論	1･2･3･4前	1	0.7	慶應義塾大学経済学部 准教授 （平成10年4月）	
171	兼任	講師	ｺ ｴﾝﾆｮ 胡　婉如 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
172	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾐﾔｺ 冨士本　美矢子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(リーディング) 1年英語 2年英語2(オラル)	2通 1通 2通	1 1 1	2 4 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
173	兼任	講師	ｼﾞｬｸﾘｰﾇｺｰｴﾝ COHEN, Jacqueline ＜平成26年4月＞		Maitrise de Philosophie （仏国）		1年フランス語(オラル)	1通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
174	兼任	講師	ﾅｶﾞﾉ ﾐﾂﾛｳ 永野　光朗 ＜平成27年4月＞		文学修士		社会心理学特講4	2･3･4休	1	2	京都橘大学健康科学部 教授 （平成25年4月）	
175	兼任	講師	ｶﾜﾓﾄ ﾌｻｺ 河本　房子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(リーディング) 2年英語2(オラル) 1年英語	2通 2通 1通	1 1 1	2 2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
176	兼任	講師	ﾀﾗｼﾏ ｻﾄｼ 田良島　哲 ＜平成27年4月＞		文学修士		博物館概論 博物館実習	2･3･4前 4前後	1 1	2 3	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
177	兼任	講師	ｱﾎﾞ ﾉﾘｺ 阿保　聖子 ＜平成26年4月＞		文学修士		1年中国語(文法) 1年中国語(文法) 1年中国語(文法)	1通 1通 1通	3 3 3	6 6 6	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
178	兼任	講師	ﾌﾙﾔ ﾀｹｼ 古谷　毅 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本考古学	2･3･4通	1	4	東京国立博物館 主任研究員 （平成23年4月）	
179	兼任	講師	ｷｰｽ ﾌｫｰﾄﾞ FORD, Keith ＜平成26年4月＞		M. A.（英国） Ed. D.（TESOL）		2年英語2(オラル) 1年英語 2年英語2(オラル)	2通 1通 2通	2 1 2	4 4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
180	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 橋本　健二 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講2	2･3･4前	1	2	早稲田大学人間科学学術院 教授 （平成25年4月）	
181	兼任	講師	ﾀﾅﾊｼ ｻﾄｼ 棚橋　訓 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学特講11 文化人類学特講12 比較文化学2	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前	1 1 1	2 2 2	お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成18年4月）	
182	兼任	講師	ｴﾝﾀ ﾏｻﾕｷ 江下　雅之 ＜平成26年4月＞		MS-MSID （仏国）		ポップカルチャー	1･2･3･4後	1	2	明治大学情報コミュニケーション学部 教授 （平成23年4月）	
183	兼任	講師	ｻﾅﾀﾞ ﾋﾛｺ 真田　博子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学） 文学博士 （韓国）		2年コリア語 1年コリア語(文法)	2通 1通	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
184	兼任	講師	ｶﾅﾀ ﾌｻｺ 金田　房子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		古典文学研究Ⅶ 日本文学史Ⅳ	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
185	兼任	講師	ﾏﾂｶﾜ ｲｸﾖ 松川　育代 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	2	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
186	兼任	講師	ｼｮﾅｻﾝ SNELL, Jonathan ＜平成27年4月＞		教育学修士		オラルコミュニケーション 2年英語2(オラル)	2･3･4通 2通	1 1	4 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
187	兼任	講師	ﾎﾝｺﾞｳ ｶｽﾞﾄ 本郷　和人 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本史史料論	2通	1	4	東京大学史料編纂所 教授 （平成23年4月）	
188	兼任	講師	ﾕﾓﾄ ﾋﾛﾕｷ 湯本　浩之 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論1	2･3･4前	1	2	宇都宮大学留学生・国際交流センター 准教授 （平成25年4月）	
189	兼任	講師	ｼｬｯｸﾙﾌｫｰﾄﾞ ﾎﾟｰﾙ SHACKLEFORD P. ＜平成26年4月＞		M. A. （オーストラリア）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
190	兼任	講師	ｷﾘｳ ﾏｻﾕｷ 桐生　正幸 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		社会心理学特講6	2･3･4前	1	2	関西国際大学人間科学部 教授 （平成18年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
191	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾊｼﾞﾒ 阿部　一 ＜平成27年4月＞		博士 （理学）		地誌学1 地誌学2	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部 教授 （平成25年4月）	
192	兼任	講師	ｼﾗｲｼ ﾖｼﾊﾙ 白石　嘉治 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年フランス語(講読)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
193	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾘｶ 堀内　里香 ＜平成26年4月＞		文学修士		アラビア語の世界	1･2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
194	兼任	講師	ﾋﾛｲｼ ﾉｿﾞﾑ 廣石　望 ＜平成26年4月＞		神学博士		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通	1	4	フェリス女学院大学国際交流交流学部 教授 （平成19年4月）	
195	兼任	講師	ｸｽﾓﾄ ﾜｶｺ 楠本　和佳子 ＜平成27年4月＞		M.A.in Anthropology※ （米国）		キャリアデザイン入門	2･3前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
196	兼任	講師	ｷｸﾁ ｴｲｼﾞ 菊地　栄治 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		人間学習原論	3･4前	1	2	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成21年4月）	
197	兼任	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ ｱｷｺ 谷口　明子 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		教育心理学	2･3前	1	2	東洋大学文学部 教授 （平成25年4月）	
198	兼任	講師	ｺﾏﾔ ﾏﾐ 駒谷　真美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		教育メディア論	2･3前	1	2	昭和女子大学大学院生活機構研究科 准教授 （平成17年4月）	
199	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾄｼﾋｺ 遠藤　利彦 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講1	2･3･4後	1	2	東京大学大学院教育学研究科 准教授 （平成20年4月）	
200	兼任	講師	ｴﾋﾞﾅ ﾘｮｳｽｹ 蝦名　良亮 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	2	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
201	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｺｳｲﾁ 中村　幸一 ＜平成27年4月＞		文学修士※		英語史	2･3･4通	1	4	明治大学政治経済学部 教授 （平成17年4月）	
202	兼任	講師	ﾃﾗﾄﾞ ｼﾞｭﾝｺ 寺戸　淳子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学特講Ⅳ	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
203	兼任	講師	ｱｹｵ ﾏﾕﾐ 明尾　真弓 ＜平成26年4月＞		文学修士		体育運動学	1通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
204	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾀｶｵ 菊地　敬夫 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古代オリエント史	2･3･4通	1	4	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所 招聘研究員 （平成19年4月）	
205	兼任	講師	ﾘｮ ｼｮｳｴﾝ 呂　小燕 ＜平成26年4月＞		修士※ （総合文化）		2年中国語(講読) 1年中国語(オラル)	2通 1通	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
206	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾖｼｶ 植田　美佳 ＜平成27年4月＞		理学修士※		コンピュータサイエンス	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
207	兼任	講師	ｻｴｷ ﾓﾄｺ 佐伯　素子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講6	2･3･4後	1	2	聖徳大学心理・福祉学部 准教授 （平成23年4月）	
208	兼任	講師	ﾏﾂｵ ﾄﾓｱｷ 松尾　知明 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （米国）		教育課程論	2･3前	1	2	国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 （平成17年4月）	
209	兼任	講師	ﾊﾏﾔ ｻﾄｼ 浜屋　敏 ＜平成26年4月＞		MBA （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	1	0.7	富士通総研　経済研究所 上席主任研究員 （平成23年7月）	
210	兼任	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ﾉﾌﾞｵ 高柳　信夫 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年中国語(文法)	1通	2	4	学習院大学外国語教育研究センター 教授 （平成18年4月）	
211	兼任	講師	ｶﾝｻﾞｷ ﾅｵﾐ 神崎　直美 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		史料講読Ⅰ	2･3･4通	1	4	城西大学経済学部 准教授 （平成21年4月）	
212	兼任	講師	ﾐｵ ﾀﾀﾞｵ 三尾　忠男 ＜平成27年4月＞		教育学修士		メディア教材開発	2･3後	1	2	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成17年4月）	
213	兼任	講師	ｷﾑ ﾃﾎ 金　泰昊 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年コリア語(オラル) 2年コリア語	1通 2通	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
214	兼任	講師	ｺｳﾉ ﾄｼﾔ 河野　俊哉 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		科学史2 科学史1	1･2･3･4後 1･2･3･4後	1 1	2 2	暁星中学高等学校 教諭 （平成元年4月）	
215	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾖｼﾕｷ 木村　義之 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前	1	2	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 教授 （平成23年4月）	
216	兼任	講師	ﾌｸﾀﾞ ﾕｷ 福田　由紀 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		認知心理学特講8	2･3･4後	1	2	法政大学文学部 教授 （平成18年4月）	
217	兼任	講師	ﾀｷｻﾞﾜ ﾐｻｺ 滝澤　美佐子 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		国際法1	2･3･4前	1	2	桜美林大学リベラルアーツ学群 教授 （平成22年4月）	
218	兼任	講師	ｵｶﾐｮｳ ﾋﾃﾞﾀﾀﾞ 岡明　秀忠 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		社会・公民科教育法2 社会・公民科教育法1	3後 3前	1 1	2 2	明治学院大学文学部教職課程 教授 （平成16年4月）	
219	兼任	講師	ﾌﾞﾙｺﾞｽ BURGOS VIVAS, Juan Carlos ＜平成26年4月＞		B. A. （スペイン）		2年スペイン語 1年スペイン語(オラル) スペイン語コミュニケーションⅡ(2) スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	2通 1通 3後 3前	1 3 1 1	2 6 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
220	兼任	講師	ﾊﾆｭｳ ｶｽﾞﾉﾘ 羽生　和紀 ＜平成28年4月＞		Ph.D. （米国）		社会心理学特講14	3･4前	1	2	日本大学文理学部 教授 （平成18年4月）	
221	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾋﾛﾕｷ 鈴木　裕之 ＜平成27年4月＞		修士※ （社会学）		比較文化学特講4 文化人類学特講6	2･3･4前 2･3･4前	1 1	2 2	国士舘大学法学部 教授 （平成7年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
222	兼任	講師	ﾖｺﾔﾏ ｱﾕﾐ 横山　安由美 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学Ⅱ－1	3･4通	1	4	フェリス女学院大学国際交流交流学部 教授 （平成20年4月）	
223	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹｲｺ 渡邉　景子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	6	12	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
224	兼任	講師	ﾊﾗﾀﾞ ﾏﾘ 原田　眞理 ＜平成28年4月＞		保健学博士		人格臨床心理学特講4	3･4後	1	2	玉川大学･通信教育部 教授 （平成24年4月）	
225	兼任	講師	ｺﾏｲ ﾑﾂｺ 駒井　睦子 ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		1年スペイン語(文法)	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
226	兼任	講師	ｶﾐｾ ﾕﾐｺ 上瀬　由美子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会心理学特講9	2･3･4後	1	2	立正大学心理学部 教授 （平成22年4月）	
227	兼任	講師	ｶﾄｳ ｸﾐｺ 加藤　久美子 ＜平成26年4月＞		文学修士※		キリスト教学Ⅱ－6 キリスト教学Ⅰ－2	3･4通 1･2通	1 1	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
228	兼任	講師	ｵｵﾀ ﾕｳｺ 太田　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年英語2(オラル)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
229	兼任	講師	ﾂﾁﾔ ｼﾞｭﾝｼﾞ 土屋　淳二 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会学	2･3･4通	1	4	早稲田大学文学学術院 教授 （平成18年4月）	
230	兼任	講師	ｵｷ ｷﾖﾀｹ 沖　清豪 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		教育行政学2	2･3後	1	2	早稲田大学文学学術院 教授 （平成21年4月）	
231	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾄｵﾙ 上田　徹 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学･倫理学特講Ⅳ 哲学･倫理学特講Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
232	兼任	講師	ｷ ｷｮｸﾎｳ 紀　旭峰 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	1 1	2 2	早稲田大学アジア研究機構 常勤次席研究員 （平成25年4月）	
233	兼任	講師	ｻｻﾊﾗ ﾋﾛﾕｷ 笹原　宏之 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本語学研究Ⅰ	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
234	兼任	講師	ﾋﾗﾃﾞ ﾕｳｺ 平出　裕子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本文化史Ⅰ	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
235	兼任	講師	ｽｶﾞ ｶｽﾞﾋﾄ 壽賀　一仁 ＜平成28年4月＞		社会学修士		ボランティア研究演習2 ボランティア研究演習1	3･4後 3･4前	1 1	2 2	（社）あいあいネット 理事 （平成21年6月）	
236	兼任	講師	ﾏﾚｼｬﾙ ﾍﾞｱﾄﾘｽ MARECHAL Beatrice ＜平成27年4月＞		Ph. D.（言語学） （仏国）		フランス語コミュニケーションⅠ(2) フランス語コミュニケーションⅠ(1)	2後 2前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
237	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｶｵﾘ 山田　香里 ＜平成28年4月＞		修士 （神学） Licenza in Archeologia Cristiana （ヴァチカン市国）		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
238	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾁｱｷ 加藤　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
239	兼任	講師	ｶﾉ ﾐｷ 狩野　みき ＜平成28年4月＞		文学修士※		英作文1 英作文2	3前 3後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
240	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾋﾛ 遠藤　正寛 ＜平成27年4月＞		博士 （商学）		国際経済学1	2･3･4前	1	2	慶應義塾大学商学部 教授 （平成18年4月）	
241	兼任	講師	ﾜｾﾀﾞ ﾐﾅｺ 早稲田　みな子 ＜平成27年4月＞		Ph.D.in Music （米国）		世界音楽地誌	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
242	兼任	講師	ﾀﾃ ｹｻﾐ 舘　けさみ ＜平成26年4月＞		修士※ （人文学）		1年中国語(文法) 2年中国語(講読)	1通 2通	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
243	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ｺﾞｳ 小林　剛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学Ⅰ－4 ラテン語Ⅰ キリスト教思想史Ⅱ	1･2通 2･3･通 2･3･4後	1 1 1	4 4 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
244	兼任	講師	ﾐﾔｹﾞ ﾄｼﾋｺ 三宅　俊彦 ＜平成27年4月＞		博士 （歴史学）		中国語コミュニケーションⅡ(1) 中国古代文化史 中国語コミュニケーションⅡ(2) 2年中国語(講読)	3前 2･3･4通 3後 2通	1 1 1 1	2 4 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
245	兼任	講師	ﾏｸﾞｽ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ MAGGS Andrew、Jhon ＜平成26年4月＞		M. A. Linguistics （英国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 1	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
246	兼任	講師	ｵｵﾀﾆ ｸﾐ 大谷　公美 ＜平成27年4月＞		修士※ （美学）		キリスト教学Ⅱ－9 キリスト教美術	3･4通 2･3･4通	1 1	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
247	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾎ 渡辺　美穂 ＜平成27年4月＞		MPS in Industrial and Labor RelationsRelations		女性とキャリア形成	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
248	兼任	講師	ﾘｭｳｺﾞ ﾀﾞﾆｴﾗ 立古　ダニエラ ＜平成26年4月＞		東洋学・ 日本学修士 （チェコ）		チェコ語の世界	1･2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
249	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾉﾌﾞﾏｻ 秋山　信将 ＜平成26年4月＞		博士 （法学）		人間の安全保障	1･2･3･4後	1	2	一橋大学大学院法学研究科 教授 （平成24年8月）	
250	兼任	講師	ﾋﾒﾉ ｱﾂｺ 姫野　敦子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅴ 日本文学史Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	清泉女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
251	兼任	講師	ﾓﾘﾓﾄﾖｳｺ 森本　陽子 ＜平成26年4月＞		M. A. （英国）		2年英語2(オラル) 英作文1 英作文2 1年英語	2通 3前 3後 1通	1 1 1 1	2 2 2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
252	兼任	講師	ﾏｻｷ ｱｷｺ 正木　晶子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学）		1年ドイツ語(文法)	1通	1	4	上智大学言語教育研究センター 嘱託講師 （平成16年4月）	
253	兼任	講師	ﾅｶﾀﾆ ｼｹﾞｶｽﾞ 中谷　茂一 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		社会福祉論 児童福祉論	2･3･4前 1･2･3･4前	1 1	2 2	聖学院大学人間福祉学部 教授 （平成23年4月）	
254	兼任	講師	ｲｿﾉ ﾖｼｺ 磯野　昌子 ＜平成27年4月＞		行政学修士		ジェンダー学6－2	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
255	兼任	講師	ﾔﾀｶﾞﾜﾄﾓｴ 谷田川　知恵 ＜平成26年4月＞		法学修士※		ジェンダー学6－1	1･2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
256	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ﾋｻﾖ 川上　寿代 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
257	兼任	講師	ﾐﾉﾜ ｼｹﾞﾙ 箕輪　茂 ＜平成27年4月＞		博士 （国際関係論）		ラテンアメリカ史	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
258	兼任	講師	ｵｵﾊｼ ﾋﾃﾞﾄｼ 大橋　英敏 ＜平成26年4月＞		修士 （経済学）		金融のしくみ	1･2･3･4前	1	2	ジャパン・クレジット・アドバイザリー（株） 代表取締役社長 （平成24年5月）	
259	兼任	講師	ﾌｸﾆｼ ﾀｶﾋﾛ 福西　隆弘 ＜平成27年4月＞		Master of Public Policy （米国） Ph.D.in Economics （英国）		開発経済学	2･3･4通	1	4	独行）日本貿易振興機構 アジア経済研究所 地域研究センター 副主任研究員 （平成18年10月）	
260	兼任	講師	ﾋﾗﾊﾞﾔｼ ﾕｳｺ 平林　優子 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		古典文学講読Ⅰ	2･3･4前	1	2	東京女子大学現代教養学部 助手 （平成8年4月）	
261	兼任	講師	ｲﾄｳ ｼﾝｼﾞ 伊藤　信二 ＜平成27年4月＞		修士 （美術史）		博物館教育論	2･3･4前	1	2	独立行政法人　国立文化財機構東京国立博物館 教育普及室長 （平成22年4月）	
262	兼任	講師	ﾏｴｶﾞﾜ ｹﾝｲﾁ 前川　健一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅴ 哲学・倫理学特講Ⅵ	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
263	兼任	講師	ﾎﾘｴ ﾉﾘﾁｶ 堀江　宗正 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学1	2前	1	2	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 （平成25年4月）	
264	兼任	講師	ｶﾐｵｶ ﾏｻｼ 上岡　方士 ＜平成26年4月＞		教育学修士		体育運動学	1通	1	2	サイエンス・サービス （平成20年11月）	
265	兼任	講師	ﾖｼﾉ ﾄﾓﾐ 吉野　朋美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅵ	2･3･4前	1	2	中央大学文学部 准教授 平成21年4月	
266	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ｶｵﾘ 植田　かおり ＜平成27年4月＞		博士 （哲学）		ギリシア語Ⅰ	2･3･4通	1	4	神田外語大学外国語学部 准教授 （平成20年4月）	
267	兼任	講師	ｽｷｰﾂ ｺﾘﾝ SKEATES ,Colin ＜平成26年4月＞		M. A. （英国）		英作文2 1年英語 英作文1	3後 1通 3前	2 1 2	4 4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
268	兼任	講師	ｼﾗﾈ ｺｳｲﾝ 白根　孝胤 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		日本文化史Ⅱ 資料整理実習	2･3･4後 3･4前	1 1	2 2	公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所 研究員 （平成15年4月）	
269	兼任	講師	ｼｳﾁ ｶｽﾞｵｷ 志内　一興 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		古代ローマ史	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
270	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾐﾕｷ 阿部　美由起 ＜平成27年4月＞		修士 （芸術学）		2年英語2(リーディング)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
271	兼任	講師	ｻｶｲ ｶｽﾞﾌﾐ 酒井　計史 ＜平成28年4月＞		修士※ （社会学）		データ分析の基礎	3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
272	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾏｲｺ 中村　麻衣子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		教育相談	2･3前	2	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
273	兼任	講師	ﾖｺﾀ ﾁｱｷ 横田　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		フランス事情(2) 2年フランス語(講読) フランス事情(1)	2･3･4後 2通 2･3･4前	1 1 1	2 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
274	兼任	講師	ｼﾊﾞｻｷ ﾐﾂﾖ 柴崎　光世 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講1 現代の脳科学	2･3･4後 1･2･3･4後	1 1	2 2	明星大学人文学部 准教授 （平成19年4月）	
275	兼任	講師	ｵｵｻｷ ｱｻｺ 大崎　麻子 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		ジェンダー学5－2	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
276	兼任	講師	ｱﾗｲ ﾋﾛｺ 新井　浩子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キャリアデザイン入門	2･3前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
277	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｴﾐ 鈴木　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		アジア文化論	2･3･4後	1	2	早稲田大学イスラーム地域研究機構 主任研究員 （平成20年10月）	
278	兼任	講師	ｵｵﾀﾜ ﾅｵｷ 大多和　直樹 ＜平成28年4月＞		博士 （教育学）		教育調査	3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	
279	兼任	講師	ﾁﾊﾞ ｲﾁﾀﾞｲ 千葉　一大 ＜平成27年4月＞		修士※ （歴史学）		日本近世史Ⅱ	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
280	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾔｽｼ 堀内　康史 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		社会調査の技法2 情報活用演習	2･3･4前 1･2･3･4前後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
281	兼任	講師	サイキ ミチヨ 斉木　美知世 ＜平成27年4月＞		博士 （言語学）		日本語学研究Ⅳ	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
282	兼任	講師	イチカワ テツ 市川　哲 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		文化人類学特講7 比較文化学特講5	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	立教大学観光学部 助教 （平成23年10月）	
283	兼任	講師	トコロ マキコ 所　真紀子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	2	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
284	兼任	講師	アオキ アツコ 青木　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （国際政治学） M.A. in Histry （米国）		1年英語 2年英語2(オラル) 2年英語2(リーディング)	1通 2通 2通	1 1 1	4 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
285	兼任	講師	シマダ ユキ 島田　由紀 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		キリスト教学Ⅱ－3 キリスト教学Ⅰ－8	3･4通 1･2通	1 1	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
286	兼任	講師	シナガワ ナギサ 品川　なぎさ ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年日本語1 1年日本語2	1前 1後	1 1	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
287	兼任	講師	アタカ ノリコ 安高　紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （比較社会文化）		1年日本語2 2年日本語2 1年日本語1 2年日本語1	1後 2･3･4後 1前 2前	1 1 1 1	1 1 1 1	独立行政法人　国際交流基金　日本語試験センター 研究員 （平成23年4月）	
288	兼任	講師	イシカワ カズヨシ 石川　一喜 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論2	2･3･4後	1	2	拓殖大学国際開発教育センター 准教授 （平成25年4月）	
289	兼任	講師	キカワ ヒロミ 木川　弘美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		西洋美術史Ⅱ 西洋美術史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	清泉女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	
290	兼任	講師	クラシマ オサム 倉島　治 ＜平成27年4月＞		修士※ （学術）		認知心理学特講4	2･3･4前	1	2	東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員 （平成21年10月）	
291	兼任	講師	ワタナベ トモアキ 渡邊　智暁 ＜平成26年4月＞		Ph. D. In Mass Communications （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	1	0.7	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授 （平成24年7月）	
292	兼任	講師	シラスナ サワコ 白砂　佐和子 ＜平成27年4月＞		心理学修士※		人格臨床心理学特講2	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
293	兼任	講師	オオカワ マユコ 大川　真由子 ＜平成27年4月＞		社会人類学博士		文化人類学特講4 比較文化学特講3	2･3･4前 2･3･4前	1 1	2 2	早稲田大学人間科学学術院 助教 （平成25年4月）	
294	兼任	講師	コウザキ ユウコ 神前　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講3	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
295	兼任	講師	ナカムラ モトヤ 中村　元哉 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		中国事情(1)	2･3･4後	1	2	津田塾大学学芸学部 准教授 （平成22年4月）	
296	兼任	講師	ヒラタ ユキエ 平田　由紀江 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Sociology （韓国）		1年コリア語(文法) 2年コリア語 1年コリア語(文法)	1通 2通 1通	2 1 2	4 2 8	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
297	兼任	講師	ヤスカワ ハルキ 安川　晴基 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		ドイツ事情(2)	2･3･4後	1	2	慶應義塾大学 理工学部外国語総合教育教室 講師 （平成24年4月）	
298	兼任	講師	ヨコタ カズコ 横田　和子 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		人間学習7	3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	
299	兼任	講師	ヒライ ミカ 平井　美佳 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講3	2･3･4前	1	2	横浜市立大学国際総合科学部 准教授 （平成25年4月）	
300	兼任	講師	コバヤシ ユキ 小林　由紀 ＜平成26年4月＞		修士※ （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	4	8	東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学センター 特任研究員 （平成17年4月）	
301	兼任	講師	イマホリ エミ 今堀　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		比較文化学特講2 文化人類学特講10	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
302	兼任	講師	スギヤマ ヨシコ 杉山　佳子 ＜平成26年4月＞		DEA （スペイン語文学修士） （スペイン）		1年スペイン語(文法)	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
303	兼任	講師	ヤマミヤ ユウコ 山宮　裕子 ＜平成27年4月＞		精神病理心理学博士 （米国）		臨床心理学特講5	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
304	兼任	講師	スズキ テツヘイ 鈴木　哲平 ＜平成26年4月＞		文学博士		1年フランス語(文法)	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
305	兼任	講師	キタガミ シンジ 北神　慎司 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		認知心理学特講5	2･3･4休	1	2	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 平成19年4月	
306	兼任	講師	オオアイ タカハル 大愛　崇晴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		美学・芸術学特講Ⅱ 美学・芸術学特講Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	同志社大学文学部 准教授 （平成25年4月）	
307	兼任	講師	ハヤカワ フミト 早川　文人 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年ドイツ語(文法)	1通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
308	兼任	講師	イトウ ユキコ 伊藤　由希子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅸ	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
309	兼任	講師	キタムラ アツシ 北村　厚 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		国際関係史Ⅱ 国際関係史Ⅰ	2･3･4通 2･3･4前	1 1	4 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
310	兼任	講師	ｺﾞﾄｳ ｴﾐ 後藤　絵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		西アジア文化史	2･3･4通	1	4	東京大学東洋文化研究所 助教 （平成25年4月）	
311	兼任	講師	ｾｵ ﾌﾐｺ 瀬尾　文子 ＜平成27年4月＞		修士※ （人文社会）		美学・芸術学特講Ⅳ 美学・芸術学特講Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	1 1	2 2	東京大学大学院人文社会系研究科 教務補佐 （平成21年4月）	
312	兼任	講師	ｵｳ ｼｭﾝﾌﾞﾝ 王　俊文 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
313	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｱﾔﾉ 中村　綾乃 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
314	兼任	講師	ｻｶｲ ﾓｴ 酒井　もえ ＜平成28年4月＞		博士(学術) M.Phil. （英国）		英作文2 英作文1	3後 3前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
315	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｼｭｳﾀﾛｳ 鈴木　周太郎 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		アメリカ史	2･3･4通	1	4	一橋大学大学院社会研究科 特任講師 （平成24年4月）	
316	兼任	講師	ｸﾗﾊﾞﾔｼ ﾅｵｺ 倉林　直子 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国） 文学修士※		2年英語2(リーディング)	2通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
317	兼任	講師	ｱﾗﾌﾈ ｼｭﾝﾀﾛｳ 荒船　俊太郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
318	兼任	講師	ｾｷ ﾄﾓﾋﾃﾞ 関　智英 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
319	兼任	講師	ﾀﾂﾐ ﾕｷｺ 巽　由樹子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ロシア文化史	2･3･4通	1	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
320	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｼｭﾝｲﾁ 山田　淳一 ＜平成27年4月＞		博士 （地理学）		自然地理学1 自然地理学2	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
321	兼任	講師	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｹｲｺﾞ 大林　啓吾 ＜平成26年4月＞		博士 （法学）		憲法3 憲法3	1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2	4 4	千葉大学大学院専門法務研究科 准教授 （平成24年4月）	
322	兼任	講師	ﾖｼﾅｶ ﾄｼｷ 吉中　俊貴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年ドイツ語(会話) 2年ドイツ語(講読)	2通 2通	1 1	2 2	駒澤大学総合教育研究部 講師 （平成24年4月）	
323	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾘｮｳｺ 齊藤　良子 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		1年コリア語(文法)	1通	2	8	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
324	兼任	講師	ｷﾝ ﾃｼ 金　泰植 ＜平成26年4月＞		修士※ （比較社会文化）		1年コリア語(オラル)	1通	2	4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
325	兼任	講師	ﾐｶﾐ ｴﾘ 見上　英里 ＜平成27年4月＞		修士 （理学）		応用情報処理	2･3･4通	1	4	（株）ピコラボ システムエンジニア （平成24年4月）	
326	兼任	講師	ｺﾛﾝ ｴﾘｶ コロン　えりか ＜平成27年4月＞		文学修士 Master of Music （英国）		キリスト教学特講Ⅰ キリスト教学Ⅱ－10	2･3･4通 3･4通	1 1	4 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
327	兼任	講師	ｸﾏｸﾗ ﾜｶｺ 熊倉　和歌子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		イスラム社会史入門	2･3･4後	1	2	財団法人　東洋文庫 日本学術振興会特別研究員 （平成24年4月）	
328	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ ﾘｮｳｽｹ 岡本　亮輔 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学2	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
329	兼任	講師	ﾀﾏｵｷ ﾕｳｽｹ 玉置　佑介 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	1	2	上智大学 総合人間科学部 共同研究員 （平成24年4月）	
330	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾔ 髙橋　尚也 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		社会調査の技法1 社会心理学特講15	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	立正大学 心理学部 准教授 （平成25年4月）	
331	兼任	講師	ｱｻﾞﾐ ﾘﾂｺ 薊　理津子 ＜平成28年4月＞		博士 （社会文化学）		多変量解析法 データ分析の基礎	3･4前 3･4前	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
332	兼任	講師	ｵｵｷ ｱﾔﾐ 大木　絢深 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年英語	1通	1	4	早稲田大学演劇博物館 助手 （平成23年4月）	
333	兼任	講師	ｲｽﾞﾓ ｼｭﾝﾒｲ 出雲　春明 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会思想史Ⅰ 社会思想史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	1 1	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
334	兼任	講師	ﾅｶｿﾞﾉ ﾕｷ 中園　有希 ＜平成27年4月＞		修士※ （教育学）		教育課程方法論	2･3後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
335	兼任	講師	ﾎﾘﾔﾏ ｱﾂｺ 堀山　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		2年英語2(リーディング) 1年英語	2通 1通	1 1	2 4	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
336	兼任	講師	ﾊﾞｲｱｰ ﾀﾞｲｱﾅ BEIER,Diana ＜平成26年4月＞		M. A. (Magistra Artium) （ドイツ）		ドイツ語コミュニケーションⅡ(1) ドイツ語コミュニケーションⅡ(2) 1年ドイツ語(オラル) ドイツ語コミュニケーションⅠ(1) ドイツ語コミュニケーションⅠ(2)	3前 3後 1通 2前 2後	1 1 1 1 1	2 2 2 2 2	東京外国語大学 特任講師 （平成25年4月）	
337	兼任	講師	ﾄｸｼｹﾞ ｸﾐ 徳重　公美 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		哲学・倫理学特講X	2･3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
338	兼任	講師	ｸﾗｽﾞﾐ ﾄﾓｴ 倉住　友恵 ＜平成27年4月＞		修士 （心理学）		発達心理学2	2･3･4前	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
339	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ｲﾂﾐ 島田　伊都美 ＜平成26年4月＞		人文学修士		体育運動学	1通	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
340	兼任	講師	ｶｼﾞ ﾋﾛﾐ 鍛治　広真 ＜平成28年4月＞		文学修士		対照言語学Ⅱ	3･4後	1	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　人間関係学科）

調書番号	専任等区分	職位	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
341	兼任	講師	ｼｭﾙﾂｪ ｱﾝﾅｰﾕﾘｱｰﾈ SCHULZE A.nna-Juliane ＜平成26年4月＞		修士 （日本学） （ドイツ）		ドイツ事情(1) 1年ドイツ語(オラル)	2･3･4前 1通	1 2	2 4	ドイツ語学院ハイデルベルク 講師 （平成23年6月）	

別記様式第3号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教　員　の　氏　名　等

（文学部 国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ﾃﾞｯｶｰ ﾒﾘｰ ｱﾝ DECKER M. ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		英語コミュニケーションⅠ(1) 英語コミュニケーションⅡ(2) 英語コミュニケーションⅠ(2) 英語コミュニケーションⅡ(1) Contemporary American Culture(1) Contemporary American Culture(2)	2前 3後 2後 3前 2･3･4前 2･3･4後	4 4 4 4 2 2	2 2 2 2 1 1	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成2年4月）	3日
2	専	教授	ｾｷﾊﾞ ﾁｶｺ 関場　誓子 ＜平成26年4月＞		文学士		卒業論文 国際交流入門 国際政治演習Ⅱ(2) 国際交流概論 国際交流特殊講義 アメリカ外交論 政治学概論[含国際政治]2 政治学概論[含国際政治]1 国際政治演習Ⅰ(1) 国際政治演習Ⅰ(2) 国際政治演習Ⅱ(1) 国際交流実習1 災害と人間 基礎課程演習	4通 1前 4後 2通 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 3前 3後 4前 2･3･4前 1･2･3･4前 1前	8 0.2 2 0.5 2 4 4 4 2 2 2 0.1 0.2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成8年4月）	6日
3	専	教授	ﾅｶｲ ｺｳｼﾞ 仲居　宏二 ＜平成26年4月＞		文学士		国際交流実習1 異文化間コミュニケーション(1) 国際コミュニケーション論 卒業論文 異文化間コミュニケーション演習Ⅱ(1) 国際交流入門 異文化間コミュニケーション(2) メディア・コミュニケーション特講2 異文化間コミュニケーション演習Ⅱ(2) 基礎課程演習 異文化間コミュニケーション演習Ⅰ(2) 異文化間コミュニケーション演習Ⅰ(1) 国際交流概論	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4通 4通 4前 1前 2･3･4後 3･4通 4後 1前 3後 3前 2通	1 2 4 8 2 0.2 2 4 2 2 2 2 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成24年4月）	6日
4	専	教授	ｻｸﾏ ﾗﾌｧｴﾗ SAKUMA R. ＜平成26年4月＞		Licence es Letters （仏国）		2年フランス語(会話) 2年フランス語(会話) 1年フランス語(オラル) 1年フランス語(オラル) フランス語コミュニケーションⅡ(2) フランス語コミュニケーションⅡ(1) 1年フランス語(オラル)	2通 2通 1通 1通 3後 3前 1通	4 4 6 6 2 2 6	2 2 3 3 1 1 3	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成23年4月）	3日
5	専	教授	ﾐﾀ ﾊﾙﾖｼ 三田　晴義 ＜平成26年4月＞		博士 （理学）		情報科学演習Ⅰ(2) 卒業論文 プログラム入門 情報科学演習Ⅱ(2) 情報科学演習Ⅱ(1) 情報科学演習Ⅰ(1) 情報処理入門 国際交流入門 国際交流概論	3後 4通 2･3･4通 4後 4前 3前 2･3･4通 1前 2通	2 8 4 2 2 2 8 0.2 0.5	1 1 1 1 1 1 2 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成9年4月）	6日
6	専	教授	ｵｶﾞﾜ ｻﾕﾘ 小川　早百合 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日欧比較思想演習Ⅰ(2) 1年日本語2 基礎課程演習 日欧比較思想演習Ⅰ(1) 1年日本語1 国際交流実習1 卒業論文 国際交流入門 日欧比較思想演習Ⅱ(1) 国際交流概論 日欧比較思想演習Ⅱ(2)	3後 1後 1前 3前 1前 2･3･4前 4通 1前 4前 2通 4後	2 2 2 2 4 0.1 8 0.2 2 0.5 2	1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
7	専	准教授	ｸﾎﾞﾀ ﾄﾓﾄｼ 久保田　知敏 ＜平成26年4月＞		文学修士※		中国社会文化演習Ⅱ(1) 中国古典への招待 中国社会文化演習Ⅱ(2) 1年中国語(文法) 国際交流入門 国際交流実習1 中国文学概論Ⅱ 卒業論文 中国社会文化演習Ⅰ(2) 中国社会文化演習Ⅰ(1) 中国思想への招待 国際交流概論 中国文学概論Ⅰ	4前 1･2･3･4後 4後 1通 1前 2･3･4前 2･3･4後 4通 3後 3前 1･2･3･4後 2通 2･3･4前	2 2 2 4 0.2 0.1 2 8 2 2 2 0.5 2	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
8	専	准教授	ﾌﾙｶﾜ ｼﾞｭﾝｺ 古川　純子 ＜平成26年4月＞		経済学修士※		国際経済演習Ⅱ(2) 国際経済演習Ⅱ(1) 国際交流入門 卒業論文 経済学概論[含国際経済] 経済理論入門 国際経済学2 国際経済演習Ⅰ(2) 国際経済演習Ⅰ(1) 国際交流概論	4後 4前 1前 4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4後 3後 3前 2通	2 2 0.2 8 4 4 2 2 2 0.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	准教授	ﾏﾂｳﾗ ｾｲｺ 松浦　聖子 ＜平成26年4月＞		法学修士※		現代家族法 法学演習Ⅱ(2) 法学演習Ⅱ(1) 法律学[含国際法] 国際交流実習1 卒業論文 国際交流入門 憲法1	2･3･4通 4後 4前 1･2･3･4通 2･3･4前 4通 1前 1･2･3･4前	4 2 2 4 0.1 8 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1 2	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
10	専	講師	ﾊﾀ ｺｳｲﾁﾛｳ 畑　浩一郎 ＜平成26年4月＞		Docteur en Litterature et civilisation Franqaises （仏国）		国際交流実習1 フランス社会文化演習Ⅰ(2) フランス社会文化演習Ⅰ(1) 国際交流入門 卒業論文 フランスの社会と文化(1) フランスの社会と文化(2) フランス社会文化演習Ⅱ(1) 基礎課程演習 1年フランス語(文法) 国際交流概論 フランス社会文化演習Ⅱ(2)	2･3･4前 3後 3前 1前 4通 2･3･4前 2･3･4後 4前 1前 1通 2通 4後	0.1 2 2 0.2 8 2 2 2 2 4 0.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
11	専	講師	ﾊﾀｹﾔﾏ ﾋﾛｼ 畠山　寛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		国際交流入門 卒業論文 1年ドイツ語(文法) ドイツ社会文化演習Ⅱ(1) ドイツの社会と文化(1) ドイツ社会文化演習Ⅰ(2) キリスト教学Ⅱ－16 国際交流概論 ドイツの社会と文化(2) ドイツ社会文化演習Ⅱ(2) ドイツ社会文化演習Ⅰ(1)	1前 4通 1通 4前 2･3･4前 3後 3･4通 2通 2･3･4後 4後 3前	0.2 8 4 2 2 2 4 0.5 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
12	兼担	教授	ｻｸﾏ ｶﾂﾋｺ 佐久間　勝彦 ＜平成26年4月＞		学士 （教育学）		基礎課程演習	1前	2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
13	兼担	教授	ﾖﾈｻﾞﾜ ｶﾂｵ 米澤　克夫 ＜平成26年4月＞		文学修士※		倫理学演習Ⅰ 哲学概論Ⅳ 哲学･倫理学特講Ⅱ 哲学･倫理学特講Ⅰ 哲学演習Ⅰ 哲学概論Ⅲ 倫理学概論Ⅱ 倫理学概論Ⅰ	2･3･4通 2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前	4 2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成18年4月）	6日
14	兼担	教授	ﾊﾗｵｶ ﾌﾐｺ 原岡　文子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅲ 日本文学史Ⅱ 古典文学研究Ⅳ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成5年4月）	6日
15	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ｵﾄｼ 鈴木　乙史 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		人格心理学1 質的調査法1 人間関係入門 災害と人間 社会調査入門	2前 2･3･4前 1前 1･2･3･4前 2前	2 2 0.3 0.2 0.5	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
16	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ｽｽﾑ 山田　進 ＜平成26年4月＞		文学修士		日本語学概論Ⅱ 基礎課程演習 日本語学概論Ⅰ 対照言語学Ⅰ	2･3･4後 1前 2･3･4前 3･4前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
17	兼担	教授	ﾅｶﾞﾉ ｶｽﾞｵ 永野　和男 ＜平成26年4月＞		教育学士		教育学入門 情報ネットワーク演習	1･2前 2･3･4前	0.2 2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成12年4月）	6日
18	兼担	教授	ﾌｶｲ ﾏｻﾐ 深井　雅海 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		史料講読Ⅱ 日本近世史Ⅰ	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
19	兼担	教授	ｱｼﾞｵｶ ﾄｵﾙ 味岡　徹 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		世界史演習Ⅱ－1 中国近代史 世界史演習Ⅲ－1 世界史文献講読Ⅱ－2 世界史文献講読Ⅱ－1 アジア史入門 外国史概説Ⅰ－2	3通 2･3･4通 4通 2後 2前 1前 2･3･4前	4 4 4 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
20	兼担	教授	ｲﾜｶﾐ ﾏﾐ 岩上　真珠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		家族社会学1 家族社会学2 人間関係入門 社会調査入門	2後 2･3･4後 1前 2前	2 2 0.3 0.5	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
21	兼担	教授	ﾀｶﾀﾞ ﾕﾐ 高田　遵湖 ＜平成26年4月＞		文学修士		運動学1 体育運動学 運動学3 教育学入門	2･3･4前 1通 2･3･4後 1･2前	1 4 1 0.2	1 2 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
22	兼担	教授	ｷﾀﾑﾗ ｶｽﾞｵ 北村　和夫 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		教育学入門 教育実習2 教育実習1 日本教育史1 教育原理 日本教育史2	1･2前 4通 4通 2･3前 2･3前 2･3後	0.2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
23	兼担	教授	ｻｻｷ ﾀｶｼ 佐々木　隆 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日本史概説Ⅰ 日本史概説Ⅱ 日本近現代史Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通	2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
24	兼担	教授	ｶﾜｶﾐ ｷﾖﾌﾐ 川上　清文 ＜平成26年4月＞		教育学博士		発達心理学1 発達心理学特講7 心理学入門	2･3･4前 3･4前 1前	2 2 0.3	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成10年4月）	6日
25	兼担	教授	ﾏｰｼｬ ｸﾗｯｶﾜｰ KRAKOWER M. ＜平成26年4月＞		M. A. Med （米国）		国際交流実習1 メディア・コミュニケーション入門1 英語の世界 メディア・コミュニケーション特講1 1年英語	2･3･4前 1･2前 1前 3･4後 1通	0.1 2 0.2 2 4	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
26	兼担	教授	ｺｲｽﾞﾐ ﾄｵﾙ 小泉　徹 ＜平成26年4月＞		文学修士※		世界史文献講読Ⅳ－1 世界史文献講読Ⅳ－2 世界史演習Ⅱ－4 ヨーロッパ近代史Ⅰ 世界史演習Ⅲ－4 外国史概説Ⅱ－2	2前 2後 3通 2･3･4通 4通 2･3･4後	2 2 4 4 4 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
27	兼担	教授	ｻｻｷ ﾏｻﾋﾛ 佐々木　正宏 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		心理学入門 臨床心理学特講2 基礎課程演習	1前 2･3･4後 1前	0.3 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
28	兼担	教授	ﾌﾞｯｼｪﾙ ﾌﾞﾚﾝﾀﾞ ｱｲﾘｰﾝ BUSHELL B. ＜平成26年4月＞		M. A. Med		英語の世界	1前	0.2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
29	兼担	教授	ﾄﾐﾊﾗ ﾏﾕﾐ 冨原　眞弓 ＜平成26年4月＞		Docteur en Philosophie （仏国）		西洋近代哲学史Ⅱ 哲学演習Ⅳ 哲学概論Ⅰ 哲学概論Ⅱ 倫理学概論Ⅲ 倫理学概論Ⅳ 宗教思想史Ⅰ 宗教思想史Ⅱ	2･3･4後 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	2 4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
30	兼担	教授	ｵｵﾊｼ ﾏｻｱｷ 大橋　正明 ＜平成26年4月＞		Master of Professional Studies (Agliculture) （米国）		社会調査入門 比較文化学特講 人間関係入門 比較文化学特講1 比較文化学1	2前 2･3･4通 1前 2･3･4前 2･3･4前	0.5 4 0.3 2 2	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成26年4月）	6日
31	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾏﾐ 安達　まみ ＜平成26年4月＞		文学修士※		英語文化論[翻訳実践]2 英語の世界 英語文化論[翻訳実践]1 英語文化論[児童文学]2	2･3･4後 1前 2･3･4前 2･3･4後	2 0.2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
32	兼担	教授	ｻｻｷ ｹｲｽｹ 佐々木　恵介 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日本古代史Ⅰ 基礎課程演習	2･3･4通 1前	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
33	兼担	教授	ｶﾜﾂ ﾏｺﾄ 川津　誠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日本文学史Ⅵ 近代文学研究Ⅲ 近代文学研究Ⅳ 基礎課程演習	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
34	兼担	教授	ｶﾜﾍﾞ ﾀｶｺ 河邉　貴子 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		教育学入門 幼児教育原論	1･2前 2･3前	0.2 2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
35	兼担	教授	ｲﾝﾃﾞ ﾀﾀﾞｵ 印出　忠夫 ＜平成26年4月＞		文学修士 D.E.A （仏国）		外国史概説Ⅱ－1 世界史演習Ⅲ－2 世界史文献講読Ⅲ－1 世界史文献講読Ⅲ－2 世界史演習Ⅱ－2 ヨーロッパ中世史Ⅰ	2･3･4後 4通 2前 2後 3通 2･3･4通	2 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
36	兼担	教授	ﾐｽﾞｼﾏ ﾅｵｷ 水島　尚喜 ＜平成26年4月＞		教育学修士		基礎課程演習 災害と人間 人間学習4 教育学入門	1前 1･2･3･4前 3･4前 1･2前	2 0.2 2 0.2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
37	兼担	教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾄﾓｺ 中川　僚子 ＜平成26年4月＞		文学修士※ M.A. in Modern Literature （英国）		英語の世界 基礎課程演習 英文学史概説2 英文学史概説1	1前 1前 1･2後 1･2前	0.2 2 4 4	1 1 2 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
38	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾏｻﾉﾌﾞ 高橋　雅延 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		基礎課程演習 認知心理学特講7 認知心理学特講6 心理学入門 心理学史	1前 3･4後 3･4前 1前 2･3･4後	2 2 2 0.3 2	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
39	兼担	教授	ｽｶﾞﾜﾗ ｹﾝｽｹ 菅原　健介 ＜平成26年4月＞		文学博士		対人社会心理学1 基礎課程演習 災害と人間 社会心理学特講1 人間関係入門 社会調査入門 社会統計学	2前 1前 1･2･3･4前 2･3･4前 1前 2前 2･3･4後	2 2 0.2 2 0.3 0.5 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
40	兼担	教授	ﾌｾ ﾐｷｵ 扶瀬　幹生 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		基礎課程演習 2年英語2(リーディング) 英語の世界 英語文化論[文学と電子メディア]1 英語文化論[文学と電子メディア]2	1前 2通 1前 2前 2後	2 4 0.2 2 2	1 2 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
41	兼担	教授	ｻﾜﾉ ﾕｷｺ 澤野　由紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		教育学入門 西洋教育運動史 比較教育学 比較教育学特講	1･2前 2･3後 3･4通 3･4後	0.2 2 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
42	兼担	教授	ﾊﾔｼ ﾘｭｳｼﾞﾛｳ 林　龍次郎 ＜平成26年4月＞		文学修士		英語学概論 英語学特講3－1 英語学特講3－2 英文法 2年英語2(リーディング) 英語の世界	1･2通 2･3･4前 2･3･4後 2･3前 2通 1前	4 2 2 2 2 0.2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
43	兼担	教授	ｳｴﾀﾞ ｾｲｼﾞ 植田　誠治 ＜平成26年4月＞		博士 （医学）		健康社会学 運動学2 災害と人間 教育学入門 健康な生活と健康科学 体育運動学	2･3･4前 2･3･4後 1･2･3･4前 1･2前 1･2･3･4前 1通	2 1 0.2 0.2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
44	兼担	教授	ｶﾄｳ ﾖｼﾐﾂ 加藤　好光 ＜平成26年4月＞		Dr. phil. （ドイツ）		ギリシア語Ⅱ ビートルズの詩と音楽 基礎課程演習 哲学演習Ⅲ	2･3･4通 1･2･3･4前後 1前 2･3･4通	4 4 2 4	1 2 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
45	兼担	教授	ﾑｶｲ ﾀｶﾖ 向井　隆代 ＜平成26年4月＞		Ph.D. (Psychology) （米国）		心理学入門 臨床心理学特講7	1前 2･3･4前	0.3 2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
46	兼担	教授	ｶﾄｳ ｶｽﾞﾔ 加藤　和哉 ＜平成26年4月＞		文学修士※		哲学史演習Ⅰ 倫理学演習Ⅱ 現代を考える 災害と人間 キリスト教学Ⅰ－5 基礎課程演習 キリスト教学概論Ⅱ キリスト教学概論Ⅰ キリスト教学演習Ⅱ	2･3･4通 2･3･4通 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2通 1前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通	4 4 2 0.2 4 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
47	兼担	教授	ｵｵﾂｷ ﾅﾐ 大槻　奈巳 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		職業社会学2 キャリア形成の社会学 人間関係入門 職業社会学1 社会調査入門	2･3･4前 2･3･4前 1前 2後 2前	2 2 0.3 2 0.5	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
48	兼担	教授	ﾅｶﾞﾀ ﾖｼﾕｷ 永田　佳之 ＜平成26年4月＞		教育学博士		教育社会学概論2 災害と人間 教育社会学概論1 人間学習8 教育学入門 基礎課程演習	2･3後 1･2･3･4前 2･3後 3･4前 1･2前 1前	2 0.2 2 2 0.2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
49	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｷ 山田　由紀 ＜平成26年4月＞		文学修士※		英語の世界 2年英語2(リーディング) 基礎課程演習	1前 2通 1前	0.2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
50	兼担	教授	ｵｵﾂｶ ﾐﾎ 大塚　美保 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本文学史Ⅴ 近代文学研究Ⅱ 近代文学研究Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
51	兼担	教授	ﾌｶｻﾜ ﾉﾘｺ 深沢　了子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅷ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
52	兼担	准教授	ｲﾏｶﾜ ｷｮｳｺ 今川　恭子 ＜平成26年4月＞		修士※ （音楽）		教育学入門 人間学習3 基礎課程演習	1･2前 3･4後 1前	0.2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
53	兼担	准教授	ｸﾜﾅ ｴｲｺ 桑名　映子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		世界史文献講読Ⅴ－1 世界史文献講読Ⅴ－2 世界史演習Ⅱ－3 基礎課程演習 外国史概説Ⅱ－3 ヨーロッパ現代史Ⅰ 世界史演習Ⅲ－3	2前 2後 3通 1前 2･3･4後 2･3･4通 4通	2 2 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
54	兼担	准教授	ﾐｳﾗ ﾉｿﾞﾐ 三浦　望 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		キリスト教学Ⅰ－6 旧約聖書学Ⅰ キリスト教学Ⅱ－14 キリスト教学演習Ⅰ 哲学演習Ⅶ－2 旧約聖書学Ⅱ 新約聖書学 哲学演習Ⅶ－1	1･2通 2･3･4前 3･4通 2･3･4通 2･3･4後 2･3･4後 2･3･4通 2･3･4前	4 2 4 4 2 2 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
55	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 山口　昭彦 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学） Docteur （仏国）		世界史文献講読Ⅵ－2 外国史概説Ⅰ－1 アジア史入門 世界史演習Ⅲ－5 基礎課程演習 世界史演習Ⅱ－5 世界史文献講読Ⅵ－1 西アジア近代史	2後 2･3･4前 1前 4通 1前 3通 2前 2･3･4通	2 2 1 4 2 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
56	兼担	准教授	ﾅｶﾞﾉ ﾐｶ 長野　美香 ＜平成26年4月＞		博士 （人文科学）		災害と人間 日本倫理思想史Ⅱ 日本倫理思想史Ⅰ キリスト教学Ⅰ－9 倫理学演習Ⅲ 基礎課程演習 日本思想史学演習Ⅰ	1･2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前 1･2通 2･3･4通 1前 2･3･4通	0.2 2 2 4 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
57	兼担	准教授	ｺﾔﾅｷﾞ ﾄﾓｶｽﾞ 小柳　智一 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本語学研究Ⅱ 日本語史概説Ⅰ 日本語史概説Ⅱ	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
58	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾖｳｺ 石井　洋子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学1 基礎課程演習 人間関係入門 国際交流実習1 質的調査法2 社会調査入門	2後 1前 1前 2･3･4前 2･3･4前 2前	2 2 0.3 0.1 2 0.5	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
59	兼担	准教授	ﾅｶﾞｲ ｼﾞｭﾝｲﾁ 永井　淳一 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		心理学入門	1前	0.3	1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成22年4月）	6日
60	兼担	准教授	ｺｼﾛ ｴｲｺ 小城　英子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		マスコミ社会心理学1 災害と人間 社会調査入門 人間関係入門 社会心理学特講2 マス・コミュニケーション論 基礎課程演習	2後 1･2･3･4前 2前 1前 3･4前 2･3･4前 1前	2 0.2 0.5 0.3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
61	兼担	講師	ｼﾊﾞﾀ ﾚｲｺ 柴田　玲子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講4 基礎課程演習 心理学入門	2･3･4前 1前 1前	2 2 0.3	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成20年4月）	6日
62	兼担	講師	ﾊﾏｸﾞﾁ ﾄｼｺ 濱口　壽子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Liguistics （米国）		英語の世界 基礎課程演習 1年英語	1前 1前 1通	0.2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成15年4月）	6日
63	兼担	講師	ｶﾐｲｼ ﾏﾅﾌﾞ 上石　学 ＜平成26年4月＞		修士※ （文学）		美学・芸術学概論Ⅱ 美学・芸術学演習Ⅱ 美学・芸術学概論Ⅰ	2･3･4後 2･3･4通 2･3･4前	2 4 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成14年4月）	6日
64	兼担	講師	ﾌｼﾞｲ ｱｷｺ 藤井　彰子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Linguistics （米国）		英語の世界	1前	0.2	1	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
65	兼担	講師	スギモト ジュンコ 杉本　淳子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学） M.A. in Phonetics （英国）		1年英語 英語の世界	1通 1前	4 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成17年4月）	6日
66	兼担	講師	ニシハラ ナオエ 西原　直枝 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		教育学入門 基礎課程演習	1･2前 1前	0.2 2	1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
67	兼担	講師	イシハラ ヒイロ 石原　比伊呂 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		日本中世史Ⅰ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 講師 （平成25年4月）	6日
68	兼担	講師	キシモト タケシ 岸本　健 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		発達心理学特講6 発達心理学2 心理学入門	3･4前 2･3･4前 1前	2 2 0.3	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
69	兼任	講師	ツジ マチコ 辻　眞智子 ＜平成27年4月＞		学芸学士		書道Ⅱ 書道Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
70	兼任	講師	シミズ チョウコ 清水　寵子 ＜平成26年4月＞		文学修士		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通	4	1	日本基督教団 牧師 （昭和63年12月）	
71	兼任	講師	サイグサ タカユキ 三枝　昂之 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		文芸創作入門	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
72	兼任	講師	ナカヤマ ノリコ 中山　紀子 ＜平成26年4月＞		準学士		体育運動学	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
73	兼任	講師	カワカミ ショウシュウ 河上　正秀 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅶ 哲学・倫理学特講Ⅷ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
74	兼任	講師	キムラ ヤスコ 木村　恭子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
75	兼任	講師	タシロ オサム 田代　攻 ＜平成29年4月＞		教育学士		教職実践演習(中学・高校)	4後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
76	兼任	講師	イトウ ショウジ 伊東　照司 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東南アジア史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
77	兼任	講師	ミウラ ショウコ 三浦　笙子 ＜平成27年4月＞		Ph. D. in English （米国）		英作文2 米文学史概説1 米文学史概説2 英作文1	3後 2･3･4前 2･3･4後 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和59年4月）	
78	兼任	講師	ナカムラ マサハル 中村　雅治 ＜平成27年4月＞		国際学修士※		2年フランス語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
79	兼任	講師	マスブチ ユキオ 増渕　幸男 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育哲学2 教育学概論	2･3前 2通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
80	兼任	講師	スズキ ヨウコ 鈴木　庸子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(リーディング) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
81	兼任	講師	ヤマグチ サトコ 山口　里子 ＜平成26年4月＞		Doctor of Mninistry （米国）		ジェンダー学2－1	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
82	兼任	講師	ニシハラ カズ 西原　和 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	花柳和舞踊研究所	
83	兼任	講師	ミヤケ ユキオ 三宅　幸夫 ＜平成28年4月＞		M. A. （ドイツ）		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
84	兼任	講師	アマキ ユキヒコ 天城　靭彦 ＜平成28年4月＞		法学士		メディア・コミュニケーション特講8－2	3･4後	2	1	東京TVフォーラム実行委員会 委員長 （平成23年7月）	
85	兼任	講師	マツバラミチコ 松原　美智子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		1年英語 2年英語2(オラル)	1通 2通	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	
86	兼任	講師	ナカムラ レイコ 中村　玲子 ＜平成27年4月＞		文学修士		英語コミュニケーションⅠ(2) 英語コミュニケーションⅠ(1) 2年英語2(リーディング)	2後 2前 2通	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成5年4月）	
87	兼任	講師	イソヤマ タダシ 礒山　雅 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キリスト教音楽 キリスト教学Ⅱ－8	2･3･4通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
88	兼任	講師	イワモト トシロウ 岩本　俊郎 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		西洋教育史2 教職入門 道徳教育の研究	2･3前 2･3前 2･3後	2 4 2	1 2 1	立正大学心理学部 教授 （平成14年4月）	
89	兼任	講師	ハヤシ マキコ 林　眞幾子 ＜平成26年4月＞		体育学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
90	兼任	講師	マスダ フミコ 増田　文子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
91	兼任	講師	タナカ ゼンイチロウ 田中　善一郎 ＜平成27年4月＞		博士 （政治学）		現代国際政治Ⅴ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
92	兼任	講師	アオキ モトユキ 青木　誠之 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年ドイツ語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
93	兼任	講師	ウワノ ゼンドウ 上野　善道 ＜平成27年4月＞		文学修士		言語学概論Ⅰ 言語学概論Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
94	兼任	講師	サカモト カナメ 坂本　要 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本民俗学	2･3･4通	4	1	筑波学院大学経営情報学部 教授 （平成8年4月）	
95	兼任	講師	ワダ ミチコ 和田　迪子 ＜平成27年4月＞		文学士		人格心理学特講4 交流分析概論	3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
96	兼任	講師	ﾔｷﾞｼﾀ ﾏｻﾊﾙ 柳下　正治 ＜平成26年4月＞		工学士		現代社会と環境	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
97	兼任	講師	ﾊｯﾄﾘ ｼﾝｼﾞ 服部　進治 ＜平成27年4月＞		文学士		社会科教育法1	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
98	兼任	講師	ｵｵﾇｷ ﾔｽｵ 大貫　康雄 ＜平成26年4月＞		文学士		地球化時代のNGO	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
99	兼任	講師	ﾓﾘ ﾋﾃﾞﾖｼ 森　秀善 ＜平成27年4月＞		文学士		特別活動	2･3後	4	2	青山学院大学文学部 講師 （平成19年4月）	
100	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾃﾙﾌﾐ 秋山　光文 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東洋美術史Ⅱ 東洋美術史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	お茶の水女子大学文教育学部 教授 （平成19年4月）	
101	兼任	講師	ﾏﾂｶﾀ ﾕｷｺ 松方　由紀子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成8年4月）	
102	兼任	講師	ｽｴｻﾞｷ ﾏｽﾐ 末崎　真澄 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		博物館実習 博物館学各論1	4前後 2･3･4通	12 4	4 1	(財)馬事文化財団馬の博物館 理事（学芸部長） （平成19年10月）	
103	兼任	講師	ｺﾝﾄﾞｳ ﾀｸ 近藤　卓 ＜平成28年4月＞		学術博士		人間学習11	3･4前	2	1	東海大学文学部 教授 （平成13年4月）	
104	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐｶﾞｸ 佐藤　研 ＜平成27年4月＞		Dr.theol . （スイス）		キリスト教学Ⅱ－11 キリスト教学特講Ⅱ	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	立教大学文学部 教授 （平成3年4月）	
105	兼任	講師	ﾀｸﾎﾞ ｷｮｳｼﾞ 田窪　恭治 ＜平成28年4月＞		教育学士		人間学習10	3･4前	2	1	多摩美術大学芸術学部 客員教授 （平成24年4月）	
106	兼任	講師	ｻﾜﾀﾞ ﾑﾂﾖ 澤田　むつ代 ＜平成27年4月＞		文学博士		博物館学各論2	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
107	兼任	講師	ｷﾀﾓﾄ ﾏｻｱｷ 北本　正章 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育学特講2	2･3･4前	2	1	青山学院大学教育人間科学部 教授 （平成8年4月）	
108	兼任	講師	ﾏﾂﾑﾗ ｼｭﾝ 松村　純 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国） Master in Education （カナダ）		1年英語 2年英語2(リーディング) 英語文化論[英語と聖書]2 英語文化論[英語と聖書]1	1通 2通 2･3･4後 2･3･4前	4 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
109	兼任	講師	ﾀｼﾛ ﾋﾛｼ 田代　博 ＜平成28年4月＞		理学士		社会・地理歴史科教育法2 教育実習指導1(中学・高校) 社会・地理歴史科教育法1 教育実習指導4(中学・高校)	3後 3後 3前 4後	2 1 2 1	1 1 1 1	筑波大学附属高等学校 教諭 （平成9年4月）	
110	兼任	講師	ﾄﾘｲ ｱｷｵ 鳥居　明雄 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本の伝統文化	1･2･3･4後	2	1	都留文科大学文学部 教授 （平成元年10月）	
111	兼任	講師	ｺｳﾉｼ ｻﾁｴ 神野志　幸恵 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅰ 日本文学史Ⅰ 古典文学研究Ⅱ	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
112	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｾｲｲﾁﾛｳ 鈴木　誠一郎 ＜平成26年4月＞		学士 （経済学）		博物館情報・メディア論 視聴覚教育1 視聴覚教育2	2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2	1 1 1	筑波大学図書館情報ﾒﾃﾞｨｱ系 教授 （平成19年6月）	
113	兼任	講師	ﾎｼﾉ ﾏｻﾐﾁ 星野　正道 ＜平成26年4月＞		音楽学士		キリスト教学Ⅰ－1	1･2通	4	1	白百合女子大学文学部 教授 （平成16年4月）	
114	兼任	講師	ｱｻｲ ｷｮｳｺ 浅井　経子 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		生涯学習概論	3･4前	2	1	八洲学園大学生涯学習学部 教授 （平成6年4月）	
115	兼任	講師	ﾈｼﾞﾒ ｹﾝｲﾁ 根占　献一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通	4	1	学習院女子大学国際文化交流学部 教授 （平成10年4月）	
116	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾃﾂﾛｳ 渡部　哲郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通	4	1	横浜商科大学商学部 教授 （平成4年4月）	
117	兼任	講師	ｿﾝ ﾖﾝｵｸ 孫　英玉 ＜平成26年4月＞		文学修士 （韓国）		1年コリア語(文法) コリア語コミュニケーションⅡ(2) 2年コリア語 コリア語コミュニケーションⅡ(1)	1通 3後 2通 3前	4 2 4 2	1 1 2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
118	兼任	講師	ﾐﾔｼﾞﾏ ﾂｶｻ 宮島　司 ＜平成27年4月＞		法学博士		取引関係法	2･3･4通	4	1	慶應義塾大学法学部 教授 （平成2年4月）	
119	兼任	講師	ﾑﾗﾀ ﾖｼｺ 村田　芳子 ＜平成28年4月＞		体育学修士		人間学習6	3･4前	2	1	筑波大学体育系 教授 （平成17年4月）	
120	兼任	講師	ｳﾉ ﾐｴｺ 宇野　三恵子 ＜平成26年4月＞		国際学修士		聖心スピリットと共生	1･2･3･4後	2	1	(学)聖心女子学院 理事長 （平成22年6月）	
121	兼任	講師	ｷﾓﾄ ｷﾐｺ 木本　喜美子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講4	2･3･4前	2	1	一橋大学大学院社会学研究科 教授 （平成5年4月）	
122	兼任	講師	ｱﾀﾞﾁ ﾅｵﾔ 安達　直哉 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古文献入門	2･3･4通	4	1	大東文化大学文学部 教授 （平成17年4月）	
123	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｱｵｲ 竹内　葵 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
124	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ｷﾖﾐ 小川　清美 ＜平成27年4月＞		家政学修士		教育学特講7	2･3･4後	2	1	東京都市大学人間科学部 教授 （平成21年4月）	
125	兼任	講師	ﾙｲｽ ｴｲﾐ LEWIS, Amy Rita ＜平成28年4月＞		M. A. （米国）		3･4年英語 英会話	3･4通 3･4通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
126	兼任	講師	ｵｸﾞﾗ ﾁｶｺ 小倉　千加子 ＜平成27年4月＞		医学博士		ジェンダー学3－1	2･3･4前	2	1	みすず学園森町こども園・森町幼稚園 園長 （平成23年4月）	
127	兼任	講師	ﾊﾗ ﾉﾌﾞｺ 原　伸子 ＜平成27年4月＞		経済学修士		ジェンダー学6－3	2･3･4前	2	1	法政大学文学部経済学部 教授 （平成元年4月）	
128	兼任	講師	ｲｹｶﾐ ｷﾖｺ 池上　清子 ＜平成26年4月＞		博士（人間科学）		ジェンダー学5－1	1･2･3･4前	2	1	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授 （平成23年4月）	
129	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｱｷｺ 渡邉　昭子 ＜平成26年4月＞		文学修士		英作文2 1年英語 英作文1	3後 1通 3前	2 4 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和57年4月）	
130	兼任	講師	ｱｻｶ ﾀｹｶｽﾞ 浅香　武和 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年スペイン語 1年スペイン語(文法) スペイン語コミュニケーションⅠ(1) スペイン語コミュニケーションⅠ(2)	2通 1通 2前 2後	2 4 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	
131	兼任	講師	ﾌｼﾞｻｷ ﾋﾛｺ 藤崎　宏子 ＜平成27年4月＞		博士 （人間科学）		社会学特講1	2･3･4前	2	1	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成19年4月）	
132	兼任	講師	ｱﾗｷ ﾃﾞｲﾙ ARAKI , Dale M ＜平成27年4月＞		M.S.in Educational Administration （米国）		異文化理解	2･3･4前	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
133	兼任	講師	ｳｴｼﾞﾏ ﾖｳｲﾁ 上嶋　洋一 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		生徒指導[含進路指導]	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
134	兼任	講師	ｵﾀﾞ ｶｽﾞﾐ 小田　和美 ＜平成26年4月＞		学士 （物理教育）		情報活用演習	1･2･3･4前後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
135	兼任	講師	ｶﾅｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾐ 金澤　延美 ＜平成27年4月＞		Master of Science Teaching English to Speakers of other Languages （米国）		教育学特講5	2･3･4後	2	1	駒沢女子短期大学･保育科 教授 （平成20年4月）	
136	兼任	講師	ﾅｶﾞﾐﾈ ﾖｼｵ 長峰　美夫 ＜平成27年4月＞		行政学修士		国際法2	2･3･4前	2	1	(株)グローバル・グループ21ジャパン シニアコンサルタント （平成21年8月）	
137	兼任	講師	ｱﾅﾝ ｴﾘ 阿南　えり ＜平成26年4月＞		英文学修士 M.A. in TESOL （英国）		1年英語	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
138	兼任	講師	ﾏﾂｲ ﾕﾀｶ 松井　豊 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会心理学特講11	2･3･4後	2	1	筑波大学 教授 （平成17年9月）	
139	兼任	講師	ｱﾗｲ ﾖｼｵ 荒井　良雄 ＜平成27年4月＞		博士 （工学）		人文地理学1 人文地理学2	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	東京大学大学院総合文化研究科 教授 （平成8年10月）	
140	兼任	講師	ｲﾜﾀ ｺｳｷﾁ 岩田　功吉 ＜平成27年4月＞		法学士		朝鮮現代史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
141	兼任	講師	ｲﾅ ﾋｻﾖｼ 伊奈　久喜 ＜平成27年4月＞		政治学士		現代国際政治Ⅰ	2･3･4通	4	1	日本経済新聞社 特別編集委員 （平成22年4月）	
142	兼任	講師	ｾｷ ｶｵﾙ 関　かおる ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		2年日本語2 1年日本語2 上級日本語1－1 上級日本語1－2 日本事情2 1年日本語1 日本事情1 2年日本語1	2･3･4後 1後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1前 1･2･3･4前 2前	1 1 1 1 2 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学神田外語キャリアカレッジ 法人研修部日本語コーディネーター （平成18年4月）	
143	兼任	講師	ﾖｼﾉ ｺｳｻｸ 吉野　耕作 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （英国）		社会学特講3	2･3･4後	2	1	上智大学総合人間科学部 教授 （平成17年4月）	
144	兼任	講師	ﾂﾁﾊｼ ｼｹｷ 土橋　茂樹 ＜平成27年4月＞		修士※ （哲学）		西洋古代・中世哲学史Ⅱ 西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	中央大学文学部 教授 （平成15年4月）	
145	兼任	講師	ﾓﾘﾔﾏ ﾏｻﾋﾄ 盛山　正仁 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		行政学	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
146	兼任	講師	ｸﾛﾀﾞ ﾕｳｺ 黒田　有子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	2	1	杏林大学外国語学部 教授 （平成16年4月）	
147	兼任	講師	ｼｮｼﾞｭﾜ ｼﾞｭﾝ 所澤　潤 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育方法	2･3後	2	1	東京未来大学こども心理学部 教授 （平成25年4月）	
148	兼任	講師	ｸｫﾝ ﾁｪｽｸ 権　在淑 ＜平成26年4月＞		人文科学修士※		コリア語コミュニケーションⅠ(2) 1年コリア語(オラル) コリア語コミュニケーションⅠ(1) 1年コリア語(オラル)	2後 1通 2前 1通	2 4 2 4	1 2 1 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
149	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾏｽﾐ 山田　ますみ ＜平成26年4月＞		文学修士		1年英語 2年英語2(オラル)	1通 2通	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
150	兼任	講師	ｵﾉﾃﾞﾗ ｱﾂｺ 小野寺　敦子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格発達心理学	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
151	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾅｵｺ 佐藤　直子 ＜平成26年4月＞		修士 （スポーツ科学）		体育運動学	1通	4	2	東京国際大学人間社会学部 特命教授・客員教授 （平成23年4月）	
152	兼任	講師	ｵｵｼﾏ ｱｷﾗ 大島　聡 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育工学 教育情報学	3･4前 2･3前	2 2	1 1	横浜国立大学教育人間科学部 教授 （平成14年4月）	
153	兼任	講師	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ｱｷｵ 若林　明雄 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格心理学特講1	2･3･4休	2	1	千葉大学文学部 教授 （平成17年4月）	
154	兼任	講師	ﾀﾑﾗ ｼｽﾞｺ 田村　静子 ＜平成26年4月＞		社会福祉学修士		障害者教育・福祉概論	1･2･3･4前	2	1	(株)ライフエイドネクサスデザイン 代表取締役 （平成5年3月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
155	兼任	講師	ｷﾀｶﾐ ﾏｻﾕｷ 北神　正行 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育経営	2･3･4後	2	1	国士舘大学体育学部 教授 （平成20年4月）	
156	兼任	講師	ﾅｶﾉ ﾋﾛｴ 中野　洋恵 ＜平成27年4月＞		家政学修士		ジェンダー学1	2･3･4前	2	1	国立女性教育会館 研究国際室長 （平成14年4月）	
157	兼任	講師	ｻｴｷ ﾔｽｺ 佐伯　康子 ＜平成27年4月＞		法学修士※		国際連合論	2･3･4後	2	1	清和大学法学部 教授 （平成7年4月）	
158	兼任	講師	ﾑﾗｶﾜ ﾏｻﾋﾛ 村川　雅弘 ＜平成27年4月＞		学術修士		教育学特講8	2･3･4前	2	1	鳴門教育大学大学院教育研究科 教授 （平成12年8月）	
159	兼任	講師	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾛｼ 松浦　寛 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
160	兼任	講師	ｱｼﾀﾞ ﾙﾘ 芦田　ルリ ＜平成27年4月＞		英文学修士 （カナダ）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	東京医科大学英語教室 講師 （平成23年4月）	
161	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕﾘｺ 小林　由利子 ＜平成28年4月＞		教育学修士		人間学習5	3･4後	2	1	東京都市大学人間科学部 教授 （平成20年3月）	
162	兼任	講師	ﾓﾘｸﾞﾁ ﾛｰﾗ MORIGUCHI, Lola Gayle ＜平成27年4月＞		教育学修士		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
163	兼任	講師	ｲﾅﾀﾞ ｼｭｳｲﾁ 稲田　十一 ＜平成27年4月＞		修士※ （国際学）		国際平和と開発援助	2･3･4前	2	1	専修大学経済学部 教授 （平成8年4月）	
164	兼任	講師	ｺｳﾔﾏ ｼﾞｭﾝ 神山　潤 ＜平成27年4月＞		医学博士		臨床心理学特講8	2･3･4後	2	1	東京ベイ浦安市川医療センター 管理者（CEO） （平成21年4月）	
165	兼任	講師	ﾐｽﾞｼﾏ ﾖｳｺ 水島　陽子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
166	兼任	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ｹｲｺ 杉山　圭以子 ＜平成27年4月＞		M.Phil （インド）		南アジア現代史	2･3･4通	4	1	恵泉女学園大学人間社会学部 教授 （平成25年4月）	
167	兼任	講師	ｺｳ ﾚｲｶ 黄　麗華 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(オラル) 中国語コミュニケーションⅠ(2) 中国語コミュニケーションⅠ(1)	1通 2後 2前	4 2 2	2 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
168	兼任	講師	ｲﾉｸﾞﾁ ﾖｼﾋｺ 猪口　好彦 ＜平成26年4月＞		Ph. D. （仏国）		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
169	兼任	講師	ﾅｲﾄｳ ｶｽﾞﾐ 内藤　和美 ＜平成27年4月＞		保健学博士		発達心理学特講8	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
170	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾀﾂｵ 田中　辰雄 ＜平成26年4月＞		経済学修士		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	慶応義塾大学経済学部 准教授 （平成10年4月）	
171	兼任	講師	ｺ ｴﾝﾆｮ 胡　婉如 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
172	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾐﾔｺ 冨士本　美矢子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		1年英語 2年英語2(リーディング) 2年英語2(オラル)	1通 2通 2通	4 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
173	兼任	講師	ｼｬｸﾘｰﾇｺｰｴﾝ COHEN, Jacqueline ＜平成26年4月＞		Maitrise de Philosophie （仏国）		1年フランス語(オラル)	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
174	兼任	講師	ﾅｶﾞﾉ ﾐﾂﾛｳ 永野　光朗 ＜平成27年4月＞		文学修士		社会心理学特講4	2･3･4休	2	1	京都橘大学健康科学部 教授 （平成25年4月）	
175	兼任	講師	ｶﾜﾓﾄ ﾌｻｺ 河本　房子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語 2年英語2(リーディング)	2通 1通 2通	2 4 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
176	兼任	講師	ﾀﾗｼﾏ ｻﾄｼ 田良島　哲 ＜平成27年4月＞		文学修士		博物館実習 博物館概論	4前後 2･3･4前	3 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
177	兼任	講師	ｱﾎﾞ ﾉﾘｺ 阿保　聖子 ＜平成26年4月＞		文学修士		1年中国語(文法)	1通	6	3	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
178	兼任	講師	ﾌﾙﾔ ﾀｹｼ 古谷　毅 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本考古学	2･3･4通	4	1	東京国立博物館 主任研究員 （平成23年4月）	
179	兼任	講師	ｷｰｽ ﾌｫｰﾄﾞ FORD, Keith ＜平成26年4月＞		M. A.（英国） Ed. D.（TESOL）		1年英語 2年英語2(オラル)	1通 2通	4 4	1 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
180	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ｹﾝｼﾞ 橋本　健二 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講2	2･3･4休	2	1	早稲田大学人間科学学術院 教授 （平成25年4月）	
181	兼任	講師	ﾀﾅﾊｼ ｻﾄｼ 棚橋　訓 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学特講12 比較文化学2 文化人類学特講11	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	2 2 2	1 1 1	お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成18年4月）	
182	兼任	講師	ｴﾝﾀﾞ ﾏｻﾕｷ 江下　雅之 ＜平成26年4月＞		MS-MSID （仏国）		ポップカルチャー	1･2･3･4後	2	1	明治大学情報コミュニケーション学部 教授 （平成23年4月）	
183	兼任	講師	ｻﾅﾀﾞ ﾋﾛｺ 真田　博子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学） 文学博士 （韓国）		2年コリア語 1年コリア語(文法)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
184	兼任	講師	ｶﾅﾀ ﾌｻｺ 金田　房子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		日本文学史Ⅳ 古典文学研究Ⅶ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
185	兼任	講師	ﾏﾂｶﾜ ｲｸﾖ 松川　育代 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
186	兼任	講師	ｼｮﾅｻﾝ SNELL, Jonathan ＜平成27年4月＞		教育学修士		2年英語2(オラル) オラルコミュニケーション	2通 2･3･4通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
187	兼任	講師	ﾎﾝｺﾞｳ ｶｽﾞﾄ 本郷　和人 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本史史料論	2通	4	1	東京大学史料編纂所 教授 （平成23年4月）	
188	兼任	講師	ﾕﾓﾄ ﾋﾛﾕｷ 湯本　浩之 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論1	2･3･4前	2	1	宇都宮大学留学生・国際交流センター 准教授 （平成25年4月）	
189	兼任	講師	ｼｬｯｸﾙﾌｫｰﾄﾞ ﾎｰﾙ SHACKLEFORD P. ＜平成26年4月＞		M. A. （オーストラリア）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
190	兼任	講師	ｷﾘｳ ﾏｻﾕｷ 桐生　正幸 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		社会心理学特講6	2･3･4前	2	1	関西国際大学人間科学部 教授 （平成18年4月）	
191	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾊｼﾞﾒ 阿部　一 ＜平成27年4月＞		博士 （理学）		地誌学2 地誌学1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部 教授 （平成25年4月）	
192	兼任	講師	ｼﾗｲｼ ﾖｼﾊﾙ 白石　嘉治 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年フランス語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
193	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾘｶ 堀内　里香 ＜平成26年4月＞		文学修士		アラビア語の世界	1･2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
194	兼任	講師	ﾋﾛｲｼ ﾉｿﾞﾑ 廣石　望 ＜平成26年4月＞		神学博士		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通	4	1	フェリス女学院大学国際交流学部 教授 （平成19年4月）	
195	兼任	講師	ｸｽﾓﾄ ﾜｶｺ 楠本　和佳子 ＜平成27年4月＞		M.A.in Anthropology※ （米国）		キャリアデザイン入門	2･3前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
196	兼任	講師	ｷｸﾁ ｴｲｼﾞ 菊地　栄治 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		人間学習原論	3･4前	2	1	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成21年4月）	
197	兼任	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ ｱｷｺ 谷口　明子 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		教育心理学	2･3前	2	1	東洋大学文学部 教授 （平成25年4月）	
198	兼任	講師	ｺﾏﾔ ﾏﾐ 駒谷　眞美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		教育メディア論	2･3前	2	1	昭和女子大学大学院生活機構研究科 准教授 （平成17年4月）	
199	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾄｼﾋｺ 遠藤　利彦 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講1	2･3･4後	2	1	東京大学大学院教育学研究科 准教授 （平成20年4月）	
200	兼任	講師	ｴﾋﾞﾅ ﾘｮｳｽｹ 蝦名　良亮 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
201	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｺｳｲﾁ 中村　幸一 ＜平成27年4月＞		文学修士※		英語史	2･3･4通	4	1	明治大学政治経済学部 教授 （平成17年4月）	
202	兼任	講師	ﾃﾗﾄﾞ ｼﾞｭﾝｺ 寺戸　淳子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学特講Ⅳ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
203	兼任	講師	ｱｹｵ ﾏﾕﾐ 明尾　真弓 ＜平成26年4月＞		文学修士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
204	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾀｶｵ 菊地　敬夫 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古代オリエント史	2･3･4通	4	1	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所 招聘研究員 （平成19年4月）	
205	兼任	講師	ﾘｮ ｼｮｳｴﾝ 呂　小燕 ＜平成26年4月＞		修士※ （総合文化）		1年中国語(オラル) 2年中国語(講読)	1通 2通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
206	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾖｼｶ 植田　美佳 ＜平成27年4月＞		理学修士※		コンピュータサイエンス	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
207	兼任	講師	ｻｴｷ ﾓﾄｺ 佐伯　素子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講6	2･3･4後	2	1	聖徳大学心理・福祉学部 准教授 （平成23年4月）	
208	兼任	講師	ﾏﾂｵ ﾄﾓｱｷ 松尾　知明 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （米国）		教育課程論	2･3前	2	1	国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 （平成17年4月）	
209	兼任	講師	ﾊﾏﾔ ｻﾄｼ 浜屋　敏 ＜平成26年4月＞		MBA （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	富士通総研　経済研究所 上席主任研究員 （平成23年7月）	
210	兼任	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ﾉﾌﾞｵ 高柳　信夫 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年中国語(文法)	1通	4	2	学習院大学外国語教育研究センター 教授 （平成18年4月）	
211	兼任	講師	ｶﾝｻﾞｷ ﾅｵﾐ 神崎　直美 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		史料講読Ⅰ	2･3･4通	4	1	城西大学経済学部 准教授 （平成21年4月）	
212	兼任	講師	ﾐｵ ﾀﾀﾞｵ 三尾　忠男 ＜平成27年4月＞		教育学修士		メディア教材開発	2･3後	2	1	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成17年4月）	
213	兼任	講師	ｷﾑ ﾃﾎ 金　泰昊 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		2年コリア語 1年コリア語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
214	兼任	講師	ｺｳﾉ ﾄｼﾔ 河野　俊哉 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		科学史1 科学史2	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	暁星中学高等学校 教諭 （平成元年4月）	
215	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾖｼﾕｷ 木村　義之 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前	2	1	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 教授 （平成23年4月）	
216	兼任	講師	ﾌｸﾀﾞ ﾕｷ 福田　由紀 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		認知心理学特講8	2･3･4後	2	1	法政大学文学部 教授 （平成18年4月）	
217	兼任	講師	ﾀｷｻﾞﾜ ﾐｻｺ 滝澤　美佐子 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		国際法1	2･3･4前	2	1	桜美林大学リベラルアーツ学群 教授 （平成22年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
218	兼任	講師	ｵｶﾐｮｳ ﾋﾃﾞﾀﾀﾞ 岡明　秀忠 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		社会・公民科教育法2 社会・公民科教育法1	3後 3前	2 2	1 1	明治学院大学文学部教職課程 教授 （平成16年4月）	
219	兼任	講師	ﾌﾞﾙｺﾞｽ BURGOS VIVAS, Juan Carlos ＜平成26年4月＞		B. A. （スペイン）		2年スペイン語 1年スペイン語(オラル) スペイン語コミュニケーションⅡ(2) スペイン語コミュニケーションⅡ(1)	2通 1通 3後 3前	2 6 2 2	1 3 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
220	兼任	講師	ﾊﾆｭｳ ｶｽﾞﾉﾘ 羽生　和紀 ＜平成28年4月＞		Ph.D. （米国）		社会心理学特講14	3･4前	2	1	日本大学文理学部 教授 （平成18年4月）	
221	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾋﾛﾕｷ 鈴木　裕之 ＜平成27年4月＞		修士※ （社会学）		比較文化学特講4 文化人類学特講6	2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	国士舘大学 法学部 教授 （平成7年4月）	
222	兼任	講師	ﾖｺﾔﾏ ｱﾕﾐ 横山　安由美 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学Ⅱ－1	3･4通	4	1	フェリス女学院大学国際交流学部 教授 （平成20年4月）	
223	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹｲｺ 渡邉　景子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	12	6	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
224	兼任	講師	ﾊﾗﾀﾞ ﾏﾘ 原田　眞理 ＜平成28年4月＞		保健学博士		人格臨床心理学特講4	3･4後	2	1	玉川大学 通信教育部 教授 （平成24年4月）	
225	兼任	講師	ｺﾏｲ ﾑﾂｺ 駒井　睦子 ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		1年スペイン語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
226	兼任	講師	ｶﾐｾ ﾕﾐｺ 上瀬　由美子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会心理学特講9	2･3･4後	2	1	立正大学心理学部 教授 （平成22年4月）	
227	兼任	講師	ｶﾄｳ ｸﾐｺ 加藤　久美子 ＜平成26年4月＞		文学修士※		キリスト教学Ⅰ－2 キリスト教学Ⅱ－6	1･2通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
228	兼任	講師	ｵｵﾀ ﾕｳｺ 太田　裕子 ＜平成27年4月＞		博士（文学）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
229	兼任	講師	ﾂﾁﾔ ｼﾞｭﾝｼﾞ 土屋　淳二 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会学	2･3･4通	4	1	早稲田大学文学学術院 教授 （平成18年4月）	
230	兼任	講師	ｵｷ ｷﾖﾀｹ 沖　清豪 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		教育行政学2	2･3後	2	1	早稲田大学文学学術院 教授 （平成21年4月）	
231	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾄｵﾙ 上田　徹 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅳ 哲学・倫理学特講Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
232	兼任	講師	ｷ ｷｮｳﾎｳ 紀　旭峰 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	早稲田大学アジア研究機構 常勤次席研究員 （平成25年4月）	
233	兼任	講師	ｻｻﾊﾗ ﾋﾛﾕｷ 笹原　宏之 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本語学研究Ⅰ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
234	兼任	講師	ﾋﾗﾃﾞ ﾕｳｺ 平出　裕子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本文化史Ⅰ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
235	兼任	講師	ｽｶﾞ ｶｽﾞﾋﾄ 壽賀　一仁 ＜平成28年4月＞		社会学修士		ボランティア研究演習2 ボランティア研究演習1	3･4後 3･4前	2 2	1 1	（社）あいあいネット 理事 （平成21年6月）	
236	兼任	講師	ﾏﾚｼｬﾙ ﾍﾞｱﾄﾘｽ MARECHAL Beatrice ＜平成27年4月＞		Ph. D.（言語学） （仏国）		フランス語コミュニケーションⅠ(1) フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2前 2後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
237	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｶｵﾘ 山田　香里 ＜平成28年4月＞		修士 （神学） Licenza in Archeologia Cristiana （ヴァチカン市国）		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
238	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾁｱｷ 加藤　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
239	兼任	講師	ｶﾉ ﾐｷ 狩野　みき ＜平成28年4月＞		文学修士※		英作文1 英作文2	3前 3後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
240	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾋﾛ 遠藤　正寛 ＜平成27年4月＞		博士 （商学）		国際経済学1	2･3･4前	2	1	慶應義塾大学商学部 教授 （平成18年4月）	
241	兼任	講師	ﾀﾁ ｹｻﾐ 舘　けさみ ＜平成26年4月＞		修士※ （人文学）		2年中国語(講読) 1年中国語(文法)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
242	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ｺﾞｳ 小林　剛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		キリスト教思想史Ⅱ キリスト教学Ⅰ－4 ラテン語Ⅰ	2･3･4後 1･2通 2･3･通	2 4 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
243	兼任	講師	ﾐﾔｹ ﾄｼﾋｺ 三宅　俊彦 ＜平成27年4月＞		博士 （歴史学）		2年中国語(講読) 中国語コミュニケーションⅡ(2) 中国古代文化史 中国語コミュニケーションⅡ(1)	2通 3後 2･3･4通 3前	2 2 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
244	兼任	講師	ﾏｸﾞｽ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ MAGGS Andrew、Jhon ＜平成26年4月＞		M. A. Linguistics （英国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	4 4	2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
245	兼任	講師	ｵｵﾀﾆ ｸﾐ 大谷　公美 ＜平成27年4月＞		修士（美学）※		キリスト教美術 キリスト教学Ⅱ－9	2･3･4通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
246	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾎ 渡辺　美穂 ＜平成27年4月＞		MPS in Industrial and Labor RelationsRelations		女性とキャリア形成	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
247	兼任	講師	ﾘｭｳｺﾞﾀﾞﾆｴﾗ 立古　ダニエラ ＜平成26年4月＞		東洋学・日本学修士（チェコ）		チェコ語の世界	1･2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
248	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾉﾌﾞﾏｻ 秋山　信将 ＜平成26年4月＞		博士（法学）		人間の安全保障	1･2･3･4後	2	1	一橋大学大学院法学研究科 教授 （平成24年8月）	
249	兼任	講師	ﾋﾒﾉ ｱﾂｺ 姫野　敦子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅴ 日本文学史Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	清泉女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	
250	兼任	講師	ﾓﾘﾓﾄﾖｳｺ 森本　陽子 ＜平成26年4月＞		M. A. （英国）		2年英語2(オラル) 英作文2 英作文1 1年英語	2通 3後 3前 1通	2 2 2 4	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
251	兼任	講師	ﾏｻｷ ｱｷｺ 正木　晶子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学）		1年ドイツ語(文法)	1通	4	1	上智大学言語教育研究センター 嘱託講師 （平成16年4月）	
252	兼任	講師	ﾅｶﾀﾆ ｼｹﾞｶｽﾞ 中谷　茂一 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		児童福祉論 社会福祉論	1･2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	聖学院大学人間福祉学部 教授 （平成23年4月）	
253	兼任	講師	ｲｿﾉ ﾖｼｺ 磯野　昌子 ＜平成27年4月＞		行政学修士		ジェンダー学6－2	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
254	兼任	講師	ﾔﾀｶﾞﾜ ﾄﾓｴ 谷田川　知恵 ＜平成26年4月＞		法学修士※		ジェンダー学6－1	1･2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
255	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ﾋｻﾖ 川上　寿代 ＜平成27年4月＞		修士（文学）		日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
256	兼任	講師	ﾐﾉﾜ ｼｹﾞﾙ 箕輪　茂 ＜平成27年4月＞		博士 （国際関係論）		ラテンアメリカ史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
257	兼任	講師	ｵｵﾊｼ ﾋﾃﾞﾄｼ 大橋　英敏 ＜平成26年4月＞		修士 （経済学）		金融のしくみ	1･2･3･4前	2	1	ジャパン・クレジット・アドバイザリー（株） 代表取締役社長 （平成24年5月）	
258	兼任	講師	ﾌｸﾆｼ ﾀｶﾋﾛ 福西　隆弘 ＜平成27年4月＞		Master of Public Policy （米国） Ph.D.in Economics （英国）		開発経済学	2･3･4通	4	1	独行）日本貿易振興機構 アジア経済研究所 地域研究センター 副主任研究員 （平成18年10月）	
259	兼任	講師	ﾋﾗﾊﾞﾔｼ ﾕｳｺ 平林　優子 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		古典文学講読Ⅰ	2･3･4前	2	1	東京女子大学現代教養学部 助手 （平成8年4月）	
260	兼任	講師	ｲﾄｳ ｼﾝｼﾞ 伊藤　信二 ＜平成27年4月＞		修士 （美術史）		博物館教育論	2･3･4前	2	1	独立行政法人　国立文化財機構東京国立博物館 教育普及室長 （平成22年4月）	
261	兼任	講師	ﾏｴｶﾜ ｹﾝｲﾁ 前川　健一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅴ 哲学・倫理学特講Ⅵ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
262	兼任	講師	ﾎﾘｴ ﾉﾘﾁｶ 堀江　宗正 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学1	2前	2	1	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 （平成25年4月）	
263	兼任	講師	ｶﾐｵｶ ﾏｻｼ 上岡　方士 ＜平成26年4月＞		教育学修士		体育運動学	1通	2	1	サイエンス・サービス （平成20年11月）	
264	兼任	講師	ﾖｼﾉ ﾄﾓﾐ 吉野　朋美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅵ	2･3･4前	2	1	中央大学文学部 准教授 平成21年4月	
265	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ｶｵﾘ 植田　かおり ＜平成27年4月＞		博士 （哲学）		ギリシア語Ⅰ	2･3･4通	4	1	神田外語大学外国語学部 准教授 （平成20年4月）	
266	兼任	講師	ｽｷｰﾂ ｺﾘﾝ SKEATES ,Colin ＜平成26年4月＞		M. A. （英国）		英作文2 英作文1 1年英語	3後 3前 1通	4 4 4	2 2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
267	兼任	講師	ｼﾗﾈ ｺｳｲﾝ 白根　孝胤 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		資料整理実習 日本文化史Ⅱ	3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所 研究員 （平成15年4月）	
268	兼任	講師	ｼｳﾁ ｶｽﾞｵｷ 志内　一興 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		古代ローマ史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
269	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾐﾕｷ 阿部　美由起 ＜平成27年4月＞		修士 （芸術学）		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
270	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾏｲｺ 中村　麻衣子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		教育相談	2･3前	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
271	兼任	講師	ﾖｺﾀ ﾁｱｷ 横田　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		フランス事情(2) フランス事情(1) 2年フランス語(講読)	2･3･4後 2･3･4前 2通	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
272	兼任	講師	ｼﾊﾞｻｷ ﾐﾂﾖ 柴崎　光世 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		現代の脳科学 臨床心理学特講1	1･2･3･4後 2･3･4後	2 2	1 1	明星大学人文学部 准教授 （平成19年4月）	
273	兼任	講師	ｵｵｻｷ ｱｻｺ 大崎　麻子 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		ジェンダー学5－2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
274	兼任	講師	ｱﾗｲ ﾋﾛｺ 新井　浩子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キャリアデザイン入門	2･3前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
275	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｴﾐ 鈴木　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		アジア文化論	2･3･4後	2	1	早稲田大学イスラーム地域研究機構 主任研究員 （平成20年10月）	
276	兼任	講師	ｵｵﾀﾜ ﾅｵｷ 大多和　直樹 ＜平成28年4月＞		M. A. （米国）		教育調査	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
277	兼任	講師	ﾁﾊﾞ ｲﾁﾀﾞｲ 千葉　一大 ＜平成27年4月＞		修士※ （歴史学）		日本近世史Ⅱ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
278	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾔｽｼ 堀内　康史 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		情報活用演習 社会調査の技法2	1･2･3･4前後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
279	兼任	講師	ｻｲｷ ﾐﾁﾖ 斉木　美知世 ＜平成27年4月＞		博士 （言語学）		日本語学研究Ⅳ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
280	兼任	講師	ｲﾁｶﾜ ﾃﾂ 市川　哲 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化学特講5 文化人類学特講7	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	立教大学観光学部 助教 （平成23年10月）	
281	兼任	講師	ﾄｺﾛ ﾏｷｺ 所　真紀子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
282	兼任	講師	ｱｵｷ ｱﾂｺ 青木　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （国際政治学） M.A. in Histry （米国）		2年英語2(リーディング) 2年英語2(オラル) 1年英語	2通 2通 1通	2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
283	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ﾕｷ 島田　由紀 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		キリスト教学Ⅰ－8 キリスト教学Ⅱ－3	1･2通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
284	兼任	講師	ｼﾅｶﾞﾜ ﾅｷﾞｻ 品川　なぎさ ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年日本語2 1年日本語1	1後 1前	1 1	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
285	兼任	講師	ｱﾀｶ ﾉﾘｺ 安高　紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （比較社会文化）		2年日本語2 1年日本語1 2年日本語1 1年日本語2	2･3･4後 1前 2前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	独立行政法人　国際交流基金　日本語試験センター 研究員 （平成23年4月）	
286	兼任	講師	ｲｼｶﾜ ｶｽﾞﾖｼ 石川　一喜 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論2	2･3･4後	2	1	拓殖大学国際開発教育センター 准教授 （平成25年4月）	
287	兼任	講師	ｷｶﾞﾜ ﾋﾛﾐ 木川　弘美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		西洋美術史Ⅰ 西洋美術史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	清泉女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	
288	兼任	講師	ｸﾗｼﾏ ｵｻﾑ 倉島　治 ＜平成27年4月＞		修士※ （学術）		認知心理学特講4	2･3･4前	2	1	東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員 （平成21年10月）	
289	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾄﾓｱｷ 渡邊　智暁 ＜平成26年4月＞		Ph. D. In Mass Communications （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授 （平成24年7月）	
290	兼任	講師	ｼﾗｽﾅ ｻﾜｺ 白砂　佐和子 ＜平成27年4月＞		心理学修士※		人格臨床心理学特講2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
291	兼任	講師	ｵｵｶﾜ ﾏﾕｺ 大川　真由子 ＜平成27年4月＞		社会人類学博士		比較文化学特講3 文化人類学特講4	2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	早稲田大学人間科学学術院 助教 （平成25年4月）	
292	兼任	講師	ｺｳｻﾞｷ ﾕｳｺ 神前　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講3	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
293	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾓﾄﾔ 中村　元哉 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		中国事情(1)	2･3･4後	2	1	津田塾大学学芸学部 准教授 （平成22年4月）	
294	兼任	講師	ﾋﾗﾀ ﾕｷｴ 平田　由紀江 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Sociology （韓国）		2年コリア語 1年コリア語(文法)	2通 1通	2 8	1 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
295	兼任	講師	ﾔｽｶﾜ ﾊﾙｷ 安川　晴基 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		ドイツ事情(2)	2･3･4後	2	1	慶應義塾大学理工学部外国語総合教育教室 講師 （平成24年4月）	
296	兼任	講師	ﾖｺﾀ ｶｽﾞｺ 横田　和子 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		人間学習7	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	
297	兼任	講師	ﾋﾗｲ ﾐｶ 平井　美佳 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講3	2･3･4前	2	1	横浜市立大学国際総合科学部 准教授 （平成25年4月）	
298	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷ 小林　由紀 ＜平成26年4月＞		修士※ （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	8	4	東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学センター 特任研究員 （平成17年4月）	
299	兼任	講師	ｲﾏﾎﾘ ｴﾐ 今堀　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学特講10 比較文化学特講2	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
300	兼任	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｺ 杉山　佳子 ＜平成26年4月＞		DEA （スペイン語文学修士） （スペイン）		1年スペイン語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
301	兼任	講師	ﾔﾏﾐﾔ ﾕｳｺ 山宮　裕子 ＜平成27年4月＞		精神病理心理学博士 （米国）		臨床心理学特講5	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
302	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾃｯﾍﾟｲ 鈴木　哲平 ＜平成26年4月＞		文学博士		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
303	兼任	講師	ｷﾀｶﾞﾐ ｼﾝｼﾞ 北神　慎司 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		認知心理学特講5	2･3･4休	2	1	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 平成19年4月	
304	兼任	講師	ｵｵｱｲ ﾀｶﾊﾙ 大愛　崇晴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		美学・芸術学特講Ⅰ 美学・芸術学特講Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	同志社大学文学部 准教授 （平成25年4月）	
305	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ ﾌﾐﾄ 早川　文人 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年ドイツ語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
306	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾕｷｺ 伊藤　由希子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅸ	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
307	兼任	講師	ｷﾀﾑﾗ ｱﾂｼ 北村　厚 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		国際関係史Ⅱ 国際関係史Ⅰ	2･3･4通 2･3･4前	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　国際交流学科）

調書番号	専任等区分	職位	ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
308	兼任	講師	ｺﾞﾄｳ ｴﾐ 後藤　絵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		西アジア文化史	2･3･4通	4	1	東京大学東洋文化研究所 助教	
309	兼任	講師	ｾｵ ﾌﾐｺ 瀬尾　文子 ＜平成27年4月＞		修士※ （人文社会）		美学・芸術学特講Ⅳ 美学・芸術学特講Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東京大学大学院人文社会系研究科 教務補佐 （平成21年4月）	
310	兼任	講師	ｵｳ ｼｭﾝﾌﾞﾝ 王　俊文 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年中国語(オラル) 2年中国語(会話)	1通 2通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
311	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｱﾔﾉ 中村　綾乃 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
312	兼任	講師	ｻｶｲ ﾓｴ 酒井　もえ ＜平成28年4月＞		博士(学術) M.Phil. (英国)		英作文1 英作文2	3前 3後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
313	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｼｭｳﾀﾛｳ 鈴木　周太郎 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		アメリカ史	2･3･4通	4	1	一橋大学大学院社会研究科 特任講師 （平成24年4月）	
314	兼任	講師	ｸﾗﾊﾞﾔｼ ﾅｵｺ 倉林　直子 ＜平成27年4月＞		M．A． （米国） 文学修士※		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
315	兼任	講師	ｱﾗﾌﾈ ｼｭﾝﾀﾛｳ 荒船　俊太郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
316	兼任	講師	ｾｷ ﾄﾓﾋﾃﾞ 関　智英 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
317	兼任	講師	ﾀﾂﾐ ﾕｷｺ 巽　由樹子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ロシア文化史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
318	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁ 山田　淳一 ＜平成27年4月＞		博士 （地理学）		自然地理学1 自然地理学2	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
319	兼任	講師	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｹｲｺﾞ 大林　啓吾 ＜平成26年4月＞		博士 （法学）		法学演習Ⅰ(2) 憲法3 法学演習Ⅰ(1)	3後 1･2･3･4前 3前	2 4 2	1 2 1	千葉大学大学院専門法務研究科 准教授 （平成24年4月）	
320	兼任	講師	ﾖｼﾅｶ ﾄｼｷ 吉中　俊貴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年ドイツ語(会話) 2年ドイツ語(講読)	2通 2通	2 2	1 1	駒澤大学総合教育研究部 講師 （平成24年4月）	
321	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾘｮｳｺ 齊藤　良子 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		1年コリア語(文法)	1通	8	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
322	兼任	講師	ｷﾝ ﾃｼ 金　泰植 ＜平成26年4月＞		修士※ （比較社会文化）		1年コリア語(オラル)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
323	兼任	講師	ﾐｶﾐ ｴﾘ 見上　英里 ＜平成27年4月＞		修士 （理学）		応用情報処理	2･3･4通	4	1	（株）ピコラボ システムエンジニア （平成24年4月）	
324	兼任	講師	ｺﾛﾝ ｴﾘｶ コロン　えりか ＜平成27年4月＞		文学修士 Master of Music （英国）		キリスト教学Ⅱ－10 キリスト教学特講Ⅰ	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
325	兼任	講師	ｸﾏｸﾗ ﾜｶｺ 熊倉　和歌子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		イスラム社会史入門	2･3･4後	2	1	財団法人　東洋文庫 日本学術振興会特別研究員 （平成24年4月）	
326	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ ﾘｮｳｽｹ 岡本　亮輔 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
327	兼任	講師	ﾀﾏｵｷ ﾕｳｽｹ 玉置　佑介 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	2	1	上智大学総合人間科学部 共同研究員 （平成24年4月）	
328	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾔ 髙橋　尚也 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		社会心理学特講15 社会調査の技法1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	立正大学心理学部 准教授 （平成25年4月）	
329	兼任	講師	ｵｵｷ ｱﾔﾐ 大木　絢深 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年英語	1通	4	1	早稲田大学演劇博物館 助手 （平成23年4月）	
330	兼任	講師	ｲｽﾞﾓ ｼｭﾝﾒｲ 出雲　春明 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会思想史Ⅰ 社会思想史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
331	兼任	講師	ﾅｶｿﾞﾉ ﾕｷ 中園　有希 ＜平成27年4月＞		修士※ （教育学）		教育課程方法論	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
332	兼任	講師	ﾎﾘﾔﾏ ｱﾂｺ 堀山　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		2年英語2(リーディング) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
333	兼任	講師	ﾊﾞｲｱｰ ﾀﾞｲｱﾅ BEIER,Diana ＜平成26年4月＞		M．A． (Magistra Artium) （ドイツ）		ドイツ語コミュニケーションⅡ(1) 1年ドイツ語(オラル) ドイツ語コミュニケーションⅠ(2) ドイツ語コミュニケーションⅠ(1) ドイツ語コミュニケーションⅡ(2)	3前 1通 2後 2前 3後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東京外国語大学 特任講師 （平成25年4月）	
334	兼任	講師	ﾄｸｼｹﾞ ｸﾐ 徳重　公美 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		哲学・倫理学特講X	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
335	兼任	講師	ｸﾗｽﾐﾄﾓｴ 倉住　友恵 ＜平成27年4月＞		修士 （心理学）		発達心理学2	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
336	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ｲﾂﾐ 島田　伊都美 ＜平成26年4月＞		人文学修士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
337	兼任	講師	ｶｼﾞ ﾋﾛﾐ 鍛治　広真 ＜平成28年4月＞		文学修士		対照言語学Ⅱ	3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
338	兼任	講師	ｼｭﾙﾂｪ ｱﾝﾅｰﾕﾘｱｰﾈ SCHULZE A.nna-Juliane ＜平成26年4月＞		修士 （日本学） （ドイツ）		1年ドイツ語(オラル) ドイツ事情(1)	1通 2･3･4前	4 2	2 1	ドイツ語学院ハイデルベルク 講師 （平成23年6月）	

別記様式第3号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	カワカミ キヨブミ 川上　清文 ＜平成26年4月＞		教育学博士		心理学演習1 心理学入門 発達心理学1 発達心理学演習 卒業論文 発達心理学特講7 3年心理学演習 心理学概論	3･4後 1前 2･3･4前 4通 4通 3･4前 3通 2通	2 0.3 2 4 8 2 4 0.6	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成10年4月）	6日
2	専	教授	ササキ マサヒロ 佐々木　正宏 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		基礎課程演習 心理学入門 臨床心理学特講2 3年心理学演習 発達臨床心理学演習 卒業論文 心理学概論	1前 1前 2･3･4後 3通 4通 4通 2通	2 0.3 2 4 4 8 0.6	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
3	専	教授	タカハシ マサノブ 高橋　雅延 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		3年心理学演習 心理学概論 心理学実験演習2 基礎課程演習 心理学演習2 実験心理学演習 卒業論文 心理学史 心理学入門 認知心理学特講7 認知心理学特講6	3通 2通 3･4前 1前 2後 4通 4通 2･3･4後 1前 3･4後 3･4前	4 0.6 2 2 2 4 8 2 0.3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
4	専	教授	ムカイ タカヨ 向井　隆代 ＜平成26年4月＞		Ph.D. (Psychology) （米国）		心理学概論 発達臨床心理学演習 心理学入門 臨床心理学特講7 3年心理学演習 卒業論文	2通 4通 1前 2･3･4前 3通 4通	0.6 4 0.3 2 4 8	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
5	専	准教授	ナガイ ジュンイチ 永井　淳一 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		心理学研究法1 心理学実験演習1 実験心理学演習 心理学入門 認知心理学特講1 心理学概論 卒業論文 3年心理学演習	3･4前 2前 4通 1前 2･3･4後 2通 4通 3通	2 4 4 0.3 2 0.6 8 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成22年4月）	6日
6	専	講師	シバタ レイコ 柴田　玲子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		基礎課程演習 3年心理学演習 心理学入門 心理学実験演習3 臨床心理学特講4 卒業論文 発達臨床心理学演習 心理学概論	1前 3通 1前 2後 2･3･4前 4通 4通 2通	2 4 0.3 2 2 8 4 0.6	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成20年4月）	6日
7	専	講師	キシモト タケシ 岸本　健 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		発達心理学特講6 心理学実験演習3 発達心理学演習 卒業論文 心理学実験演習1 3年心理学演習 心理学入門 発達心理学2 心理学概論	3･4前 2後 4通 4通 2前 3通 1前 2･3･4前 2通	2 2 4 8 4 4 0.3 2 0.6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
8	兼担	教授	サクマ カツヒコ 佐久間　勝彦 ＜平成26年4月＞		学士 （教育学）		基礎課程演習	1前	2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
9	兼担	教授	ヨネザワ カツオ 米澤　克夫 ＜平成26年4月＞		文学修士※		哲学・倫理学特講Ⅰ 倫理学概論Ⅱ 倫理学概論Ⅰ 哲学・倫理学特講Ⅱ 哲学概論Ⅳ 哲学概論Ⅲ 倫理学演習Ⅰ 哲学演習Ⅰ	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4通 2･3･4通	2 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成18年4月）	6日
10	兼担	教授	デッカー メリー アン DECKER M. ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		Contemporary American Culture(1) Contemporary American Culture(2)	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成2年4月）	3日
11	兼担	教授	セキバ チカコ 関場　誓子 ＜平成26年4月＞		文学士		国際交流実習1 基礎課程演習 国際交流入門 国際交流特殊講義 災害と人間 政治学概論［含国際政治］1 アメリカ外交論 政治学概論［含国際政治］2	2･3･4前 1前 1前 2･3･4前 1･2･3･4前 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通	0.1 2 0.2 2 0.2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成8年4月）	6日
12	兼担	教授	ナカイ コウジ 仲居　宏二 ＜平成26年4月＞		文学士		国際交流入門 国際コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション(1) 異文化間コミュニケーション(2) メディア・コミュニケーション特講2 国際交流実習1 基礎課程演習	1前 2･3･4通 2･3･4前 2･3･4後 3･4通 2･3･4前 1前	0.2 4 2 2 4 1 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成24年4月）	6日
13	兼担	教授	サクマ ラファエラ SAKUMA R. ＜平成26年4月＞		Licence es Letters （仏国）		1年フランス語(オラル) 2年フランス語(会話) フランス語コミュニケーションⅡ(2) フランス語コミュニケーションⅡ(1)	1通 2通 3後 3前	6 4 2 2	3 2 1 1	聖心女子大学文学部 客員教授 （平成23年4月）	3日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
14	兼担	教授	ﾊﾗｵｶ ﾌﾐｺ 原岡　文子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本文学史Ⅱ 古典文学研究Ⅲ 古典文学研究Ⅳ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成5年4月）	6日
15	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ｵﾄｼ 鈴木　乙史 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		質的調査法1 人格心理学1 災害と人間 社会調査入門 人間関係入門	2･3･4前 2前 1･2･3･4前 2前 1前	2 2 0.2 0.5 0.3	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成4年4月）	6日
16	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ｽｽﾑ 山田　進 ＜平成26年4月＞		文学修士		日本語学概論Ⅰ 日本語学概論Ⅱ 基礎課程演習 対照言語学Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後 1前 3･4前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
17	兼担	教授	ﾅｶﾞﾉ ｶｽﾞｵ 永野　和男 ＜平成26年4月＞		教育学士		教育学入門 情報ネットワーク演習	1･2前 2･3･4前	0.2 2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成12年4月）	6日
18	兼担	教授	ﾌｶｲ ﾏｻﾐ 深井　雅海 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		史料講読Ⅱ 日本近世史Ⅰ	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
19	兼担	教授	ｱｼﾞｵｶ ﾄｵﾙ 味岡　徹 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		世界史文献講読Ⅱ－2 世界史文献講読Ⅱ－1 アジア史入門 中国近代史 世界史演習Ⅱ－1 世界史演習Ⅲ－1 外国史概説Ⅰ－2	2後 2前 1前 2･3･4通 3通 4通 2･3･4前	2 2 1 4 4 4 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
20	兼担	教授	ｲﾜｶﾐ ﾏﾐ 岩上　真珠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		社会調査入門 人間関係入門 家族社会学2 家族社会学1	2前 1前 2･3･4後 2後	0.5 0.3 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
21	兼担	教授	ﾀｶﾀﾞ ﾕﾐ 高田　遵湖 ＜平成26年4月＞		文学修士		運動学3 体育運動学 教育学入門 運動学1	2･3･4後 1通 1･2前 2･3･4前	1 4 0.2 1	1 2 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
22	兼担	教授	ｷﾀﾑﾗ ｶｽﾞｵ 北村　和夫 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		日本教育史1 教育学入門 教育原理 日本教育史2 教育実習1 教育実習2	2･3前 1･2前 2･3前 2･3後 4通 4通	2 0.2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成11年4月）	6日
23	兼担	教授	ｻｻｷ ﾀｶｼ 佐々木　隆 ＜平成26年4月＞		文学修士※		日本史概説Ⅰ 日本史概説Ⅱ 日本近現代史Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通	2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成6年4月）	6日
24	兼担	教授	ﾐﾀ ﾊﾙﾖｼ 三田　晴義 ＜平成26年4月＞		博士 （理学）		プログラム入門 情報処理入門 国際交流入門	2･3･4通 2･3･4通 1前	4 8 0.2	1 2 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成9年4月）	6日
25	兼担	教授	ﾏｰｼｬ ｸﾗｯｶﾜｰ KRAKOWER M. ＜平成26年4月＞		M. A. Med （米国）		英語の世界 メディア・コミュニケーション特講1 メディア・コミュニケーション入門1 国際交流実習1 1年英語	1前 3･4後 1･2前 2･3･4前 1通	0.2 2 2 0.1 4	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
26	兼担	教授	ｺｲｽﾞﾐ ﾄｵﾙ 小泉　徹 ＜平成26年4月＞		文学修士※		世界史演習Ⅲ－4 世界史演習Ⅱ－4 世界史文献講読Ⅳ－2 世界史文献講読Ⅳ－1 外国史概説Ⅱ－2 ヨーロッパ近代史Ⅰ	4通 3通 2後 2前 2･3･4後 2･3･4通	4 4 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成14年4月）	6日
27	兼担	教授	ﾌﾞｯｼｪﾙ ﾌﾞﾚﾝﾀﾞ ｱｲﾘｰﾝ BUSHELL B. ＜平成26年4月＞		M. A. Med		英語の世界	1前	0.2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
28	兼担	教授	ﾄﾐﾊﾗ ﾏﾕﾐ 冨原　眞弓 ＜平成26年4月＞		Docteur en Philosophie （仏国）		倫理学概論Ⅲ 哲学概論Ⅰ 宗教思想史Ⅱ 哲学概論Ⅱ 西洋近代哲学史Ⅱ 宗教思想史Ⅰ 倫理学概論Ⅳ 哲学演習Ⅳ	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通	2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
29	兼担	教授	ｵｵﾊｼ ﾏｻｱｷ 大橋　正明 ＜平成26年4月＞		Master of Professional Studies (Agliculture) （米国）		比較文化学1 社会調査入門 比較文化学特講 比較文化学特講1 人間関係入門	2･3･4前 2前 2･3･4通 2･3･4前 1前	2 0.5 4 2 0.3	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成26年4月）	6日
30	兼担	教授	ｵｶﾞﾜ ｻﾕﾘ 小川　早百合 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 国際交流入門 1年日本語1 国際交流実習1 1年日本語2	1前 1前 1前 2･3･4前 1後	2 0.2 4 0.1 2	1 1 2 1 2	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
31	兼担	教授	ｱﾀﾞﾁ ﾏﾐ 安達　まみ ＜平成26年4月＞		文学修士※		英語文化論[児童文学]2 英語文化論[翻訳実践]2 英語文化論[翻訳実践]1 英語の世界	2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前 1前	2 2 2 0.2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
32	兼担	教授	ｻｻｷ ｹｲｽｹ 佐々木　恵介 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 日本古代史Ⅰ	1前 2･3･4通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成13年4月）	6日
33	兼担	教授	ｶﾜﾂ ﾏｺﾄ 川津　誠 ＜平成26年4月＞		文学修士※		基礎課程演習 日本文学史Ⅵ 近代文学研究Ⅳ 近代文学研究Ⅲ	1前 2･3･4後 2･3･4後 2･3･4前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
34	兼担	教授	カワベ タカコ 河邉　貴子 ＜平成26年4月＞		博士 （教育学）		幼児教育原論 教育学入門	2･3前 1･2前	2 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
35	兼担	教授	インデ タダオ 印出　忠夫 ＜平成26年4月＞		文学修士 D.E.A （仏国）		世界史演習Ⅱ－2 世界史文献講読Ⅲ－2 世界史演習Ⅲ－2 世界史文献講読Ⅲ－1 ヨーロッパ中世史Ⅰ 外国史概説Ⅱ－1	3通 2後 4通 2前 2･3･4通 2･3･4後	4 2 4 2 4 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
36	兼担	教授	ミズシマ ナオキ 水島　尚喜 ＜平成26年4月＞		教育学修士		教育学入門 人間学習4 基礎課程演習 災害と人間	1･2前 3･4前 1前 1･2･3･4前	0.2 2 2 0.2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
37	兼担	教授	ナカガワ トモコ 中川　僚子 ＜平成26年4月＞		文学修士※ M.A. in Modern Literature （英国）		英語の世界 英文学史概説1 英文学史概説2 基礎課程演習	1前 1･2前 1･2後 1前	0.2 4 4 2	1 2 2 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成21年4月）	6日
38	兼担	教授	スガワラ ケンスケ 菅原　健介 ＜平成26年4月＞		文学博士		社会心理学特講1 災害と人間 社会統計学 基礎課程演習 対人社会心理学1 社会調査入門 人間関係入門	2･3･4前 1･2･3･4前 2･3･4後 1前 2前 2前 1前	2 0.2 2 2 2 0.5 0.3	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成15年4月）	6日
39	兼担	教授	フセ ミキオ 扶瀬　幹生 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		英語文化論［文学と電子メディア］2 英語の世界 2年英語2(リーディング) 基礎課程演習 英語文化論［文学と電子メディア］1	2後 1前 2通 1前 2前	2 0.2 4 2 2	1 1 2 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成23年4月）	6日
40	兼担	教授	サワノ ユキコ 澤野　由紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		教育学入門 西洋教育運動史 比較教育学特講 比較教育学	1･2前 2･3後 3･4後 3･4通	0.2 2 2 4	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
41	兼担	教授	ハヤシ リュウジロウ 林　龍次郎 ＜平成26年4月＞		文学修士		英語の世界 英語学特講3－1 2年英語2(リーディング) 英語学概論 英語学特講3－2 英文法	1前 2･3･4前 2通 1･2通 2･3･4後 2･3前	0.2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成17年4月）	6日
42	兼担	教授	ウエダ セイジ 植田　誠治 ＜平成26年4月＞		博士 （医学）		災害と人間 体育運動学 運動学2 教育学入門 健康な生活と健康科学 健康社会学	1･2･3･4前 1通 2･3･4後 1･2前 1･2･3･4前 2･3･4前	0.2 2 1 0.2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
43	兼担	教授	カトウ ヨシミツ 加藤　好光 ＜平成26年4月＞		Dr. phil. （ドイツ）		ビートルズの詩と音楽 基礎課程演習 ギリシア語Ⅱ 哲学演習Ⅲ	1･2･3･4前後 1前 2･3･4通 2･3･4通	4 2 4 4	2 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
44	兼担	教授	カトウ カズヤ 加藤　和哉 ＜平成26年4月＞		文学修士※		キリスト教学演習Ⅱ 倫理学演習Ⅱ 哲学史演習Ⅰ キリスト教学概論Ⅰ キリスト教学概論Ⅱ 災害と人間 キリスト教学Ⅰ－5 基礎課程演習 現代を考える	2･3･4通 2･3･4通 2･3･4通 2･3･4後 2･3･4前 1･2･3･4前 1･2通 1前 1･2･3･4前	4 4 4 2 2 0.2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成22年4月）	6日
45	兼担	教授	オオツキ ナミ 大槻　奈巳 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		人間関係入門 キャリア形成の社会学 職業社会学1 職業社会学2 社会調査入門	1前 2･3･4前 2後 2･3･4前 2前	0.3 2 2 2 0.5	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
46	兼担	教授	ナガタ ヨシユキ 永田　佳之 ＜平成26年4月＞		教育学博士		基礎課程演習 教育学入門 人間学習8 災害と人間 教育社会学概論2 教育社会学概論1	1前 1･2前 3･4前 1･2･3･4前 2･3後 2･3後	2 0.2 2 0.2 2 2	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
47	兼担	教授	ヤマダ ユキ 山田　由紀 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年英語2(リーディング) 基礎課程演習 英語の世界	2通 1前 1前	2 2 0.2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成19年4月）	6日
48	兼担	教授	オオツカ ミホ 大塚　美保 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		近代文学研究Ⅰ 日本文学史Ⅴ 近代文学研究Ⅱ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 教授 （平成20年4月）	6日
49	兼担	教授	フカサワ ノリコ 深沢　了子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		古典文学研究Ⅷ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 教授 （平成25年4月）	6日
50	兼担	准教授	イマカワ キョウコ 今川　恭子 ＜平成26年4月＞		修士※ （音楽）		人間学習3 教育学入門 基礎課程演習	3･4後 1･2前 1前	2 0.2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
51	兼担	准教授	クボタ トモトシ 久保田　知敏 ＜平成26年4月＞		文学修士※		中国文学概論Ⅰ 1年中国語(文法) 中国思想への招待 中国古典への招待 国際交流入門 国際交流実習1 中国文学概論Ⅱ	2･3･4前 1通 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1前 2･3･4前 2･3･4後	2 4 2 2 0.2 0.1 2	1 2 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
52	兼担	准教授	ｸﾜﾅ ｴｲｺ 桑名　映子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		世界史文献講読Ⅴ－1 世界史文献講読Ⅴ－2 世界史演習Ⅲ－3 ヨーロッパ現代史Ⅰ 世界史演習Ⅱ－3 基礎課程演習 外国史概説Ⅱ－3	2前 2後 4通 2･3･4通 3通 1前 2･3･4後	2 2 4 4 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
53	兼担	准教授	ﾌﾙｶﾜ ｼﾞｭﾝｺ 古川　純子 ＜平成26年4月＞		経済学修士※		国際経済学2 国際交流入門 経済理論入門 経済学概論[含国際経済]	2･3･4後 1前 2･3･4通 2･3･4通	2 0.2 4 4	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
54	兼担	准教授	ﾐｳﾗ ﾉｿﾞﾐ 三浦　望 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		旧約聖書学Ⅰ 旧約聖書学Ⅱ 新約聖書学 キリスト教学Ⅰ－6 哲学演習Ⅶ－1 哲学演習Ⅶ－2 キリスト教学Ⅱ－14 キリスト教学演習Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後 2･3･4通 1･2通 2･3･4前 2･3･4後 3･4通 2･3･4通	2 2 4 4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
55	兼担	准教授	ﾔﾏｸﾞﾁ ｱｷﾋｺ 山口　昭彦 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学） Docteur （仏国）		アジア史入門 世界史文献講読Ⅵ－1 西アジア近代史 外国史概説Ⅰ－1 基礎課程演習 世界史文献講読Ⅵ－2 世界史演習Ⅱ－5 世界史演習Ⅲ－5	1前 2前 2･3･4通 2･3･4前 1前 2後 3通 4通	1 2 4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成19年4月）	6日
56	兼担	准教授	ﾅｶﾞﾉ ﾐｶ 長野　美香 ＜平成26年4月＞		博士 （人文科学）		倫理学演習Ⅲ 日本思想史学演習Ⅰ 日本倫理思想史Ⅱ キリスト教学Ⅰ－9 日本倫理思想史Ⅰ 基礎課程演習 災害と人間	2･3･4通 2･3･4通 2･3･4後 1･2通 2･3･4前 1前 1･2･3･4前	4 4 2 4 2 2 0.2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
57	兼担	准教授	ﾏﾂｳﾗ ｾｲｺ 松浦　聖子 ＜平成26年4月＞		法学修士※		国際交流実習1 憲法1 現代家族法 法律学[含国際法] 国際交流入門	2･3･4前 1･2･3･4前 2･3･4通 1･2･3･4通 1前	0.1 4 4 4 0.2	1 2 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
58	兼担	准教授	ｺﾔﾅｷﾞ ﾄﾓｶｽﾞ 小柳　智一 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本語学研究Ⅱ 日本語史概説Ⅰ 日本語史概説Ⅱ	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成21年4月）	6日
59	兼担	准教授	ｲｼｲ ﾖｳｺ 石井　洋子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会人類学）		社会調査入門 基礎課程演習 国際交流実習1 文化人類学1 質的調査法2 人間関係入門	2前 1前 2･3･4前 2後 2･3･4前 1前	0.5 2 0.1 2 2 0.3	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	6日
60	兼担	准教授	ｺｼﾛ ｴｲｺ 小城　英子 ＜平成26年4月＞		博士 （社会学）		人間関係入門 基礎課程演習 災害と人間 社会調査入門 マス・コミュニケーション論 社会心理学特講2 マスコミ社会心理学1	1前 1前 1･2･3･4前 2前 2･3･4前 3･4前 2後	0.3 2 0.2 0.5 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	6日
61	兼担	講師	ﾊﾏｸﾞﾁ ﾄｼｺ 濱口　壽子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Liguistics （米国）		1年英語 基礎課程演習 英語の世界	1通 1前 1前	4 2 0.2	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成15年4月）	6日
62	兼担	講師	ｶﾐｲｼ ﾏﾅﾌﾞ 上石　学 ＜平成26年4月＞		修士※ （文学）		美学・芸術学概論Ⅱ 美学・芸術学概論Ⅰ 美学・芸術学演習Ⅱ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4通	2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成14年4月）	6日
63	兼担	講師	ﾊﾀ ｺｳｲﾁﾛｳ 畑　浩一郎 ＜平成26年4月＞		Docteur en Litterature et civilisation Franqaises （仏国）		国際交流入門 基礎課程演習 フランスの社会と文化(2) 1年フランス語(文法) フランスの社会と文化(1) 国際交流実習1	1前 1前 2･3･4後 1通 2･3･4前 2･3･4前	0.2 2 2 4 2 0.1	1 1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
64	兼担	講師	ﾌｼﾞｲ ｱｷｺ 藤井　彰子 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Linguistics （米国）		英語の世界	1前	0.2	1	聖心女子大学文学部 講師 （平成23年4月）	6日
65	兼担	講師	ｽｷﾞﾓﾄ ｼﾞｭﾝｺ 杉本　淳子 ＜平成26年4月＞		修士※ （言語学） M.A. in Phonetics （英国）		1年英語 英語の世界	1通 1前	4 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成17年4月）	6日
66	兼担	講師	ﾊﾀｹﾔﾏ ﾋﾛｼ 畠山　寛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		ドイツの社会と文化(1) 1年ドイツ語(文法) ドイツの社会と文化(2) 国際交流入門 キリスト教学Ⅱ－16	2･3･4前 1通 2･3･4後 1前 3･4通	2 4 2 0.2 4	1 1 1 1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
67	兼担	講師	ﾆｼﾊﾗ ﾅｵｴ 西原　直枝 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		基礎課程演習 教育学入門	1前 1･2前	2 0.2	1 1	聖心女子大学文学部 講師 （平成24年4月）	6日
68	兼担	講師	ｲｼﾊﾗ ﾋｲﾛ 石原　比伊呂 ＜平成26年4月＞		博士 （歴史学）		日本中世史Ⅰ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 講師 （平成25年4月）	6日
69	兼任	講師	ﾂｼﾞ ﾏﾁｺ 辻　眞智子 ＜平成27年4月＞		学芸学士		書道Ⅱ 書道Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
70	兼任	講師	ｼﾐｽﾞ ﾁｮｳｺ 清水　寵子 ＜平成26年4月＞		文学修士		キリスト教学Ⅰ－3	1･2通	4	1	日本基督教団 牧師 （昭和63年12月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
71	兼任	講師	ｻｲｸﾞｻ ﾀｶﾕｷ 三枝　昂之 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		文芸創作入門	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
72	兼任	講師	ﾅｶﾔﾏ ﾉﾘｺ 中山　紀子 ＜平成26年4月＞		準学士		体育運動学	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
73	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ｼｮｳｼｭｳ 河上　正秀 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅶ 哲学・倫理学特講Ⅷ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
74	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾔｽｺ 木村　恭子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
75	兼任	講師	ﾀｼﾛ ｵｻﾑ 田代　攻 ＜平成29年4月＞		教育学士		教職実践演習(中学・高校)	4後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
76	兼任	講師	ｲﾄｳ ｼｮｳｼﾞ 伊東　照司 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東南アジア史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
77	兼任	講師	ﾐｳﾗ ｼｮｳｺ 三浦　笙子 ＜平成27年4月＞		Ph. D. in English （米国）		米文学史概説2 英作文2 英作文1 米文学史概説1	2･3･4後 3後 3前 2･3･4前	2 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和59年4月）	
78	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾏｻﾊﾙ 中村　雅治 ＜平成27年4月＞		国際学修士※		2年フランス語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
79	兼任	講師	ﾏｽﾌﾞﾁ ﾕｷｵ 増渕　幸男 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育学概論 教育哲学2	2通 2･3前	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
80	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾖｳｺ 鈴木　庸子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(リーディング) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
81	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ｻﾄｺ 山口　里子 ＜平成26年4月＞		Doctor of Mninistry （米国）		ジェンダー学2－1	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
82	兼任	講師	ﾆｼﾊﾗ ｶｽﾞ 西原　和 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	花柳和舞踊研究所	
83	兼任	講師	ﾐﾔｹ ﾕｷｵ 三宅　幸夫 ＜平成28年4月＞		M. A. （ドイツ）		キリスト教学Ⅱ－4	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
84	兼任	講師	ｱﾏｷﾞ ﾕｷﾋｺ 天城　靱彦 ＜平成28年4月＞		法学士		メディア・コミュニケーション特講8－2	3･4後	2	1	東京TVフォーラム実行委員会 委員長 （平成23年7月）	
85	兼任	講師	ﾏﾂﾊﾞﾗﾐﾁｺ 松原　美智子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	
86	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾚｲｺ 中村　玲子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成5年4月）	
87	兼任	講師	ｲｿﾔﾏ ﾀﾀﾞｼ 磯山　雅 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キリスト教学Ⅱ－8 キリスト教音楽	3･4通 2･3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
88	兼任	講師	ｲﾜﾓﾄ ﾄｼﾛｳ 岩本　俊郎 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		道徳教育の研究 教職入門 西洋教育史2	2･3後 2･3前 2･3前	2 4 2	1 2 1	立正大学心理学部 教授 （平成14年4月）	
89	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾏｷｺ 林　眞幾子 ＜平成26年4月＞		体育学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
90	兼任	講師	ﾏｽﾀﾞ ﾌﾐｺ 増田　文子 ＜平成26年4月＞		文学士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
91	兼任	講師	ﾀﾅｶ ｾﾞﾝｲﾁﾛｳ 田中　善一郎 ＜平成27年4月＞		博士 （政治学）		現代国際政治Ⅴ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
92	兼任	講師	ｱｵｷ ﾓﾄﾕｷ 青木　誠之 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年ドイツ語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
93	兼任	講師	ｳﾜﾉ ｾﾞﾝﾄﾞｳ 上野　善道 ＜平成27年4月＞		文学修士		言語学概論Ⅰ 言語学概論Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
94	兼任	講師	ｻｶﾓﾄ ｶﾅﾒ 坂本　要 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本民俗学	2･3･4通	4	1	筑波学院大学経営情報学部 教授 （平成8年4月）	
95	兼任	講師	ﾜﾀﾞ ﾐﾁｺ 和田　迪子 ＜平成27年4月＞		文学士		人格心理学特講4 交流分析概論	3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
96	兼任	講師	ﾔﾅｷﾞｼﾀ ﾏｻﾊﾙ 柳下　正治 ＜平成26年4月＞		工学士		現代社会と環境	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
97	兼任	講師	ﾊｯﾄﾘ ｼﾝｼﾞ 服部　進治 ＜平成27年4月＞		文学士		社会科教育法1	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
98	兼任	講師	ｵｵﾇｷ ﾔｽｵ 大貫　康雄 ＜平成26年4月＞		文学士		地球化時代のNGO	1･2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
99	兼任	講師	ﾓﾘ ﾋﾃﾞﾖｼ 森　秀善 ＜平成27年4月＞		文学士		特別活動	2･3後	4	2	青山学院大学文学部 講師 （平成19年4月）	
100	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾃﾙﾌﾐ 秋山　光文 ＜平成27年4月＞		文学修士※		東洋美術史Ⅰ 東洋美術史Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	お茶の水女子大学文教育学部 教授 （平成19年4月）	
101	兼任	講師	ﾏﾂｶﾀ ﾕｷｺ 松方　由紀子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成8年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
102	兼任	講師	ｽｴｻﾞｷ ﾏｽﾐ 末崎　真澄 ＜平成27年4月＞		政治経済学士		博物館実習 博物館学各論1	4前後 2･3･4通	12 4	4 1	（財）馬事文化財団馬の博物館 理事（学芸部長） （平成19年10月）	
103	兼任	講師	ｺﾝﾄﾞｳ ﾀｸ 近藤　卓 ＜平成28年4月＞		学術博士		人間学習11	3･4前	2	1	東海大学文学部 教授 （平成13年4月）	
104	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐｶﾞｸ 佐藤　研 ＜平成27年4月＞		Dr.theol . （スイス）		キリスト教学特講Ⅱ キリスト教学Ⅱ－11	2･3･4通 3･4通	4 4	1 1	立教大学文学部 教授 （平成3年4月）	
105	兼任	講師	ﾀｸﾎﾞ ｷｮｳｼﾞ 田窪　恭治 ＜平成28年4月＞		教育学士		人間学習10	3･4前	2	1	多摩美術大学芸術学部 客員教授 （平成24年4月）	
106	兼任	講師	ｻﾜﾀﾞ ﾑﾂﾖ 澤田　むつ代 ＜平成27年4月＞		文学博士		博物館学各論2	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
107	兼任	講師	ｷﾀﾓﾄ ﾏｻｱｷ 北本　正章 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育学特講2	2･3･4前	2	1	青山学院大学教育人間科学部 教授 （平成8年4月）	
108	兼任	講師	ﾏﾂﾑﾗ ｼｭﾝ 松村　純 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国） Master in Education （カナダ）		1年英語 2年英語2(リーディング) 英語文化論［英語と聖書］1 英語文化論［英語と聖書］2	1通 2通 2･3･4前 2･3･4後	4 2 2 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
109	兼任	講師	ﾀｼﾛ ﾋﾛｼ 田代　博 ＜平成28年4月＞		理学士		教育実習指導1(中学・高校) 教育実習指導4(中学・高校) 社会・地理歴史科教育法1 社会・地理歴史科教育法2	3後 4後 3前 3後	1 1 2 2	1 1 1 1	筑波大学附属高等学校 教諭 （平成9年4月）	
110	兼任	講師	ﾄﾘｲ ｱｷｵ 鳥居　明雄 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		日本の伝統文化	1･2･3･4後	2	1	都留文科大学文学部 教授 （平成元年10月）	
111	兼任	講師	ｺｳﾉｼ ｻﾁｴ 神野志　幸恵 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅱ 古典文学研究Ⅰ 日本文学史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
112	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｾｲｲﾁﾛｳ 鈴木　誠一郎 ＜平成26年4月＞		学士 （経済学）		視聴覚教育1 視聴覚教育2 博物館情報・メディア論	1･2･3･4後 1･2･3･4後 2･3･4前	2 2 2	1 1 1	筑波大学図書館情報ﾒﾃﾞｨｱ系 教授 （平成19年6月）	
113	兼任	講師	ﾎｼﾉ ﾏｻﾐﾁ 星野　正道 ＜平成26年4月＞		音楽学士		キリスト教学Ⅰ－1	1･2通	4	1	白百合女子大学文学部 教授 （平成16年4月）	
114	兼任	講師	ｱｻｲ ｷｮｳｺ 浅井　経子 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		生涯学習概論	3･4前	2	1	八洲学園大学生涯学習学部 教授 （平成6年4月）	
115	兼任	講師	ﾈｼﾞﾒ ｹﾝｲﾁ 根占　献一 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ヨーロッパ中世史Ⅱ	2･3･4通	4	1	学習院女子大学国際文化交流学部 教授 （平成10年4月）	
116	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾃﾂﾛｳ 渡部　哲郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		ヨーロッパ近代史Ⅱ	2･3･4通	4	1	横浜商科大学商学部 教授 （平成4年4月）	
117	兼任	講師	ｿﾝ ﾖﾝｵｸ 孫　英玉 ＜平成26年4月＞		文学修士 （韓国）		2年コリア語 コリア語コミュニケーションⅡ(2) 1年コリア語(文法) コリア語コミュニケーションⅡ(1)	2通 3後 1通 3前	4 2 4 2	2 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成4年4月）	
118	兼任	講師	ﾐﾔｼﾞﾏ ﾂｶｻ 宮島　司 ＜平成27年4月＞		法学博士		取引関係法	2･3･4通	4	1	慶應義塾大学法学部 教授 （平成2年4月）	
119	兼任	講師	ﾑﾗﾀ ﾖｼｺ 村田　芳子 ＜平成28年4月＞		体育学修士		人間学習6	3･4前	2	1	筑波大学体育系 教授 （平成17年4月）	
120	兼任	講師	ｳﾉ ﾐｴｺ 宇野　三恵子 ＜平成26年4月＞		国際学修士		聖心スピリットと共生	1･2･3･4後	2	1	（学）聖心女子学院 理事長 （平成22年6月）	
121	兼任	講師	ｷﾓﾄ ｷﾐｺ 木本　喜美子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講4	2･3･4前	2	1	一橋大学大学院社会学研究科 教授 （平成5年4月）	
122	兼任	講師	ｱﾀﾞﾁ ﾅｵﾔ 安達　直哉 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古文献入門	2･3･4通	4	1	大東文化大学文学部 教授 （平成17年4月）	
123	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｱｵｲ 竹内　葵 ＜平成27年4月＞		M. A. （米国）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
124	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ｷﾖﾐ 小川　清美 ＜平成27年4月＞		家政学修士		教育学特講7	2･3･4後	2	1	東京都市大学人間科学部 教授 （平成21年4月）	
125	兼任	講師	ﾙｲｽ ｴｲﾐ LEWIS, Amy Rita ＜平成28年4月＞		M. A. （米国）		3･4年英語 英会話	3･4通 3･4通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
126	兼任	講師	ｵｸﾞﾗ ﾁｶｺ 小倉　千加子 ＜平成27年4月＞		医学博士		ジェンダー学3－1	2･3･4前	2	1	みすず学園森町こども園・森町幼稚園 園長 （平成23年4月）	
127	兼任	講師	ﾊﾗ ﾉﾌﾞｺ 原　伸子 ＜平成27年4月＞		経済学修士		ジェンダー学6－3	2･3･4前	2	1	法政大学経済学部 教授 （平成元年4月）	
128	兼任	講師	ｲｹｶﾞﾐ ｷﾖｺ 池上　清子 ＜平成26年4月＞		博士 （人間科学）		ジェンダー学5－1	1･2･3･4前	2	1	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授 （平成23年4月）	
129	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｱｷｺ 渡邉　昭子 ＜平成26年4月＞		文学修士		1年英語 英作文1 英作文2	1通 3前 3後	4 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （昭和57年4月）	
130	兼任	講師	ｱｻｶ ﾀｶｽﾞ 浅香　武和 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年スペイン語 スペイン語コミュニケーションⅠ(2) 1年スペイン語(文法) スペイン語コミュニケーションⅠ(1)	2通 2後 1通 2前	2 2 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成12年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
131	兼任	講師	フジサキ ヒロコ 藤崎　宏子 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講1	2･3･4前	2	1	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成19年4月）	
132	兼任	講師	アラキ デイル ARAKI , Dale M ＜平成27年4月＞		M.S.in Educational Administration （米国）		異文化理解	2･3･4前	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
133	兼任	講師	ウエジマ ヨウイチ 上嶋　洋一 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		生徒指導［含進路指導］	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
134	兼任	講師	オダ カズミ 小田　和美 ＜平成26年4月＞		学士 （物理教育）		情報活用演習	1･2･3･4前後	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
135	兼任	講師	カナザワ ノブミ 金澤　延美 ＜平成27年4月＞		Master of Science Teaching English to Speakers of other Languages （米国）		教育学特講5	2･3･4後	2	1	駒沢女子短期大学・保育科 教授 （平成20年4月）	
136	兼任	講師	ナガミネ ヨシオ 長峰　美夫 ＜平成27年4月＞		行政学修士		国際法2	2･3･4休	2	1	（株）グローバル・グループ21ジャパン シニアコンサルタント （平成21年8月）	
137	兼任	講師	アナン エリ 阿南　えり ＜平成26年4月＞		英文学修士 M.A. in TESOL （英国）		1年英語	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
138	兼任	講師	マツイ ユタカ 松井　豊 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会心理学特講11	2･3･4後	2	1	筑波大学人間系 教授 （平成17年9月）	
139	兼任	講師	アライ ヨシオ 荒井　良雄 ＜平成27年4月＞		博士 （工学）		人文地理学2 人文地理学1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東京大学大学院総合文化研究科 教授 （平成8年10月）	
140	兼任	講師	イワタ コウキチ 岩田　功吉 ＜平成27年4月＞		法学士		朝鮮現代史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
141	兼任	講師	イナ ヒサヨシ 伊奈　久喜 ＜平成27年4月＞		政治学士		現代国際政治Ⅰ	2･3･4通	4	1	日本経済新聞社 特別編集委員 （平成22年4月）	
142	兼任	講師	セキ カオル 関　かおる ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		2年日本語1 1年日本語1 日本事情2 2年日本語2 上級日本語1－1 上級日本語1－2 日本事情1 1年日本語2	2前 1前 1･2･3･4後 2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1後	1 1 2 1 1 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学神田外語キャリアカレッジ 法人研修部日本語コーディネーター （平成18年4月）	
143	兼任	講師	ヨシノ コウサク 吉野　耕作 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （英国）		社会学特講3	2･3･4後	2	1	上智大学総合人間科学部 教授 （平成17年4月）	
144	兼任	講師	ツチハシ シゲキ 土橋　茂樹 ＜平成27年4月＞		修士※ （哲学）		西洋古代・中世哲学史Ⅱ 西洋古代・中世哲学史Ⅰ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	中央大学文学部 教授 （平成15年4月）	
145	兼任	講師	モリヤマ マサヒト 盛山　正仁 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		行政学	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
146	兼任	講師	クロダ ユウコ 黒田　有子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	2	1	杏林大学外国語学部 教授 （平成16年4月）	
147	兼任	講師	ショザワ ジュン 所澤　潤 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育方法	2･3後	2	1	東京未来大学こども心理学部 教授 （平成25年4月）	
148	兼任	講師	クォン チェスク 権　在淑 ＜平成26年4月＞		人文科学修士※		1年コリア語(オラル) コリア語コミュニケーションⅠ(1) コリア語コミュニケーションⅠ(2)	1通 2前 2後	4 2 2	2 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
149	兼任	講師	ヤマダ マスミ 山田　ますみ ＜平成26年4月＞		文学修士		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	2 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
150	兼任	講師	オノデラ アツコ 小野寺　敦子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格発達心理学	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
151	兼任	講師	サトウ ナオコ 佐藤　直子 ＜平成26年4月＞		修士 （スポーツ科学）		体育運動学	1通	4	2	東京国際大学人間社会学部 特命教授・客員教授 （平成23年4月）	
152	兼任	講師	オオシマ アキラ 大島　聡 ＜平成27年4月＞		教育学博士		教育情報学 教育工学	2･3前 3･4前	2 2	1 1	横浜国立大学教育人間科学部 教授 （平成14年4月）	
153	兼任	講師	ワカバヤシ アキオ 若林　明雄 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		人格心理学特講1	2･3･4休	2	1	千葉大学文学部 教授 （平成17年4月）	
154	兼任	講師	タムラ シズコ 田村　静子 ＜平成26年4月＞		社会福祉学修士		障害者教育・福祉概論	1･2･3･4前	2	1	（株）ライフエイドネクサスデザイン 代表取締役 （平成5年3月）	
155	兼任	講師	キタガミ マサユキ 北神　正行 ＜平成27年4月＞		教育学修士※		教育経営	2･3･4後	2	1	国士舘大学体育学部 教授 （平成20年4月）	
156	兼任	講師	ナカノ ヒロエ 中野　洋恵 ＜平成27年4月＞		家政学修士		ジェンダー学1	2･3･4前	2	1	国立女性教育会館 研究国際室長 （平成14年4月）	
157	兼任	講師	サエキ ヤスコ 佐伯　康子 ＜平成27年4月＞		法学修士※		国際連合論	2･3･4後	2	1	清和大学法学部 教授 （平成7年4月）	
158	兼任	講師	ムラカワ マサヒロ 村川　雅弘 ＜平成27年4月＞		学術修士		教育学特講8	2･3･4前	2	1	鳴門教育大学大学院教育研究科 教授 （平成12年8月）	
159	兼任	講師	マツウラ ヒロシ 松浦　寛 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
160	兼任	講師	アシダ ルリ 芦田　ルリ ＜平成27年4月＞		英文学修士 （カナダ）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	東京医科大学英語教室 講師 （平成23年4月）	
161	兼任	講師	ヨコサワ カズヒコ 横澤　一彦 ＜平成27年4月＞		工学博士		認知心理学特講3	2･3･4後	2	1	東京大学人文社会系研究科 教授 （平成18年4月）	
162	兼任	講師	コバヤシ ユリコ 小林　由利子 ＜平成28年4月＞		教育学修士		人間学習5	3･4後	2	1	東京都市大学人間科学部 教授 （平成20年3月）	
163	兼任	講師	モリグチ ローラ MORIGUCHI, Lola Gayle ＜平成27年4月＞		教育学修士		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
164	兼任	講師	イナダ ジュウイチ 稲田　十一 ＜平成27年4月＞		修士※ （国際学）		国際平和と開発援助	2･3･4前	2	1	専修大学経済学部 教授 （平成8年4月）	
165	兼任	講師	コウヤマ ジュン 神山　潤 ＜平成27年4月＞		医学博士		臨床心理学特講8	2･3･4後	2	1	東京ベイ浦安市川医療センター 管理者（CEO） （平成21年4月）	
166	兼任	講師	ミズシマ ヨウコ 水島　陽子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日欧思想交渉史入門(1)	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
167	兼任	講師	スギヤマ ケイコ 杉山　圭以子 ＜平成27年4月＞		M.Phil （インド）		南アジア現代史	2･3･4通	4	1	恵泉女学園大学人間社会学部 教授 （平成25年4月）	
168	兼任	講師	コウ レイカ 黄　麗華 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(オラル) 中国語コミュニケーションⅠ(1)	1通 2前	4 2	2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
169	兼任	講師	イノグチ ヨシヒコ 猪口　好彦 ＜平成26年4月＞		Ph. D. （仏国）		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
170	兼任	講師	ナイトウ カズミ 内藤　和美 ＜平成27年4月＞		保健学博士		発達心理学特講8	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
171	兼任	講師	タナカ タツオ 田中　辰雄 ＜平成26年4月＞		経済学修士		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	慶應義塾大学経済学部 准教授 （平成10年4月）	
172	兼任	講師	コ エンニョ 胡　婉如 ＜平成26年4月＞		文学修士※		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成元年4月）	
173	兼任	講師	フジモト ミヤコ 冨士本　美矢子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		1年英語 2年英語2(オラル) 2年英語2(リーディング)	1通 2通 2通	4 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
174	兼任	講師	ジャクリーヌコーエン COHEN, Jacqueline ＜平成26年4月＞		Maitrise de Philosophie （仏国）		1年フランス語(オラル)	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
175	兼任	講師	ナガノ ミツロウ 永野　光朗 ＜平成27年4月＞		文学修士		社会心理学特講4	2･3･4休	2	1	京都橘大学健康科学部 教授 （平成25年4月）	
176	兼任	講師	カワモト フサコ 河本　房子 ＜平成26年4月＞		M. A. （米国）		1年英語 2年英語2(オラル) 2年英語2(リーディング)	1通 2通 2通	4 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
177	兼任	講師	タラシマ サトシ 田良島　哲 ＜平成27年4月＞		文学修士		博物館概論 博物館実習	2･3･4前 4前後	2 3	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
178	兼任	講師	アボ ノリコ 阿保　聖子 ＜平成26年4月＞		文学修士		1年中国語(文法)	1通	6	3	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
179	兼任	講師	フルヤ タケシ 古谷　毅 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本考古学	2･3･4通	4	1	東京国立博物館 主任研究員 （平成23年4月）	
180	兼任	講師	キース フォード FORD, Keith ＜平成26年4月＞		M. A.（英国） Ed. D.（TESOL）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	4 4	2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
181	兼任	講師	ハシモト ケンジ 橋本　健二 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		社会学特講2	2･3･4前	2	1	早稲田大学人間科学学術院 教授 （平成25年4月）	
182	兼任	講師	タナハシ サトシ 棚橋　訓 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		比較文化学2 文化人類学特講11 文化人類学特講12	2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2	1 1 1	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授 （平成18年4月）	
183	兼任	講師	エシタ マサユキ 江下　雅之 ＜平成26年4月＞		MS-MSID （仏国）		ポップカルチャー	1･2･3･4後	2	1	明治大学情報コミュニケーション学部 教授 （平成23年4月）	
184	兼任	講師	サナダ ヒロコ 真田　博子 ＜平成26年4月＞		博士 （文学） 文学博士 （韓国）		2年コリア語 1年コリア語(文法)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
185	兼任	講師	カナタ フサコ 金田　房子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		日本文学史Ⅳ 古典文学研究Ⅶ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
186	兼任	講師	マツカワ イクヨ 松川　育代 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成7年4月）	
187	兼任	講師	ジョナサン SNELL, Jonathan ＜平成27年4月＞		教育学修士		オラルコミュニケーション 2年英語2(オラル)	2･3･4通 2通	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
188	兼任	講師	ホンゴウ カズト 本郷　和人 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本史史料論	2通	4	1	東京大学史料編纂所 教授 （平成23年4月）	
189	兼任	講師	ユモト ヒロユキ 湯本　浩之 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論1	2･3･4前	2	1	宇都宮大学留学生・国際交流センター 准教授 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
190	兼任	講師	ｼｬｯｸﾙﾌｫｰﾄﾞ ﾎｰﾙ SHACKLEFORD P. ＜平成26年4月＞		M. A. .(オーストラリア)		1年英語 2年英語2(オラル)	1通 2通	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
191	兼任	講師	ｷﾘｳ ﾏｻﾕｷ 桐生　正幸 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		社会心理学特講6	2･3･4前	2	1	関西国際大学人間科学部 教授 （平成18年4月）	
192	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾊｼﾞﾒ 阿部　一 ＜平成27年4月＞		博士 （理学）		地誌学2 地誌学1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部 教授 （平成25年4月）	
193	兼任	講師	ｼﾗｲｼ ﾖｼﾊﾙ 白石　嘉治 ＜平成27年4月＞		文学修士		2年フランス語(講読)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
194	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾘｶ 堀内　里香 ＜平成26年4月＞		文学修士		アラビア語の世界	1･2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
195	兼任	講師	ﾋﾛｲｼ ﾉｿﾞﾑ 廣石　望 ＜平成26年4月＞		神学博士		キリスト教学Ⅰ－7	1･2通	4	1	フェリス女学院大学国際交流学部 教授 （平成19年4月）	
196	兼任	講師	ｸｽﾓﾄ ﾜｶｺ 楠本　和佳子 ＜平成27年4月＞		M.A.in Anthropology※ （米国）		キャリアデザイン入門	2･3前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
197	兼任	講師	ｷｸﾁ ｴｲｼﾞ 菊地　栄治 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		人間学習原論	3･4前	2	1	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成21年4月）	
198	兼任	講師	ﾀﾆｸﾞﾁ ｱｷｺ 谷口　明子 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		教育心理学	2･3前	2	1	東洋大学文学部 教授 （平成25年4月）	
199	兼任	講師	ｺﾏﾔ ﾏﾐ 駒谷　眞美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		教育メディア論	2･3前	2	1	昭和女子大学大学院生活機構研究科 准教授 （平成17年4月）	
200	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾄｼﾋｺ 遠藤　利彦 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講1	2･3･4後	2	1	東京大学大学院教育学研究科 准教授 （平成20年4月）	
201	兼任	講師	ｴﾋﾞﾅ ﾘｮｳｽｹ 蝦名　良亮 ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年中国語(文法)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
202	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｺｳｲﾁ 中村　幸一 ＜平成27年4月＞		文学修士※		英語史	2･3･4通	4	1	明治大学政治経済学部 教授 （平成17年4月）	
203	兼任	講師	ﾃﾗﾄﾞ ｼﾞｭﾝｺ 寺戸　淳子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学特講Ⅳ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	
204	兼任	講師	ｱｹｵ ﾏﾕﾐ 明尾　真弓 ＜平成26年4月＞		文学修士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
205	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾀｶｵ 菊地　敬夫 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古代オリエント史	2･3･4通	4	1	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所 招聘研究員 （平成19年4月）	
206	兼任	講師	ﾘｮ ｼｮｳｴﾝ 呂　小燕 ＜平成26年4月＞		修士※ （総合文化）		2年中国語(講読) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
207	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾖｼｶ 植田　美佳 ＜平成27年4月＞		理学修士※		コンピュータサイエンス	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
208	兼任	講師	ｻｴｷ ﾓﾄｺ 佐伯　素子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講6	2･3･4後	2	1	聖徳大学心理・福祉学部 准教授 （平成23年4月）	
209	兼任	講師	ﾏﾂｵ ﾄﾓｱｷ 松尾　知明 ＜平成27年4月＞		Ph.D. （米国）		教育課程論	2･3前	2	1	国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 （平成17年4月）	
210	兼任	講師	ﾊﾏﾔ ｻﾄｼ 浜屋　敏 ＜平成26年4月＞		MBA （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	富士通総研　経済研究所 上席主任研究員 （平成23年7月）	
211	兼任	講師	ﾀｶﾔﾅｷﾞ ﾉﾌﾞｵ 高柳　信夫 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年中国語(文法)	1通	4	2	学習院大学外国語教育研究センター 教授 （平成18年4月）	
212	兼任	講師	ｶﾝｻﾞｷ ﾅｵﾐ 神崎　直美 ＜平成27年4月＞		博士 （史学）		史料講読Ⅰ	2･3･4通	4	1	城西大学経済学部 准教授 （平成21年4月）	
213	兼任	講師	ﾐｵ ﾀﾀﾞｵ 三尾　忠男 ＜平成27年4月＞		教育学修士		メディア教材開発	2･3後	2	1	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 （平成17年4月）	
214	兼任	講師	ｷﾑ ﾃﾎ 金　泰昊 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年コリア語(オラル) 2年コリア語	1通 2通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
215	兼任	講師	ｺｳﾉ ﾄｼﾔ 河野　俊哉 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		科学史1 科学史2	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	暁星中学高等学校 教諭 （平成元年4月）	
216	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾖｼﾕｷ 木村　義之 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本語学研究Ⅲ	2･3･4前	2	1	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター 教授 （平成23年4月）	
217	兼任	講師	ﾌｸﾀﾞ ﾕｷ 福田　由紀 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		認知心理学特講8	2･3･4後	2	1	法政大学文学部 教授 （平成18年4月）	
218	兼任	講師	ﾀｷｻﾞﾜ ﾐｻｺ 滝澤　美佐子 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		国際法1	2･3･4前	2	1	桜美林大学リベラルアーツ学群 教授 （平成22年4月）	
219	兼任	講師	ｵｶﾐﾔｳ ﾋﾃﾞﾀﾀﾞ 岡明　秀忠 ＜平成28年4月＞		教育学修士※		社会・公民科教育法1 社会・公民科教育法2	3前 3後	2 2	1 1	明治学院大学文学部教職課程 教授 （平成16年4月）	
220	兼任	講師	ﾌﾞﾙｺﾞｽ BURGOS VIVAS, Juan Carlos ＜平成26年4月＞		B. A.. （スペイン）		スペイン語コミュニケーションⅡ(1) 1年スペイン語(オラル) スペイン語コミュニケーションⅡ(2) 2年スペイン語	3前 1通 3後 2通	2 6 2 2	1 3 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成9年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
221	兼任	講師	ﾊﾆｭｳ ｶｽﾞﾉﾘ 羽生　和紀 ＜平成28年4月＞		Ph.D. （米国）		社会心理学特講14	3･4前	2	1	日本大学文理学部 教授 （平成18年4月）	
222	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾋﾛﾕｷ 鈴木　裕之 ＜平成27年4月＞		修士※ （社会学）		比較文化学特講4 文化人類学特講6	2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	国士舘大学ﾞ法学部 教授 （平成7年4月）	
223	兼任	講師	ﾖｺﾔﾏ ｱﾕﾐ 横山　安由美 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		キリスト教学Ⅱ－1	3･4通	4	1	フェリス女学院大学国際交流交流学部 教授 （平成20年4月）	
224	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｹｲｺ 渡邉　景子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	12	6	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
225	兼任	講師	ﾊﾗﾀﾞ ﾏﾘ 原田　眞理 ＜平成28年4月＞		保健学博士		人格臨床心理学特講4	3･4後	2	1	玉川大学ﾞ通信教育部 教授 （平成24年4月）	
226	兼任	講師	ｺﾏｲ ﾑﾂｺ 駒井　睦子 ＜平成26年4月＞		修士 （学術）		1年スペイン語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
227	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾏﾘ 長谷川　真里 ＜平成28年4月＞		博士 （人文科学）		計量心理学特講1	3･4前	2	1	横浜市立大学国際総合科学部 教授 （平成25年4月）	
228	兼任	講師	ｶﾐｾ ﾕﾐｺ 上瀬　由美子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会心理学特講9	2･3･4後	2	1	立正大学心理学部 教授 （平成22年4月）	
229	兼任	講師	ｶﾄｳ ｸﾐｺ 加藤　久美子 ＜平成26年4月＞		文学修士※		キリスト教学Ⅱ－6 キリスト教学Ⅰ－2	3･4通 1･2通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
230	兼任	講師	ｵｵﾀ ﾕｳｺ 太田　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成10年4月）	
231	兼任	講師	ﾂﾁﾔ ｼﾞｭﾝｼﾞ 土屋　淳二 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		社会学	2･3･4通	4	1	早稲田大学文学学術院 教授 （平成18年4月）	
232	兼任	講師	ｵｷ ｷﾖﾀｹ 沖　清豪 ＜平成27年4月＞		修士（文学）※		教育行政学2	2･3後	2	1	早稲田大学文学学術院 教授 （平成21年4月）	
233	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾄｵﾙ 上田　徹 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅲ 哲学・倫理学特講Ⅳ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
234	兼任	講師	ｷ ｷｮｳﾎｳ 紀　旭峰 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		2年中国語(会話) 1年中国語(オラル)	2通 1通	2 2	1 1	早稲田大学アジア研究機構 常勤次席研究員 （平成25年4月）	
235	兼任	講師	ｻｻﾊﾗ ﾋﾛﾕｷ 笹原　宏之 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		日本語学研究Ⅰ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
236	兼任	講師	ﾋﾗﾃﾞ ﾕｳｺ 平出　裕子 ＜平成27年4月＞		文学修士		日本文化史Ⅰ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
237	兼任	講師	ｽｶﾞ ｶｽﾞﾋﾄ 壽賀　一仁 ＜平成28年4月＞		社会学修士		ボランティア研究演習1 ボランティア研究演習2	3･4前 3･4後	2 2	1 1	（社）あいあいネット 理事 （平成21年6月）	
238	兼任	講師	ﾏﾚｼｬﾙ ﾍﾞｱﾄﾘｽ MARECHAL Beatrice ＜平成27年4月＞		Ph. D. (言語学) （仏国）		フランス語コミュニケーションⅠ(1) フランス語コミュニケーションⅠ(2)	2前 2後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
239	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｶｵﾘ 山田　香里 ＜平成28年4月＞		修士 （神学） Licenza in Archeologia Cristiana （ヴァチカン市国）		キリスト教学Ⅱ－2	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
240	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾁｱｷ 加藤　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		2年英語2(オラル)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
241	兼任	講師	ｶﾉ ﾐｷ 狩野　みき ＜平成28年4月＞		文学修士※		英作文2 英作文1	3後 3前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
242	兼任	講師	ｴﾝﾄﾞｳ ﾏｻﾋﾛ 遠藤　正寛 ＜平成27年4月＞		博士 （商学）		国際経済学1	2･3･4前	2	1	慶應義塾大学商学部 教授 （平成18年4月）	
243	兼任	講師	ﾜｾﾀﾞ ﾐﾅｺ 早稲田　みな子 ＜平成27年4月＞		Ph.D.in Music （米国）		世界音楽地誌	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成27年4月）	
244	兼任	講師	ﾀﾁ ｹｻﾐ 舘　けさみ ＜平成26年4月＞		修士※ （人文学）		2年中国語(講読) 1年中国語(文法)	2通 1通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成14年4月）	
245	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ｺﾞｳ 小林　剛 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		キリスト教思想史Ⅱ キリスト教学Ⅰ－4 ラテン語Ⅰ	2･3･4後 1･2通 2･3･通	2 4 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成16年4月）	
246	兼任	講師	ﾐﾔｹ ﾄｼﾋｺ 三宅　俊彦 ＜平成27年4月＞		博士 （歴史学）		中国語コミュニケーションⅡ(1) 2年中国語(講読) 中国古代文化史 中国語コミュニケーションⅡ(2)	3前 2通 2･3･4通 3後	2 2 4 2	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
247	兼任	講師	ﾏｸﾞｽ ｱﾝﾄﾞﾘｭｰ MAGGS Andrew、Jhon ＜平成26年4月＞		MA Linguistics （英国）		2年英語2(オラル) 1年英語	2通 1通	4 4	2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
248	兼任	講師	ｵｵﾀﾆ ｸﾐ 大谷　公美 ＜平成27年4月＞		修士※ （美学）		キリスト教美術 キリスト教学Ⅱ－9	2･3･4通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
249	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾎ 渡辺　美穂 ＜平成27年4月＞		MPS in Industrial and Labor RelationsRelations		女性とキャリア形成	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
250	兼任	講師	ﾘｭｳｺﾞ ﾀﾞﾆｴﾗ 立古　ダニエラ ＜平成26年4月＞		東洋学・日本学修士（チェコ）		チェコ語の世界	1･2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
251	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ﾉﾌﾞﾏｻ 秋山　信将 ＜平成26年4月＞		博士（法学）		人間の安全保障	1･2･3･4後	2	1	一橋大学大学院法学研究科 教授 （平成24年8月）	
252	兼任	講師	ﾋﾒﾉ ｱﾂｺ 姫野　敦子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		古典文学研究Ⅴ 日本文学史Ⅲ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	清泉女子大学文学部 准教授 （平成25年4月）	
253	兼任	講師	ﾓﾘﾓﾄﾖｳｺ 森本　陽子 ＜平成26年4月＞		M. A.（英国）		英作文1 2年英語2(オラル) 英作文2 1年英語	3前 2通 3後 1通	2 2 2 4	1 1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成13年4月）	
254	兼任	講師	ﾏｻｷ ｱｷｺ 正木　晶子 ＜平成26年4月＞		修士※（言語学）		1年ドイツ語(文法)	1通	4	1	上智大学言語教育研究センター 嘱託講師 （平成16年4月）	
255	兼任	講師	ﾅｶﾀﾆ ｼｹﾞｶｽﾞ 中谷　茂一 ＜平成26年4月＞		教育学修士※		社会福祉論 児童福祉論	2･3･4前 1･2･3･4前	2 2	1 1	聖学院大学人間福祉学部 教授 （平成23年4月）	
256	兼任	講師	ｲｿﾉ ﾖｼｺ 磯野　昌子 ＜平成27年4月＞		行政学修士		ジェンダー学6－2	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
257	兼任	講師	ﾔﾀｶﾞﾜ ﾄﾓｴ 谷田川　知恵 ＜平成26年4月＞		法学修士※		ジェンダー学6－1	1･2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
258	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ﾋｻﾖ 川上　寿代 ＜平成27年4月＞		修士（文学）		日本近現代史Ⅱ－1	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
259	兼任	講師	ﾐﾉﾜ ｼｹﾞﾙ 箕輪　茂 ＜平成27年4月＞		博士（国際関係論）		ラテンアメリカ史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
260	兼任	講師	ｵｵﾊｼ ﾋﾃﾞﾄｼ 大橋　英敏 ＜平成26年4月＞		修士（経済学）		金融のしくみ	1･2･3･4前	2	1	ジャパン・クレジット・アドバイザリー（株） 代表取締役社長 （平成24年5月）	
261	兼任	講師	ﾌｸﾆｼ ﾀｶﾋﾛ 福西　隆弘 ＜平成27年4月＞		Master of Public Policy（米国） Ph.D.in Economics（英国）		開発経済学	2･3･4通	4	1	独行）日本貿易振興機構 アジア経済研究所 地域研究センター 副主任研究員 （平成18年10月）	
262	兼任	講師	ﾋﾗﾊﾞﾔｼ ﾕｳｺ 平林　優子 ＜平成27年4月＞		修士（文学）		古典文学講読Ⅰ	2･3･4前	2	1	東京女子大学現代教養学部 助手 （平成8年4月）	
263	兼任	講師	ｲﾄｳ ｼﾝｼﾞ 伊藤　信二 ＜平成27年4月＞		修士（美術史）		博物館教育論	2･3･4前	2	1	独立行政法人　国立文化財機構東京国立博物館 教育普及室長 （平成22年4月）	
264	兼任	講師	ﾏｴｶﾞﾜ ｹﾝｲﾁ 前川　健一 ＜平成27年4月＞		博士（文学）		哲学・倫理学特講Ⅴ 哲学・倫理学特講Ⅵ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
265	兼任	講師	ﾎﾘｴ ﾉﾘﾁｶ 堀江　宗正 ＜平成27年4月＞		博士（文学）		比較文化宗教学1	2前	2	1	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 （平成25年4月）	
266	兼任	講師	ｶﾐｵｶ ﾏｻｼ 上岡　方士 ＜平成26年4月＞		教育学修士		体育運動学	1通	2	1	サイエンス・サービス （平成20年11月）	
267	兼任	講師	ﾖｼﾉ ﾄﾓﾐ 吉野　朋美 ＜平成27年4月＞		博士（文学）		古典文学研究Ⅵ	2･3･4前	2	1	中央大学文学部 准教授 （平成21年4月）	
268	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ｶｵﾘ 植田　かおり ＜平成27年4月＞		博士（哲学）		ギリシア語Ⅰ	2･3･4通	4	1	神田外語大学外国語学部 准教授 （平成20年4月）	
269	兼任	講師	ｽｷｰﾂ ｺﾘﾝ SKEATES ,Colin ＜平成26年4月＞		M. A.（英国）		英作文2 英作文1 1年英語	3後 3前 1通	4 4 4	2 2 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
270	兼任	講師	ｼﾗﾈ ｺｳｲﾝ 白根　孝胤 ＜平成27年4月＞		博士（史学）		資料整理実習 日本文化史Ⅱ	3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	公益財団法人徳川黎明会 徳川林政史研究所 研究員 （平成15年4月）	
271	兼任	講師	ｼｳﾁ ｶｽﾞｵｷ 志内　一興 ＜平成27年4月＞		博士（文学）		古代ローマ史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
272	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾐﾕｷ 阿部　美由起 ＜平成27年4月＞		修士（芸術学）		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成17年4月）	
273	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾏｲｺ 中村　麻衣子 ＜平成27年4月＞		博士（心理学）		教育相談	2･3前	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
274	兼任	講師	ﾖｺﾀ ﾁｱｷ 横田　千晶 ＜平成27年4月＞		文学修士※		フランス事情(2) フランス事情(1) 2年フランス語(講読)	2･3･4後 2･3･4前 2通	2 2 2	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
275	兼任	講師	ｼﾊﾞ ｻｷ ﾐﾂﾖ 柴崎　光世 ＜平成26年4月＞		博士（心理学）		臨床心理学特講1 現代の脳科学	2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	明星大学人文学部 准教授 （平成19年4月）	
276	兼任	講師	ｵｵｻｷ ｱｻｺ 大崎　麻子 ＜平成27年4月＞		M. A.（米国）		ジェンダー学5－2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
277	兼任	講師	ｱﾗｲ ﾋﾛｺ 新井　浩子 ＜平成27年4月＞		文学修士※		キャリアデザイン入門	2･3前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
278	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｴﾐ 鈴木　恵美 ＜平成27年4月＞		博士（学術）		アジア文化論	2･3･4後	2	1	早稲田大学イスラーム地域研究機構 主任研究員 （平成20年10月）	
279	兼任	講師	ｵｵﾀｸ ﾅｵｷ 大多和　直樹 ＜平成28年4月＞		博士（教育学）		教育調査	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
280	兼任	講師	ﾁﾊﾞ ｲﾁﾀﾞｲ 千葉　一大 ＜平成27年4月＞		修士※ （歴史学）		日本近世史Ⅱ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成15年4月）	
281	兼任	講師	ｼﾓｻｺ ﾊﾙｶ 下迫　晴加 ＜平成28年4月＞		音楽学修士※		計量心理学特講2	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
282	兼任	講師	ﾎﾘｳﾁ ﾔｽｼ 堀内　康史 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		情報活用演習 社会調査の技法2	1･2･3･4前後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
283	兼任	講師	ｻｲｷ ﾐﾁﾖ 斉木　美知世 ＜平成27年4月＞		博士 （言語学）		日本語学研究Ⅳ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
284	兼任	講師	ｲﾁｶﾜ ﾃﾂ 市川　哲 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化学特講5 文化人類学特講7	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	立教大学観光学部 助教 （平成23年10月）	
285	兼任	講師	ﾄｺﾛ ﾏｷｺ 所　真紀子 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		情報活用演習 心理学研究法2	1･2･3･4前後 3･4前	4 4	2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
286	兼任	講師	ｱｵｷ ｱﾂｺ 青木　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （国際政治学） M.A. in Histry （米国）		2年英語2(リーディング) 2年英語2(オラル) 1年英語	2通 2通 1通	2 2 4	1 1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
287	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ﾕｷ 島田　由紀 ＜平成26年4月＞		Ph.D. （米国）		キリスト教学Ⅰ－8 キリスト教学Ⅱ－3	1･2通 3･4通	4 4	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
288	兼任	講師	ｼﾅｶﾞﾜ ﾅｷﾞｻ 品川　なぎさ ＜平成26年4月＞		文学修士※		1年日本語1 1年日本語2	1前 1後	1 1	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
289	兼任	講師	ｱﾀｶ ﾉﾘｺ 安高　紀子 ＜平成26年4月＞		修士 （比較社会文化）		2年日本語2 2年日本語1 1年日本語1 1年日本語2	2･3･4後 2前 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	独立行政法人　国際交流基金　日本語試験センター 研究員 （平成23年4月）	
290	兼任	講師	ﾅｶﾞｲ ﾏｻﾖｼ 永井　聖剛 ＜平成28年4月＞		博士 （心理学）		認知心理学特講2	3･4前	2	1	独）産業技術総合研究所 主任研究員 （平成17年4月）	
291	兼任	講師	ｲｼｶﾜ ｶｽﾞﾖｼ 石川　一喜 ＜平成27年4月＞		修士 （教育学）		ボランティア研究概論2	2･3･4後	2	1	拓殖大学国際開発教育センター 准教授 （平成25年4月）	
292	兼任	講師	ｷｶﾞﾜ ﾋﾛﾐ 木川　弘美 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		西洋美術史Ⅱ 西洋美術史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	清泉女子大学文学部 准教授 （平成24年4月）	
293	兼任	講師	ｸﾗｼﾏ ｵｻﾑ 倉島　治 ＜平成27年4月＞		修士※ （学術）		認知心理学特講4	2･3･4前	2	1	東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員 （平成21年10月）	
294	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾄﾓｱｷ 渡邊　智暁 ＜平成26年4月＞		Ph. D. In Mass Communications （米国）		情報産業論	1･2･3･4前	0.7	1	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授 （平成24年7月）	
295	兼任	講師	ｼﾗｽﾅ ｻﾜｺ 白砂　佐和子 ＜平成27年4月＞		心理学修士※		人格臨床心理学特講2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
296	兼任	講師	ｵｵｲｽﾞﾐ ｷｮｳｺ 大泉　郷子 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		心理統計法Ⅰ 心理統計法Ⅱ	2前 2･3後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成19年4月）	
297	兼任	講師	ｵｵｶﾜ ﾏﾕｺ 大川　真由子 ＜平成27年4月＞		社会人類学博士		比較文化学特講3 文化人類学特講4	2･3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	早稲田大学人間科学学術院 助教 （平成25年4月）	
298	兼任	講師	ｺｳｻﾞｷ ﾕｳｺ 神前　裕子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		発達心理学特講3	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成20年4月）	
299	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾓﾄﾔ 中村　元哉 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		中国事情(1)	2･3･4後	2	1	津田塾大学学芸学部 准教授 （平成22年4月）	
300	兼任	講師	ﾋﾗﾀ ﾕｷｴ 平田　由紀江 ＜平成26年4月＞		Ph.D. in Sociology （韓国）		2年コリア語 1年コリア語(文法) 1年コリア語(文法)	2通 1通 1通	2 4 8	1 2 2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
301	兼任	講師	ﾔｽｶﾜ ﾊﾙｷ 安川　晴基 ＜平成27年4月＞		修士※ （文学）		ドイツ事情(2)	2･3･4後	2	1	慶應義塾大学 理工学部外国語総合教育教室 講師 （平成24年4月）	
302	兼任	講師	ﾖｺﾀ ｶｽﾞｺ 横田　和子 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		人間学習7	3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成28年4月）	
303	兼任	講師	ﾋﾗｲ ﾐｶ 平井　美佳 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		臨床心理学特講3	2･3･4前	2	1	横浜市立大学国際総合科学部 准教授 （平成25年4月）	
304	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷ 小林　由紀 ＜平成26年4月＞		修士※ （心理学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	8	4	東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学センター 特任研究員 （平成17年4月）	
305	兼任	講師	ｲﾏﾎﾘ ｴﾐ 今堀　恵美 ＜平成27年4月＞		博士 （社会人類学）		比較文化学特講2 文化人類学特講10	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
306	兼任	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ﾖｼｺ 杉山　佳子 ＜平成26年4月＞		DEA （スペイン語文学修士） （スペイン）		1年スペイン語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
307	兼任	講師	ﾔﾏﾐﾔ ﾕｳｺ 山宮　裕子 ＜平成27年4月＞		精神病理心理学博士 （米国）		臨床心理学特講5	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
308	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾃｯﾍﾟｲ 鈴木　哲平 ＜平成26年4月＞		文学博士		1年フランス語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
309	兼任	講師	ｷﾀｶﾐ ｼﾝｼﾞ 北神　慎司 ＜平成27年4月＞		博士 （教育学）		認知心理学特講5	2･3･4前	2	1	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 平成19年4月	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
310	兼任	講師	ｵｵｱｲ ﾀｶﾊﾙ 大愛　崇晴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		美学・芸術学特講Ⅰ 美学・芸術学特講Ⅱ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	同志社大学文学部 准教授 （平成25年4月）	
311	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ ﾌﾐﾄ 早川　文人 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年ドイツ語(文法)	1通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
312	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾕｷｺ 伊藤　由希子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		哲学・倫理学特講Ⅸ	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
313	兼任	講師	ｷﾀﾑﾗ ｱﾂｼ 北村　厚 ＜平成27年4月＞		博士 （法学）		国際関係史Ⅱ 国際関係史Ⅰ	2･3･4通 2･3･4前	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
314	兼任	講師	ｺﾄｳ ｴﾐ 後藤　絵美 ＜平成27年4月＞		博士 （学術）		西アジア文化史	2･3･4通	4	1	東京大学東洋文化研究所 助教 （平成25年4月）	
315	兼任	講師	ｾｵ ﾌﾐｺ 瀬尾　文子 ＜平成27年4月＞		修士※ （人文社会）		美学・芸術学特講Ⅲ 美学・芸術学特講Ⅳ	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	東京大学大学院人文社会系研究科 教務補佐 （平成21年4月）	
316	兼任	講師	ｵｳ ｼｭﾝﾌﾞﾝ 王　俊文 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年中国語(オラル) 2年中国語(会話)	1通 2通	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
317	兼任	講師	ﾅｶﾑﾗ ｱﾔﾉ 中村　綾乃 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		ヨーロッパ現代史Ⅱ	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
318	兼任	講師	ｻｶｲ ﾓｴ 酒井　もえ ＜平成28年4月＞		博士（学術） M.Phil. （英国）		英作文1 英作文2	3前 3後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成18年4月）	
319	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｼｭｳﾀﾛｳ 鈴木　周太郎 ＜平成27年4月＞		博士 （社会学）		アメリカ史	2･3･4通	4	1	一橋大学大学院社会研究科 特任講師 （平成24年4月）	
320	兼任	講師	ｸﾗﾊﾞﾔｼ ﾅｵｺ 倉林　直子 ＜平成27年4月＞		M．A． （米国） 文学修士※		2年英語2(リーディング)	2通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成21年4月）	
321	兼任	講師	ｱﾗﾌﾈ ｼｭﾝﾀﾛｳ 荒船　俊太郎 ＜平成27年4月＞		文学修士※		日本近現代史Ⅱ－2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
322	兼任	講師	ｾｷ ﾄﾓﾋﾃﾞ 関　智英 ＜平成27年4月＞		修士 （文学）		東アジアの社会と文化(1)	2･3･4前	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
323	兼任	講師	ﾀﾂﾐ ﾕｷｺ 巽　由樹子 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		ロシア文化史	2･3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
324	兼任	講師	ﾔﾏﾀﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁ 山田　淳一 ＜平成27年4月＞		博士 （地理学）		自然地理学1 自然地理学2	2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
325	兼任	講師	ｵｵﾊﾞﾔｼ ｹｲｺﾞ 大林　啓吾 ＜平成26年4月＞		博士 （法学）		憲法3	1･2･3･4前	4	2	千葉大学大学院専門法務研究科 准教授 （平成24年4月）	
326	兼任	講師	ﾖｼﾅｶ ﾄｼｷ 吉中　俊貴 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		2年ドイツ語(講読) 2年ドイツ語(会話)	2通 2通	2 2	1 1	駒澤大学総合教育研究部 講師 （平成24年4月）	
327	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾘｮｳｺ 齊藤　良子 ＜平成26年4月＞		博士 （学術）		1年コリア語(文法)	1通	8	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
328	兼任	講師	ｷﾝ ﾃｼ 金　泰植 ＜平成26年4月＞		修士※ （比較社会文化）		1年コリア語(オラル)	1通	4	2	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
329	兼任	講師	ﾐｶﾐ ｴﾘ 見上　英里 ＜平成27年4月＞		修士 （理学）		応用情報処理	2･3･4通	4	1	（株）ピコラボ システムエンジニア （平成24年4月）	
330	兼任	講師	ｺﾛﾝ ｴﾘｶ コロン　えりか ＜平成28年4月＞		文学修士 Master of Music （英国）		キリスト教学Ⅱ－10	3･4通	4	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
331	兼任	講師	ｸﾏｸﾗ ﾜｶｺ 熊倉　和歌子 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		イスラム社会史入門	2･3･4後	2	1	財団法人　東洋文庫 日本学術振興会特別研究員 （平成24年4月）	
332	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ ﾘｮｳｽｹ 岡本　亮輔 ＜平成27年4月＞		博士 （文学）		比較文化宗教学2	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
333	兼任	講師	ﾀﾏｵｷ ﾕｳｽｹ 玉置　佑介 ＜平成26年4月＞		修士※ （社会学）		情報活用演習	1･2･3･4前後	2	1	上智大学総合人間科学部 共同研究員 （平成24年4月）	
334	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾔ 髙橋　尚也 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		社会心理学特講15 社会調査の技法1	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	立正大学心理学部 准教授 （平成25年4月）	
335	兼任	講師	ｱｻﾉ ﾐﾁｺ 浅野　倫子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		心理学実験演習1	2前	4	1	慶應義塾大学環境情報学部 日本学術振興会特別研究員PD （平成23年4月）	
336	兼任	講師	ｵｵｷ ｱﾔﾐ 大木　絢深 ＜平成26年4月＞		博士 （文学）		1年英語	1通	4	1	早稲田大学演劇博物館 助手 （平成23年4月）	
337	兼任	講師	ｲｽﾞﾓ ｼｭﾝﾒｲ 出雲　春明 ＜平成27年4月＞		文学博士		社会思想史Ⅱ 社会思想史Ⅰ	2･3･4後 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
338	兼任	講師	ﾅｶｿﾞﾉ ﾕｷ 中園　有希 ＜平成27年4月＞		修士※ （教育学）		教育課程方法論	2･3後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
339	兼任	講師	ﾎﾘﾔﾏ ｱﾂｺ 堀山　敦子 ＜平成26年4月＞		修士 （教育学）		1年英語 2年英語2(リーディング)	1通 2通	4 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成22年4月）	
340	兼任	講師	ﾊﾞｲｱｰ ﾀﾞｲｱﾅ BEIER,Diana ＜平成26年4月＞		M．A． (Magistra Artium) （ドイツ）		ドイツ語コミュニケーションⅠ(1) ドイツ語コミュニケーションⅠ(2) ドイツ語コミュニケーションⅡ(1) ドイツ語コミュニケーションⅡ(2) 1年ドイツ語(オラル)	2前 2後 3前 3後 1通	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東京外国語大学 特任講師 （平成25年4月）	

教　員　の　氏　名　等

（文学部　心理学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
341	兼任	講師	ｸﾎﾞﾀ ｹｲｺ 久保田　桂子 ＜平成27年4月＞		博士 （心理学）		基礎情報処理技法	2前	6	3	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
342	兼任	講師	ﾄｸｼｹﾞ ｸﾐ 徳重　公美 ＜平成27年4月＞		博士 （人文科学）		哲学・倫理学特講Ｘ	2･3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
343	兼任	講師	ｸﾗｽﾞﾐ ﾄﾓｴ 倉住　友恵 ＜平成27年4月＞		修士 （心理学）		計量心理学特講3 発達心理学2	3･4前 2･3･4前	2 2	1 1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成23年4月）	
344	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ｲﾂﾐ 島田　伊都美 ＜平成26年4月＞		人文学修士		体育運動学	1通	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成24年4月）	
345	兼任	講師	ｶｼﾞ ﾋﾛﾐ 鍛治　広真 ＜平成28年4月＞		文学修士		対照言語学Ⅱ	3･4後	2	1	聖心女子大学文学部 非常勤講師 （平成25年4月）	
346	兼任	講師	ｼｭﾙﾂｪ ｱﾝﾅｰﾕﾘｱｰﾈ SCHULZE A.nna-Juliane ＜平成26年4月＞		修士 （日本学） （ドイツ）		1年ドイツ語(オラル) ドイツ事情(1)	1通 2･3･4前	4 2	2 1	ドイツ語学院ハイデルベルク 講師 （平成23年6月）	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

文学部史学科

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	人	人	２人	人	２人	
	修　士	人	人	人	人	２人	２人	人	４人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	２人	人	人	人	２人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	１人	人	人	人	人	１人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	１人	２人	人	２人	人	５人	
	修　士	人	人	人	人	２人	２人	人	４人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

文学部人間関係学科

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	２人	人	人	人	２人	
	修　士	人	人	人	人	1人	２人	人	３人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	２人	人	人	人	人	２人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	２人	２人	人	人	人	４人	
	修　士	人	人	人	人	１人	２人	人	３人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

文学部国際交流学科

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	人	人	１人	人	１人	
	修　士	人	人	人	人	１人	人	１人	２人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	３人	３人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	３人	人	人	人	３人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	２人	人	人	人	人	２人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	２人	人	人	１人	人	３人	
	修　士	人	人	人	３人	１人	人	１人	５人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	３人	３人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

文学部心理学科

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	２人	人	１人	人	３人	
	修　士	人	人	人	人	人	１人	人	１人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	１人	人	人	人	人	１人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	１人	人	人	人	１人	人	２人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	１人	１人	２人	人	２人	人	６人	
	修　士	人	人	人	人	人	１人	人	１人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。